

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第415集

だい たらう

台太郎遺跡第23次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

分 冊 I

盛 岡 市
(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第415集

だい たらう

台太郎遺跡第23次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

分 冊 I

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。これら多くの先人達の創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺構が消滅することはまことに惜しいことではありますが、その反面それまで間に包まれていた先人の営みに光明が当たるのも事実であります。

このように埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日の課題であり、(財)岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置を取って参りました。

本報告書は、盛岡市新都市計画整備事業に関連して、平成11年度に調査した台太郎遺跡第23次調査結果をまとめたものであります。調査によって奈良～平安時代を中心とした集落跡をはじめ、中世の大規模な土坑墓群などが発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力を賜りました盛岡市開発部盛南開発課・盛岡市教育委員会をはじめ、関係各位に心より謝意を表します。

平成14年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 合 田 武

例 言

1. 本報告書は、盛岡市向中野字向中野16-15ほかに所在する、白太郎遺跡第23次調査の発掘調査結果を取録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、盛岡市新都市計画整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会と盛岡市・地域振興整備公団の協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡登録台帳に記載される遺跡番号・遺跡略号は次の通りである。
LE16-2269・ODT-99-23
4. 発掘調査期間は、平成11年4月16日～11月15日、発掘調査面積は27,800㎡である。
室内整理期間は、平成11年11月1日～平成12年3月31日、
平成12年6月1日～8月31日である。
野外調査担当：杉沢昭太郎・阿部眞澄・北村忠昭・山口俊規・吉田里和
小原眞一・瀬浩二郎・熊谷佳恵
室内整理担当：杉沢昭太郎・阿部眞澄・北村忠昭・山口俊規・吉田里和
5. 本報告書の執筆は、Iを高橋興右衛門が、それ以外を杉沢・阿部・北村・山口が担当し、編集は杉沢が行った。
6. 遺物等の分析・鑑定は次の方々に依頼した。
 - ・石質鑑定…花崗岩研究会
 - ・樹種同定…高橋利彦(木工舎ゆい)
 - ・種実同定…椿坂恭代(北海道大学埋蔵文化財調査室)
 - ・人骨鑑定…百々幸雄(東北大学大学院医学系研究科人体構造学講座)
7. 座標点の測量、空中写真撮影並びに地形図トレースは、次の機関に委託した。
 - ・座標点の測量……(株)吉田測量設計
 - ・空中写真撮影……(株)シン技術コンサル
 - ・地形図トレース…(株)ハイマーテック
8. 発掘調査において、次の機関の協力を得た。
盛岡市教育委員会・盛岡市開発部盛岡開発課・地域振興整備公団
9. 野外調査や整理・報告書の作成には次の方々の協力・指導を頂いた。(50音順・敬称略)
井上雅孝(滝沢村教育委員会) 宇部則保(八戸市教育委員会)
長島栄一・松本知彦(仙台市教育委員会) 村田晃一(宮城県教育庁)
10. 野外調査では盛岡市・滝沢村をはじめとする地元の方々の協力をいただいた。
11. 本遺跡で出土した遺物及び調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

[本文目次]

序

例言

I 調査に至る経過	5
II 遺跡の位置と立地	5
1 遺跡の位置と地形・地質	5
2 遺跡の立地	5
3 基本順序	7
4 周辺の遺跡と歴史的環境	8
III 調査の方法と室内整理	13
1 野外調査の方法	13
2 室内整理	15
IV 検出された遺構と遺物	29
1 古墳時代末から 平安時代の竪穴住居跡	29
2 中世の竪穴建物跡	120
3 竪穴状遺構	132
4 掘立柱建物跡	144
5 幕張(中世)および土坑	157
6 焼土・炉跡	246
7 堀・溝跡	255
8 井戸跡	290
9 その他の遺構	295
(1) 円形周溝	295
(2) 炭窯跡	301
(3) 性格不明遺構	302
(4) 柱穴群	311

10 出土遺物	351
(1) 土師器・須恵器	351
(2) 中世陶磁器	406
(3) かわらけ	406
(4) 木製品	410
(5) 金属製品	410
(6) 土製品	425
(7) 石器・石製品	425
(8) 近世陶磁器	447
V まとめ	472
遺構	472
VI 鑑定・分析	489
土坑類観察表	228
焼土・炉跡観察表	246
溝・堀跡観察表	256
土師器・須恵器観察表	453
陶磁器観察表	463
木製品観察表	466
金属製品観察表	467
銭貨観察表	468
土製品観察表	469
台太郎23次かわらけ観察表	469
台太郎23次石器類観察表	470

[図版目次]

第1図 岩手県図に見る遺跡の位置	1
第2図 遺跡の位置	2
第3図 遺跡周辺地形図	3・4
第4図 遺跡周辺地形分類図	6
第5図 基本土層柱状図	7
第6図 周辺の遺跡分布図(古代)	9
第7図 周辺の遺跡分布図(中・近世)	12
第8図 グリッド配置図	14
第9図 凡例	15
第10図 周辺地形と遺構配置図(1)	16
第11図 周辺地形と遺構配置図(2)	17・18
第12図 遺構配置図(1)	19
第13図 遺構配置図(2)	20
第14図 遺構配置図(3)	21
第15図 遺構配置図(4)	22
第16図 遺構配置図(5)	23

第17図 遺構配置図(6)	24
第18図 遺構配置図(7)	25・26
第19図 遺構配置図(8)	27・28
第20図 R A 174竪穴住居跡	30
第21図 R A 201竪穴住居跡	31
第22図 R A 202竪穴住居跡	33
第23図 R A 203竪穴住居跡	35
第24図 R A 204竪穴住居跡(1)	36
第25図 R A 204竪穴住居跡(2)	37
第26図 R A 205竪穴住居跡	38
第27図 R A 206竪穴住居跡(1)	40
第28図 R A 206竪穴住居跡(2)	41
第29図 R A 207竪穴住居跡	42
第30図 R A 209竪穴住居跡	44
第31図 R A 210竪穴住居跡	45
第32図 R A 211竪穴住居跡	46

第33图	R A 219 竖穴住居跡 (1)	47	第83图	R A 291 竖穴住居跡 (3)	110
第34图	R A 219 竖穴住居跡 (2)	48	第84图	R A 292 竖穴住居跡	111
第35图	R A 223 竖穴住居跡 (1)	49	第85图	R A 293 竖穴住居跡 (1)	113
第36图	R A 223 竖穴住居跡 (2)	50	第86图	R A 293 竖穴住居跡 (2)	114
第37图	R A 225 竖穴住居跡	51	第87图	R A 294 竖穴住居跡 (1)	115
第38图	R A 226 · 245 竖穴住居跡	53	第88图	R A 294 竖穴住居跡 (2)	116
第39图	R A 230 竖穴住居跡 (1)	54	第89图	R A 295 竖穴住居跡	117
第40图	R A 230 竖穴住居跡 (2)	55	第90图	R A 296 竖穴住居跡	118
第41图	R A 231 竖穴住居跡	56	第91图	R A 297 竖穴住居跡	119
第42图	R A 233 竖穴住居跡	58	第92图	R A 224 竖穴建物跡	120
第43图	R A 234 竖穴住居跡 (1)	59	第93图	R A 227 竖穴建物跡	121
第44图	R A 234 竖穴住居跡 (2)	60	第94图	R A 228 竖穴建物跡	121
第45图	R A 235 竖穴住居跡	62	第95图	R A 229 竖穴建物跡	122
第46图	R A 236 竖穴住居跡	63	第96图	R A 232 竖穴建物跡	123
第47图	R A 237 竖穴住居跡	64	第97图	R A 241 竖穴建物跡	124
第48图	R A 238 竖穴住居跡	65	第98图	R A 242 竖穴建物跡	125
第49图	R A 239 竖穴住居跡	66	第99图	R A 243 竖穴建物跡	126
第50图	R A 240 竖穴住居跡	68	第100图	R A 248 竖穴建物跡	127
第51图	R A 244 竖穴住居跡	69	第101图	R A 249 竖穴建物跡	128
第52图	R A 246 竖穴住居跡	70	第102图	R A 280 竖穴建物跡	129
第53图	R A 247 竖穴住居跡	71	第103图	R A 298 竖穴建物跡	131
第54图	R A 273 竖穴住居跡 (1)	73	第104图	R A 299 竖穴建物跡	131
第55图	R A 273 竖穴住居跡 (2)	74	第105图	R E 024 · 025 · 033 竖穴状遺構	132
第56图	R A 274 竖穴住居跡	75	第106图	R E 029 竖穴状遺構	133
第57图	R A 275 竖穴住居跡	76	第107图	R E 034 竖穴状遺構	134
第58图	R A 276 竖穴住居跡	77	第108图	R E 035 竖穴状遺構	135
第59图	R A 277 竖穴住居跡	78	第109图	R E 036 竖穴状遺構	136
第60图	R A 278 竖穴住居跡	80	第110图	R E 037 竖穴状遺構	137
第61图	R A 279 竖穴住居跡	81	第111图	R E 038 · 039 竖穴状遺構	138
第62图	R A 208 竖穴住居跡	82	第112图	R E 040 竖穴状遺構	139
第63图	R A 212 竖穴住居跡	83	第113图	R E 041 · 042 竖穴状遺構	140
第64图	R A 213 · 214 竖穴住居跡	85	第114图	R E 043 · 044 竖穴状遺構	141
第65图	R A 215 竖穴住居跡	86	第115图	R E 044 · 045 竖穴状遺構	143
第66图	R A 216 竖穴住居跡	86	第116图	R B 019 掘立柱建物跡	144
第67图	R A 217 竖穴住居跡	87	第117图	R B 022 掘立柱建物跡	145
第68图	R A 218 竖穴住居跡	89	第118图	R B 023 掘立柱建物跡	147 · 148
第69图	R A 220 竖穴住居跡	90	第119图	R B 024 掘立柱建物跡	149
第70图	R A 281 竖穴住居跡	91	第120图	R B 025 掘立柱建物跡	150
第71图	R A 282 竖穴住居跡	92	第121图	R B 026 掘立柱建物跡	151
第72图	R A 283 竖穴住居跡	93	第122图	R B 027 掘立柱建物跡	152
第73图	R A 284 竖穴住居跡	96	第123图	R B 029 掘立柱建物跡	154
第74图	R A 285 竖穴住居跡	97	第124图	R B 028 掘立柱建物跡	155 · 156
第75图	R A 286 竖穴住居跡	99	第125图	R D 266 ~ 271 · 275 土坑	159
第76图	R A 287 竖穴住居跡	100	第126图	R D 272 ~ 274 · 276 ~ 279 · 284 · 319 土坑	160
第77图	R A 288 竖穴住居跡	101	第127图	R D 280 ~ 283 · 285 ~ 287 土坑	161
第78图	R A 288 竖穴住居跡	102	第128图	R D 288 ~ 295 · 297 土坑	162
第79图	R A 289 竖穴住居跡	103	第129图	R D 296 · 298 ~ 301 · 305 ~ 307 · 480 土坑	163
第80图	R A 290 竖穴住居跡	105	第130图	R D 302 ~ 304 · 308 ~ 312 · 315 土坑	164
第81图	R A 291 竖穴住居跡 (1)	107 · 108	第131图	R D 313 · 314 · 316 ~ 318 · 324 · 325 土坑	165
第82图	R A 291 竖穴住居跡 (2)	109	第132图	R D 320 ~ 323 · 326 土坑	166

第133回	R D327~332十坑	167
第134回	R D333~340十坑	168
第135回	R D341~350十坑	169
第136回	R D351~356·371·372·387·539十坑	170
第137回	R D357~359·361~363·368·447·719·720十坑	171
第138回	R D364~367·369·370·373~377十坑	172
第139回	R D378·380·381·383十坑	173
第140回	R D382·384~386·388·389·689·722十坑	174
第141回	R D390~396·399十坑	175
第142回	R D397·398·400·403·406~408·729·730十坑	176
第143回	R D401·402·414~416·418·420·751十坑	177
第144回	R D404·405·409·417·419·670十坑	178
第145回	R D421~427·662·664十坑	179
第146回	R D428~435·576十坑	180
第147回	R D436~446·449·551十坑	181
第148回	R D448·450~455十坑	182
第149回	R D456·457·461~463·676十坑	183
第150回	R D458~460·721·731·735·736十坑	184
第151回	R D464~468·470十坑	185
第152回	R D469·471·472十坑	186
第153回	R D473~478·482十坑	187
第154回	R D479·481·483~487·489·492十坑	188
第155回	R D488·490·491·494~498十坑	189
第156回	R D499·531~537十坑	190
第157回	R D538·540~547十坑	191
第158回	R D549·552~555·595·690十坑	192
第159回	R D548·550·556·558~561·663十坑	193
第160回	R D557·562~569·573十坑	194
第161回	R D570~572·574·575·577~581十坑	195
第162回	R D582~585·587·590十坑	196
第163回	R D588·589·591~594·596十坑	197
第164回	R D597~599·650·651·657·661·665十坑	198
第165回	R D652~656·666·668·669十坑	199
第166回	R D658~660·667·671~673十坑	200
第167回	R D674·675·677~680·714~716十坑	201
第168回	R D681~688·691·693·694十坑	202
第169回	R D695~702十坑	203
第170回	R D703~712十坑	204
第171回	R D713·717·718·723·725~727十坑	205
第172回	R D724·728·732~734·735·761十坑	206
第173回	R D737~740·742十坑	207
第174回	R D741·743~747十坑	208
第175回	R D748~750·752·759·760·762十坑	209
第176回	R D763~767十坑	210
第177回	R D768~773十坑	211

第178回	R D774~777·780·781十坑	212
第179回	R D778·779·782~785·790十坑	213
第180回	R D786~788·791~794十坑	214
第181回	R D789十坑(1)	215
第182回	R D789(2)·795·797十坑	216
第183回	R D798~801·808十坑	217
第184回	R D809·812·815~817十坑	218
第185回	R D818·821·824十坑·近世墓	219
第186回	R D600~602·604·605十坑	220
第187回	R D606·608·609·614·615·811十坑	221
第188回	R D616~620十坑	222
第189回	R D621·623~626十坑	223
第190回	R D379·622·624·627·628·641·813·814十坑	224
第191回	R D629~633·635十坑	225
第192回	R D636~639·642·646十坑	226
第193回	R D647~649十坑	227
第194回	R F023·026·027·029·041·043~045·048·049焼土·炉跡	248
第195回	R F025·028·030·031焼土·炉跡	249
第196回	R F032~034焼土·炉跡	250
第197回	R F035~037·039焼土·炉跡	251
第198回	R F038·040焼土·炉跡	252
第199回	R F042·046~047焼土·炉跡	253
第200回	R F050·051焼土·炉跡	254
第201回	R G溝·堀跡(1)	260
第202回	R G溝·堀跡(2)	261·262
第203回	R G溝·堀跡(3)	263
第204回	R G溝·堀跡(4)	264
第205回	R G溝·堀跡(5)	265·266
第206回	R G溝·堀跡(6)	267·268
第207回	R G溝·堀跡(7)	269
第208回	R G溝·堀跡(8)	270
第209回	R G溝·堀跡(9)	271·272
第210回	R G溝·堀跡(10)	273·274
第211回	R G溝·堀跡(11)	275·276
第212回	R G溝·堀跡(12)	277
第213回	R G溝·堀跡(13)	278
第214回	R G溝·堀跡(14)	279
第215回	R G溝·堀跡(15)	280
第216回	R G溝·堀跡(16)	281
第217回	R G溝·堀跡(17)	281
第218回	R G溝·堀跡(18)	282
第219回	R G溝·堀跡(19)	283
第220回	R G溝·堀跡(20)	284
第221回	R G溝·堀跡(21)	285
第222回	R G溝·堀跡(22)	286
第223回	R G溝·堀跡(23)	287
第224回	R G溝·堀跡(24)	288
第225回	R G溝·堀跡(25)	289

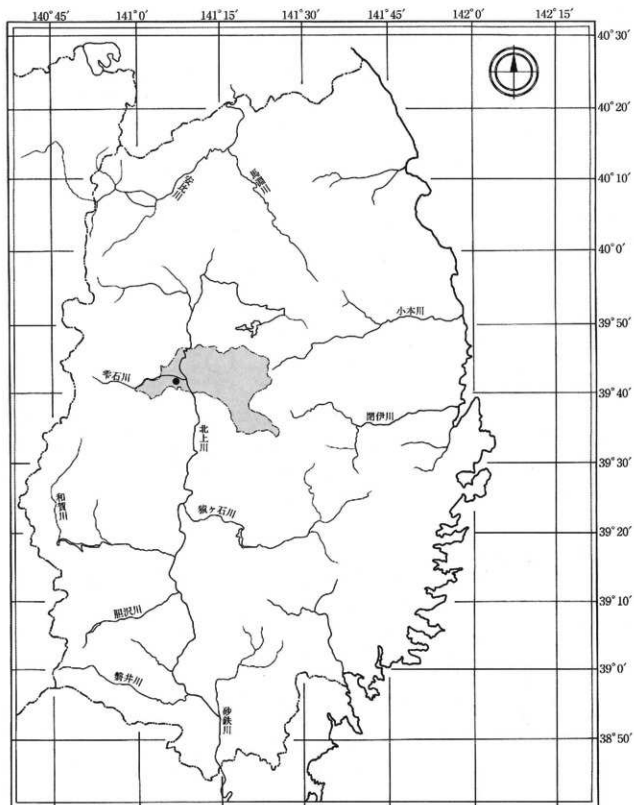
第226回	R G溝・堀跡 (26)	290
第227回	R I 井戸跡 (1)	291
第228回	R I 井戸跡 (2)	292
第229回	R I 井戸跡 (3)	294
第230回	R Z 010円形周溝	295
第231回	R Z 013・015円形周溝	296
第232回	R Z 017円形周溝	297
第233回	R Z 018円形周溝 (1)	298
第234回	R Z 018円形周溝 (2)	299
第235回	R Z 019円形周溝	300
第236回	R Z 005炭窯跡	301
第237回	R Z 001性格不明遺構	302
第238回	R Z 002・003性格不明遺構	303
第239回	R Z 004・008・009性格不明遺構	305
第240回	R Z 006・007・012性格不明遺構	307
第241回	R Z 011性格不明遺構 (1)	308
第242回	R Z 011性格不明遺構 (2)	309
第243回	R Z 016性格不明遺構	310
第244回	柱穴群 (1)	312
第245回	柱穴群 (2)	313
第246回	柱穴群 (3)	314
第247回	柱穴群 (4)	315・316
第248回	柱穴群 (5)	317・318
第249回	柱穴群 (6)	319
第250回	柱穴群 (7)	320
第251回	柱穴群 (8)	321
第252回	柱穴群 (9)	322
第253回	柱穴群 (10)	323
第254回	柱穴群 (11)	324
第255回	柱穴群 (12)	325
第256回	柱穴群 (13)	326
第257回	柱穴群 (14)	327
第258回	柱穴群 (15)	328
第259回	柱穴群 (16)	329・330
第260回	柱穴群 (17)	331・332
第261回	柱穴群 (18)	333・334
第262回	柱穴群 (19)	335・336
第263回	柱穴群 (20)	337
第264回	柱穴群 (21)	338
第265回	柱穴群 (22)	339
第266回	柱穴群 (23)	340
第267回	柱穴群 (24)	341・342
第268回	柱穴群 (25)	343・344
第269回	柱穴群 (26)	345・346
第270回	柱穴群 (27)	347・348
第271回	柱穴群 (28)	349・350
第272回	土師器・須恵器 (1)	353
第273回	土師器・須恵器 (2)	354
第274回	土師器・須恵器 (3)	355
第275回	土師器・須恵器 (4)	356

第276回	土師器・須恵器 (5)	357
第277回	土師器・須恵器 (6)	358
第278回	土師器・須恵器 (7)	359
第279回	土師器・須恵器 (8)	360
第280回	土師器・須恵器 (9)	361
第281回	土師器・須恵器 (10)	362
第282回	土師器・須恵器 (11)	363
第283回	土師器・須恵器 (12)	364
第284回	土師器・須恵器 (13)	365
第285回	土師器・須恵器 (14)	366
第286回	土師器・須恵器 (15)	367
第287回	土師器・須恵器 (16)	368
第288回	土師器・須恵器 (17)	369
第289回	土師器・須恵器 (18)	370
第290回	土師器・須恵器 (19)	371
第291回	土師器・須恵器 (20)	372
第292回	土師器・須恵器 (21)	373
第293回	土師器・須恵器 (22)	374
第294回	土師器・須恵器 (23)	375
第295回	土師器・須恵器 (24)	376
第296回	土師器・須恵器 (25)	377
第297回	土師器・須恵器 (26)	378
第298回	土師器・須恵器 (27)	379
第299回	土師器・須恵器 (28)	380
第300回	土師器・須恵器 (29)	381
第301回	土師器・須恵器 (30)	382
第302回	土師器・須恵器 (31)	383
第303回	土師器・須恵器 (32)	384
第304回	土師器・須恵器 (33)	385
第305回	土師器・須恵器 (34)	386
第306回	土師器・須恵器 (35)	387
第307回	土師器・須恵器 (36)	388
第308回	土師器・須恵器 (37)	389
第309回	土師器・須恵器 (38)	390
第310回	土師器・須恵器 (39)	391
第311回	土師器・須恵器 (40)	392
第312回	土師器・須恵器 (41)	393
第313回	土師器・須恵器 (42)	394
第314回	土師器・須恵器 (43)	395
第315回	土師器・須恵器 (44)	396
第316回	土師器・須恵器 (45)	397
第317回	土師器・須恵器 (46)	398
第318回	土師器・須恵器 (47)	399
第319回	土師器・須恵器 (48)	400
第320回	土師器・須恵器 (49)	401
第321回	土師器・須恵器 (50)	402
第322回	土師器・須恵器 (51)	403
第323回	土師器・須恵器 (52)	404
第324回	土師器・須恵器 (53)	405
第325回	中世の陶磁器 (1)	407

第326回	中世の陶磁器 (2)	408
第327回	かわらけ	409
第328回	木製品 (1)	411
第329回	木製品 (2)	412
第330回	木製品 (3)	413
第331回	木製品 (4)	414
第332回	木製品 (5)	415
第333回	金属製品 (1)	416
第334回	金属製品 (2)	417
第335回	金属製品 (3)	418
第336回	銭貨 (1)	419
第337回	銭貨 (2)	420
第338回	銭貨 (3)	421
第339回	銭貨 (4)	422
第340回	銭貨 (5)	423
第341回	銭貨 (6)	424
第342回	土製品	427
第343回	石器・石製品 (1)	428
第344回	石器・石製品 (2)	429
第345回	石器・石製品 (3)	430
第346回	石器・石製品 (4)	431
第347回	石器・石製品 (5)	432
第348回	石器・石製品 (6)	433
第349回	石器・石製品 (7)	434

第350回	石器・石製品 (8)	435
第351回	石器・石製品 (9)	436
第352回	石器・石製品 (10)	437
第353回	石器・石製品 (11)	438
第354回	石器・石製品 (12)	439
第355回	石器・石製品 (13)	440
第356回	石器・石製品 (14)	441
第357回	石器・石製品 (15)	442
第358回	石器・石製品 (16)	443
第359回	石器・石製品 (17)	444
第360回	石器・石製品 (柱穴・遺構外) (18)	445
第361回	石器・石製品 (遺構外) (19)	446
第362回	近世の陶磁器 (1)	448
第363回	近世の陶磁器 (2)	449
第364回	近世の陶磁器 (3)	450
第365回	近世の陶磁器 (4)	451
第366回	近世の陶磁器 (5)	452
第367回	住居跡床面積・軸方向分布図 (1)	473
第368回	住居跡床面積・軸方向分布図 (2)	476
第369回	明治前半頃の絵図	479・480
第370回	中世墓塚の軸方向分布図 (1)	486
第371回	中世墓塚の軸方向分布図 (2)	487

付 図 1 台太郎遺跡15・18・23・26次遺構配置図

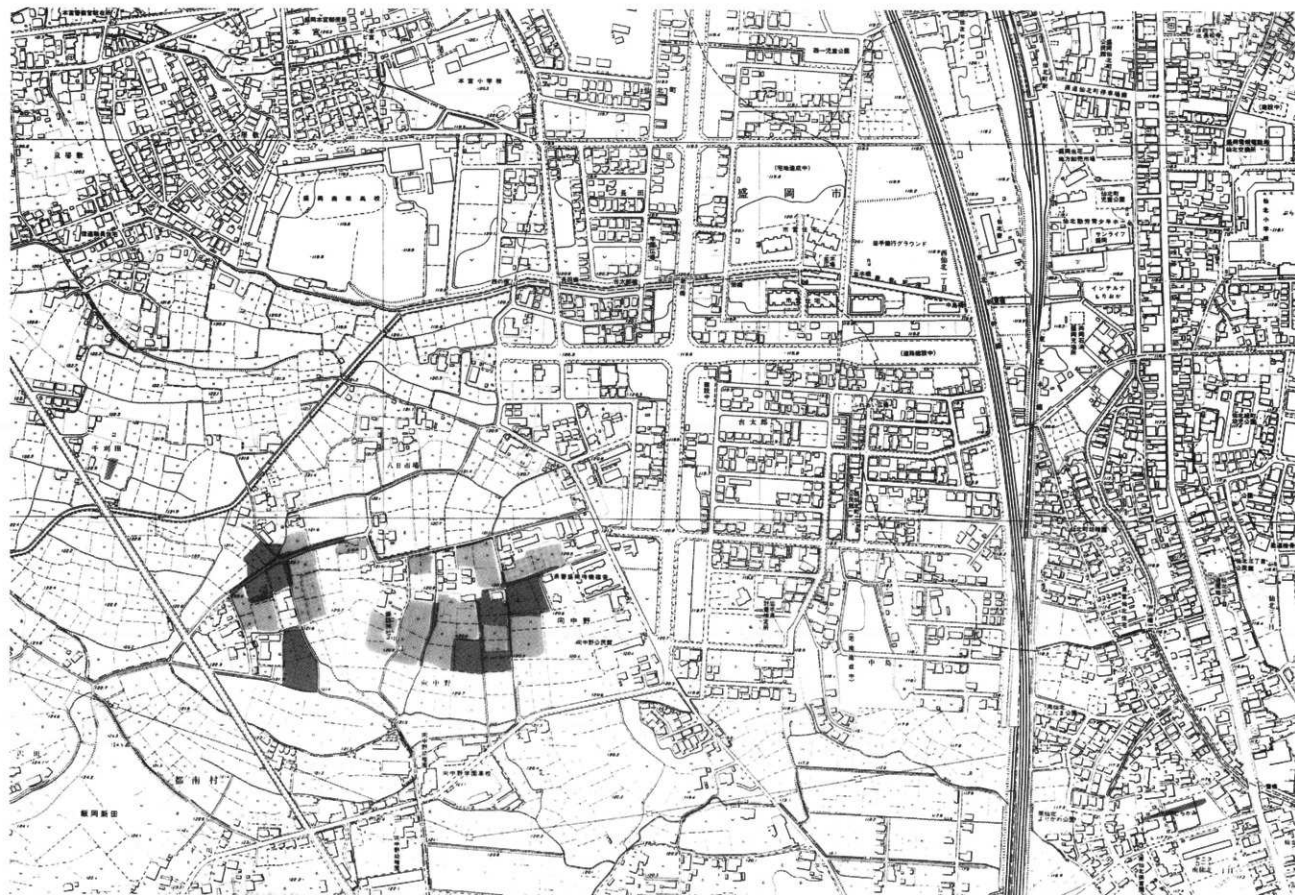


第1図 岩手県図に見る遺跡の位置



1 : 50,000 盛岡

第2図 遺跡の位置



第3図 遺跡周辺地形図 (1:5,000)

(濃いトーン：26次調査、薄いトーン：23次調査)

I 調査に至る経過

盛岡南新都市開発計画は、盛岡市が21世紀に向けて、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市を目指して、現在の既成市街地の他に南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都心を形成するために策定された土地区画整理事業である。

この事業は、平成2年9月に岩手県、盛岡市、都南村（現盛岡市）の三者が、地域振興整備公団に対して事業申請を行い、これを受けて公団は実施計画を作成した。平成3年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施許可が下り、平成3年度から平成17年度までの15年間で事業予定期間とし、面積313haを対象とした土地区画整理事業が実施される事となった。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取扱いについても協議を重ねられた。その結果、盛岡市教育委員会が試掘調査を行い、本調査を必要とする範囲を確定し、本調査は（財）岩手県文化振興事業団の受託事業とすることになった。

当遺跡については、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果平成11年の事業として確定した。これを受けて、平成11年4月1日に（財）岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長の間で委託契約を締結し発掘調査を実施する事となった。台太郎遺跡の23次調査は平成11年4月16日に開始され、同年11月15日に終了した。

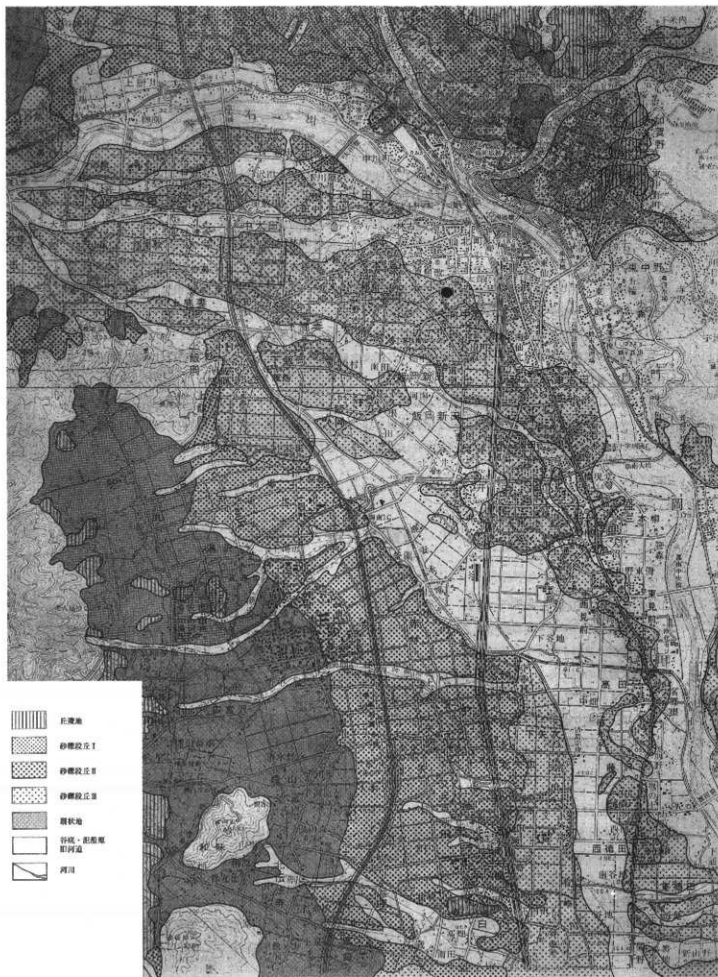
II 遺跡の位置と立地

1 遺跡の位置と地形・地質

台太郎遺跡の所在する盛岡市は北上川の中流域に発達した都市である。第4図に盛岡市周辺の地形分類図を示すが、遺跡が存在する盛岡市南部は奥羽山脈から供給された土砂を季石川が運び、下流に平野を形成する扇状地の中にある。扇状地の形成後、支流の開析が及び、結果として遺跡周辺の現地形は低位段丘面として残されている。低位段丘面の下には支流の河川堆積による沖積面が広がっているが、度重なる氾濫と流路の変化を繰り返した結果、しばしば部分的に旧川床が沼地や湿地の形で残ったのがこの地域の地形的特徴であり、今回の調査からも大小に及んでその影響と思われる堆積・地形・地質変化の痕跡が確認されている。

2 遺跡の立地

盛岡市向中野の台太郎地区は街道筋から見て仙北町の裏手にあたり、遺跡の北を流れる季石川によって形成された低位段丘上に立地している。古くは流路がこの場所を貫流したこともあり、堆積物によって地味が肥えていたため近年まで同様の環境を持つ盛岡西部太田・飯岡地区へと続く水田・畑作地帯の一角を成し、今回調査を実施した区域の現況も畑作が広がる農村風景の一部であった。現在は調査の原因でもある盛岡南新市街地区域の対象となった為、水田等からの開発造成が随所で進行中であり、遺跡名である「台太郎」も平成11年をもって全て字名を「向中野」内の町名に統合・廃止され、通称として残るのみとなっている。

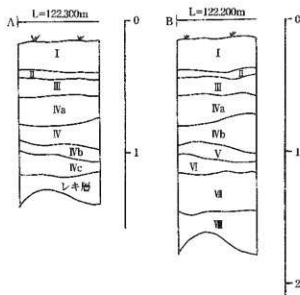


第4圖 遺跡周辺地形分類圖

3 基本層序

調査区は遺跡全体の中で中央から南側半分を部分的に調査する形となり、東から西へとなだらかに高くなっている。また旧地表面に関しては、これも河川の削割によって北側から南側へ緩やかに下がっている。しかしながら全体的に耕地整備により地形改変を受ける箇所も少なくなく、各所にその影響は現れていた他、調査区の面積が28,000㎡強と広大なため、表土下の地層には部分的な個所でのみ含まれる層も存在し、決して一様ではない。その中で第5図はそれぞれ調査区東側4Eグリッドと西側3-Dグリッドで記録した代表的な基本層序を柱状模式図であらわしたものである。

- I層：黒褐色～暗褐色土。現在の表土層で休耕地及び畑地の耕作土である。層厚は10～30cmである。
- II層：褐色粘土で、層厚は3～4cm前後を測る。旧水田面の床上で下部には赤褐色の水酸化鉄の集積が顕著に見られる。
- III層：黒褐色シルト質土。上層の黒褐色土と下層の漸移層である。層厚は0～20cmで遺物を包含する。
- IVa層：褐色シルト質土。層厚は10～60cmで本遺跡における遺構検出面である。全体に強く締まり粘性がある。
- IVb層：黄褐色シルト質土。締まりがあり粘性もある。層厚は10～30cm。
- IVc層：黄褐色砂質シルト。層厚は0～30cmで遺跡内では部分的に確認される。
- V層：黒褐色シルト質土。粘性・締まりやや有り。部分的にIV層内に見られ層厚は10～20cmを測る。
- VI層：段丘の基盤をなす砂礫層である。層厚は確認していない。遺跡南側の4A区等ではIV層を挟まないでIII層の次に現れる。砂や礫の堆積状況により細分可能である。下部には径10～30cm大の礫が見られる。



第5図 基本土層柱状図

4 周辺の遺跡と歴史的環境

(1) 古代

過去の調査を含めて台太郎遺跡からは古代の遺構・遺物が多数出土している。第6図は盛岡市南部、雫石川南・西岸で古代に属する遺跡を大凡の範囲で示したものであるが、地図上約2,260haには75もの遺跡が分布している。この中には台太郎遺跡より西方約2.5km、昭和51・52年東北自動車道建設に伴う発掘調査から、及びその後の範囲確認により所在地が明らかとなった国指定遺跡「志波城」(第6図上22)も存在しており、そのことからこの地域が古代に於いて重要な行政・生活域であったことが伺える。

(2) 中世

盛岡市の北部、北上川と雫石川の合流点近くには康平5年(1062)、前九年の役において安倍一族が築城した野川の櫓、堀戸橋跡と目される安倍館(第7図・12)と里館遺跡が存在し、昭和61・62年に盛岡市教育委員会によって一部調査が実施されている。

台太郎遺跡南約150mの地点には平成10年度、果里蔵文化財センターにより発掘調査が行われた中世城館、向中野館跡(第7図・2)が存在している。向中野館は「志和軍戦記」によれば飯岡氏の勢力域東方の押さえとされた館であり、発掘調査からは館主は特定できないものの、それ自体は幅約5mの堀を構えた本格的な城館である。天文3年(1534)、それまで斯波郡に支配地域を置いていた斯波氏の北進によって滅亡に追いやられる飯岡氏だが、往時向中野館の他、北に太田館(現盛岡市太田)・南に大館(現盛岡市湯沢)、そして西に本城である飯岡館(現盛岡市飯岡山)と複数の城館を構えていたという。その領地の範囲から見て、仮に文献通りであれば中世において台太郎遺跡を含めこの地域一帯に影響力を持った有力な豪族であったと言えるだろう。

周辺を支配していた斯波氏は鎌倉時代から高水寺城(現紫波町日詰内郡山)に居館を構え、紫波御所とも称され奥州探題大崎氏の分流にあたり、足利将軍家とも連絡となる名家であったが、天正16年(1588)三戸南部氏に攻め込まれ、家臣らのまとまりも欠き果敢なく滅亡する。戦いの中から南部氏の元へ出奔する者もあり、中野館(第7図・6)はその一人で九戸政実の弟とされる中野修理直康が入った館と伝えられている。

三戸南部氏を嗣いだ信直はその後、天正18年、豊臣秀吉の奥州仕置、天正19年の九戸政実の乱を経てこの地域の支配を確立する。ここに及ぶ中世の期間には雫石川を挟んで当遺跡東西丘陵沿いの地点に複数の城館が分布しており、その事は当地方の支配権を巡る争いが活発だったことを如実に物語っている。

(3) 近世・近代

天正18年に豊臣秀吉から本領安堵を受け、徳川幕府の元で南部藩を成した南部氏だが、祖は甲州清和流甲斐源氏とされている。鎌倉時代に甲斐より下向しその後この地方に上着したが、下向の際同行した譜代家臣の中に福士氏・三上氏がいた。盛岡城(第7図10)は天正年間には福士氏、福上慶善や福土(不來方)淡路が館を構えた場所であるが、領主南部信直が交通・防衛の要所としてこの場所へ盛岡城築城を指示、文禄元年(1592)拠点工事開始、慶長年間から寛永10年(1633)の完成を経て以後明治維新までの南部藩本城となった。それと同時期には三上氏が現在盛岡天満宮のある場所に居館しており、留守居の押を任されていたという。

築城より南部藩の城下町として確立した盛岡には幕府命により街道整備も行われた。慶長9年(1604)城下中心部鍛冶町には「奥州道中」139番目の一里塚が置かれ(第7図8)、これが領内一里塚全ての「元塚」



第6図 周辺の遺跡分布図(古代)

となった。奥州道中は台太郎遺跡の東側現仙北町中心街を通る、より盛岡域に近い道程へ切り替えられ地名向中野はこの街道沿いに商人街である仙北町・同心町の仙北組町、周辺部仙北町村、外辺部向中野村の4つに区分された。

台太郎地区はこのとき仙北村、ないしは向中野村いずれかに含まれていたと思われるが、天和2年(1682)の資料「封内貢賦記」によれば「向中野村 三つ七分七リ九毛(年貢率) 高千百四「四石七斗二合」(石高1144石1斗2合)「仙北町村 二つ一分一リ五毛(年貢率) 同貳百四十石五斗八升五合(石高241石5斗8升5合)の記載が見え、また「封内郷村志」では「向中野村縣向中野村、高千百七十七石七斗余 馬百六疋民戸六十六軒 此内十軒齊川…」とある。これらからはこの地域で江戸期において多くの農業生産があったことが判る。南部藩の版圖「盛岡城下島●図会」(川井鶴亭筆)には当時の向中野・仙北町村地区と思しき場所が画面上に描かれているが、仙北・仙北組町に立ち並ぶ商家・民家の表手には広大な水田と点在する民家・集落という当時の典型的な農村の姿が見てとれる。

「台太郎」という地名が登場するのは、明治8年より編纂された「岩手県管轄地誌」内の「陸中国岩手郡向中野村」の頁である。「千刈田 八日市場 向中野 台太郎…」と記され、ここで始めて正式に台太郎が向中野・仙北町村と分離した。これらの文献資料に加え今回の調査からは近世民家や井戸跡等多数発見されており、遺跡周辺には近世・近代には既に街道部と商業・農業を担った盛岡の外縁域として現在に続く姿があったと思われる。

(山口俊規)

周辺の遺跡一覧表(古代)

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など
1	台太郎	集落跡	古代・中世・近世	土師器・須恵器・陶磁器・古銭・鉄器・木製品・石製品・羽門・竪穴住居跡・竪立柱建物跡・土坑・溝・堀跡・井戸跡・炉跡
2	向中野館	城館跡・集落跡	古代・中世	土師器・陶磁器・竪穴住居跡・土坑・堀・土塁・溝跡
3	藤岡野田	集落跡	古代	竪穴住居跡・古墳
4	飯岡才川	集落跡	縄文・古代	土師器・防し穴・溝跡
5	細谷池	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡
6	矢盛	散布地	古代	土師器
7	本宮橋堂A	集落跡	古代	土師器
8	本宮橋堂B	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡
9	稲荷	集落跡	古代	土師器
10	野古A	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡
11	野古B	散布地	古代	土師器
12	岡沢	集落跡	古代	土師器
13	小嶋	集落跡	古代	土師器・竪穴住居跡・溝跡・土坑・円形四溝
14	鬼柳A	集落跡	古代	土師器
15	鬼柳B	集落跡	古代	土師器
16	鬼柳C	集落跡	古代	土師器
17	八ツ口	散布地	古代	土師器
18	八掛	集落跡	古代	土師器・土坑・竪穴住居跡
19	田中	散布地	古代	土師器
20	林崎	集落跡	古代	土師器・須恵器・竪穴住居跡・竪立柱建物跡
21	小沢	集落跡	古代	土師器・埴輪陶器・竪穴住居跡
22	志波城	城館跡	古代	土師器・須恵器・竪穴住居跡・竪立柱建物跡・門跡・築地・堀跡・人溝
23	大宮北	集落跡	古代	土師器

序号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など
24	大宮	集落跡	古代・中世	土師器、竪穴住居跡
25	鬼舞一里塚	塚跡	近世	
26	新坂端	城郭跡	縄文・古代	縄文土器(晩期)、土師器、土坑、大溝、竪穴住居跡
27	竹北前	集落跡	古代	土師器、絞輪陶器、竪穴住居跡
28	田貝	集落跡	古代	土師器、竪穴住居跡
29	石仏	集落跡	古代	土師器
30	水門	集落跡	古代	土師器
31	上越場A	集落跡	古代	土師器
32	上越場B	集落跡	古代	土師器
33	狭	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器
34	高瀬古遺跡	古墳	古代	鹿手刀、切子玉、土師器
35	大梅Ⅰ	集落跡	古代	土師器、須恵器
36	大梅Ⅱ	散布地	古代?	土師器?
37	辻屋敷	集落跡	古代	土師器
38	御島Ⅰ	集落跡	縄文・平安	縄文土器、土師器、須恵器
39	御島Ⅱ	散布地	平安	土師器
40	二又	散布地	古代	土師器、須恵器
41	西田A	集落跡	古代	土師器
42	西田B	集落跡	古代	土師器、須恵器
43	内村	集落跡	古代	土師器、須恵器
44	唐田	集落跡	古代	土師器
45	中塚鼓	散布地	古代	土師器
46	遺跡名不明	散布地	古代	土師器、須恵器
47	飯岡林崎Ⅱ	集落跡	古代	土師器、須恵器、硯、竪穴住居跡
48	飯岡林崎Ⅰ	集落跡	古代	土師器
49	洲Ⅰ	集落跡	古代	竪穴住居跡
50	洲Ⅱ	集落跡	古代	竪穴住居跡
51	高塚敷Ⅰ	散布地	古代	須恵器
52	高塚敷Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器
53	上新田	集落跡	古代	土師器、竪穴住居跡
54	熊堂Ⅰ	集落跡	縄文・古代	縄文土器、石器、土師器、竪穴住居跡
55	熊堂Ⅱ	集落跡	古代	土師器、須恵器、竪穴住居跡
56	熊堂Ⅲ	集落跡	古代	土師器、須恵器、竪穴住居跡
57	西	集落跡	古代	土師器、竪穴住居跡
58	下久根Ⅰ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器
59	下久根Ⅱ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器
60	石持	散布地	古代	土師器、須恵器
61	夕覚	散布地	古代	土師器
62	法領権塚	祭祀跡		
63	南谷地	集落跡	古代	土師器、須恵器、竪穴住居跡
64	田中	集落跡	古代	土師器、須恵器、打製石器、石斧
65	松島	集落跡	古代	土師器、須恵器
66	葛本	散布地	古代	土師器、打製石器
67	横原	集落跡	古代	土師器、須恵器
68	陣弓	集落跡	古代	土師器、須恵器
69	長沼	散布地	古代	
70	境田	散布地	古代	土師器
71	赤坂Ⅱ	散布地	平安?	土師器
72	砂子塚	散布地	古代	塚
73	隠藤	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器
74	新井田Ⅰ	散布地	古代	土師器、須恵器
75	新井田Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器
76	新田	集落跡	古代	土師器、須恵器



第7図 周辺の遺跡分布図（中・近世）

周辺の遺跡一覧表（中・近世）

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など
2	向中野館	城館跡・集落跡	平安・中世	土師器・陶磁器、聚穴住居跡・土坑・堀・土塁・溝跡
1	台太郎	集落跡	古代・中世・近世	土師器・須恵器・陶磁器・古銭・鉄器・木製品・石製品・羽門、聚穴住居跡・横立柱建物跡・土坑・溝・竪溝跡・井戸跡・伊跡
8	飯沼町一里塚	一里塚	近世	塚残存せず
4	花畑館 (花坂館)	城館跡	中世	堀
3	中野館	城館跡	中世	
6	新山館	城館跡・集落跡	古代・中世・近世	土師器、聚穴住居跡・井戸・溝跡
7	喜西館	城館跡	縄文～古代・中世	縄文土器、郭・腰郭
5	安延館	城館跡・散布地	縄文～中世	縄文土器（中・後期）・土師器、郭・腰郭
12	安野館 (御川城)	城館跡・散布地	縄文～中世	縄文土器（早期）・陶磁器、郭・腰郭
10	宿田南	集落跡	中世・近世	陶磁器・建物跡
7	愛宕山	寺院跡	近世	寺院基礎跡
10	盛岡城	城館跡	中世・近世	かわらけ・陶磁器・瓦・石垣・堀・溝跡
10	慶喜館 (小米方北跡)	城館跡	中・近世	
10	浜路館 (小米方南跡)	城館跡	中・近世	

Ⅲ 調査の方法と室内整理

1 野外調査の方法

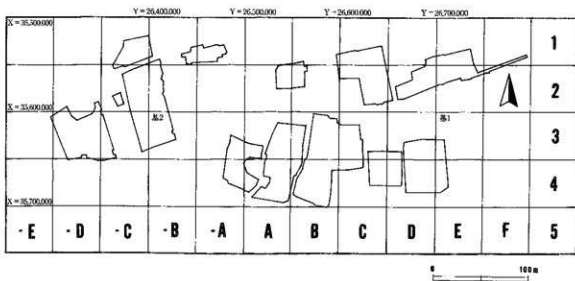
(1) グリッドの設定と遺構名

グリッドは平面直角座標（第X系）に合わせた。本遺跡のこれまでの調査で用いられたグリッドと同じ方式である。調査区内に基点を数ヶ所設け、これを東西及び南北方向に結んで基準線を設定した。基準線を延長して大グリッドは一辺が50m、小グリッドは大グリッドの各辺を25等分して一辺2mとしている。大グリッドは原点から南方向には1・2・3…の番号、東方向にはA・B・C…のアルファベットを付して1A・2Aと呼称した。さらに小グリッドも北から1～25、西からa～yを付し1A1a・1B3d等の基本グリッドを設定した。23次調査の基準杭の座標は以下の通りである。

基1	X = -35,600.000	Y = 26,700.000	H = 120.504m
基2	X = -35,600.000	Y = 26,400.000	H = 120.552m

(2) 粗掘り・遺構検出

雑物撤去後に調査区内にトレンチを設定し遺物の包含状況、層位の検討、遺構の確認面を把握した。現状が休耕田・畑地であったために調査区の大部分では古代・中世の生活面は残存しておらず、多くは遺構確認面まで重機を用いて表土及び耕作層を除去した。ただ遺物を多く包含する層は人力によって表土を除去した。遺構の確認は表土を除去した面を芝ジョレン、両刃録で平滑にしプランを確認するようにした。



第8図 グリッド配置図

(3) 遺構の命名

検出された遺構の命名については盛岡市教育委員会の方法に従い、次の通りを行っている。各遺構の番号は昨年度調査からの通し番号と欠番となっていたもの等で付した。

竪穴住居跡……R A〇〇	掘立柱建物跡……R B〇〇	柱穴列 ……R C〇〇
土 坑……R D〇〇	竪穴状遺構 ……R E〇〇	炉・焼土……R F〇〇
溝跡・堀跡……R G〇〇	井戸跡 ……R I〇〇	その他 ……R Z〇〇

(4) 遺構の精査と遺物の取り上げ

検出された遺構は、竪穴住居跡・竪穴状遺構を4分法、土坑類・焼土については2分法を原則として精査を行ったが、必要に応じてその他の方法も併用した。記録として必要な図面及び写真の撮影は、精査の各段階において適宜これを行った。遺構の平面実測にあたっては原則として簡易造り方測量で1m方眼に細分したメッシュを用いて行った。また平板測量も用いた。実測図は原則として1/20の縮尺を用い、平面図と断面図を作成した。なお、カマド・焼土・炉については1/10の縮尺を用いた。遺構内出土の遺物は、埋土の場合上層・下層に分けて取り上げ、床面及び床面直上の遺物は、必要に応じて番号を付け、写真撮影、図面作成後に取り上げた。遺構外出土遺物については、調査区毎に出土した層位を記して取り上げた。

(5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7cm判カメラ2台(モノクロ)と35mm判カメラ4～6台(モノクロ、カラー・リバーサル)を使用した。この他にボラロイドカメラを補助的に用いた。また各遺跡の調査終了直前にはラジコンヘリによる空中写真を撮影した。

(6) その他

現地説明会を平成11年10月3日に開催した。また、盛岡市立飯岡中学校生徒2名の職場体験学習に協力した。その他、個人や団体の見学希望があった場合はすべてに応じ、各遺跡の様子、出土遺物の説明をした。

2. 室内整理

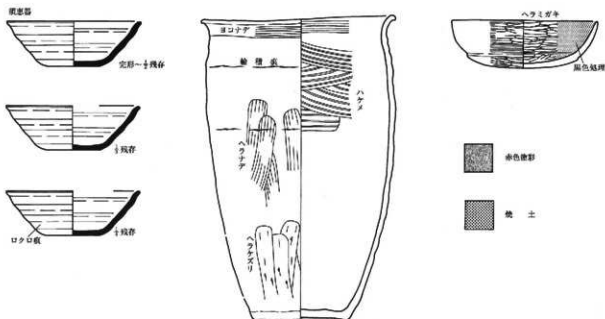
(1) 遺構

遺構配置図は1/1000・500で掲載した。各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にはそれぞれスケールを付した。竪穴住居跡・竪穴状遺構・井戸跡・その他の遺構…1/60、掘立柱建物跡…1/100、焼土・炉・土坑…1/50、溝跡…平面1/300、断面1/40、柱穴…1/150。竪穴住居跡や掘立柱建物跡の軸方向は、座標軸からの角度で、平面図における北印も座標北を示す（調査区の基準点1における真北方向角は0度11分55秒西偏する）。竪穴住居跡の床面積は、壁面の下端をデジタル式のプランメーター（エリアカーブメーター）によって3回計測し、その平均値を記載した。

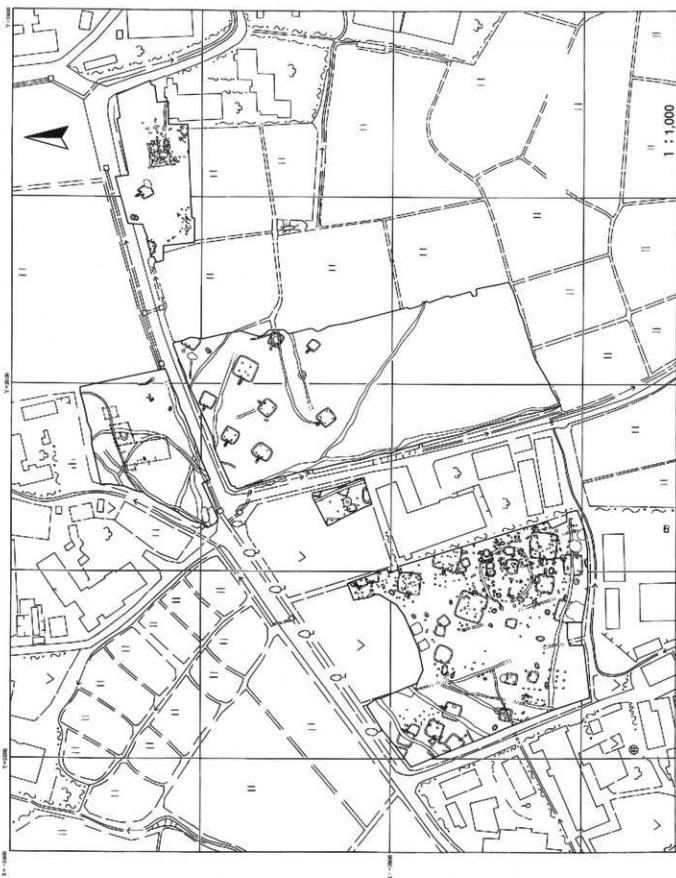
(2) 遺物

土器の実測図は原則として、反転実測が可能なもの（口縁・底部が1/4以上残存）に限ったが、一部は平面実測して掲載した。また、須恵器や銭貨などは拓本を用いた。掲載遺物の縮尺率は下記の通りであるが、これらにも一部変更があり図版には縮尺率を付した。土器・礫石器・拓本…1/3、大型の土器・石器…1/4・1/5、その他の遺物…1/2・1/3。遺物写真の縮尺については、概ね実測図に準じている。

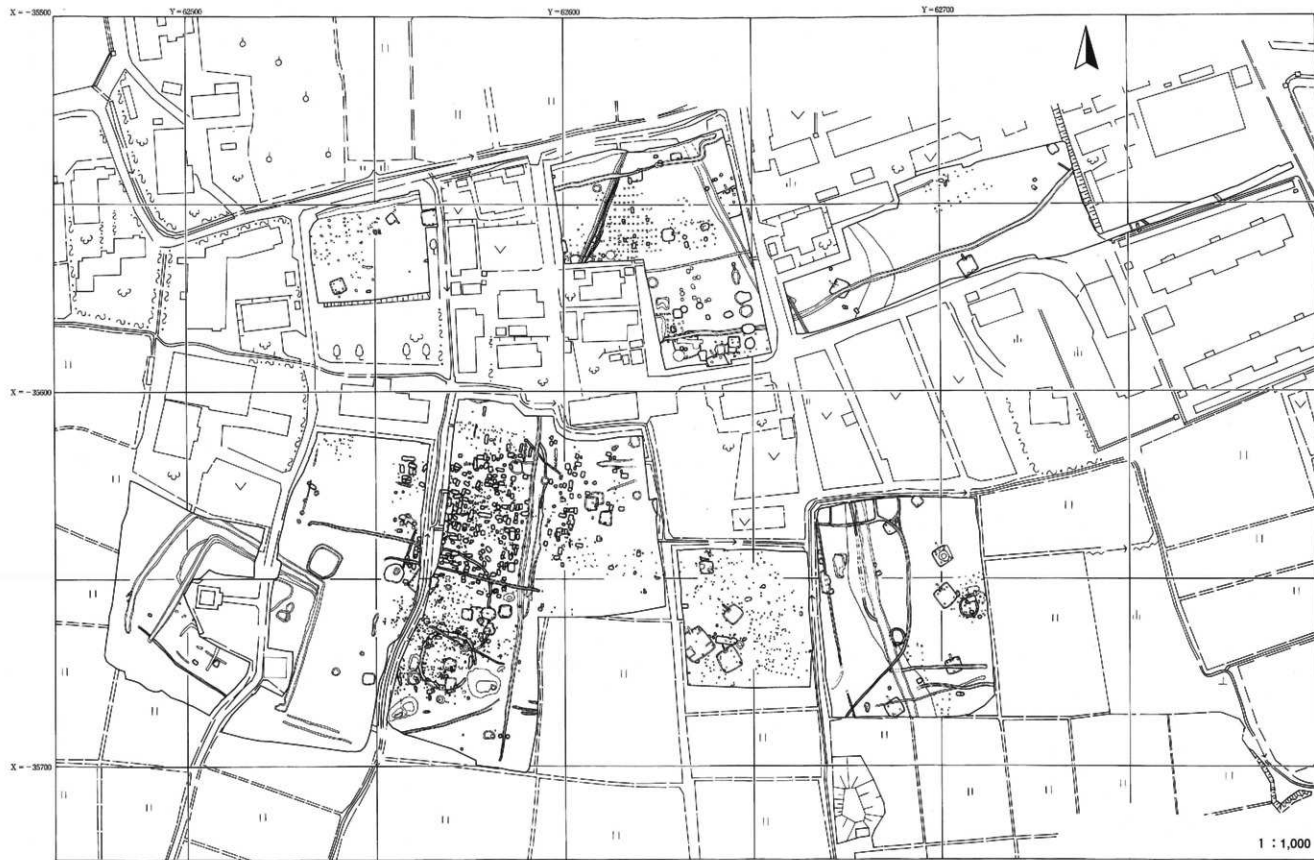
また、実測図版中に土器の調整技法の表現や、使用したスクリントーンの指示については以下に示した。



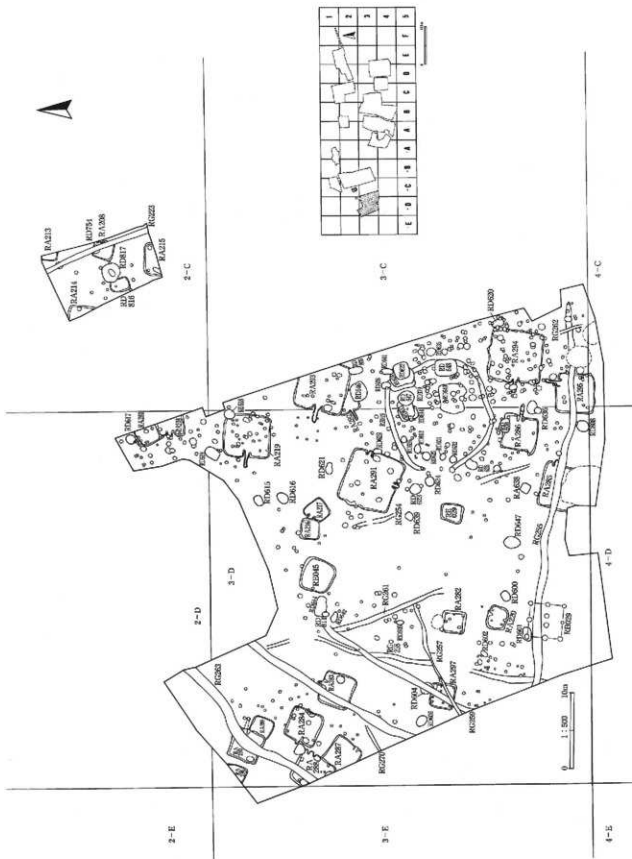
第9図 凡例



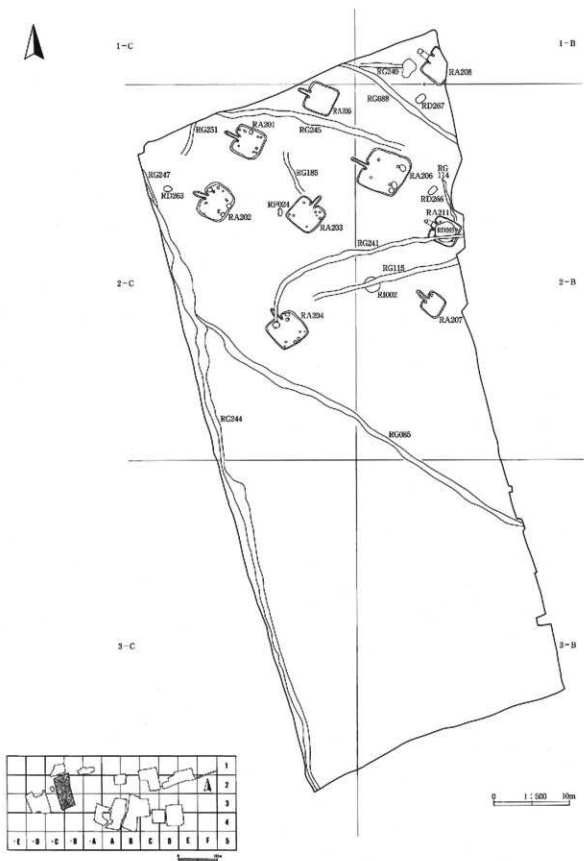
第10図 周辺地形と遺構配置図(1)



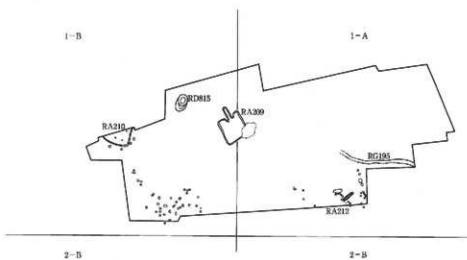
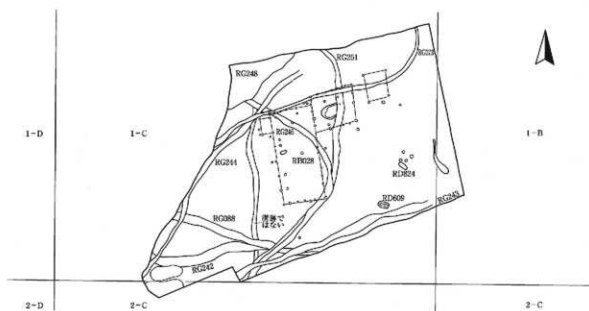
第11図 周辺地形と遺構配置図(2)



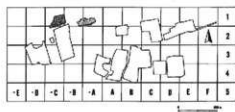
第12図 遺構配置図(1)



第13図 遺構配置図(2)



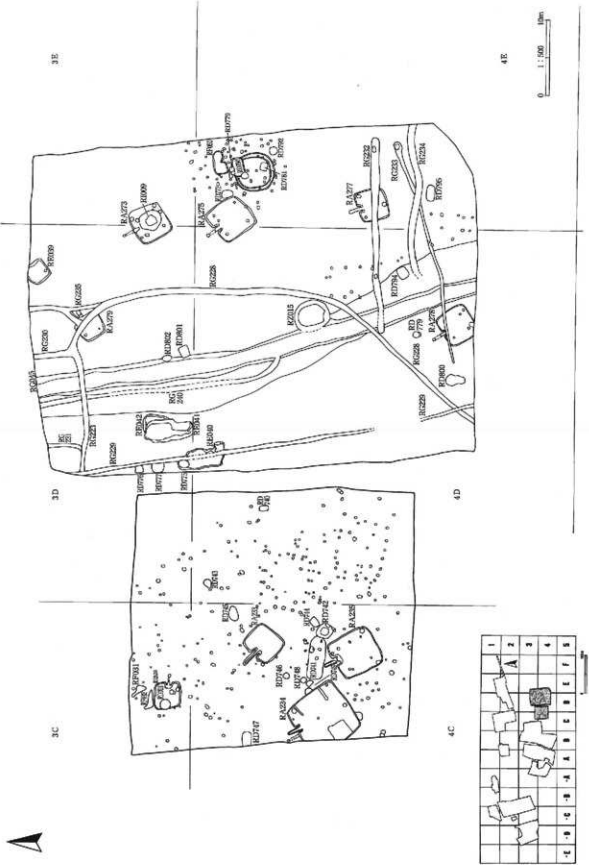
0 1:500 10m



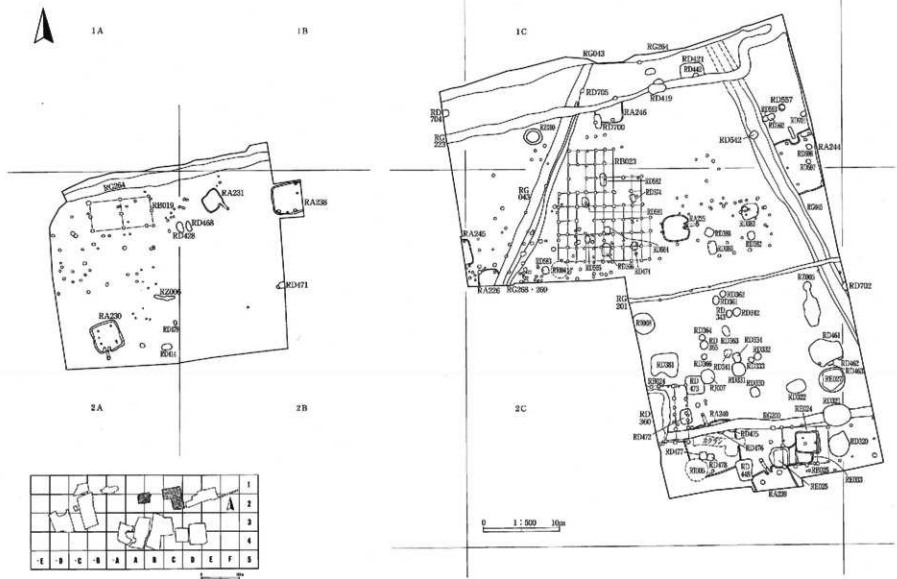
第14図 遺構配置図(3)



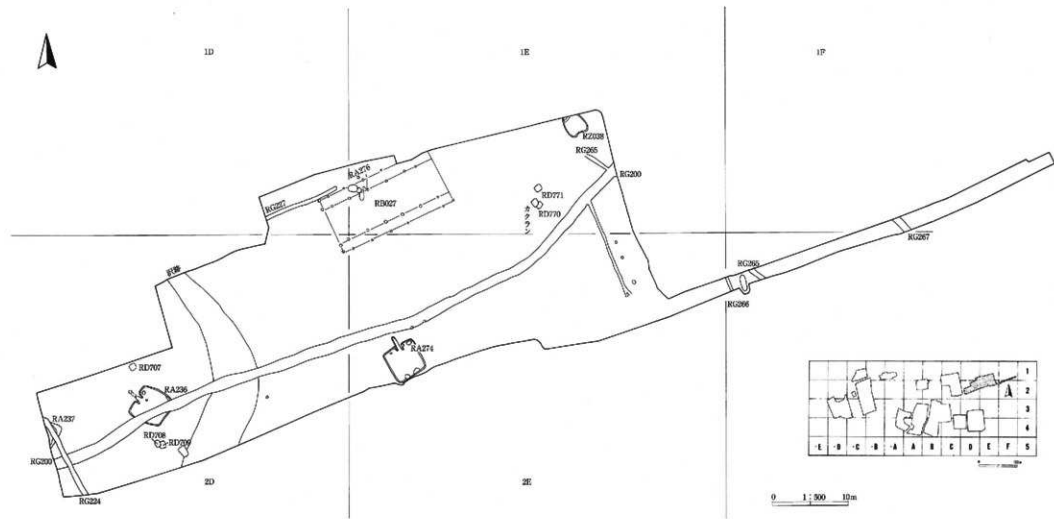
第16図 遺構配置図(5)



第17図 遺構配置図(6)



第18図 遺構配置図(7)



第19図 遺構配置図(8)

IV 検出された遺構と遺物

1 古墳時代末から平安時代の竪穴住居跡

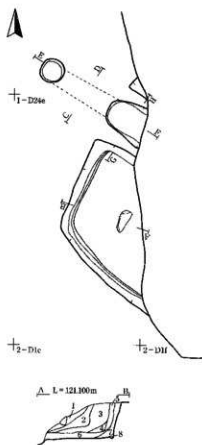
竪穴住居跡は古墳時代末から奈良時代・平安時代に属するものが合計62棟検出されている。台太郎遺跡の範囲は東西約700m、南北約500mと広大で、今回の23次調査ではこの遺跡の中央部付近から南端までと東西方向は東端・西端に少し届かない位を対象とし、その中の第3図で示した範囲を調査している。竪穴住居跡の分布を見ると古墳時代末から奈良時代の竪穴住居跡は調査区中央から東側と調査区西側に分布しており、平安時代の竪穴住居跡は調査区東端にのみ濃密に分布する傾向がみられる。各遺構の事実記載に際し、所在はグリッドと本遺跡中のどの辺に位置するかを簡単に記した。遺物については出土状況を中心とした記載に、各遺物の諸特徴は第10節及び遺物観察表を別に作成した。なお、出土遺物に関しては、何がどれだけ出土しているのかを表現する一手段として遺物の個体数を示した。これは担当者が出土遺物のすべてを突見し、土器類でいえば口縁部や底部の破片を中心に各個体を見比べて主観的に数えたものであり破片数・重量などから計算式を用いて判出したものではない。また、遺構内出土遺物という括弧にして埋土出土、床面出土の遺物を一緒にして数えている。つまりその遺構に伴うものと、そうでないものとを混ぜて示している。但し掲載した遺物に関しては遺構に伴うものを前提としている。

RA174 竪穴住居跡 (第20図)

<位置>調査区西側の2-B24f区に位置し、IV層で確認された。重複関係はないが、住居の大部分は調査区外にあり、過年度に調査が行われている。<規模・平面形・方位>規模については、本年度分については僅かであるので、明確にはできない。平面形については、検出された部分については西側は隅角を呈する。主軸方向は、カマド煙道から判断して、N-57°-Wである。<埋土>黒褐色土主体で構成される。埋土上層に粘性はないが、下層ほど少しずつ粘性を増してくる。<壁>床からはほぼ真直ぐに立ち上がる。検出された部分についての残存値は、北西壁58cm、南西壁55cmを測る。<床面>床面は、検出された部分については平坦であり、やや縮まっている。貼床等は認められないが、カマド左軸から北西コーナーをまわって調査区との接点まで、幅5~10cmの浅い溝が検出された。<カマド>北西壁の中央部と考えられる部分に設置されている。本体部の大部分が調査区外にあることから、全体の構造は不明である。袖部はやや粘性と締まりのある褐色土でつくられ、芯材等の使用は認められない。燃焼部については不明である。煙道については例貫式でつくられ、長さは1.5m、緩やかに下りながら径38×38cm(開口部)、深さ75cmの煙出部に続く。煙道下層の一部は、焼土と炭化物をごく微量含む。<出土遺物>埋土中及び床面から個体数で土師器類1点が出土している。過年度の調査により大部分の遺物は検出されている。<時代>奈良時代。

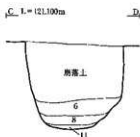
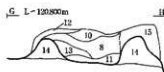
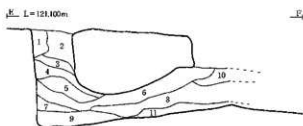
RA201 竪穴住居跡 (第21図・写真図版8)

<位置・重複関係>調査区西側の2-C4s区に位置する。IV層面で黒褐色の落ち込みにより確認されている。他遺構との重複はない。<規模・平面形・方向>規模は4.0×4.1mを測り、平面形は隅角方形を呈する。床面積は約12.8㎡で主軸の方向は、N-66°-Wである。<埋土>自然堆積による黒褐色を主体とした3層で構成される。下層ほど砂質の割合が増える。また、1層と2層にごく微量の水酸化鉄粒を含む。<壁>ほぼ垂直に立ち上がり、各壁中央部の残存値は、南壁27cm、北壁34cm、東壁25cm、西壁32cmを測る。



A · B

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
3. 10YR3/6いり赤褐色土ごく少量含む。
4. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
5. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
6. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
7. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
8. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
- 10YR4/4褐色土ごく少量含む。



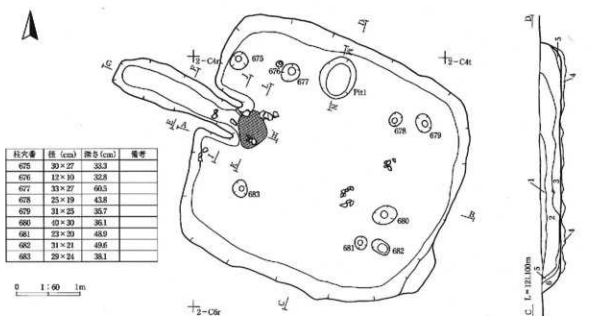
0 1:30 50cm

0 1:60 1m

C · D · E · F · G · H

1. 10YR3/6褐色土 粘性。締まり有り。10YR2/2黒褐色土ごく少量含む。
2. 10YR3/6褐色土 粘性。締まりやや有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
4. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
5. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりなし。
6. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
7. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
8. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりなし。
9. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりなし。
10. 10YR4/4褐色土 粘性。締まりなし。10YR2/2黒褐色土少量含む。
11. 10YR4/4褐色土 粘性。締まりやや有り。
12. 10YR4/4褐色土 粘性。締まりなし。
13. 10YR4/4褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
14. 10YR4/4褐色土 粘性。締まりやや有り。
15. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
- 10YR4/4褐色土ごく少量含む。

第20図 RA174壁穴住居跡



柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
675	30×27	33.3	
676	12×10	32.8	
677	33×27	60.5	
678	25×19	43.8	
679	31×25	35.7	
680	10×30	36.1	
681	23×20	48.9	
682	31×21	49.6	
683	29×24	38.1	



A-B-C-D

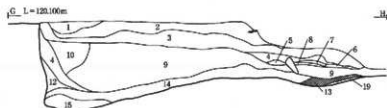
1. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。水酸化鉄皮よく観察含む。
3. 10YR5/6黄褐色土 粘性。締まりなし。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性なし。締まり有り。10YR4/4褐色砂質土ブロック少量含む。

5. 10YR5/6黄褐色土 粘性。下部締まりなし。下部に厚の10YR5/8の砂を含む。
6. 10YR5/6黄褐色土 粘性なし。市販に比べて黒色部多少なく、下部層の砂に近くなる。



M-N

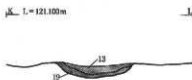
1. 10YR2/3黒褐色土 粘性なし。締まり有り。10YR4/4褐色砂質土微量含む。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。10YR4/4褐色砂質土1層よりも割合が少ない。焼土。炭化物微量含む。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりなし。10YR4/4褐色砂質土ブロック微量含む。焼土。炭化物少量含む。夏層では若干の骨片を含む。



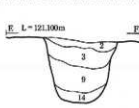
G-H L=120.100m



I-J L=121.100m



K-L L=121.100m



E-F L=121.300m

E-F-G-H-I-J-K-L

1. 10YR4/6褐色砂質土 10YR2/3黒褐色土ブロックを含む。粘性なし。締まり有り。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色土ブロックを含む。カマド部分では焼土。骨を含む。
4. 10YR5/6黄褐色土 粘性有り。締まりやや有り。カマド部分では焼土。炭。骨を含む。
5. 5YR2/4暗褐色赤褐色土 粘性なし。締まりやや有り。焼土。黒褐色土が混じっていない。
6. 5YR4/8赤褐色土質土 粘性やや有り。締まり有り。焼土。炭化物を含む。

7. 5YR4/8赤褐色土質土 粘性なし。

8. 5YR2/3暗褐色赤褐色土 粘性有り。締まりやや有り。焼土。炭化物。骨を多く含む。
9. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色土ブロックを含む。カマド部分で焼土。骨を含む。
10. 9M2。ただし10YR4/4褐色土ブロック含む。
11. 10YR2/3黒褐色砂質土 粘性なし。締まりやや有り。
12. 10YR3/10いり黄褐色砂質土 粘性。締まりなし。

13. 5YR2/3暗褐色赤褐色土 粘性なし。締まりやや有り。骨片。炭化物とも含まれる。

14. 10YR2/3黒褐色砂質土 粘性。締まりやや有り。焼土とみられる5YR4/4いり赤褐色土ごく微量含む。
15. 10YR2/3黒褐色砂質土 水分多い。粘性。締まりなし。
16. 5YR4/8赤褐色土質土 粘性なし。締まり有り。砂質。炭化骨片を受けた地山。夏層超厚。
17. 10YR4/4褐色砂質土 地山。夏層超厚。
18. 圧縮なし
19. 圧縮なし

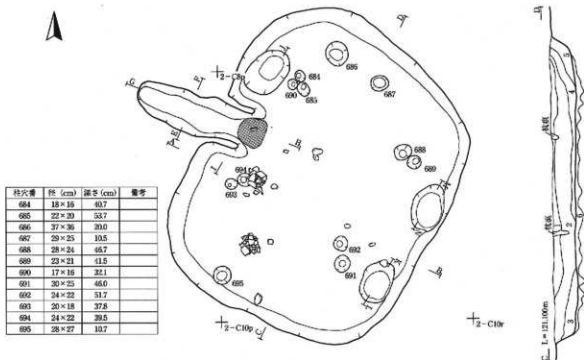
0 1:30 90cm

第21図 RA201竪穴住居跡

壁溝は認められない。〈床面〉はほぼ平坦で堅く締まりがあり、若干の上層骨片が散乱している。住居全体に3~10cmの厚さで、褐色砂質土と黒褐色土の混合土による貼床がみられる。間仕切りは無い。〈カマド〉住居北西壁の中央部にカマドがある。本体部分の規模は30×50cm、袖部は褐色砂質土の地山を残してつくられ、芯材は使用されていない。燃焼部は、径80×90cm、層厚約10cmの楕円赤褐色の焼土が形成され、若干の骨片の散らばりがみられる。煙道部は掘り込み式でつくられているが、崩落により褐色土で埋まっている。長さは1.9m、燃焼部より緩やかな下り勾配で64cmの深さの煙出口に続いている。下層側壁の一部は、燃焼による赤色変化が生じている。〈柱穴〉柱穴は全部で9基検出されている。埋土は、黒褐色を中心とした締まりが弱く粘性のない土である。一部には、少量の炭化物、焼土、炭片が含まれている。〈ピット〉北側から1基検出している。平面形は円形を呈し、埋土底面から中層にかけ骨片や炭化物を含む。性格は不明だが、カマドに伴うものと考えられる。〈出土遺物〉(第272図・写真図版27)埋土中及び床面から個体数で土師器環3点、甕1点(長胴)、鉢1点、砥石1点、自然・磨石が7点出土した。2の甕はカマド燃焼部北側、1の鉢は煙道部入口付近から破片で出土した。〈時代〉奈良時代。

RA202 竪穴住居跡 (第22図・写真図版9)

〈位置・重複関係〉調査区西側の2-C8d区に位置し、IV層で確認されている。他遺構との重複関係はみられない。〈規模・平面形・方向〉規模は4.0×4.5m、平面形は隅丸方形を呈し床面積は約14.8㎡ある。主軸の方向は、N-62°-Wである。〈埋土〉埋土は、自然堆積による黒褐色土を中心とした3層で構成される。3層とも埋土状況は同じであるが、壁際と床面に多少水分を含んでいる。北東部分に流れ込みとみられる層が確認される。〈壁〉床から垂直気味に立ち上がっている。各壁中央部の残存値は、北壁35cm、東壁26cm、南壁31cm、西壁31cmである。壁溝は認められない。〈床〉黄褐色土と黒褐色土との混合土で、締まりがあり、ほぼ平坦である。カマド袖部南側に囲まって土師器片がみられる。床全体に2~12cm、暗褐色土を中心に黄褐色土と褐色砂質土がブロック状に混じった貼床がある。間仕切りなどはみられない。〈カマド〉住居北西壁の中央部に位置している。本体部分の規模は40×80cm、袖部は褐色砂質土の地山を残して造られ、芯材等は使用されていない。燃焼部は径40×55cm、層厚8cm、暗褐色の炭片を微量に含む焼土が形成されている。中央部には支脚の石を持つ。煙道部の長さは1.45mで、ほぼ真っ直ぐに深さ52cmの煙出口に続いている。掘り込み式で造られているが、粘性と締まりのある黒褐色土と黄褐色土で埋まっている。煙道側壁は熱をうけて赤変し、焼土と炭片と若干の白色骨片を含んでいる。煙出口の下層は、多少水分を含む。〈柱穴〉全部で12基検出されている。埋土は、締まりも粘性もややある黒褐色土を中心に、褐色砂質土が多少混じる。また、炭化物をごく微量含むものが1基みられる。〈ピット〉全部で3基検出している。平面形はいずれも楕円形を呈し、埋土は締まりのないやや粘性のある黒褐色土である。このうち、東壁際の2基からは水が湧き出す。また、西南の土坑より灰白色で金雲母を含む粘土塊が出土した。〈出土遺物〉(第272図・写真図版27)埋土中及び床面から個体数で土師器甕6点、剥片石器1点、自然・磨石1点出土した。4の球胴甕はカマド燃焼部から、3の甕は南西側の床面からそれぞれ破片の状態ながらまとまって出土した。〈時代〉奈良時代。



柱番号	径 (cm)	高さ (cm)	備考
684	18×18	40.7	
685	22×20	33.7	
686	37×36	30.0	
687	29×25	10.5	
688	28×24	46.7	
689	23×21	41.5	
690	17×16	32.1	
691	30×25	46.0	
692	24×22	51.7	
693	30×18	37.8	
694	24×22	39.5	
695	28×27	10.7	

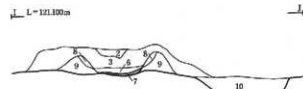
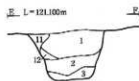
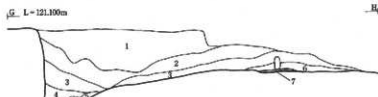


A-B-C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。別力有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。表面近くに移含む。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。上部から下部へ混れ込む様子。
5. 10YR2/2-2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。上部は褐色土、下部は褐色砂質土。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。固く締まる。褐色土・土 (10YR5/6) 褐色砂質土 (10YR4/6) 混入。

M-L

1. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。褐色土 (10YR4/6) ごく微量含む。低いところに水が溜る。
2. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。褐色土 (10YR4/6) ごく微量含む。
3. 10YR3/2-2/2赤褐色土 粘性・締まりやや有り。



E-F-G-H-I-J

1. 10YR3/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR4/4褐色土 粘性・締まりやや有り。西側に土・赤褐色砂質土 (10YR4/2) 含む。
3. 5YR2/1 (腐) - 2/2 (腐) 粘性やや有り。締まりなし。表面近くには赤褐色土 (5YR4/6) 混入含む。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。水分含む。
5. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。締まりなし。水分含む。
6. 10YR1/9褐色砂質土 粘性なし。締まりやや有り。赤褐色土・プロット (25YR4/6)・炭化物ごく微量含む。
7. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まりなし。赤褐色土・プロット (25YR4/6) ごく微量含む。
8. 10YR2/2暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。赤褐色土・プロット (25YR4/6)・炭化物ごく微量含む。
9. 10YR1/4褐色砂質土 粘性やや有り。締まりなし。黒褐色土 (10YR2/2)・炭化物・赤褐色土 (25YR4/6) ごく微量含む。
10. 25YR6/6赤褐色土 粘性・締まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/2)・炭化物ごく微量含む。
11. 10YR4/6暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土 (10YR2/2) ごく微量含む。
12. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。

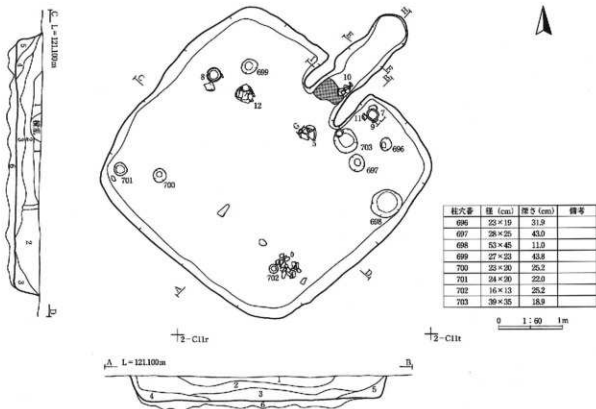
第22図 RA202竪穴住居跡

RA203 竪穴住居跡 (第23図・写真図版10)

<位置・重複関係>調査区西側の2-C9v区に位置する。IV層で確認される。RG250が近くまできているが、重複は確認されていない。<規模・平面形・方向>規模は4.2×4.1mで、平面形は隅丸方形を呈する。主軸方向はN-42°-Eで床面積は約14.3m²である。<埋土>自然堆積による黒褐色土を中心とした5層で構成される。1層は締まり粘性ともややある黒褐色土であるが壁際際、大量の明褐色土を含む。2層も同じ状態であるが、明褐色土の割合は少なくなる。3層からは酸化鉄が見られる。4・5層は、褐色土が多量の暗褐色土で構成されている。この層は、上から流れ込んでいる様子で下部砂質土が混じっている。<壁>床からはほぼ垂直に立ち上がっている。各壁中央部の残存値は、北壁37cm、東壁38cm、南壁38cm、西壁27cmを測る。<床>床面は平坦であり、全体に締まりがある。ほぼ全面貼床で黒褐色土と褐色土が混じり合っている。煙道部入り口と袖部内側の焼土との境に土師器片が、北コーナーに形の整った土師器がみられる。間仕切り等はみられない。<カマド>隣接する住居跡とは異なり、北東向きである。本体部分の規模は40×75cm、袖部は褐色砂質土の地山を残してつくられ、芯材等は使用されていない。燃焼部には6.0×9.4cmの不整形、厚5cm、明赤褐色土を主に暗褐色の炭粒を微量含む焼土が形成される。煙道部の長さは90cm程で、真っ直ぐに深さ50cmの煙出部に続いている。側壁は、熱による変化は目立たないが、下層でブロック状の炭片や微量の赤褐色焼土が認められる。<柱穴>全部で8基検出されている。埋土は黒褐色で、粘性はあるが締まりは無いが弱い。どれからも湧水が認められる。<出土遺物>(第273図・写真図版277・278) 埋土中及び床面から個体数で土師器2点、高坏1点、甕5点、碇石1点、自然・磨石4点が出土している。このうち、5の大型坏はカマド焼き口付近から、上向きに潰れた状態で出土している。12の甕はカマド左袖西南側に、横向きに潰れた状態で、7・9・11は、いずれも上向きに、9の甕を中心にそれぞれが接するように出土している。それらの南側から6の坏が上向きに出土している。<時期>奈良時代。

RA204 竪穴住居跡 (第24・25図・写真図版11)

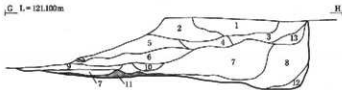
<位置・重複関係>調査区西側の2-C17u区に位置し、IV層から確認された。RG241が北東部より流れ込んでいる。本遺構の重複関係は、周囲の遺構の状態から判断して、RG241が新しい。<規模・平面形・方向>規模は4.4×4.5m、平面形は円に近い隅丸方形を呈する。床面積は約16.1m²で主軸方向は、N-36°-Wである。<埋土>黒褐色土を中心とした自然堆積による4層で構成されている。1層〜3層までは、埋土の状況はほぼ同じである。ただ、4層には小礫と微量の褐色土が混じっている。<壁>床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁24cm、東壁25cm、南壁21cm、西壁15cmを測る。<床>ほぼ平坦である。この住居跡で特徴的なことは、南側の部分、床から5cmの高さのところに、10×10cm〜20×10cmくらいの礫が多量に入っていることである。この石の中に道具として使われた痕跡を持つものはみられない。RG241が住居の中に流れ込み、そのまま埋まってしまったためと考えられる。また、礫が少ない北側のコーナー付近から、北西側からは土師器片が、北東側からは完形品になる土師器片が出土している。また、住居全体に10〜15cmの厚さで貼床がみられる。埋土は、暗褐色土が主であるが、微量の黒褐色土と褐色砂質土、少量の水酸化鉄が混じる。<カマド>、北西壁中央部分に位置する。本体の規模は、45×70cm、袖部は褐色シルト質土と暗褐色土から成る地山を残して造られ、芯材等の使用は認められない。燃焼部は、径30×30cm、層厚3cmの炭片と骨片を含む焼土が形成される。煙道部は長さ1.3mで、ほぼ真っ直ぐに煙出部に続く。側壁は、粘性があり締まりのややある極暗赤褐色土で、炭化物を帯状に含む。煙出部は、径35cm、上部がRG241の流入で欠けている。煙道部から急に48cmまで深くなり、底に微量ではあるがブロック状の



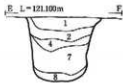
A-B-C-D

1. 10YR3/2黒褐色土 黏性、締まりやや有り。上層にいくばく10YR5/6黄褐色土を含む。
2. 10YR3/2黒褐色土 黏性、締まりやや有り。10YR5/6黄褐色土を少量含む。
3. 10YR3/2黒褐色土 黏性やや有り。締まり有り。10YR5/6黄褐色土多量を含む。
4. 10YR3/2黒褐色土 黏性やや有り。締まり有り。10YR3/4-4/4褐色土多量を含む。上から7に覆れている状態。
5. 10YR3/2暗褐色土 黏性やや有り。締まり有り。10YR4/4褐色土多量。10YR3/4-4/4褐色土少量を含む。上から下に覆れている状態。
6. 10YR3/2暗褐色土 黏性なし。締まりやや有り。

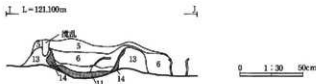
G. L=121.100m



B. L=121.100m



L. L=121.100m



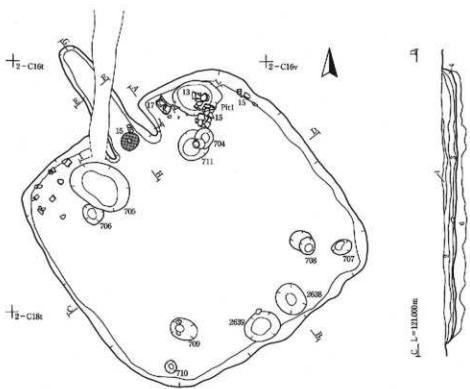
E-F-G-H-I-J

1. 10YR3/2黒褐色土 黏性、締まりやや有り。
2. 10YR3/2暗褐色土 黏性、締まりやや有り。
3. 10YR3/2暗褐色土 黏性あまりなし。むしろ砂状。締まりあまりなし。1、2に比べて明るい感じ。
4. 10YR3/2暗褐色土 黏性、締まりやや有り。5.2に比べて草の色に近くなる。
5. 10YR3/2黒褐色土 黏性、締まりやや有り。深い方弾力有り。
6. 10YR3/2-3/4暗褐色、締まりやや有り。断面に沿って粗。磁器が土中に混在。
7. 10YR4/6褐色土 黏性有り。締まりやや有り。炭化物が混入。25YR2/2ごく少量赤褐色土粒1%混入。
8. 10YR2/2暗褐色土 黏性、締まりなし。10YR4/4褐色土質上との混合土。径5cm大のブロック状に混入する炭化物5%混入。25YR4/6暗褐色土に10%含む。
9. 10YR3/2暗褐色土 黏性やや有り。締まりなし。黄銅10YR1/1黒褐色土混 (30%)。灰?
10. 10YR3/2暗褐色土 黏性、締まりやや有り。
11. 10YR3/2暗褐色土 黏性、締まりやや有り。磁器や磁器土混 (大粒)、床部分砂状。水分多い。
12. 10YR4/4褐色土質土 黏性、締まりなし。暗の崩落上。
13. 10YR4/4褐色土質土 締まり有り。黏性なし。
14. 5YR3/6暗褐色土 締まりやや有り。黏性なし。10YR2/1黒褐色土、炭片有り。

第23図 RA203竪穴住居跡

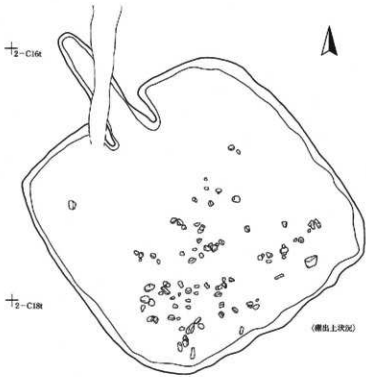


K-L
 1. 10YR4/4褐色砂質土 粘性、締まりやや有り。
 10YR3/1黒褐色土を8割、上部に黄化粘粒ごく微量含む。

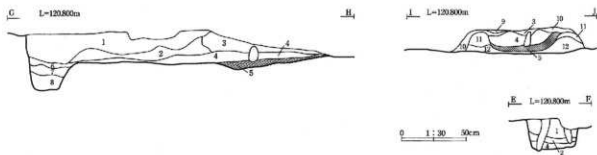


- A-B・C-D
1. 10YR2/2-3/2黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
 2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。中央部よりはじ、硬く乏しい。
 3. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
 4. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。他の住居に比べ硬くは、砂の混じらない10YR4/6褐色土混量有り。
 5. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
 6. 10YR3/3黒褐色土 粘性有り、締まり極めて有り。一部赤褐色土少量含む。

柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
704	20×26	43.4	
705	90×60	63.1	
706	37×20	51.0	
707	34×14	13.9	
708	45×34	40.1	
709	44×32	69.2	
710	31×17	6.6	
711	46	21.6	
2628	52×44	24.1	
2629	56×47	25.5	



第24図 RA204竪穴住居跡(1)



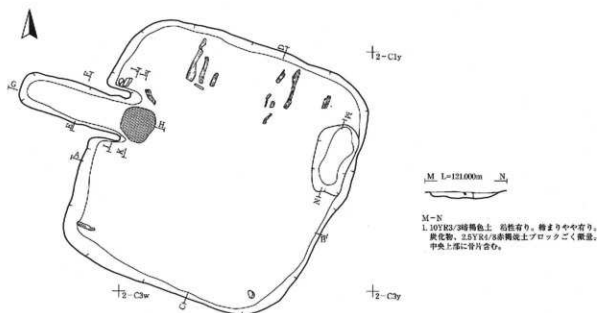
- E-P・G-II・I-J
- 10YR2/2暗褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ブロック微量含む。
 - 10YK3/6暗褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
25YR5/6暗赤褐色の流土ブロックを中央から西ごく微量、
炭化物もごく微量含む。
 - 10YR5/4暗褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
カマド層上の黒褐色土。
 - 25YR2/4暗赤褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
西壁3層との境界に炭化物層が少量含む。
全体的に25YR5/6暗赤褐色土ブロック含む。
 - 25YR2/2暗赤褐色土 粘性、締まりやや有り。
焼成を受けた自然堆積中の炭化物ごく微量含む。
 - 7.5YR2/1黒色土 粘性有り、締まりなし。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性有り、締まりなし。
 - 10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性有り、締まりなし。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量、10YR2/4暗褐色土微量、
25YR2/4暗赤褐色土ブロックごく微量含む。
 - 10YR3/2暗褐色土 締まり有り、粘性なし、ごく微量。
 - 10YR4/4褐色砂質土 締まり有り、粘性なし。
カマド層の上に近いか。
 - 10YR4/4褐色砂質土 粘性やや有り、締まり弱めで有り。
10YR2/2暗褐色土ごく微量含む。(炭土)
 - 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
(調査区に部分的に入る自然堆)

第25図 RA204竪穴住居跡(2)

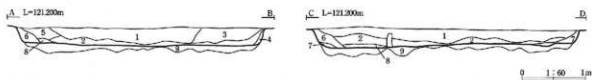
暗褐色赤褐色の焼土を含む。〈柱穴〉全部で8基検出されている。埋土は、いずれも、締まり粘性のある黒褐色土である。対比P710-709、707-708、706-705、711-704で、前者が主柱穴になっていると考えられる。また、P711-704の間からは、土師器が上向きで出土し、埋土からは炭片が微量検出される。〈ピット〉北コーナーから、土師器片を取り除くと現れた。埋土は、粘性締まりのある褐色砂質土と黒褐色土が半々の割合で含まれる。〈出土遺物〉(第274図・写真図版278・279)埋土中及び床面から個体数で土師器5点を出土している。17の球胴甕は、カマド右袖北側から潰れた状態でまともな、16の球胴甕は北側コーナーの柱穴中から上向きでほぼ完全な形で出土した。13の長胴甕・14の甕・15の長胴甕は、1号土坑の中とまわりにはば固まって、破片の状態でも出土した。〈時代〉奈良時代。

RA205 竪穴住居跡(第26図・写真図版12)

〈位置・重複関係〉調査区西側の1-C1w区に位置し、IV層から確認された。他の遺構との重複関係は見られない。〈規模・平面形・方向〉遺構の規模は4.25×3.9m、平面形は隅丸方形を呈し床面積は約14.1㎡である。主軸方向は、N-64°-Wである。〈埋土〉埋土は黒褐色土を主にした自然堆積による2層である。他に、人為堆積と考えられる層が見られる。具体的には、南-北断面の壁際には炭粒を含む黒褐色土が、西壁際には炭粒(シバ屑)や焼土粒を少量含む黒褐色土や暗褐色土の層が見られる。〈壁〉床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁27cm、東壁24cm、南壁25cm、西壁24cmを測る。〈床〉やや締まりがある黒褐色土に黄褐色土が混じり合っている。貼床は、暗褐色土を主体にして褐色砂質土が20%混じった締まりのある埋土で、床面全体に見られる。中央部分は6cmと薄いが、壁際になると15cm前後と厚くなる。他には、住居北壁際に炭化材が南北方向に並んで検出された。住居が焼失した為か、後から入ったものかどうかは不明である。〈カマド〉カマドは、北西壁のほぼ中央に位置している。本体の規模は4.5×6.0cmでカマドの袖部は、締まりがあり地山である褐色砂質土を削りだして造られている。芯材の使用は認められな



M-N
1. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。礫まわりやや有り。
鉄化物。2. 5YR3/3赤褐色土ブロックごく微量。
中央上部に骨片含む。

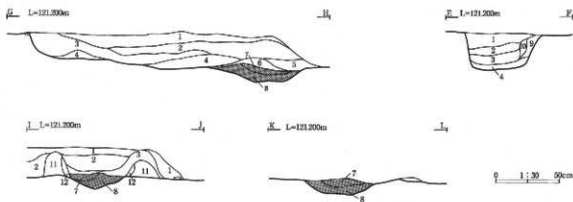


A-B-C-D

1. 10YR2/2黒褐色土に棕色土が不規則に混じる。
粘性。礫まわりやや有り。
2. 10YR2/2黒褐色土に褐色土が混じり合う。
粘性。礫まわりやや有り。焼土。炭粒含む。
3. 10YR3/2黒褐色土ブロック多量に含む。
粘性やや有り。礫まわり有り。

4. 10YR3/4暗褐色土 粘性。礫まわりやや有り。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。礫まわり有り。
6. 10YR3/2黒褐色土ごく微量混じる。
粘性。礫まわりやや有り。
7. 10YR3/3暗褐色土 粘性。礫まわりやや有り。

8. 10YR3/3暗褐色土 焼土殻を少量含む。
粘性やや有り。礫まわり有り。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。礫まわり有り。
10YR4/4褐色土屑混含む。



E-F-G-H-I-J-K-L

1. 10YR3/2黒褐色土 粘性。礫まわりやや有り。
2. 10YR3/2黒褐色土 粘性。礫まわりやや有り。
なかに5YR3/3(暗褐色)を7%含む。目立って明るい。
3. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。礫まわり有り。炭粒砂状。
4. 10YR4/4褐色土 粘性。礫まわりなし。
湖沼部分にみたり高い炭や5YR3/2-4/4の焼土有り。
5. 10YR4/4褐色土 粘性。礫まわりやや有り。
6. 5YR3/2-赤赤褐色土 粘性なし。礫まわりやや有り。
北部に大きな骨片有り。
7. 6d. 灰く。20%炭に6dに焼片有り。(C306)

8. 5YR4/6(白)に近い赤褐色焼土 粘性なし。礫まわりやや有り。
7-8ともかなり明るく感じられる。
9. 10YR4/4褐色土 粘性なし。礫まわりなし。砂状。
10. (い)海
11. 10YR4/3(白)に近い赤褐色土 粘性なし。礫まわりなし。
砂状。(湖沼の残りだし)。
12. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。礫まわり有り。

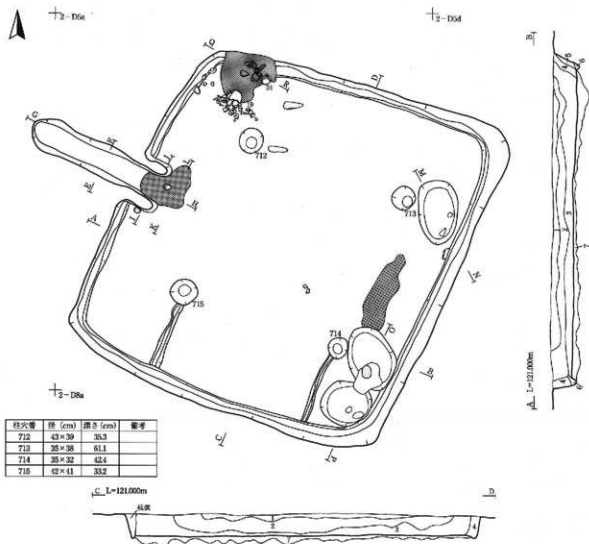
第26図 RA205竪穴住居跡

い。袖部の煙道寄りの部分は焼成により赤変している。燃焼部は、55×50cmの楕円状に層厚8cmの暗赤褐色焼土が形成されている。焼土断面からは、支脚に使われたと考えられる15×7cmの石が出てきた。煙道部は、長さ1.5mで、緩やかな下り勾配で深さ44cmの煙出部に続く。煙道部の下層は、燃焼による赤色変化はあまり受けていないが、骨片や焼土粒が含まれる。〈ピット〉東壁際で1基検出されている。主になる埋土は、粘性があり締まりもややある暗褐色土であるが、中央上部に骨片や炭化物、赤褐色焼土ブロックを含む。〈出土遺物〉(第275図・写真図版279)埋土中及び床面から個体数で土師器甕3点が出土する。そのうち18は、底部のみ出土した。〈時代〉奈良時代。

RA206 竪穴住居跡(第27・28図・写真図版13)

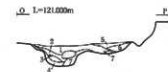
〈位置・重複関係〉調査区西側の2-B6b区に位置し、IV層より確認される。〈規模・平面形・方位〉規模は5.3×5.7m、平面形は隅丸方形を呈する。床面積は約27.0㎡で主軸方向は、N-63°-Wである。この区域の住居の中では一番大きい。〈埋土〉黒褐色を主体にした自然堆積による3層で構成される。壁際には粘土質土の流れ込みも見られる。〈壁〉床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁39cm、東壁36cm、南壁29cm、西壁27cmを測る。カマド部分を除いた壁直下に溝が巡っている。幅10~15cm、深さ4~10cm程度である。また、南壁部分の溝が2ヶ所、長さ1.1~1.2m、幅10cm前後、深さ4~7cmで、北の柱穴に向かって続いている。〈床〉床面は、ほぼ平坦で堅く締まっている。床面で特記すべきことは、東壁の部分に灰白色の粘土塊があることである。大きいもので54×30cm、小さいもので20×10cmの塊が4個ある。もう一つは、北壁のコーナー東側に黒褐色土を中心に明褐色をごく微量の粘土塊がある。東側には帯状に75cmにわたり焼土が廃棄され、周囲に土師器片が散らばる。また、裏が赤変した28cmほどの石も捨てられている。〈カマド〉本体は北西壁の中央部に位置し、規模は50×40cmである。袖部は、粘性のない締まりのある褐色砂質土の地山を削り出して造られ、芯材の使用等は認められない。燃焼部には、径75×65cmの不整形、層厚10cm程の暗赤褐色の焼土が検出された。真ん中に直径10cmの礫が入っている煙道部は、緩やかな下り勾配で煙出部に続いている。側壁は焼成をうけており、微量の骨片と炭化物を含む。煙出部は深さ80cmであるが、底付近に多量の炭化物を含む。〈柱穴〉柱穴は4基検出され主柱穴になると考えられる。ほぼ同じ規模の平面形であり、南側の2基は周溝から延びた溝と結びついている。

〈ピット〉東側の壁沿いに2基検出している。前述のように上層から中層にかけて粘土塊を含んでいる。埋土は、堅く締まった粘性のある黒褐色土であるが、他に炭化物や鉄を若干含んでいる。〈その他〉北側壁際の廃棄焼土の広がりからはケヤキ類とみられる炭粒も検出されている。〈出土遺物〉(第275・276図・写真図版279・280)埋土中及び床面から個体数で、奈良時代の土師器甕6点、平安時代の須恵器杯1点、甕2点、壺1点分と鉄製品(534)1点が出土している。出土場所は北側コーナーの廃棄焼土上からが大部分である。24の壺はほぼ完形品である。他は破片で出土するが、接合すると20の甕も完形品に近い物になる。〈時代〉奈良時代。

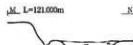


坑穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
712	43×39	35.3	
713	35×38	61.1	
714	33×32	42.4	
715	42×41	33.2	

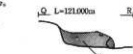
- A-B-C-D
- 10YR3/1黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土微量含む。
 - 10YR3/3黒褐色土 粘性弱めて有り。締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土。水酸化鉄分ごく微量含む。
 - 10YR2/1黒褐色土 粘性。締まり有り。
10YR4/4褐色粘土ごく微量含む。
 - 10YR4/6暗褐色砂質土 粘性なし。締まりやや有り。
黒の焼土。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性弱めて有り。締まり有り。
10YR4/6褐色粘土ごく微量含む。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり弱めて有り。
10YR2/2黒褐色土微量含む。



- Q-R
- 10YR3/1黒褐色土 粘性。締まり有り。水酸化鉄分。炭化物。ごく微量含む。
 - 10YR4/2赤い黄褐色粘土 粘性。締まり有り。10YR3/5黄褐色土ブロック。炭化物ごく微量含む。
 - 10YR3/4暗褐色土 中層に灰白色粘土のかたまり。粘性やや有り。締まり有り。
 - 10YR3/1黒褐色土 粘性。締まり有り。水酸化鉄分。炭化物ごく微量含む。
 - 10YR4/2赤い黄褐色粘土 10YR4/4褐色砂質土。10YR3/1黒褐色土微量含む。粘性。締まり有り。
 - 10YR4/2赤い黄褐色粘土 10YR3/1黒褐色土との混在。粘性弱めて有り。締まり有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
灰白粘土ブロック状 (径×10cm) に少量含む。



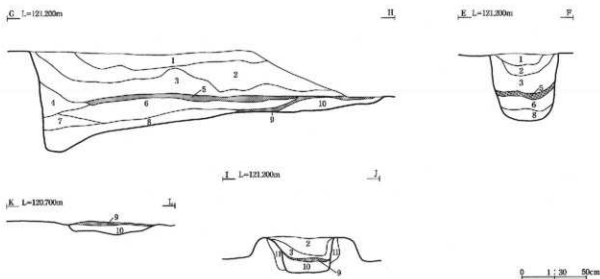
- M-N
- 10YR3/4暗褐色土 粘性。締まり有り。
10YR5/5暗褐色の粘土ブロック微量。炭化物
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。粘土中
に径5mm程度の灰白粘土のかたまり微量有り。



- J-K
- 10YR4/4褐色砂質土 粘性。締まりやや有り。
黄褐色粘土ブロック (5YR5/3) 少量。炭化
物。褐色土 (10YR2/2) ごく微量含む。

0 1:30 1m

第27図 RA206竪穴住居跡(1)



E・F・G・H・I・J・K・L

1. 10YR3/1黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
2. 10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
3. 10YR2/1黒色土 粘粒。締まり有り。
4. 10YR4/6暗褐色土ブロック微量含む。
5. 10YR2/4暗褐色砂質土 粘粒。締まりやや有り。
6. 10YR2/1黒色土ごく微量含む。
7. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘粒有り。締まりやや有り。若干の炭化を受け。
8. 5YR2/3暗赤褐色土 粘性。締まりやや有り。

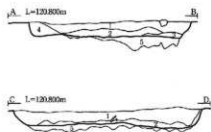
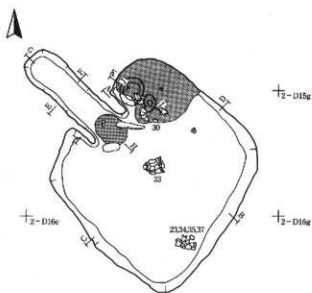
9. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘性なし。
10. 5YR4/6赤褐色土ブロック。炭化物、褐色砂質土を微量含む。
11. 10YR2/3暗褐色砂質土 粘性。締まりやや有り。
12. 10YR4/4暗褐色砂質土を含む。
13. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘性なし。締まりやや有り。
14. 5YR4/6赤褐色土ブロック。炭化物を微量。中央より裏側に骨片？白色の小片含む。

15. 5YR3/4暗赤褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
16. 25YR4/6赤褐色土ブロック。炭化物ごく微量含む。
17. 10YR3/4暗赤褐色土 粘性。締まりやや有り。
18. 25YR4/6赤褐色土ブロック。炭化物。ごく微量含む。
19. 11. 25YR4/6赤褐色土 粘性なし。締まり有り。

第28図 RA206竪穴住居跡(2)

RA207竪穴住居跡(第29図・写真図版14)

<位置・重複関係>調査区西側の2-B15f区に位置し、IV層から確認された。他の遺構との重複関係は認められない。<規模・平面形・方向>平面形は隅丸方形を呈し、規模は3×2.8mを測る。主軸の方向は、N-47°-Wで床面積は約6.6㎡である。<埋土>自然堆積による黒褐色土を主体にした3層で構成される。<壁>床から垂直に立ち上がっている。各壁中央部の残存値は、北壁22cm、東壁30cm、西壁22cm、南壁28cmを測り、壁溝はない。<床>ほぼ平坦であるが、西側に比べ東側が5cmほど高くなっている。床面は全体に締まりがある。南壁近くと中央部に完形品になる土師器片が見られる。また、北側コーナー付近に廃棄焼土がある。<カマド>他の遺構と同様に、北西壁中央に位置する。本体部分の規模は、45×70cm、袖部は堅く締まった褐色砂質土の地山を残して造られ、芯材は使用されていない。燃焼部は、径40×55cmの楕円形で層厚7cm、炭化物とブロック状赤褐色焼土を含む極暗赤褐色焼土で構成される。燃焼部の先端に44×7cmと28×14cmの細長い碟がある。煙道部は掘り込み式で造られており、長さは1.7mで、緩やかな勾配で深さ55cmの煙道部に続いている。側壁の下層は骨片や粒状の焼土を含む。<ビット>北側コーナー付近から1基検出された。埋土中にごく微量ながら焼土が検出された。<出土遺物>(第276図・写真図版280・281)埋土中及び床面から個体数で土師器片1点、甕3点が出土する。このうち33は、住居中央部から押しつぶされた状態でまとまって出土した。また、34・35・37の3つの甕は、破片で、南側のコーナーからまとまって出土した。北側廃棄焼土内には、甕と甕の破片が含まれていた。<時代>奈良時代。



A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。
3. 10YR2/3黒褐色土 10YR4/2赤褐色土ごく微量含む。
4. 10YR4/4褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。
5. 10YR4/4褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。

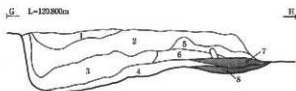


K-I.

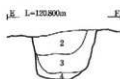
1. 10YR2/1粘性有り。締まりやや有り。
10YR5/6黄褐色土ごく微量含む。若干の黄土状含む。
2. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
僅5cm程度の黄土ブロックごく微量含む。

3. 10YR3/4暗褐色土 粘性有り。締まりなし。
10YR4/4褐色砂質土微量含む。

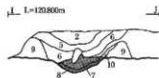
0 1:60 1m



H



E



J

0 1:30 50cm

E-F・G-H・I-J

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
黄土。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性。締まりやや有り。
北東部へ近い。
3. 10YR4/3黄褐色土 粘性やや有り。
締まりあまりなし。水分多。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
底層上に骨片、黄土 (5YR4/6) 粒状に含む。
5. 10YR4/4褐色土 粘性。締まりやや有り。
天井筋の落ちたところ。
6. 10YR2/3暗褐色土 粘性。締まりやや有り。
31に近く少褐色がかる。
7. 10YR2/3粘性有り。締まりやや有り。
25YR4/6酸化物ごく微量含む。
8. 5YR2/6緑赤褐色土。25YR4/6赤褐色黄土ブ
ロック。炭化物。ごく微量含む。
9. 10YR4/4褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。
10. 5YR2/4暗赤褐色土。10YR4/4褐色土の構成変化。

第29図 RA207竪穴住居跡

RA209 竪穴住居跡 (第30図・写真図版15)

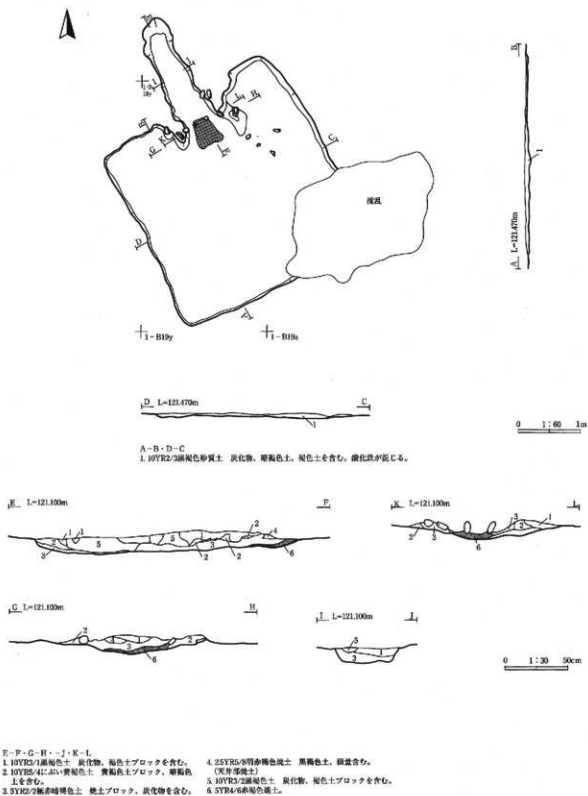
<位置・重複関係>調査区西側の1-B18z区に位置する。東側コーナーが攪乱のため不明になっている。検出は、IV層で確認されている。<規模・平面形・方向>遺構は全体に削平されており、住居の堺等も浅くなっている。確認されている部分の規模は3.2×3.3m、平面形は隅丸方形を呈している。床面積は約9.9㎡で主軸の方向は、N-30°-Wである。北東方向に1.7×2.2mの攪乱がある。<埋土>黒褐色砂質土を主にする単層である。その中に炭化物、暗褐色土、褐色土が混在する。また、酸化鉄も微量含まれる。<壁>削平が進んでおり、東側以外はあまりはっきりしていない。各壁中央部での残存値は東壁5cm、南壁3cm、西壁2cm、北壁2～5cmを測る。<床面>床はほぼ平坦で締まっており、カマド付近が南側に比べやや高くなっている。貼床はみられない。<カマド>北西側の壁中央に設置されている。上部が削平を受けていることから、天井部の構造ははっきりしない。本体の規模は1.2×0.5mで、袖部はにぶい黄褐色土でつくられ、芯材に4個の礫が使用されている。燃焼部は径30×45cmの楕円形状で層厚1cmの赤褐色焼土が形成されている。煙道部は長さ1.8mで、ほぼ真っ直ぐに運出部に続き、側壁の一部は燃成による赤色変化を生じている。<出土遺物>(第277図・写真図版281)埋土中及び床面から土師器坏4点、甕が1点出土している。36の坏は、上向きでカマド右袖外側から出土している。<時期>奈良時代。

RA210 竪穴住居跡 (第31図・写真図版16)

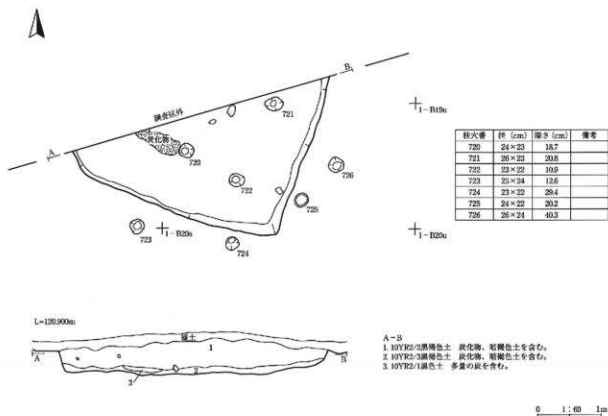
<位置>調査区西側の1-B19s区に位置している。検出はIV層で確認されている。<規模・平面形・方向>遺構の北側と西側が調査区外であることから、正確な平面形と規模の全容は不明である。確認できる部分の規模は3.5×2.7m、コーナーは隅丸を呈する。主軸の方向は不明である。<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積による2層で形成されている。1層は黒褐色土で、炭化物や暗褐色土が混在する。2層も同様であるが、調査区との境に、80×30cmの炭片を含む。<壁>検出された部分については、床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、東壁15cm、南壁15cmを測る。<床面>ほぼ平坦であり、上は締まっている。貼床は認められない。<カマド>検出されていないが、調査区外に設置されていた可能性もある。<柱穴>遺構内に3基検出されている。他に、遺構外に東壁と南壁沿いにそれぞれ2基の柱穴がみられ、前述の3基とあわせて、住居に関係がある柱穴と考えられる。<出土遺物>(第210図・写真図版281)埋土及び床面から個体数で土師器甕2点(39・40)が出土している。<時期>奈良時代。

RA211 竪穴住居跡 (第32図・写真図版17)

<位置・重複関係>調査区西側の2-B10f区に位置し、IV層面から確認された。本遺構の重複関係は、遺構の切合や出土遺物から、RG241とRD821より古い。<規模・平面形・方向>平面形は隅丸方形を呈する。規模は、確認できる範囲で3.7×3.45mで床面積は約10.5㎡である。主軸方向は、N-55°-Wである。<埋土>RD821との切合により明確にはわからない。壁際の残された部分については、褐色土を主体にした1層からなる。下層ほど黒色土の混じる割合が多くなる。<壁>床面からほぼ垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁27cm、東壁28cm、南壁25cm、西壁23cmを測る。壁溝はない。<床面>RD821が床面よりも深く掘り込まれているので、中心部分についてははっきりしない。壁近くは褐色土で、堅く締まっている。貼床は認められない。<カマド>住居北東の壁中央に設置されている。RD821との切合のため袖の一部が削られているので、全体は明確にならないが、大凡の規模は95×55cmである。袖部は地山層を削りだして造られ、芯材の使用は認められない。燃焼部は、50×40cmの楕円形、層厚5～7cmの焼土を形成し、切り合う土坑との境目にある。煙道部の長さは1.5m、やや下り勾配で煙出部に続く。煙出部は径45×



第30図 RA209 壁穴住居跡

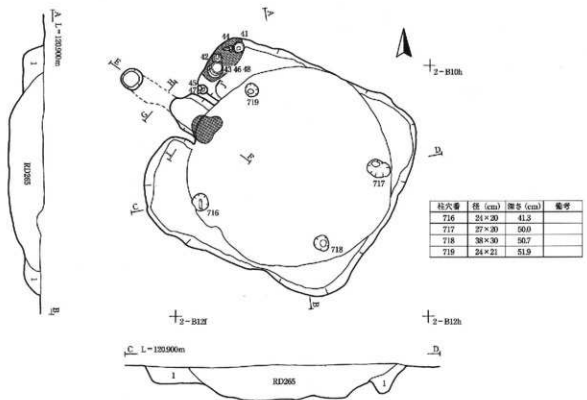


第31図 RA210竪穴住居跡

43cm（開口部）、深さ56cmの円形に掘り込まれている。〈柱穴〉4基検出された。直径は20～25cm、深さは40～50cmであり、東西南北のコーナー付近にある。位置からみて、住居に関係するものである。〈出土遺物〉（第278図・写真図版281・282）埋土中及び床面から個体数にして土師器坏3点、甕6点、丸底の手すくね土器1点、高坏とみられるもの1点、自然・磨石1点、球1点、磁器皿1点が出土している。埋土中のもはRG241とRD821の遺物とも考えられる。このうち、41・42・43・44の坏と46・48の甕はカマド北側コーナーの土坑とその近くから、ほぼ完形の状態で出土した。こうした状況はRA206・207においても観察されている。また、46は48の中に入れられ、2点とも上向きで出土した。
 〈時代〉奈良時代。

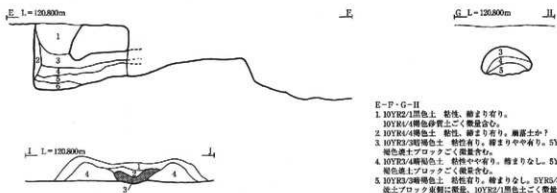
RA219竪穴住居跡（第33・34図・写真図版18）

〈位置・重複関係〉調査区西側3-D3x区に位置し、IV層で確認された。遺構の重複はない。〈規模・平面形・方向〉規模は5.8×6.2mで床面積31.0㎡。平面形は隅丸方形を呈する。主軸方向は、N-80°-Wである。〈埋土〉1～3cmの小礫の混じった褐色土を含む黒褐色土を主体にした2層で構成される。その中に、近世の攪乱や耕作土が混じる。〈床面〉ほぼ全面に貼床があり、平坦で締まりがある。近世の建物跡を構成する柱穴や小礫が散らばっている状態である。土師器片等はカマド付近にあるが、北西コーナーに粘土塊を含む廃棄焼土がみられる。〈壁〉床面からほぼ垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁20cm、東壁16cm、南壁18cm、西壁15cmを測る。壁溝は検出されなかった。〈カマド〉住居西壁中央部に位



A-B-C-D
1. 10YR6/4褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR2/2黒色土ごく微量含む。

0 1:60 1m

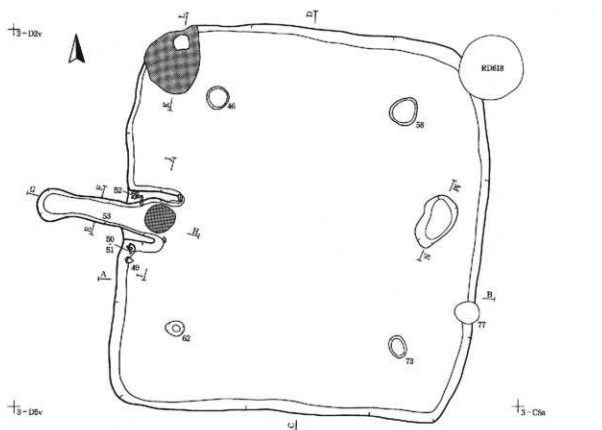


E-F・G-H
1. 10YR2/1黒色土 粘性、締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
2. 10YR6/4褐色土 粘性、締まり有り、腐葉土か？
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り、締まりやや有り。5YR5/8明赤褐色土ブロックごく微量含む。
4. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り、締まりなし。5YR5/8明赤褐色土ブロックごく微量含む。
5. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り、締まりなし。5YR5/8明赤褐色土ブロック裏側に微量。10YR2/1黒色土ごく微量含む。
6. 10YR2/1黒色土粘性有り。締まりなし。炭化物ごく微量含む。

I-J
1. 10YR2/1黒色土 粘性、締まり有り。
2. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り、締まりなし。
5YR5/8明赤褐色土ブロックごく微量含む。
3. 5YR3/3明赤褐色土 粘性、締まりやや有り。
4. 10YR6/3に多い黄褐色土 粘性、締まり有り。
内側に5YR5/8明赤褐色土をごく微量含む。

0 1:30 50cm

第32図 RA211竪穴住居跡



柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
46	31×30	18.9	
58	30×34	14.1	
62	30×25	30.6	
73	27×20	36.0	
77	44×27	38.7	

A-B・C-D

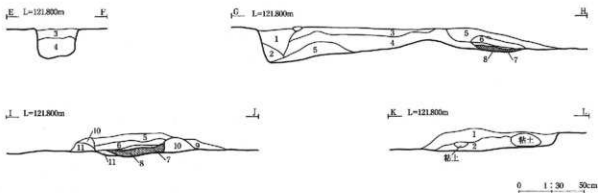
1. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや有り。小粒ごく微量含む。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性なし。締まり有り。
3. 10YR5/6褐色砂質土(1)~3cm厚の小粒ごく微量含む。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR5/6褐色砂質土ブロックごく微量含む。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR3/3暗褐色土ごく微量含む。
5. 10YR4/1黄土 ごく微量含む。
6. 10YR4/4褐色土 粘性なし。締まりやや有り。10YR3/3暗褐色土ごく微量含む。

M-N

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。10YR5/6褐色砂質土ブロックごく微量含む。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。

0 1:60 1m

第33図 RA219竪穴住居跡(1)



E・F・G・H・I・J

1. 10YR3/2暗褐色土 粘性やや有り、締まり有り。炭化物ごく微量含む。
2. 10YR3/2暗褐色土 粘性やや有り、締まり有り。2.5YR5/6明赤褐色土ブロック、炭化物ごく微量含む。
3. 10YR2/2暗褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR4/6暗褐色土ごく微量含む。
4. 10YR2/2暗褐色土 粘性、締まりやや有り。2.5YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。径1cm大の小石を複数含む。
5. 10YR2/2暗褐色土 粘性、締まりなし。
6. 2.5YR4/6赤褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR2/2暗褐色土、炭化物ごく微量含む。
7. 2.5YR4/6赤褐色土 粘性なし、締まり有り。

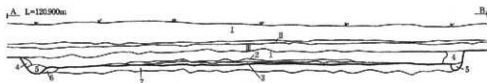
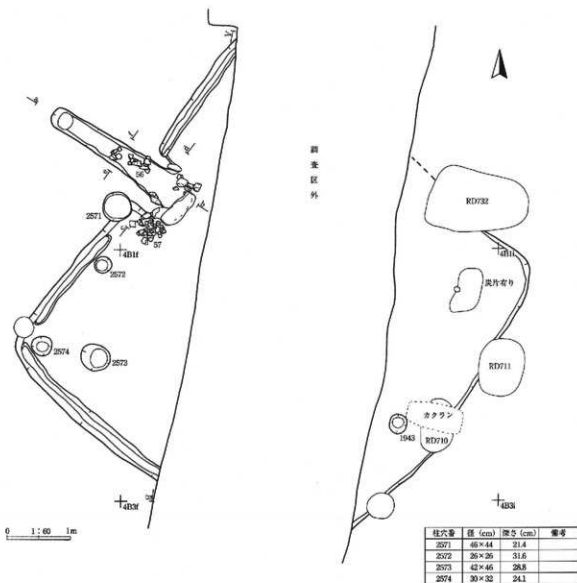
8. 2.5YR3/6暗赤褐色土 粘性なし、締まりなし。径1~3cm大の小礫含む。
9. 10YR5/6黄褐色土 10YR3/2暗褐色土を微量含む。粘性、締まりやや有り。
10. 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
11. 10YR2/2暗褐色土 粘性なし、締まりやや有り。径1~2cm大の小礫多量含む。

K-L

1. 10YR4/6暗褐色土 粘性なし、締まりやや有り。2.5YR4/6赤褐色土、炭化物ごく微量含む。
2. 10YR2/2暗褐色土 粘性有り、締まりやや有り。10YR4/6暗褐色土ごく微量含む。粘土10YR3/4~5/6粘性、締まりきわめて有り。

第34図 RA219竪穴住居跡(2)

置し、本体の規模は50×90cmである。燃焼部は直径45cm、層厚5cm、床面に暗赤褐色焼土が形成されている。袖部は小礫を含む黄褐色砂質土と暗褐色砂質土の混合土からなる。土師器片はみられるが、芯材であるとは断言できない。煙道部は、割り貫き式で長さは1.1m、緩やかな下り勾配で煙出に続く。中程に焼土ブロックを含むが、個々の焼成変化は目立たない。煙出の部分は深さ30cm程掘り込まれており、微量ながら炭化物や明褐色の焼土ブロックが認められる。〈柱穴〉住居にかかわる柱穴が4基検出された。〈ビット〉1基検出された。1号土坑は東側に位置している。焼土や土器は認められない。また北側のコーナー部分には焼土が廃棄してあった。焼土の下に浅黄橙と黄橙の粘土が2ヶ所に埋められている。〈出土遺物〉(第279図・写真図版282) 埋土中及び床面から個体数で土師器坏6点、甕8点、混入したと考えられる須恵器甕小破片2点が出土した。52と53の甕はカマド両袖付近にあるが、芯材であったかどうかは不明である。49と50の坏は、カマド左袖外側から破片で出土した。〈時代〉遺物から奈良時代の可能性がある。



A-B

I. 10YR3/2黒褐色土 水酸化鉄質有り。

粘性やや有り。締まっている。

II. 7.5YK5/6暗褐色土 灰土。

III. 10YR2/1黒色土 粘性やや有り。締まっている。

1. 10YR2/2黒褐色土 水酸化鉄質有り。

灰粒ごく微細含む。粘性・締まりやや有り。

2. 10YR2/2黒褐色土 灰はブロック状。

粘性・締まりやや有り。

3. 10YR2/1黒色土 粘性・締まりやや有り。

4. 10YR2/1黒色土 粘性・締まりやや有り。

5. 10YR3/3暗褐色土 褐色土混入。

粘性・締まりやや有り。

6. 10YR3/2黒褐色土 褐色土混入。

粘性・締まりやや有り。

7. 10YR6/4褐色土 暗褐色土・暗褐色土など混じる。

粘性やや有り。締まっている。

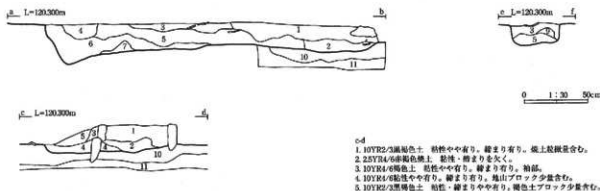
第35図 RA223竪穴住居跡(1)

RA 2 2 3 竪穴住居跡 (第35・36図・写真図版19)

<位置・重複関係>遺跡中央やや南側の4 B 1 f グリッドに位置している。RD 710・711・732と重複しておりいずれも本住居跡のほうが古い。 <規模・平面形・方向>北西壁-南東壁で6.5mを測る。平面形は隅丸方形を基調とすると思われ、床面積は37.9㎡と推定した。住居の主軸方向はN-56° -Wである。

<埋土>黒褐色土と黒色土を主体とし自然堆積の様相を呈する。 <壁>各壁とも約20cm前後残存しており床面から外傾して立ち上がっている。北西壁際及び南西壁際には壕溝が掘られていた。 <床面>全面を貼床とし硬く締まっている。 <カマド>北西壁のほぼ中央に構築されている。燃焼部の幅は約40cmと見られ、埋土には焼土粒や炭粒が含まれていた。袖部と焚口には自然礫を芯材に使用しこれを褐色土で覆っている。燃焼部は削り貫き式であったと思われる、燃焼部から煙出し下部へは最大9cmの傾斜で掘り下げている。

<柱穴>4基の柱穴を検出したが、本住居に伴わないものも含んでいる可能性がある。 <出土遺物> (第280図・写真図版282・283) 埋土及び床面からは個体数にして土師器杯1点、甕類4点、長胴扁平土器1点の出土があった。甕56は煙道部の埋土からの出土である。57の長胴扁平土器はカマド南西脇の床から袖部にかけて、その場で潰れて床にめり込んだ状態でみつかった。 <時期>奈良時代。



a-b・c-d

1. 10YR3/3暗褐色土 粘粒やや有り、締まりを欠く、地山ブロック少量含む。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘粒やや有り、締まりを欠く、地山ブロック少量含む。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘粒やや有り、締まりを欠く、地山ブロック少量含む。
4. 10YR3/3暗褐色土 粘粒やや有り、締まり有り、地山ブロック少量含む。
5. 10YR3/2黒褐色土 粘粒やや有り、締まりを欠く、焼土粒少量含む。
6. 10YR3/2黒褐色土 粘粒やや有り、締まりを欠く、焼土・炭粒少量含む。
7. 10YR4/6褐色土 粘粒・締まりやや有り、黒褐色土との混合土。
8. 10YR4/4褐色土 粘粒・締まりやや有り。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘粒やや有り、締まりを欠く、地山ブロック少量含む。
10. 10YR4/6褐色土 粘粒やや有り、締まり有り、黒褐色土・暗褐色土との混合土、珪り床。
11. 砂層

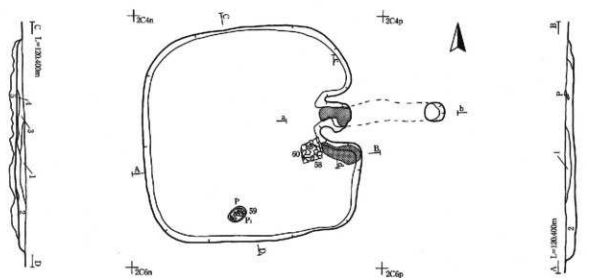
c-d

1. 10YR2/2黒褐色土 粘粒やや有り、締まり有り、焼土粒少量含む。
2. 2.5YR4/6暗褐色土 粘粒・締まりを欠く。
3. 10YR4/6褐色土 粘粒やや有り、締まり有り、粘粒。
4. 10YR4/6粘粒やや有り、締まり有り、地山ブロック少量含む。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘粒・締まりやや有り、褐色土ブロック少量含む。

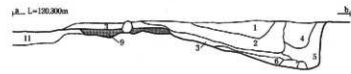
第36図 RA223竪穴住居跡(2)

RA225 壑穴住居跡 (第37図・写真図版20)

<位置・重複関係>遺跡の東側、2C4nグリッドに位置する。 <規模・平面形・方向>隅丸方形のプランで東壁-西壁が3.5m、北壁-南壁で3.4mを測る。床面積は約9.7m²で、主軸方向はN-88°-Eである。
<埋土>黒褐色土及び褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈する。 <壁>各壁中央部での残存値は東壁9cm、南壁10cm、西壁15cm、北壁8cmしかなく残りは悪い。 <床面>全面を貼床とし平坦につくられてい



1. 10YR2/3黒褐色土 水酸化鉄床面有り。
粘性・締まりやや有り。
2. 10YR4/4褐色土 地山ブロック露出。炭粒含む。
粘性やや有り。締まっている。
3. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まっている。
4. 10YR5/6黄褐色土 黒褐色土ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まっている。
5. 10YR4/4褐色土 黒褐色土ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まっている。(竈床)



RA225カマド

1. 10YR3/3黒褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。締まっている。
3. 2.5YR4/6赤褐色土 粒状に堆積。粘性强。
締まりやや有り。
4. 10YR3/4黒褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性・締まりやや有り。
5. 10YR4/4褐色土 地山ブロック主体。
その外側に細粒土。粘性强。締まりやや有り。
6. 10YR4/4褐色土 粘性・締まりやや有り。
7. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック露出。
粘性・締まりやや有り。
8. 10YR2/3黒褐色土 炭土粒・炭粒を含む。
粘性やや有り。締まりやや有り。
9. 2.5YR4/6赤褐色土 粘性强。締まりやや有り。
10. 10YR2/3黒褐色土 炭土 ブロック露出。
粘性・締まりやや有り。
11. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック露出。
粘性やや有り。締まっている。(竈床)



第37図 RA225壑穴住居跡

る。〈カマド〉東壁のほぼ中央に構築されており、燃焼部と煙道が残っている。燃焼部の左右の側壁は、地山をそのまま削り残してつくられていて芯材はない。天井部は崩落して残っていなかった。燃焼部底面には焼面の形成が顕著に認められ、そのほぼ中央には支脚に使われたとみられる自然礫が据えられていた。また右側壁の外側に焼土の広がりがみられる。煙道部は列り貫き式で天井部は崩落している。燃焼部から煙出し下部には約11cmの傾斜で下がっている。〈柱穴〉1基のみ検出された。〈その他〉主軸方向が他の奈良時代の住居とは異なっている。〈出土遺物〉〈第281図・写真図版284〉埋土及び床面から土師器壺類4点（その内長胴壺2点）が出土している。土師器杯は出土しなかった。カマド南側壁付近床面から壺58・60が倒れた状態で出土した。59は南西側の床面から出土した。〈時期〉奈良時代。

RA226 竪穴住居跡（第38図・写真図版21）

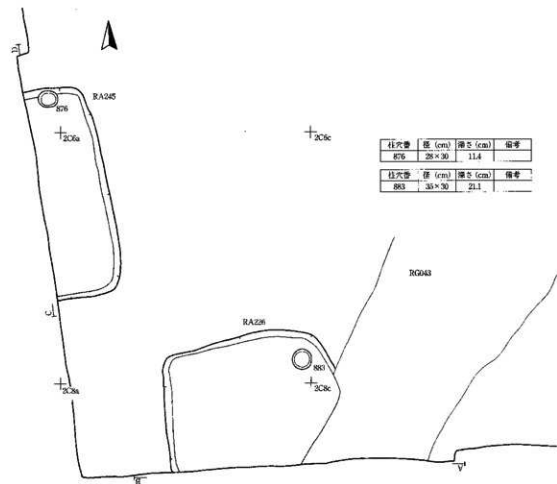
〈位置・重複関係〉遺跡の東側、2C6bグリッドに位置している。RG043と重複し本住居のほうが古い。〈規模・平面形・方向〉東壁・西壁で2.7mを測るが、東壁はRG045に切られ、南壁は調査区外へ延びているため詳細は不明である。平面形は隅丸方形もしくは隅丸長方形を早すると思われる。〈埋土〉堆積土は地山ブロックを不規則に含んでおり、人為堆積の可能性が考えられる。〈壁〉西壁はやや段をもって立ち上がっている。表上から床面までの断面図を作成したが、壁の立ち上がりはⅢ層とⅣ層の境までしか捉えられなかった。〈床面〉貼床を施し、概ね平坦につくられている。〈カマド〉調査区内では検出されなかった。〈柱穴〉1基検出されている。〈その他〉北西側に隣接するRA245とは時間的にも近いような印象をもつ。〈出土遺物〉無し。〈時期〉RG043より古いということ、そして周辺で検出されている他の遺構の状況から奈良・平安時代の遺構と思われる。

RA245 竪穴住居跡（第38図・写真図版21）

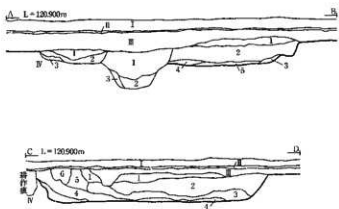
〈位置・重複関係〉遺跡の東側、2C6aグリッドに位置している。〈規模・平面形〉本住居の西側は調査区外へ延びている。北壁・南壁では3.4mを測り、平面形は隅丸方形か隅丸長方形と推測される。〈埋土〉堆積土は6層に分けられ自然堆積の様相を早する。〈壁〉北壁で42cm、南壁で50cmを測る。表土から床面までの埋土断面図を作成したが、壁の立ち上がりはⅢ層とⅣ層の境までしか確認できなかった。〈床面〉平坦で締まっている。貼床はみられなかった。〈カマド〉カマドが構築されていたかは不明である。〈柱穴〉1基検出されたが、本住居に伴うか不明である。〈その他〉南東側に隣接するRA226とは時間的にも近いのではないかという印象をもつ。〈出土遺物〉奈良時代の土師器壺片が1点出土している。〈時期〉周辺で検出されている他の遺構の状況から奈良・平安時代と思われる。

RA230 竪穴住居跡（第39・40図・写真図版22）

〈位置・重複関係〉本遺跡のほぼ中央、2A12uグリッドに位置している。〈規模・平面形・方向〉北西壁・南東壁4.1m、北東壁・南西壁で3.9mを測り平面形は概ね方形である。床面積は約12.6㎡、住居の主軸方向はS-13°-Eとなる。〈埋土〉堆積土は12層に分かれるが何れも自然の流入によるものである。〈壁〉残存する壁高は南東壁35cm、北西壁22cm、北東壁26cm、南西壁30cmほどあり、カマド部分を除き壁溝が巡っている。〈床面〉平削りで全面貼床としている。〈カマド〉南東壁の西側に設置されており、燃焼部と煙道部からなる。袖部は地山を削りだして構築されており、袖部内壁は火熱により赤変している。狭口付近から46×35cmの範囲も底面が焼けている。煙道部は列り貫き式で燃焼部からやや下がりが気味に掘られ、煙出し下部で若干立ち上がっている。〈柱穴〉床面にて5基の柱穴を検出した。〈その他〉床面に焼



柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
876	28×30	11.4	
柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
883	30×30	21.1	

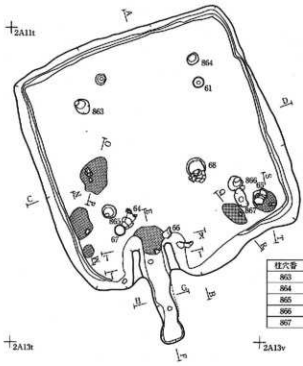


- RA226
1. 10YR3/2赤褐色土 少量少量含む、粘性弱。締まりやや有り。
 2. 5YR4/8赤褐色土 灰土 粘性強。締まっている。
 3. 10YR2/3黄褐色土 小山ブロック少量含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
 4. 10YR2/3黄褐色土 小山ブロック少量含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
 5. 10YR4/2灰黄褐色土 黒褐色土少量含む。粘性。締まりやや有り。(灰土)

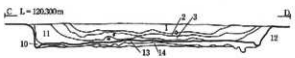
- RA245
- I. 10YR3/2赤褐色土 粘性・締まりやや有り。
 - II. 7.5YR5/8黄褐色土 粘性弱。締まり強(灰土)。
 - III. 10YR2/3黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
 - IV. 10YR4/2灰褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
 1. 10YR2/3黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
 2. 10YR3/2赤褐色土 地山ブロック少量含む。
 3. 10YR2/3黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
 - 4 (2層と同一)
 5. 10YR2/3黄褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・締まりやや有り。
 6. 10YR2/3黄褐色土 粘性・締まりやや有り。



第38図 RA226・245竪穴住居跡

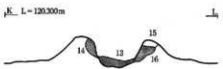
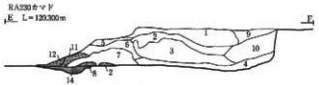


柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
863	22×21	24.1	
864	20×19	39.5	
865	20×23	37.7	
866	19×22	28.4	
867	23×18	45.6	



表層・CD

- 1. 10YR2/3暗褐色土 粘性强中有り。締まり有り。
- 2. 10YR2/3暗褐色土 粘性を欠く。締まり有り。
- 3. 10YR3/4暗褐色土 粘性强中有り。締まり有り。
- 4. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まり中有り。
- 5. 10YR4/4褐色土 粘性・締まり中有り。
- 6. 10YR2/3暗褐色土 粘性强中有り。締まり有り。
- 7. 10YR3/4暗褐色土 粘性・締まり中有り。
- 8. 10YR2/3暗褐色土 粘性强中有り。
- 9. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まり中有り。
- 10. 10YR4/4褐色土 粘性を欠く。
- 11. 10YR2/3暗褐色土 粘性强中有り。
- 12. 10YR2/3暗褐色土 粘性强中有り。締まり有り。
- 13. 10YR4/4褐色土 粘性を欠く。
- 14. 10YR4/4褐色土 粘性を欠く。



第39回 RA230竪穴住居跡(1)

図F: G目・I目・K目

1. 10YR3/4暗褐色の質土 粘性を欠く。締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
3. 10YR3/4暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
7. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。焼土粒少量含む。

8. 5YR3/6暗赤褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。
9. 10YR4/4褐色土 粘性・締まりやや有り。黒褐色土との混合土。
10. 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。焼土ブロック少量含む。
11. 5YR4/6暗赤褐色土 粘性を欠く。締まり有り。
12. 5YR3/2暗赤褐色土 粘性を欠く。締まり有り。暗褐色土との混合土。
13. 5Y2/4暗赤褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。焼土粒含む。

14. 5YR3/4暗赤褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。暗褐色土 (7.5YR3/4) 少量。炭少量含む。
15. 10YR5/6暗褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。黒褐色土で汚れている。
16. 10YR4/4褐色土 粘性・締まりやや有り。埋土部に木炭含む。
17. 10YR4/6褐色土 粘性を欠く。締まり有り。焼土。
18. 5YR3/4暗褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。焼土粒含む。



MN

1. 10YR3/4暗褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。褐色土ブロック、炭土粒、炭少量含む。河原石含む。
2. 7.5YR3/4暗褐色土 粘性なし。締まりを欠く。焼土粒・炭少量含む (二次焼土)。床面に膠含む。

QP

1. 10YR4/6褐色土 粘性なし。締まりを欠く。赤褐色土粒 (5YR4/6) 少量含む (二次焼土)

QR

1. 10YR3/4暗褐色土 粘性なし。締まりを欠く。焼土粒少量含む (焼土二次焼土)。
2. 7.5YR4/6褐色土 粘性なし。締まりを欠く。明赤褐色土粒 (5YR5/6) 大量を含む (焼土二次焼土)。炭粒を含む (断面にはあらわれない)。



ST

1. 10YR3/4暗褐色土 粘性・締まりを欠く。褐色土ブロック、焼土粒少量含む。床面に膠含む。

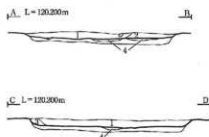
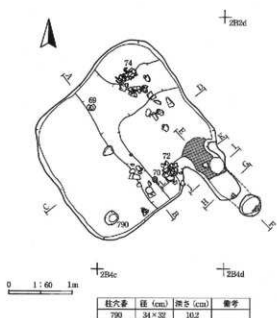
0 1:30 50cm

第40図 RA230竪穴住居跡(2)

面を5基確認した。住居焼失による焼土ではない。性格を示せるような資料を伴わないが何らかの屋内作業によるものと考えたい。〈出土遺物〉(第281・282図・写真図版284・285) 埋土及び床面から出土した個体数は坏2点、長胴甕6点、球胴甕1点、甕1点である。掲載した遺物は本住居に伴っていると判断したものである。坏61は住居北側の床面から、球胴甕68も床に置かれた正位の状態でご縁部付近が潰れて出土した。長胴甕64は焚口付近で横倒しになっていた。63・66・67の甕はカマド燃焼部付近から、65の甕は南東壁際の床面から出土した。〈時期〉奈良時代。

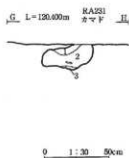
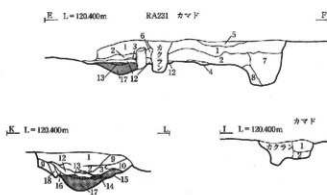
RA 2 3 1 竪穴住居跡 (第41図・写真図版23)

〈位置・重複関係〉遺跡のほぼ中央、2 B 3 c グリッドに位置している。〈規模・平面形・方向〉北西壁-南東壁2.4m、北東壁-南西壁2.6mを測る。平面形は隅丸方形を呈し床面積は約5.4㎡である。主軸方向はS-42°-Eとなる。〈埋土〉自然堆積の様相を呈し、暗褐色土の中に地山ブロックや炭粒をごく微量含んでいる。〈壁〉残りは良くない。南東壁6cm、南西壁10cm、北西壁4cm、北東壁12cm程残存し、壁溝はない。〈床面〉全面を粘床とし平坦に構築されている。〈カマド〉南東壁の東隅に設置されていた。燃焼部と煙道部からなり、残りは悪い。袖部は褐色土と暗褐色土によって構築されており、支脚には自然礫を用いている。焚口から70×35cmの範囲の底面が焼けていて袖部下面も火熱により赤変している。煙道部は割り貫き式であったようで燃焼部からやや下がりが気味に掘られ、煙出し下部は柱穴状に一段掘り下がる。〈柱穴〉南側壁近くから1基検出されている。〈その他〉土師器などとともに河原石が床面近くから出土している。〈出土遺物〉(第283・342図・写真図版285・286・328) 埋土及び床面から個体数にして土師



RA231

1. 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック極少量・炭灰ごく微量含む。粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 10YR3/3 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック多量に含む (肥床?)



RA231カマド (掘り置き式)

1. 10YR2/2-3暗褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
黒褐色土 (10YR1/4)ブロック多量含む。
(上部では断面にみえない暗褐色土・炭少量含む)
2. 10YR2/3-3/4暗褐色土 粘性低。締まりやや弱。部分面に炭土粒・黒褐色土ブロック少量含む。北端では褐色土 (10YR4/6)ブロック少量含む。
3. 7.5YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まりやや弱。炭土粒少量含む。
4. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まりやや有り。
5. 10YR4/4褐色土 (砂質) 粘性なし。締まり有り。部分面に黒褐色土でよごれている。(付着相対土)
6. 10YR4/6褐色土 (砂質) 粘性なし。締まり有り (ブロック状のものか?)
7. 10YR2/2暗褐色土 粘性やや有り。締まりやや弱。褐色土 (10YR1/4) ブロック含む。
(上部に断面にみえないが底土炭少量・炭含む)
8. 10YR2/3暗褐色土 粘性有り。締まりやや弱。褐色土ブロック含む。
9. 10YR4/4褐色土 粘性なし。締まり有り。黒褐色土でよごれている。
10. 10YR2/3暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや有り。褐色土がしみ込みに入る。
11. 7.5YR4/6褐色土 粘性なし。締まりやや有り。炭土粒少量含む。黒褐色土でよごれている。
12. 7.5YR3/3-3/4暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや弱。炭土粒少量含む。
13. 7.5YR5/6-5/6暗褐色土 炭土粒少量含む。黒褐色土でよごれている。
14. 5YR5/6明赤褐色土 締まっている。
15. 5YR3/4暗赤褐色土 炭土粒少量含む。黒褐色土でよごれている。
16. 5YR2/3暗赤褐色土 締まりやや有り。黒褐色土でよごれている。
17. 5YR2/4暗赤褐色土 締まっている。
18. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや有り。炭・炭土粒少量含む。

第41図 RA231竪穴住居跡

器坏4点、長胴甕4点、球胴甕3点、土製紡錘車1点(614)、近世陶器碗1点が出土している。72の甕は南西補部脇から出土し、その隣の床面には坏70がみられた。74の球胴甕と坏69は北壁近くの床面から潰れた状態で出土した。土製紡錘車は住居のほぼ中央の床面近くから出土した。 <時期>奈良時代。

RA233 竪穴住居跡(第42回・写真図版24)

<位置・重複関係>遺跡南端付近4C6xグリッドに位置する。 <規模・平面形・方向>検出面での規模は北西壁4.2m、北東壁3.5m、南東壁4.2m、南西壁3.9mで平面形は隅丸方形を呈する。床面積は約15.3㎡、主軸方向はN-46°-Wである。 <埋土>黒褐色土を主体としつつも、暗褐色土・黒褐色土と褐色土の混合などで構成される部分なども見られ、一部埋め戻しているのではないと思われる。 <壁>壁溝はなかった。各壁中央部の壁の高さは残存値で北西壁34cm、北東壁22cm、南東壁30cm、南西壁26cmである。北東壁では床面から垂直気味に壁が立ち上がっている。 <床面>全面を貼床とし、平坦で締まっている。

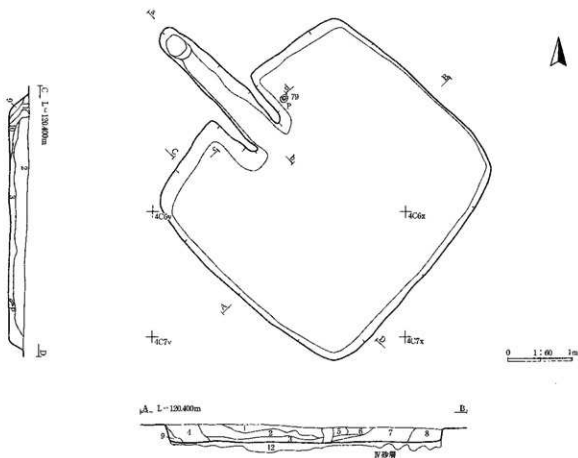
<カマド>北西壁に造られている。袖部は地山を生かして構築され、埋土の2層は崩落した天井部分と思われる。燃焼部には50×40cmの焼土の広がりが見られた。煙道部は掘り込み式か削り貫き式か不明であるが、約8°の傾斜で煙出し部になる。 <柱穴>床面及び貼床を除去して探したが検出されていない。 <出土遺物>(第283・284・342回・写真図版286・328)埋土及び床面から個体数で土師器坏6点、高坏1点、甕2点、羽111点、紡錘車(651)1点が出土している。79の坏はカマドの右側床面から出土した。

<時期>奈良時代。

RA234 竪穴住居跡(第43・44回・写真図版26)

<位置・重複関係>遺跡の南端付近4C10rグリッドに位置している。 <規模・平面形・方向>北西壁-南東壁が7.7m、北東壁-南西壁が7.6mを測る。本遺構西側の一部は調査区外へ延びているが平面形は隅丸方形に近いものと思われる。床面積は約48.5㎡と推測され、主軸方向はN-30°-Wである。 <埋土>堆積土は8層に分けられ概ね人為堆積の様相を呈する。2層には焼土・炭粒が多量に含まれており、さらに床面からは炭化材と焼土の広がりが検出されていることから、本遺構は焼失した住居跡と考えられる。但し使用時の火災か廃絶後のものかまでは解らなかった。 <壁>南東壁隅付近には壁溝がみられた。各壁中央部の壁溝の残存値は北西壁21cm、北東壁23cm、南東壁24cm、南西壁36cmで直線的に外傾している。

<床面>全面を貼床とし履き締まっている。また、間仕切りと思われる幅15cm前後の溝が北東側壁では2条、同じく南西側壁ではココ字条に延びているのを検出した。 <カマド>北東壁のほぼ中央に2基並んで検出され、西側が古く東側のカマドにつくりかえている。新しい東側のカマドでは袖部の芯材として土師器甕と河原石を使いそれを褐色土で覆って構築している。煙道部は削り貫き式で燃焼部から煙出し部下部へ約14°の傾斜で下る。古いほうの西側カマドは残存状況が悪い。袖部は東側のみが遺存し、新しいカマドの西側袖部として使われている。煙道部は燃焼部から煙出し部下部へ4°の傾斜で下がっている。 <柱穴>6基の柱穴を検出したが、本遺構に伴わないものも含んでいると思われる。 <ピット>北東壁及び南東壁西側から各1基のピットを検出した。ともに壁際から外側へ張り出すようにつくられている。本住居と同様埋土に焼土や炭粒を多く含んでいたため、住居に伴う施設といえると思う。但しその性格については判然としない。 <その他>床面から出土した炭化材はクリ材で老木と思われるとの鑑定であった。 <出土遺物>(第284・285・342回・写真図版286・287・328)埋土中及び床面から個体数で土師器坏3点、長胴甕5点、球胴甕1点、土製紡錘車2点(616)、縄文土器の台付鉢1点が出土した。84の長胴甕はカマドの芯材に用いられていたものである。83の長胴甕はカマド東脇床面から大きく二つに分かれた状態で出土した。87・86は同

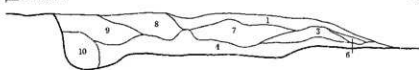


A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック人遺を含む。
3. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 10YR2/35褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
5. 10YR4/4黒色土 粘性・締まりやや有り。
6. 10YR2/2暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
7. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。

8. 10YR3/2暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
9. 10YR4/4褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。
10. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
11. 10YR2/2暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
12. 10YR5/6暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。黒褐色土・暗褐色土との混合土。貼り床。

μA L-120,300m



μB L=120,300m

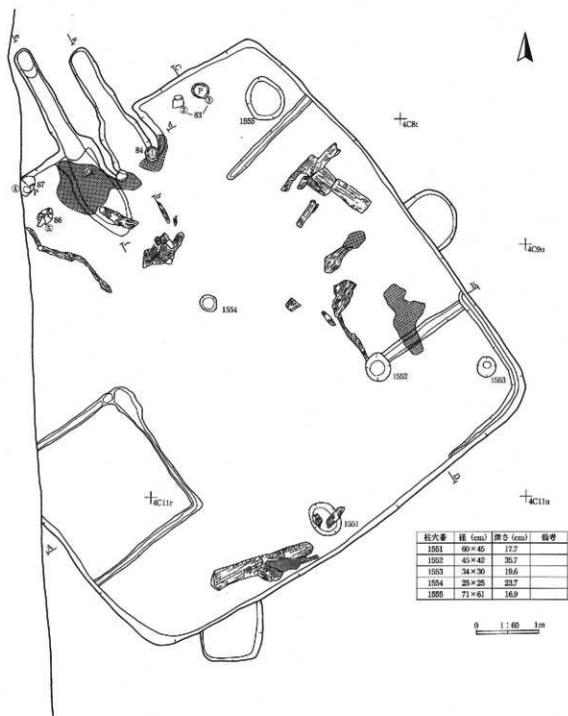


0 1:200 50m

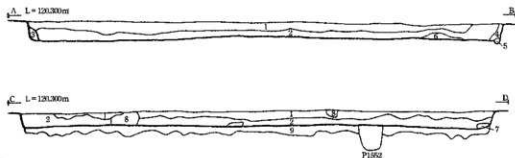
a-b・c-d

1. 10YR2/2暗褐色土 締まり・粘性やや有り。地山ブロック微量含む。
2. 10YR4/4褐色土 締まり・粘性やや有り。地山ブロック微量含む。
3. 10YR2/4暗褐色土 粘性・締まりを欠く。焼土少量含む。
4. 10YR2/8暗褐色土 粘性・締まりやや有り。灰七較多量・灰粒含む。
5. 10YR2/8暗褐色土 粘性を欠く。締まり有り。
6. 10YR3/4暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
7. 10YR1/6褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。地山ブロック含む。
8. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
9. 10YR2/4暗褐色土 粘性・締まりやや有り。暗褐色土との混合土。
10. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック大量を含む。
11. 10YR2/4暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック含む。
12. 10YR5/6暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。

第42図 RA233竪穴住居跡



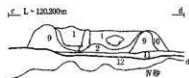
第43図 RA234竪穴住居跡(1)



RA251

1. 10YR2/3黄褐色土 地山ブロック多量に含む。粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/3黄褐色土 地山ブロック灰化層、地上根など多量に含む。粘性・締まりやや有り。
3. 10YR2/2黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 10YR4/4褐色土 粘性・締まりやや有り。
5. 9層と同じ
6. 2.5YR4/8赤褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
7. 7.5YR8/1灰白色土 粘性有り。締まっている。
8. 10YR3/2黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
9. 10YR3/3黄褐色土 地山ブロック多量に含む。粘性やや有り。締まっている。(陥り床)

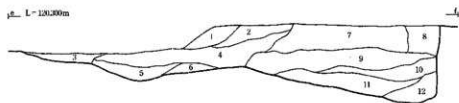
0 1:60 1m



RA234カマドab・cd

1. 10YR3/3黄褐色土 地山ブロック多量。灰化層を含む。粘性やや有り。締まり弱。
2. 10YR3/3黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
3. 10YR2/1黑色土 灰化材多量に含む。粘性弱。締まりやや有り。
4. 10YR4/4褐色土 灰褐色土との混土。粘性やや有り。締まっている。(陥り床)
5. 10YR2/3黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
6. 10YR3/3黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
7. 10YR2/1黑色土 粘性弱。締まりやや有り。
8. 10YR2/3黄褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・締まりやや有り。
9. 10YR5/6黄褐色土 地山ブロック残土を含む。粘性弱。締まっている。
10. 10YR5/6黄褐色土 地山ブロック大量に含む。粘性やや有り。締まっている。
11. 10YR4/6褐色土 地山ブロック粘土を含む。粘性やや有り。締まっている。(陥り床-1)
12. 10YR3/3黄褐色土 地山ブロック多量に含む。粘性やや有り。締まっている。(陥り床-2)

※ トンネルかひか小洞。壁に上層が露出しているから土はもってきただもの



RA234カマドc

1. 10YR3/3黄褐色土 残土・炭粒含む。粘性・締まりやや有り。
2. 10YR5/6黄褐色土 灰土を含む。粘性弱。締まっている。
3. 10YR3/3黄褐色土 炭粒多量に含む。粘性・締まりやや有り。
4. 10YR3/3黄褐色土 灰土・炭粒含む。
5. 10YR3/4暗褐色土 灰土を多量に含む。粘性弱。締まりやや有り。
6. 10YR5/6黄褐色土 粘性弱。締まっている。
7. 10YR3/4暗褐色土 炭粒含む。粘性・締まりやや有り。
8. 10YR3/3黄褐色土 炭粒含む。粘性・締まりやや有り。
9. 10YR4/4褐色土 粘性・締まり有り。
10. 10YR2/3黄褐色土 残土を含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
11. 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り。締まっている。
12. 10層と同じ

※ 遺物はトンネルだったのかもしれない。

0 1:30 50cm

第44図 RA234竪穴住居跡(2)

個体と思われカマド右脇の床面から出土した。 <時期>奈良時代。

RA235 竪穴住居跡 (第45図・写真図版27)

<位置・重複関係>本遺跡の南東端付近、4C11wグリッドに位置する。 <規模・平面形・方向>北西壁-南東壁で6.0m、北東壁-南西壁で5.6mの隅丸方形を呈す。床面積は約30.2㎡、主軸方向はN-35°-Wである。 <埋土>黒褐色土を主体とし、部分的に炭粒(ススキ類)がみられる。壁際には黒褐色土と黄褐色土の混合土が堆積している。自然堆積であると思われる。 <壁>褐色シルトを掘り込んで構築している。各壁中央部での残存値は北東壁19cm、北西壁13cm、南東壁16cm、南西壁14cmを測り、それぞれ底面からやや外傾して立ち上がる。北西及び南西壁には壁溝がみられる。 <床面>全面を貼床とし平坦で締まっている。 <カマド>北西壁に位置する。天井部は崩落しているが、残存状況は良い。袖部は地山を生かすつ、芯材に甕を用いそれを黒褐色土と褐色土の混合土で覆っている。燃焼部には55×53cmの範囲で焼土が広がる。煙道の残存状況は悪く、構造は不明な点が多い。長さ152cm、幅44cmを測り約5°の傾斜で煙出し部に下る。 <柱穴>8基の柱穴を検出したがP1512・1518は本遺構に伴わないかもしれない。

<ピット>南東壁内で1基、南西壁側から1基検出された。埋土はともに黒褐色土の単層で出土遺物はない。 <出土遺物>(第286・287・342図・写真図版287~289・328) 埋土及び床面から個体数で土器器片が約5点、甕8点(その内球胴甕2点)、土製紡錘車(617・622)2点、剥片1点が出土している。

球胴甕103と104は上半部のみがカマド右側の床面に口縁を上にし、二つ並べて置かれていた。長胴甕98・99・100はカマドの芯材として用いられていたものである。長胴甕96は燃焼部周辺から出土した。球胴甕105と甕106は潰れた状態で南側床面から出土した。 <時期>奈良時代。

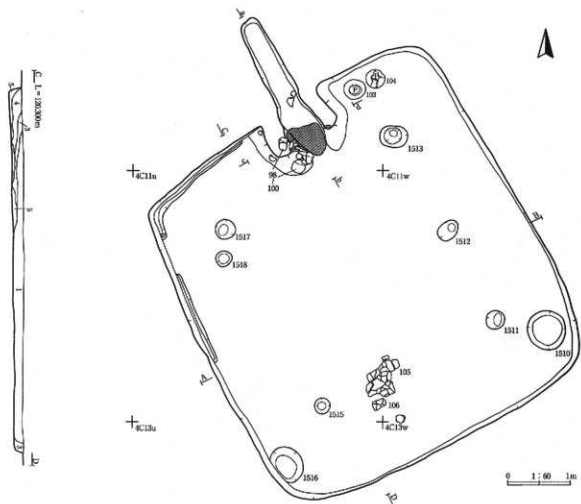
RA236 竪穴住居跡 (第46図・写真図版28)

<位置・重複関係>遺跡の東側、2D121グリッドに位置する。RG200と重複し本住居のほうが古い。 <規模・平面形・方向>平面形は隅丸方形を基調とし、北西壁-南東壁で4.6m、北東壁-南西壁は4.7mを測る。床面積は約19.2㎡で主軸方向はN-53°-Wである。 <埋土>自然に流入したような堆積状況ではあるが、地山ブロックを多量に含んでおり埋め戻した可能性もある。 <壁>各壁中央部での残存値は北西壁20cm、北東壁22cm、南東壁16cm、南西壁12cmを測る。西壁側に浅い掘込みがみられたが壁溝になるかは判らなかつた。 <床面>全面を貼床とし、平坦で硬い。 <カマド>北西壁のほぼ中央に構築されており、燃焼部と煙道部が残っている。燃焼部の幅は約50cm前後と考えられる。燃焼部の左右の側壁は地山を約80cm程削り出して作られており、芯材はみられず天井部も残っていない。煙道部は割り貫き式と思われ燃焼部から煙出し下部へ約9°の傾斜で掘込んでいる。 <柱穴>カマド右脇から1基検出された。

<出土遺物>(第288図・写真図版289) 埋土及び床面等から個体数で土器器片1点、高杯1点、甕類3点(小型の甕1点、球胴甕1点、その他1点)が出土している。焚口から約50cm東側の床面から高杯109が出土した。 <時期>奈良時代。

RA237 竪穴住居跡 (第47図・写真図版29)

<位置・重複関係>遺跡の中では東側、2D131グリッドに位置している。RG224と重複し本遺構のほうが古い。 <規模・平面形・方向>北東壁と南東壁の一部が検出されたがその他は調査区外に延びている。平面形は不明であるが、主軸は北東壁の方向で一応計測しN-63°-Wとしておく。 <埋土>堆積土は8層に分けられた。自然堆積と考えられる。 <壁>概ね50cm前後残存し、緩やかに外傾して立ち上がっている。



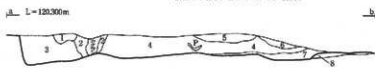
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1510	62×60	20.1	
1511	30×30	47.8	
1512	37×28	46.2	
1513	45×34	34.9	
1515	25×24	44.3	
1516	28×46	31.1	
1517	30×32	55.7	
1518	25×24	37.3	

RA235

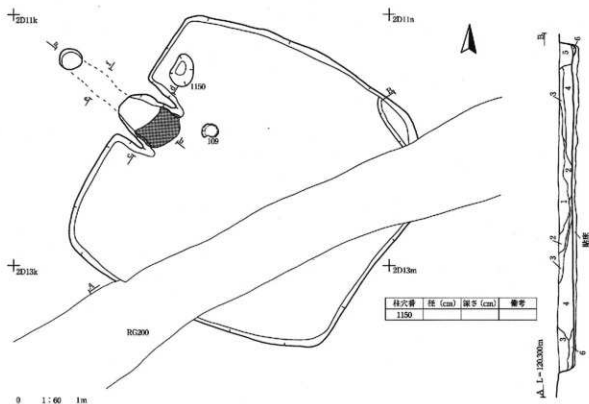
1. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・締まりやや有り。
2. 10YR3/3暗褐色土 炭粒を微量含む。粘性・締まりやや有り。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 1層土同じ。
5. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まっている。
6. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まっている。
7. 10YR5/6黄褐色土・黒褐色土との混土。粘性やや有り。締まっている。(観察)

RA235カマド

1. 10YR3/3暗褐色土・黒褐色土との混土。粘性・締まりやや有り。
 2. 10YR3/2暗褐色土 炭土ブロック多量含む。粘性・締まりやや有り。
 3. 10YR2/3暗褐色土・暗褐色土との混土。炭粒含む。粘性やや有り。締まり弱。
 4. 10YR3/3暗褐色土 炭土少量含む。粘性やや有り。締まり弱。
 5. 10YR4/4褐色土・黒褐色土が混じる。粘性・締まりやや有り。
 6. 2.5YR6/6暗褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
 7. 6層と同じ。
 8. 10YR4/4褐色土・黒褐色土が混じる。粘性やや有り。締まっている。(観察)
 9. 10YR2/2暗褐色土・褐色土が多量に混じる。粘性・締まりやや有り。
 10. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。締まっている。
- ※ カマドは半分は地山を残し、半分は土をかぶせて作っている。



第45図 RA235竪穴住居跡



RA236

1. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
3. 10YR6/2灰黄褐色土 粘性强。締まっている。
4. 10YR3/4緑褐色土 地山ブロック最少数を多量に含む。
粘性・締まりやや有り。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
6. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック大量に含む。
粘性やや有り。締まっている。

a. L=120,200m



0 1:30 50cm

RA236オマド

1. 10YR2/3黒褐色土 黄土砂礫混含む。粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量含む。
粘強・締まりやや有り。
3. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。
締まり強。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり強。
5. 2.5YR4/6赤褐色粘土 粘性强。締まり強。
6. 10YR2/3黒褐色土 灰・粘土混含む。粘性やや有り。締まり強。
7. 2.5YR4/6赤褐色粘土 粘性強。締まっている。
8. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性・締まりやや有り。
9. 10YR4/6褐色土 粘性强。締まりやや有り。
10. (B) 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。

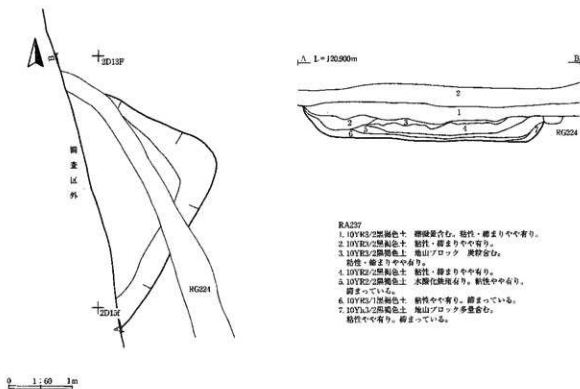
※ 場所は地山のこして掘進はトンネル・オマドから着片の上。

第46図 RA236竪穴住居跡

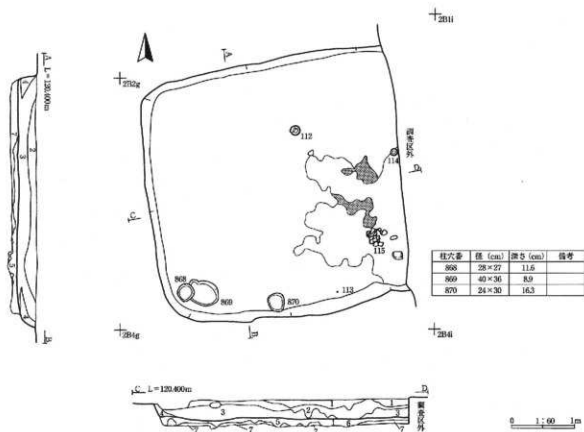
る。〈床面〉Ⅳ層をそのまま床面としている。平坦だが硬く締まるわけではない。〈柱穴〉検出されなかった。〈出土遺物〉無し。〈時期〉周辺の状況から奈良時代と思われる。

RA238 竪穴住居跡（第48図・写真図版30）

〈位置・重複関係〉遺跡のはほぼ中央、2B2hグリッドに位置している。〈規模・平面形・方向〉北壁-南壁は4.2mを測るが、東側は調査区外に延びている。平面形は隅丸方形を基調とすると思われる、住居の主軸方向は東壁にカマドがあったと推測されるのでN-78°-Eとした。〈埋土〉自然堆積の様相を呈する。〈壁〉北壁で30cm、南壁27cm、西壁は23cm前後残存しており、底面からやや外傾して立ち上がっている。〈床面〉ほぼ平坦で床面下には掘り方をもち、全面を貼床としているようである。〈カマド〉検出されていないが、東側の床面にて確認された焼土が燃焼部の破壊された痕跡とみられることから東壁に設置されていたと推測される。〈柱穴〉南壁際から3基が検出されている。〈その他〉木住居の東側は調査区外に延びているが攪乱があるため遺構は残存しないと思われる。〈出土遺物〉（第288図・写真図版289）埋土及び床面から個体数にして坏1、高坏1、碗?2、球胴甕1点が出土した。112の坏は北側の床面直上から、113の高坏は北壁近くの床面から出土した、114の碗は東壁付近の床面、115の球胴甕は南東側床面近くからその場で潰れたような状態で出土した。〈時期〉奈良時代。



第47図 RA237竪穴住居跡



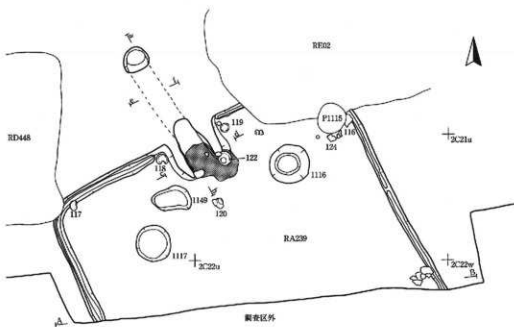
RA238

1. 10YR5/4にふい黄褐色土 小礫混。粘性なし。締まり弱。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
3. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロックごく少量含む。粘性・締まりやや有り。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
5. 10YR4/4褐色土 黒褐色土との混上。粘性やや有り。締まっている。(壁ノミ) 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロックとの混上。粘性やや有り。締まっている。
6. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック含む。水酸化鉄膜有り。シタラン
7. 10YR5/6黄褐色土 粘性・締まりやや有り。(内層・地山)

第48図 RA238竪穴住居跡

RA239 竪穴住居跡 (第49図・写真図版31)

<位置・重複関係>遺跡の東側、2C21uグリッドに位置している。RE025と重複し本住居のほうが古い。
 <規模・平面形・方向>北東壁-南西壁では5.0mを測るが、本住居の南側半分は調査区外に延びている。
 平面形はおそらく隅丸方形を呈すると考えられる。主軸方向はN-26°-Wで床面積は約25㎡と推定した。
 <埋土>堆積土は6層に分けられた。自然の流入と考えられる黒褐色土の上位には地山ブロックを多量に含む黒褐色土が厚く堆積していた。本住居が使われなくなって間もなく埋めた可能性がある。<壁>カマド部分を除いた壁直下を周溝が巡っていた。壁は北西壁で11cm、北東壁21cm、南西壁19cm程残っており何れも底面から外傾して立ち上がっている。<床面>褐色土(N層)を掘り込んで床面とし平坦で締まっている。カマドの周辺のみを貼床としていた。<カマド>北西壁ほぼ中央に構築されている。天井部は残っていない。袖部には一部地山を生かしながら自然礫と倒立させた土師器甕をて芯材として用い、これらを灰黄褐色土で覆っている。焼焼部には85×56cmの範囲に焼面が形成され、両側壁内側も亦染している。埋土には微細



A L=120.00m



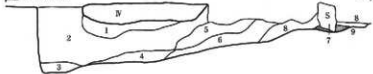
A-B

1. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。黄土粒含む。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
5. 10YR3/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
6. 10YR3/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。

柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1115	43×45	18.4	
1116	61×62	31.1	
1117	56×53	19	
1149	25×34	32.8	

0 1:60 1m

μ L=120.300m



σ L=120.300m

0 1:60 1m



ρ L=120.300m



ab·cd·ef

1. 10YR4/4褐色土 粘性を欠く。締まり有り。黒褐色土含む。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック多量含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 10YR3/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
5. 10YR4/4褐色土
6. 10YR3/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック・黄土粒・骨片含む。
7. 2.5YR4/8赤褐色土 粘性なし。締まり有り。
8. 10YR2/3暗褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。焼土粒・灰炭含む。
9. 10YR4/4褐色土 粘性を欠く。強く締まる。黒褐色土との混合土。粘り強。
10. 10YR6/2灰褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。
11. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
12. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。締まり有り。

0 1:30 30cm

第49図 RA239竪穴住居跡

な骨片が数粒含まれていた。煙道部は割り貫き式で燃焼部から煙出し部下部へは約12°の傾斜で下っている。〈柱穴〉3基の柱穴を検出したがP1149は本住居に伴わないかもしれない。〈出土遺物〉(第289・290図・写真図版290・291) 埋土中及び床面等から個体数で土師器環が6点、碗1点、甕瓿12点(この内長胴甕3点、球胴甕1点)が出土している。カマド袖部の芯材として用いられていたのは甕122である。カマドの両隣にはそれぞれ環が1つづつ置かれていた(西側が118・東側が119)。環は北西壁際に置かれていた(117)。環116・甕124は北東壁際から、環120は焚口付近で出土した。球胴甕125は住居東側床面からの出土である。何れも本住居に伴う遺物である。〈時期〉奈良時代。

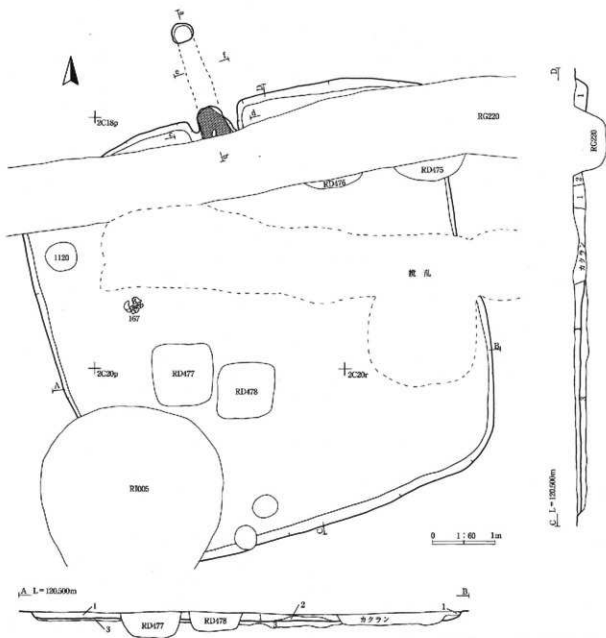
RA240 竪穴住居跡(第50図・写真図版32)

〈位置・重複関係〉遺跡の東側、2C18pグリッドに位置する。何れも本住居よりも新しい遺構であるRD475・476・477・478、RG200、RI005と重複している。〈規模・平面形・方向〉様々な遺構に切られ残存状況は悪い。北西壁-南東壁6.9m、北東壁-南西壁6.7mを測り平面形は隅丸方形と思われる。主軸方向はN-18°-Wで床面積は約42.9㎡と推定した。〈埋土〉黒褐色土の単層である。〈壁〉外傾して立ち上がるが各壁中央部での残存値は北西壁19cm、北東壁14cm、南東壁8cm、南西壁10cm程しかない。

〈床面〉全面を貼床とし、硬く締まっている。〈カマド〉北西壁に構築されており残存状況は悪い。燃焼部の幅は45cm前後ありほぼ中央には支脚と思われる自然礫がみられた。また50×40cmの焼面も形成されており左右の側壁の内側も若干赤変していた。側壁は土山であった。煙道部は割り貫き式で燃焼部から煙出し下部へは約12°の傾斜で掘り下げている。〈柱穴〉検出されていない。重複する遺構が多くそれにより失われている可能性もある。〈出土遺物〉(第290・291・342図・写真図版291・292・328) 埋土及び床面から個体数にして土師器環4点、高環1点、碗1点、長胴甕6点、紡錘車(618)1点が出土している。167の長胴甕は中央西側の床面からその場で潰れたような状態で出土した。〈時期〉奈良時代。

RA244 竪穴住居跡(第51図・写真図版33)

〈位置・重複関係〉遺跡の東側、1C24vグリッドに位置している。RG045・RD597・RD598と重複しておりいずれも本住居のほうが古い。〈規模・平面形・方向〉東側は調査区外へ延び、西側はRG045に切られて残っていない。北西壁-南東壁で7.4mを測り、平面形は隅丸方形を基調とすると思われる。床面積は約51.8㎡と推定した。主軸方向はN-24°-Wである。〈埋土〉残りが悪く埋土下層部分しか確認できなかった。基本的に黒褐色土の単層で自然堆積或いは人為堆積の区別は不明である。〈壁〉北西壁で約13cm、南東壁中央部で12cmを測り残存状況は悪い。幾分外傾して立ち上がっている。〈床面〉平坦で締まっていおり、検出された全面は貼床としていた。〈カマド〉北西壁に構築されていた。天井・袖部の一部を自然礫で、さらに袖部の芯材に土師器甕を用いこれらを褐色土で覆っている。燃焼部には80×60cmの焼土の広がりを検出した。煙道部は掘込み式で燃焼部から煙出し部下部へ約15°の傾斜で下る。〈柱穴〉7基の柱穴を確認したが本住居に伴わないものも含む可能性がある。〈ビット〉カマド右隣の北西壁際に隅丸長方形の土坑が1基みられた。木土坑検出面(住居床面のレベル)で土師器甕139が出土していることから本住居が機能していたある時期に埋戻していると思われる。〈その他〉南側に焼土の広がりを検出した。床面よりは14cm前後高い。〈出土遺物〉(第291・292図・写真図版292) 埋土及び床面から個体数で土師器環が5点、甕5点、長胴甕2点、球胴甕2点が出土している。この内カマド袖部の芯材として用いられていたのは長胴甕138である。139の長胴甕はカマド右側の土坑検出面(住居床面)から出土した。長胴甕137は焚き口付近の西側袖の上に置かれた状態で出土した。〈時期〉奈良時代。



μA L=120.500m



RA240

1. 10YR2/3黒褐色土 粘粒・細まりやや有り。
2. 10YR4/4褐色土 黒褐色土との混合土。粘粒やや有り。糊まっている。
3. 10YR2/3黒褐色土 火山アロック大量含む。粘性强。糊まっている。(観察)

柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1120	45×50	35.1	

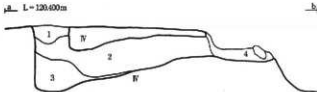
μC L=120.300m



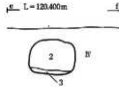
RA240 カマフ

1. 10YR3/2暗褐色土 粘性・細まりやや有り。
2. 10YR3/2暗褐色土 火山アロック少量含む。粘性・細まりやや有り。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。細まり弱。
4. 10YR3/3暗褐色土 流土・灰粒を少量含む。粘性强。細まりやや有り。
- N. 10YR4/4褐色土 粘性强。糊まっている。

μE L=120.600m

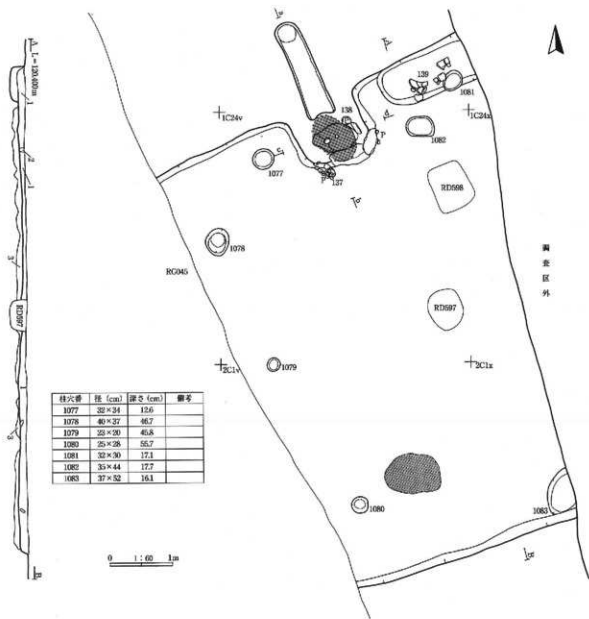


μF L=120.400m



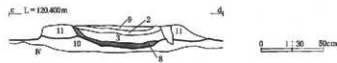
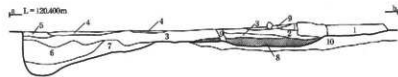
0 1:30 50cm

第50図 RA240 壁穴住居跡



RA244

- 10YR2/3黒褐色土 粘性弱・締まっている。
- 10YR5/6黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
- 10YR4/6褐色土 暗褐色土や灰褐色土との混土。粘性やや有り。締まっている。(跡取)



トンネルではないカマドの構造

- 10YR5/2黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
- 10YR4/6褐色土 灰土を含む。粘性弱・締まっている。
- 10YR3/2暗褐色土 灰土を含む。粘性やや有り。締まっている。
- 10YR5/6黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
- 10YR2/1黒色土 焼土粒を含む。粘性弱・締まりやや有り。
- 10YR3/2暗褐色土 焼土粒を含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
- 10YR4/3に灰褐色土 黒褐色土との混土。粘性やや有り。締まりやや有り。
- 2.5YR4/6黄褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
- 10YR4/6褐色土 灰褐色土との混土。粘性やや有り。締まっている。(跡取)
- 10YR4/6褐色土 黒褐色土が下に入る。粘性やや有り。締まっている。(跡取)
- ※ 筋土は、焼土を預して作ったものではない。

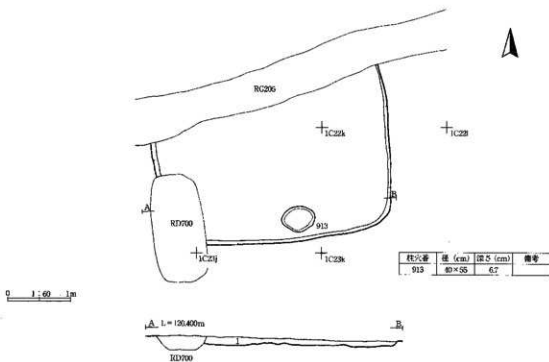
第51図 RA244竪穴住居跡

RA246 竪穴住居跡 (第52図・写真図版34)

<位置・重複関係>遺跡の東側、1C22k グリッドに位置している。RD700・RG205と重複する。何れも本住居より新しい。<規模・平面形・方向>住居床面での検出で東-西で3.8mを測る。北側は検出できなかったが、平面プランを隅丸方形と推定するなら床面積は13.7㎡位となる。主軸方向はカマドが北壁に構築されていたと仮定してN-5°Wとした。<埋土>床面のみ検出されたため不明である。<床面>重複するRG205から南側は貼床としている。<カマド>検出されなかった。構築されていたなら北壁であろう。<柱穴>1基のみ検出されたが、本遺構に伴うかは不明である。<出土遺物>無し。<時期>周辺から出土した土師器や遺構の分布状況から奈良時代と見るのが妥当と考える。

RA247 竪穴住居跡 (第53図・写真図版35)

<位置・重複関係>遺跡の南端付近、3C24t グリッドに位置する。RD307と重複し、本遺構の方が古い。<規模・平面形・方向>検出面での規模は東壁3.2m、南壁3.3m、西壁3.4m、北壁3.4mで隅丸方形を基調とする。床面積は10.3㎡。主軸方向はE-2°-Sである。<埋土>上位では黒褐色土に黄褐色土が若干混じり、埋土下位では暗褐色土と黄褐色土の混合土が主体となる。人為堆積の可能性がある。<壁>東壁及

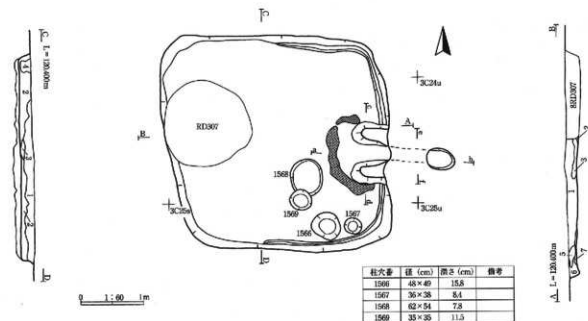


RA246

1. 10YR3/3暗褐色土 地川ブロック大塚に含む。粘土中や有り。締まっている。(池原)

第52図 RA246竪穴住居跡

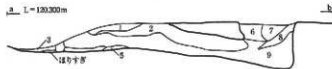
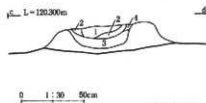
び北壁・南壁の東側半分に壁跡が見られる。各壁中央部の壁高残存値は東壁14cm、南壁21cm、西壁23cm、北壁20cmを測る。〈床面〉床一面を貼床とし、平坦で硬固であった。〈カマド〉東壁中央部に設置されている。天井部は崩落しているものの残存状況は良い。袖部は地山を残しつつ構築されており、燃焼部を中心に126×65cmの焼土の広がりを検出した。煙道部は桁り貫き式で煙出し部は検出面で45×32cmの楕円形を呈する。約9°の角度で燃焼部から煙出し部へ下っている。〈柱穴〉4基の柱穴を確認したが本遺構に伴うかは判然としない。〈出土遺物〉(第292図・写真図版292・293) 埴土及び床面から個体数で土師器環2点、長胴甕2点、球胴甕1点が出土した。〈時期〉奈良時代。



A-B・C-D

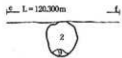
1. 10YR2/2黒褐色土 粘質・締まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘質・締まりやや有り。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘質・締まりやや有り。
5. 10YR3/3暗褐色土 粘質・締まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。

6. 10YR2/3 黒褐色土粘質・締まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。
7. 10YR2/6 黄褐色土粘性を欠く。締まり有り。
8. 10YR2/2 黒褐色土粘質やや有り。地山ブロック微量含む。炭酸含む。
9. 10YR4/4 褐色土粘質やや有り。締まり有り。灰褐色土と暗褐色土との混色土。



a-b・c-d・e-f

1. 10YR2/2黒褐色土 粘質・締まりやや有り。
2. 10YR4/4褐色土 粘質・締まりやや有り。黒褐色土との混色土。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘質・締まりやや有り。地上ブロック少量含む。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まりやや有り。
5. 25YR4/6赤褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。
6. 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まりやや有り。黒褐色土との混色土。
7. 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
8. 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
9. 10YR2/3黒褐色土 粘質・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。



第53図 RA247竪穴住居跡

RA273 竪穴住居跡 (第54・55図・写真図版36)

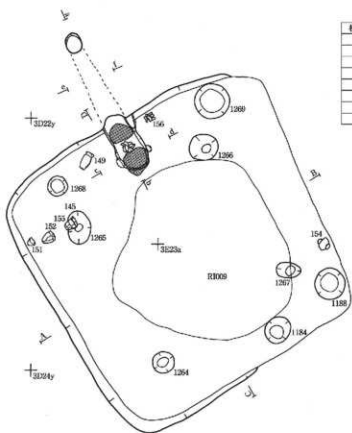
<位置・重複関係>本遺跡の南東側、3E23a区に位置している。RI009と重複し本住居のほうが古い。
<規模・平面形・方向>北西壁-南東壁4.6m、南西壁-北東端4.5mを測り平面形は方形を基調とする。床面積は約18.6㎡、主軸方向はN-28°-Wである。<埋土>自然堆積。黒褐色土と暗褐色土を主体とする。<壁>各壁中央部での残存値は北西壁13cm、南東壁20cm、南西壁22cmを測り外傾して立ち上がっている。北東壁は掘りすぎのため不明である。<床面>全面を貼床として平坦で締まっている。貼床は地山ブロックを多量に含む黒褐色土で構成されている。<カマド>北西壁のほぼ中央に構築されている。残りは悪い。袖部はほとんど残存しておらず芯材の自然礫のみを検出した。燃焼部はほぼ中央に支脚として使われたと思われる甕がみられ、支脚を挟んで南北に焼面が形成されている。煙道部は例り貫き式で燃焼部から煙出し下部へは約4°の傾斜で掘り込んでいる。<柱穴>8基の柱穴を検出した。P1268・1269・1184・1188は本住居に伴うか判然としない。<出土遺物>(第293・294図・写真図版293・294)埋土及び床面から個体数にして土師器環3点、甕類は10点(この内球胴甕2点)、土製鈎轡車が2点(619・620)出土している。甕149・151・152・155は土師器甕で何れも口縁部がカマドのほうを向き、倒れた状態で検出された。150の甕は支脚として用いられていたと思われる。156の球胴甕はカマド右脇から、154は東壁近くからの出土で河原石に伏せて被せたような状態で出土した。<時期>奈良時代。

RA274 竪穴住居跡 (第56図・写真図版37)

<位置・重複関係>遺跡の東側、2E9dグリッドに位置している。<規模・平面形・方向>北西壁-南東壁4.5m、北東壁-南西壁で4.5mを測り平面形は隅丸方形を呈する。床面積は約19.2㎡で、主軸方向はN-31°-Wである。<埋土>黒褐色土を主体とし自然堆積の様相を呈する。<壁>高さ16~2cm程残存している。南東壁が最も残りが悪い。カマド部分を除いた壁直下を周溝が巡っているが、北壁で一部途切れている。幅13~20cm、深さ3~9cm前後である。<床面>平坦で全面を貼床としている。<カマド>北西壁の中央に構築されている。燃焼部と煙道部が残っている。燃焼部の幅は約40cm前後と考えられ底面には焼面が形成されていた。袖部は土師器甕と自然礫を芯材として使用し褐色土で覆って作られている。煙道部の構造は判然としないが、燃焼部からはほぼ平坦に掘り込み煙出し部下が若干低くなっている。<柱穴>検出されなかった。<ビット>住居の床面まで掘り下げた段階で北壁隅から1基、南東壁際から2基が並んだ状態で検出された。<その他>Pit3の埋土中の炭化材はクリ材であった。<出土遺物>(第295・342図・写真図版294・295・328)埋土及び床面から個体数にして環6点、長胴甕12点、球胴甕1点、土製勾玉?1点(627)の出土があった。以下は何れも本住居に伴う遺物である。甕163・164・166はカマド右脇の北壁隅付近からその場で潰れた状態で出土した。160の環は甕口付近から、161の環はカマド左脇から伏せた状態で出土した。162の長胴甕はカマド西袖の芯材に利用されていたものである。<時期>奈良時代。

RA275 竪穴住居跡 (第57図・写真図版38)

<位置・重複関係>遺跡の南東側、4E2aグリッドに位置している。<規模・平面形・方向>北西壁-南東壁5.2m、北東壁-南西壁で4.9mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、床面積は約22.4㎡である。主軸方向はN-35°-Wとなる。<埋土>黒褐色土及び暗褐色土に地山ブロックを不規則に含んでいるもの堆積状況を観察すると自然に流れ込んでいるように思われる。<壁>各壁中央部での残存値は北西壁24cm、北東壁20cm、南東壁30cm、南西壁32cmである。何れも外傾して立ち上がる。<床面>概ね平坦だが硬くは

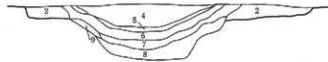


柱穴番号	径 (cm)	深D (cm)	備考
1184	44×36	25.7	
1186	49×47	18.6	
1264	35×34	52.1	
1265	54×36	66.8	
1266	57×43	80.1	
1267	40×24	57.7	
1268	32×30	7.1	
1269	55×55	28.1	

A L=120.300m B



C L=120.300m D



RA273

1. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り、粒まわり弱。
2. 10YR3/2暗褐色土 堆山ブロック含む、粘性やや有り、粒まわり弱。
3. 10YR2/3黒褐色土 堆山ブロック多量含む、粘性やや有り、粒まわり弱。

10. 10YR3/2黒褐色土 堆山ブロック多量含む、粘性やや有り、粒まわっている。
 11. 10YR3/2暗褐色土 堆山ブロック多量含む、粘性弱、粒まわっている。
- ※ 4-6はR1009層土

第54図 RA273竪穴住居跡(1)

図 1. L=120.300m

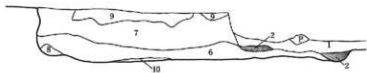


図 2

図 3. L=120.300m



0 1:30 50cm

図 4. L=120.100m



RA273 カマド

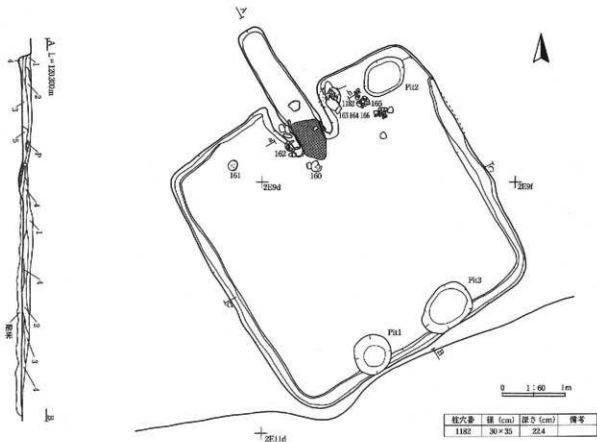
1. 10YR4/4褐色土 焼土・炭粒を含む。粘性・粘まり弱。
2. 2.5YR4/8赤褐色焼土 粘性・粘まり弱。
3. 10YR4/4褐色土 粘性・粘まりやや有り。
4. 10YR3/3暗褐色土 丸山ブロック多量含む。粘性やや有り。雑まっている。
5. 10YR3/4暗褐色土 粘性・粘まりやや有り。
6. 10YR3/4暗褐色土 丸山ブロック
7. 10YR3/2暗褐色土 丸山ブロック少量含む。粘性・粘まりやや有り。
8. 10YR2/2暗褐色土 丸山ブロック多量含む。粘性・粘まりやや有り。
9. 10YR4/6褐色土 粘性弱。粘まりやや有り。(風山)
10. 10YR2/2暗褐色土 若干砂っぽい。粘性・粘まり弱。

第55図 RA273竪穴住居跡(2)

ない。地山ブロックを多量に含む暗褐色砂質土で構成される貼床を全面に施している。〈カマド〉北西壁のほぼ中央部に付設されている。天井部は崩落しているものの、残存状況は良い。袖部は地山を削りだしつつ土師器甕片を芯材に用いて構築されている。燃焼部には80×50cmの範囲で焼成面が認められ、そのほぼ中央には支脚として用いられたとみられる甕片が残っていた。煙道部は割り貫き式で燃焼部から煙出し下部へは凡そ5°の角度で掘り下げている。〈柱穴〉6基の柱穴を検出した。P1260・1261には柱痕も観察され、径は12cm程である。P1259は本住居に伴うか不明である。〈出土遺物〉(第296図・写真図版295・296)床面及び埋土から個体数にして土師器坏3点、長胴甕4点、球胴甕1点が出土している。甕172・174は袖の芯材として、175は支脚として用いられていた。〈時期〉奈良時代。

RA276竪穴住居跡(第58図・写真図版39)

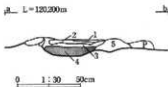
〈位置・重複関係〉遺跡の東側、1E21aグリッドに位置している。〈規模・平面形・方向〉東壁と南壁の一部のみ確認され詳細は不明である。主軸方向はS-2°-Eである。〈埋土〉褐色土を若干含む黒褐色土で構成される。〈壁〉東壁と南壁の一部が約10cm程残存するが、他は検出できなかった。〈床面〉IV層を床面としているようである。概ね平坦だが硬く締まるものではない。〈カマド〉南東壁間に作られていたと考えられる。燃焼部底面は床面から5cm程下がり、60×48cmの範囲で焼成面が形成されている。煙道部は掘り込み式か割り貫き式か判然としない。〈柱穴〉検出されていない。〈ピット〉カマドの西隣から1基検出された。〈出土遺物〉(第297図・写真図版296)埋土及び床面から個体数で坏0点、長胴甕1点、球胴甕1点の出土があった。〈時期〉奈良時代。



柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1182	30×35	224	

RA271

- 10YR2/2黒褐色土 粘性ややあり。締まり有り。
に赤い黄褐色土 (10YR5/4) 1%含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。
褐色土粒 (10YR4/6) 1%含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。
黄褐色土粒 (10YR5/6) 3%含む。炭化物微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。
に赤い黄褐色土 (10YR5/4) 1%含む。



RA274のやつ

- 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。
赤褐色土粒 (10YR4/6) 1%含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。
赤褐色土粒 (10YR4/6) 3-5%含む。
- 5YR4/6赤褐色土 粘性なし。締まり有り。
- 10YR4/4褐色土 粘性なし。締まり有り。(粘土)

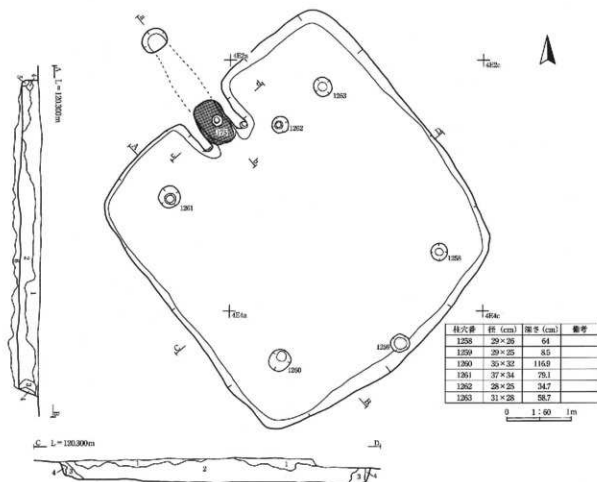
焼焼層-粘土断面

- 10YR2/2黒褐色土 粘性ややあり。締まり有り。
に赤い黄褐色土 (10YR5/4) 1%含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。
褐色土粒 (10YR4/6) 1%含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。
黄褐色土粒 (10YR5/6) 20%含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。
黄褐色土粒 (10YR5/6) 3%含む。
炭化物粒 微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
- 5YR3/6暗赤褐色土 粘性なし。締まり有り。

RA274のやつ運道部 (A-B)

- 10YR2/1黒褐色土 粘性ややあり。
締まり有り。1%含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性ややあり。締まり有り。
に赤い黄褐色土 (10YR5/4)
- 10YR3/2黒褐色土 粘性ややあり。
締まり有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性ややあり。
締まり有り。
- 10YR4/4褐色土 粘性ややあり。
締まり有り。

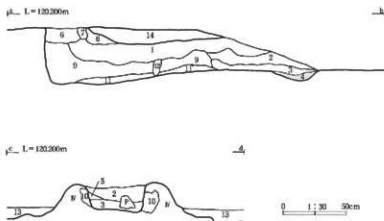
第56図 RA274竪穴住居跡



RA276

- 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロックを不規則に少量含む。粘性・締まりやや有り。
- 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック砂粒少量を多量に含む。若干砂っぽい。粘性やや有り。締まりやや有り。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
- 10YR5/6 黄褐色土 粘性弱。締まりやや有り。整頓層土。

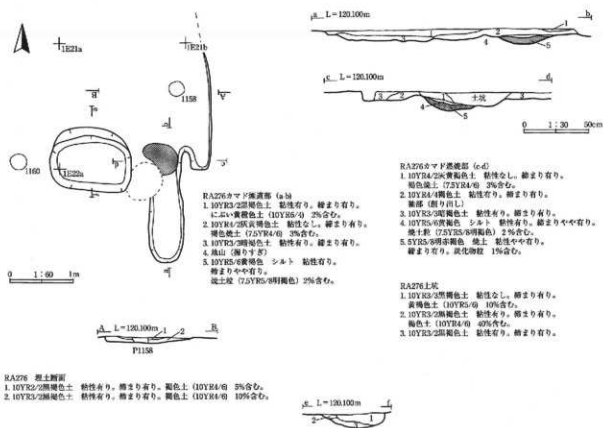
- 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック微量含む。粘性・締まりやや有り。
- 10YR3/3 暗褐色土 砂質土 地山ブロック多量に含む。粘性弱。締まっている。(31cm)



RA275コマD

- 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・締まりやや有り。
- 10YR2/4 暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・締まりやや有り。
- 10YR3/3 暗褐色土 塊上・地山ブロック含む。粘性弱。締まりやや有り。
- 2.5YR4/6 暗褐色土 粘性強。締まりやや有り。
- 10YR4/6 暗褐色土 粘性強。締まりやや有り。
- 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・締まりやや有り。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
- 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性やや有り。締まり弱。
- 2.5YR5/6 暗褐色土 粘性弱。締まっている。
- 10YR2/3 暗褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・締まりやや有り。
- 10YR3/4 暗褐色土 粘性強。締まりやや有り。
- 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まっている。(36cm)
- 10YR5/6 黄褐色土 粘性弱。締まっている。

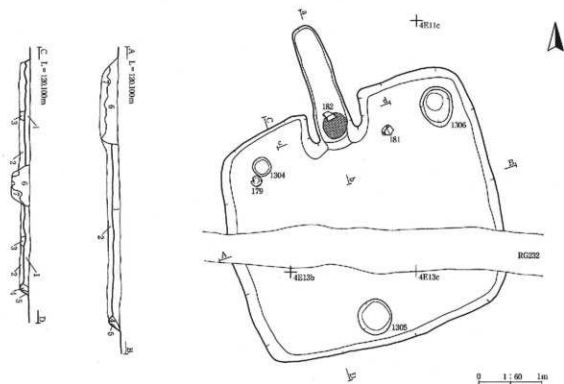
第57図 RA275竪穴住居跡



第58図 RA276竪穴住居跡

RA277竪穴住居跡 (第59図・写真図版40)

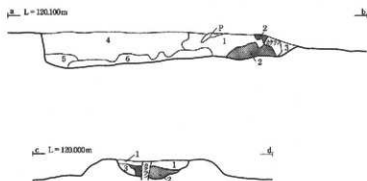
<位置・重複関係>本遺跡南東側、4E12bグリッドに位置する。RG232と重複し本住居のほうが古い。
 <規模・平面形・方向>北西壁-南東壁4.0m、北東壁-南西壁4.3mの長さをもつ。平面プランは隅丸長方形に近く、床面積はおよそ14.0 m^2 である。住居の主軸方向はN-18°-Wである。<埋土>自然の流入土と考えられる。<壁>各壁概ね20cm程残存している。埋土断面では壁周溝らしき掘り込みが観察されたが、面的には把握することができなかった。<床面>カマド周辺を除き貼床としているがあまり平坦ではない。<カマド>北西壁のほぼ中央に構築されている。燃焼部の幅は40cm程で22×18cmの範囲に焼土の広がりが見られた。燃焼部底面は床面より10cm位掘り下げられている。袖部は地山を削り出して作られているようである。煙道部は掘り込み式か例り貫き式か不明である。燃焼部から煙出下部へは約5'の傾斜で下がっている。<柱穴>3基が検出された。<出土遺物>(第297図・写真図版296・297)床面及び埋土から個体数にして土師器杯3点、長胴甕8点、球胴甕1点、器種不明1点が出土している。接合復元の結果、部位が不足する状態であることがわかった。182の甕は燃焼部から出土したが支脚であったかは不明である。床面からは坏179と甕181が出土した。<時期>奈良時代。



RA227

1. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック不規則に少量含む。粘性・締まりやや有り。
2. 10YR4/6黄褐色土 黒褐色土を含む。粘性弱。締まっている。(編成)
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり弱。
4. 10YR2/3暗褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・締まりやや有り。
5. 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性弱。締まりやや有り。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。(RG252覆土)
7. 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性弱。締まりやや有り。(RG252覆土)

柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1304	30×29	7.4	
1305	57×54	9.2	
1306	64×50	16.4	



RA227コマD

1. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・締まりやや有り。
2. 2.5YR4/6赤褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
3. 10YR5/6黄褐色土 黒褐色土との混土。粘性やや有り。締まっている。
4. 10YR2/3暗褐色土 地山ブロック多量に含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
5. 10YR2/2暗褐色土 地山ブロック少量含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
6. 10YR5/6黄褐色砂質土 黒褐色土少量含む。粘性弱。締まりやや有り。
- (N) 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性弱。締まっている。

0 1:30 50cm

第59図 RA227竪穴住居跡

RA 2 7 8 竪穴住居跡 (第60図・写真図版41)

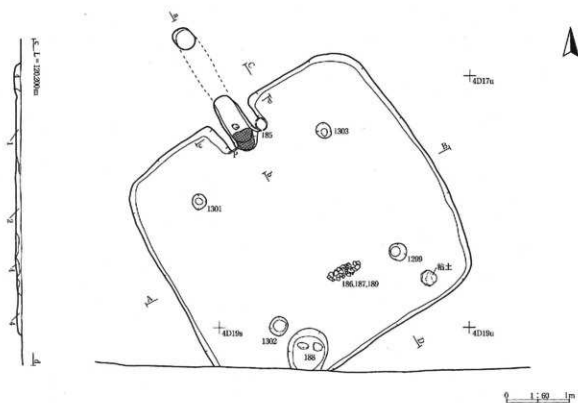
<位置・重複関係>遺跡の中では南東側の4 D18sグリッドに位置している。<規模・平面形・方向>北西壁-南東壁4.3m、北東壁-南西壁4.6mを測り平面形は概ね隅丸方形である。床面積は18.1㎡で住居の主軸方向はN-32°-Wである。<埋土>堆積土は何れも自然の流入土で構成されているようである。<壁>各壁とも10cm前後しか残存しておらず残りは良くない。<床面>IV層を直接床面としている。平坦だが硬く踏みしめられたようなところは認められなかった。<カマド>北西壁のほぼ中央に付設されている。燃焼部底面は床面から一段掘り下げており30×28cmの範囲に焼面が形成されていた。支脚には自然礫が用いられている。袖部は地山を生かしつつ焚口の両脇付近では堯を芯材にし、これを褐色土で覆っている。煙道部は列り貫き式で、燃焼部から煙出し下部へは約6°の角度で掘り下げている。<柱穴>床面にて4基の柱穴が検出された。<ピット>南壁際から1基検出され中から自然礫と堯片が出土した。<その他>東壁隣近くの床面に粘土塊が置かれていた。<出土遺物>(第298・342図・写真図版297・328)埋土及び床面から出土した個体数は土師器杯0点、長胴甕4点、紡錘車(621)1点、石器剥片1点が出土した。カマド袖部の芯材として使われていたのは堯185である。186・187・189は同じ南側床面から横倒しの状態で出土した。188の堯は南壁際の土坑内から出土した。<時期>奈良時代。

RA 2 7 9 竪穴住居跡 (第61図・写真図版42)

<位置・重複関係>本遺跡の南東側、3 D19sグリッドに位置している。RG 225・228と重複しており本住居のほうが古い。<規模・平面形・方向>北東壁-南西壁3.1m、北西壁-南東壁3.5mを測る。平面形は不整形な形に近く床面積は9.2㎡位である。住居の主軸方向は約N-57°-Eである。<埋土>堆積土は8層に分けられた。概ね自然の流入土と思われるが2層に関しては人為的なものかもしれない。<壁>各壁とも35cm前後残存し外傾して立ち上がっている。<床面>IV層を直接床面としている。ほぼ平坦であるがとくに硬く締まったところは認められなかった。<カマド>RG 228に切られているため残存状況は悪い。北東壁のほぼ中央に構築されており袖部は褐色土と暗褐色土の混合土で作られていたようである。煙道部は列り貫き式と見られ燃焼部から煙出し下部へは4°の傾斜で下っている。<柱穴>床面にて4基の柱穴が検出されたがP1310は本住居に伴わないかもしれない。<出土遺物>(第299図・写真図版297・298)埋土及び床面から個体数にして土師器杯3点、堯類6点(長胴甕2点、球胴甕2点、他は不明)、須恵器高台付杯が1点出土した。床面出土のものとしては球胴甕196がその場で潰れた状態で、堯194は南東壁近くから、須恵器高台杯193は袖部脇から出土した。<時期>奈良時代。

RA 2 2 7 竪穴住居跡 (第93図)

<位置・重複関係>遺跡中央南側、4 A14yグリッドに位置している。<規模・平面形・方向>北壁-南壁3.0m、東壁-西壁3.4mを測り、平面形は概ね隅丸長方形を呈する。床面積は約9.3㎡で、主軸方向はN-83°-Wとなる。<埋土>自然堆積と思われる。黒褐色土を主体としその中に河原石が少量含まれる。<壁>各壁中央部での残存値は北壁10cm、南壁12cm、東壁10cm、西壁11cm程度で、礫層を掘り込んで構築されている。<床面>礫層面を床面としているようで若干の起伏が見られる。<柱穴>検出されなかったが、床面が礫層であったため見落とした可能性もある。<出土遺物>なし。<時期>時期不明である。

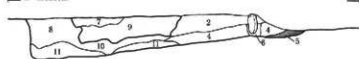


RA278

1. 10YR2/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/2暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
3. 10YR3/3暗褐色土 火山ブロック少量含む。粘性・締まりやや有り。
4. 10YR3/4暗褐色土 火山ブロック少量含む。粘性弱。締まり弱。

柱穴番号	径 (cm)	高さ (cm)	備考
1300	30×27	20.4	
1301	25×23	26.5	
1302	31×29	22.4	
1303	25×25	24.6	

Ⅱ. L=120.100m



0 1:30 50cm

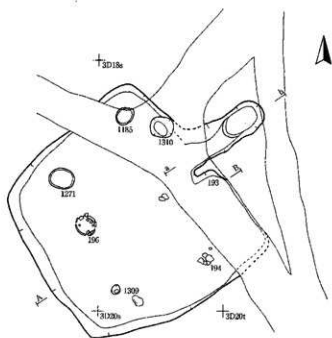
Ⅲ. L=120.100m



RA278a マド

1. 25YR5/6暗赤褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
2. 10YR3/2暗褐色土 火山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まっている。
3. 1層と同じ焼土。
4. 10YR4/4褐色土 火山ブロック多量含む。粘性弱。締まりやや有り。
5. 25YR4/6赤褐色土 粘性・締まり弱。
6. 10YR2/4暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
7. 10YR5/6黄褐色土 粘性弱。締まっている。
8. 10YR4/4褐色土 火山ブロック多量含む。粘性・締まりやや有り。
9. 10YR4/3にふい黄褐色土 火山ブロック多量含む。粘性・締まりやや有り。
10. 10YR5/6黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
11. 10YR2/2暗褐色土 火山ブロック少量含む。粘性・締まりやや有り。

第60図 RA278竪穴住居跡



0 1:40 1m

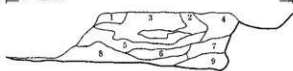


柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1185	32×25	0.5	
1271	41×34	5	
1300	15×15	11.6	
1310	55×40	32.0	

RA279

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。餅まわり弱。
2. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・餅まりのや有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 水酸化鉄質有り。粘性・餅まりのや有り。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性・餅まりのや有り。
5. 10YR3/4暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・餅まりのや有り。
6. 10YR4/6暗褐色土 粘性弱。餅まっている。
7. 4層と同じ。
8. 10YR5/6黄褐色砂質土 黒褐色土混じる。粘性やや有り。餅まっている。

1:100,000



0 1:30 50cm

RA279カマド

1. 10YR3/3暗褐色土 粘性弱。餅まっている。
2. 10YR2/2暗褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・餅まりのや有り。
3. 10YR5/6黄褐色土 粘性弱。餅まっている。
4. 10YR2/2暗褐色土 地山ブロック少量含む。粘性やや有り。餅まっている。
5. 10YR2/2暗褐色土 粘性・餅まりのや有り。
6. 3層と同じ。
7. 10YR2/3暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。餅まっている。
8. 10YR5/6黄褐色砂質土 黒褐色土。焼土散らさむ。粘性・餅まりのや有り。
9. 10YR2/3暗褐色土 粘性・餅まりのや有り。

第61図 RA279竪穴住居跡

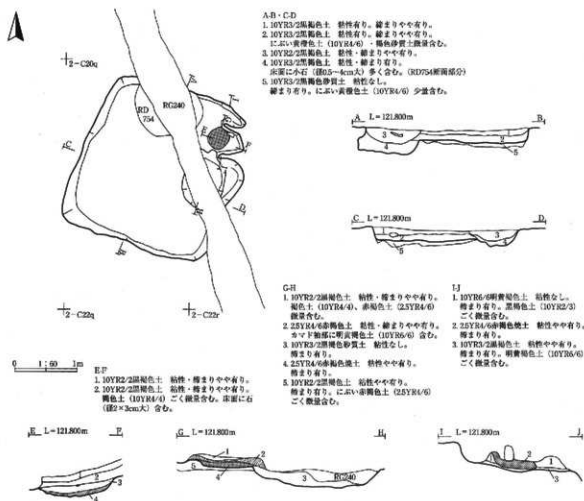
RA208 竪穴住居跡 (第62図・写真図版43)

<位置・重複関係>調査区西側の2-C21qグリッドに位置し、RG223、RD754と重複する。新旧関係は、RG223、RD754より本遺構のほうが古い。検出は、IV層面で確認されている。<規模・平面形・方向>遺構の東端、主にカマド煙道部分が調査区外に延びていることから、正確な平面形や規模の全容は不明である。確認される部分の規模は2.6×2.6m、平面形は隅丸方形を呈している。床面積は約5.3㎡で主軸方向は、S-70°-Eである。<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積による2層で構成される。1層は黒褐色砂質土で堅く締まっている。2層は黒褐色砂質土と褐色土の混合土層で締まりがある。

<壁>検出された部分については、床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部での残存値は、北壁15cm、西壁26cm、南壁21cmを測る。<床面>ほぼ平坦であり、堅く締まる。住居全体に5~10cmの貼床が見られる。

<カマド>住居南東壁の北寄りに設置されている。上部が削平を受けていることから、天井部の構造は不明である。本体部の規模は70×60cmで、袖部はIV層を削り出して造られ、芯材の使用は認められない。燃焼部には、径35×35cmの円形で層厚約5cmの微量の炭を含む赤褐色焼土が形成される。煙道は調査区外になり不明である。<ピット>カマド南側から1基検出している。平面形は楕円を呈する。<出土遺物>埋土中及び床面から個体数で土師器坏2点、壺2点、須恵器坏2点、壺1点が出土している。

<時期>平安時代。



第62図 RA208竪穴住居跡

RA 2 1 2 竪穴住居跡 (第63図)

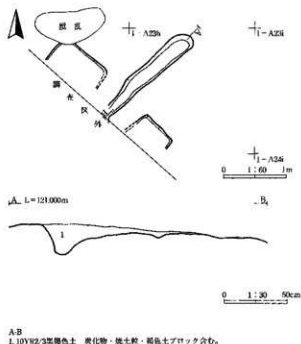
<位置>遺跡の中央部西側、1-A23hグリッドに位置している。<規模・形態・方向>削平が著しく、北東壁及びその中央部に設置されたカマドが残存するのみである。北東壁は2.4mで主軸方向はN-45°-Eである。<埋土>遺構検出面では殆ど残っておらず記録できなかった。<壁>北東壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南東壁及び北西壁は殆どが削平され残っていない。<床面>殆ど残存しておらず詳細は不明である。<カマド>北東壁のほぼ中央に設置されていた。本体は殆ど残存しておらず、袖の痕跡と煙道のみを検出した。煙道部はカマド燃焼部から煙出底部へ緩やかに下っていき、煙出底部は更に深く掘り下げられている。<遺物>なし。<時期>周辺で検出されている遺構の状況から、平安時代と思われる。

RA 2 1 3 竪穴住居跡 (第64図・写真図版44)

<位置>調査区西側の2-C17qグリッドに位置している。検出はIV層面で確認されている。<規模・平面形・方向>遺構北側と東側が調査区外であることから、平面形と規模の全容は不明である。確認された規模は、西壁側2.0m、南壁側1.2mを測り、南西端のコーナーは隅丸を呈している。主軸の方向は不明である。<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積による2層で構成されている。1層は堅く締まった黒褐色粘土を主体とし、一部褐色土ブロックも含まれる。<壁>床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部での残存値は、西側が18.2cm、南側が20.5cmを測る。<床面>平坦であり、やや締まっている。貼床はみられない。<出土遺物>(第300図・写真図版298) 埋土中及び床面から個体数で土師器2点、壺1点、土師器蓋2点が出土している。197の小壺型土器は、伏せた状態で床面から出土した。<時期>平安時代。

RA 2 1 4 竪穴住居跡 (第64図・写真図版45)

<位置>調査区西側の2-C19mグリッドに位置している。検出は、IV層面で確認されている。<規模・平面形・方向>遺構西側と南側が調査区外であることから、平面形と規模の全容は不明である。確認される規模は、北壁側2.3m、東壁側3.3mを測る。北東端のコーナーは、隅丸を呈している。主軸の方向は不明である。<埋土>黒褐色土を主体とする2層で構成されている。上層は、黒褐色粘土質土で締まっている。下層は黒褐色粘土質土を主体とし、褐色粘土質土を含み、やや締まっている。北側下層は、微量の炭と焼土粒を含むことから、人為堆積の部分もあると考えられる。<壁>床面から緩やかに立ち上がる。各壁中央部での残存値は、北側が25cm、東側が28cmを測る。<床面>平坦であり、やや締まっている。住居全体に深さ4~10cmの貼床がみられる。<カマド>検出されないが、調査区域外に設置されていた可能性もある。<柱穴>東壁側から1基検出されている。平面形は円形で、埋土は黒褐色土で粘性



第63図 RA212竪穴住居跡

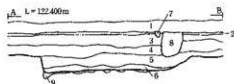
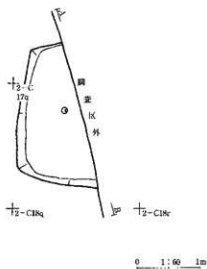
も締まりもややある。〈出土遺物〉(第300図・写真図版298)埋土中及び床面から個体数で土師器杯3点、赤焼杯1点、甕1点、須恵器杯1点が出土している。200の土師器杯には外面に「木」と刻線されている。
〈時期〉平安時代。

RA215 竪穴住居跡 (第65図・写真図版46)

〈位置・重複関係〉調査区西側の2-C23pグリッドに位置している。検出は、IV層面から確認されている。
〈規模・平面形・方向〉遺構南側が調査区外であることから、平面形の規模の全容は不明である。確認された規模は、北壁側が4.1mであり、西壁側と東壁側は調査区境まで、それぞれ2.3m、1.1mである。北西端と北東端のコーナーは、隅丸を呈し、主軸方向は不明である。〈埋土〉黒褐色を主体とし、自然堆積による3層で構成されている。上層には、流れ込みによる十和田a降下火山灰を含む。〈壁〉床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北側が27cm、東側が23cm、西側が30cmを測る。壁溝は検出されなかった。
〈床面〉平坦であり、締まっている。貼床はみられない。間仕切りはないが、北壁側に直方体の20~40cmの石が3個並んでいる。使用跡等はみられない。〈柱穴〉北東端と北西端のコーナー付近から、それぞれ1基検出している。北西端の柱穴の北端から土師器が出土している。〈ピット〉南端の調査区境界から1基検出されている。平面は楕円形、埋土は黒褐色粘土質土で付近の断面に小さい鉄滓がある。
〈出土遺物〉(第300図・写真図版298)埋土中及び床面から個体数で土師器杯2点、甕2点、須恵器杯2点と鉄滓1点を出土している。〈時期〉平安時代。

RA216 竪穴住居跡 (第66図・写真図版47)

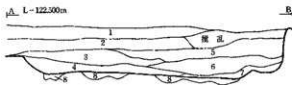
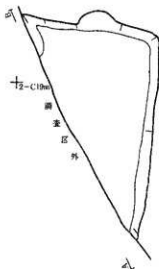
〈位置・重複関係〉調査区西側の3-D9q区に位置する。RA217と重複する。本遺構の重複関係は、遺構の切合から、RA217より新しい。〈規模・平面形・方向〉規模は2.75×2.4m、隅丸方形を呈し床面積は約5.2㎡を測る。〈埋土〉黒褐色色を中心にした2層で構成され自然堆積の様相を呈する。
〈壁〉壁は浅いが、床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁24cm、東壁15cm、南壁18cm、西壁18cmを測る。〈床面〉平坦で、締まりがある。貼床等は認められない。〈カマド〉設置されていない。床面や境面にも焼土等の跡もみられない。
〈出土遺物〉埋土中から個体数で土師器杯2点、甕1点が出土した。
〈時代〉平安時代以降と思われる。



- RA213 A-B
1. 10YR3/2黄褐色土 粘性、締まりやや有り、耕作土(層)
 2. 7.5YR4/4褐色土 粘性、締まり有り。
7.5YR5/6黄褐色土、ごく微量含む、未掘層。
 3. 10YR3/2黄褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
 4. 10YR4/6褐色土、ごく微量含む、紅土。
 5. 10YR3/2黄褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
10YR4/6褐色土、ごく微量含む。
 6. 10YR3/2黄褐色土 粘性有り、締まりやや有り、包蔵礫土。
 7. 10YR4/4褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
10YR4/4褐色土上フロック微量含む、包蔵礫土。
 8. 10YR3/2黄褐色土 粘性なし、締まり有り、灰濁。
 9. 10YR3/2黄褐色土、ごく微量含む、包蔵礫。
 10. 10YR3/2黄褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
10YR4/6褐色土、少量含む。



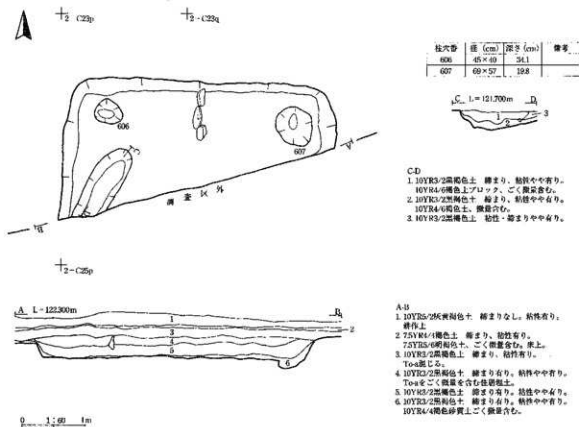
1/2-C18m 1/2-C18o



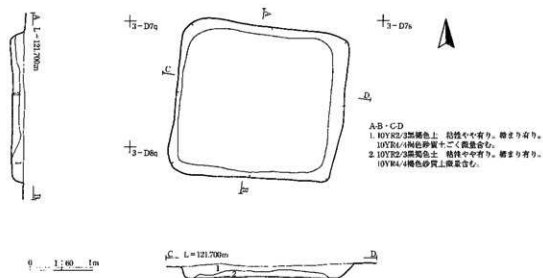
- RA214 A-B
1. 10YR3/2黄褐色土 粘性なし、締まり有り、北側埋込層分り、耕作土。
 2. 10YR3/2黄褐色土 粘性やや有り、締まり有り、灰濁土。
 3. 10YR3/2黄褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
包蔵礫土上層。
 4. 10YR3/2黄褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
10YR1/1褐色土、微量含む、包蔵礫土下層。
 5. 10YR3/2黄褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
10YR4/4褐色土、ごく微量含む。
 6. 10YR3/2黄褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
10YR4/4褐色土、ごく微量含む。
 7. 10YR3/2黄褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
10YR4/6褐色土、微量含む。2.5YR3/6 暗赤褐色土。
10YR2/1灰褐色土、ごく微量含む。
 8. 10YR3/2黄褐色土 粘性なし、締まり有り。
10YR4/6褐色土、少量含む。

0 1:60 1m

第64図 RA213・214竪穴住居跡



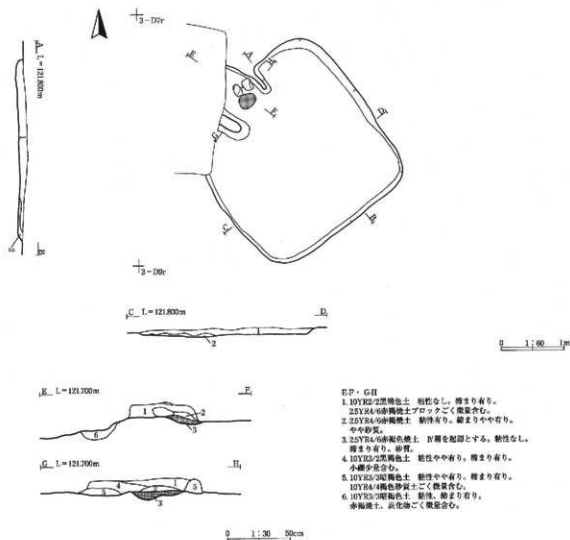
第65図 RA215竪穴住居跡



第66図 RA216竪穴住居跡

RA217 竪穴住居跡 (第67図・写真図版48)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D8sグリッドに位置し、IV層で確認される。RA216と重複する。本遺構との新旧関係は、遺構の切合からRA216よりも古い。 <規模・平面形・方向>規模は2.9×2.9m、隅丸方形を呈する。床面積は約7.1㎡と推定され主軸方向は、N-44°-Wである。 <埋土>黒褐色土を主体とした2層で構成される。下層ほど褐色砂質土を多く含む。 <壁>遺構検出面からは浅く、床面からほぼ垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁8cm、東壁9cm、南壁4cm、西壁5cmを測り壁溝は検出されない。 <床面>平坦であり締まりがある。貼床等は認められない。 <カマド>北西壁中央部に位置する。重複の為、煙道の一部と燃焼部がわかるだけである。燃焼部の規模は55×60cm、袖部は暗褐色土と褐色砂質土の混合土からなり、芯材や焼成による変化等は認められない。燃焼部についてはその一部がわか



第67図 RA217竪穴住居跡

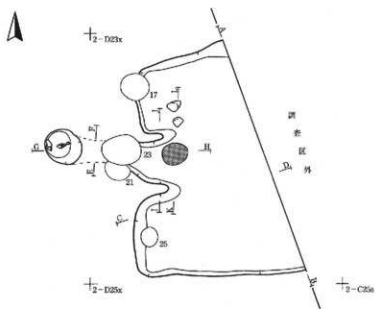
るのみであるが、IV層を起源とし、径30×20cm、層厚5cmの赤褐色焼土が形成されている。煙道部側に長さ20cmの石が2個あるが、支柱として使われたかどうかは不明である。煙道部と煙川部についても重複のため不明である。〈出土遺物〉(第300図・写真図版298) 灰土中から個体数で土師器杯5点、甕2点、須恵器杯2点が出土した。〈時代〉平安時代。

RA218 竪穴住居跡 (第68図・写真図版49)

〈位置・重複関係〉本遺跡の西側、2-D23xグリッドに位置しIV層面に検出された。RA281と重複し本遺構のほうが新しい。また、複数の柱穴と重複しているが、柱穴よりも古い。〈規模・形態・方向〉検出面での北壁-南壁は3.8mを測るが西壁-東壁は東壁が未調査区にあるため不明である。西壁にカマドがあり主軸方向はN-86°-Wで床面積は、一辺が3.4m位として10.56㎡となる。〈埋土〉黒褐色土を主体とした自然堆積でよいと思われる。〈壁〉各壁での最大残存値は西壁で25cm、北壁で34cm、南壁では25cmを測る。何れの壁面も底面から外傾して立ち上がっている。〈床面〉検出した部分は全て貼床とされており、平坦で硬く締まっていた。〈カマド〉西側壁のほぼ中央に設置されている。本遺構より新しい柱穴に煙道部が切られており残りは良くない。燃焼部には37×35cm程の焼土の広がりが見られた。カマドの側壁は褐色砂質土で地山の上と同じ土で構築されているように観察された。煙出は深さが約54cmあり、煙道部の底部から更に10cm程低く掘り込まれ自然礫が底部付近から出土した。煙道部は地山を削り貫いてつくられているようである。〈柱穴〉この住居跡に伴う柱穴は検出できなかった。〈遺物〉(第301図・写真図版299) 206の土師器杯は外面に墨書で「木」と書かれている。〈時期〉平安時代。

RA220 竪穴住居跡 (第69図・写真図版50)

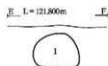
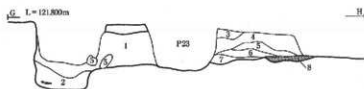
〈位置・重複関係〉調査区西側の3-D19kグリッドに位置し、IV層で確認された。重複関係はない。〈規模・平面形・方向〉規模は3.0×2.7m、床面積約5.6㎡。平面形は隅丸方形を早する。主軸方向は、N-20°-Eである。〈埋土〉黒褐色土を主体とした自然堆積による2層で構成される。1層は、2層に比べ礫を多く含む、また微量の十和Ⅱa降下火山灰を含む。〈壁〉床から直線的に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁30.2cm、東壁23.8cm、西壁33.8cm、南壁31.8cmを測る。北西コーナーと東壁中央付近が厚くなっている。〈床面〉褐色土まで掘り込んで床面とし、締まりはややある。ほぼ平坦であり、貼床等は見られない。〈カマド〉本体は北東壁のやや東寄りに位置し、規模は40×62cmである。袖部は、締まりと粘性がややある黒褐色土と暗褐色土との混合土で、11×6.5cmの石が1個組み込まれている。燃焼部は、径20×20cmの円形、層厚6cm程の赤褐色焼土が造られている。煙道部の長さは1.5m、削り貫き式で緩やかな下り勾配で深さ37cm、径20cm(開口部)の煙出に続いている。燃焼部との境目に多くの焼土ブロック、先端部に焼土と炭化物を含む。〈柱穴〉3基検出された。住居にかかわるものかどうかは不明である。〈出土遺物〉(第301図・写真図版299) 埋土中及び床面から個体数で土師器杯6点、甕2点、須恵器甕1点が出土した。207と209の杯は2つ並んで北東コーナー床面から、210の赤焼きの杯は南東コーナー床面から上向きで出土した。〈時代〉平安時代。



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
17	48×44	24.1	
21	73×56	47.0	
23	52×47	48.2	
25	33×20	17.4	



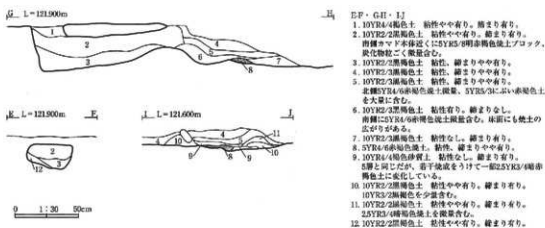
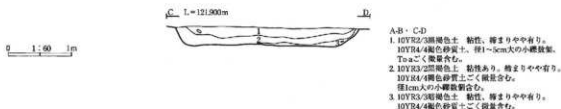
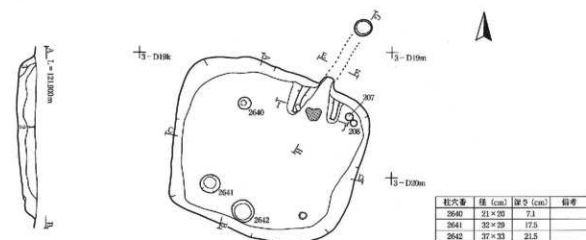
A-B · C-D
 1a. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
 赤褐色土 (2.5YR4/6) ごく微量含む。
 1b. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
 褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
 1. 10YR3/1黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
 2. 10YR3/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
 3. 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
 無粘性土 (10YR5/6) 微量含む。



E-F · G-H · I-J · K-L

- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
2.5YR4/6赤褐色土 ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土 ごく微量含む。
- 10YR3/1黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
- 10YR3/2粘性。締まりやや有り。
10YR2/1黒褐色土 灰質。2.5YR4/4に多い黄褐色土。
機土ブロック ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
10YR3/4褐色土。10YR4/4褐色土。2.5YR4/4に多い
赤褐色土 ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
10YR2/1黒褐色土。灰質 ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
2.5YR4/6赤褐色土 ごく微量含む。
- 2.5YR3/6暗赤褐色土 粘性。締まりやや有り。
灰化層。ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
10YR4/3に多い黄褐色土 ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 ブロック 粘性なし。締まり有り。
10YR1/0褐色土 ごく微量含む。
- 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。締まりなし。
10YR2/2黒褐色土 ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR5/6黄褐色土 含む。

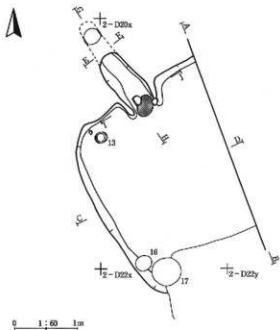
第68図 RA218雙穴住居跡



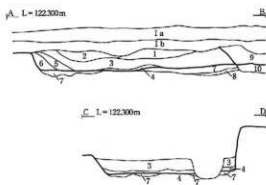
第69図 RA220竪穴住居跡

RA281 竪穴住居跡 (第70図・写真図版51)

<位置・重複関係>本道跡の西側、2-D21xグリッドに位置している。RA218竪穴住居跡と重複し、これに切られている。<規模・形態・方向>東側は調査区外へ延びており、南側はRA218との重複で失われている。南西壁で3.0m程あり、3m四方の方形プランであったと考えたい。主軸はN-33°-Wである。<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積の様相を呈する。<壁>南西壁や北西壁は約37cm残存していた。

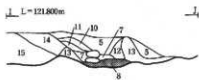
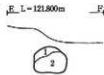
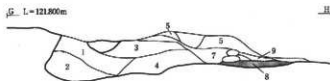


柱寸番	径 (cm)	高さ (cm)	備考
13	34	24.1	
16	27×26	30.0	
17	45×44	24.1	



A-B・C-D

- 1a. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。植物根多量含む。埋積作土。
 1b. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
 1. 3黄土層
 2. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。未酸化鉄分ごく微量混入。
 3. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
 10YR4/4褐色砂質土 2.5YR3/6暗赤褐色土。炭化物片、ごく微量含む。
 4. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
 10YR5/6黄褐色土ごく微量含む。
 5. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
 10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。未酸化鉄分ごく微量含む。
 6. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりなし。
 10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 7. 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
 10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
 8. 10YR5/6黄褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
 10YR2/2黒褐色土微量含む。
 9. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
 10YR4/4褐色砂質土痕跡。炭化物片ごく微量含む。
 10. 10YR4/4褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
 10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。



0 1:30 50cm

E-F・G-H・I・J

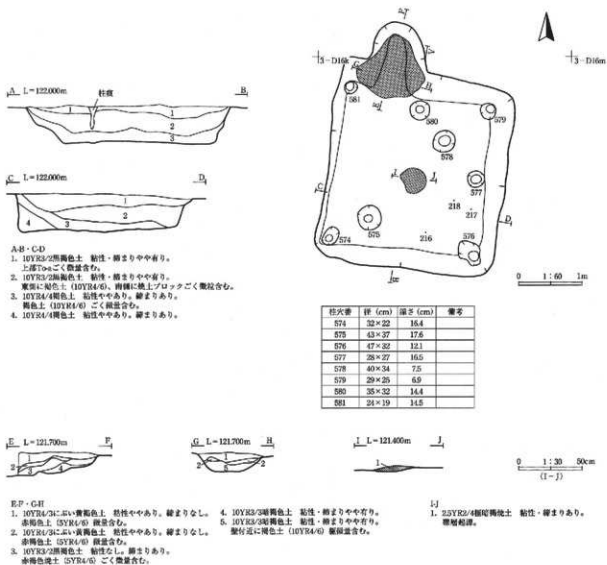
1. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりなし。
 炭化物、2.5YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
 2. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
 10YR4/4褐色砂質土ブロックごく微量含む。
 3. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まり有り。
 2.5YR3/6暗赤褐色土塊土ブロックごく微量含む。
 4. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
 10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 5. 10YR3/2黒褐色土上級。締まりやや有り。
 2.5YR3/6暗赤褐色土 10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
 6. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
 7. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まり有り。
 2.5YR3/6暗赤褐色土塊土ブロック、ごく微量含む。
 8. 2.5YR3/6暗赤褐色土上級。粘性有り。締まりやや有り。
 骨片、2.5YR3/6暗赤褐色土、10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
 9. 10YR4/4褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
 10. 10YR3/3暗褐色土 粘性なし。締まり有り。
 大量の2.5YR3/6暗赤褐色土を含む。
 11. 10YR3/3暗褐色土 粘性なし。締まり有り。
 12. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
 2.5YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
 13. 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
 14. 10YR3/3暗褐色土 粘性。締まりやや有り。
 15. 10YR5/6黄褐色土 粘性。締まりやや有り。
 10YR3/3暗褐色土ごく微量含む。10カマド基部に接く。

第70図 RA281住居跡

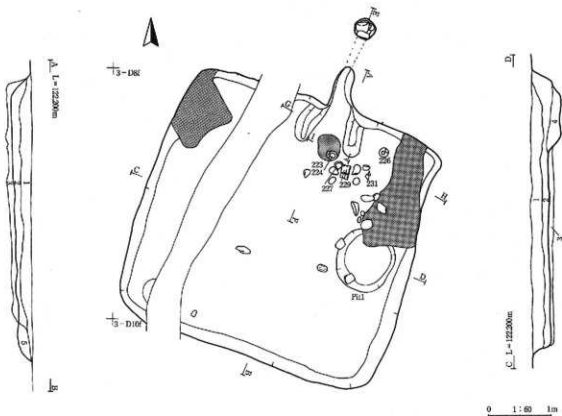
何れも外傾して立ち上がっている。〈床面〉調査した範囲では全面を貼床としている。〈カマド〉北西壁のほぼ中央に設置されているようである。袖部は褐色土でつくられており芯材は見られなかった。天井部は残存しない。燃焼部には36×25cm程の焼土が広がり、支脚として使われていたと思われる河原石も検出された。煙道部は列り貫き式の構造を持ち、燃焼部から煙出底部へと緩やかに下っている。〈柱穴〉北西壁隅から1基検出されている。〈遺物〉(第298図・写真図版297) 埋土中及び床面から個体数で土師器甕(190)が1点出土している。〈時期〉平安時代。

RA282 竪穴住居跡 (第71図・写真図版52)

〈位置・重複関係〉調査区西側の3-D16kグリッドに位置し、IV層で確認された。北壁の一部が風倒木による攪乱と重複している。〈規模・平面形・方位〉規模は2.8×3.2m、平面形は隅丸方形を呈し床面積は約5.9㎡である。主軸方向はN-12°-Eとしておく。〈埋土〉黒褐色土を主体とした自然堆積による4



第71図 RA282竪穴住居跡



A-C-D

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
10YR5/6(黄褐色土)ごく微量、点状に含む。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
3. 10YK5/6灰褐色土ブロック少量含む。
人為的堆積か？
4. 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り、締まり有り。
黒褐色土(10YR2/2)含む。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
褐色砂質ブロック(10YR4/6)ごく微量含む。
→層に上部砂質土含む。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
褐色砂質土ごく微量含む。

E, L = 122.100m



G, L = 121.900m



EF-GH-IJ

1. 10YR3/1黒褐色土 粘性、締まり有り。
2. 10YR4/4褐色砂土 粘性なし、締まり有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし、締まり有り。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り、締まりなし。
5. 25YR5/6明赤褐色土 炭化物ごく微量含む。
6. 10YR3/3黄褐色土 粘性やや有り、締まりなし。
7. 25YR5/6明赤褐色土 炭化物ごく微量含む。
8. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。
10. 5YR5/6明黄褐色土 粘性なし、締まりやや有り。
層別多し。
11. 10YR2/1黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
土層片を含む下層部色濃い。
12. 25YR2/4極暗赤褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
13. 25YR2/2極暗赤褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
14. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。
15. 25YR4/6赤褐色土 粘性やや有り、締まりなし。
炭化物、黒褐色土(10YR2/2)ごく微量含む。
少量含む。硬質土。
16. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。
10YR4/6褐色砂質土微量含む。

第72図 RA283竪穴住居跡

層で構成される。1層には5mm前後の小礫が含まれ、十和田a降下火山灰も微量含まれる。2層も1～2前後の小礫が含まれ、埋土中に土師器が投げ入れられている。3層は床に近い褐色土層である。〈壁〉床から直線的に立ち上がる。他の住居に比べ、深い感じを受ける。各壁中央部の残存値は、北壁56cm、東壁48cm、南壁56cm、西壁59cmを測る。北壁は、北西コーナーから径2.0×1.6mにわたり、床に流れ込む様子で風倒木による攪乱を受けている。この攪乱と床面との境に径76×45cmの楕円状に赤褐色の焼土がある。また、その焼土を中心に北に向かい長さ1.08mにわたり、緩く傾斜した張り出し部分がある。〈床面〉床の高さはほぼ同じであり、締まりがある褐色土である。色は明るい感じで、3～5mmの小礫を多く含む。貼床はみられない。この他、床面中央に径13×46cm、層厚7cm、粘性も締まりもない極暗赤褐色焼土がみられる。床土が赤変していることから炉の跡と考えられる。また埋土中層に土師器と土師器片が投げ入れられた状態で出土している。〈カマド〉検出されない。〈柱穴〉柱穴は8基検出されている。そのうち各コーナー付近にある4基は、規模的に類似しており、埋土中に炭片を含み、しっかり掘り込まれている。これらが主柱穴を構成するものであると考えられる。〈出土遺物〉(第301・302図・写真図版299)埋土中から個体数で土師器環9点、甕4点、須恵器環4点、甕2点が出土した。この竪穴住居跡遺物出土の特徴は、埋土中層～下層よりまとまって投げ捨てられたような状態で土師器が出土することである。遺構廃絶後、埋まりかけた段階での廃棄行為と考えられ、そうすると本遺構に伴う遺物ではないと判断される。赤焼き環216・赤焼き高付付環217・須恵器環218も口縁から底部まで接合できたが出土した時点では破片の状態であった。〈時代〉平安時代以降。カマドがないこと、中央部に炉跡のようなものがあること、貼床がなく床面に小礫が多いこと、出土する土師の種類が多く埋土中層に廃棄されていることから、この遺構は住居か上房のようなもの跡ではないかと考えられる。

RA 2 8 3 竪穴住居跡 (第72図・写真図版53)

〈位置・重複関係〉調査区西側の3-D9gグリッドに位置し、IV層で確認された。遺構の切合から、本遺構の重複関係はR G 261より古いと考えられる。〈規模・平面形・方向〉規模は4.5×4.3m、平面形は隅丸方形を呈する。床面積は約15.6㎡で主軸方向は、N-22°-Eである。〈埋土〉黒褐色土を主体にした2層で構成される。1層は、黄褐色土が混入するが、2層はその割合が増えてくる。また、土師器片の混入もみられ、人為堆積の部分もあると考えられる。〈壁〉床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁24cm、東壁32cm、南壁30cm、西壁31cmを測り壁溝はない。〈床面〉ほぼ全面が貼床で黒褐色土と褐色土の混合土からなり、平坦で締まりがある。北東コーナーと1号土坑付近に直径10cmの石が散らばっている。南側コーナー以外の3コーナー付近に焼土の堆積がみられるが、特に東北コーナー部分は径0.6×1.8m、層厚15cmの帯状を呈し、上層5cmは赤褐色焼土で、炭化物と土師器片を含み、東壁中央の土坑まで続く。何れも廃棄焼土と考えられる。〈カマド〉北東壁中央部に位置し、本体の規模は径70×50cmである。袖部は、暗褐色土と黒褐色土との混合土で造られ、芯材の使用は認められない。燃焼部は、直径20cm、層厚10cmの明褐色の焼土が形成される。煙道部は、例り貫き式で長さ1.2m、真っ直ぐだが煙口付近で下っている。側壁は熱による赤色変化を多少うけており、袖部付近は微量の骨片と炭片を含む。煙口部は直径32cm(開口部)、深さ50cmの円形状の上坑が掘られている。中層部分に直径10cm以上の河原石が見られる。〈柱穴〉検出されない。〈ピット〉東壁中央に位置する。埋土中層から土師器片が出土した。〈出土遺物〉(第302・303・309図・写真図版299・300・304)埋土中及び床面から個体数で土師器環7点・甕4点、須恵器環2点・甕2点・壺1点が出土した。289・290の須恵器甕片は、埋土上層から出土した。赤焼き環226は北側コーナーから整った形で伏せた状態で出土するが、他は破片で出土する。223の土師器環と227赤

焼きの坏は、破片で散らばった状態であったものである。 <時代>平安時代。

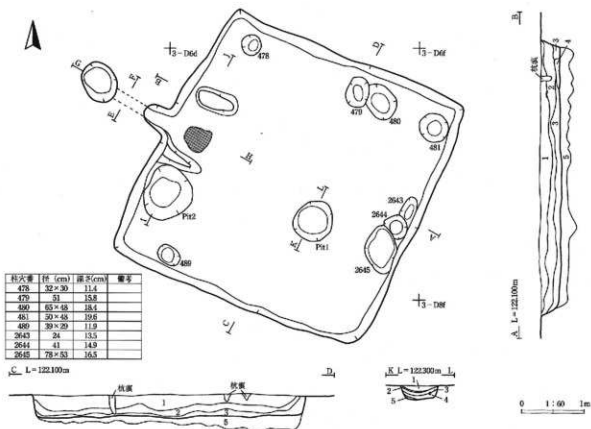
RA284 竪穴住居跡 (第73図・写真図版54)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D7dグリッドに位置し、Ⅲ層下面で確認された。RA288に接するが、重複関係はない。 <規模・平面形・方位>規模は4.4×4.4m、平面形は方形を呈し床面積は約16.4㎡である。主軸方向はN-57°-Wである。 <埋土>黒褐色土を主体とし、自然堆積による3層で構成される。下層ほど褐色砂質土の割合が増え、南側ほど粒が大きくなる。2層目に土師器片が含まれる。

<壁>床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁35cm、東壁32cm、南壁31cm、西壁28cmを測る。壁溝は検出されていない。 <床面>締まりがある。全面貼床とし黒褐色土と褐色砂質土からなる。 <カマド>北西壁中央部に設置されるが、袖部北側が崩れているので、全体の様子ははっきりしない。本体の規模は70×70cmである。残った袖部をみると、締まりがある黒褐色土の混じった褐色砂質土で造られ、燻炭の内側は焼けている。燃焼部は、径40×40cm、深さ8cmの暗褐色焼土が形成されている。列貫式の煙道部は、長さ1.1m、緩やかなドリ勾配で煙出部に続く。南東側に微量の赤褐色焼土と炭化物が認められる。煙出部は直径55cm(開口部)、深さ40cmの円形状の土坑が掘込まれ、深さ30cmに須恵器片と直径15cmの石が2個投げ込まれている。 <柱穴>8基検出され、そのうち堀隅にある3基は位置的に主柱穴になると思われる。地土は、粘りのない締まりのある黒褐色土が中心である。 <ピット>2基検出されている。Pit1は袖部南側にあり、赤褐色焼土を微量含む。Pit2は、住居中央部南側にあり、埋土は黒褐色土中心だが、焼土ブロック、炭化物、石英等を微量含む。住居施設に関係した土坑と考えられる。 <出土遺物> (第303図・写真図版300) 埋土中から個体数で土師器坏2点、赤焼き坏1点、甕3点、須恵器坏5点・大甕1点・壺1点が出土した。煙出部からは、須恵器大甕の口縁部(238)・体部が横向きに出土する。他の遺物は埋土中層から出土するものが多かった。 <時代>平安時代。

RA285 竪穴住居跡 (第74図・写真図版55)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D23tグリッドに位置し、Ⅳ層で確認された。南側が攪乱部分と、東壁と西壁の中央部分がRG255と重複する。遺構の切合から、本遺構の重複関係はRG255や攪乱よりも古いと考えられる。 <規模・平面形・方向>南側の攪乱が大きいため遺構の全容は不明である。確認できる規模は、北壁側6.0m、東壁側3.5m、西壁側4.1mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると推測される。主軸方向は、S-87°-Eである。 <埋土>黒褐色土を主体にした自然堆積による2層で構成される。上層は、流れ込んだ十和出a降下火山灰を20%含む。下層は、褐色砂質土との混合土で3~5cmの小礫を多く含む。 <壁>攪乱のため残りは良くないが、各壁中央部の残存値は、北壁18cm、東壁25cm、西壁16cmを測る。 <床面>北壁部分から南側の攪乱に向けて緩やかなドリ勾配がみられる。全面を貼床としており黒褐色土と褐色砂質土との混合上層であるが、5cm前後の小礫が多く凸凹の状態であり、カマド付近に石や土器片が散らばる。 <カマド>南東壁の北側に位置し、本体の規模は50×45cmである。袖部は、黒褐色土と暗褐色土の混合土で造られ、内側は燃焼による赤色変化が認められる。燃焼部付近は石や土器片が散乱し、径60×55cm、厚6cmで3cm前後の小礫を含む赤褐色焼土を形成する。煙道部は長さ1.1mの列貫式であるが、緩やかに下りながら直径60cm(開口部)、深さ50cm、中層に直径10~20cmの石が多量に入り煙出部に続く。燻炭には、熱変化による赤褐色焼土や炭化物がある。 <柱穴>西側に1基検出される。埋土は、礫の混じった黒褐色土である。 <出土遺物> (第304・334・335図・写真図版300・301・321) 埋土中及び床面から個体数で土師器坏15点・甕7点、須恵器坏2点・甕2点、鉄製品3点(524・535・536)が出土した。遺物

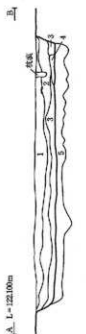


柱穴番号	径 (cm)	深 (cm)	備考
478	32×30	11.4	
479	51	15.8	
480	65×68	26.4	
481	29×28	29.6	
489	39×29	11.9	
2643	24	13.5	
2644	41	14.9	
2645	78×53	16.5	

Σ L = 122.100m



K L = 122.300m



0 1:60 1m

A.B-C.D

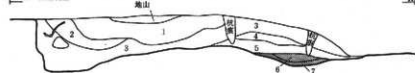
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。人為堆積
- 10YR2/3暗褐色土 粘性。締まりやや有り。
10YR4/4褐色土ごく微量含む。人為堆積。

- 10YR2/3暗褐色土 粘性有り。締まり有り。
褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性。締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。

K.L

- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
- 10YR2/1黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
- 10YR5/4に多い黄褐色土 粘性なし。締まり有り。
- 10YR2/1黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
赤褐色土 (10YR4/6) ごく微量含む。
- 掘りすぎ

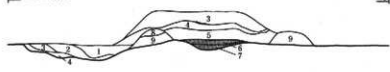
Σ L = 122.000m



Σ L = 122.000m



Σ L = 122.000m



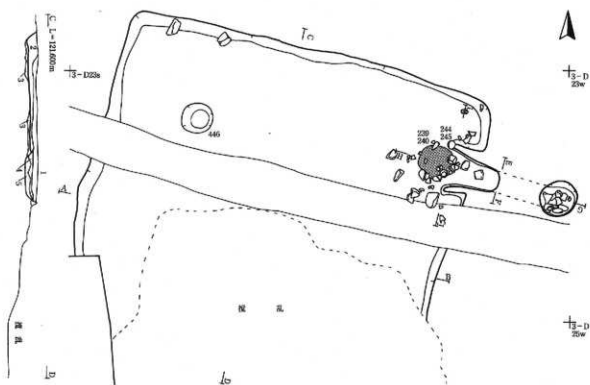
0 1:30 50cm

E.F-G.H-I.J

- 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
10YR5/4に多い黄褐色土ごく微量含む。
- 10YR4/4褐色土 粘性。締まりやや有り。
10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
10YR4/4褐色土。黄銅質25YR2/4暗褐色褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土。25YR5/8赤銅質土ブロックごく微量含む。

- 10YR4/3 に多い黄褐色砂質土 粘性有り。締まりなし。
10YR2/2黒褐色土を微量。25YR5/8赤銅質土ブロック。
炭化物粒をごく微量含む。
- 25YR2/8赤銅質土 粘性やや有り。締まり有り。
- 25YR2/4暗赤銅質土 粘性やや有り。締まり有り。
- 10YR4/4暗褐色土 粘性なし。締まり有り。
10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
- 10YR4/4褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。
10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。

第73図 RA284壁穴住居跡

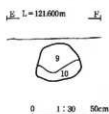
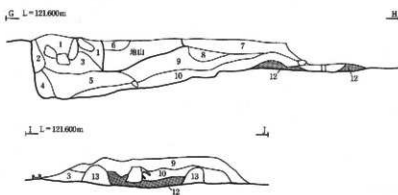


柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
446	90×48	31.1	



A-B-C-D

- 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。Toa微塵含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。径3-5cmの小礫複数。10YR4/4褐色砂質土微塵含む。
- 10YR3/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。径1-3cmの小礫。10YR4/6褐色砂質土ごく微塵含む。



E-F-G-H-I-J

- 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
- 10YR5/6黄褐色土ごく微塵含む。
- 10YR4/6褐色土 粘性、締まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
- 25YR3/4暗赤褐色土ごく微塵含む。
- 10YR3/1黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
- 10YR2/1黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
- 10YR5/6黄褐色土ごく微塵含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
- 25YR4/6赤褐色土。灰化層ごく微塵含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
- 25YR4/6赤褐色土。灰化層ごく微塵含む。
- 25YR3/4暗赤褐色土 粘性、締まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。

第74図 RA285竪穴住居跡

の破片はカマド本体と燃焼部付近に集中し、接合すると239・240・244・245の堯や坏になる。また、243の耳皿は、北東コーナー床面から上向きに置かれて出土した。〈時代〉平安時代。

RA286 竪穴住居跡 (第75図・写真版56)

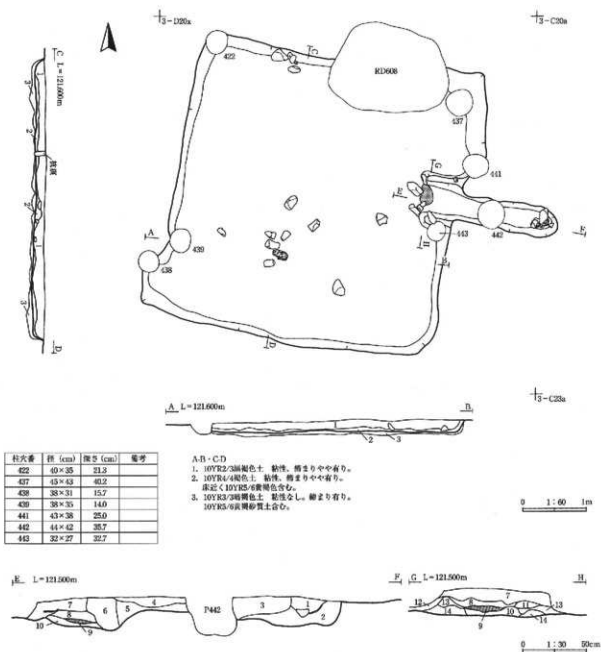
〈位置・重複関係〉調査区西側の3-D20xグリッドに位置し、IV層で確認された。RD608と重複するが、遺構の切り合いから、本遺構の重複関係はRD608よりも古い。〈規模・平面形・方向〉規模は4.5×4.4m、床面積は約18.2㎡で平面形は隅丸方形を呈する。主軸方向は、S-78°-Eである。〈埋土〉黒褐色土と褐色土を主体とする2層からなり自然堆積の様相を呈する。〈壁〉床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁16cm、東壁20cm、南壁13cm、西壁18cmである。壁面6ヶ所が柱穴で、1ヶ所が土坑で切られ、形がはっきりしないところがある。〈床面〉およそ平坦で、褐色土と黄褐色の混合土からなる貼床としている。床面は、20~30cmの礫が多く、少し汚れた感じがする。〈カマド〉東壁中央部に位置し、本体の規模は40×65cmを測る。袖部は、上層が暗まりのある黒褐色土、下層が暗褐色土と黄褐色土との混合土で造られ、内側には焼土がみられる。付近に土器片や石等がみられるが、芯材であるかどうかは不明である。煙道部は掘り込み式で長さ1.4m、ほぼ真っ直ぐに煙出部に続いている。焼土はみられず、埋土が黒っぽい。中央部が大きな柱穴で切られ、煙出の部分には、20~25cmの石がまとまって入り込んでいる。〈その他〉中央やや南側のほぼ床面に残っていた炭化材はクリ材であった。〈出土遺物〉(第305図・写真版301)埋土中及び床面から個体数で土師器坏5点、赤焼坏2点、土師器蓋2点・高台坏1点、極小片の須恵器坏1点、須恵器堯1点が出土している。〈時代〉平安時代。

RA287 竪穴住居跡 (第76図・写真版57)

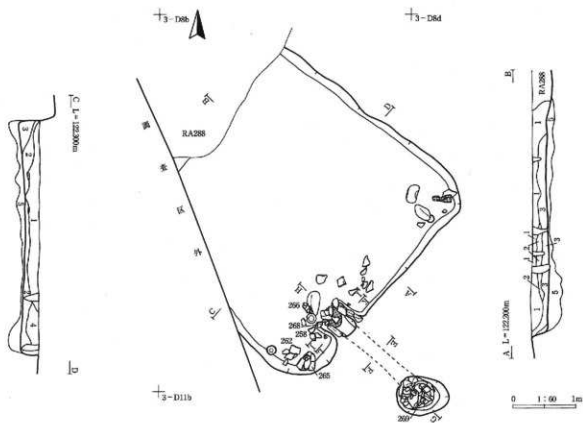
〈位置・重複関係〉本遺跡の西側、3-D10bグリッドに位置し検出面は、IV層上面である。RA288と重複し本遺構のほうが古い。〈規模・形態・方向〉北西壁側はRA288に切られ、西壁は未調査区に延びているため全容は不明であるが辺が4.2m四方の隅丸方形を呈すると仮定した場合、床面積は約13.4㎡と推測される。主軸方向はS-47°-Eである。〈埋土〉黒褐色土を主体とする自然堆積。〈壁〉各壁の残存値は最大で南東壁が27cm、北東壁で30cm、南西壁は34cmを測り、底面からやや外傾して立ち上がっている。壁溝はもたない。〈床面〉全面を貼床とし平坦で締まっている。〈カマド〉南東壁の中央より南側寄りに設置されている。カマド本体は自然礫を芯材としそれを暗褐色土や黄褐色土で覆って作られていたようで、側壁の中に自然礫が残されていた。燃焼部には35×30cmの範囲に焼土が形成されている。煙出しは深さ59cm程あり、カマド本体へは釣り掛け式の煙道が斜めに掘られている。〈その他〉煙道部の埋土には大小多量の河原石が入っていた。これは煙道の開口部に積まれていたものが、本遺構が機能しなくなった段階で崩れ落ちたものと思われる。〈遺物〉(第305~307図・写真版301~303)埋土及び床面を中心に個体数で土師器坏7点、赤焼坏6点、土師器蓋6点、須恵器坏8点、須恵器堯1点、須恵器大堯1点、須恵器壺頸2点が出上した。環頸255・257・258・260・262はカマド燃焼部付近から南壁際にかけての狭い範囲から出土した。265土師器蓋はカマドに近い南壁隅より横倒した状態で出土した。〈時期〉平安時代。

RA288 竪穴住居跡 (第77・78図・写真版58)

〈位置・重複関係〉本遺跡西側3-D4dグリッドに位置し、IV層上面に検出された。重複関係はRA287よりも新しくRD602よりも古い。〈規模・形態・方向〉北西壁-南東壁は4.6mを測るが南西壁及び北西壁の一部が調査区外に達しているため全容は不明である。平面形を一边4.6mの隅丸長方形と仮定する



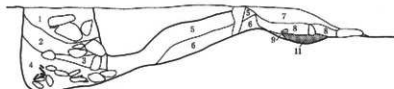
第75図 RA286竪穴住居跡



A・B・C・D

1. 10YR2-2黒褐色砂質土 粘性有り。締まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/0) ごく微量含む。
2. 10YR2-2黒褐色砂質土 粘性有り。締まり有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/4) 微量含む。
3. 10YR2-2黒褐色土 粘性・締まり有り。全体に褐色土 (10YR4/4) 微量含む。
4. 10YR2/1黒褐色土 褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量。褐色土ブロック (10YR2/2) 微量含む。
5. 10YR2/4暗褐色土 粘性・締まり有り。小礫 (径1-2cm²) 少量含む。褐色砂質土 (10YR4/4)、黒褐色土 (10YR2/2) ごく微量含む。

C L=122,000m



H

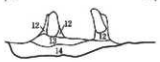
E L=122,000m F



J L=122,000m



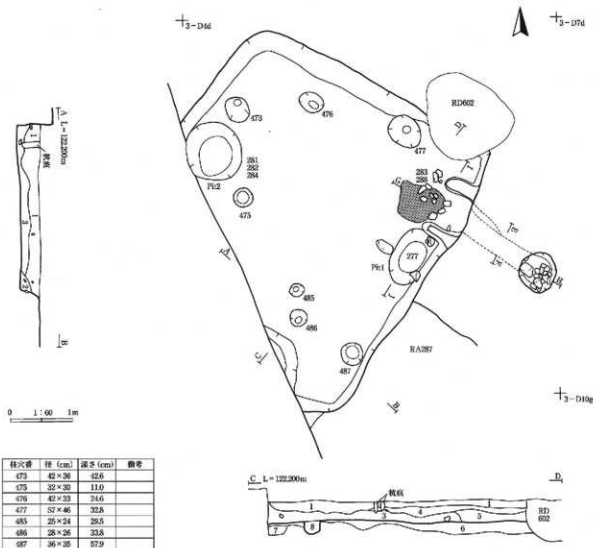
K L=122,000m



E・F・G・H・I・J・K・L

1. 10YR2-2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。石灰質ごく微量。褐色砂質土ブロック (10YR4/4) 微量含む。
2. 10YR2-2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。高率約に1:1層と同じ層だが、炭化物粒を含まず全体的に濃い。
3. 10YR2-3暗褐色土 粘性・締まりなし。やや砂質。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
4. 10YR2-3暗褐色土 粘性・締まりなし。やや砂質。暗赤褐色土 (2.5YR4/2)、炭化物ごく微量含む。
5. 10YR2-2黒褐色土 粘性・締まりなし。やや砂質。褐色砂質土ブロック (10YR4/4)、炭化物ごく微量含む。畑山との境界で変化する。
6. 10YR2-2黒褐色土 粘性・締まりなし。暗褐色土 (2.5YR3/4)、褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
7. 10YR2-2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。粘土土。褐色砂質土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
8. 10YR2-2暗褐色土 粘性・締まりなし。暗褐色土 (2.5YR3/4)、褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
9. 10YR2-3暗褐色土 粘性なし。締まり有り。糖質或礫の文之上。
10. 10YR2-3暗褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。粘り球の土。
11. 2.5YR3-6暗赤褐色土 粘性有り。締まりなし。
12. 10YR2-6暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。炭褐色砂質土 (10YR5/6) ごく微量。黒褐色土 (10YR2-2/1) 微量含む。
13. 10YR2-6暗赤褐色土 粘性・締まり有り。暗褐色土 (10YR2-2) ごく微量含む。粘り系の土。
14. 10YR2-3暗褐色砂質土 粘性有り。締まりやや有り。黒褐色土 (10YR2-2) との混合土。

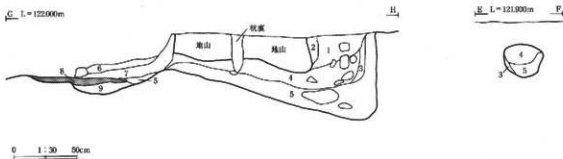
第76図 RA287竪穴住居跡



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
473	42×38	42.6	
475	32×30	11.0	
476	42×33	74.6	
477	57×46	32.8	
485	25×24	29.5	
486	28×26	33.8	
487	36×35	57.9	

A B・C D

- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。Ton多く炭屑を含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。小礫散在。土器片含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。10YR3/6黄褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。3-5cm大の小礫散を含む。10YR4/4褐色砂質土含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。真ん中部分粘土含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。10YR3/6黄褐色砂質土ごく微量含む。径3cm大の礫少量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。径5cm大の礫含む。
- 2.5YR3/4暗赤褐色土 10YR4/4褐色砂質土炭化物ごく微量含む。



第77図 RA288竪穴住居跡(1)

ならば床面積は約15.0㎡と推測される。主軸方向はS-54°-Eである。〈埋土〉黒褐色土を主体とする自然堆積で、床面から10-30cm高い1層には十和田a降下火山灰がごく微量含まれていた。〈壁〉南東壁で32cm、北東壁が31cm、北西壁で31cm程残存しており、何れも底面からやや外傾して立ち上がっている。〈床面〉ほぼ全面を貼床としており平坦で締まっている。〈カマド〉南東壁の東寄りに構築されている。カマド本体は暗褐色土・褐色砂質土などでつくられていたのだが芯材は未検出であった。燃焼部には67×64cm程の焼土がみられ、その周囲に土器が散乱していた。煙道部は煙出底部まで下のように斜りに貫かれ、無山部の埋土からは大小の河原石が多数検出された。〈柱穴〉床面から検出した7基の柱穴状土坑のなかでP486が本遺構に伴うと思われる。その他の柱穴状土坑については本住居跡に伴うかどうか判然としない。〈その他〉床面から土坑がカマド南側に隣接したところから柱穴が1基と北西壁際から1基検出されている。また煙出部の埋土から検出された多数の河原石は当時の開口部に積まれていたものが中に崩れ落ちたものと考えられる。〈遺物〉(第308図・写真図版303) 埋土及び床面から個体数にして土師器杯7点・高台付杯2点、赤焼杯7点、高台付赤焼杯2点、土師器甕約14点、須恵器杯2点、須恵器甕類2点、鉄滓?が1点出土している。カマド焚き口付近からは土師器甕類283・288が出土した。また本住居内に設けられたP i t 1からは赤焼杯227が、同じくP i t 2からは高台付赤焼杯281・282や土師器甕284などが出土している。〈時期〉平安時代。



RA288 キマド

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし、締まりあり。10YR4/4褐色砂質土。
25YR5/6暗赤褐色土上ブロック、炭化物ごく微量含む。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりあり。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性あり、締まりなし。
10YR4/4褐色砂質土、北端に25YR5/6に似た褐色の焼土ごく微量含む。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりなし。
25YR2/4ごく暗赤褐色土、炭化物ごく微量含む。摩大のレンガ遺跡部に多量含む。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り、締まりなし。
25YR4/6暗赤褐色土上ブロック、炭化物。10YR3/3暗褐色土、10YR4/4褐色砂質土ブロックごく微量含む。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り、締まりなし。
25YR4/6暗赤褐色土上ブロック、10YR3/3暗褐色土、10YR4/4褐色砂質土上ブロックごく微量含む。
7. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り、締まりなし。
25YR5/6暗赤褐色土上ブロック、炭化物片ごく微量含む。
8. 25YR5/6暗赤褐色土 粘性あり、締まり弱めて有り。
9. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR4/6褐色砂質土を含む。
10. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
10YK1/3暗褐色土ごく微量。10YR4/4褐色砂質土微量含む。
11. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR4/6褐色砂質土を含む。
12. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
10YK1/3暗褐色土ごく微量。10YR4/4褐色砂質土微量含む。
13. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
25YR4/6暗赤褐色土上ブロック、炭化物ブロックごく微量含む。
14. 10YR2/1黒褐色土 粘性、締まりあり。炭化物片ごく微量含む。
15. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り、締まりなし。
10YR3/3暗褐色土、暗褐色砂質土ごく微量含む。
16. 10YK3/2黒褐色土 粘性やや有り、締まりなし。
炭化物片 幾十枚。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。

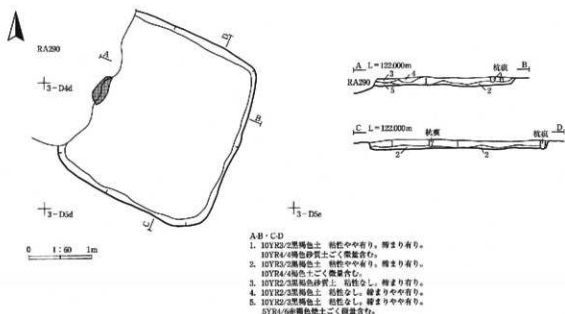
第78図 RA288壁穴住居跡(2)

RA289 竪穴住居跡 (第79図・写真図版59)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D3dグリッドに位置し、IV層で確認された。西側でRA290と重複する。本遺構との新旧関係は、遺構の切り合いからRA290よりも古い。<規模・平面形・方向>遺構の北側が重複することから全体形が不明確であるが、規模は2.4×2.3m、平面形は方形を呈し床面積は約6.0㎡である。<埋土>黒褐色を主体にした2層で構成され自然堆積の様相を呈する。<壁>浅く床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁12cm、東壁12cm、南壁11cmを測る。<床面>締まりがあり平坦で、貼床はない。<出土遺物>(第310図・写真図版305) 埴土及び床面から個体数で土師器杯3点・極小破片壺3点、須恵器甕2点、鉄滓が2点出土したがRA290の遺物が混入している。295土師器壺は奈良時代のもものかもしれない。また赤焼き杯293・294は、RA290との境から出土しているため本遺構に伴うかどうか判然としなかった。<時代>奈良時代か平安時代か不明である。

RA290 竪穴住居跡 (第80図・写真図版59・60)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D3cグリッドに位置し、IV層で確認された。遺構は、RA289とRG263とそれぞれ重複する。本遺構との新旧関係は、遺構の切り合いからRA289より新しくRG263より古い。<規模・平面形・方向>規模は4.0×3.9m、床面積約13.3㎡で平面形は方形を呈する。主軸方向は、S-70°-Eである。<埋土>黒褐色土を主体にした、自然堆積による2層で構成される。<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁31cm、東壁17cm、南壁31cm、西壁29cmを測る。東壁はRA289と接する為に低くなっている。<床面>締まりのある黒褐色土で、平坦である。貼床は住居全体にみられる。住居床面中央部に直径30cm、層厚4cmで暗赤褐色焼土がみられる。また、RG263の跡は、壁に



第79図 RA289竪穴住居跡

はあるが床面では検出されない。＜カマド＞南東壁の北寄りに位置し、本体の規模は55×75cmである。袖部南側は粘性のある黒褐色土と暗褐色土で造られているが、北側は長さ40cm前後の石を芯材に造られ、周囲にも石や土師器片が散乱する。燃焼部は、径50cmの円形、層厚5cmの暗赤褐色焼土ブロックと炭化物が石の下から検出される。割り貫き式の煙道部は、長さ1.2m、中層と下層は焼成による赤色変化を生じ、ややドリ勾配で煙出部に続いている。煙出部は、径30×32cm、深さ46cmの円筒形状に掘り込まれ、10cmの深さに土師器が投げ込まれている。＜柱穴＞3基検出されている。埋上は締まりがややある黒褐色土で、3%の褐色砂質土を含む。＜ピット＞2基検出されている。P i t 1は西コーナーにある楕円形のピットである。P i t 2は、東コーナー付近、1.0×0.7m、深さ20cmの楕円形で黒褐色土の埋土に炭片とにぶい橙色の焼土を3%ずつ含む。これに重なって東コーナーに30×55cmで廃棄焼土が広がる。カマドに関係したピットであろう。＜出土遺物＞(第311図・写真図版311) 埋土中及び床面から個体数で土師器8点、甕4点、須恵器甕1点、坏1点が出土したが、R A 289の遺物が混じっている可能性が高い。300の土師器環と307の土師器高台付環は、煙出上層から出土している。また、299の土師器環と308の赤焼環はR A 289との重複する付近から上向きと伏せた状態で、298の土師器環は上向きで形を留めた状態で出土した。また、他の土器片は、カマドの燃焼部とその周囲に散乱していた。＜時代＞平安時代。

R A 2 9 1 竪穴住居跡 (第81～83図・写真図版61～63) カマド多数

＜位置・重複関係＞本遺跡西側にあたる3-D10t区に位置しIV層面に検出された。RD629と重複し本住居のほうが古い。また本住居より新しい多数の柱穴も検出されている。＜規模・形態・方向＞検出面での規模は北東壁-南西壁が7.0m、北西壁-南東壁で7.6mを測り、平面形は隅丸長方形を早する。床面積は約47.7m²である。＜埋土＞黒褐色土を主体とした自然堆積の様相を早し、床面から0～20cm付近に堆積する1層の中には十和田a降下火山灰がごく微量含まれていた。＜壁＞全体的に残りが悪く北東壁で16cm、南西壁が20cm、北西壁では16cm、南東壁は24cmを測りやや外傾気味に立ち上がっている。＜床面＞ほぼ全面が貼床となっており平坦で硬く締まっている。＜カマド＞6基のカマドを検出した。

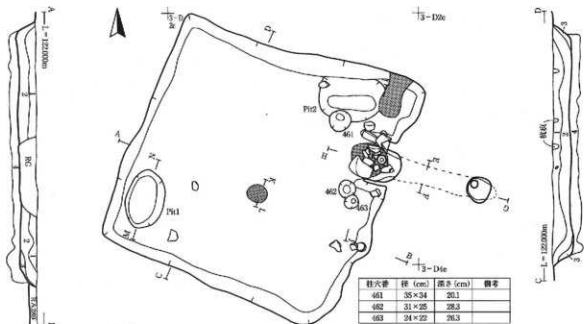
1号カマド：北東壁の東寄りに構築されていた。カマド本体は残存しておらず、焚き口と思われる場所付近の床面から45×40cmの範囲で焼土が検出されている。煙道部は割り貫き式で煙出し部の埋土内には自然礫が多く含まれていた。

2号カマド：南東壁の中央よりやや北側に設置されている。天井部は崩落しており、燃焼部には65×45cmの範囲で焼土が広がる。カマドの側壁には芯材に自然礫を使いそれを黄褐色土および褐色土で覆って構築している。煙道部は割り貫き式で燃焼部から煙出し底部へ緩やかに下っている。

3号カマド：南西壁の東寄り位置し、4号カマドと並んで設置されている。天井部及び袖部は確認できず燃焼部と思われる地点の床面から54×48cmの範囲で焼土を検出した。煙道部は割り貫き式でカマド本体部から煙出し底部へ緩やかに下るように構築されている。煙出し部の埋土中には多くの自然礫が含まれていた。

4号カマド：南西壁の東寄りに位置し、3号カマドと並んで設置されている。天井部は崩落し残存しない。燃焼部から焚き口と思われる部分には45×36cmの範囲で焼土の広がりを検出した。袖部には芯材に自然礫を用いそれを黄褐色土で覆って構築している。煙道部は割り貫き式でカマド本体部から煙出し底部へ緩やかに下がるようにつくられている。

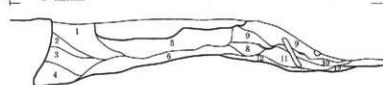
5号カマド：北西壁のほぼ中央に位置し、6号カマドの南側に設置されている。カマド本体部分は確認できず煙道部及び煙出し部のみを検出した。煙出し部は割り貫き式で煙出しの方向へ緩やかに下がるように構築されている。煙出し底部は煙道底部よりも10～20cm程深く掘り込んでつくられており、埋土内からは多数の



A,B,C,D

- 10YR2/3黒褐色土 粘性なし。締まり有り。10YR4/6褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性なし。締まり有り。Toaブロック含む。10YR4/6褐色土ブロックごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まりやや有り。西に10YR4/6褐色砂質土。ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まり有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。

G L=122,000m



I L=122,000m



E L=122,000m



K L=121,600m



0 1:30 50cm

K,F,G,H,I

- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。土片含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR4/3C-5C-1黄褐色土ブロック、ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。25YR3/6暗赤褐色土。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まり有り。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
- 25YR2/4暗褐色土。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
- 10YR4/4褐色砂質土。25YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
- 25YR4/8暗褐色土。粘性やや有り。締まりなし。10YR2/3暗赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性。締まり有り。10YR4/4褐色砂質土。25YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まりなし。25YR4/8暗赤褐色土ブロック。炭化物ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりなし。
- 10YR4/4褐色土。25YR3/6暗赤褐色土。炭化物ごく微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性。締まり有り。10YR4/4褐色砂質土。25YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 締まり有り。粘性やや有り。炭片、塵土。25YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 締まり。粘性やや有り。炭片ごく微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 締まり有り。粘性やや有り。10YR5/4C-1黄褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 締まり。粘性やや有り。10YR5/4C-1黄褐色土少量含む。
- 10YR2/3暗褐色土 締まり。粘性やや有り。塵土25YR3/6暗赤褐色土ブロックごく微量含む。

M,N

- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりなし。10YR4/4褐色砂質土ブロックごく微量含む。

K,L

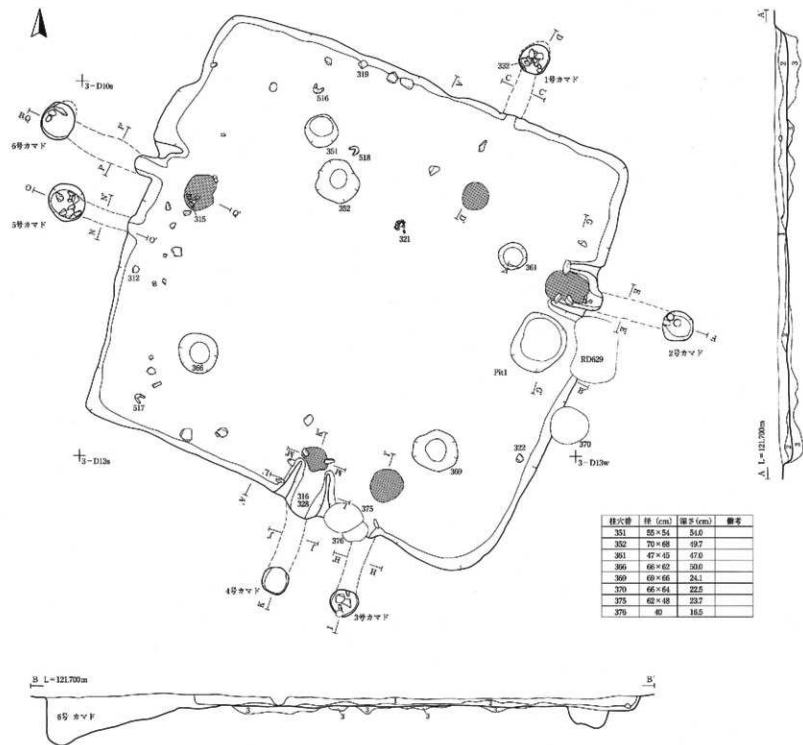
- 25YR3/6暗赤褐色土 粘性なし。締まり有り。
- 10YR4/4褐色砂質土 粘性。締まり有り。10YR2/3暗褐色土を含む。

第80図 RA290竪穴住居跡

自然礫が検出された。

6号カマド：北西壁のほぼ中央、5号カマドの北側に設置されている。天井部は崩落しており、燃焼部から焚き口と思われる部分にかけて焼土が33×25cmの範囲で広がる。袖部も黄褐色土の側壁が僅かに残存するのみである。煙道部は例り貫き式でカマド本体部から煙出し底部へ緩やかに下がるように構築されている。カマドの新旧関係 カマド本体部の残存状況から検出された6基のカマドは全てが同時期に使用されていたのではなく、最低でも2回以上のつくりかえが行われていたと思われる。隣接するカマド間で残りが良い方を新しいと仮定するならば、1号カマドが2号カマドに、3号カマドが4号カマドに、5号カマドが6号カマドにそれぞれつくりかえられたと推測される。

<柱穴> 5基の柱穴が検出されている。 <その他> 2号カマドの燃焼部南側に隣接して外径93×80cm程の土坑が床面から掘り込まれていた。 <遺物> (第312～314・333～335図・写真図版305・306・320・321) 埴土及び床面から個体数で土師器坏7点以上、赤焼き15点以上、土師器高台付坏1点、須恵器坏12点、土師器甕類12点、須恵器甕類3点、須恵器壺類1点が出土している。その場で原形を留めた状態で見つかるものは少なく、住居内に自然礫と共に多少散らばった状態で出土するものが多い。鋤先(516～519)も同一地点ではないものの床面近くから出土している。312の土師器坏は5号カマドから南側へ30cm程の床面付近から出土した。316赤焼き坏と328須恵器坏は4号カマドの燃焼部内から出土した。319の赤焼き坏は北東壁の中央やや北側に壁に接した状態で出土した。321の赤焼き坏は床面中央部北側からその場で潰れた状態で見つかった。322の赤焼き坏は南東壁の南側寄りの壁際から、332の土師器甕は1号カマドの煙出し部から自然礫と共に出土している。311・312の土師器坏には外面に墨書で「木」と書かれていた。また316の赤焼き坏の外面には線刻が施されているように見える。この他に鉄製品(537)が1点出土している。 <時期> 平安時代。



RA291

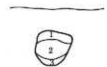
1. 10YR2/2黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
Top<>に磁器片有。
2. 10YR2/2黄褐色土 粘性中々有り。締まり有り。
10YR4/6暗褐色土・ブロンズ<>に磁器片有。
3. ホヱの土。5YR4/6赤褐色土。粘質やや有り。
締まりなし。2.5YR3/6暗赤褐色土<>に磁器片有。

第81図 RA291住居跡(1)

D L=121.700m



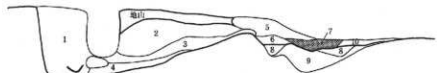
C L=121.700m



CC-D-D'

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
10YR4/6暗褐色砂質土ブロックごく微量含む。
地山との境界で25YR3/4暗赤褐色へ急変化。
2. 10YR3/3黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
10YR4/6暗褐色砂質土ブロックごく微量含む。
炭化物ごく微量含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
25YR2/4暗赤褐色土。炭化物ごく微量含む。
4. 25YR6/6暗褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
炭化物片ごく微量含む。
5. 25YR3/4暗赤褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
炭化物片ごく微量含む。

F L=121.700m



E L=121.700m



G L=121.500m



E-E'-F-F'-G-G'

1. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
25YR4/6暗褐色土ブロック。炭化物ごく微量含む。
2. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
3. 10YR3/3黒褐色土 粘性。締まりなし。
炭化物。粘土粒ごく微量含む。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりなし。
炭化物。粘土粒ごく微量含む。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
10YR4/6暗褐色砂質土。塊状 (25YR1/6)。ごく微量含む。
6. 10YR3/3黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
25YR4/6暗褐色砂質土。粘性有り。締まりやや有り。
黒褐色土 (10YR2/2) ごく微量含む。
7. 25YR4/6暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
黒褐色土 (10YR2/2) ごく微量含む。
8. 10YR3/3黒褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
9. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘性。締まり有り。
10YR4/6暗褐色砂質土を含む。
10. 10YR4/6暗褐色砂質土 粘性。締まりやや有り。
10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
11. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
25YR3/4暗赤褐色土ごく微量含む。
12. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR3/6暗褐色砂質土ごく微量含む。
13. 10Y2/2黒褐色土 粘性。締まり有り。
10YR4/6暗褐色砂質土ごく微量含む。
14. 10YR3/3暗褐色土 粘性。締まりやや有り。
炭化物片ごく微量含む。
15. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
10YR4/6暗褐色砂質土微量含む。

I L=121.600m



H L=121.600m

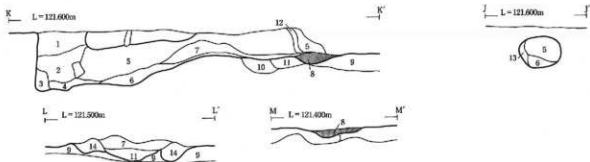


II-II'-I-I'

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
25YR4/6暗褐色砂質土ブロックごく微量含む。
4. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりなし。
10YR5/6黄褐色土ごく微量含む。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
25YR2/3暗赤褐色土ごく微量含む。
6. 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR2/3暗褐色土ごく微量含む。
7. 25YR4/6暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
炭化物ごく微量含む。
8. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR5/6黄褐色砂質土ブロックごく微量含む。
9. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
25YR2/3暗赤褐色土ごく微量含む。

0 1:30 50cm

第82図 RA291竪穴住居跡(2)



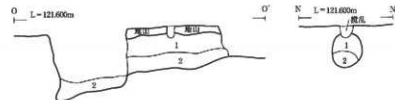
JF・KK'・LI'・MF

1. 10YR3/3暗褐色土 粘粒有り。締まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。崩出砂片含む。
2. 10YR2/4暗褐色土 粘粒有り。締まりやや有り。
3. 10YR2/4暗褐色土 粘粒有り。締まりやや有り。
- 10YR4/4褐色砂質土ブロッカごく微量含む。
4. 10YR3/3暗褐色土 粘粒有り。締まりなし。
10YR4/4褐色砂質土。炭化物ごく微量含む。
5. 10YR3/3暗褐色土 粘粒有り。締まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土。10YR2/2灰褐色土微量含む。
6. 10YR2/4暗褐色土 粘粒有り。締まりやや有り。
焼土粒。炭化物。10YR5/6黄褐色砂質土ごく微量含む。
7. 10YR3/3暗褐色土 粘粒。締まり有り。
8. 2.5YR6/4赤褐色焼土 粘粒なし。締まり有り。
9. 10YR3/2暗褐色土 粘粒有り。締まりやや有り。
10YR6/5黄褐色砂質土微量。炭化物。2.5YR3/2暗赤褐色焼土ごく微量含む。
10. 10YR2/4暗褐色土 粘粒有り。締まり有り。
11. 10YR3/4暗褐色土 粘粒。締まりやや有り。
2.5YR3/2暗赤褐色土焼土ごく微量含む。
12. 10YR3/3暗褐色土 粘粒。締まりやや有り。
13. 10YR3/3暗褐色土 粘粒有り。締まりやや有り。
10YR5/6黄褐色土微量含む。
14. 10YR6/5黄褐色土 粘粒なし。締まりやや有り。
2.5YR3/2暗赤褐色土微量含む。



PP・QQ'

1. 10YR2/2暗褐色土 焼土粒。炭化物わずかに褐色土粒含む。
2. 10YR3/2暗褐色土 粘粒。締まりやや有り。焼土粒。炭化物含む。
3. 10YR2/2暗褐色土 粘粒。締まりやや有り。焼土。炭化物ごく微量含む。
4. 5YR2/2灰褐色土 粘粒やや有り。締まり有り。焼土。炭化物顕在する。
5. 10YR3/1暗褐色土 粘粒。締まりやや有り。
炭化物ごく微量。5-10cmの厚さ含む。
6. 2.5YR6/4赤褐色土 粘粒有り。締まりなし。
2.5YR4/6赤褐色焼土ブロッカ。炭化物片ごく微量含む。
7. 10YR3/3暗褐色土 粘粒。締まり有り。
- 10YR2/2暗褐色土。10YR5/6黄褐色砂質土ごく微量含む。
8. 2.5YR4/6赤褐色土 粘粒やや有り。締まり有り。
炭化物片ごく微量含む。
9. 10YR5/6黄褐色砂質土 粘粒なし。締まりやや有り。
10. 10YR3/3暗褐色土 粘粒やや有り。締まりなし。



OO'・NN'

1. 10YR2/2暗褐色土 粘粒。締まりやや有り。
焼土粒。炭化物。褐色土粒ごく微量含む。
2. 10YR2/2暗褐色土 粘粒。締まりやや有り。
焼土。炭化物ごく微量含む。

0 1:30 50cm

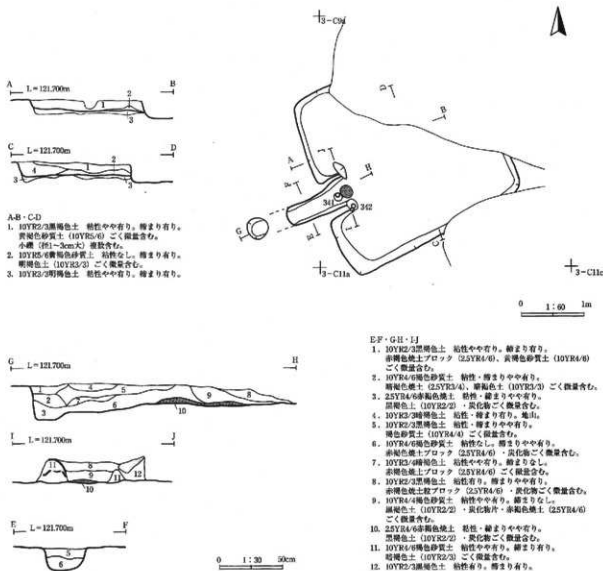
第83図 RA291竪穴住居跡(3)

RA292竪穴住居跡(第84図・写真図版64)

<位置・重複関係>調査区西側の3-C10a区に位置する。また、RD646、RA293とそれぞれ重複する。本遺構の重複関係は、遺構の切り合いから、RD646・RA293より古い。検出はIV層で確認されている。

<規模・平面形・方位> 遺構の北側でRA293と東側でRD646と重複することから、規模や平面形などの全容は不明である。確認できる部分については、規模は3×3mで平面形は兩丸方形を呈し、床面積は約7.3㎡ある。主軸方向はN-65°-Wである。<埋土>主に自然堆積による2層で構成される。1層

は粘性のある締まった黒褐色土で、2 cm程度の礫を含む黄褐色砂質土で暗褐色が混っている。南壁付近に暗褐色の層がみられる。〈壁〉床面からはほぼ垂直に立ち上がり、各壁の残存値は7~15cm前後を測る。壁溝なし。〈床〉はほぼ平坦で堅く締まっている。また、住居全体に10 cm程度の貼床がみられる。〈カマド〉西南壁の中央部分に設置されている。一部削平がみられることから、全体の構造は不明である。本体部は30×50cm、袖部は粘性がややある締まった褐色砂質土でつくられ、小礫等の混入が認められる。燃焼部は、径20cm位の楕円形で、層厚3~6cm、微量の炭化物を含む赤褐色焼土が形成されている。割り貫き式の煙道部の長さは1.8mで、やや下りながら煙出部に続いている。側壁の一部は焼成による赤色変化を生じ、わずかに炭化物を含んでいる。煙出部は径35×30cm（開口部）、深さ30cm程掘り込まれている。〈出土遺物〉（第314図・写真図版307）埋土中及び床面から個体数で土師器杯3点、甕5点、須恵器杯4点、甕1点が出土している。341の土師器甕はカマド本体焼土と煙道の間に、土師器長胴甕342は左袖部の先端に底部を上にした状態で出土した。他の土師器は、カマドの近くから破片で出土した。〈時代〉平安時代。



第84図 RA292竪穴住居跡

RA293 竪穴住居跡 (第85・86図・写真図版65)

<位置・重複関係>調査区西側の3-C8b区に位置し、RA292とRD809とそれぞれ重複する。本遺構の重複関係は、遺構の切り合いから、RA292より新しく、RD809より古い。IV層で検出された。<規模・平面形・方向>遺構の東側が調査区外であることから、正確な規模や平面形などの全容は不明である。確認される部分については、規模は西6.65×南北6.6m、平面形は隅丸方形を呈している。床面積が約40.7m²で主軸方向は、N-73°-Wである。<埋土>褐色土を主体とし、自然堆積による3層で構成される。下層ほど砂質土との混合割合が多い。<壁>床からなだらかに立ち上がっている。各壁中央部の残存値は、南側26cm、北側33cm、西側23cm、東側コーナー付近は21mである。<床面>ほぼ平坦で堅く締まっている。基本的に暗褐色であるが、所々に褐色砂質土が混じり合っている。住居全体に10~20cmの貼床がみられる。また、床の中央部に1.5×1.65m、層厚5~8cm、締まりも粘性もややある赤褐色の焼土層がある。位置から廃棄された焼土と考えられる。<カマド>西壁の中央部に設置されており、上部の一部が削平されていることから、天井部の構造は不明である。本体の規模は80×60cmで、袖部は締まりのある灰黄褐色土でつくられ、中に小礫や土師器片が入れられている。燃焼部は60×65cmの楕円形で層厚7mmの暗赤褐色焼土が形成されている。割り貫き式の煙道部は、長さ2m、ほぼ真直ぐに煙出部に続いている。煙出部は、径50cm(開口部)、深さ57cm程掘り込まれており、その中に10~15cm大の小礫を含んでいる。<柱穴>住居内から6基検出されている。埋土は、堅く締まった粘性のややある暗褐色で、黒褐色と黄褐色砂質土を各10%含む。このうち、99-104-91、94-103-92は平面形と住居内の配置が似ており、また99-94、104-103、92-91は主になる柱とそれを支える柱とみられ、住居にともなう柱穴と考えられる。

<ピット>カマドの南側から1基検出している。平面形は楕円を呈し、埋土は黒褐色が中心で締まり、粘性ともややある。下層程、黄褐色土を含む。西壁際から土師器片と土師器を出土する。<出土遺物>(第315図・写真図版307・308) 埋土中及び床面から個体数で土師器片3点、甕3点、須恵器4点が出土した。351の土師器甕は床面に伏せた状態で置かれていた。344・345・348の土師器片は、いずれも南西コーナー付近、RA292との境からほぼ整った形で出土した。他の甕や坏は、カマド周辺やP i l lの埋土中や周辺から破片の状態で出土している。344・345の土師器片には墨書で346の赤焼坏には線刻で「木」と書かれている。

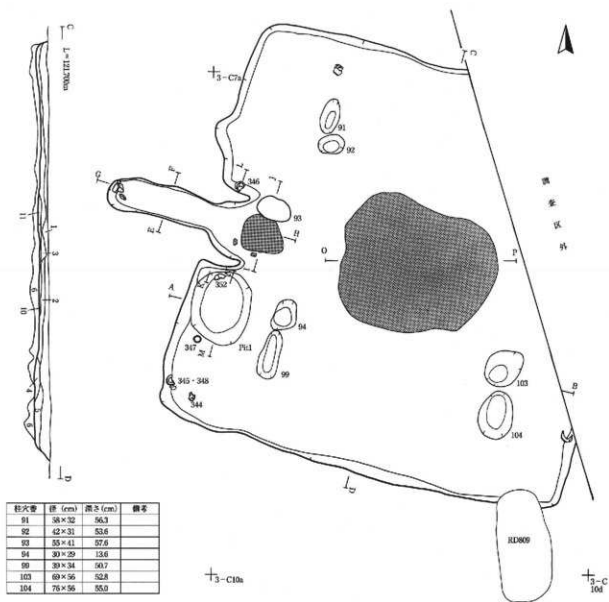
<時期>平安時代。

RA294 竪穴住居跡 (第87・88図・写真図版66)

<位置・重複関係>調査区西側の3-C21d区に位置する。IV層で確認された。<規模・平面形・方向>規模は7.1×6.9m、平面形は隅丸方形を呈し床面積は約44.0m²ある。主軸方向は、N-80°-Wである。

<埋土>締まりはあるが粘性のない黒褐色土を主体とした自然堆積でよいと思われる。<壁>床面から緩やかに立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁12cm、東壁19cm、南壁12cm、西壁16cmを測る。近世建物跡の柱穴が、特に東側の部分で住居の壁と切り合っているため、壁と床、壁と地山の境がはっきりしない部分がある。<床面>貼床が住居全体にみられる。埋土は、暗褐色土と褐色砂質土の混合土である。

<カマド>西壁中央部分に位置し、本体の規模は50×80cmである。袖部は締まりのあるにぶい黄褐色土で造られ、芯材の使用はない。燃焼部には、径45×35cm、層厚3cm、2cm前後の小礫を多く含む極暗赤褐色の焼土が形成されている。煙道部は掘り込み式で長さは1.2m、急勾配で煙出部に続く。煙道の側壁部分は黒褐色土であるが、ブロック状の極暗赤褐色焼土や炭化物を下層に含む。<柱穴>住居内では7基検出される。位置、平面形と埋土の状態から2組に分かれ、住居の施設に関係したものとみられる。<出土遺物>(第315・316図・写真図版308) 埋土中及び床面から個体数で土師器片7点、甕6点、須恵器片2点、壺1点、



柱穴番	径 (cm)	高さ (cm)	備考
91	36×32	56.3	
92	42×31	53.6	
93	55×41	27.6	
94	30×29	13.6	
99	39×34	50.7	
103	69×56	52.8	
104	76×56	55.0	



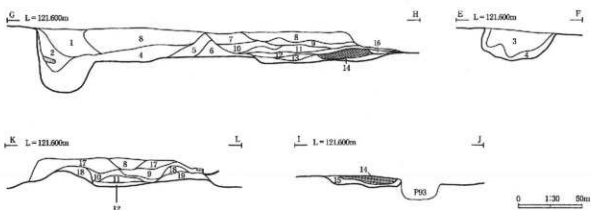
- RA293 Pit
- 10YR3/2 締まり、黏性やや有り。
 - 10YR3/2 締まり、黏性やや有り。
 - 10YR3/4 赤い黄褐色土ごく微量含む。
 - 10YR5/4 締まりやや有り、黏性なし。
 - 10YR3/2 黄褐色土ごく微量含む。

- (RA321) RA293 べら
- 10YR2/2 黄褐色土 黏性やや有り、締まり有り。炭化薄片ごく微量含む。
 - 10YR3/2 黄褐色土 黏性、締まりやや有り。
 - 10YR4/4 褐色砂質土ごく微量含む。
 - 10YR3/2 黄褐色土 黏性なし、締まりやや有り。
 - 25YR4/6 赤褐色土ごく微量含む。
 - 10YR4/4 褐色砂質土 黏性、締まりやや有り。
 - 10YR3/2 黄褐色土ごく微量含む。
 - 10YR2/2 黄褐色土 黏性、締まりやや有り。
 - 10YR5/6 黄褐色土 中々帯状に少量含む。
 - (はりゆか) 10YR4/4 褐色砂質土 黏性やや有り、締まり有り。10YR2/2 黄褐色土、10YR3/3 黄褐色土、ごく微量含む。

- 10YR4/4 褐色砂質土 黏性やや有り、締まり有り。
- 10YR3/4 黄褐色土 微量含む。
- 10YR3/2 黄褐色土 黏性なし、締まり有り。
- 25YR4/6 赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR4/4 褐色砂質土 黏性、締まりやや有り。
- 10YR2/2 黄褐色土 黏性やや有り、締まり有り。
- 25YR4/6 赤褐色土プロット、炭化物、ごく微量含む。

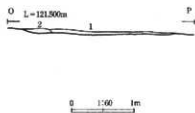


第85図 RA293竪穴住居跡(1)



E-F・G-H・I-J・K-L

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
2. 10YR2/4 粘性やや有り。締まり有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
4. 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性。締まりやや有り。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
5. 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性。締まりやや有り。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
7. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
8. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。
9. 10YR5/4にぶい黄褐色土ブロック。ごく微量含む。
10. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
11. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。25YR3/6暗赤褐色土ブロック。ごく微量含む。
12. 25YR3/6暗赤褐色土 粘性なし。締まりやや有り。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
13. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。25YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
14. 25YR3/6暗赤褐色土 粘性なし。締まりやや有り。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
15. 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性なし。締まりやや有り。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
16. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。25YR3/6暗赤褐色土 10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
17. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
18. 10YR4/2赤褐色土 粘性なし。締まり有り。
19. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性なし。締まりやや有り。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。



O-P

1. 25YR4/6赤褐色土 粘性。締まりやや有り。10YR2/2黒褐色土（灰片）少量。10YR2/2黒褐色土少量。25YR6/6暗赤土ごく微量含む。
2. 10YR3/2 粘性。締まりやや有り。25YR6/6赤褐色土ブロック。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。

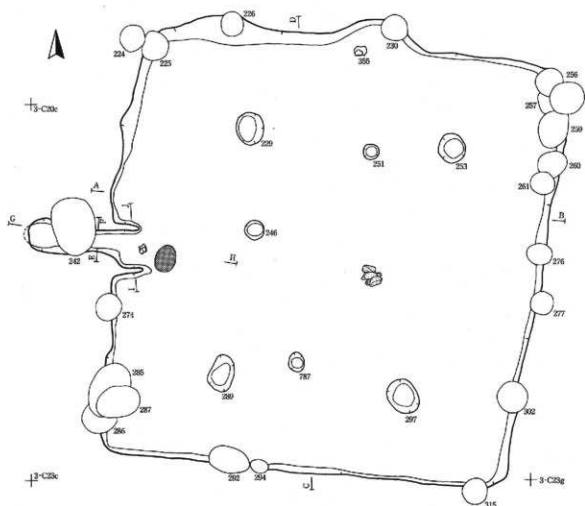
第86図 RA293竪穴住居跡(2)

堖1点が出土した。整った形での出土物はなく、破片で出土している。 <時代>平安時代。

RA295 竪穴住居跡 (第89図・写真図版(7))

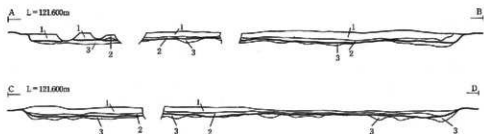
<位置・重複関係>調査区西側3-C24a区に位置する。IV層で確認され、RG255と重複し、本遺構はRG255より古い。 <規模・平面形・方向>規模は5.1×5.2m、平面形は隅丸方形を呈し床面積は約24.4m²である。主軸方向は、N-16°-Eである。 <土質>黒褐色を主体にした2層で構成される。上層に、流れ込んだ十和田aを少量含む。 <壁>各壁中央部の残存値は、北壁20cm、東壁10cm、南壁10cm、西壁16cmを測る。壁は低い床からほぼ垂直に立ち上がる。壁溝はない。 <床面>全体に厚さ2~12cmの貼床がみられる。埋土は締まりがあるが、重複する溝や攪乱の為か、いろいろな土や小礫が多い。 <カマド>新旧2つのカマドが検出されている。

1号カマド(新) 北壁東側に位置し、本体の規模は60×60cm、燃焼部は40×45cm、層厚10cmの極暗赤褐色



A-B・C-D

1. 10YR3/2 黄褐色土 粘粒なし、腐まり有り。
 2. 10YR3/2 黄褐色土 粘粒なし、腐まり有り。
 3. 10YR3/2 黄褐色土 粘粒やや有り、腐まり有り。
- 褐色砂質土 (10YR4/0)・小礫 (径2-5cm) 少量含む。



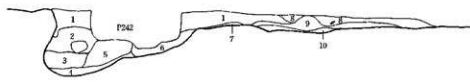
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考	柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考	柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
224	47×41	17.3		227				287	78×50	46.8	
225	48×44	14.3		228	58×53	39.7		289	56×42	39.5	
226	40×36	43.5		229	64×47	21.6		292	60×40	26.2	
229	51×44	28.5		260	49×41	21.1		291	39×31	14.2	
230	44×42	18.9		261	38×27	12.5		297	45		
242	96×68	30.7		271	45×42	33.6		302	51×50	15.3	
246	34×32	22.6		276	42×35	18.6		315	42×41	20.4	
251	27×26	22.1		277	49×38	20.5					
253	49×35	22.4		285	88×58	33.3					
256	46	17.4		286	55	15.6					

0 1:00 1m

第87図 RA294竪穴住居跡(1)

C. 1 = 121.600

H



I. 1 = 121.600

J

H

F



F・G・H・J

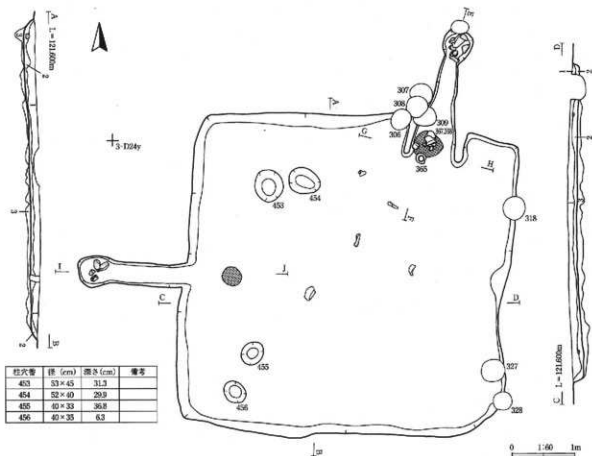
1. 10YR3/2黒褐色土 粘状・締まりやや有り。赤褐色土 (5YR4/6) ごく微量含む。
2. 10YR4/2黒褐色土 粘状・締まりやや有り。5YR4/6赤褐色土、2.5YR4/4に濃い赤褐色土ごく微量含む。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘状・締まりやや有り。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘状有り。締まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土、焼土、灰、ごく微量含む。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土、2.5YR5/9明赤褐色土ブロック、炭化物ごく微量含む。
7. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
8. 10YR2/2黒褐色土 粘状やや有り。締まり有り。2.5YR5/9明赤褐色土ごく微量含む。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土、2.5YR5/9明赤褐色土ブロックごく微量含む。
10. 10YR2/2黒褐色土 粘状有り。締まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
11. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
12. 10YR2/3黒褐色土 10YR4/6褐色土との混合土。粘状やや有り。締まり有り。

第88図 RA294竪穴住居跡(2)

焼土が構成され、焼土付近には土師器や土師器片が散らばる。袖部は、柱穴に切られ完全ではないが、締まりのある黒褐色土と褐色土の混合土からなる。煙道部は長さ1.2m、朝り貫き式で煙出部に続く。煙道下層は熱により赤変し、焼土や炭化物を含む。煙出部は径45cm、深さ45cm、埋土中層に石や土師器片が入っている。2号カマド(古) 西壁中央に位置し、方向はN-87°-Wを測る。RG 255の下から検出されたため、袖部や本体部がはっきりしない。焼土は、西壁から50cmのところに、直径30cm層厚5cm、暗赤褐色土で残っている。煙道部の形は不明、長さは1.4m、緩やかに下りながら煙出部に続く。上層部から焼土や炭片が検出されることから、かなり溝により削平されていると考えられる。煙出部は直径30cm、深さ30cm、新しいカマド同様に石や土師器片が入り込んでいる。

<柱穴> 4基検出された。平面形、埋土の様子や位置から見て、住居に関係したものと考えられる。

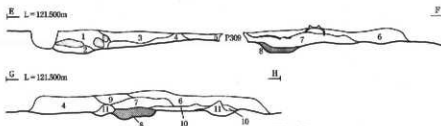
<出土遺物> (第316・317・335図・写真図版308・321) 埋土中及び床面から個体数で土師器坏9点、高台坏6点、甕8点、須恵器坏3点、甕2点、鉄製品(538)1点が出土している。367・368の土師器甕は北側のカマド本体燃焼部中央に大きな破片で、365の土師器高台付坏は伏せた状態で北側カマド燃焼部南側から出土している。他の遺物は埋土からの出土が多い。365の土師器高台付坏の外面には「木」と篆刻されていた。 <時代>平安時代。



坑穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
453	53 × 45	31.3	
454	52 × 40	20.9	
455	40 × 33	36.8	
456	40 × 35	6.3	

A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり有り。
 10YR黄褐色砂質土ブロックを散見含む。
 2. 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 10YR5/6黄褐色土を散見含む。
 3. 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 10YR5/6黄褐色土を散見含む。



RA295 遺跡 R/C202 2号カマド 1J

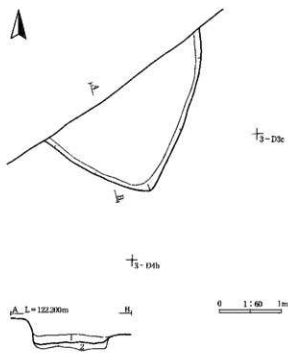
1. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
 25YR4/6赤褐色土。10YR3/1黒褐色土。ごく散見含む。
 2. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
 3. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
 25YR4/6赤褐色土ブロック。10YR3/1黒褐色土ごく散見含む。
 4. 10YR2/2粘性。締まりやや有り。10YR5/6黄褐色土ごく散見含む。
 5. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
 6. 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 7. 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 6層の境で25YR2/2暗赤褐色土。赤変色。
 8F・G-H
 1. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。赤褐色土ごく散見含む。
 2. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。赤褐色土。にびい赤褐色土ごく散見含む。
 3. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
 4. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
 5. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色砂質土。焼土。炭ごく散見含む。
 6. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。10YR2/2締まりやや有り。
 褐色砂質土。明赤褐色土ブロック (2.5YR5/6)・炭化物ごく散見含む。
 7. 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色砂質土ごく散見含む。
 8. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。明赤褐色土ごく散見含む。
 9. 10YR2/3暗褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
 褐色砂質土。明赤褐色土ブロック (2.5YR5/6) ごく散見含む。
 10. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色砂質土ごく散見含む。
 11. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。褐色砂質土ごく散見含む。
 12. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。褐色砂質土との混合土。



第89図 RA295竪穴住居跡

RA296 竪穴住居跡 (第90図・写真図版68)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D2a区に位置し、IV層で確認された。重複関係は、遺構の全容が明確にならない為、不明である。<規模・平面形・方向>南側部分以外は調査区外であることから、平面形の全容は不明である。確認される規模は、西南壁1.85m、東南壁2.75mである。西南のコーナーは隅丸を呈している。主軸方向は不明。<埋土>自然堆積による黒褐色砂質土を中心とした2層で構成される。<壁>検出された部分については、床から緩やかに立ち上がる。各壁中央部の残存値は西南壁12cm、東南壁10cmである。<床面>締まりがあり平坦である。検出された部分については、6~12cmの厚さで貼床がみられる。<出土遺物>流れ込みか、縄文土器の破片が1片あった。<時代>平安時代。

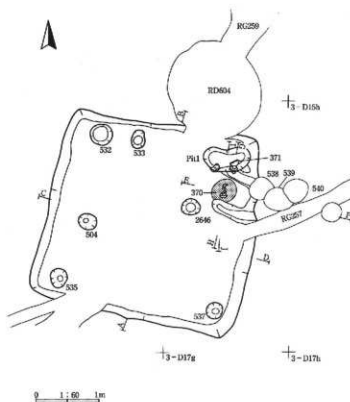


A-B
1. 10YR3/2黒褐色砂質土 粘性なし、締まりあり。
2. 10YR3/2黒褐色砂質土 粘性なし、締まりあり。
高松市(10YR3/4) 堀原遺跡出。

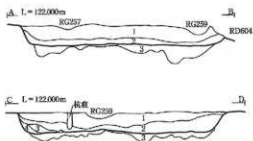
RA297 竪穴住居跡 (第91図・写真図版69)

<位置・重複関係>調査区西側3-D15g区に位置し、IV層で確認された。溝2本、上坑1基と重複する。本遺構の重複関係は、遺構の切合から、RG257、RG259、RD604よりも古い。<平面形・規模・方向>規模は3.3×3.17m、方形プランを呈し床面積は約8.76㎡で主軸方向は、S-70°-Eである。北壁の一部がRD604と重複し不明である。<埋土>黒褐色土を主体とした自然堆積による2層で構成される。<壁>床面からはほぼ垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁16cm、東壁32cm、南壁30cm、西壁29cmと北壁以外は残りがよい。<床面>締まりがややある黒褐色土で覆われているが、一部褐色土が混じる部分もある。貼床は住居全体にみられ、深さ1~26cm、壁際ほど深い。土師器片は、カマド燃焼部と袖部外側にみられる。<カマド>東壁北寄りに位置する。煙道部が溝との重複のためはっきりしない。本体の規模は44×61cmで、袖部は粘性も締まりもある黒褐色土で造られている。土師器片や小礫はみられるが、芯材に使用したものではないようである。燃焼部は径38×40cmの槽円形状の広がりで厚さ約6cmの焼土が形成されている。朝り貫き式の煙道部は、長さ1.1mでやや下り勾配で煙出部に続く。下層の一部には微量の炭片と焼土が含まれる。煙出部は30×38cm(開口部)、深さ70cm程掘り込まれ、底には直径10cmの石が2個投げ込まれている。<柱穴>6基検出されている。埋土はいずれも黒褐色土で砂質である。カマド付近の柱穴からは炭片が検出されている。規模はほぼ同じ、位置的にみても住居に関する柱穴と考えられる。<ピット>カマド袖部脇に1基検出された。埋土は締まりのややある黒褐色土だが、下層に赤褐色焼土ブロックや炭片を含む。本住居跡に関係したピットと考えられる。<出土遺物>(第317図・写真図版308)埋土中及び床面から個体数で土師器環5点、甕2点、須恵器環2点、甕1点が出た。370の赤焼環はカマド付近から出土し、赤焼杯371はカマドの左袖部分と1号土坑の埋土中から出土した。<時代>平安時代。

第90図 RA296竪穴住居跡

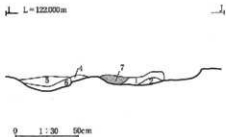
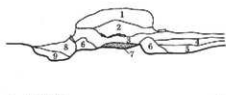
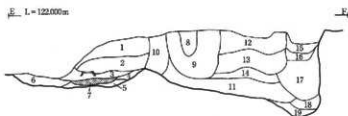


柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
S32	25×34	10.8	
S33	32×19	14.9	
S34	31×25	19.6	
S35	30×25	18.9	
S37	28×26	14.7	
S38	41×36	16.0	
S39	39	47.3	
S40	39×37	30.4	
2646	30×26	12.2	



A-B・C-D

1. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし、締まり有り。
2. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし、締まりやや有り、ごく微量含む。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし、締まりやや有り、10YR4/6褐色土を、ごく微量含む。
4. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り、10YR3/2黒褐色土を、少量含む。
5. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、10YR4/6褐色土を少量含む。



E-F・G-H・I-J

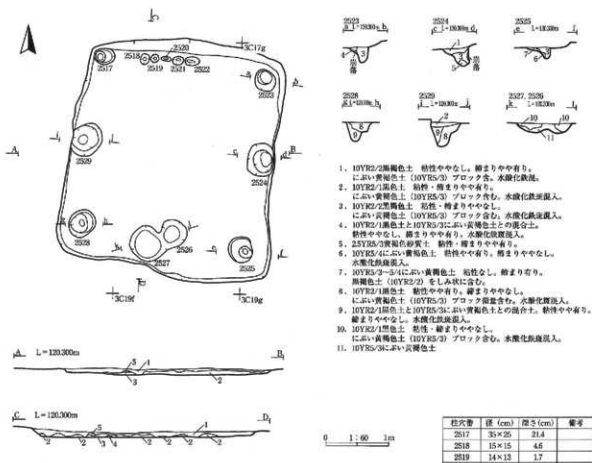
1. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし、締まり有り。10YR6/6赤褐色土、ごく微量含む。
2. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし、締まり有り。10YR6/6赤褐色土、粘土ブロック、ごく微量含む。
3. 10YR4/6褐色土 粘性、締まりやや有り。
4. 10YR4/6褐色土 粘性なし、締まりやや有り。
5. 10YR4/6褐色土 粘性なし、締まり有り。10YR3/2黒褐色土、ごく微量含む。
6. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし、締まり有り。
7. 2.5YR3/6暗赤褐色土、粘性なし、締まり有り。
8. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り、締まりなし。柱穴あたり部分。
9. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。柱穴まわり部分。
10. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
11. 10YR5/6黄褐色土 粘性有り、締まりやや有り、ごく微量含む。
12. 10YR4/6褐色土 粘性やや有り、締まり有り。10YR5/6黄褐色土、ごく微量含む。
13. 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り、締まり有り。10YR3/2黒褐色土、ごく微量含む。
14. 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り、締まり有り。10YR3/2黒褐色土、ごく微量含む。
15. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
16. 10YR5/6黄褐色土 粘性、締まりやや有り。
17. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
18. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り、締まりやや有り。
19. 10YR5/6黄褐色土 粘性、締まりやや有り。2.5YR4/6赤褐色土、ごく微量含む。

第91図 RA297竪穴住居跡

2 中世の竪穴建物跡

RA224 竪穴建物跡 (第92図・写真図版70)

<位置>東側調査区東側3Cグリッドに位置している。検出はIV層上面で、方形の黒色土の広がりによって確認されている。遺構の大部分は削平を受けており、床面近くが僅かに残存するのみである。<平面形・規模>平面形は多少歪みのある隅丸方形を呈し、規模は3.84×3.42mである。<埋土>大きく3層に分けられ、全体に水酸化鉄の混入が確認される。1層は黒色土で炭と灰黄褐色土ブロックを含有し、やや締まっている。2層はにぶい黄褐色土で黒色土ブロックを含有し、やや締まっている。3層は暗オリーブ灰色粘土とにぶい黄褐色砂質土との混合土である。4層は暗オリーブ灰色粘土の層で、ブロックで堆積している。<壁・床>壁は削平を受けている事から全体的に低く、床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は東壁6cm、西壁6cm、南壁6cm、北壁12cm前後である。床は一部で凹凸が見られるが、概ね平坦である。中央部付近は堅く締まっている。<柱穴>壁際に平面形が円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が1基検出している。P2517、2523、2524、2525、2528、2529は主柱穴と思われ、四隅と東西中央に1基ずつ確認されてい



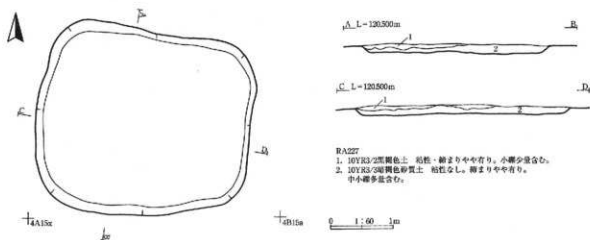
- 10YR2/2黒褐色土 粘性ややなし。締まりやや有り。にぶい黄褐色土(10YR5/3)ブロック含む。水酸化鉄混入。
- 10YR2/1黒色土 粘性・締まりやや有り。にぶい黄褐色土(10YR5/3)ブロック含む。水酸化鉄混入。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりややなし。にぶい黄褐色土(10YR5/3)ブロック含む。水酸化鉄混入。
- 10YR2/1黒色土と10YR5/3にぶい黄褐色土との混合土。粘性ややなし。締まりやや有り。水酸化鉄混入。
- 2.5YR5/3黄褐色砂質土 粘性・締まりやや有り。
- 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。水酸化鉄混入。
- 10YR5/4-3/4にぶい黄褐色土 粘性なし。締まり有り。黒褐色土(10YR2/2)を少し含む。
- 10YR2/1黒色土 粘性やや有り。締まりややなし。にぶい黄褐色土(10YR5/3)ブロック混入。水酸化鉄混入。
- 10YR2/1黒色土と10YR5/3にぶい黄褐色土との混合土。粘性やや有り。締まりややなし。水酸化鉄混入。
- 10YR2/1黒色土 粘性・締まりややなし。
- 10YR5/3にぶい黄褐色土(10YR5/3)ブロック含む。水酸化鉄混入。

KA224

- 7.5YR2/1黒色土 粘性・締まりやや有り。
- 灰黄褐色(10YR5/2)ブロックを凝結含む。炭を含む。水酸化鉄混入。
- 10YR5/3にぶい黄褐色土 粘性・締まりやや有り。黒色土(7.5YR2/1)ブロック含む。水酸化鉄混入。
- 2.5GY2/1暗オリーブ灰色粘土と10YR5/3にぶい黄褐色砂質土との混合土。
- 2.5GY2/1暗オリーブ灰色粘土の層。
- 水酸化鉄 ブロックで散在。

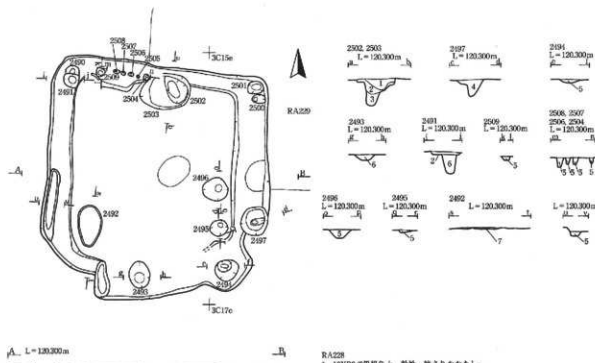
柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	番号
2517	35×25	21.4	
2518	15×15	4.6	
2519	14×13	1.7	
2520	6×16	2.8	
2521	17×17	37	
2522	14×23	13.9	
2523	45×31	21.1	
2524	55×42	50.8	
2525	65×45	25.9	
2526	40×46	21	
2527	60×37	16	
2528	40×41	33.7	
2529	63×56	49.1	

第92図 RA224竪穴建物跡



- RA227
- 10YR2/2-3黒褐色土 粘性・締まりやや有り、小礫少量含む。
 - 10YR3/3-4暗褐色砂質土 粘性なし、締まりやや有り、中小礫多量含む。

第93図 RA227竪穴建物跡



- RA228
- 10YR2/3-4黒褐色土 粘性・締まりややなし。
黄褐色土 (10YR5/6) ブロックを含む。粘土混合土。
 - 10YR2/3-4暗褐色土と10YR3/6-7暗褐色土との混合土。
粘性やや有り。締まりややなし。
 - 10YR2/3-4黒褐色土 粘性やや有り、締まりややなし。
黄褐色土 (10YR5/6) ブロック少量含む。
 - 10YR2/3-4暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
に濃い黄褐色土 (10YR5/3-10YR7/3) ブロック含む。水酸化鉄塊混入。
 - 10YR2/3-4黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
に濃い黄褐色土 (10YR5/3-10YR7/3) ブロック含む。黄褐色土。
水酸化鉄塊混入。
 - 10YR3/4暗褐色土 粘性・締まりややなし。
褐色土 (10YR4/6) ブロック含む。
 - 10YR2/3-4黒褐色土 粘性ややなし、締まりやや有り。
に濃い黄褐色土 (10YR5/3) ブロック含む。粘土・炭を多量に含む。
径10-30mmの礫含む。

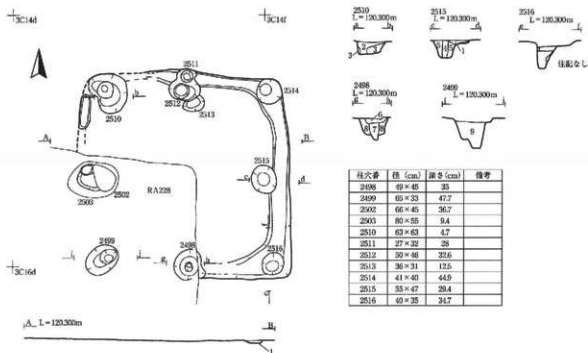
柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
2492	20×22	9	
2493	25×24	28.7	
2494	71×40	3.6	
2495	58×25	8.9	
2496	36×23	5.4	
2497	30×26	14.2	
2498	41×27	13.2	
2499	47×43	26.3	
2500	30×14	22.3	
2501	25×20	9.7	
2502	66×45	26.7	
2503	80×55	9.4	
2504	10×8	9	
2505	5×7	3.1	
2506	6×9	10.6	
2507	8×6	10.6	
2508	5×12	14.6	
2509	12×14	6	

第94図 RA228竪穴建物跡

る。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は東側では黒褐色土、西側では黒色土主体で構成され、あまり締まっている。北壁際には径約13～23cmの小ピットが5基確認されている。〈土坑〉P2526、2527の1基で、平面形は8字状を呈す。規模は開口部93×58m・深さ21cmである。〈遺物・時期〉遺物は出土していないが、形態や頻例などから中世に属すると思われる。

RA227 竪穴建物跡 (第93図・写真版71)

〈位置〉東側調査区南側の4Aグリッドに位置している。検出面V層上面で、黒褐色土の広がりによって確認されている。遺構は削平を受けており、床面近くの壁が僅かに残存するのみである。〈平面形・規模〉平面形はやや歪みのある隅丸長方形を呈し、規模は3.43×3.01mである。〈埋土〉2層で構成され、全体に小礫を含む。1層は黒褐色土、2層は暗褐色砂質土で2層ともやや締まっている。〈壁・床〉壁は水田耕作等による削平を受けているため低く、床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は東壁14cm、西壁10cm、南壁12cm、北壁12cm前後である。床は一部で凹凸が見られるほかは、ほぼ平坦である。〈柱穴・土坑・他の施設〉検出されない。〈遺物・時期〉遺物は出土しなかった。時期は形態や頻例などから中世に属すると思われる。



RA229

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。にがい黄棕色土 (10YR6/3～7/3) ブロック状、黄緑黄赤。水酸化鉄混入。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりややなし。褐色砂質土 (10YR4/6) ブロック含む。黄土混入量多。
3. 10YR4/6褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。黒褐色土 (10YR2/3) ブロック含む。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。褐色砂質土 (10YR4/6) ブロック微量含む。水酸化鉄混入。

5. 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。締まりややなし。黒褐色土 (10YR2/3) ブロック含む。黄褐色を含む。
6. 10YR2/2黒褐色土と10YR4/6褐色土との混合土。粘性やや有り。かたまり締まっている。7. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。褐色土 (10YR4/6) ブロック含む。
8. 10YR2/3暗褐色土と10YR2/6にがい黄褐色土との混合土 粘性有り。締まりやや有り。水酸化鉄混入。
9. 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。黄褐色土 (10YR5/6) ブロックを含む。

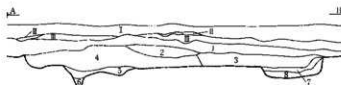
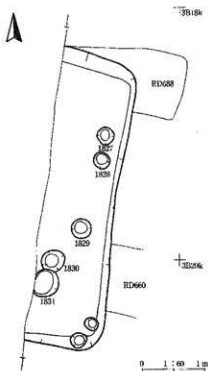
第95図 RA229 竪穴建物跡

RA228 竪穴建物跡 (第94図・写真図版72)

<位置・重複関係>東側調査区東側3Cグリッドに位置している。RA229竪穴建物跡と重複しており、当遺構が切っている事から、新旧関係は、(新)RA228竪穴建物跡→(旧)RA229竪穴建物跡である。検出面はIV層上面である。遺構は水田耕作等による削平を受けており、周溝(状の落ち込み)と柱穴が確認できただけである。<平面形・規模>平面形は南側に張り出し部を有し、隅丸形状を呈すると思われる。残存部分の規模は3.81×3.58mである。<埋土>削平のため不明である。<壁・床>壁は削平を受け残存していない。周溝の内側はほぼ平坦で、中央部付近は堅く締まっている。<柱穴>壁際を中心に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が16基検出している。規模は径最小5～最大82cm、深さは3～37cmである。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土～暗褐色土主体で構成される。<その他の施設>2492は黒褐色土に廃棄されたと思われる焼土と炭が多量に確認された箇所である。掘り込みは非常に浅く、最大でも3cm程である。<遺物・時期>遺物は出土していないが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA229 竪穴建物跡 (第95図・写真図版72)

<位置・重複関係>東側調査区東側3Cグリッドに位置している。RA228竪穴建物跡と重複しており、当遺構が切られている事から、新旧関係は(新)RA228竪穴建物跡→(旧)RA229竪穴建物跡である。検出面はIV層上面である。遺構は水田耕作等による削平を受けており、周溝(状の落ち込み)と柱穴が確認できただけである。<平面形・規模>確認できる平面形は方形を呈し、規模は3.46×3.27mである。<埋土>削平のため不明である。<壁・床>壁は削平を受け残存しない。床面と思われる周溝の内側は概ね平坦で、目立った凹凸は確認されていない。<柱穴>壁際に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が11基検



RA232

- 10YR2/2黒褐色土 粘りなし、締まり有り。
に多い黄褐色土(10YR5/4)程、炭少量含む。水酸化鉄皮混入。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性なし、締まり有り、黄褐色土(10YR5/5)散含む。
焼土粒少量、炭少量含む。
- 10YR2/1黒土 粘りややなし、締まり有り。
に多い黄褐色土(10YR5/4)程少量含む。炭少量含む。水酸化鉄皮混入。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り、締まりなし。
黄褐色土(10YR5/5)程少量含む。炭、内色粘土少量含む。
- 10YR2/2黒褐色土と10YR5/6黄褐色土との混合土 粘性やや有り、締まり有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り、径30mm程度の高砂石を多量含む。
- 10YR2/1黒土 粘性・締まり有り。
に多い黄褐色土(10YR5/4)プロット少量含む。水酸化鉄皮混入。
- 10YR2/1黒土上層土 粘性にとも、締まりやや有り。

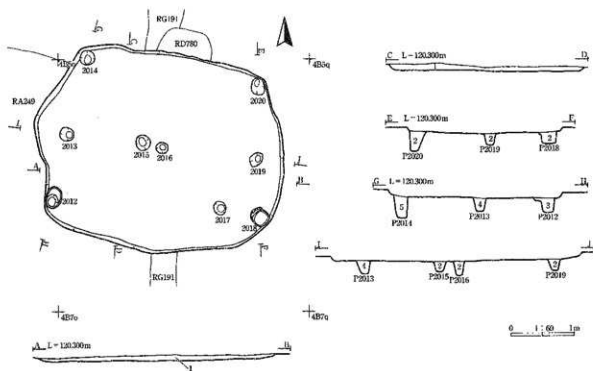
柱穴番号	径(cm)	深さ(cm)	備考
1827	28×27	23.4
1828	28×25	12.8
1829	20×29	18.8
1830	35	14.2
1831	45×41	29
1832	22×18	5
1833	23×24	31.5

第96図 RA232竪穴建物跡

出している。P2510~2516、2498、2499、2503、2502は主柱穴と思われる、四隅と壁間中央に1基ずつ確認されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土・暗褐色土主体で構成される。＜遺物・時期＞出土遺物はない。時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA232 竪穴建物跡 (第96図・写真図版73)

＜位置・重複関係＞東側調査区中央の3Bグリッドに位置している。RD660土坑・RD668土坑と重複しており、当遺構が切っている事から、新川関係は(新)RA232竪穴建物跡→(旧)RD660土坑・RD668土坑である。検出面はIV層上面で、長方形の黒褐色土の広がりによって確認されている。西側は調査区外に広がっている。＜平面形・規模＞当遺構の西半分以上が調査区外に広がるため、平面形・規模等の全容が不明である。確認された規模は東壁側4.32m、南壁側1.12m、北壁側1.19mであり、コーナーは隅丸である。平面形は確認された部分から隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈すと思われる。＜埋土＞黒褐色土と黒色土で構成され、6層に分類される。上層は黒褐色土主体でにぶい黄褐色土粒・黄褐色土粒や炭を含む。中～下層の北側は黒色土主体でにぶい黄褐色土粒や炭を含む。南側は黒褐色土主体で黄褐色土粒や炭を含む。＜壁・床＞西壁は調査区外のため不明であるが、他の壁は床面から緩やかに立ち上がっている。壁高は東壁



RA241

- 10YR2/3黒褐色土 粘粒ややなし、粘まりやや有り。褐色土・10YR4/0ブロック少量含む。炭・微土粒少量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘粒ややなし、粘まりなし。炭塊少量含む。
- 10YR3/1黒褐色土 炭塊少量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘粒やや有り、粘まりなし。
- 10YR2/3黒褐色土 粘粒・粘まりなし。炭塊少量含む。

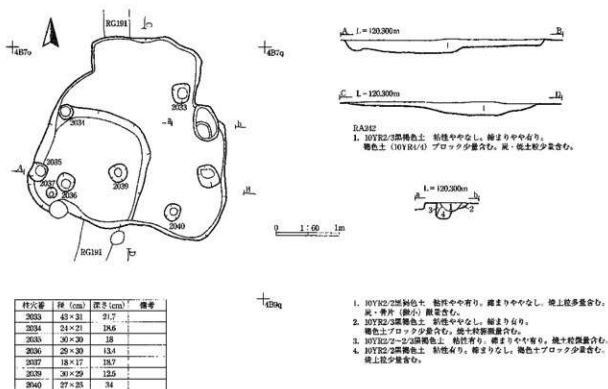
柱穴番号	径 (cm)	壁高 (cm)	備考
2012	17×19	36.4	
2013	25×20	21.2	
2014	24×22	45	
2015	25×22	16.3	
2016	20×16	23.0	
2017	20×20	19.8	
2018	30×26	18.8	
2019	25×18	17.4	
2020	20×20	37.5	

第97図 RA241竪穴建物跡

15cm、南壁21cm、北壁17cm前後である。床面は北側ではほぼ平坦であるが、南側は多少の凹凸が見られる。<柱穴>壁際を中心に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が7基検出されている。P1831は位置的に主柱穴と思われる。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土で構成される。<遺物・時期>遺物は出土しなかったが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA241 竪穴建物跡 (第97図・写真図版74)

<位置・重複関係>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RA249竪穴建物跡・RD780土坑・RG191溝跡と重複しており、これらの遺構を当遺構が切っている事から、新旧関係は(新)RA241竪穴建物跡→(旧)RA249竪穴建物跡・RD780土坑・RG191溝跡である。検出面はIV層上面で、長方形の黒褐色土の広がりによって確認されている。<平面形・規模>平面形は東西側がやや張り出す隅丸長方形を呈し、規模は4.04×3.19mである。<埋土>黒褐色土の単層で構成され、褐色土ブロックや炭・焼土粒を含む。<壁・床>壁は水田耕作等による削平を受けているため低く、床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は東壁4cm、西壁1cm、南壁7cm、北壁10cm前後である。床は概ね平坦で、目立った凹凸は見られない。<柱穴>壁際と中央に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が9基検出されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土で構成される。<遺物・時期>遺物は出土しなかった。時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。



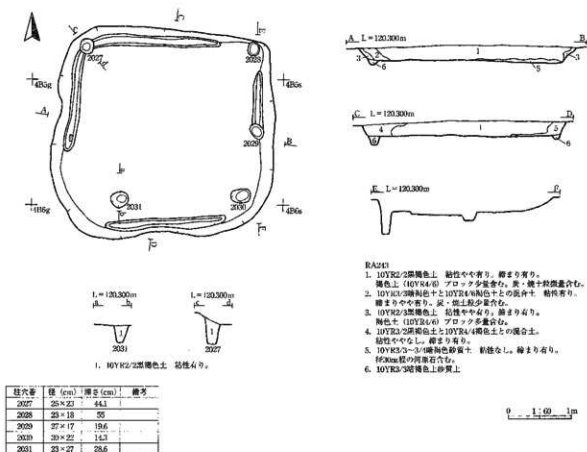
第98図 RA242竪穴建物跡

RA242 竪穴建物跡 (第98図・写真図版75)

<位置・重複関係>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RG191清跡と重複しており、当遺構が切っている事から、新旧関係は(新)RA242竪穴建物跡→(旧)RG191清跡である。検出面はIV層上面で、方形の黒褐色土の広がりによって確認されている。<平面形・規模>平面形は北側が張り出し部を有し、隅丸長方形状を呈すと思われる。規模は3.13×3.11mである。<埋上>黒褐色土の単層で構成され、褐色土ブロックや炭・焼土粒を含む。<壁・床>北壁では水田耕作等による削平の影響を著しく受け、床面からならだかに立ち上がっている。東・西・南壁は床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は東壁9cm、西壁10cm、南壁6cm、北壁3cm前後である。床面は南西隅が一段低くなっており、一段低い部分の中央がややくぼむ。上の段は概ね平坦である。<柱穴>円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が9基検出されている。柱径は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土主体で構成される。<遺物・時期>遺物はないが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA243 竪穴建物跡 (第99図・写真図版75)

<位置>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。検出面はIV層上面で、方形の黒褐色土の広がりによって確認されている。<平面形・規模>平面形は帯みのある隅丸方形状を呈し、規模は3.54×3.21mである。<埋上>黒褐色土主体で構成され、5層に分層される。埋上の大半を1層の黒褐色土が占め、2～4層は境界に確認される。5層は南東床土から南壁際にかけて見られる。<壁・床>東西壁は底面から直線的に外傾しながら立ち上がり、南北壁は底面からやや急角度で立ち上がる。壁の残りは他の竪穴建物跡と比



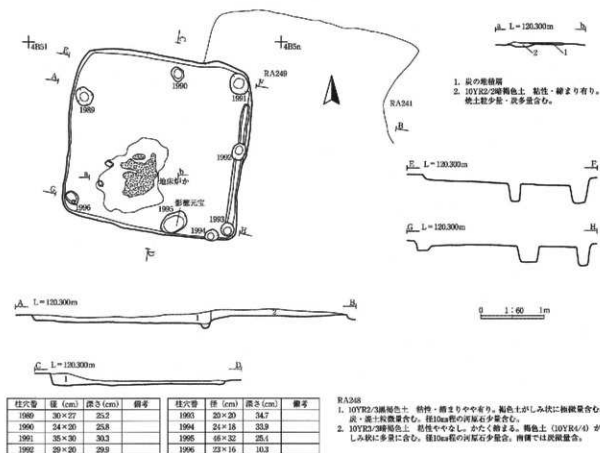
第99図 RA243竪穴建物跡

べると比較的良好であり、東壁25cm、西壁18cm、南壁20cm、北壁18cm前後である。〈柱穴〉円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が5基検出されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土主体で構成される。〈周溝〉北東隅・南西隅と東側南半分を除く箇所に幅16cm前後、深さ7~13cm前後で確認されている。埋土は暗褐色砂質土主体で構成されている。〈遺物・時期〉遺物は出土しなかったが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA248 竪穴建物跡 (第100図・写真図版77)

〈位置・重複関係〉東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RA249竪穴建物跡と重複しており、当該構が切っている事から、新旧関係は(新)RA248竪穴建物跡→(旧)RA249竪穴建物跡である。検出面はIV層上面で、方形状の黒褐色土の広がりによって確認されている。〈平面形・規模〉平面形は北東隅がやや丸くなるが方形状を呈し、規模は2.86×2.79mである。〈埋土〉黒褐色土の単層で構成され、褐色土や炭・焼土粒を含む。〈壁・床〉壁は床面から急傾斜で立ち上がっている。床面はわずかであるが北側に凹凸が認められる。壁高は東壁19cm、西壁9cm、南壁6cm、北壁17cm前後である。

〈柱穴〉壁際に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が8基検出されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土で構成される。〈周溝〉東壁側に長さ約19.3cm、幅10~13cm、深さ約7cmで確認されている。埋土は暗褐色砂質土主体で構成されている。〈その他の施設〉南西側に約78×65cmの範囲にわたって、不整形に炭の堆積層が確認されている。その周りには焼土粒や炭を含む暗褐色土層が確認されている。炭の量に比べて、焼土が発達していないことから僅かの間、断続的に炉のような機能を果たしていたものと

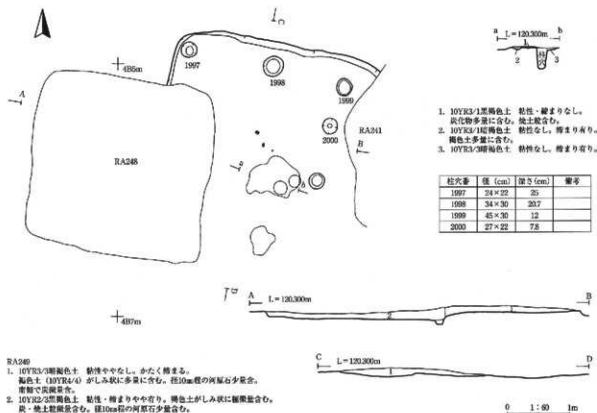


第100図 RA248竪穴建物跡

思われる。 <遺物・時期>遺物は柱穴P1995から銭貨(581)が出土しており、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA249 竪穴建物跡(第101図・写真図版78)

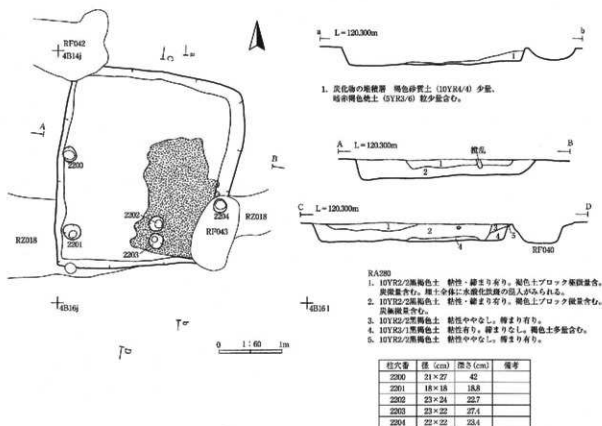
<位置・重複関係>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RA241竪穴建物跡・RA248竪穴建物跡と重複しており、当遺構が切られている事から、新旧関係は(新)RA241竪穴建物跡・RA248竪穴建物跡→(旧)RA249竪穴建物跡である。検出面はIV層上面で、まだら状の暗褐色土の広がりによって確認されている。 <平面形・規模>当遺構は他の遺構と重複していることと水田耕作等による削平を受けていることにより平面形・規模等の全容が不明である。確認された規模は西壁側で0.83m、北壁側で3.13mであり、コーナーは隅丸である。平面形は確認された部分から隅丸長方形もしくは隅丸方形を呈すと思われる。 <埋土>暗褐色土の単層で構成され、褐色土がしみ状に混入する。南側では炭の混入が見られる。 <壁・床>西壁の一部と北壁以外は削平のため確認できない。確認できる部分は西壁3cm、北壁5cm前後で、床面から緩やかに立ち上がっている。床は北側がややくぼむ。 <柱穴>円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が5基検出されている。P1997～P1999は主柱穴と思われ、北壁際に確認されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土～暗褐色土で構成される。 <土坑>検出されない。 <その他の施設>遺構の中央部と思われる部分に約80×60cmの範囲にわたって、不整形に炭を多量に含む黒褐色土層が確認されている。焼土の発達は見られないことから非常に短い間、断続的に炉のような機能を果たしていたものと思われる。 <遺物・時期>遺物はないが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。



第101図 RA249竪穴建物跡

RA280 竪穴建物跡 (第102図・写真図版79)

<位置・重複関係>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RF043炉跡・RZ018円形周溝と重複しており、当遺構がRF043炉跡に切られ、RZ018円形周溝を切っている事から、新旧関係は(新)RF043炉跡→RA280竪穴建物跡→(旧)RZ018円形周溝である。検出面はIV層上面で、方形の黒褐色土の広がりによって確認されている。 <平面形・規模>平面形は南西端がやや突出するが方形を呈し、規模は3.21×2.86mである。 <埋土>黒褐色土主体で構成され、4層に分層される。埋土の大半を1・2層の黒褐色土が占め、3・4層は南壁際に確認される。黒褐色土層中には褐色土ブロックや炭が含まれる。 <壁・床>東壁は底面からやや緩やかに外傾しながら立ち上がり、西壁・南壁・北壁は底面からやや急角度で立ち上がる。壁の残りは比較的良好で、東壁22cm、西壁31cm、南壁25cm、北壁27cm前後である。床は一部で凹凸が見られるが、概ね平坦である。 <柱穴>円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が5基検出されている。柱炭は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土主体で構成される。 <土坑>検出されない。 <その他の施設>南東側に約190×120cmの範囲にわたって、不整形に炭化物の堆積層が確認されている。中央から南東壁に向かって堆積の層厚が厚くなっている。焼土粒も確認されている。 <遺物・時期>遺物は出土しなかった。時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。



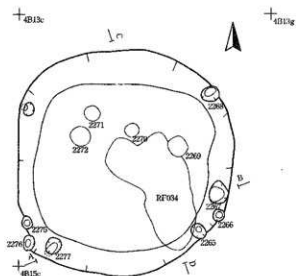
第102図 RA280竪穴建物跡

RA298 竪穴建物跡 (第103図・写真図版81)

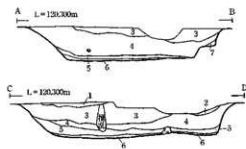
<位置>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RF034炉跡が当遺構埋没後に構築されている。検出面はIV層上面で、円形状の黒褐色土の広がりによって確認されている。<平面形・規模>平面形は円形と隅丸張削形の中間的な形で、規模は3.60×3.40mである。<埋土>黒褐色粘土質土主体で構成され、7層に分層される。埋土の大半が3・4層の黒褐色粘土質土が占め、5・6層は床面近くに堆積している。5層はグライ化した粘土で、6層は水酸化鉄を多量に含む砂層である。<壁・床>壁は床面から緩やかに外反しながら立ち上がっている。壁の残りは非常に良好で、壁高は東壁48cm、西壁50cm、南壁51cm北壁49cmである。床面は南東隅でやや凹凸が認められるが、概ね平坦である。<柱穴>壁際に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が8基検出されている。P2268とP2277は住居の外に向かって斜めに掘り込まれている。掘り方の埋土は黒褐色土主体で構成されている。柱痕は確認されていない。<土坑・その他の施設>検出されない。<遺物・時期>遺物はないが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA299 竪穴建物跡 (第104図)

<位置>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RD781土坑・RD797土坑と重複しており、当遺構が切られている事から、新田関係は(新)RD781土坑・RD797土坑→(旧)RA299竪穴建物跡である。検出面はIV層上面で、方形形状の黒褐色土の広がりによって確認されている。<平面形・規模>平面形は北壁中央がやや突出するが、方形形状を呈す。規模は3.27×3.10mである。<埋土>黒褐色土の単層で構成され、灰黄褐色土を含む。<壁・床>壁は水田耕作等による削平を受けているため、東壁7cm、西壁8cm、南壁8cm、北壁6cm前後が確認されるのみである。残存する部分で判断すると床面から緩やかに立ち上がると思われる。床面は概ね平坦である。<柱穴>壁際を中心に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が11基確認されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土主体で構成されている。<土坑・その他の施設>検出されない。<遺物・時期>遺物は出土していない。時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。



柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
2270	24×24	41.1	
2271	25×24	26.9	
2272	37×38	28.4	
2273	23×30	30	
2274	21×21	53.7	
2275	22×22	49	
2276	26×26	9	
2277	32×35	32.5	
2278	19×18	28.9	
2279	21×18	24.3	
2280	26×25	41.5	

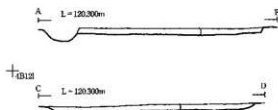
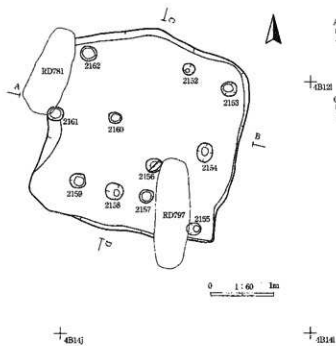


RA298

- 10YR2/4褐色土 粘性・締まり有り。炭粒豊富含む。水酸化鉄皮混入。黒褐色土 (10YR3/2) プラッタ状含む。炭粒・締まり有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性・締まり有り。炭・焼土和雜質を含む。
- 10YR3/1黒褐色粘土質土 粘性に乏し。炭粒に乏し。締まり有り。褐色土 (10YR4/3) プラッタ状混入含む。炭粒豊富含む。水酸化鉄皮混入。
- 10YR3/1黒褐色粘土質土 粘性に乏し。炭粒に乏し。締まり有り。褐色土質土 (10YR4/1) 豊富含む。水酸化鉄皮混入。
- 10C2/1緑褐色粘土 粘性に乏し。締まりなし。水酸化鉄皮混入。
- 5YR3/6暗赤褐色砂 固く締まっている。水酸化鉄皮混入著しい。
- 10YR3/1黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。

0 1:60 1m

第103図 RA298竪穴建物跡



RA299

- 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まり有り。炭粒豊富含む。黒褐色土 (10YR3/1) 炭質褐色土 (10YR3/2) 豊富含む。水酸化鉄皮混入。

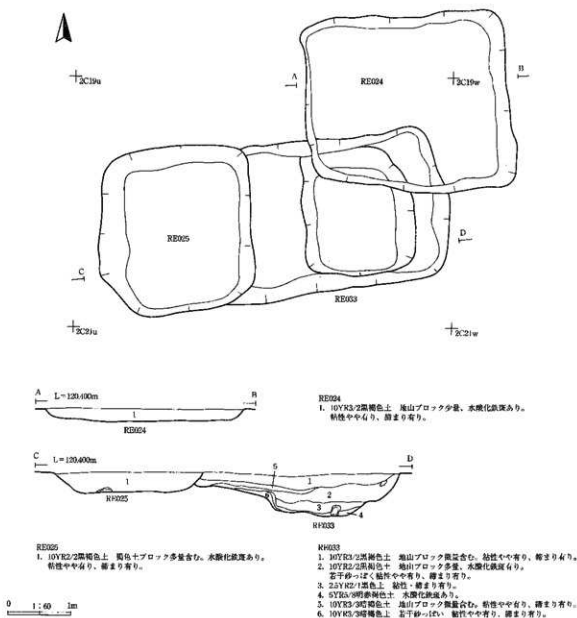
柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
2102	17×17	28.7	
2103	22×25	22	
2104	29×24	39.6	
2105	19×22	30.3	
2106	26×23	23.1	
2107	21×20	24.9	
2108	20×25	22	
2109	24×24	17.2	
2110	20×16	17.6	
2111	26×20	17.6	
2112	26×26	9.2	

第104図 RA299竪穴建物跡

3 竪穴状遺構

RE024 竪穴状遺構 (第105図・写真図版83)

<位置・重複関係>本遺跡中央部やや南東部の2C19v区に位置している。RE033と重複し本遺構のほうが新しい。<規模・平面形>検出面での規模は3.3×2.8mを測り、平面形は東西に長い隅丸長方形を基調としている。壁は何れも外傾して立ち上がり検出面から底面までは22cmを測る。底面は平坦につくられているが硬く締まるものではない。<埋土>黒褐色土と褐色土の混合土で人為堆積の様相を呈する。<その他>この遺構と重複または隣接するRE033やRE025は規模や形態及び埋土の状況などが類似していること



第105図 RE024・025・033竪穴状遺構

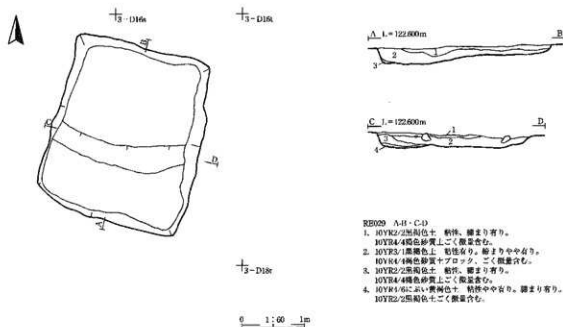
から同様の目的で構築されつくりかえられたと考えられる。またプラン的にはR B025に伴う遺構の可能性もあると思われる。〈遺物〉なし。〈時期〉詳細な時期は不明であるが、R B025と関係のある遺構と考えるならば近世及びそれ以降の可能性がある。

RE025 竪穴状遺構 (第105図・写真図版83・84)

〈位置・重複関係〉遺跡中央やや南東側の2 C20 u区に位置している。RE033と重複関係にあり本遺構のほうが新しい。〈規模・平面形〉検出面での規模は2.6×2.5mで概ね南北に少し長い方形を呈している。壁は何れも底面から外傾して立ち上がり、検出面から底面までは32cmを測る。底面は平坦につくられているが硬いわけではない。〈埋土〉黒褐色土の中に地山ブロックを多量に含む人為堆積の様相を呈している。〈その他〉重複関係にあるRE033や隣接するRE024とは形態及び埋土の状況が似ており同じ目的でつくりかえられた一連の遺構と推測されるが、その性格については判然としない。また位置的にはR B025に伴う遺構の可能性もあると思われる。〈遺物〉なし。〈時期〉RE024と同様に近世及びそれ以降の可能性が考えられる。

RE033 竪穴状遺構 (第105図・写真図版83)

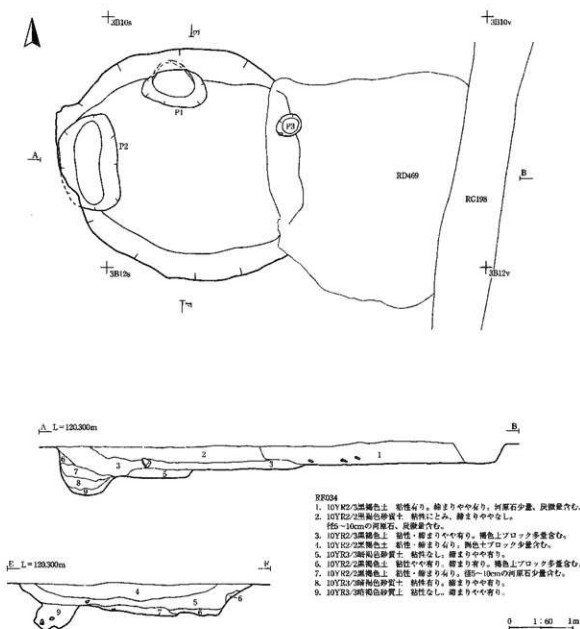
〈位置・重複関係〉遺跡中央部南東側の2 C20 v区に位置している。RE024・025と重複関係にあるが本遺構のほうが古い。〈規模・形態〉西側がRE025に切られているのが概ね3.8×2.5mの東西に長い隅丸長方形のプランと推測される。底面中央から東側は方形に2.0×1.8mの範囲で一段深く掘り下げられており検出面から最も深いところで68cmを測る。〈埋土〉基本的には自然堆積でよいと思われるが底面を一段深く掘り下げた部分の直上付近は一時人為的に埋め戻されている可能性がある。〈その他〉本遺構の性格は判然としませんが重複するRE024・025とは同様の目的で構築され、つくりかえが行われたと推測される。また、位置的にR B025に関係する遺構であった可能性もあると思われる。〈遺物〉出土していない。〈時期〉RE024・025と同様に近世かそれ以降を想定している。



第106図 RE029竪穴状遺構

RE029 壁穴状遺構 (第106図)

<位置>調査区西側の3-C区に位置し、IV層上面で黒褐色の落ち込みにより検出している。<規模・平面形>規模(下場で計測)は、2.1×2.6mを測り、平面形は南北に長い隅丸長方形を呈している。主軸方向は、N-20°-Eである。中央部を境にして10cm程の段になっている。<埋土>埋土は2層からなり、1層は粘性も締まりもあり、褐色砂質土を5%含む黒褐色である。2層は、1層の褐色砂質土がブロック状に黒褐色土の中に混じている。東西断面の埋土は、平面形の上述の部分にあたるので、褐色砂質土の割合が少なかったり、黒褐色土を含む鈍い黄褐色土の層もみられる。<壁・床面>床は黒褐色土からなり、粘性もある。前述のように、中心を境にして段がついたようになっている。壁は、床から垂直に立ち上がり、



第107図 RE034壁穴状遺構

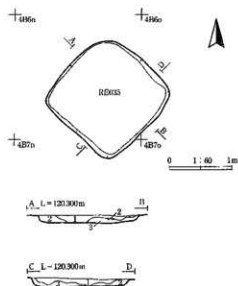
各壁中央部の残存は、北壁12cm、南壁24cm、東壁21cm、西壁26cmである。〈出土遺物〉なし。
 〈時期〉不明である。

RE034 竪穴状遺構 (第107図・写真図版85)

〈位置・重複関係〉本遺跡中央南側、3B10s区においてIV層面から検出された。RD469と重複関係にあり本遺構の方が古い。〈規模・平面形〉不整な円形を呈しており、検出面での規模は南北方向で3.6m、東西方向で3.7m、深さは50cmを測る。〈埋土〉自然堆積で黒褐色土を主体とし、その中に中小の河原石や炭粒を含む。褐色土をブロック状に含む部分も見られる。〈壁・床面〉壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がっている。底面は平坦とはいえない。〈その他〉北壁際と西壁際に土坑状の掘り込みを確認した。本遺構に伴うものと思われる。また重複するRD469は本遺構と規模・形態が類似することから、本遺構のつくりかえかもしれないが共に遺構の性格については判然としない。〈出土遺物〉埋土からは須恵器の壺片3点と土師器壺片8点が出土した。〈時期〉周囲から検出されている遺構の状況から中世に位置づけられる可能性がある。

RE035 竪穴状遺構 (第108図・写真図版86)

〈位置・重複関係〉遺跡中央部の南側、4B6n区に位置している。プラン的にはRA249と重複しているが、新山関係は把握できなかった。〈規模・平面形〉一辺が1.6mの隅丸方形を呈し、検出面から底面までは17cm前後である。底面は平坦につくられており、壁は何れも底面から外傾して立ち上がっている。〈埋土〉黒褐色土を主体としつつもその中に炭・焼土粒や褐色土ブロックを不規則に含んだりしている。〈その他〉本遺構内からは複数の柱穴が見つかっており本遺構に伴うものも含んでいる可能性がある。〈遺物〉出土遺物なし。
 〈時期〉中世。



RE035

1. 10YR2/2暗褐色土 粘性やや弱、締まりやや有り。暗褐色ブロック少量、炭・焼土粒含む。
2. 10YR2/2暗褐色土 粘性弱、締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック含む。

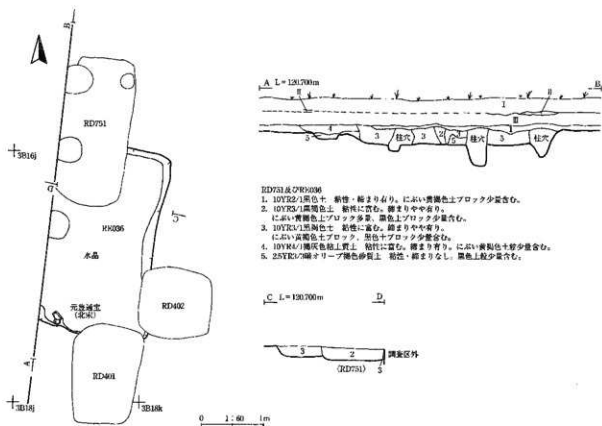
RE036 竪穴状遺構 (第109図・写真図版87)

〈位置・重複関係〉遺跡南側の中央、3B16jグリッドに位置している。中世の竪穴RD401・402・751と重複関係にあり本遺構のほうが古い。〈規模・平面形〉隅丸長方形若しくは方形を築調とすると思われるが、西側は調査区外へと延びている。南北方向で一辺が約3.1m、壁は15cm程しか残存しおらず、底面から外傾して立ち上がっている。〈埋土〉にぶい黄褐色土ブロックが不規則に混入する状態から人為堆積の可能性が高いと判断される。〈その他〉底面から炉跡・柱穴は検出されなかった。〈遺物〉(第337図・写真図版324) 元壹通寶(569)が1点出土した。〈時期〉中世。

第108図 RE035竪穴状遺構

RE037 竪穴状遺構 (第110図・写真図版58)

<位置・重複関係>遺跡中央部やや東側の2C9y区に位置している。<規模・平面形>不整な円形プランで検出面での規模は3.5×3.3m、底面までは26cm前後を測る。壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がっている。底面は平坦であるが硬く締まるものではない。<埋土>暗褐色土を主体とする自然堆積の様相を呈する。<その他>本遺構の北側にRD461、南側にはRD320・321が隣接し、本遺構を含めた4基の遺構がほぼ南北に並んで位置している。精査の結果何れの遺構も形態や埋土の状態が似ているように思われるが、その性格については判然としなない。同じ目的で一緒に構築されたか、或いはつくりかえられたのではないかと推測される。<遺物>(第325図・写真図版314)埋土から大塚相馬産の陶器碗(470)が出土している。<時期>RD320・321・461同様近世かそれ以降の可能性が高い。



第109図 RE036竪穴状遺構

RE038 竪穴状遺構 (第111図・写真図版89)

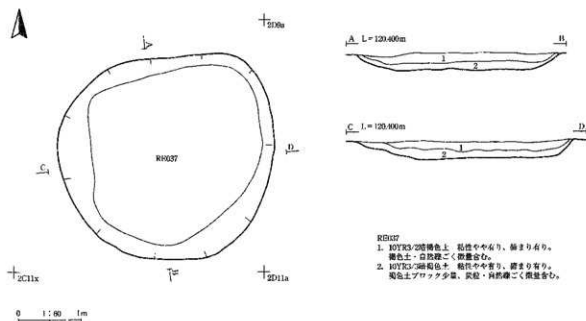
<位置・重複関係>本遺跡の東側、1E18p区に位置している。<規模・平面形>北東壁-南西壁で2.7m、床面積は推定で5.9㎡を測る。北端は調査区外へ延びているが平面形は隅丸長方形を呈すると思われる。<埋土>埋土上層自然堆積の様相を呈するが埋土下層に関しては埋め戻された可能性がある。<壁・床面>概ね外傾して立ち上がるが、北西壁では段をもって立ち上がっている。床面は平坦だが貼床を施しているわけではない。<その他>北側の調査区外にカマドを有するかもしれない。<出土遺物>(第318図・写真図版309)埋土及び床面から個体数にして坏7点、高坏1点、長胴甕1点、球胴甕1点が出土している。376は大型の坏で、内外面にヘラミガキ調整が施されている。377と379の坏には底部に「×」と線刻されている。坏は口縁部が内湾し、底部の丸味が顕著なものが多く見られる。<時期>奈良時代。

RE039 竪穴状遺構 (第111図・写真図版90)

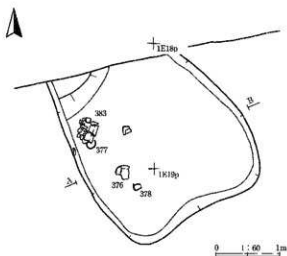
<位置・重複関係>本遺跡の中では南東側、3D16w区に位置している。<規模・平面形>北東壁-南西壁2.7m、北西壁-南東壁3.0m、床面積は約5.5㎡を測る。北壁隅は調査区外へ伸びているが平面形は隅丸長方形を呈すると思われる。<埋土>地積土は2層に分けられ何れも自然の流入によるもので構成される。<壁・床面>壁は外傾して立ち上がっている。地山を掘り込んで床面としおり、平坦で締まっている。<柱穴>南壁隅で1基検出された。<出土遺物>なし。<時期>周辺から検出されている遺構の状況から奈良時代と思われる。

RE040 竪穴状遺構 (第112図・写真図版91)

<位置・重複関係>遺跡の南東側、4D1j区に位置している。重複する遺構としてはRD775とRG229があり本遺構のほうが新しい。<規模・平面形>6.3×2.7mを測り南北に細長い不整形である。平面形は隣接するRE041と似ている。<埋土>自然堆積でよいと思われる。<壁・床面>壁は緩やかに外傾して

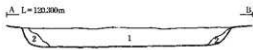
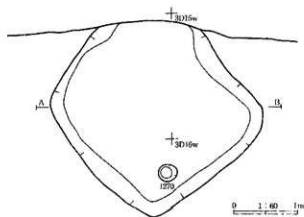


第110図 RE037竪穴状遺構



RE038 A-B

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締まり有り。
小粒ごく微量・明黄色土ブロック (10YR6/6) ごく少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・締まり有り。
赤褐色土ブロック (5YR4/3) ・にぶい黄褐色土ブロック (10YR6/4) ごく微量含む。酸化鉄斑有り。
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締まり有り。
赤褐色土ブロック (5YR4/3)、明黄色土ブロック (10YR6/6)、
黄化物質ごく微量含む。
4. 10YR4/2 にぶい黄褐色シルト 粘性やや有り。締まり有り。
にぶい黄褐色土ブロック (10YR6/4)、F層に灰黄色土 (10YR6/4) ごく微量含む。酸化鉄斑有り。
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性有り。締まりを欠く。
明赤褐色土ブロック (5YR5/3) ・にぶい黄褐色土ブロックごく微量含む。
グライ化している。酸化鉄斑有り。
6. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性やや有り。
黄褐色土ブロック (7.5YR4/6) ごく微量含む。酸化鉄斑有り。



RE039 A-B

1. 10YR3/2 粘性・締まりやや有り。堆山ブロック多量含む。
2. 10YR/4 褐色砂質土 粘性を欠く。締まりやや有り。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1270	30×27	14.8	

第111図 RE038・039 竪穴状遺構

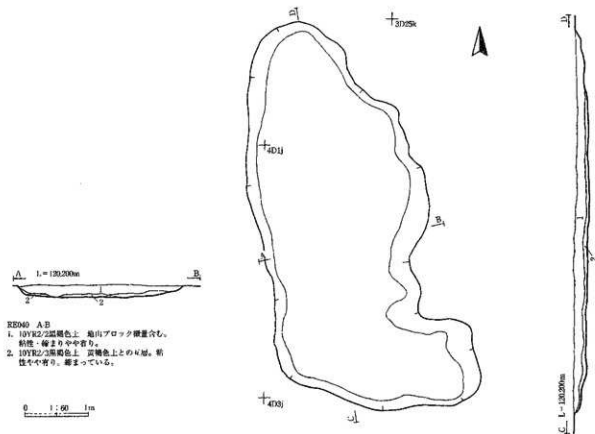
立ち上がっている。床面は地山を掘り込んで構築されており幾分凹凸が認められる。〈その他〉RE041と同様の性格を持つと思われるが詳細については不明である。〈出土遺物〉なし。〈時期〉RE041と共に中世以降と考えたい。

RE041 竪穴状遺構 (第113図・写真図版92)

〈位置・重複関係〉遺跡の南東隅、3D241区に位置する。RE042との重複では本遺構のほうが新しい。
 〈規模・平面形〉検出面で6.3×2.5mを測り、南北方向に細長い。床面積は約7.1m²で平面形は隣接するRE040と似ている。〈埋土〉堆積土は2層に分けられ自然体積の椀相を呈する。〈壁・床面〉壁の立ち上がりは不規則で、とくに南東壁などは緩やかに外傾して立ち上がっている。床面は断面図では現れていないが、若干の凹凸が見られた。〈柱穴〉本遺構の床面は若干凹凸が見られるがその中に柱穴といえるものは無いと判断した。〈出土遺物〉埋土から赤色塗採された球鬚甕の破片1点が出土した。〈時期〉中世以降と考えたい。

RE042 竪穴状遺構 (第113図・写真図版92)

〈位置・重複関係〉遺跡の南東隅、3D231区に位置する。RE041と重複し本遺構のほうが古い。
 〈規模・平面形〉検出面で3.4×2.6mを測る。床面積は約5.0m²で平面形は隅丸方形を基調としつつ南壁の一部が幾分張出している。〈埋土〉地山ブロックや焼土等が混じり人為堆積の可能性がある。〈壁・床面〉壁は概ね外傾して立ち上がっているが、南壁では段をもって立ち上がっている。また東壁は貼壁状にな



第112図 RE040 竪穴状遺構

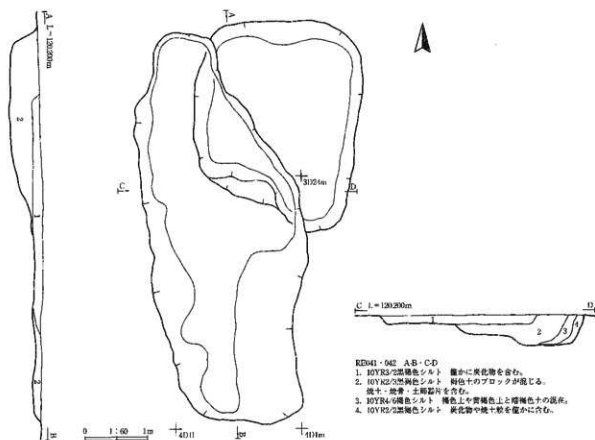
っていた。床面は平坦で地山を掘り込んで構築されている。〈柱穴〉検出されなかった。〈出土遺物〉埴土から土師器坏破片3点と瓦破片2点が出土した。〈時期〉重複関係や周辺の状況から中世がそれ以降に属するものと思いたい。

RE043 竪穴状遺構 (第114図・写真図版93)

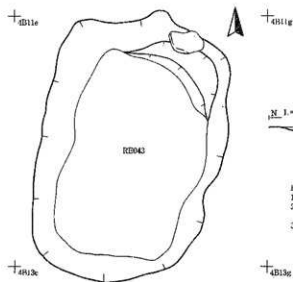
〈位置・重複関係〉遺跡南端に近い4 B11e グリッドに位置している。R Z018とは重複し、本遺構の方が新しい。〈規模・平面形〉南北方向に長い不整な長門形若しくは長方形を呈する。長軸で4.5m、短軸で3.0mを測り壁高は30~40cm程が残存している。北側の壁が緩やかに立ち上がっている。〈埋土〉黒褐色土を主体とし、炭粒や中小の自然礫も含まれていた。自然堆積でよいと思われる。〈その他〉床面から灰跡や柱穴は検出されなかった。〈遺物〉なし。〈時期〉周辺に分布する遺構の年代観から中世に属する遺構と考えたい。

RE044 竪穴状遺構 (第114・115図・写真図版94)

〈位置・重複関係〉遺跡南半のはほぼ中央にあたる4 A11グリッドに位置している。重複関係はない。諏訪神社を方形に取り囲むRG043の内側から検出されている。〈規模・形態〉西部が調査区外となっているため平面形は不明である。検出面での規模は南北方向で8.5m以上、東西方向で5.7m以上はあると推測される。礎石を掘り込んで構築されており、底面はやや凹みがある。壁は底面から外傾して立ち上がっており、

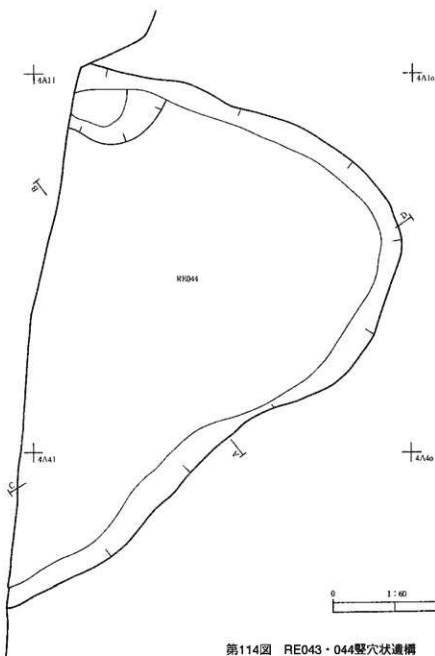


第113図 RE041・042竪穴状遺構



K9D43

1. 30YR2/3 黒褐色土 粘性に富み締まり有り。水酸化鉄質有り。炭粒ごく微量含む。
 2. 10YR2/1 黒褐色土 粘りに富み締まり有り。水酸化鉄質有り。炭粒微量を含む。
 3. 10G2/1 緑褐色土 粘性に富み締まりやや弱。
- 水酸化鉄質少量有り。3~10cm程度の炭粒散見される。

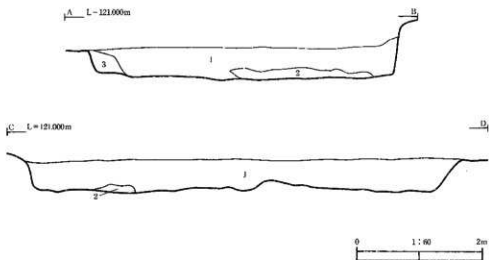


第114図 RE043・044壁穴状遺構

50cm程残存している。北側の礎階の一部に底面から更に掘り込まれた部分が見られる。〈埴土〉黒褐色土を主体とし、その中に大小の礫を多量に含んでいる。これらの礫は基盤の礫層を構成していたものと思われる。堆積状況は自然に埋まったものと見て良いと思われる。〈その他〉本遺構はR G 043が埋まった後に機能していたものと推測され、むしろ神社に伴う施設であったと考えられる。〈遺物〉(第335・339・362・363・365・366図・写真図版322・326・344・346) 埴土からは人塚相馬産陶器碗(725)、陶器鉢(740)陶器甕類(746)、磁器碗(774・792)、磁器瓶類(819)、銭貨(593・594)、煙管(549)などが出土した。〈時期〉出土遺物の生産年代から近世以降と思われる。

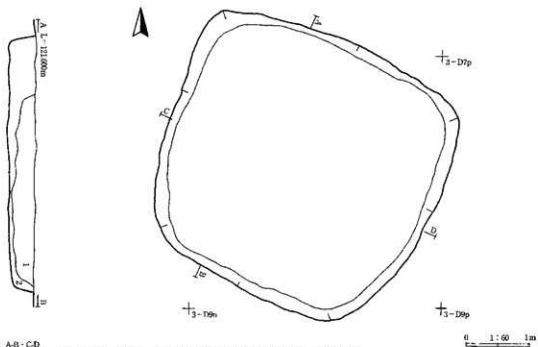
RE045 竪穴状遺構(第115図)

〈位置〉調査区西側の3-C区に位置し、IV層上層で暗黄褐色土の落ち込みによって検出している。重複関係はない。〈規模・平面形〉平面形は隅丸方形を呈し、規模(下場で計測)は、4.0×3.86m、主軸方向は、N-64°-Wである。〈埋土〉2層から成る。1層は、粘性がありやや締まっている暗褐色土と7%の黄褐色土、3%の黒褐色土の混合土で構成される。2層は、暗褐色土と3%の黄褐色土の混合土であり、下層ほど明るい。埴土状況は、自然堆積の様相を呈している。〈壁・床面〉壁は床から垂直に立ち上がっている。各壁中央部の残存値は、北壁3.8cm、南壁3.3cm、西壁3.4cm、東壁3.4cmである。床は、平坦で堅く締まっている。〈出土遺物・時期〉遺物の出土がなく、時期は不明である。



RE044

1. 10YR3/2暗褐色土 多量の小一大礫と少量の地山ブロックを含む。水酸化鉄染あり。粘りやや有り、硬まり有り。
2. 10YR3/2暗褐色土 多量の小一大礫含む。粘り弱、硬まり有り。
3. 10YR2/3黒褐色砂質土 礫多量を含む。1層との境には水酸化鉄の層がある。粘性弱、硬まりやや有り。



RE045 A-B・C-D

1. 10YR3/3暗褐色土 硬まりやや有り。粘性有り。10YR5/6黄褐色土ブロック、10YR2/3黒褐色土ごく少量含む。
2. 10YR3/3暗褐色土 硬まりやや有り。粘り有り。10YR5/6黄褐色土ごく少量含む。
3. 10YR3/6暗褐色土 硬まり、粘性やや有り。10YR4/6褐色土ごく少量含む。



第115図 RE044・045竪穴状遺構

4 掘立柱建物跡

今回の調査では10棟の掘立柱建物跡を検出できた。建物跡の記載についてであるが平面図に付してある寸法は括弧のない数字の単位はcm、括弧内の数字の単位は尺である。一尺は30.3cmとして計算した。表に示した深さの単位はcmである。

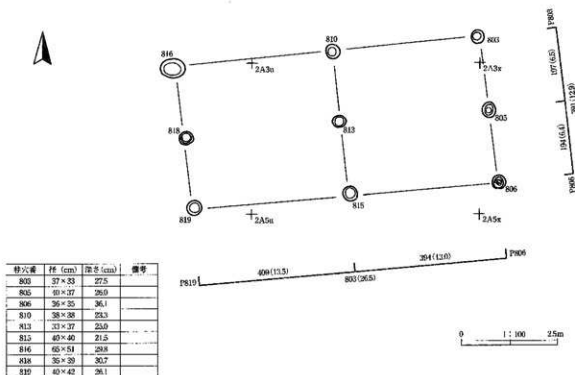
調査区内には多数の柱穴状土坑が分布しており、これらのいくつかは建物を構成する柱穴であったはずであるが、規則性を見出せず本報告書では柱穴群の分布として掲載するに留め建物を推定することができなかった。ただし検出された柱穴群の中でも3-C区に分布する柱穴は近世民家、4-B区に分布する柱穴は中世の建物となる可能性が高いという印象を持つ。

RB019 掘立柱建物跡 (第116図・写真図版95)

<位置>遺跡中央やや南側、2A3u区にて検出された。<平面形式>桁行4間(803cm)×梁間2間(391cm)と推定し、内部はP813により二分されると考えた。<建物方位>桁行でN-85°-Eを測る。<柱間寸法>梁間6.5尺、桁行も6.5尺で2間ごとに柱穴を持つと解釈した。<出土遺物>なし。<建物の性格と時期>不明である。

RB022 掘立柱建物跡 (第117図・写真図版95) 神社

<位置>遺跡の中央部南側、4A5a区に位置している。<平面形式>大部分は調査区外(諏訪神社の下)に展開しており、全体形は不明である。2間(509cm)×2間(510cm)のみ確認できた。位置的にはこの建物跡の南西隅を検出したことになる。<建物方位>桁行と梁間の区別は不明である。P2534-P2536方向ではN-26°-Eである。<柱間寸法>検出された柱穴は少ないが8.4尺を基準としている可能性が高い。

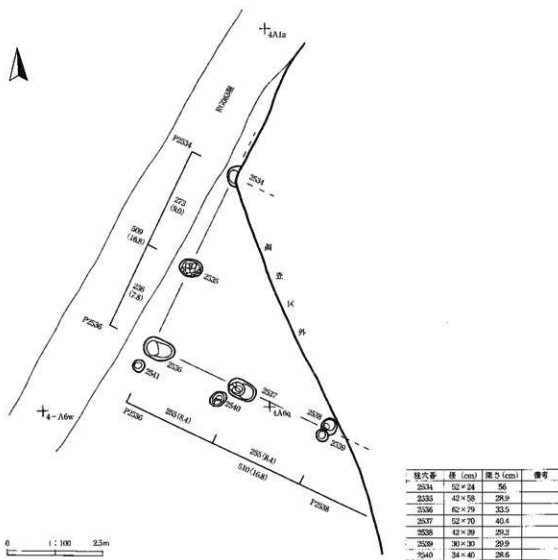


第116図 RB019掘立柱建物跡

＜出土遺物＞なし。＜付属施設＞不明。＜建物の性格＞全容を把握できなかったため詳細は不明である。三方を堀に囲まれた内部に建てられており、堀と本建物の位置関係からRG083が使われなくなった後、RG084堀が機能していた時の遺構と思われる。＜時期＞中世と思われるが出土遺物はなく実年代は不明である。

R B 0 2 3 掘立柱建物跡 (第118図・写真版96) 総柱の建物

＜位置＞遺跡のやや東側、2C1j区に位置している。＜重複関係＞RD581・RD582・RD474・RD566・RG043より新しい。＜平面形式＞北側と東側には延びないが、西側と南側へは本建物が延びる可能性がある。そのうえで南北方向を桁行、東西方向を梁間と一応しておく。規模は桁行9間(1676cm)×梁間5間(1227cm)まで確認した。また、建物北東側(2C1k杭付近)には柱穴が存在していたと思われるが検出できなかった。基本的に桁行は1間ごと、梁間は半間ごとに柱穴を配置する総柱の建物と思われる。



第117図 RB022掘立柱建物跡

ただP930-P931 やP964-P965、P996-P1001などのように柱穴を持たない空間があり、その場所がどの様に使われていたのかは解らない。〈建物方位〉桁行の軸方向でN-1°-Eである。

〈柱間寸法〉桁行では概ね6.0尺(約182cm)、梁間では4.0尺(約121cm)を多用しているようである。

〈出土遺物〉なし。〈付属施設〉検出されていない。〈建物の性格〉建物の規模から母屋になると思われる。

〈時期〉近世に所屬すると思われる。

R B 0 2 4 掘立柱建物跡①(第119図・写真図版96) 掘部跡①

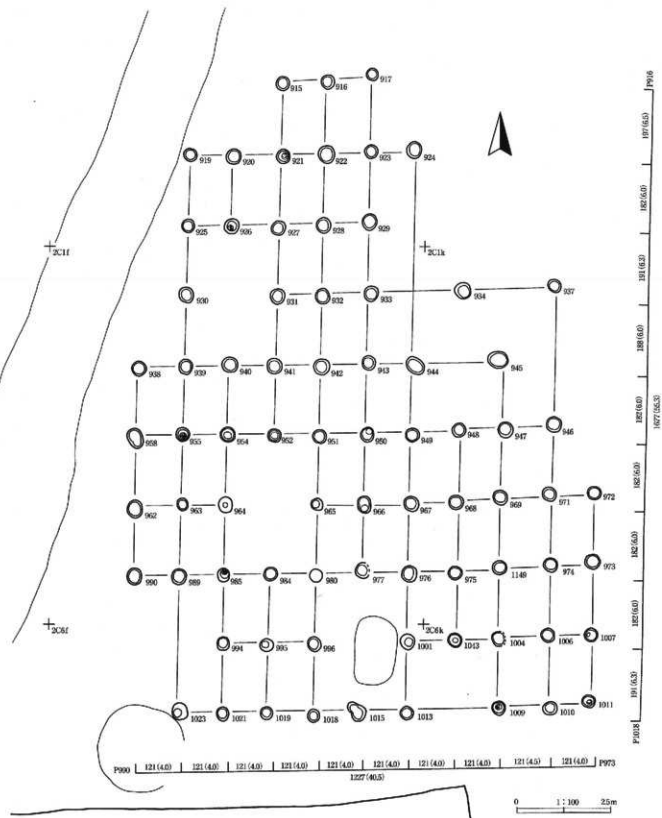
〈位置〉遺跡の東側、2 C 16 n 区に位置している。〈重複関係〉R G 200と重複し、本遺構のほうが新しい。R D 473と重複し本遺構のほうが古い。R D 472との新旧関係は不明である。R B 024②とでは本遺構のほうが古い(建て替えている)。〈平面形式〉桁行2間以上(455cm)×梁間3間(727cm)と想定した。上屋柱と下屋柱からなる構造で桁行の西側は調査区外に延びている。〈建物方位〉梁間の軸方向でN-3°-Wである。〈柱間寸法〉桁行では5尺、梁間では8尺を基準にしていると思われる。〈出土遺物〉なし。〈付属施設〉疑のくぼみと思われる掘り込み(R D 360)が建物内部にみられる。〈建物の性格〉大きさから付属小屋と考えられる。疑のくぼみが伴っているので疑の覆い屋であろう。母屋が西側の調査区外に展開すると思われるが、本遺構と一体となる構造なのか不明である。〈時期〉近世後半頃と思われる。

R B 0 2 4 掘立柱建物跡②(第119図・写真図版96)

〈位置〉遺跡東側の2 C 16 n 区に位置する。〈重複関係〉R B 024①との関係は本遺構のほうが新しい(建て替えている)。R G 200とでは本遺構のほうが新しい。R D 473との重複関係では本遺構のほうが古い。R D 472との新旧関係は不明である。〈平面形式〉桁行2間以上(379cm)×梁間4間(727cm)と考えられる。上屋柱と下屋柱からなる構造で桁行の西側は調査区外に達している。〈建物方位〉梁間の方向でN-2°-Wとなった。〈柱間寸法〉桁行では約5.8尺、梁間は5.0尺と7.0尺を基準にしていると推測される。〈出土遺物〉なし。〈付属施設〉疑のくぼみと思われる掘り込み(R D 360)が建物内部にみられる。これは本建物跡とR B 024①の両方で使われていたと考えている。〈建物の性格〉付属小屋と考えられ疑のくぼみが伴っているので疑の覆い屋であろう。母屋が西側の調査区外に展開すると思われるが、本遺構と一体となる構造なのか不明である。〈時期〉近世後半頃と思われる。

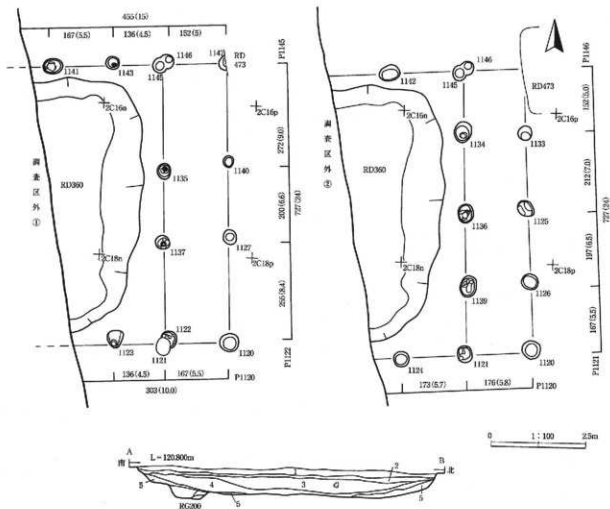
R B 0 2 5 掘立柱建物跡(第120図)

〈位置〉本遺跡の南側、2 C 19 v 区にて検出された。〈重複関係〉R E 024・025・033より古い。R G 200との関係は判然としない。〈平面形式〉桁行(東西)2間(567cm)×梁間(南北)2間(518cm)と推定したが、他遺構との重複もあり把握できなかった柱穴も考えられる。とくに本遺構から東側や西側、及び南側の調査区外へ展開している可能性がある。〈建物方位〉梁間の軸方向でN-5°-Wである。〈柱間寸法〉桁行では5.0尺、梁間は9.7尺前後及び7.4尺前後の2種類を用いているようである。〈出土遺物〉なし。〈建物の性格〉建物の全容を把握できなかったため詳細は不明である。〈時期〉出土遺物はないが、周辺から検出されている遺構遺物の状況から近世及びそれ以降と思われる。



柱次序	柱 (cm)	梁 (cm)	柱率
915	38×35	14.0	
916	27×34	10.5	
917	30×30	3.1	
919	30×35	11.4	
920	40×37	16.6	
921	35×35	12.1	
922	45×40	8.7	
923	35×35	6.1	
924	40×20	8.4	
925	34×31	9.1	
926	40×35	10.0	
927	29×34	11.8	
928	40×35	16.6	
929	43×35	3.3	
930	40×35	13.4	
931	40×34	18.0	
932	40×35	14.1	
933	117×53	49.1	
934	41×40	69.9	
937	32×31	8.9	
938	35×40	13.6	
939	40×35	16.2	
940	38×39	26.4	
941	38×38	18.1	
942	43×37	17.8	
943	39×35	24.0	
944	40×45	13.1	
945	42×50	12.0	
946	38×37	14.9	
947	38×37	13.2	
948	37×35	23.5	
949	33×32	12.5	
950	40×32	21.0	
951	35×30	30.1	
952	40×35	24.4	
954	35×35	22.8	
955	32×33	8.7	
958	43×39	26.9	
962	40×35	13.9	
963	34×29	10.6	
964	43×35	28.9	
965	33×30	23.5	
966	44×34	12.6	
967	37×37	22.1	
968	35×35	18.7	
969	30×30	10.9	
971	34×34	12.8	
972	32×35	6.5	
973	33×32	7.5	
974	43×37	14.7	
975	35×37	26.9	
976	40×40	25.7	
977	40×37	9.2	
980	34×31	24.1	
984	35×33	24.2	
985	34×32	35.1	
988	40×38	13.4	
990	44×38	7.9	
994	43×38	26.6	
995	30×33	43.1	
996	40×35	30.6	
1001	41×36	31.3	
1004	38×34	18.7	
1006	35×32	67.0	
1007	30×32	13.2	
1009	35×35	17.5	
1010	35×35	23.8	
1011	35×36	20.9	
1013	32×35	26.5	
1015	40×30	31.8	
1018	30×30	35.7	
1019	32×38	24.4	
1021	35×35	24.3	
1023	40×41	45.7	
1043	34×33	28.1	
1149	25×31	32.8	

第118圖 RB023獨立柱建物跡



RD300

1. 10YR2/2黒褐色土 表土 粘性やや有り。締まりやや有り。
2. 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 ほぼ灰化層の層 粘性あまりない。締まり無し。大小の礫をまばらに含む。幾ど1%程度全体的に含む。

4. 10YR2/3黒褐色土 全体に大量の礫石を含む。粘性やや有り。締まり有り。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりあまりない。炭化物と礫石をほぼ全体的に大量に含む。礫石少々を含む。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1120	45×50	35.1	
1121	43×45	33.0	
1122	43×42	32.4	
1123	45×41	30.5	
1127	30×37	11.7	
1135	38×32	31.9	
1137	35×35	34.8	
1140	28×26	37.8	
1141	40×52	18.1	
1143	32×36	29.8	
1145	43×43	67.9	
1146	41×44	78.7	

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1120	45×50	35.1	
1121	43×45	33.0	
1124	25×25	32.1	
1125	50×31	48.1	
1126	44×34	54.9	
1133	30×29	8.7	
1134	28×28	13.0	
1136	26×25	10.0	
1139	30×43	10.9	
1142	34×34	19.2	
1145	43×43	67.9	
1146	41×44	78.0	

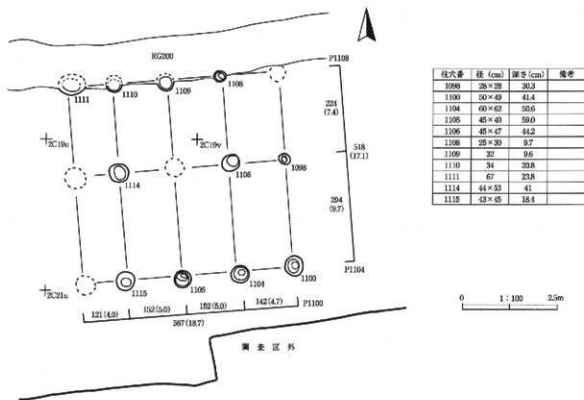
第119図 RB024掘立柱建物跡

RB026 掘立柱建物跡 (第121図・写真図版97)

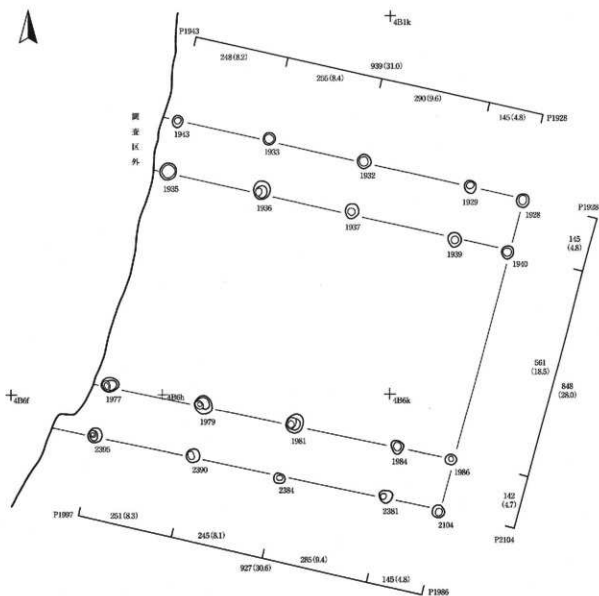
<位置>遺跡中央部南端、4 B 3 j 区に位置している。 <重複関係>多数の柱穴が密集して分布する中において比較的容易にプランを確認する事が出来た。 <平面形式>西側は調査区外への延びるため全容は把握出来ないが身舎に2面廂が付く形態である。身舎は桁行4間以上に梁間2間で、廂を含めた規模は桁行4間以上、梁間3間(848cm)である。身舎内あたる場所にも多数の柱穴がみられその中にはこの建物跡に伴っているものもあるかもしれない。 <建物方位>桁行方向でN-76°-Wを測る。 <柱間寸法>検出された部分で桁行は8.1~9.6尺、梁間は9.4尺となる。廂は半間の4.7尺で身舎に取り付くと思われる。 <出土遺物>なし。 <建物の性格>推定した規模から母屋と考えられる。 <時期>周囲から検出されている遺構・遺物から中世に属すると思われる。

RB027 掘立柱建物跡 (第122図・写真図版97)

<位置>本遺跡の東側、1 E 25 a 区に位置する。 <重複関係>RA276より新しい。 <平面形式>身舎に2面廂が付く形態である。身舎は6間×2間で、廂を含めた規模は桁行6間(1590cm)、梁間3間(758cm)である。P1165-P1166の梁間では柱穴が検出されなかった。 <建物方位>桁行の軸方向でN-64°-Eである。 <柱間寸法>桁行では8.6尺(約261cm)、梁間では8.3尺(約251cm)を基準としていると思われるが、桁行の両端と梁間の廂となる部分では狭い寸法が使われている。 <出土遺物>なし。 <付属施設>検出されていない。 <建物の性格>建物の大きさから母屋と考えられる。 <時期>建物の平面形式や周辺から検出されている遺構・遺物などから中世に属すると思われる。

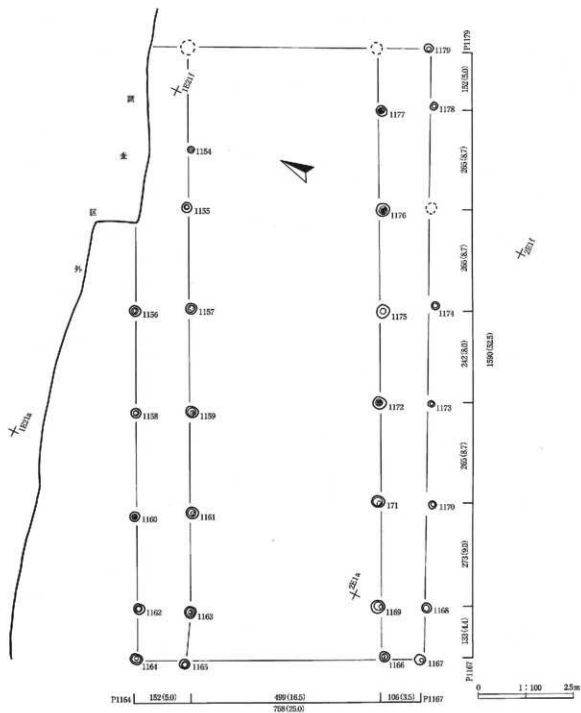


第120図 RB025掘立柱建物跡



柱番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1928	37 × 34	33.5	
1929	32 × 31	38.6	
1932	35 × 40	47.5	
1933	30 × 33	29.0	
1935	40 × 43	36.3	
1936	45 × 48	49.7	
1937	30 × 38	40.6	
1939	37 × 37	59.1	
1940	33 × 34	40.6	
1943	30 × 27	11.6	
1977	41 × 47	49.9	
1979	46 × 43	60.2	
1981	51 × 40	37.4	
1984	34 × 34	56.6	
1986	26 × 30	37.7	
2104	34 × 33	28.9	
2081	32 × 35	59.6	
2084	34 × 30	48.0	
2300	34 × 36	43.6	
2395	37 × 36	40.3	

第121図 RB026掘立柱建物跡



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考	柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考	柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1154	15 × 15	7.5		1163	30 × 30	31.8		1172	35 × 36	47.3	
1185	22 × 26	49.7		1164	35 × 25	41.4		1173	16 × 14	7.5	
1166	27 × 36	33.1		1165	25 × 25	39.3		1174	23 × 29	43.5	
1157	26 × 28	26.0		1166	24 × 25	51.7		1175	30 × 32	46.8	
1158	23 × 26	44.3		1167	29 × 26	49.0		1176	38 × 33	47.6	
1159	30 × 28	22.1		1168	23 × 25	25.0		1177	30 × 25	23.0	
1160	26 × 25	29.7		1169	33 × 34	34.9		1178	20 × 20	4.7	
1161	31 × 30	54.1		1170	20 × 20	9.5		1179	20 × 22	23.4	
1162	29 × 25	38.2		1171	34 × 31	39.9					

第122図 RB027掘立柱建物跡

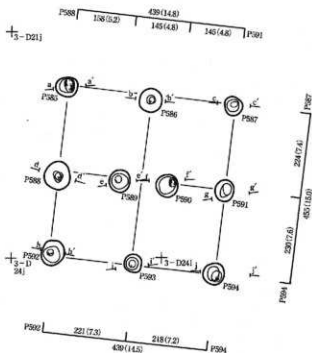
RB028 掘立柱建物跡 (第124図・写真図版98)

<位置>遺跡の西側、1-C16p区に位置している。<重複関係>RG268より新しい。RG073より古い。
<平面形式>掘立柱建物で母屋と蹠の覆い屋からなる構造である。母屋は上屋柱と下屋柱からなり、規模は桁行6.5間(1233cm)×梁間3間(149cm)である。間取りは北側が下手、南側が上手となっていたと思われるが、間仕切りの柱穴を見つけられなかったので詳細は不明である。間仕切が存在しなかったのではなく柱穴の掘り込みが浅いため検出できなかったと解釈したい。北西側の張出部は柱穴の位置関係から母屋に取り付け施設と思われをつないでみた。P668とP669は少し内側に入り込んでいるがそのことが何に起因するものかまでは解らない。出入口はP644-P645間ではないかと思われる。蹠の覆い屋部も上屋柱と下屋柱で構成され桁行3間(564cm)に梁間3間(493cm)の規模で、母屋に対し少し傾いている。蹠のくほみも検出されている。<建物方位>母屋の桁行の軸方向はN-10°-W。蹠の桁行の軸方向はE-19°-Nである。<柱間寸法>様々な寸法が使用されているが、母屋では6.4尺(約194cm)や6.2尺(約188cm)6.0尺(約182cm)が多く用いられ、蹠では6.2尺(約188cm)を基準にしていると思われる。

<出土遺物>(第362図・写真図版344)大塚相馬の甕(719)が出土している。<付属施設>東側に隣接する1×1間の掘立柱建物跡が木遣標に伴っていると思われる。<建物の性格>平面形式から曲屋といえると思う。母屋より蹠部は北側に柱一本分ずらして建てられていること、さらに蹠部は母屋に対して平面的にやや傾いて取り付けられていることなどから、始めは母屋のみの建物であったものに蹠部分を後に建て増したのではないかと推測される。<時期>近世の所属である。出土遺物から18世紀以降と考えられる。

RB029 掘立柱建物跡 (第123図・写真図版99)

<位置>本遺跡の西側3-D21j区にて検出された。<重複関係>RD601より古い。<平面形式>桁行2間×梁間2間の建物跡だが柱は10本で構成され、建物の中央に柱が2本配置される構造となっている。桁行きは一応南北方向の柱間寸法の方が東西方向よりも長かったため、ここでは南北方向を桁行としておく。<建物方位>N-9°-Eとなる。<柱間寸法>計測すると南北方向の柱間寸法が東西方向よりも若干長い。概ね正方形を基調とするプランであることから7.5尺を基本とし、P588-P591間は5尺を用いていると思われる。<出土遺物>なし。<建物の性格>平面形式から高床式の倉庫を推定している。<時期>周囲から検出されている遺構の状況から平安時代の可能性が高い。



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
585	63×55	47.3	
586	64×61	40.2	
587	54×51	53.0	
588	78×70	50.5	
589	64×59	26.5	
590	63×60	33.7	
591	58×53	48.3	
592	70×63	49.5	
593	69×48	38.0	
594	61×59	43.7	

0 1 : 100 2.5m

L=121.500m



P585

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有り。
明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。



P586

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有り。
明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。



P587

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有り。
明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。



P588

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有り。



P589

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有り。



P590

P590

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有り。



P591

P591

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有り。



P592

P592

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有り。



P593

P593

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有り。

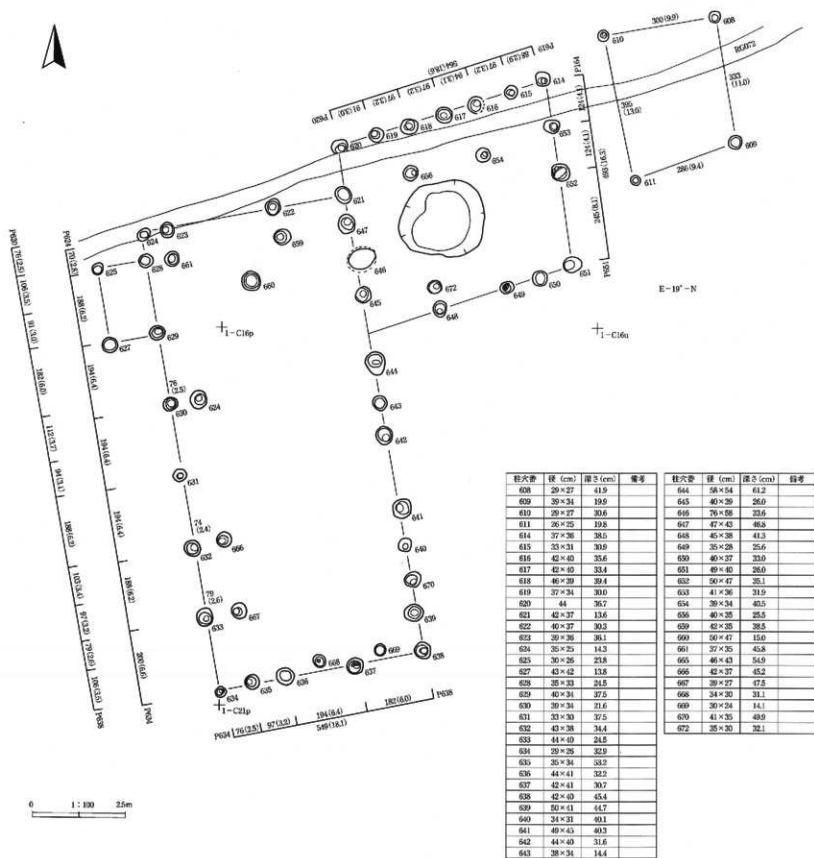


P594

P594

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有り。

第123図 RB029掘立柱建物跡



第124图 RB028墩立柱建物跡

5 墓塚（中世）及び土坑

今回の調査では405基の墓塚及び土坑を登録した。調査区のはほぼ全域から検出されるが、中でも密に分布するのは遺跡南側中央部でここには中世の墓塚が多数みられ墓域を形成していた（第16図）。この他には調査区の西端や遺跡中央部や東側の2C区周辺と遺跡西側の3-D区には土坑が比較的多くまとって分布している。時期別にみても奈良・平安時代及びその可能性があるもの3基、中世に属するもの358基、近世～近代42基、時期不明2基である。個々の遺構の諸特徴や出土遺物については観察表にまとめたので、ここでは代表的なものについてのみ触れたい。

本遺跡の中央部南側にあたる地域（3B・4B区）からは中世の墓塚約330基が密集して検出されている。因みにこの地域の現況は休耕田であり、地表面には石塔や墳丘といった墓に関連するような痕跡が一切残っていない。検出された墓塚の平面形態は隅丸長方形を基調とするものが最も多く、長軸が短軸の倍以上の長さを持ち掘り込みが比較的浅いものや、逆に正方形に近いものなどが見られる。規模を見ると最大でR D680の4.9㎡、最小でR D579の0.2㎡で1.4㎡位が最も多い。長軸方向は概ね南北方向となるものと東西を向くもののが殆どであるが規則的な配置を早するわけではない。埋土を見るとその殆どが黒褐色土と黄褐色土或いは褐色土の混合土で人為堆積の痕跡を呈している。埋葬の際に棺などに入れていたような痕跡は確認できなかったため直葬であったと思われるが、人骨は全く残っていない。遺体埋葬に関する情報を得るため覆土の分析も検討したが、今回の調査では見合わせることにした。墓塚間の重複も激しく、最大4回の重複が認められるものもある。中世の墓塚群は前述した中央部南側にあたる地域（3B・4B区）の周辺にも数は少ないながら展開しており、墓塚群より北東側の2C区や南東方向の4D区にも散見される。

R D298（第129図・写真図版109・110）では北壁際の底面より数cm高い位置から北宋銭が12枚、密着した状態で出土した。これらの銭貨を通していた紐も僅かだが残っていた。R D460の埋土中位からは青磁碗453（第325図・写真図版314）の破片が出土した。R D712とR D738からも中国銭564・565・566（第336・337図・写真図版323・324）が出土しているが、その他大多数の墓塚からの遺物の出土はなく、基本的には銭貨や陶磁器など後世に残るような物は調査していないようである。R D712・713・738では埋土中から焼土・炭粒とともに焼けた人骨が出土していることから火葬墓と思われる。何れも土坑墓より規模が小さく、平面形態も不整形である。この中でR D712・713はR G198溝跡と重複し、溝より新しい。他に類似があるか解らないが、溝であったところを意図的に選んでいる可能性があると思われる。ただそうすることの意味については判然としなない。

R D789は遺跡南端中央部に位置しており、北側には中世の彫穴建物跡や墓塚群が隣接し南側はすぐ湿地が広がっている。R D789はこの湿地となる岸際にR Z014とともに掘られており、埋土には炭粒の他に中小の自然礫を含んでいた。また陶磁器類や木製品なども出土し廃棄施設的な使われ方を想定している。R D469に関しても同様の性格であろうか。

R D597は出土遺物から近世の墓であることが明らかになった。今回の調査区内の1C区には前地権者の墓地があって、改葬を行っている。墓地の場所はR G264の東側半分とR G045の北端部にあたる。R D597に隣接するR D557も近世墓であり、R D562・563もその可能性がある。この他に近世及びそれ以降に位置付けられる火葬墓が遺跡西側の1-C区から4基が互いに接するような状態で検出された。位置的にR B028に関連する墓の可能性もある。

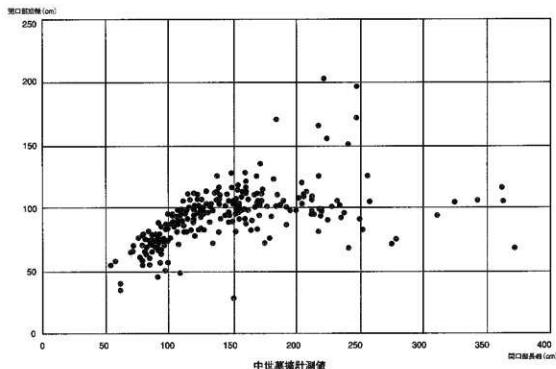
R D313・314は遺跡南側に位置する中世の堀跡R G083・084に囲まれた内側から検出された。堀内部には現在、諏訪神社が建っており、これらの土坑は鳥居を挟んで神社の反対方向に位置している。出土遺物

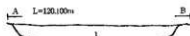
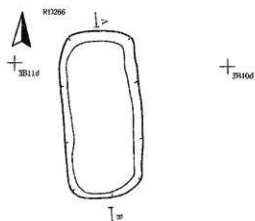
が無く時期判定は難しいが、堀跡 R G 083・084に伴うのであれば中世、諏訪神社に伴うのであれば隣接する R E 028と同様に近世以降になると考えられる。

近世から近代に位置付けられる土坑は42基検出されている。R D 331は陶磁器や明治の銭と共に木杓が出土しており土坑ではなく井戸跡としたほうが妥当かもしれない。R D 320は近世の掘立柱建物跡 R B 024(厩部)に伴う掘り込みである。R D 419・420からは馬の骨が出土した。骨の残りは良くなかったが脚を折り曲げ、頭部を西側にして納められているように観察された。時期は近世及びそれ以降のものである。

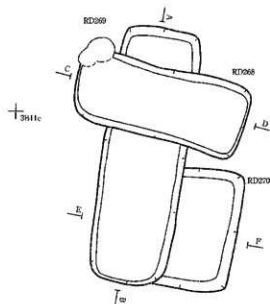
R D 649からは近世～近代にかけての陶磁器がまとまって出土した。その状況からこの時期に使われた破棄施設と考えられ、隣接する R D 379・622・624・648・813・814も同様の目的で大凡同じ地点に何回も構築された結果として互いに重複した状態で検出されている。

R D 632は底面付近から須恵器の坏・甕と土師器壺片がまとまって出土しており平安時代の土坑と考えられる。R D 816からも平安時代の土師器片が出土していることと埋土に十和田 a 火山灰を含んでいることから平安時代に位置付けられる。また R D 816との重複関係で同じ R D 817も同じく平安時代に属すると思われる。

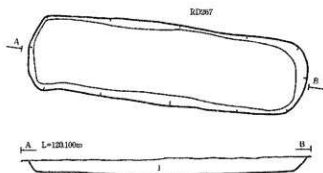




RD266
1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土及び黒褐色砂質土を部分的に含む。粘性やや有り、締まりややなし。



3B11c



RD267

1. 10YR2/2 黒褐色土と7.5YR3/3 暗褐色砂質土及び
10YR3/3 暗褐色土の混合土。粘性やや有り。
締まりややなし。



RD271

1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック含む。
粘性なし。締まっている。



RD268・269・270

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
- 10YR2/2 黒褐色土に褐色土や黒褐色砂質土が少量に混じる。粘性やや有り。締まり有り。
- 10YR4/4 褐色砂質土 黒褐色土ブロック含む。粘性なし。締まりやや有り。
- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック混ざり。粘性やや有り。締まっている。
器化内面部分に足らる。
- 10YR4/4 褐色砂質土を主体に、黒褐色土ブロックを少量含む。粘性やや有り。締まっている。
- 7.5YR2/3 黄褐色土 粘性有り。締まっている。

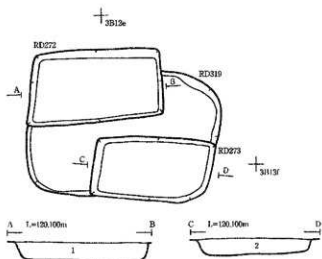


RD275

- 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。締まっている。
- 10YR3/2 黒褐色土と10YR4/4 褐色土の混合土。粘性やや有り。締まっている。

第125図 RD266～271・275 土坑

0 1:50 1m



RD272・273・319

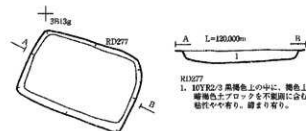
1. 10YR2/3 黒褐色土 焼褐色・褐色土ブロックの
微小粒を微量含む。粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR3/2 黒褐色土 焼褐色土ブロック小粒を
微量含む。粘性やや有り。締まっている。



RD276

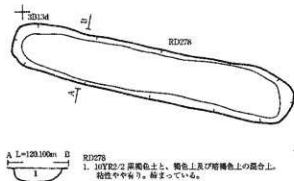
1. 7.5YR2/3 焼褐色土 材料なし、かたく締まっ
ている。径1cmに満たない炭粒で白い点を含む。
褐色土ブロック含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まっている。
径1cmに満たない炭粒で白い点を含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。
黄土を微量含む。褐色土ブロック含む。

3B20d



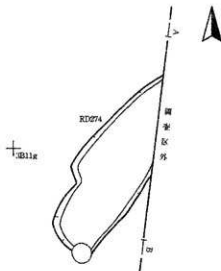
RD277

1. 10YR2/3 黒褐色土の上に、褐色土ブロック、
焼褐色土ブロックを不規則に含む。
粘性やや有り。締まり有り。



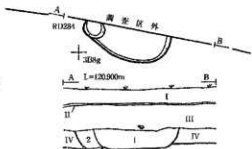
RD278

1. 10YR2/2 黒褐色土と、褐色土及び暗褐色土の混合土。
粘性やや有り。締まっている。



RD274

1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック・炭粒を
微量含む。粘性やや有り。締まっている。



RD281

1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック微小粒を少量含む。
粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック大・小粒を多量に
含む。粘性やや有り。締まり有り。

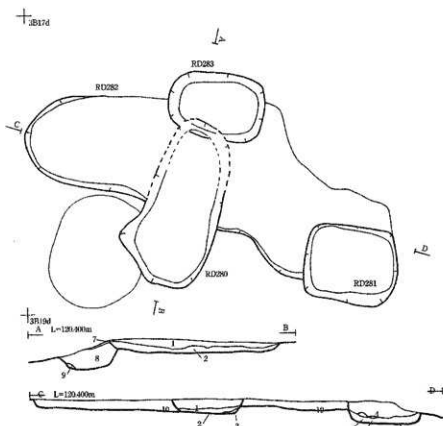


RD279

1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック微小粒を
微量含む。粘性やや有り。締まっている。

0 1:50 1m

第126図 RD272~274・276~279・284・319 土坑

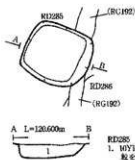


RD280-283

1. 75YR2/3 暗褐色土 粘性なし、締まっている。褐色土ブロック少量含む。151mm層の白色炭素粒子を含む。炭化物や多量、硝子少量含む。
2. 75YR2/3 暗褐色土を中心とした10YR4/4 褐色土を含む。硝子やや有り、締まっている。炭化物少量含む。
3. 10YR2/4 暗褐色土 粘性なし、締まりややなし。

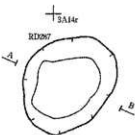
4. 10YR2/3 暗褐色土 粘性なし、締まっている。径1cm以下の白色炭素粒子を多く含む。
5. 10YR4/4 褐色土 粘性なし、締まっている。ブロックで密着する。
6. 10YR2/1 黒褐色土 粘性やや有り、締まっている。褐色土ブロック含む。
7. 75YR2/7 暗褐色土 粘性なし、締まっている。径1mm以下の白色炭素粒子含む。褐色土少量含む。

8. 10YR2/2 黒褐色土と75YR4/4 褐色土との混合土。151mm層の白色炭素粒子を多く含む。炭化物少量含む。硝子やや有り、締まっている。部分的に硝子は灰が混入する。
9. 75YR4/4 褐色土 粘性あり、締まっている。
10. 75YR2/2 暗褐色土と黒褐色土、10YR4/4 との混合土。粘性なし、締まっている。



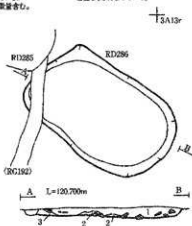
RD285

1. 10YR2/3 暗褐色土 その中に褐色土ブロック大一小粒を少量含む。粘性・締まりやや有り。



RD287

1. 10YR4/4 褐色砂質土 河原石(小)を多量に含む。粘性なし、締まっている。

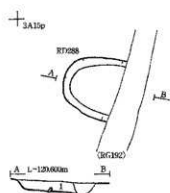


RD286

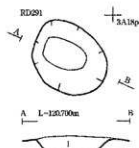
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まっている。(遺物含む)
2. 75YR5/9 暗褐色土 粘性なし、締まっている。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り、締まっている。

0 1:30 1m

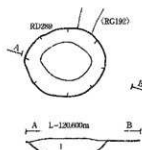
第127図 RD280~283・285~287 土坑



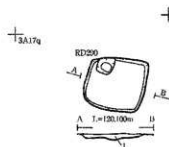
RD288
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。



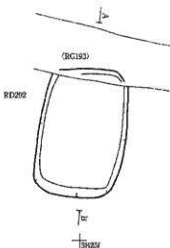
RD291
1. 10YR2/3 黒褐色土 小礫少量含む。粘性やや有り。締まっている。



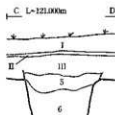
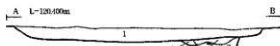
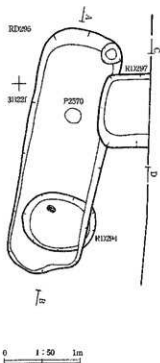
RD289
1. 10YR2/3 黒褐色土 小一礫小の河原石を多量に含む。粘性・締まりやや有り。



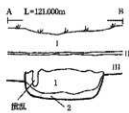
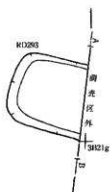
RD290
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。



RD292
1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック中一礫小粒を少量含む。粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR6/6 褐色土 黒褐色土ブロックを少量含む。粘性やや有り。締まっている。
3. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック中一礫小粒を多量に含む。粘性やや有り。締まっている。

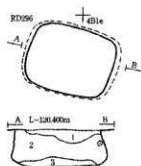


RD294・295・297
1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロックを多量に含む。粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
3. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック中一礫小粒を少量含む。粘性やや有り。締まっている。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まっている。褐色土ブロック含む。塊上、炭化物を含む。径10~20cmの河原石を含む。
6. 10YR2/3 黒褐色土と褐色土、黒色土の混成土。粘性やや有り。締まっている。



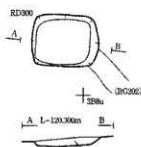
RD293
1. 10YR2/3 黒褐色土と 10YR6/6 褐色土との混成土。粘性なく。締まっている。砂子の多い形を含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まっている。褐色土ブロックを含む。

第128図 RD288~295・297 土坑



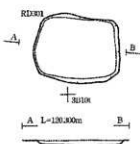
RD296

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし、よく締まっている。
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロックの殻を露出含む。粘性・締まりやや有り。
3. 10YR4/4 褐色土と黒褐色土の混合土。粘性やや有り。締まりなし。



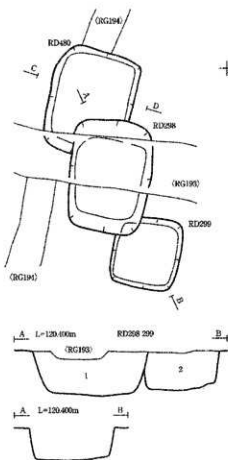
RD300

1. 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、赤く締まっている。腐化程度浅大。



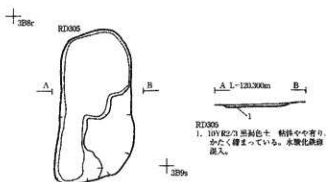
RD301

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。赤く締まっている。



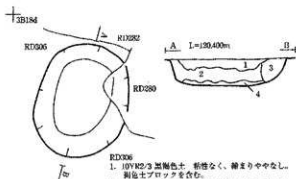
RD298・299

1. 7.5YR2/3 暗褐色土 褐色土ブロック中へ大粒を多数含む。粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック中へ小粒を多数含む。粘性やや有り。締まっている。



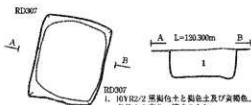
RD305

1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや有り。赤く締まっている。水酸化鉄露出。



RD306

1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性なく、締まりややなし。褐色土ブロックを含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まっている。
3. 10YR2/3 黒褐色土と 10YR4/4 褐色土の混合土。粘性なし。締まりややなし。
4. 7.5YR4/4 褐色土 粘性なし。締まりややなし。

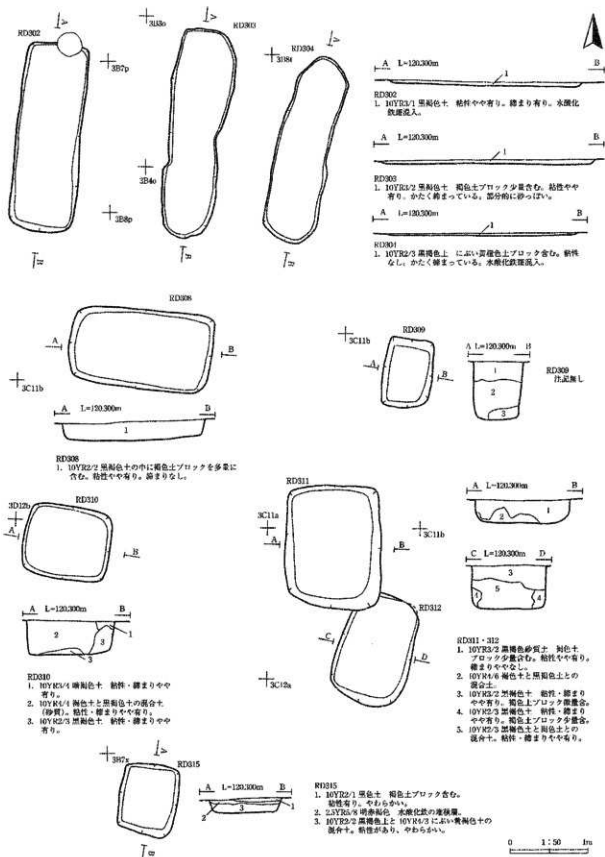


RD307

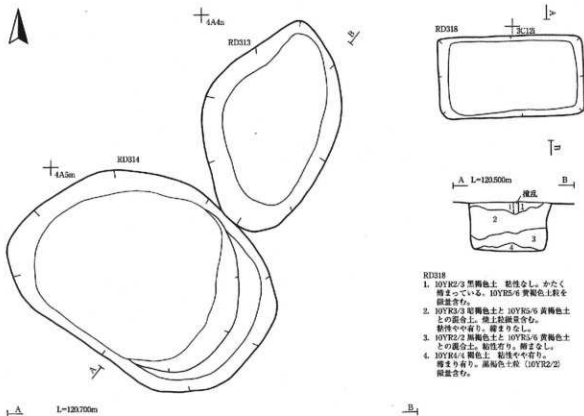
1. 10YR2/2 黒褐色土と 褐色土及び黄褐色土の混合土。粘性やや有り。締まりなし。

0 1:50 1m

第129図 RD296・298~301・305~307・480 土坑



第130図 RD302~304・308~312・315 土坑

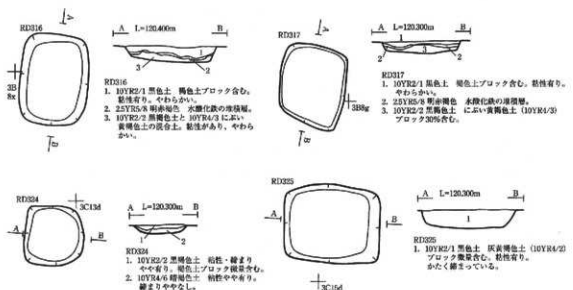


- RD313
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。かたく締まっている。10YR5/6 黄褐色土段を露出含む。
 2. 10YR2/3 暗褐色土と 10YR5/6 黄褐色土との混合土。壁上粒面を含む。粘りや中なり。締まりなし。
 3. 10YR2/2 黒褐色土と 10YR5/6 黄褐色土との混合土。粘性有り。締まりなし。
 4. 10YR4/4 褐色土 粘りや中なり。締まり有り。黄褐色土段 (10YR2/2) 露出含む。

RD313・314

1. 10YR2/3 暗褐色土 大小の河原石を多量に含む。粘りや中なり。締まっている。

2. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック小〜大段を小範囲に含む。河原石を多量に含む。粘性や中なり。締まっている。



RD316

1. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含む。粘性有り。やわらかい。
2. 2.5YR5/8 暗赤色土 水酸化鉄の塊状物。
3. 10YR2/2 黒褐色土と 10YR4/3 黄褐色土の混合土。粘性があり、やわらかい。

RD317

1. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含む。粘性有り。やわらかい。
2. 2.5YR5/8 暗赤色土 水酸化鉄の塊状物。
3. 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/3 ブロック30%含む。

RD324

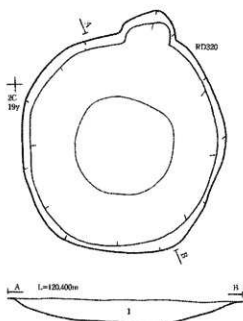
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘りや中なり。褐色土ブロック露出含む。
2. 10YR4/6 暗褐色土 粘りや中なり。締まりや中なし。

RD325

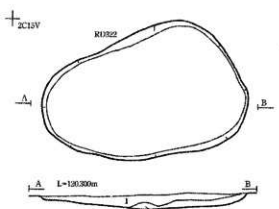
1. 10YR2/1 黒色土 褐色褐色土 (10YR4/2) ブロック露出含む。粘性有り。かたく締まっている。

0 1:50 1m

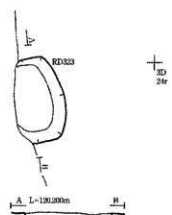
第131図 RD313・314・316~318・324・325 土坑



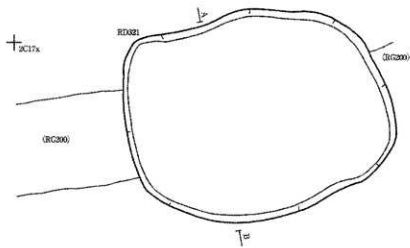
RD030
1. 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック小粒を散在含む
粘性やや有り。締まり有り。



RD022
1. 10YR3/2 黒褐色土 河原石少量含む。粘汗やや有り。締まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性やや有り。
締まり有り。



RD023
1. 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性なし。締まり有り。



RD021
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。水酸化鉄薄皮入。
2. 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まり有り。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
5. 10YR2/2 黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘汗やや有り。締まり有り。
水酸化鉄皮厚皮入。

※45420200000

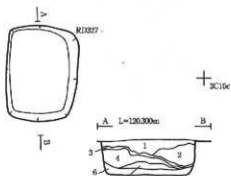


RD026
1. 10YR2/2 黒褐色土と 10YR3/4 暗褐色土との混合土。粘性。締まり有り。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。黒褐色土小ブロック散在含む。

3C14a

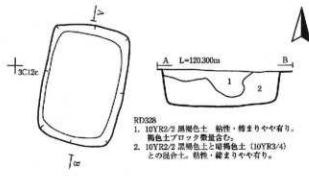


第132図 RD320~323・326土坑



RD327

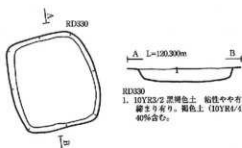
1. 10YR2/1 黒色土 におい黄褐色土 (10YR3/4) 小粒炭を含む。粘性・締まりやや有り。水酸化鉄混入。
2. 10YR2/1 黒色土と 10YR3/3 におい黄褐色土との混合土 粘性やや有り。締まりややなし。水酸化鉄混入。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まりやや有り。腐葉では砂を少量含む。水酸化鉄混入。
4. 10YR2/2 黒褐色土と 10YR3/4 暗褐色土との混合土。粘性やや有り。締まりなし。
5. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック炭を含む。粘性やや有り。締まり弱い。
6. 10YR2/2 黒褐色土砂 粘性・締まりなし。



RD328

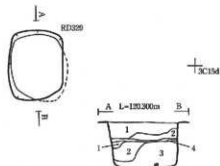
1. 10YR2/2 黒褐色土。粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック炭を含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土と暗褐色土 (10YR3/4) との混合土。粘性・締まりやや有り。

3C13a



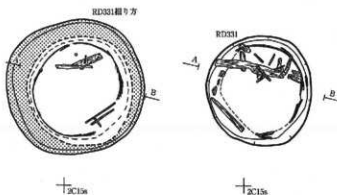
RD330

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土 (10YR4/4) 40%含む。



RD329

1. 10YR2/1 黒色土 褐色土小粒炭を含む。粘性・締まりやや有り。砂を少量含む。
2. 10YR2/1 黒色土と 10YR3/4 におい黄褐色土との混合土。粘性やや有り。締まりなし。炭を少量、砂を多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。砂を多く含む。水酸化鉄混入。
4. 5YR4/3 赤褐色土。水酸化鉄の球状体。

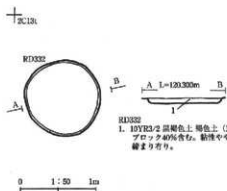


RD331 掘り方

RD331

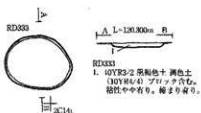
RD331

1. 10YR3/2 黒褐色土を中心と 10YR4/4 褐色土を30%程。腐葉の炭を含む。粘性やや有り締まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土。褐色土 (10YR4/4) を1%含む。粘性やや有り。締まり有り。水酸化鉄と炭を含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土 (10YR4/4) を50%含む。粘性やや有り。締まり有り。炭を少量、水酸化鉄混入。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭を1%程度含む。水分多い。木片有り。腐葉の水酸化鉄混入。
5. 10YR2/2 黒褐色土。粘性・締まり有り。腐葉の炭を含む。水分多い。



0 1:50 1m

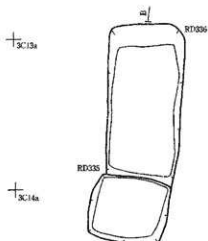
第133図 RD327~332 土坑



RD333
1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土
10YR4/4 ブロック含む。
粘性やや有り。締まり有り。



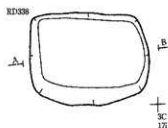
RD334
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
褐色土 10YR4/4 ブロック15%を含む。



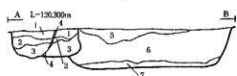
3C14a



RD337
1. 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土
10YR3/3 小ブロック散在。
粘性やや有り。締まりなし。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性有り。
締まりなし。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性有り。
締まりなし。砂粒を少量含む。

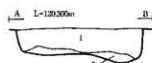


RD338
1. 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。かたく
締まっている。水酸化鉄混入。
2. 10YR2/1 黒色土と10YR3/3 近い黄褐色
砂質土との混合土。粘性やや有り。締まり
ややなし。水酸化鉄混入。
3. 10YR3/3 近い黄褐色土と黄土 粘性に
とみ、締まっている。水酸化鉄混入。

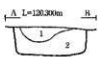
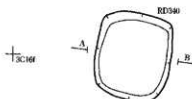


RD333・336

- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土小ブロック散在含む。
粘性ややなし。かたく締まっている。
- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土 10YR4/4 ブロック
含む。水酸化鉄混入。
- 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土 砂質土 (10YR3/3)
ブロック含む。粘性・締まりやや有り。水酸化
鉄混入。
- 5YR3/6 暗赤褐色 水酸化鉄の産物層。
- 10YR2/2 黒褐色土と10YR3/4 暗褐色砂質土との
混合土。粘性・締まりなし。
- 10YR2/2 黒褐色土と10YR3/4 暗褐色砂質土との
混合土。粘性有り。締まりなし。(E30~40cmの
両原石を散在含む)。
- 10YR3/4 暗褐色砂質土。粘性・締まりややなし。



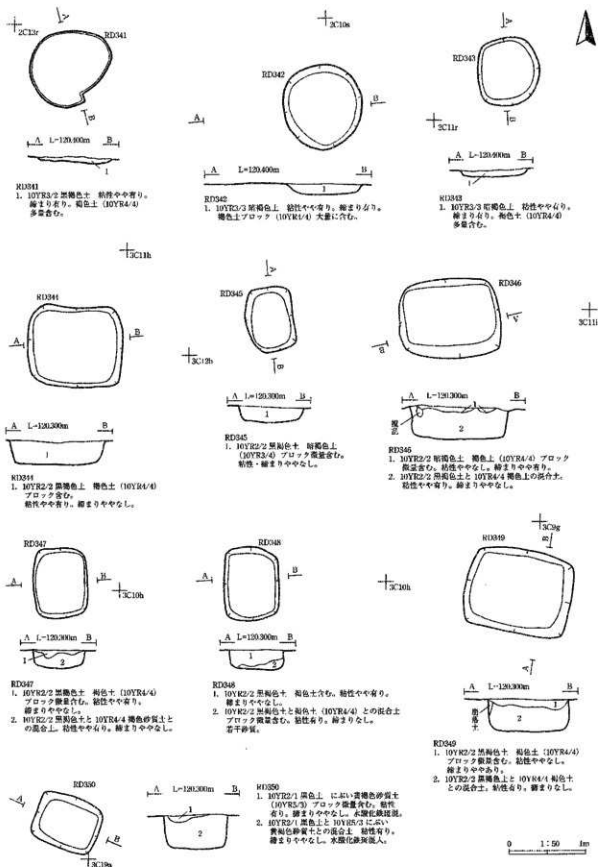
RD340
1. 10YR2/1 黒色土と10YR3/3 近い
黄褐色砂質土との混合土。粘性やや
有り。締まりややなし。炭を微量
含む。水酸化鉄混入。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。
締まりややなし。黒色土 (10YR2/1)
小ブロック含む。水酸化鉄混入。



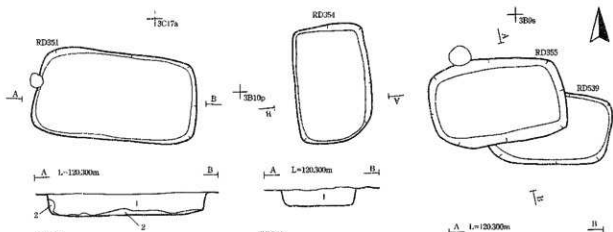
RD340
1. 10YR2/3 黒褐色土 近い黄褐色砂質土 (10YR3/3)
ブロック散在含む。粘性やや有り。かたく締まっている。
2. 10YR2/3 黒褐色土と10YR3/3 近い黄褐色砂質土と
の混合土。粘性やや有り。締まりややなし。
水酸化鉄混入。

0 1:30 1m

第134図 RD333~340 土坑



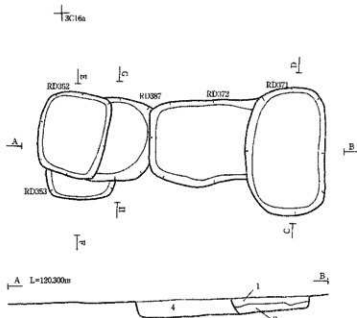
第135図 RD341~350 土坑



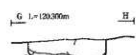
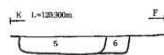
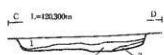
- RD351
1. 10YR2/1 黒色土 褐色土 (10YH4/0) ブロック微塵を含む。粘性有り。跡まりやや有り。腹上段や底が含まれる。水酸化鉄塊混入。
 2. 10YR2/1 褐色黒土質土 粘性有り。跡まりやや有り。灰層を含む。

- RD354
1. 7.5YR2/1 黒色土 粘性・跡まりややなし。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロック穴を含む。水酸化鉄塊混入。

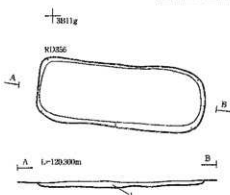
- KM335 - S35
1. 7.5YR2/1 褐色土 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロック微塵を含む。灰層を含む。粘性やや有り。跡まりややなし。水酸化鉄塊混入。
 2. 注記なし。



- RD362 - 353・371・372・387
1. 10YR2/2 黒褐色土 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3) ブロック微塵を含む。粘性なし。跡まりやや有り。灰を含む。水酸化鉄塊混入。
 2. 10YR2/2 黒褐色土と 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土との混合土。粘性やや有り。跡まりなし。灰を含む。水酸化鉄塊混入。
 3. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 粘性・跡まりやや有り
 4. 10YR2/2 黒褐色土 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック微塵を含む。粘性・跡まりやや有り。灰を含む。水酸化鉄塊混入。
 5. 7.5YR2/1 褐色土 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック穴を含む。粘性有り。跡まりややなし。灰層を含む。水酸化鉄塊混入。
 6. 10YR2/2 黒褐色土 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック微塵を含む。粘性有り。跡まりなし。水酸化鉄塊混入。
 7. 10YR2/2 黒褐色土 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック穴を含む。粘性・跡まりやや有り。灰を含む。水酸化鉄塊混入。
 8. 2.5G6/1 にぶい黄褐色土 粘性有り。跡まりややなし。
 9. 2.5G6/1 粘り強い褐色土質 黄褐色土でよごれている。砂層を含む。

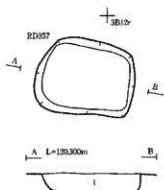


0 1:50 1m



- RD356
1. 7.5YR2/1 黒色土 粘性・跡まりややなし。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロック穴を含む。水酸化鉄塊混入。

第136図 RD351~356・371・372・387・539 土坑



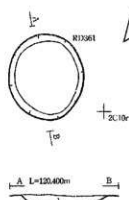
RD357

1. 7.5YR2/1 黒色土 粘性・締まりやや少なし。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) プロック少量含む。炭を微量含む。水酸化鉄染み入。



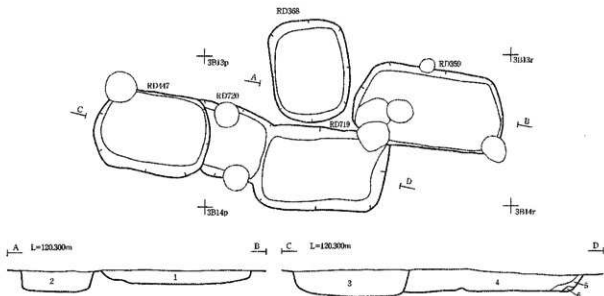
RD358

1. 7.5YR2/1 黒色土 粘性・締まりやや少なし。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) プロック含む。縦長に表面の小孔を含む。炭を微量含む。水酸化鉄染み入。



RD361

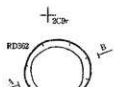
1. 10YR2/2 黄褐色土 褐色土 (10YR4/4) プロック少量含む。粘性やや有り。締まり有り。



RD368・368・447・719・720

1. 7.5YR2/1 黒色土 粘性・締まりを欠く。にぶい黄褐色土・プロック (10YR4/3) ・磁砂含む。水酸化鉄染み入。
2. 7.5YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まりを欠く。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) プロック含む。炭化植物含む。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性に富む。締まりなし。黄褐色土 (10YR3/1) とにぶい黄褐色土 (10YR4/3) との混合土。水酸化鉄染み入。

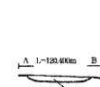
4. 10YR2/2 黄褐色土 粘性・締まり有り。灰黄褐色土 (10YR4/2) との混合土。水酸化鉄染み入。
5. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性有り。締まりややなし。黄褐色土・プロック (10YR2/2) ごく少量含む。水酸化鉄染み入。
6. 10YR3/1 オリーブ灰色粘土質土 粘性有り。締まりなし。



RD362

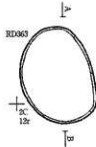
1. 10YR3/2 黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土・プロック (10YR4/4) 少量含む。

0 1:50 1m



RD362

1. 10YR3/2 黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土・プロック (10YR4/4) 少量含む。



RD363

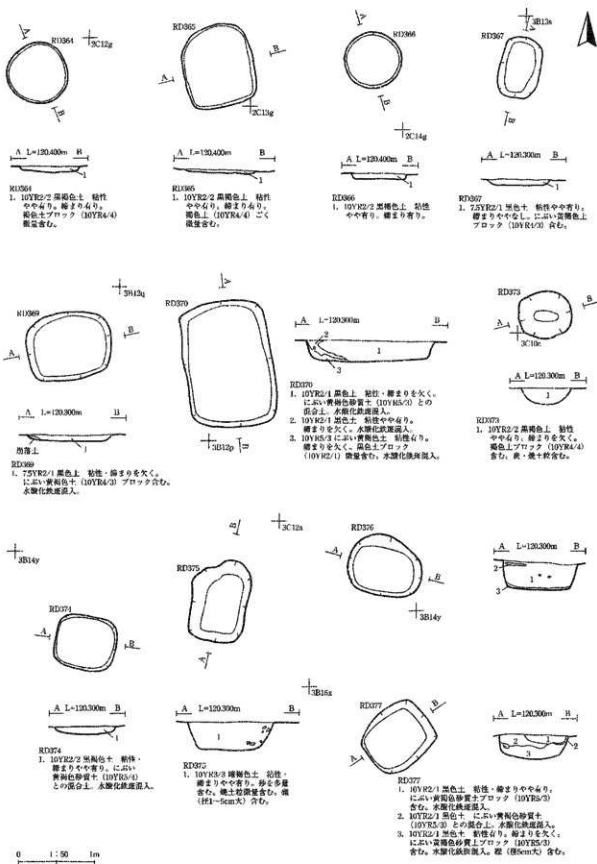
1. 10YR3/2 黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土・プロック (10YR4/4) 少量含む。



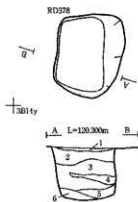
RD363

1. 10YR3/2 黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土・プロック (10YR4/4) 少量含む。

第137図 RD357~359・361~363・368・447・719・720土坑

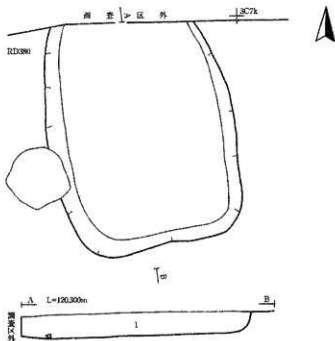


第138図 RD364~367・369・370・373~377 土坑



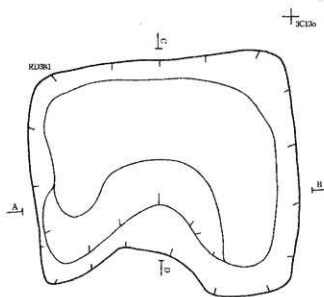
RD378

1. 土器化雑の層。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/2) がしみ状に混入。砂多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。砂多量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。
6. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。砂多量含む。



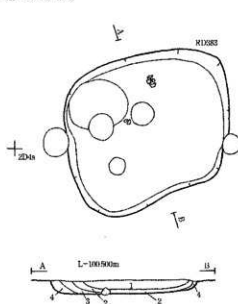
RD380

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。黒褐色土 (10YR2/2) と褐色土 (10YR4/6) の混合土。炭化物・糠 (径3-5cm大) 含む。



RD381

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。比較的黒褐色土ブロック (10YR5/4) 含む。炭化物・糠を含む。
2. 10YR4/1 褐色土 粘性・締まり有り。黒褐色土 (10YR3/1) まだら状に含む。水跡状痕混入。



RD383

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。粘土ブロック少量含む。
2. 10YR5/6 黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。黒褐色土との混合土。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 10YR3/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。粘土ブロック少量含む。

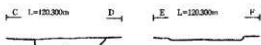
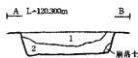
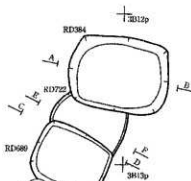
0 1:50 1m

第139図 RD378・380・381・383土坑



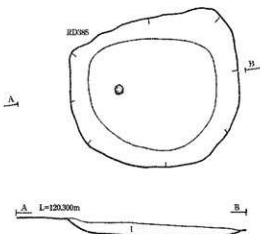
RD382

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/0) 少量含む。



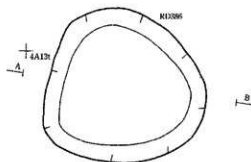
- RD384・689・722
1. 10YR2/2 黒色土 粘性・締まりやや有り。水酸化鉄混入。
 2. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりを欠く。にじみ黄褐色土ブロック (10YR3/3) 含む。水酸化鉄混入。
 3. 10YR0/1 黄褐色土 粘性有り。締まりなし。にじみ黄褐色土ブロック (10YR3/3) 少量含む。灰含む。水酸化鉄混入。

3C14



RD385

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/0) 含む。灰化物含む。



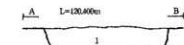
RI386

1. 2.5YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。小礫混入含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。黒山ブロック少量含む。小礫混入含む。



RD388

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。黒山ブロック少量含む。



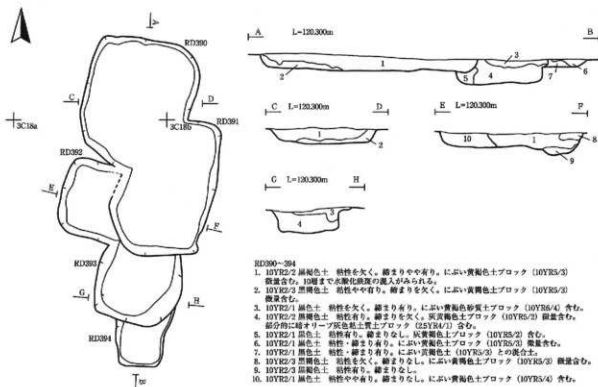
RI389

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。黒山ブロック少量含む。

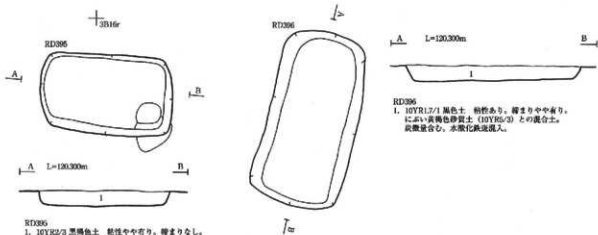
3C06

0 1:50 1m

第140図 RD382・384~386・388・389・689・722 土坑

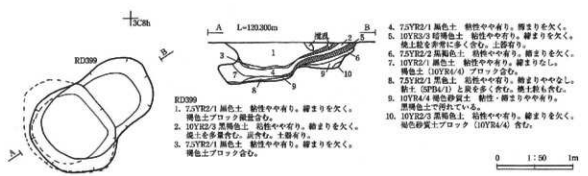


- RD390~394
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 散在含む。10層まで水酸化鉄度の浸入がみられる。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 散在含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性を欠く。締まり有り。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。灰黄褐色土ブロック (10YR5/2) 散在含む。部分的に細シリカ質土質土ブロック (2.5YR4/1) 含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりなし。灰黄褐色土ブロック (10YR5/2) 含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性・締まり有り。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 散在含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性・締まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) との混合土。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まりなし。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 散在含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まりなし。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/4) 含む。



- RD396
- 10YR1.7/1 黒色土 粘性あり。締まりやや有り。にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3) との混合土。灰散在含む。水酸化鉄度浸入。

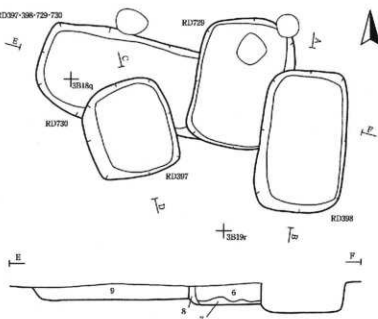
- RD395
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。にぶい黄褐色砂質土ブロック (10YR5/4) 含む。灰散在含む。水酸化鉄度浸入。



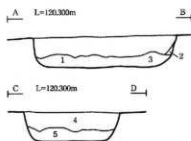
- RD399
- 7.5YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック散在含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。灰土を多量含む。灰含む。土跡有り。
 - 7.5YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック含む。
 - 7.5YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まりを欠く。
 - 10YR5/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。灰土散在含む。土跡有り。
 - 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まりなし。褐色土 (10YR4/4) ブロック含む。
 - 7.5YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まりややなし。粘土 (5PB4/1) と灰を多く含む。礫土散在含む。
 - 10YR4/4 褐色砂質土 粘性・締まりやや有り。褐色土で包んでいる。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。

第141図 RD390~396・399土坑

RD397・398・729・730



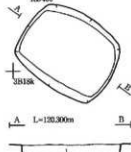
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
- 10YR5/2 黄褐色土 (10YR5/3) ブロック多量含む。水酸化鉄塊混入。
- 10YR5/2 黄褐色土 粘性有り。締まりやや弱。腐植土 (10YR2/2) 含む。水酸化鉄塊混入。底面には粘土の膠着有り。
- 10YR2/1 黒色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) ブロック少量含む。水酸化鉄塊混入。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。黒色土 (10YR2/1) ブロック少量。に濃い黄褐色土 (10YR5/3) ブロック多量含む。水酸化鉄塊混入。



RD397・398・729・730

- 10YR2/2 黒褐色土 に濃い黄褐色土 (10YR5/3) ブロック含む。粘性やや有り。締まりややなし。炭酸塩含む。水酸化鉄塊混入。
- 10YR5/3 に濃い黄褐色砂質土 黒褐色土ブロック混入含む。粘性有り。締まりややなし。
- 10BG1/1 青緑粘土質土 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 粘土ブロック含む。粘性とむ。締まりややなし。水酸化鉄塊混入。
- 10YR2/3 黒褐色土 に濃い黄褐色土 (10YR5/3) ブロックを含む。炭酸塩含む。粘性ややなし。かたく締まっている。水酸化鉄塊混入。
- 10BG1/1 青緑粘土質土 粘土質土 (7.5GY4/1) 暗緑灰色土。粘性にとも。締まりややなし。水酸化鉄塊混入。下面に粘土多い。

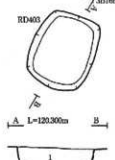
RD400



RD400

- 10YR2/1-2/2 黒色-黒褐色土 粘性有り。締まりなし。に濃い黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。炭含む。水酸化鉄塊混入。

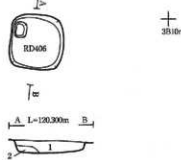
RD403



RD403

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。に濃い黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。炭酸塩含む。水酸化鉄塊混入。

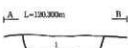
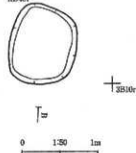
RD406



RD406

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。に濃い黄褐色土 (10YR5/3) との混入土。炭酸塩含む。土砂片含む。水酸化鉄塊混入。
- 10YR2/2 黒褐色土 に濃い黄褐色土ブロック (10YR5/3) 混入含む。水酸化鉄塊混入。

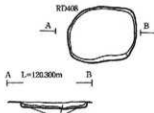
RD407



RD407

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。に濃い黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。炭酸塩含む。水酸化鉄塊混入。

RD408

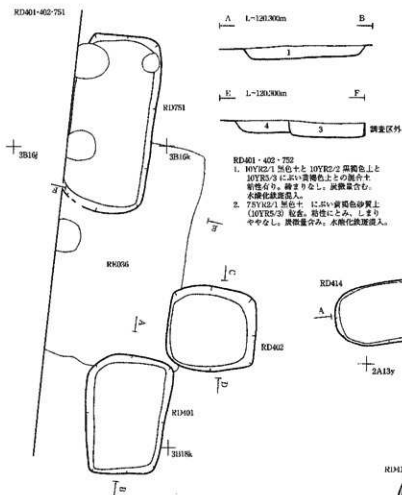


RD408

- 10YR2/1 黒色土 粘性・締まりやや有り。炭質褐色土ブロック (10YR5/2)・黄褐色土ブロック (10YR5/5) 含む。水酸化鉄塊混入。
- 7.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘土質土 粘性有り。締まりを欠く。黄褐色土 (10YR5/5) で得られている。水酸化鉄塊混入。

第142図 RD397・398・400・403・406~408・729・730土坑

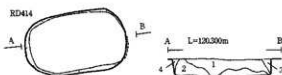
RD401-402-751



RD401・402・752

1. 10YR2/1 黒色土と 10YR2/2 茶褐色土と 10YR3/3 に近い黄褐色土との混合土。粘性有り。締まりなし。炭灰混入。水酸化鉄皮混入。
2. 7.5YR2/1 黒色土 に近い黄褐色土質土 (10YR3/3) 粘着。粘性に乏し。締まりややなし。炭灰混入。水酸化鉄皮混入。

3. 10YR2/1 黒色土 に近い黄褐色土 (10YR3/3) 粘着混入。粘性・締まり有り。白色炭灰粒子多量。水酸化鉄皮混入。
4. 10YR2/1 黒色土 に近い黄褐色土 (10YR3/3) ブロック多量混入。粘性有り。締まりなし。水酸化鉄皮混入。



RD414

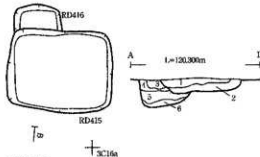
1. 10YR2/1 黒色土。粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR2/2 茶褐色土。粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量混入。
3. 伴定なし。
4. 伴定なし。



RD418

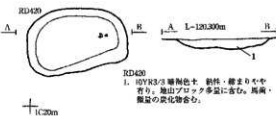
1. 10YR3/1 茶褐色土。粘性有り。締まりやや有り。褐色土 (10YR5/1) 炭灰混入。水酸化鉄皮混入。

RD415・416



RD415・416

1. 10YR2/2 茶褐色土。粘性有り。隙く締まる。粘土全体に水酸化鉄皮の混入。
2. 10YR2/3 黒褐色土。粘性やや有り。締まりを欠く。に近い黄褐色土 (10YR3/3) との混合土。
3. 10YR2/2 茶褐色土。粘性なし。締まりやや有り。に近い黄褐色土 (10YR3/3) との混合土。隙 (約0.1-0.3cm大) 散在含む。
4. 10YR4/1 黄褐色土。粘性やや有り。締まりなし。茶褐色土 (10YR2/3) とに似た黄褐色土 (10YR3/3) との混合土。隙 (約1cm大) 多量含む。
5. 10YR2/3 茶褐色土。粘性有り。締まりなし。に近い黄褐色土ブロック (10YR3/3) 散在含む。
6. 7.5YR2/1 黒褐色土質土。粘性に富む。締まりなし。茶褐色土 (10YR2/4) との混合土。

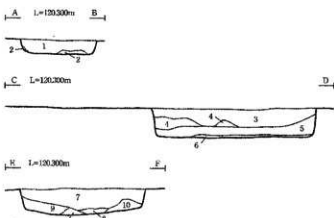
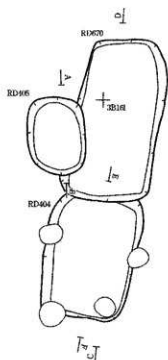


RD420

1. 10YR3/3 茶褐色土。粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量混入。炭灰・炭灰の炭化混合物。

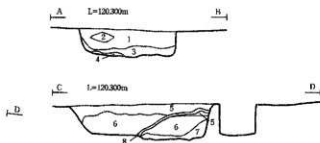
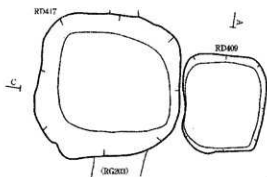
第143図 RD401・402・414~416・418・420・751 土坑

0 1:30 1m



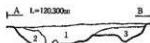
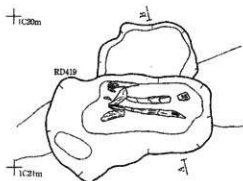
RD404・406・407

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性に富む。締まりやや有り。にぶい黄褐色土 (10YR5/2) との混合層。炭灰を含む。瓦上土層に水酸化鉄混入。
2. 7.5YR2/1 黒褐色土 粘性に富む。締まりやや有り。黒褐色土で汚れている。
3. 10YR5/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) ごく微量含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 少量含む。
5. 10Y3/1 ナリーフ灰砂質土 粘性・締まり有り。黒褐色土ブロック (10YR4/2) 少量含む。
6. 10YR3/1 ナリーフ灰砂質土 粘性有り。締まりなし。
7. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
8. 10YR1/1 黒土 粘性・締まりやや有り。
9. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3) との混合土。
10. 2.5YR4/1 黄ナリーフ灰褐色土 粘性に富む。締まりを欠く。黒土で汚れている。



RD409・417

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりを欠く。褐色土質土 (10YR4/6) との混合土。層 (厚3cm大) 縦線を含む。最上層には水酸化鉄の塊状混入。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。褐色土質土 (10YR4/6) との混合土。層 (厚3cm大) 縦線を含む。
3. 10YR4/6 褐色土質土 粘性やや有り。締まりなし。黒褐色土ブロック (10YR2/2) 多量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土質土ブロック (10YR4/6) 微量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。層 (厚1cm大) 縦線を含む。水酸化鉄混入。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 微量含む。水酸化鉄混入。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。砂多量含む。
8. 7.5YR4/6 褐色土 水酸化鉄混入の塊状混入。

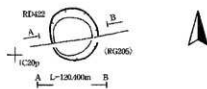
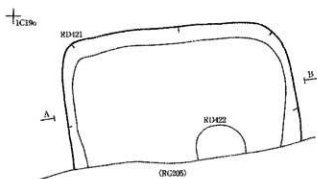


RD419

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。馬骨及び炭粒を含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。堆石ブロック多量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。堆石ブロック多量含む。



第144図 RD404・405・409・417・419・670 土坑



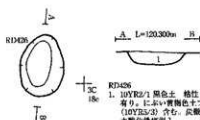
RD422

1. 10YR2/3 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。



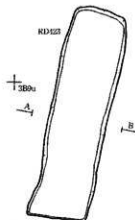
RD421

1. 10YR2/3 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まりやや有り。

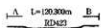


RD426

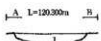
1. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まり有り。にぶい黄褐色土ブロック (10YR2/3) 含む。灰層を含む。水溝は溝底流入。



RD423

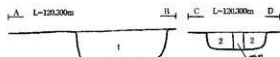
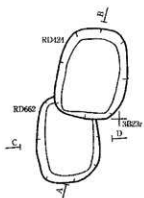


RD427



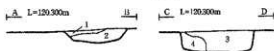
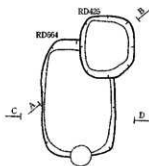
RD427

1. 10YR2/3 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック少量含む。



RD424・RD662

1. 10YR2/3 黄褐色土 粘性に富む。締まりなし。黄褐色土 (10YR5/6) との混合土。硝 (約1cm²) 含む。
2. 10YR2/2 黄褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。

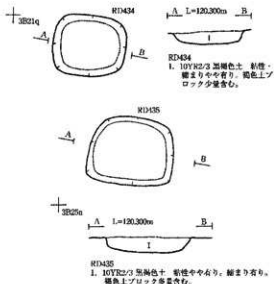
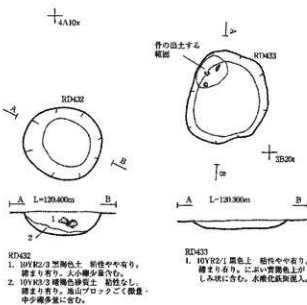
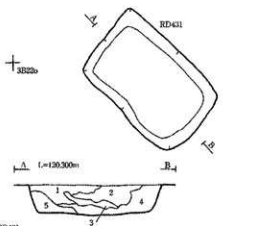
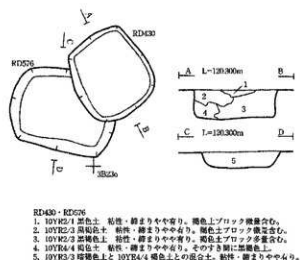
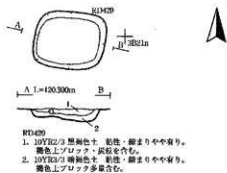
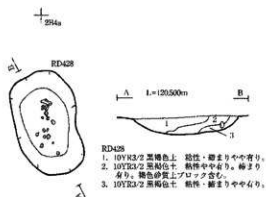


RD425・RD664

1. 10YR2/2 黄褐色土 粘性を欠く。締まる。黄褐色土ブロック (10YR5/6) 少量含む。
2. 10YR2/2 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。黄褐色土ブロック (10YR5/6) 多量含む。
3. 10YR2/2 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。灰化層含む。灰酸化炭酸塩。
4. 10YR2/3 黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土 (10YR4/4) 含む。

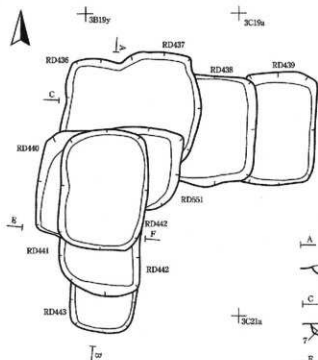
0 1:50 1m

第145図 RD421~427・662・664 土坑



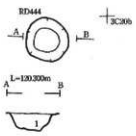
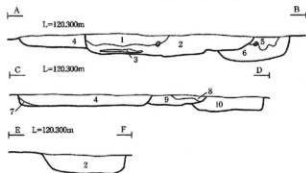
0 1:50 1m

第146図 RD428~435・576 土坑



RD436~RD443

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。炭微量・にふい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 多量含む。水酸化鉄混入。
2. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。黄褐色土ブロック (10YR5/3)・にふい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。
3. 10YR4/3 にふい黄褐色土 粘性有り。締まりやや有り。黒褐色土で汚れている。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。にふい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 多量含む。水酸化鉄混入。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりなし。黄褐色土ブロック (10YR5/3) 多量含む。埋 (H3~5cm) 含む。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。にふい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 少量含む。水酸化鉄混入。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。にふい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 少量含む。水酸化鉄混入。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。にふい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 少量含む。水酸化鉄混入。
10. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・締まりややなし。にふい黄褐色土ブロック (10YR5/3~5/4) 含む。水酸化鉄混入。



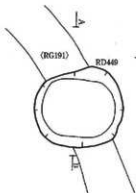
- RD444
1. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。にふい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。水酸化鉄混入。



- RD445
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。灰黄褐色土 (10YR4/2) をしみ込みに含む。水酸化鉄混入。



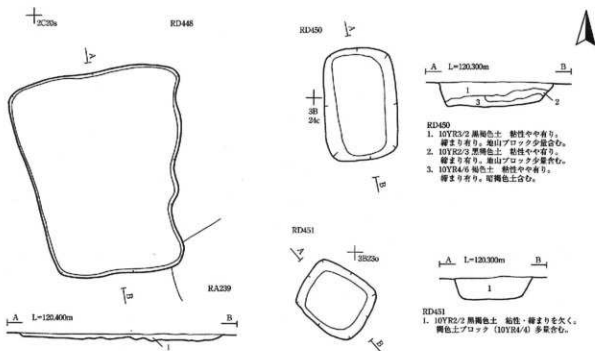
- RD446
1. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。にふい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。水酸化鉄混入。
 2. 10YR4/3 にふい黄褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。黒褐色土で汚れている。締含む。水酸化鉄混入。



- RD440
1. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。褐色土ブロック多量含む。裏面上面に褐色土 (10YR4/4)・黒褐色土ブロック (10YR2/2) を含む層が見られる。最大で10cm厚。



第147図 RD436~446・449・551 土坑



RD450

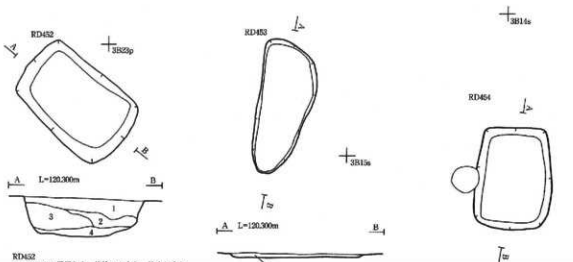
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。礫まじり有り。黒山ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。礫まじり有り。黒山ブロック少量含む。
3. 10YR4/6 褐色土 粘性やや有り。礫まじり有り。珪質土を含む。

RD451

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・礫まじりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/6) 多量含む。

RD448

1. 10YR3/4 緑褐色土 粘性なし。礫まじり有り。水酸化鉄屑混入。



RD452

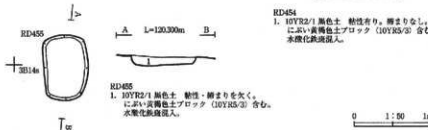
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。礫まじり有り。黒山ブロック少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。礫まじり有り。黒山ブロック多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・礫まじりやや有り。黒土・黄褐色土ブロック多量含む。
4. 10YR5/6 黄褐色土 粘性やや有り。礫まじり有り。珪質土との混合土。

RD453

1. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。礫まじりなし。にがい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。水酸化鉄屑混入。

RD454

1. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。礫まじりなし。にがい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。水酸化鉄屑混入。

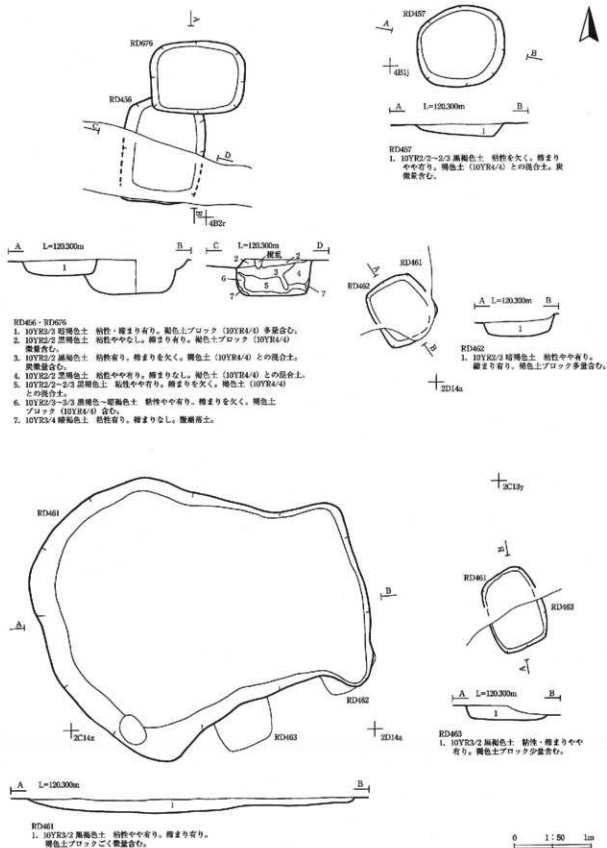


RD456

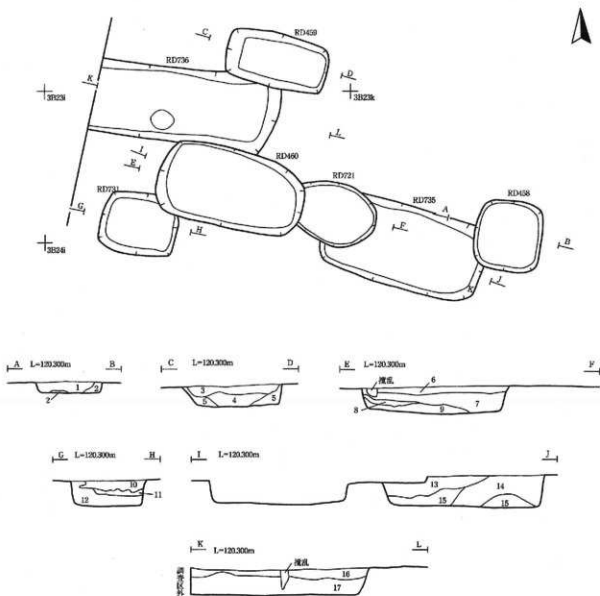
1. 10YR2/1 黒色土 粘性・礫まじりを欠く。にがい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。水酸化鉄屑混入。

0 1:00 1m

第148図 RD448・450～455 土坑



第149図 RD456・457・461～463・676 土坑



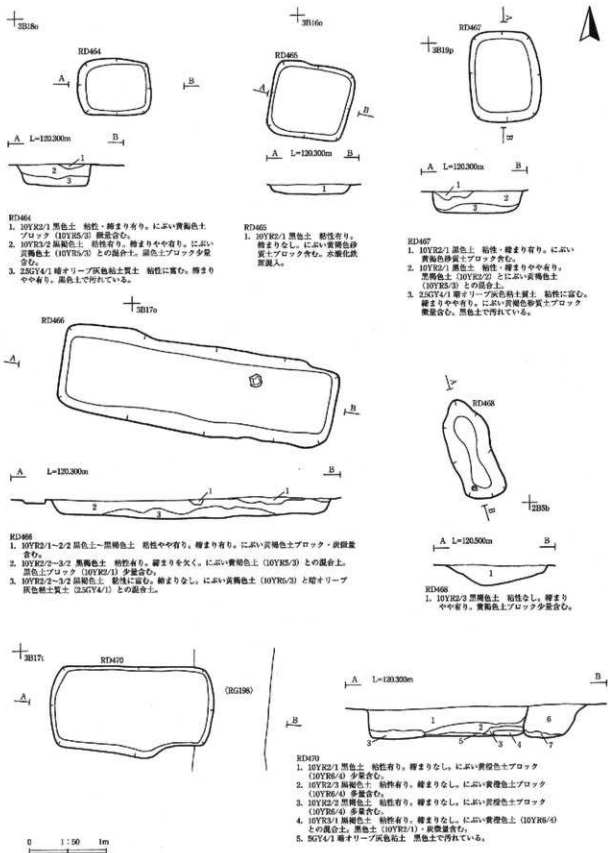
RD458-RD460-RD721-RD731-RD735-RD736

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量・炭灰混入。
2. 10YR2/2-2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量・炭灰混入。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。炭 (径1cm大) 含む。
5. 10YR2/4 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。黒褐色土ブロック (10YR2/2) 含む。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量・炭灰混入。
7. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりなし。黒褐色土ブロック (10YR2/2)・褐色土ブロック (10YR2/2) 含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。炭少量・炭土塊混入中心。

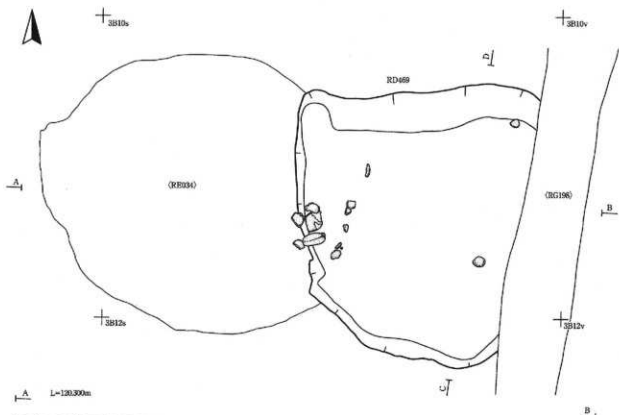
9. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性やや有り。締まりを欠く。黒褐色土ブロック (10YR2/2)・褐色土 (10YR4/4) 含む。
10. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック多量含む。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。炭土塊。炭ごく微量含む。
12. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まりを欠く。黒褐色土ブロック少量含む。
13. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。暗褐色土ブロック (10YR3/3) 多量含む。
14. 10YR2/2-2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。暗褐色土 (10YR3/3) との混合土。
15. 10YR2/3 暗褐色砂質土 粘性やや有り。締まりなし。黒褐色土ブロック少量含む。
16. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。炭・炭土塊ごく微量含む。
17. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。

0 1:50 1m

第150図 RD458-460・721・731・735・736 土坑



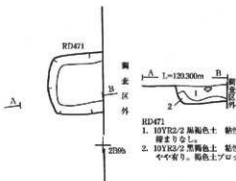
第151図 RD464~468・470 土坑



A L=120.300m

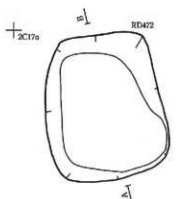
C L=120.300m

- RD469
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。河原石少量。炭屑混在。
 2. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性に乏む。締まりを欠く。河原石 (55~10cm大) 炭屑混在。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック多量混在。
 4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量混在。
 5. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性なし。締まりやや有り。
 6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック多量混在。
 7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。河原石 (55~10cm大) 少量混在。
 8. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性有り。締まりやや有り。
 9. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性なし。締まりやや有り。
 10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック多量混在。



A L=120.300m B

- RD471
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック少量混在。

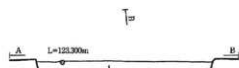
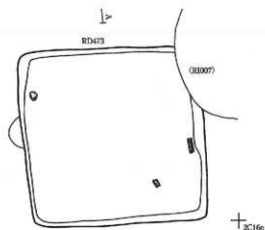


A L=120.300m B

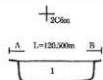
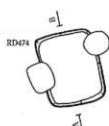
- RD472
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。小礫・炭屑混在。

0 1:50 1m

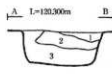
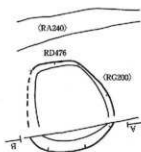
第152図 RD469・471・472 土坑



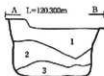
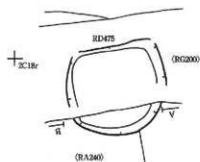
RD473
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土小ブロック少量含む。



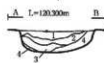
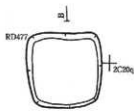
RD474
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土小ブロックごく微量含む。



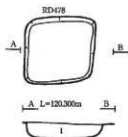
RD476
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック多量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック微量含む。



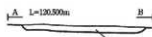
RD475
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土小ブロック少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。
3. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性やや有り。締まりなし。



RD477
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。締まりやや有り。地山ブロック含む。
3. 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性なし。締まりやや有り。
4. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。



RD478
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック微量含む。



RD482
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。

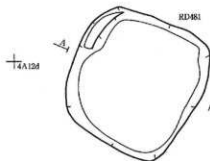


第153図 RD473~478・482 土坑



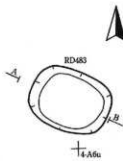
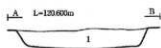
RD479

1. 10YR2/2-2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。赤褐色灰土ブロック (GYR4/6) 多量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。灰土膠少量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。
4. 10YR3/4 暗褐色土 粘土・締まりやや有り。



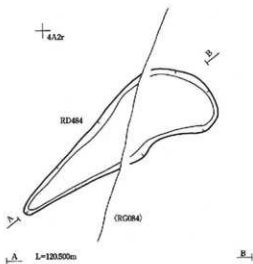
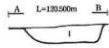
RD481

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。締まりやや有り。小礫散在を含む。



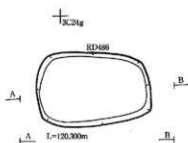
RD483

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。



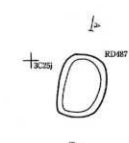
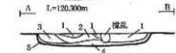
RD484

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。灰土ブロックごく少量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。灰土ブロック少量含む。



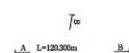
RD486

1. 10YR5/5 黄褐色土 粘性なし。締まり有り。黒褐色土 (10YR2/2) ブロック少量含む。
2. 10YR2/2-2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。赤褐色土ブロック (10YR5/5) 少量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まり有り。灰褐色土ブロック (10YR5/6) 多量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) 多量含む。
5. 10YR4/6 褐色土 粘性有り。締まりやや有り。



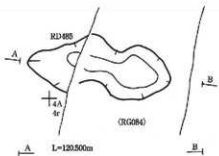
RD487

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。黒褐色土ブロック少量含む。



RD489-492

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。灰土ブロック少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。灰土ブロック少量・小礫含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。

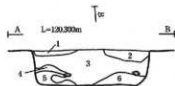
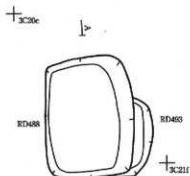


RD485

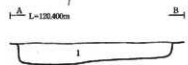
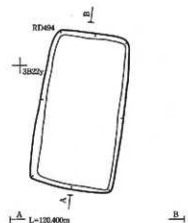
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。灰土ブロック少量含む。



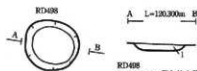
第154図 RD479・481・483~487・489・492 土坑



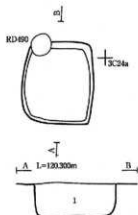
- RD488
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや有り。麓山ブロック少量含む。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。麓山ブロック多量含む。
 4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。麓山ブロック多量含む。
 5. 10YR4/4 棕色土 粘性・締まりやや有り。黒褐色土含む。
 6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。麓山ブロック少量含む。



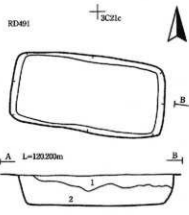
- RD494
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。麓山ブロック少量含む。



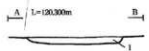
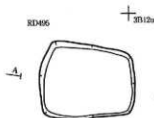
- RD498
1. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性に富む。締まり有り。にがい黄褐色土ブロック少量含む。



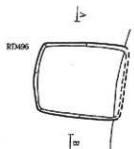
- RD490
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。麓山ブロック等一小粒を少量含む。



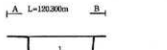
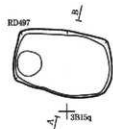
- RD491
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。麓山ブロック多量含む。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。



- RD495
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。麓山ブロック少量含む。



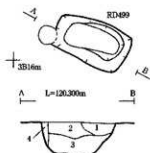
- RD496
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。麓山ブロック少量含む。



- RD497
1. 10YR2/1 黒色土 粘性含む。締まりやや有り。にがい黄褐色土ブロック (10YR5/2) 少量含む。



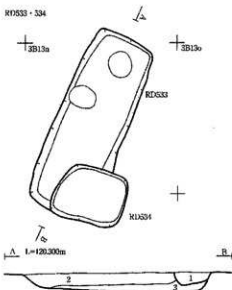
第155図 RD488・490・491・494~498 土坑



RD499

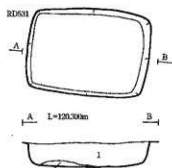
1. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりなし。にぶい黄褐色土の少量含む。1~2cm厚の底少量含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。にぶい黄褐色土やブロック少量に多く含む。底少量含む。
3. 15Y7/2 黄褐色土質土 粘り少く、硬さ少く、ブロック少量を含む。
4. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりやや有り。にぶい黄褐色土やブロック少量含む。

RD533・534



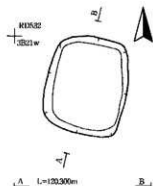
RD533・RD534

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。底少量含む。周囲ににぶい黄褐色土ブロック (10YR5/2) 少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。底ににぶい黄褐色土ブロック (10YR5/2) 少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。底少量含む。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/2) 含む。



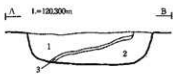
RD531

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4~6) 少量・黒色土ブロック (10YR2/1) 少量含む。
2. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土・黒色土ブロック少量・砂微量含む。



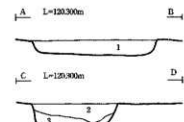
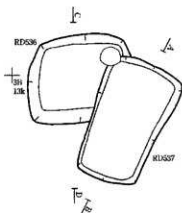
RD532

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量・底少量ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色土やブロック少量・底微量含む。
3. 10YR3/3~3/4 黄褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。



RD535

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック含む。
2. 10YR2/1 黒褐色土質土 粘性有り。締まりなし。にぶい黄褐色土ブロック少量含む。
3. 水酸化鉄が層状に堆積している層。

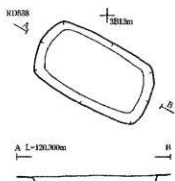


RD536・537

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。底山ブロック少量含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。底山ブロック少量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色土質土 (10YR4/1) との混合土。底山ブロック少量含む。南側斜面に褐色土質土少量含む。

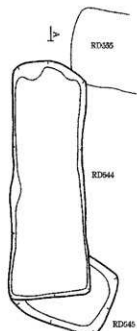


第156図 RD499・531~537 土坑



- RD538
1. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。地山ブロック少量含む。

RD544・545



RD544・545

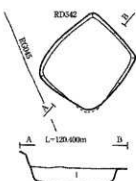
1. 10YR2/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR2/1 黒褐色土 褐色土 (10YR3/1) との混合土。地山ブロック多量含む。



RD640

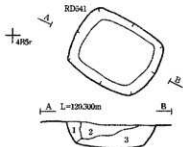
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロック少量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まりを欠く。褐色土ブロック多量含む。

1C23h



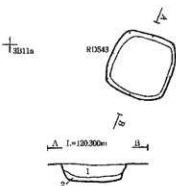
RD642

1. 10YR3/2~3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。褐色土ブロック少量含む。



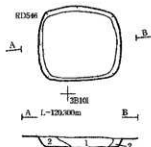
RD641

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。固く締まる。褐色土ブロックごく微量・少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロックごく微量含む。
3. 10YR2/2~3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。褐色土ブロック含む。



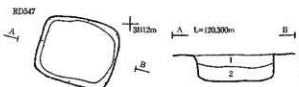
RD543

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。地山ブロックごく微量含む。
2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。地山ブロックごく微量含む。



RD546

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。地山ブロック多量含む。



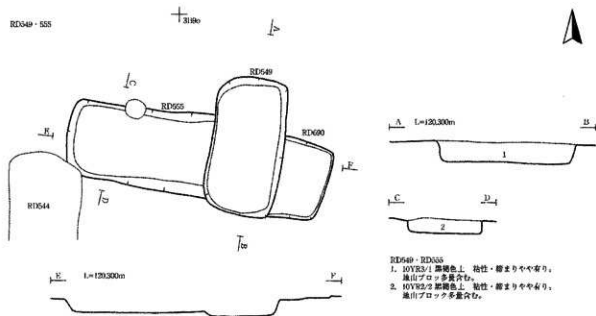
RD547

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性に富む。締まり有り。地山ブロック少量含む。

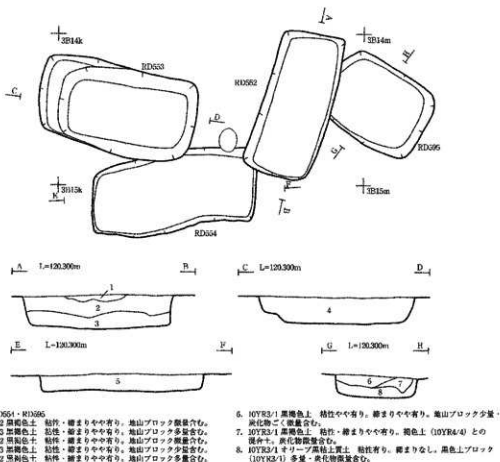
0 1:50 1m

第157図 RD538・540~547 土坑

RD549・555

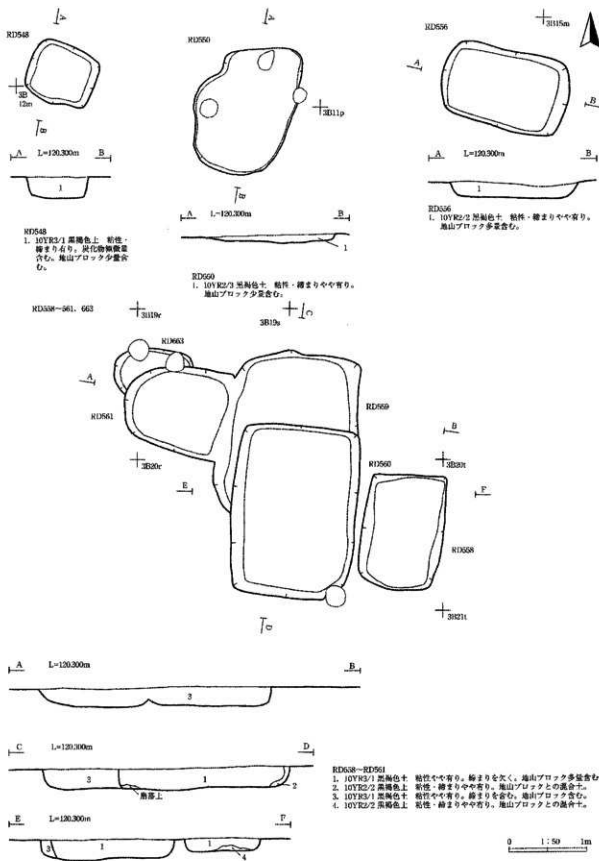


RD552～554・595

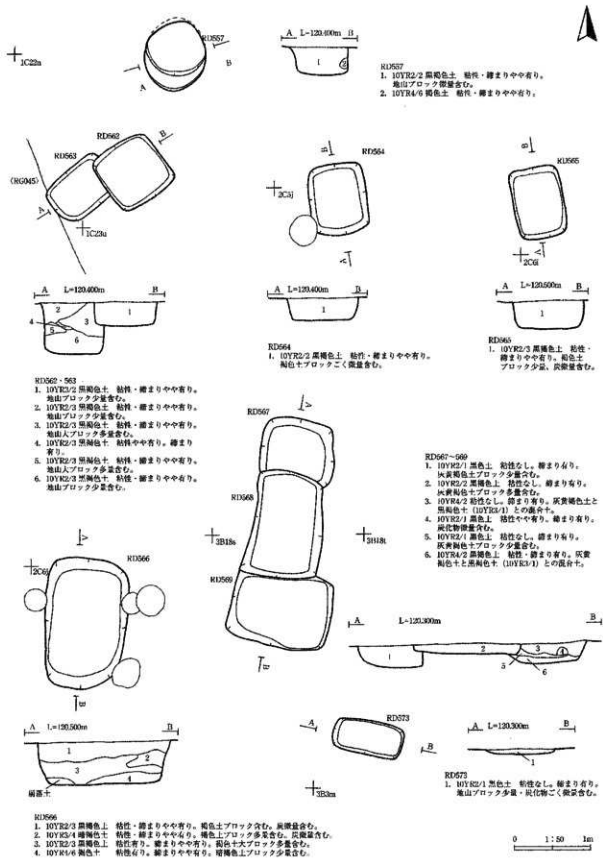


0 1:90 1m

第158図 RD549・552～555・595・690 土坑



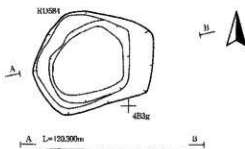
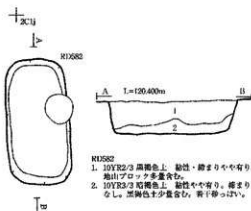
第159図 RD548・550・556・558~561・663 土坑



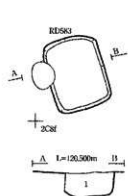
- RD562-563
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
地山ブロック少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
地山ブロック少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
地山人ブロック多量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり
有り。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
地山人ブロック多量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
地山ブロック少量含む。

- RD566
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック含む。灰黄色含む。
 - 10YR4/4 褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック多量含む。灰黄色含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色土大ブロック多量含む。
 - 10YR4/6 褐色土 粘性有り。締まりやや有り。黒褐色土ブロック少量含む。

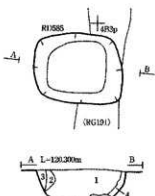
第160図 RD557・562～569・573 土坑



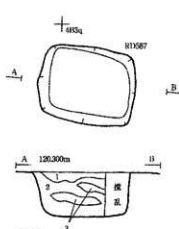
- RD584
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
 2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック多量・炭化物ごく微量含む。



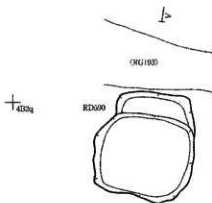
- RD583
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック少量含む。



- RD585
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。地山ブロック少量・炭化物微量含む。
 2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。地山ブロック多量含む。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。地山ブロック多量含む。
 4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。地山ブロック多量含む。
 5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりなし。地山ブロック多量含む。



- RD587
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。地山ブロック少量含む。
 2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。暗褐色土 (10YR3/4) との混在土。
 3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混在土。

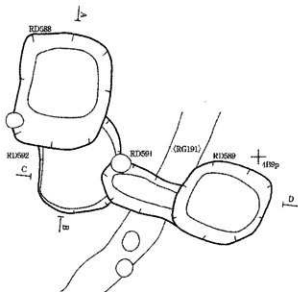


- RD589
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混在土。
 2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性に乏む。締まりを欠く。褐色土ブロック少量含む。
 3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混在土。



第162図 RD582~585・587・590土坑

418a



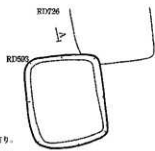
RD588・RD589・RD591・RD592

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。締まり有り。
2. 10YR2/2-2/3 黒褐色 粘付き有り。締まり有り。褐色土ブロック少量・炭化物少量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。締まり有り。
4. 10YR2/2 暗褐色土 粘性有り。締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。炭化物少量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
6. 10YR2/4 暗褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
7. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。高粘性土含む。
8. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
9. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
10. 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。炭・地上炭層を含む。
11. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
12. 10YR2/2 暗褐色土 粘付き有り。締まり有り。褐色土ブロック。ごく少量含む。
13. 10YR2/3 暗褐色土 粘性なし。締まり有り。高粘性土ブロック少量含む。
14. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
15. 10YR3/2 暗褐色土 粘付きなし。締まり有り。褐色土小ブロック少量含む。

418p

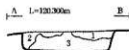


418m



RD590

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土少量含む。
2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。炭化物ごく少量含む。
3. 10YR2/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有りなし。褐色土ブロック少量・炭化物少量含む。

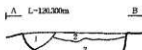


418n



RD594

1. 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まり有り。堆山ブロック少量・炭化物少量含む。
2. 10YR3/1 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。堆山ブロック少量・炭化物ごく少量含む。
3. 10YR2/2 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。炭化物少量含む。



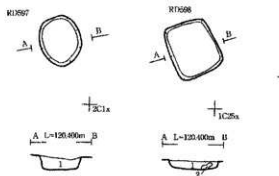
1=120.700m



RD596

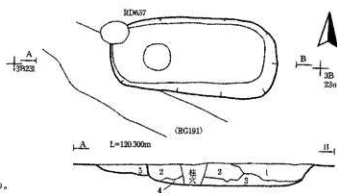
1. 10YR3/1 暗褐色土 粘付きなし。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量・炭化物少量含む。
2. 10YR2/2 暗褐色土 粘付き有り。締まり有り。褐色土ブロック少量・炭化物少量含む。
3. 10YR2/3 暗褐色土 粘付きやや有り。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
4. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まり有り。

葉163図 RD588・589・591~594・596 土坑

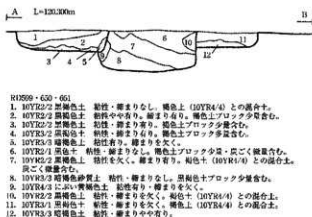
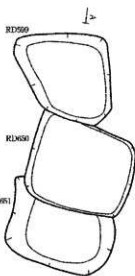


RD597
1. 10YR3/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。

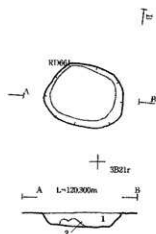
RD598
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
2. 10YR5/6 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。



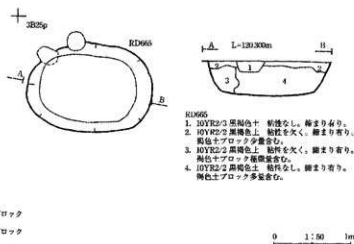
RD637
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く、締まり有り、褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土 (10YR4/0) との混合土。炭酸塩含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く、締まり有り、褐色土ブロック多量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土ブロック少量含む。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土ブロック少量含む。



RD599・650・651
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりなし、褐色土 (10YR4/0) との混合土。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、褐色土ブロック少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土ブロック少量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土ブロック多量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り、締まりを欠く。
6. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まりなし、褐色土ブロック少量・炭酸塩少量含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く、締まり有り、褐色土 (10YR4/0) との混合土。
8. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりなし、褐色土ブロック少量含む。
9. 10YR4/0 に赤・黄褐色土 粘性有り、締まりを欠く。
10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりを欠く、褐色土 (10YR4/0) との混合土。
11. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まりを欠く、褐色土 (10YR4/0) との混合土。
12. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。



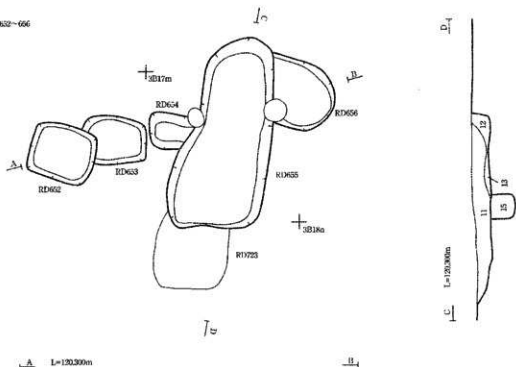
RD661
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、褐色土ブロック多量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、締まりややなし、褐色土ブロック多量含む。



RD665
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし、締まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く、締まり有り、褐色土ブロック少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く、締まり有り、褐色土ブロック少量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし、締まり有り、褐色土ブロック多量含む。

第164図 RD597~599・650・651・657・661・665 土坑

RD652~666

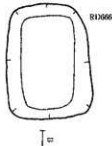


RD652~656

1. 10YR2/1 黒色土 粘性なし。締まり有り。灰黄褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりを欠く。灰黄褐色土 (10YR4/2) との混合土。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性なし・締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 少量・灰化物を含む。
4. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まり有り。灰化物塊を含む。灰黄褐色土 (10YR4/2) との混合土。
5. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。灰化物を含む。

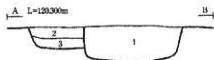
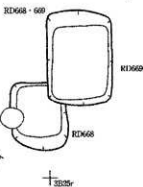
6. 10YR2/1 黒色土 粘性なし。締まり有り。灰黄褐色土ブロック少量・灰化物を含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。灰黄褐色土ブロック多量・灰化物塊を含む。
8. 10YR2/1 黒褐色土 粘性なし・締まり有り。灰黄褐色土 (10YR4/1) との混合土。
9. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。灰黄褐色土多量含む。
10. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。灰色鉄屑多量含む。
11. 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まり有り。にがい黄褐色土ブロック・灰少量含む。
12. 10YR2/2 黒褐色土 粘性に重む。締まり有り。にがい黄褐色土を含む。
13. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。
14. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。灰黄褐色土ブロック少量含む。
15. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりなし。堆積ブロック少量含む。

I-V



RD666

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック少量・灰化物塊を含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土ブロック多量・灰化物塊を含む。



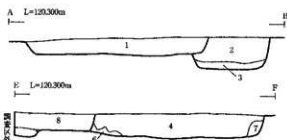
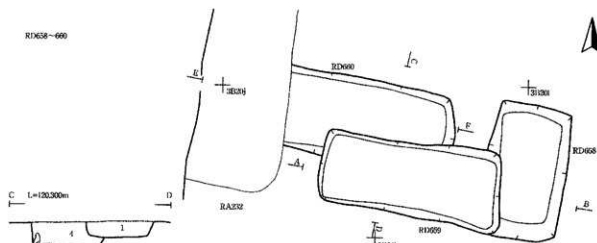
RD668~669

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰含む。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。褐色土ブロック少量・灰ごく微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。

0 1:50 1m

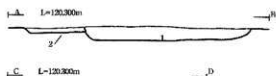
第165図 RD652~656・666・668・669 土坑

RD658-660



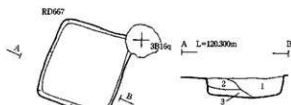
RD658-660

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒なし、締まり有り。褐色土ブロック少量・炭化物含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘粒やや有り、締まり有り。褐色土ブロック少量・炭化物ごく微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒やや有り、締まり有り。褐色土ブロック少量・炭ごく微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒・締まり有り。褐色土少量・炭含む。
5. 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘粒・締まりなし。
6. 10YR4/4 褐色土 粘粒有り、締まりを欠く。黒褐色土 (10YR2/2) との混合土。
7. 10YR2/3 黒褐色土 粘粒有り、締まりを欠く。褐色土少量含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒やや有り、締まり有り。褐色土少量・炭化物含む。



RD671-673

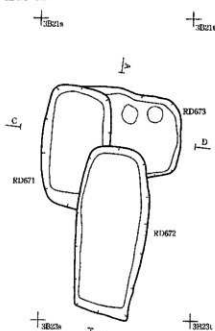
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒なし、締まり有り。赤褐色土ブロック少量・炭化物含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒やや有り、締まりを欠く。褐色土ブロック少量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘粒やや有り、締まり有り。褐色土ブロック微量含む。炭化物微量含む。



RD667

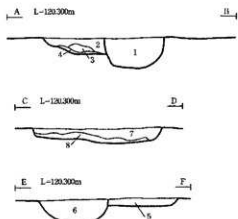
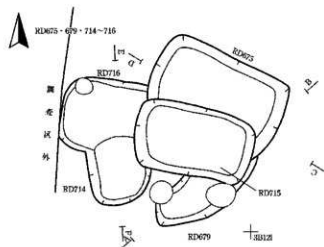
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒を欠く、締まり有り。黒山ブロック微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒なし、締まり有り。黒山ブロック少量含む。
3. 10YR4/4 褐色土 粘粒やや有り、締まりを欠く。黒褐色土少量・炭含む。

RD671-673



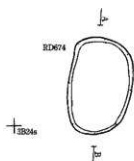
0 1:50 1m

第166図 RD658~660・667・671~673 土坑

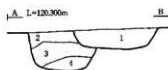
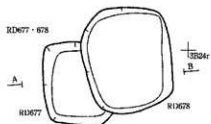


RD675・679・714-716

1. 3Y2/2 オリーブ黒色土 粘性・締まり有り。灰含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土ブロックごく微量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土ブロック少量・灰含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロック多量・灰含む。
5. 3Y2/2 オリーブ黒色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロックごく微量・灰含む。
6. 3Y2/2 オリーブ黒色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量・灰含む。
7. 10YR3/1 黒褐色土 粘性に富む。締まり有り。灰黄褐色粘土質土ブロック微量・灰ごく微量含む。
8. 10YR4/2 灰黄褐色粘土質土 粘性有り。締まりなし。暗オリーブ粘土質土少量含む。

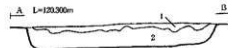
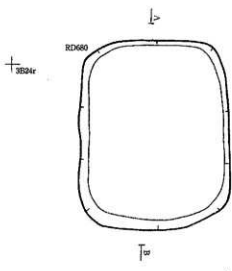


- RD674
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック微量含む。灰化跡微量含む。



RD677・678

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 灰ごく微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 灰ごく微量含む。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土ブロック微量・灰ごく微量含む。



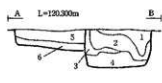
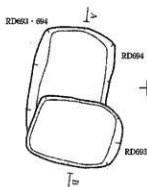
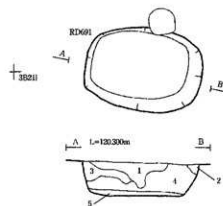
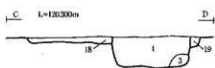
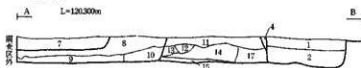
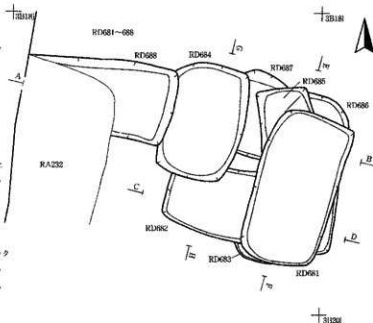
RD680

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック・灰少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4-4/6) との混合土。

第167図 RD674・675・677~680・714~716 土坑

RD681~688

1. 10YR2/3~2/1 黄褐色土と 10YR4/4 褐色土との混合上。粘性・締まり有り。灰含む。
2. 10YR1/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量。灰含む。
3. 10YR1/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック多量含む。炭化植物遺体含む。
4. 10YR1/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック微量。灰含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量。灰含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。褐色土ブロック。オリーブ高鉄質土少量含む。灰含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰含む。
8. 10YR3/1 灰褐色土 粘性・締まり有り。灰含む。
9. 10YR3/1 灰褐色土 粘性・締まり有り。
10. 10YR4/1 褐色土 粘性有り。締まりややなし。黒褐色土少量含む。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
12. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック微量。灰含む。
13. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック微量。灰含む。
14. 10YR3/1 灰褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック微量。灰含む。
15. 10YR3/1 灰褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロック微量。灰含む。
16. 10YR3/1 灰褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック微量。灰含む。
17. 10YR3/1 灰褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック微量。灰含む。
18. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック微量。灰含む。
19. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。灰含む。
20. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりややなし。黒褐色土ブロック微量含む。



RD693・694

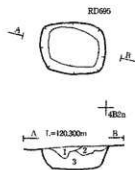
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロックごく微量。灰含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック少量・灰含む。
5. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性やや有り。締まりなし。褐色土ごく微量含む。
6. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・締まりなし。褐色土ごく微量含む。

RD691

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性無し。締まり有り。褐色土ブロック。炭化植物遺体含む。
2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土多量。灰含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合上。灰含む。
4. 10YR2/2~2/1 暗褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合上。灰含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まりなし。

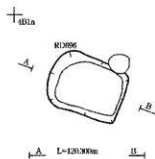
0 1:50 1m

葉168図 RD681~688・691・693・694 土坑



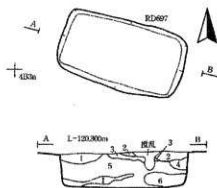
RD695

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まりを欠く。褐色土ブロックごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。褐色土ブロックごく微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、締まりなし。褐色土 (10YR4/4) との混在土。



RD696

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、締まりを欠く。褐色土ブロック少量含む。



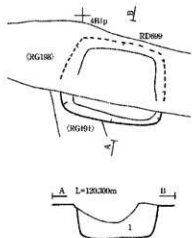
RD697

1. 10YR3/1 黒褐色粘土質土 粘性・締まり有り、褐色土混在含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし、締まり有り。炭ごく微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし、締まり有り。褐色土ブロック微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。褐色土ブロックごく微量含む。
5. 10YR2/2-2/3 黒褐色土 粘性有り、締まりなし。褐色土 (10YR4/4) との混在土。
6. 10YR3/1 黒褐色粘土質土 褐色ごく微量含む。



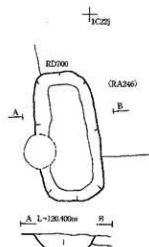
RD698

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック多量含む。



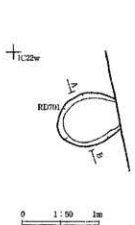
RD699

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、締まりややなし。褐色土ブロック多量含む。



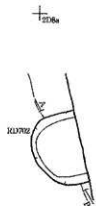
RD700

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。焼山ブロック多量含む。



RD701

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まりなし。褐色土ブロック多量含む。

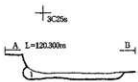
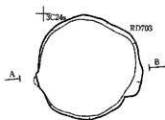


RD702

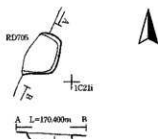
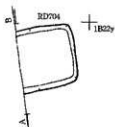
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック・小礫を多量含む。



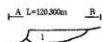
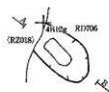
第169図 RD695~702 土坑



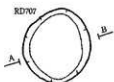
RD703
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
黄褐色砂質土・泥状含む。



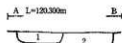
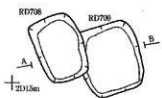
RD705
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
地山ブロック多量含む。



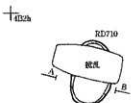
RD706
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
灰黄褐色土 (10YR5/2) 混雑含む。



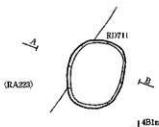
RD707
1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。
締まりなし。地山ブロック多量含む。



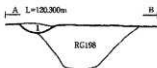
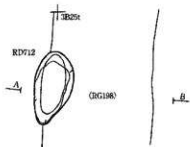
RD708 - 709
1. 10YR3/2 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
地山ブロックごく微量含む。
2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
地山ブロック微量含む。



RD710
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まり
やや有り。灰ごく微量含む。



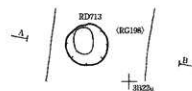
RD711
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まり有り。
褐色土 (10YR4/4) との混合土。



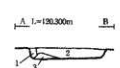
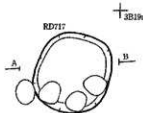
RD712
1. 10YR2/2 暗褐色土 粘性・締まりなし。粘土状ごく微量・
褐色土ブロック少量・炭化物多量・石膏含む。

0 1:50 (m)

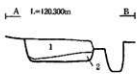
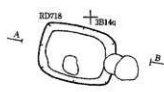
第170図 RD703~712 土坑



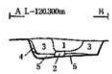
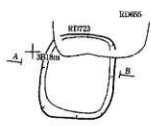
RD713
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりを欠く。多量の炭化物と骨片の堆積。



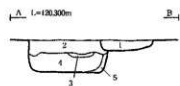
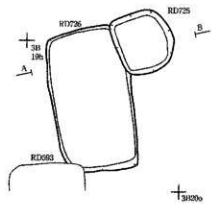
RD717
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄質有り。
2. 10Y2/1 黒褐色土 粘性弱。締まり有り。此ごく微量・灰青褐色ナブロック (10YR4/2) 含む。水酸化鉄質有り。
3. 10YR4/2 灰青褐色土 粘性有り。締まりを欠く。水酸化鉄質有り。



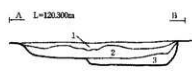
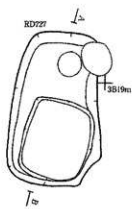
KU718
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 大量に含む。水酸化鉄質有り。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性有り。締まりを欠く。黒褐色土ブロック (10YR3/1) ごく微量含む。水酸化鉄質有り。



RD723
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰青色土ブロック (10YR4/2) ごく微量・灰黄褐色含む。水酸化鉄質有り。
2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰青褐色土ブロック (10YR4/2) 少量含む。水酸化鉄質有り。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性を欠く。締まりなし。水酸化鉄質有り。
4. 7.5YR2/2 オリーブ黒色粘土質土 粘性有り。締まりを欠く。水酸化鉄質有り。
5. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりを欠く。水酸化鉄質有り。



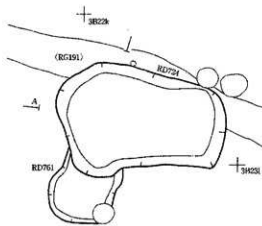
RD725・726
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 少量・灰含む。水酸化鉄質有り。
2. 10Y2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。灰色粘土質土ブロック (10YR4/1) ごく少量含む。水酸化鉄質有り。
3. 10YR4/1 灰褐色土 粘性有り。締まりを欠く。黄色土ブロック (10YR2/1) ごく少量含む。水酸化鉄質有り。
4. 10YR4/1 灰褐色土質土 粘性有り。締まりを欠く。水酸化鉄質有り。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 少量含む。水酸化鉄質有り。



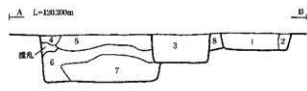
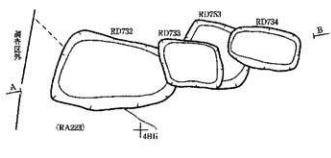
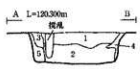
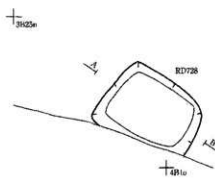
RD724
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。炭黄・褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。水酸化鉄質有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量・炭・塵上灰黄褐色含む。



第171図 RD713・717・718・723・725～727 土坑



- RD724・761
1. 10YR2-2 黒褐色土 粘性中や有り。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
 2. 10YR2-3 黒褐色土 粘性中や有り。締まり有り。水酸化鉄灰少量・褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。
 3. 10YR2-2 黒褐色土 粘性・締まり有り。泥、微土灰質・褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
 4. 10YR2-1 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭屑量。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
 5. 10YR2-2 黒褐色土 粘性有り。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。
 6. 10YR2-2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 大量を含む。

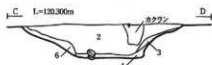
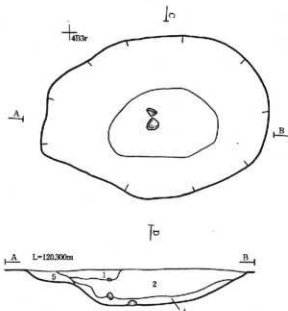


- RD732-734・733
1. 10YR2-2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量・炭屑量有り。水酸化鉄質有り。
 2. 10YR2-3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。ナリブ黒色粒上質土 (5YR3/1) 多量・褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。水酸化鉄質有り。
 3. 10YR2-3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 水酸化鉄質少量含む。
 4. 10YR3-1 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) ごく微量含む。
 5. 10YR1-2 灰黄褐色土 粘性・締まり有り。黒褐色土粒 (10YR3-2) ごく微量含む。水酸化鉄質有り。
 6. 10YR1-4 褐色土 粘性中や有り。締まり有り。
 7. 10YR2-3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量・炭屑量含む。
 8. 10YR2-2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。



第172図 RD724・728・732~734・753・761 土坑

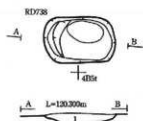
RD737



RD737

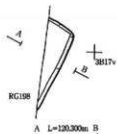
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 灰状にごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4)・灰状を含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。礫 (こぶし大) 3, 4個含む。
5. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まり有り。黒褐色土 (10YR2/2) 少し灰に少量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。

RD739



RD738

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰。骨片多量・焼土粒状にごく微量含む。古縄文様出土。



RG108

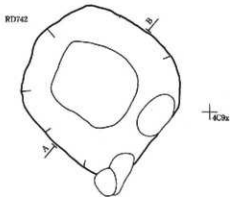


RG138

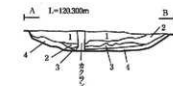


RD740

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。堆山ブロック微量含む。



RD742

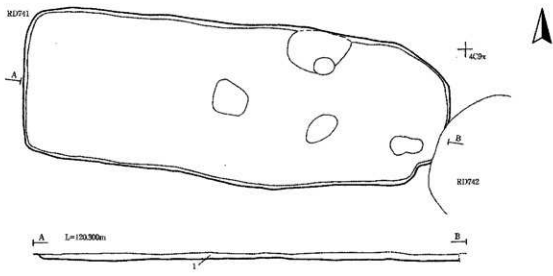


RD742

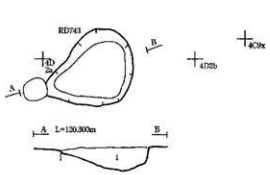
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。炭粒・堆山ブロック含む。
2. 10YR2/4 褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。堆山ブロック多量含む。

0 1 : 50 1m

第173図 RD737~740・742 土坑



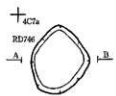
RD741
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘りやや有り、締まり有り。



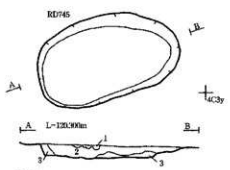
RD743
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まりを欠く。地山ブロック較ごく少量含む。



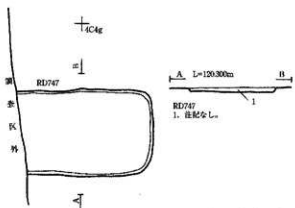
RD744
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量・粘りを含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量・粘りを含む。



RD746
1. 注記なし。



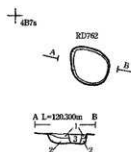
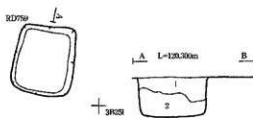
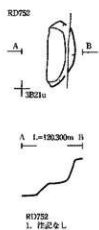
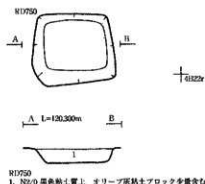
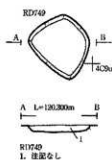
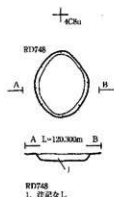
RD745
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロックごく少量含む。
3. 10YR4/6 褐色土 粘性・締まりやや有り。



RD747
1. 注記なし。

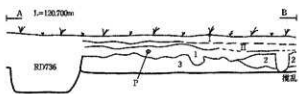
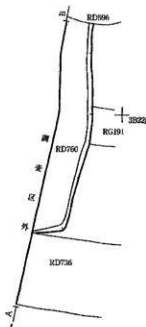


第174図 RD741・743~747 土坑



- RD759
1. 10YR2/2 黒褐色土、粘性・締まり有り。
褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色砂質土、粘性やや有り。
締まり有り。黒褐色土ブロック (10YR
2/2) ごく微量含む。

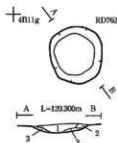
- RD762
1. 10YR2/2 黒褐色土、粘性有り。締まりを
欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量
含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土、粘性有り。締まりを
欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量
含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土、粘性・締まりを欠く。
褐色土ブロック (10YR4/4) 微量含む。
注記なし。



- RD776
1. 10YR2/2 黒色土、粘性やや有り。固く締まる。暗褐色砂 (10YR3/4) 少量・
灰少量含む。水酸化鉄斑有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土、粘性やや有り。固く締まる。褐色土 (10YR4/4) 少量・
灰少量含む。水酸化鉄斑有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土、粘性やや有り。締まり有り。褐色土粒 (10YR4/4) 少量
含む。水酸化鉄斑有り。

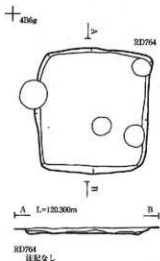
0 1:30 1m

第175図 RD748~750・752・759・760・762 土坑

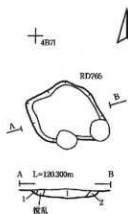


RD763

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量・炭。炭土鉄線を含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性有り。締まりを欠く。黒褐色土ブロック (10YR2/2) ごく微量含む。

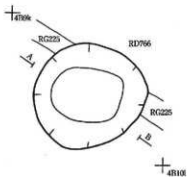


RD764
注記なし



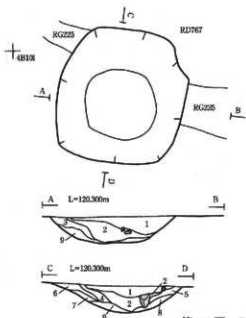
RD765

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。炭土炭・炭少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく少量含む。



RD766

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭化物・焼土粒・褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土質土 粘性有り。締まりを欠く。炭・焼土粒少量含む。水酸化鉄線を含む。
3. 10YR2/1 褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。炭・焼土粒少量含む。

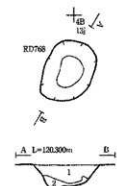


RD767

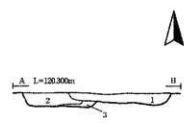
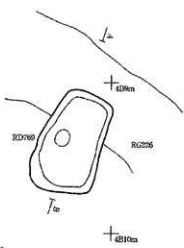
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。炭化物少量・炭土含む。水酸化鉄線有り。
2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性に富む。締まりを欠く。炭化物ごく微量・水酸化鉄線含む。腐 (厚5-15cm) 炭線を含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。水酸化鉄線有り。
4. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) 多量含む。水酸化鉄線有り。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土粒 (10YR4/4) ごく微量・炭化物・炭土含む。水酸化鉄線有り。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) 微量・炭化物ごく微量含む。水酸化鉄線有り。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。水酸化鉄線有り。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。水酸化鉄線有り。
9. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) 微量含む。水酸化鉄線有り。

第176図 RD763~767 土坑

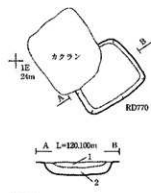
0 1:50 1m



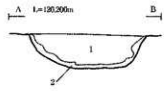
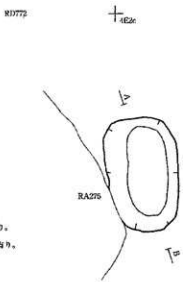
- RD768**
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、固く締まる。灰化物混入・灰黄褐色砂質ナシト (10YR4/2) ごく微量含む。水酸化鉄混入。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、締まりやや有り。灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 大量に含む。水酸化鉄混入。



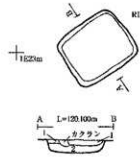
- RD769 (RC226と混層)**
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。微土粒、褐色土 (10YR4/4)、灰黄褐色土、褐色土 (10YR4/4) 少量有り。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) ごく少量含む。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混入上。



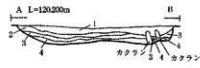
- RD770**
1. 10YR2/3 暗褐色シルト質土 粘性を欠く。締まり有り。黄褐色地山粒 (10YR5/6) ごく微量含む。
 2. 10YR2/4 暗褐色シルト質土 粘性有り。締まりやや有り。黄褐色地山粒 (10YR5/6) ごく微量含む。



- RD772**
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。
 2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。



- RD771**
1. 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性有り。締まりやや有り。にぶい黄褐色地山粒 (10YR5/4) ごく微量含む。
 3. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。にぶい黄褐色地山粒 (10YR5/4) ごく微量含む。

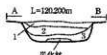


- RD773**
1. 10YR2/2 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。明赤褐色地山粒 (5YR5/8)、黄褐色地山粒 (10YR5/6) ごく微量、小量少量含む。
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。明赤褐色地山粒 (5YR5/8)、黄褐色地山粒 (10YR5/6) ごく微量含む。
 3. 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。黄褐色地山粒 (10YR5/6)、灰化層ごく微量含む。
 4. 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。黄褐色地山粒 (10YR5/6)、灰化層ごく微量含む。



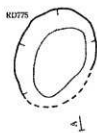
第177図 RD768~773 土坑

RD774

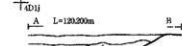


RD774

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性有り。締まり有り。炭化物ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性有り。締まりやや有り。炭化物、褐色地山ブロック (10YR4/4)、明赤褐色粘土ブロック (5YR5/6) ごく微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性有り。締まりやや有り。褐色地山ブロック (10YR4/4)、明赤褐色粘土ブロック (5YR5/6) ごく微量。炭化物微量含む。

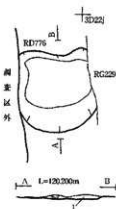


RD775



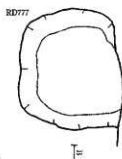
RD775

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。



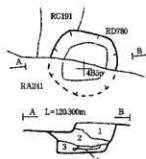
RD776

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック微量・河原含む。



RD777

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック微量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック多量・河原石含む。



RD780

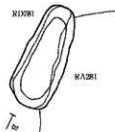
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。炭化物、褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭化物ごく微量・褐色地山ブロック (10YR4/4) 微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性・締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) 含む。
4. 10YR5/4 褐色土 粘性・締まり有り。地山土。

4B11j



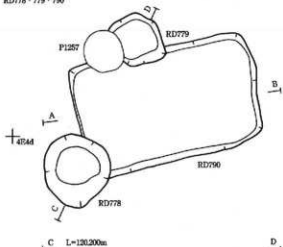
RD781

1. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まり有り。地山ブロック少量・水酸化鉄多量。炭含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性をやや欠く。締まり有り。地山ブロック少量・水酸化鉄多量。炭含む。
3. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性・締まりを欠く。褐色粘土 (10YR3/3) 含む。水酸化鉄多量。炭含む。



0 1:50 1m

第178図 RD774~777・780・781 土坑

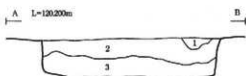


RD778

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。灰灰・焼土粒ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。堆山ブロック多量含む。

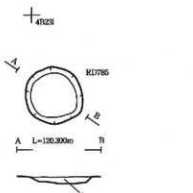
RD779

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。堆山ブロックごく微量含む。



RD790

1. 2.5YR4/8 赤褐色土 粘性なし。締まっている。
2. 10YR2/2 黒褐色土 灰・堆山ブロック微量含む。粘性・締まりやや有り。
3. 10YR2/3 黒褐色土 堆山ブロック多量含む。粘性・締まりやや有り。

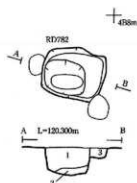


RD785

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰灰量・褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。

0 1:50 1m

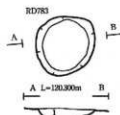
第179図 RD778・779・782~785・790 土坑



RD782

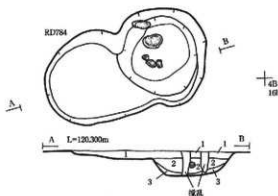
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。堆山ブロック、灰少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりを欠く。厚 (100~300cm) 多量含む。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性を欠く。締まり有り。黒褐色土ブロック (10YR2/2) 微量含む。

+ 4816m



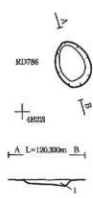
RD783

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 微量・水酸化鉄屑多量含む。

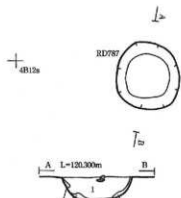


RD784

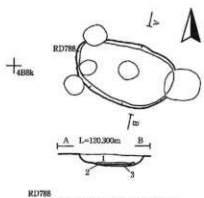
1. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄屑多量・灰ごく微量・硝 (こぶし大) 含む。上部に焼土粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性に富む。締まり有り。堆山ブロック少量・灰微量・水酸化鉄屑、硝 (こぶし大) 含む。
3. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色砂質土堆山 (10YR4/4) 含む。水酸化鉄屑有り。



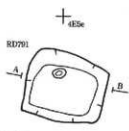
RD786
1. N2の褐色粘土質土 オリーブ
灰粘土ブロック少量含む。



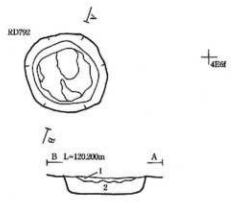
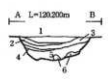
RD787
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
径(約6~10cm) 灰質・炭酸塩含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
褐色土 (10YR4/4) 少量含む。水酸化鉄
斑有り。



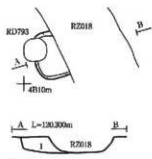
RD788
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
褐色土山ブロック (10YR4/4) 大量
に含む。炭十粒散見。炭ごく(微量含む)。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性有り。締まりを
欠く。炭酸塩含む。



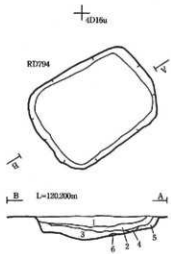
RD791
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。山ブロック多量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。山ブロック少量含む。
4. 10YR4/4 褐色土 粘性なし。締まり有り。粘土含む。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。山ブロック大量含む。
6. 10YR5/6 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。



RD792
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締まり有り。
赤褐色土ブロック (5YR4/6・径0.5~3cm)C
微量・炭化微粒ごく(微量含む)。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締まり有り。
赤褐色土ブロック (5YR4/6)・炭化微粒ごく
微量・褐色土山ブロック (10YR4/4) 微量含む。

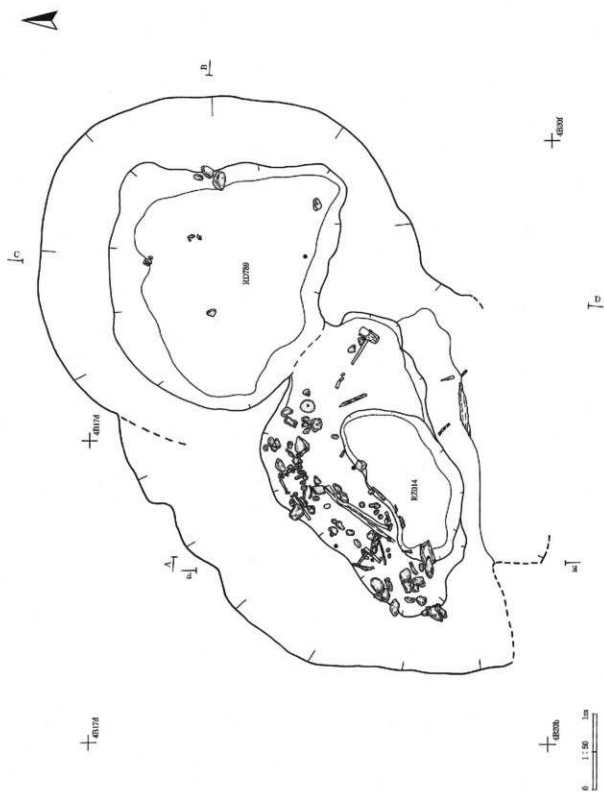


RD793
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭土粒。
炭微塵・褐色土山ブロック (10YR4/4) 少量含む。

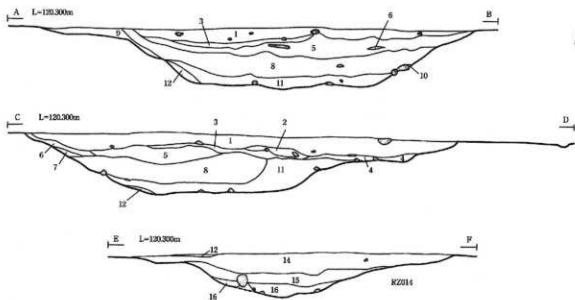


RD794
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締まり有り。
褐色土ブロック (10YR4/4・径1cm)C
ごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締まり有り。
赤褐色土ブロック (5YR4/6) 薄。黄褐色
土山ブロック (10YR5/6)・炭化微粒ごく(微量
含む)。底面ににまいた赤褐色土 (5YR4/4)
ごく微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性有り。締まり
有り。赤褐色土山ブロック (5YR4/6) 褐色
土山ブロック (10YR4/6・径1cm)C ごく
微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締まり有り。
褐色土山ブロック (10YR4/4・径1~4cm)C
微量含む。
5. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締まり有り。
褐色土山ブロック (10YR4/4) ごく微量
含む。
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締まり有り。
薄り過ぎ。
7. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性有り。締まり
有り。褐色土山ブロック (10YR4/4) ごく
微量含む。

第180図 RD786~788・791~794 土坑



第181圖 RD789 土坑 (1)

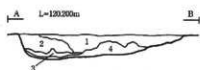
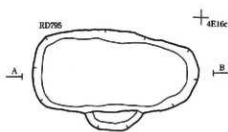


RD789

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭酸塩・礫 (径=10cm大) 混入含む。水酸化鉄混入有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰色砂質土ブロック (10YR4/4) 多量・炭酸塩含む。水酸化鉄混入有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄混入多量有り (水酸化鉄混入)。炭含む。
4. 10YR3/1 黒褐色粘土質土 締まりやや有り。炭ごく微量含む。水酸化鉄混入有り。
5. 10YR3/1 オリーブ黒粘土 粘性有り。締まりなし。灰色砂質土ブロック (7.5YR4/1) ごく微量含む。
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色砂質粘土ブロック (10YR4/4)。炭微量・水酸化鉄含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。地山ブロック、炭微量・水酸化鉄混入含む。

8. 5YR3/1 オリーブ黒粘土 褐色色ブロック (7.5YR4/1)

- ごく微量含む。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。灰色砂質土 (10YR4/4) との混合土。炭微量・礫混入含む。水酸化鉄混入有り。
10. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性有り。締まりやや有り。水酸化鉄混入。炭微量・礫含む。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄混入有り。
12. 10YR2/1 灰色粘土質土 粘性・締まり有り。水酸化鉄混入少量有り。
13. 粘性・締まり有り。黒褐色土 (10YR2/2) との混合土。
14. 5YR3/1 オリーブ黒粘土 粘性有り。締まりやや有り。灰色砂質土 (7.5YR4/1) 少量含む。水酸化鉄混入わずかに有り。
15. 7.5YR4/1 灰色砂質土 粘性・締まりやや有り。
16. 10YR3/2 粘性・締まり有り。水酸化鉄混入多量・地山ブロック少量・炭微量含む。



RD795

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。炭・炭土混入含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック多量含む。

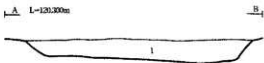
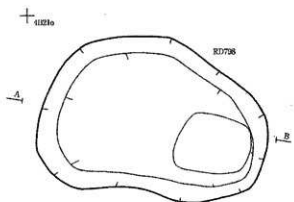


RD797

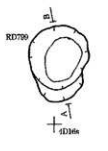
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭ごく微量・地山ブロック微量含む。水酸化鉄混入有り。



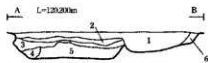
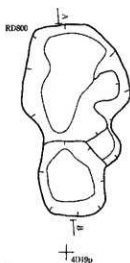
第182図 RD789 (2)・795・797 土坑



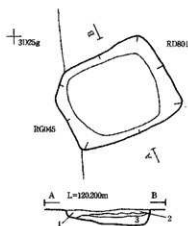
RD798
1. SY2/1 黒褐色土 締まりを欠く。底面凹凸。
灰色粘マブロック (SY4/1) 少量含む。



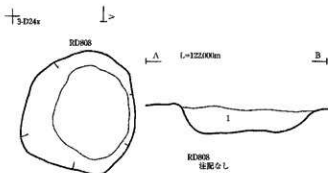
RD799
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締まり有り。
暗褐色土 (10YR2/4) しみのようにごく微量
含む。底面に明褐色土 (7.5YR5/0) ごく微量
含む。



RD800
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 質土 粘性有り。締まりやや有り。
褐色地山粒 (10YR4/6) ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 質土 粘性・締まり有り。
褐色地山粒 (10YR4/6)。褐色粘マブロック (10YR4/6・
径1~2cm)。赤褐色土粒 (5YR4/6) ごく微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色シルト 質土 粘性・締まり有り。灰化層。
赤褐色土粒 (5YR4/6)。赤褐色粘マブロック (5YR4/6・
径1cm)。褐色地山粒 (10YR4/6) ごく微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 質土 粘性有り。粘性やや有り。
褐色地山ブロック (10YR4/6・径0.5~2cm) 微量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色シルト 質土 粘性・締まり有り。褐色土
(10YR4/6) との混合土。灰化層ごく微量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色シルト 質土 粘性有り。締まりやや有り。
褐色地山粒 (10YR4/6) ごく微量含む。



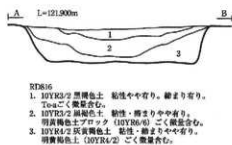
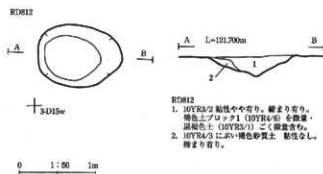
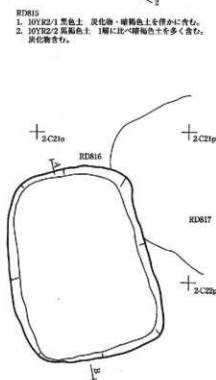
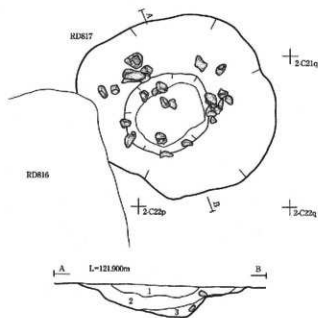
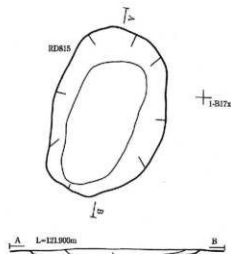
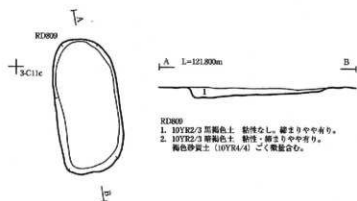
RD801
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。底上灰殻含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。地山ブロック多量含む。



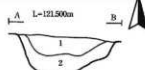
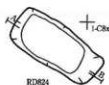
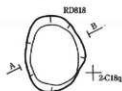
RD808
記載なし

0 1:50 1m

第183図 RD798~801・808 土坑



第184図 RD809・812・815～817 土坑

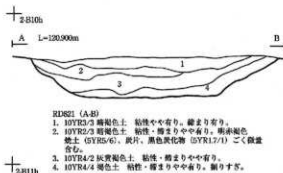
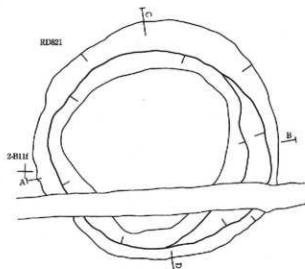


RD818

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。暗褐色土ブロック (10YR3/4) ごく微量含む。

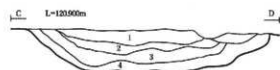
RD824

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。暗褐色土 (10YR2/4) 微量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし。締まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/3) ごく微量含む。



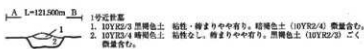
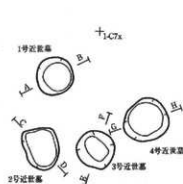
RD821 (A-B)

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。赤褐色土 (5YR5/6)、灰片、黒色炭化物 (5YR17/1) ごく微量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まりやや有り。割りすず。

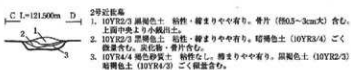


RD821 (C-D)

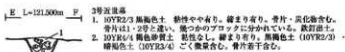
1. 5YR4/6 赤褐色土 粘性なし。締まりやや有り。硬いた塊状状態で割れやすい。泥土と内部に黒い炭化物を含む。
2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。中央上部に塊上 (5YR5/6)、炭化物 (5YR17/1) ごく微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。



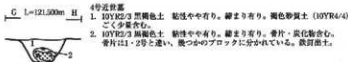
- 1号近世墓
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。暗褐色土 (10YR2/4) 微量含む。
 2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし。締まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/3) ごく微量含む。



- 2号近世墓
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。骨片 (50.5-3cm大) 含む。上面中央より小範囲出。
 2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。暗褐色土 (10YR3/4) ごく微量含む。炭化物・骨片含む。
 3. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし。締まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/3)・暗褐色土 (10YR4/2) ごく微量含む。



- 3号近世墓
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。骨片・炭化物含む。骨片は1・2号と違い、幾つかのブロックに分かれている。灰質泥土。
 2. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。黒褐色土 (10YR2/3)・暗褐色土 (10YR3/4) ごく微量含む。骨片若干含む。

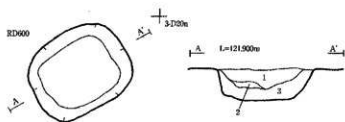


- 4号近世墓
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく少量含む。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。骨片・炭化物含む。骨片は1・2号と違い、幾つかのブロックに分かれている。灰質泥土。

骨片集中部

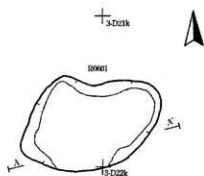


第185図 RD818・821・824 土坑・近世墓



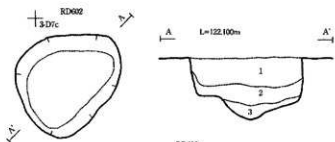
RD600

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。明黄褐色土 (10YR5/6) をごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。明黄褐色土 (10YR5/6) をごく微量含む。



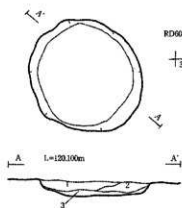
RD601

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR3/3 黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。西側に縁柱有り。



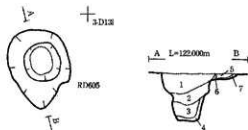
RD602

1. 10YR3/2 黒褐色土 締まりやや有り。粘性なし。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。



RD604

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし。粘性やや有り。Y₀a 微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。Y₀a 少量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。下部に褐色砂質土 (10YR4/4) 含む。

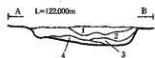


RD605

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。黄褐色土 (10YR5/6) をごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。黄褐色土 (10YR5/6) をごく微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。黄褐色土 (10YR5/6) をごく微量含む。水が溜る。
4. 10YR3/6 赤褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
6. 10YR5/6 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。黒褐色土 (10YR3/2) をごく微量含む。
7. 10YR5/6 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。

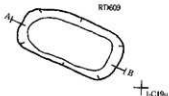
0 1:50 1m

第186図 RD600~602・604・605土坑



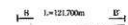
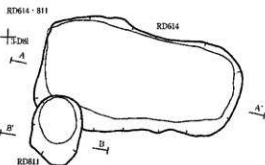
RD606

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
2. 10YR2/7 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) をごく微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) をごく微量含む。
4. 10YR3/4 褐色土 粘性・締まりやや有り。



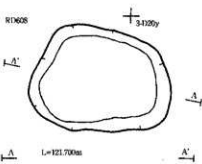
RD609

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) をごく微量含む。



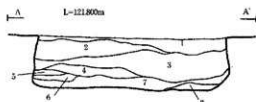
RD611

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/4・粒1~3cm大) をごく微量含む。柱状の層上に収まっている。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/4) をごく微量含む。



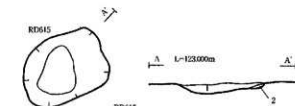
RD608

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。床近くに小石 (径1~2cm大) を微量含む。



RD614

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4)・黒化砂・炭土をごく微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/4)・黒褐色土 (10YR2/2) をごく微量含む。小礫 (径3~5cm大) を微量含む。
3. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/4)・黒褐色土 (10YR2/2) をごく微量含む。薄層粘土。
4. 10YR2/3 暗褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロックを少量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色砂質土 (10YR4/4) をごく微量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性やや有り。締まりなし。褐色砂質土 (10YR4/4) を微量含む。
7. 10YR2/2 暗褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色砂質土 (10YR4/4) をごく微量含む。
8. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性・締まりなし。黒褐色土 (10YR2/2) をごく微量含む。小礫を微量含む。

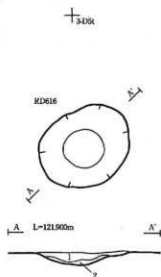


RD615

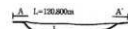
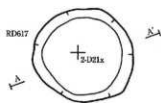
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) を含む。



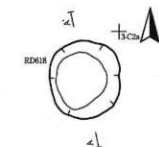
第187図 RD606・608・609・614・615・811 土坑



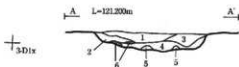
- RD616
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし、締まりやや有り。
 - 10YR4/6 褐色砂質土 粘性なし、締まりやや有り。



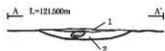
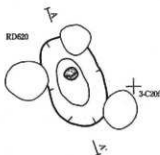
- RD617
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。



- RD618
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性なし、締まりやや有り。



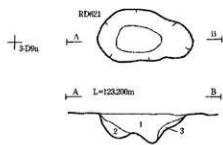
- RD619
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。黄褐色土 (10YR5/6) ごく微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。黄褐色土プロット (10YR5/6) ごく微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。黄褐色土プロット (10YR5/6) 微量含む。
 - 10YR5/6 黄褐色土 粘性有り。締まりやや有り。黒褐色土 (10YR3/2) ごく微量含む。
 - 5YR5/3 緑赤褐色土 粘性有り。締まりやや有り。黒褐色土 (10YR3/2)、棕色土 (5YR6/6) ごく微量含む。



- RD620
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし、締まり有り。黄褐色土 (10YR5/6) 少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし、締まりやや有り。炭化物ごく微量含む。

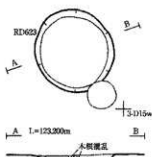
0 1:50 1m

第188図 RD616~620 土坑



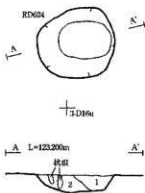
RD621

1. 10YR2/3 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。砂質に褐色土プロック状に (10YR4/6・10=4cm大) 含む。
2. 10YR2/3 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。
3. 10YR2/3 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。暗赤褐色土 (10YR6/4) 少量含む。



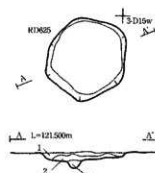
RD623

1. 10YR2/2 黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。黄褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黄褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。

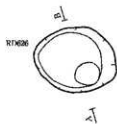


RD624

1. 10YR2/2 黄褐色土 粘性・締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4)・粘土粒 (0.1~2mm大) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黄褐色土 粘性・締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) 微量含む。



1. 10YR2/3 黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。灰化層・褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色砂質土プロック (10YR4/4)・灰化層ごく微量含む。
3. 10YR2/4 暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色砂質土 (10YR4/4) 大量を含む。

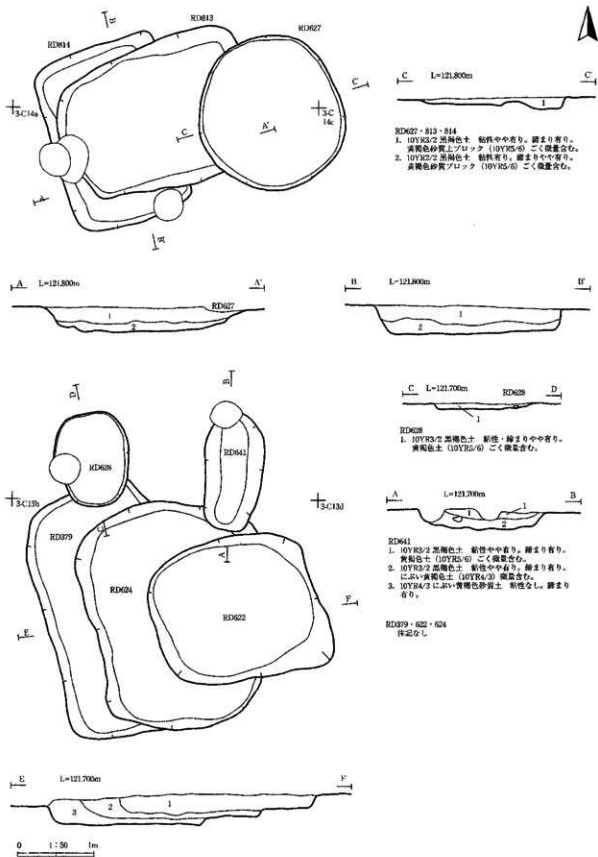


RD626

1. 10YR2/2 黄褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黄褐色土 粘性土 (10YR4/4) を大量に含む。張りすま。

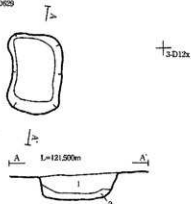
0 1:50 1m

第189図 RD621・623~626 土坑

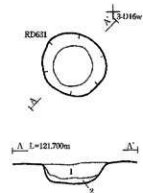


第190図 RD379・622・624・627・628・641・813・814 土坑

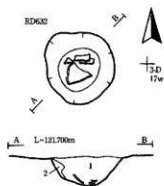
RD629



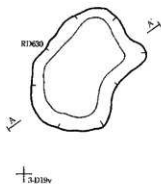
RD629
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
明黄褐色土 (10YR6/6) ごく少量含む。



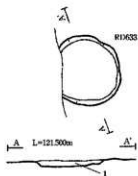
RD631
1. 3A/0 Toa 粘性・締まりなし。
(さらさら)。黒褐色土 (10YR3/2)
少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり
やや有り。黒褐色土 (10YR2/1)
にふい黄褐色土ブロック (10YR5
/4) ごく少量含む。



RD632
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
赤褐色土 (2.5YR4/6)・灰化層ごり。
少量含む。褐色砂質土 (10YR5/3) 少量
含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まり
やや有り。黄褐色土 (10YR4/4) ごく
微量含む。

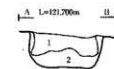


RD630
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
褐色砂質土 (10YR4/4)・黄土層 (2.5YR5/3) を
ごく微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりなし。褐色砂
質土 (10YR4/4) を夾み、小礫 (径1-3cm大)
を散ら含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
暗褐色土 (10YR2/3)・褐色砂質土 (10YR4/4)
を微量含む。



RD633
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性なし。締まり
やや有り。明黄褐色土 (10YR6/6)・
赤褐色土 (5YR4/6) をごく微量含む。

RD635

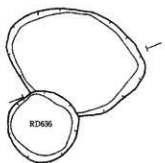


RD635
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
明黄褐色土をごく微量含む。
2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
明黄褐色土 (10YR6/6) をごく微量含む。
床面などに膠を少量含む。

第191図 RD629~633・635 土坑

0 1:50 1m

RD636

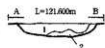


RD638



RD638
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
明黄褐色土 (10YR6/4)・黄褐色土 (10YR6/4)
ごく微量含む。

RD637



RD637

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。黄褐色土ブロック (10YR5/4) を少量含む。

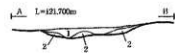
RD639



RD639

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。

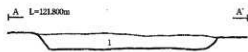
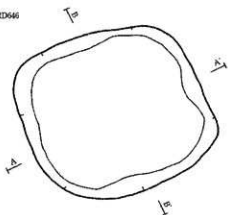
RD642



RD642

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく少量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) 微量含む。

RD646

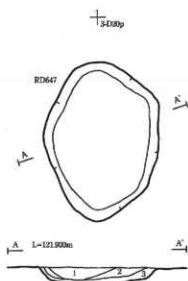


RD646

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。小礫 (径1~3cm)・褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。

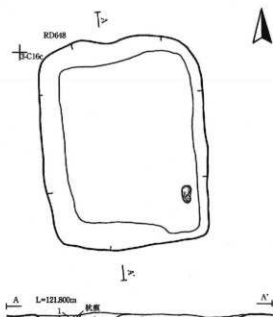
0 1:50 1m

第192図 RD636~639・642・646 土坑



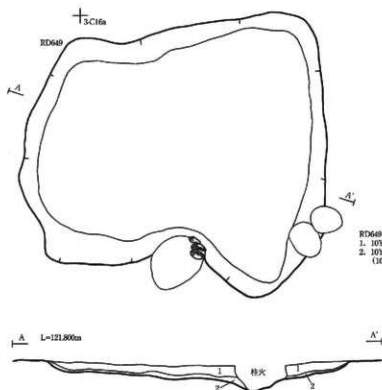
RD647

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。明黄褐色土 (10YR5/6) ごく少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。明黄褐色土 (10YR5/6)・明黄褐色土 (10YR 6/3) ごく少量含む。



RD648

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし、締まり有り。黒色土 (10YR2/1) ごく少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし、締まり有り。黒色土 (10YR2/1)・明黄褐色土 (10YR5/6) ごく少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。



RD649

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
2. 10YR3/9 黄褐色砂質土 粘性なし、締まり有り。黒褐色土 (10YR3/2)・黒褐色土 (7.5YR5/3) ごく少量含む。

0 1:50 1m

第193図 RD647~649 土坑

土坑類観察表

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋土	出土遺物	備考	図版	種類	分類
			底径 (cm)	長さ (cm)						
R D 266	3 B 11 d	隅丸長方形	222 × 102	22	黒褐色土の草層。	土師器葉片		125	草履	B 2
			202 × 80	N-4°-W				102	中世	
R D 267	3B10e~ 3B10f	隅丸長方形	396 × 105	22	黒褐色土と黒褐色土との混合土。	奈良の土師器環・葉片		125	草履	C 3
			345 × 85	N-43.5°-W				102	中世	
R D 268	3B110e~ 3B110f	隅丸長方形	227 × 92	24	人為堆積。黒褐色土主体。褐色土ブロック多量。		R D 209 を切る。	125	草履	B 2
			222 × 74	N-7.4°-W				102	中世	
R D 269	3B110e~ 3B111e	隅丸長方形	344 × 109	21	上部黒褐色土主体。下部褐色砂質土主体。黒褐色土ブロック多量。		R D 206 を切る。	125	草履	C 3
			328 × 93	N-8.5°-E				102	中世	
R D 270	3 B 11 f	隅丸長方形	162 × (82)	24	極薄褐色土の草層。		R D 209 に切られる。	125	草履	
			150 × (70)	N-9°-E				103	中世	
R D 271	3 B 11 c	不整形	92 × 73	30	人為堆積。黒褐色土主体の草層。褐色土ブロック含。			125	草履	A 2
			72 × 50	N-26°-E				103	中世	
R D 272	3B12d~ 3B12e	長方形	173 × 96	23	人為堆積。黒褐色土主体の草層。暗褐色・褐色土ブロック含。		R D 319 を切る。	126	草履	B 2
			168 × 80	N-87°-E				103	中世	
R D 273	3B12e~ 3B12f	長方形	154 × 82	21	人為堆積。黒褐色土主体の草層。暗褐色土ブロック多量。		R D 319 を切る。	126	草履	B 2
			136 × 72	N-62°-W				103	中世	
R D 274	3B10g~ 3B10h	不整形	(212) × 94	32	人為堆積。黒褐色土主体の草層。褐色土ブロック多量。		調査区外にのびる。	126	草履	
			(204) × 82	N-31°-E				104	中世	
R D 275	3B110e~ 3B110f	隅丸長方形	88 × 86	12	人為堆積。暗褐色土主体。壁際に黒褐色土と褐色土の混合土。			125	草履	A 1
			79 × 77	不明				104	中世	
R D 276	3 B 11 d	隅丸長方形	123 × 78	22	人為堆積。壁上部の暗褐色土中には微細白い粒を含む。	奈良の土師器葉片		126	草履	A 2
			119 × 68	N-29°-W				104	中世	
R D 277	3 B 13 g	隅丸長方形	156 × 106	14	人為堆積。黒褐色土中に褐色・暗褐色土ブロックが不規則に混。			126	草履	H 2
			141 × 90	N-89°-W				104	中世	
R D 278	3B13d~ 3B13e	隅丸長方形	376 × 68	18	人為堆積。黒褐色・褐色・暗褐色土の混合土。			126	草履	C 3
			346 × 52	N-77°-W				105	中世	
R D 279	3 B 14 d	円形	38 × 52	10	人為か自然か不明。			126	不明	
			47 × 44	N-13°-K				105	中世	
R D 280	3B18d~ 3B18e	不整形	222 × 100	17	人為堆積。黒褐色土中に褐色土ブロック・炭粒・貝殻などを含む。		R D 282・283・306 より西。	127	草履	B 2
			202 × 80	N-17°-K				105	中世	
R D 281	3 B 18 f	隅丸長方形	123 × 104	28	人為堆積。黒褐色土主体で、壁土中には褐色土ブロックが混。	土師器片	R D 282 より西。	127	草履	B 1
			106 × 82	N-83°-W				106	中世	
R D 282	3B17d~ 3B18e	不整形	(482) × 170	15	人為堆積。黒褐色土と黒褐色土との混合土。	土師器片	R D 280・281・283 より西。	127	土坑	B 1
			(462) × 170	N-32°-W				106	不明	
R D 283	3 B 17 c	隅丸長方形	168 × 90	28	人為堆積。黒褐色土と褐色土との混合土。		R D 282 より西。	127	草履	B 2
			164 × 70	N-79°-W				106	中世	
R D 284	3 B 7 g	不整形	(115 × 42)	25	人為堆積でよいと思われる。			126	草履	
			(109 × 38)	N-33°-W				106	中世	
R D 285	3 A 13 g	隅丸長方形	90 × 84	17	人為堆積の縁部を穿する。	土師器片	R G 152 より西。	127	草履	A 1
			75 × 72	N-66°-W				106	中世	
R D 286	3 A 13 c	不整形	167 × 145	12	自然崩壊か。	388・389土師器陶	R G 152 より占。	127	土坑	
			167 × 124	N-30°-W				107	不明	
R D 287	3A14e~ 3A14f	不整形	128 × 123	27	自然崩壊。人為堆積の区別不明。		調査区を掘り込んでいる。	127	土坑	
			83 × 74	N-30°-E				107	不明	
R D 288	3 A 15 p	楕円形	84 × (75)	15	自然崩壊か人為堆積か不明。黒褐色土の草層。		R G 152 より占。	128	土坑	
			65 × (64)	N-77°-W				107	不明	
R D 289	3 A 17 p	不整形	156 × 90	24	自然崩壊か人為堆積か不明。黒褐色土の草層。			128	土坑	
			66 × 50	N-28°-E				107	不明	
R D 290	3 B 14 c	長方形	80 × 70	8	自然崩壊か人為堆積か不明。黒褐色土の草層。	土師器片		128	土坑	
			78 × 68	N-28°-W				108	不明	
R D 291	3 A 18 c	不整形	97 × 93	24	人為・自然堆積の区別不明。黒褐色土の草層。			128	土坑	
			86 × 80	N-63°-W				108	不明	
R D 292	3B21e~ 3B21f	隅丸長方形	170 × 113	36	人為堆積。黒褐色土中に黒山ブロック。		R G 153 より西。	128	草履	H 2
			150 × 103	N-4°-E				108	中世	
R D 293	3 B 20 f	隅丸長方形	(100) × 100	38	人為堆積。暗褐色土及び黒褐色土主体。			128	草履	
			87 × 86	N-77°-W				108	中世	
R D 294	3 B 22 f	楕円形	96 × 73	20	人為堆積の縁部を穿する。	土師器片	R D 295 より西。	128	草履	A 2
			79 × 63	N-77°-W				109	中世	

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		深さ (cm)	土	出土遺物	備考	H級	種類	分類
			底部径	長軸方向							
R D205	3 B22 f	隅丸長方形	328×107	18	N-11°-E	人為堆積。地山ブロックを多量に含む黒褐色土。		R D204より新。 R D207より古。	158	墓塚	C3
			301×89	40					109	中世	
R D206	4 B1 d	隅丸長方形	126×94	40	N-75°-W	人為堆積。黒褐色土・褐色土の混合土。			129	墓塚	B1
			114×90	38					109	中世	
R D207	3 B22 f	隅丸長方形	98×90	38	不明	人為堆積。厚土位には焼土・炭粒も混じる。		R D205より新。	128	墓塚	B1
			71×90	38					109	中世	
R D208	3 B25 c	隅丸長方形	158×108	50	N-7°-E	人為堆積。地山ブロックを多量に含む黒褐色土。	503-503北東線	R D209より新。 R G P03より古。	129	墓塚	B1
			104×88	7					109-110	中世	
R D209	3 B24 e	隅丸長方形	94×90	?	N-10°-E	人為堆積。地山ブロックを多量に含む黒褐色土。		R D208より古。	129	墓塚	B1
			80×79	10					109-110	中世	
R D300	3 B7 i	隅丸長方形	87×70	10	N-87°-W	人為堆積か。黒褐色土の単層。		R G202を切る。	129	墓塚	A2
			70×60	7					110	中世	
R D301	3B9e~ 3B9f	隅丸長方形	113×87	7	N-84°-W	人為堆積か。黒褐色土の単層。			129	墓塚	A2
			105×80	5					110	中世	
R D302	3 B7 e	隅丸長方形	252×84	5	N-6°-E	人為堆積。黒褐色土の単層。	722近世骨器。523釘・843磁器製銅品		130	土坑	B1
			240×77	5					110	近世	
R D303	3 B3 o	不整形	278×72	5	N-5°-E	人為堆積。黒褐色土に黒色土ブロックが混じる。			130	墓塚	B1
			270×65	4					111	中世	
R D304	3 B8 f	不整形	244×68	4	N-15°-E	人為堆積。黒褐色土に白っぽい黄褐色土ブロックが混じる。			130	墓塚	B1
			273×62	3					111	中世	
R D300	3 B8 r	不整形	200×93	3	N-2°-E	人為堆積か。黒褐色土の単層。			129	墓塚	B1
			106×55	35					111	中世	
R D306	3 B18 d	隅丸長方形	180×120	35	N-15°-E	自然堆積か。黒褐色土・褐色土等で構成。		R D280より古。	129	墓塚	B1
			102×73	35					111	中世	
R D307	3 C9 b	長方形	112×91	35	N-14°-E	人為堆積の縁部を昇する。	土師器片		129	墓塚	B1
			102×86	27					111	中世	
R D308	3 C10 b	隅丸長方形	186×104	27	N-85°-W	人為堆積。黒褐色土中に地山ブロックを多量に含む。			130	墓塚	B1
			172×92	28					112	中世	
R D300	3 C11 b	隅丸長方形	93×85	78	N-6°-E	人為堆積。柱礎なし。	300板瓦器片		130	墓塚	A2
			72×50	27					112	中世	
R D310	3 C12 b	隅丸長方形	114×97	41	N-81°-W	人為堆積。褐色土と黒褐色土の混合土。			130	墓塚	B1
			103×88	30					112	中世	
R D311	3 C11 a	隅丸長方形	162×125	30	N-0°	人為堆積。褐色土と黒褐色土の混合土。	706近世陶器類。 810近世磁器類	R D312を切る。	130	土坑	B1
			144×101	36					112	近世	
R D312	3 C11 a	隅丸長方形	145×96	36	N-19°-E	人為堆積。黒褐色土中に地山ブロックが少量混じる。		R D311に切られる。	130	墓塚	B1
			132×84	30					113	中世	
R D313	4 A4 a	不整形	286×178	30	N-14°-E	人為堆積か。黒褐色土中に大小の自然礫多量。			131	土坑	B1
			228×130	43					113	不明	
R D314	4 A5 m	不整形長方形	340×290	43	N-66°-W	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックと自然礫が混じる。			131	土坑	B1
			296×223	18					113	不明	
R D315	3 B7 x	隅丸長方形	92×77	18	N-10°-E	人為堆積か。上段は褐色土に褐色土ブロック。下段は黒褐色土と白っぽい黄褐色土の混合土。			130	墓塚	A1
			78×65	18					113	中世	
R D316	3B7a~ 3B8x	隅丸長方形	130×90	18	N-5°-E	人為堆積。上段は褐色土に褐色土ブロック。下段は黒褐色土と白っぽい黄褐色土の混合土。			131	墓塚	B1
			103×80	16					114	中世	
R D317	3 B7 x	隅丸長方形	103×97	16	N-49°-E	人為堆積。上段は褐色土に褐色土ブロック。下段は黒褐色土と白っぽい黄褐色土の混合土。			131	墓塚	A1
			94×80	60					114	中世	
R D318	3C12a~ 3C12b	長方形	192×108	60	N-87°-E	人為堆積。黒褐色土を主体とし褐色土や焼土粒を含む。			131	墓塚	B1
			170×92	?					114	中世	
R D319	3B12a~ 3B12b	隅丸長方形	218×172	?	N-85°-W	人為堆積堆積。	土師器片		—	墓塚	C3
			234×162	30					114	中世	
R D320	2 C19 y	円形	320×257	30	N-14°-E	自然堆積か人為堆積か不明。黒褐色土の単層。	730近世陶器		132	土坑	B1
			297×246	67					115	近世	
R D321	2 C17 y	不整形	348×280	67	N-81°-E	人為堆積か。		R G300より新。	132	土坑	B1
			329×239	30					115	近世	
R D322	2C15a~ 2C15e	不整形	206×176	30	N-80°-E	自然堆積か。自然礫を少量含む。		519・320鉄釘。815五代の陶器片。土師器片・陶磁器片	132	土坑	B1
			254×146	30					115	近世	

遺構名	位 置	平面形	掘門範囲 (cm)		掘き (cm)	説 明	出土遺物	備 考	図版 写真	発掘 時期	分類
			東部径	南向							
R D323	3 D29i	不詳	111×67	30	2	人為堆積。地山ブロックを多数に含む黒褐色土。		同層より新。	132	墓跡	A1
			87×50	N-12' -W					115	不明	
R D324	3 C13e	隅丸方形	80×78	10	2	人為堆積。地土上段は黒褐色土。下段は暗褐色土。			131	墓跡	A1
			70×65	N-0' -					113	中世	
R D325	3 C11d	隅丸長方形	124×104	24	2	人為堆積。褐色土に灰青色土ブロックが混じる。			131	墓跡	B1
			100×90	N-80' -W					116	中世	
R D326	3C13d- 3C13e	隅丸長方形	103×88	25	2	人為堆積。上段は黒褐色土と暗褐色土の混合土。下段は暗褐色土に黒褐色土ブロックが混じる。			132	墓跡	A1
			93×75	N-52' -E					116	中世	
R D327	3C14e- 3C15e	隅丸長方形	127×95	47	2	人為堆積。黒褐色土を主体とし、その中に褐色土・暗褐色土が混入。埋上段は黒褐色土。			133	高塚	B2
			109×78	N-2' -K					116	中世	
R D328	3 C12c	隅丸長方形	257×107	68	2	人為堆積。黒褐色土を主体とし、その中に褐色土・暗褐色土が混入。			133	高塚	C2
			235×92	N-10' -E					116	中世	
R D329	3C14b- 3C15b	隅丸長方形	93×72	60	2	人為堆積。埋上段は褐色土に褐色土や、その間に褐色土が混入。埋上段は褐色土に砂質土が混入。	磁石?、銅片?、土師器片		133	墓跡	A2
			87×68	N-2' -W					117	中世	
R D330	2 C13t	隅丸方形	124×114	17	2	人為堆積。黒褐色土中に褐色土ブロックが多数。			133	墓跡	D1
			112×100	N-14' -W					117	中世	
R D331	3C14e- 3C14e	円形	182×176	88	2	人為堆積。黒褐色土・褐色土・白土が混入。	332-615木製品、335磁器、337瓦器陶器、明治11年調査、本誌		133	井戸か	
			162×118	不明					117	近代	
R D332	2 C13t	円形	100×98	7	2	人為堆積。地山ブロックを多数に含む黒褐色土。			133	土坑	
			98×94	不明					117	近世	
R D333	2 C13s	不整形	86×71	6	2	人為堆積。			134	土坑	
			81×66	N-7' -W					117・118	不明	
R D334	3C13e- 3C13e	隅丸方形	114×100	18	2	人為堆積。黒褐色土中に褐色土ブロックを少量含む。			134	土坑	
			108×90	N-15' -W					118	中世	
R D335	3 C14a	長方形	199×88	36	2	人為堆積。黒褐色土に褐色土や暗褐色土が混入。	R D336を切る。		134	墓跡	A2
			87×79	N-79' -W					118	中世	
R D336	3 C13a	隅丸長方形	215×97	50	2	人為堆積。黒褐色土と暗褐色土との混合土。	R D335に切られる。		134	墓跡	B2
			116×85	N-2' -E					118	中世	
R D337	3D13b- 3C13a	隅丸長方形	124×98	34	2	人為堆積。黒褐色土・暗褐色土・褐色土などで構成される。			134	墓跡	B2
			104×79	N-17' -E					119	中世	
R D338	3 C16f	隅丸長方形	156×122	42	2	人為堆積。褐色土に、その間に褐色土や砂質土の混合土が混入。	土師器片		134	墓跡	B2
			135×98	N-1' -E					130	中世	
R D339	3 C16g	長方形	170×107	44	2	人為堆積。褐色土に、その間に褐色土や砂質土の混合土が混入。			134	墓跡	B2
			155×94	N-17' -E					130	中世	
R D340	3C13e- 3C13e	隅丸方形	115×100	38	2	人為堆積。黒褐色土に、その間に褐色土や砂質土の混合土が混入。			134	墓跡	B1
			98×85	N-9' -E					130	中世	
R D341	3 C13r	不整形	125×105	33	2	人為堆積。黒褐色土に褐色土を多数含む。			135	土坑	
			108×91	N-71' -E					120	近世	
R D342	3C10e- 3C10e	円形	108×103	19	2	人為堆積。暗褐色土中に多数の褐色土ブロック。			135	土坑	
			92×87	不明					120	近世	
R D343	2 C10e	不整形	80×82	9	2	人為堆積。暗褐色土に褐色土が多数混入。			135	土坑	
			79×75	N-5' -W					130	近世	
R D344	3 C11g	隅丸長方形	125×104	40	2	人為堆積。黒褐色土に褐色土や砂質土が混入。	391土師器片		135	高塚	B1
			108×98	N-88' -W					130	中世	
R D345	3 C11h	隅丸長方形	84×62	22	2	人為堆積。黒褐色土に褐色土や砂質土を少量含む。			136	高塚	A2
			70×60	N-10' -W					121	中世	
R D346	3C11a- 3C11b	隅丸長方形	130×106	43	2	人為堆積。黒褐色土と褐色土との混合土が主体。			135	高塚	B2
			119×78	N-85' -E					121	中世	
R D347	3 C9b	隅丸長方形	92×72	24	2	人為堆積。黒褐色土に褐色土(砂質土)が混入。			135	墓跡	
			80×64	N-25' -W					121	中世	
R D348	3C9e- 3C10e	隅丸長方形	92×68	25	2	人為堆積。黒褐色土と褐色土の混合土。			135	墓跡	A2
			83×62	N-0' -					121	中世	
R D349	3 C9f	隅丸長方形	140×110	42	2	人為堆積。黒褐色土と褐色土の混合土。			135	墓跡	B2
			121×93	N-79' -W					122	中世	
R D350	3 B18y	隅丸長方形	86×70	45	2	人為堆積。褐色土と、その間に褐色土や砂質土の混合土。			135	墓跡	A2
			72×53	N-68' -W					122	中世	

造橋名	位置	平面形	開口幅径 (cm)		深さ (cm)	掘土	出土遺物	備考	採取 写真	種類 時期	分類	
			高さ	長径方向								
R D361	3 B17 y	楕丸長方形	210×116	28	N 84° W	人鳥卵殻。黒色土に褐色土ブロック・炭土・灰粒を含む。掘土下層は黒色の質土に炭粒が散在する。				136	原始	B 2
			138×106							123	中世	
R D362	3 C16 a	楕丸長方形	152×35	22	N 12° W	人鳥卵殻。黒色土に赤い黄褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D363・287を切る。		136	原始	A 2
			96×30							123	中世	
R D363	3 C17 a	不明	91×(27)	20	N 48° W	人鳥卵殻。黒褐色土に赤い黄褐色土質土ブロックを散見含む。		R D362・287に切られる。		136	原始	B 2
			74×(22)							123	中世	
R D364	3B9p～ 3B10p	楕丸長方形	156×98	22	N 4° W	人鳥卵殻。黒色土に赤い黄褐色土ブロック含む。				136	原始	B 2
			144×88							123	中世	
R D365	3B9c～ 3B9c	楕丸長方形	174×111	18	N 81° E	人鳥卵殻。黒色土に赤い黄褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D369を切る。		136	原始	B 2
			136×68							123	中世	
R D366	3 B11 c	楕丸長方形	220×82	8	N 42° W	人鳥卵殻。黒色土に赤い黄褐色土ブロック混じる。				136	原始	B 2
			210×72							123	中世	
R D367	3 B11 r	楕丸長方形	128×100	26	N 79° W	人鳥卵殻。黒色土に赤い黄褐色土ブロック及び炭粒混じる。				137	原始	B 2
			112×80							124	中世	
R D368	3 B12 b	小楕丸 楕丸形	150×132	20	N 24° E	人鳥卵殻。黒色土に赤い黄褐色土ブロック及び小礫や炭粒混じる。	土師器片			136	原始	H 1
			138×120							124	中世	
R D369	3 B13 q	楕丸長方形	197×191	18	N 42° W	人鳥卵殻。黒色土に赤い黄褐色土ブロック含む。		R D719を切る。		136	原始	B 2
			192×187							124	中世	
R D380	2 C16 m	楕丸長方形	605×(220)	69	-					119	縄文	B 2
			687×(228)							124	近世	
R D361	2 C 9 c	円形	113×96	15	N 8° W	人鳥卵殻。黒褐色土に褐色土ブロック多量含む。				137	土坑	B 2
			96×82							125	近世	
R D362	2 C 9 r	円形	86×82	7	-	人鳥卵殻。黒褐色土に褐色土ブロック含む。				137	土坑	B 2
			66×62							125	近世	
R D363	2 C12 r	小楕形	128×94	8	N 11° W	人鳥卵殻少。黒褐色土に褐色土を少量含む。				137	土坑	B 2
			125×91							125	近世	
R D364	2 C12 p	円形	79×78	8	-	人鳥卵殻少。黒褐色土に褐色土を少量含む。				138	土坑	B 2
			73×72							125	近世	
R D365	2 C12 p	不整形	100×90	5	N 12° W	人鳥卵殻少。黒褐色土に褐色土をごく少量含む。				138	土坑	B 2
			102×81							126	近世	
R D366	2 C13 p	円形	74×74	8	-	人鳥卵殻少。黒褐色土の厚層。				138	土坑	B 2
			68×68							126	近世	
R D367	3B13 r～ 3B13a	楕丸長方形	80×33	7	N 13° E	人鳥卵殻。赤い黄褐色土ブロックを含む褐色土。				138	原始	A 2
			87×46							126	中世	
R D368	3 B13 p	楕丸長方形	135×100	28	N 6° W	人鳥卵殻。黒色土に赤い黄褐色土ブロック・炭粒含む。				137	原始	B 2
			113×88							126	中世	
R D369	3 B13 c	楕丸長方形	111×90	7	N 40° E	人鳥卵殻。黒色土に赤い黄褐色土ブロック含む。				138	原始	A 2
			94×76							127	中世	
R D370	3 B11 p	楕丸長方形	168×114	27	N 9° W	人鳥卵殻。黒色土に赤い黄褐色土質土との混合土。炭粒も含む。				138	原始	B 2
			150×100							127	中世	
R D371	3C16b～ 3C17b	楕丸長方形	160×104	19	N 0°	人鳥卵殻。黒褐色土に赤い黄褐色土質土との混合土。炭粒も含む。		R D372を切る。		136	原始	B 2
			154×87							127	中世	
R D372	3C16a～ 3C16c	楕丸長方形	(125)×115	22	N 0°	人鳥卵殻。黒褐色土に赤い黄褐色土質土ブロックを散見含む。		R D371に切られる。		136	原始	B 2
			(117)×97							127	中世	
R D373	3 C 9 c	円形	80×70	10	N 43° W	人鳥卵殻。黒褐色土に褐色土ブロックや炭土・炭粒含む。	土師器片			138	土坑	A 1
			75×63							128	不明	
R D374	3 B14 y	楕丸長方形	71×64	22	N 78° W	人鳥卵殻。黒褐色土に赤い黄褐色土の混合土。				138	原始	A 1
			30×14							128	中世	
R D375	3 B12 y	不整形	109×71	37	N 11° E	人鳥卵殻。黒褐色土に赤い黄褐色土・小礫を含む。				138	原始	A 2
			75×43							128	中世	
R D376	3 B13 x	楕丸長方形	97×80	36	N 79° W	人鳥卵殻。黒褐色土に褐色土質土ブロック含む。掘土下層には黒褐色土質土。	土師器片			138	原始	A 2
			80×56							128	中世	
R D377	3 B16 x	長方形	92×78	32	N 43° E	人鳥卵殻。黒褐色土に赤い黄褐色土質土が上層部に混じる。				138	原始	A 1
			76×70							129	中世	
R D378	3 B13 y	不整形	105×86	68	N 3° E	人鳥卵殻。褐色土・黒褐色土の混合土。				129	原始	A 2
			93×57							129	中世	
R D379	3-C13 b	楕丸長方形	330×180	31	-	不明。		R D322・621・628・611より内へ。		190	土坑	B 2
			306×154							129	近世	

通称名	位置	平面形	開口部径 (cm)		深さ (cm)	地 上	出 上 遺 物	備 考	版 画	植 類	分 類
			底面径 (cm)	長軸方向							
R D 380	3 C 7 J	隅丸長方形	280 × 245	30	30	黒褐色土と褐色土の混合土。炭粒・自然腐葉を含む。	7912瓦製磁器類、土製磁片、陶磁磁片	調査区外にのびる。	129	130	上段
R D 381	3C13a~ 3C14a	不整形	250 × 255	19	19	人為堆積と思われる。炭粒・自然腐葉を含む。	土製磁片、陶磁磁片		129	130	上段
R D 382	3C25a~ 3C26	隅丸方形	203 × 166	42	42	人為堆積。黒褐色土の中に地山ブロックを含む。	392土製磁器類調査?		140	139	中段
R D 383	2 C 4 s	隅丸長方形	217 × 195	18	18	自然堆積の痕跡を認める。		柱穴との前後関係は不明。	129	130	上段
R D 384	3B12a~ 3B12b	隅丸長方形	197 × 177	30	30	人為堆積。地土上には黒色土、下段は赤褐色土と深い黄褐色土に炭粒を含む。	土製磁器	R D 722を切る。	140	130	中層
R D 385	3 C 14 J	不整形	224 × 205	16	16	人為堆積。黒褐色土に褐色砂質土ブロックと炭粒を含む。	700磁器、陶磁磁片		140	131	土段
R D 386	4 A 13 J	不整形	170 × 141	25	25	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック・小礫を少量含む。			131	140	土段
R D 387	3 C 16 a	不明	178 × 161	30	30	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色ブロック・炭粒を微量含む。		R D 392・372に切られる。R D 383を切る。	130	131	中層
R D 388	2 C 5 c	隅丸長方形	214 × 100	23	23	人為堆積。地山ブロックを大量に含む。黒褐色土。			140	131	中層
R D 389	2 C 6 c	隅丸長方形	105 × 92	26	26	人為堆積。地山ブロックを多量に含む。黒褐色土。		柱穴より古。	140	132	中層
R D 390	3C17a~ 3C17b	不整形	140 × 105	26	26	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土を含む。		R D 291・292と炭粒、薪屑不明。	141	132	中層
R D 391	3C18a~ 3C18b	不整形	158 × 128	14	14	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土を含む。		R D 292・293を切る。R D 390と炭粒、薪屑不明。	141	133	中層
R D 392	3 C 18 a	隅丸長方形	167 × 108	14	14	人為堆積。黒色土に深い黄褐色土を含む。		R D 291に切られる。R D 394を切る。R D 392と炭粒、薪屑不明。	132	133	中層
R D 393	3 C 18 a	隅丸長方形	100 × (65)	18	18	人為堆積。黒色土に深い黄褐色土を含む。			141	133	中層
R D 394	3C19a~ 3C19b	不整形	82 × (56)	34	34	人為堆積。黒褐色土に炭褐色土・硝子灰ブロック土質土を含む。		R D 391に切られる。R D 394を切る。R D 392と炭粒、薪屑不明。	141	133	中層
R D 395	3 C 19 a	不整形	90 × 111	10	10	人為堆積。黒色土に深い黄褐色土を含む。		R D 391に切られる。R D 394を切る。R D 392と炭粒、薪屑不明。	132	133	中層
R D 396	3B19a~ 3B19b	隅丸長方形	(54) × 62	29	29	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土ブロック・炭粒を含む。			141	133	中層
R D 397	3 B 18 c	隅丸長方形	173 × 140	30	30	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土を含む。		R D 391に切られる。R D 394を切る。R D 392と炭粒、薪屑不明。	141	133	中層
R D 398	3B16~ 3B16a	隅丸長方形	155 × 100	18	18	人為堆積。黒色土に深い黄褐色土上ブロック・炭粒を含む。			141	133	中層
R D 399	3B16~ 3B16a	隅丸長方形	226 × 108	18	18	人為堆積。黒色土に深い黄褐色土上との混合土と炭粒を含む。	393土製磁器類?		141	133	中層
R D 400	3 B 17 c	隅丸長方形	214 × 87	37	37	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上ブロックと炭粒を含む。(炭屑下層はグライ化)		R D 730を切る。	142	133	中層
R D 401	3 B 17 J	隅丸長方形	115 × 80	42	42	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上ブロック・炭粒を微量含む。地土下層はグライ化。	土製磁器片	R D 729を切る。	142	134	中層
R D 402	3 C 8 g	8の字形	187 × 113	52	52	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上ブロック・炭粒を含む。			142	134	中層
R D 403	3 B 17 c	隅丸長方形	214 × 87	37	37	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上ブロック・炭粒を微量含む。地土下層はグライ化。	土製磁器片	R D 729を切る。	142	134	中層
R D 404	3 B 17 J	隅丸長方形	169 × 98	42	42	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上ブロック・炭粒を微量含む。地土下層はグライ化。			142	134	中層
R D 405	3 B 16 J	隅丸長方形	174 × 140	35	35	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒の層が見られる。	394~397土製磁器		141	134	中層
R D 406	3 B 17 c	隅丸長方形	153 × 100	21	21	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上ブロック・炭粒を含む。			142	134	中層
R D 407	3 B 17 J	隅丸長方形	125 × 85	13	13	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。		R E 036を切る。	143	134	中層
R D 408	3 B 17 c	隅丸長方形	136 × 104	18	18	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。			143	134	中層
R D 409	3 B 16 J	隅丸長方形	141 × 85	18	18	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。			143	135	中層
R D 410	3 B 16 J	隅丸長方形	116 × 114	25	25	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。			142	135	中層
R D 411	3 B 16 J	隅丸長方形	100 × 95	28	28	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。			142	135	中層
R D 412	3 B 16 J	隅丸長方形	150 × 85	35	35	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。			142	135	中層
R D 413	3B16~ 3B17	隅丸長方形	86 × 68	35	35	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。		R D 670に切られる。	141	135	中層
R D 414	3B16~ 3B17	隅丸長方形	(162) × 120	19	19	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。			142	135	中層
R D 415	3 B 16 c	隅丸長方形	(120) × 100	19	19	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。			143	135	中層
R D 416	3 B 16 c	隅丸長方形	101 × 77	17	17	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。			142	135	中層
R D 417	3 B 16 c	隅丸長方形	87 × 60	17	17	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。			142	135	中層
R D 418	3 B 16 c	隅丸長方形	73 × 70	17	17	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。			142	135	中層
R D 419	3 B 16 c	隅丸長方形	95 × 67	17	17	人為堆積。黒褐色土に深い黄褐色土上との混合土。炭粒を含む。			142	135	中層

通称名	位置	平面形	開口形状 (m) 底幅 (m)	長さ (m) 距離方向	用 土	出土遺物	備 考	図版 写真	種類 時期	分類
R D 407	3 B 9 c	台形?	191 × 90	20	人為堆積。黒褐色土に赤い黄褐色土ブロック・炭粒を含む。			142	炭粒	A 1
			92 × 73	N-15°-E				156	中世	
R D 408	3B10a~ 3B10c	不整形	90 × 73	7	人為堆積。黒色土に灰黄褐色土・炭粒色土ブロック含む。下部には粘土質土。			142	炭粒	A 2
			84 × 62	N-0°				136	中世	
R D 409	3 B 13 a	隅丸長方形	128 × 103	37	人為堆積。灰褐色土に褐色砂質土ブロックを不規則に含む。			144	炭粒	
			113 × 95	N-3.5°-E				136	中世	
R D 414	2 A 12 y	楕円形	133 × 80	27	自然堆積と思われる。			143	土坑	B 2
			124 × 74	N-86°-E				137	中世	
R D 415	2 B 15 y	隅丸長方形	128 × 100	35	人為堆積。1位は黒褐色土。下部は黒褐色土に赤い黄褐色土の混合土。		R D 416を切る。	143	炭粒	B 2
			120 × 99	N-0°				137	中世	
R D 416	2 B 15 y	隅丸長方形	62 × 121	18	人為堆積。灰褐色土・赤い黄褐色土・黒褐色土の混合土。炭粒付帯はグライ質。		R D 413に切られる。	143	炭粒	A 2
			50 × 123	N-0°				137	中世	
R D 417	3B12a~ 3B13a	隅丸長方形	186 × 178	46	人為堆積。黒褐色土を主体に小礫。赤い黄褐色土ブロック、砂層を含む。			144	炭粒	C 1
			146 × 129	N-4°-E				137	中世	
R D 418	4 B 21 r	円形	124 × 102	7	人為堆積。黒褐色土に黒褐色土含む。			143	土坑	
			116 × 100	N-35°-W				136	中世	
R D 419	1 C 20 m	不整形	221 × 173	24	人為堆積。黒が埋められていた。		R G 203より割。	144	炭粒	
			158 × 142	N-77°-E				138	近世-	
R D 420	1 C 19 m	不整形	128 × 94	14	人為堆積。黒が埋められていた。			143	炭粒	
			105 × 60	N-75°-E				138	近世-	
R D 421	1C10b~ 1C19c	隅丸長方形?	299 × (180)	14	自然堆積か人為堆積が不明。		R G 203より占。底面は平直ではない。	145	土坑	
			276 × (150)	N-81°-E				138	不明	
R D 422	1 C 19 p	円形	68 × 62	18	人為堆積の様相を呈する。		R G 205より占。R D 421に付属する土坑か。	145	土坑	
			50 × 48	N-41°-W				138-139	不明	
R D 423	3B8a~ 3B9a	長方形	262 × 75	2	遺物無し。			145	炭粒	B 2
			275 × 66	N-42°-E				139	中世	
R D 424	3 B 22 c	隅丸長方形	120 × 92	40	人為堆積。黒褐色土と黄褐色土との混合土。		R D 662を切る。	145	炭粒	H 2
			98 × 70	N-6°-E				139	中世	
R D 425	3B20a~ 3B22a	隅丸長方形?	80 × 70	18	人為堆積。黒褐色土に灰褐色土ブロック含む。			145	炭粒	A 1
			65 × 57	N-0°				139	中世	
R D 426	3 C 17 d	楕円形	89 × 57	16	人為堆積。黒色土に赤い黄褐色土。炭粒を含む。			145	炭粒	A 2
			60 × 32	N-4°-E				140	中世	
R D 427	3B21a~ 3B21c	楕円形	98 × 82	15	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック散見を含む。			143	炭粒	A 1
			80 × 72	N-77°-W				140	中世	
R D 428	2 A 4 y	三角形	238 × 83	23	黒褐色土を主体とした自然堆積。	308・309調査区		146	土坑	
			93 × 99	N-21°-W				140	不明	
R D 429	3 B 21 m	隅丸長方形	91 × 78	17	人為堆積でよいと思われる。			146	炭粒	A 1
			80 × 62	N-83°-W				140	中世	
R D 430	3 B 22 c	隅丸長方形	111 × 101	37	人為堆積。黒色土・黒褐色土中に褐色土ブロック含む。		R D 376を切る。	146	炭粒	B 1
			97 × 84	N-32°-W				141	中世	
R D 431	3 B 22 c	長方形	171 × 108	40	人為堆積。黒褐色土に黒山ブロックを不規則に含む。			146	炭粒	B 2
			146 × 90	N-47°-W				141	中世	
R D 432	4 A 10 i	不整形円形	101 × 95	32	自然堆積。埋められていない。			146	土坑	
			64 × 60	N-65°-W				140	不明	
R D 433	3 B 19 a	不整形	122 × 101	11	人為堆積。黒色土に赤い黄褐色土がシム状に見られる。炭粒も出る。			146	炭粒	B 2
			99 × 84	N-16°-E				141	中世	
R D 434	3 B 21 c	隅丸長方形	94 × 80	16	人為堆積。黒褐色土の中に黒山ブロック。			146	炭粒	A 1
			77 × 62	N-85°-W				141	中世	
R D 435	3 B 24 a	隅丸長方形	110 × 90	20	人為堆積。黒褐色土の中に黒山ブロック。		前期関係なし。	146	炭粒	A 2
			94 × 75	N-83°-W				142	中世	
R D 436	3 B 19 y	不明	93 × 90	15	人為堆積。黒褐色土に赤い黄褐色土ブロック含む。		R D 437と重疊。前田不明。R D 438を切り、R D 381に切られる。	147	炭粒	
			87 × 54	N-16°-E				142・143	中世	
R D 437	3 B 19 y	不明	120 × 104	15	人為堆積。黒褐色土に赤い黄褐色土ブロック含む。		R D 437と重疊。前田不明。R D 438を切り、R D 381に切られる。	147	炭粒	
			110 × 104	N-5°-E				142・143	中世	
R D 438	3 B 19 y	不明	150 × 70	13	人為堆積。黒褐色土に赤い黄褐色土含む。		R D 437・603に切られる。R D 439を切る。	147	炭粒	
			130 × 60	N-2°-E				142・143	中世	

通称名	位置	平面形	出入口径 (cm)		用 上	出土遺物	備 考	図紙	種類	分類
			幅径 (cm)	深さ (cm)						
R D430 3 C 19 a	隅丸長方形	不明	126×740	17	人為堆積。黒色土に赤い黄褐色土を含む。		R D438に寄られる。	147	高塚	
			130×790	N-3'-E				143	中世	
R D440 3 B 20 a	小円	不明	127×333	?	片断なし。		R D436・441を覆り、R D432に切られる。	147	高塚	
			39×321	N-7'-E				143	中世	
R D441 3 B 20 y	小円	不明	105×100	20	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロックを含む。		R D440・442に覆られ、R D443を覆る。	147	高塚	
			88×143	N-0'				143	中世	
R D442 3 B 20 y	隅丸長方形	不明	160×116	24	人為堆積。黒褐色土に赤い黄褐色土層・夾層を含む。		R D436・440・441・551を切る。	147	高塚	B 2
			166×94	N-5'-E				143	中世	
R D443 3 B 20 y	不明	不明	647×85	30	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロックを含む。		R D441に切られる。	147	高塚	
			(41)×75	N-84'-W				143	中世	
R D444 3 B 20 a	円形	不明	58×56	23	人為堆積。黒褐色土に赤い黄褐色土ブロックを含む。			147	高塚	A 1
			32×31	N-0'				143	中世	
R D445 3 B 18 t	不整形	不明	90×65	7	人為堆積。黒褐色土中に赤い黄褐色土が多少に見られる。			147	高塚	A 1
			80×62	N-8'-E				143	中世	
R D446 3 B 18 t	隅丸長方形	不明	127×110	18	人為堆積。黒褐色土に赤い黄褐色土ブロックを含む。			147	高塚	B 1
			115×100	N-5'-E				141	中世	
R D447 3 B 18 t	隅丸長方形	不明	152×105	30	人為堆積。黒色土・黒褐色土・赤い黄褐色土の混合土。		R D720を切る。	137	高塚	B 2
			102×93	N-81'-E				144	中世	
R D448 3C20a~3C21a	不整形	不明	266×192	5	自然・人為堆積の区別不明。		R A290より。	148	土坑	
			256×189	N-9'-W				144	近世	
R D449 3 H 25 c	不整形	不明	117×102	30	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック多量を含む。		R G 191を切る。	147	高塚	B 1
			96×76	N-85'-W				144	中世	
R D450 3B25a~3B25b	隅丸長方形	不明	148×96	32	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む。			148	高塚	B 2
			132×63	N-5'-W				143	中世	
R D451 3 B 23 c	隅丸長方形	不明	96×92	30	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック多量を含む。			148	高塚	A 1
			71×68	N-58'-W				145	中世	
R D452 3 B 23 c	隅丸長方形	不明	160×101	50	人為堆積。黒褐色土、暗褐色土、褐色土の混合土。			148	高塚	B 2
			131×76	N-52'-W				145	中世	
R D453 3 B 14 r	不整形	不明	177×72	6	褐色土に赤い黄褐色土ブロックを含む人為堆積。			148	高塚	B 2
			167×63	N-10'-E				145	中世	
R D454 3B13a~3B15a	隅丸長方形	不明	125×100	18	褐色土中に赤い黄褐色土ブロックを含む人為堆積。			148	高塚	B 2
			115×80	N-3'-W				145	中世	
R D455 3B13a~3B14a	隅丸長方形	不明	86×50	12	人為堆積。褐色土に赤い黄褐色土ブロックを含む。			148	高塚	A 2
			78×50	N-3'-W				146	中世	
R D456 4 B 14	隅丸長方形	不明	140×105	45	人為堆積。黒褐色土に褐色土等量不規則に混じる。		R D676・R G 193Hに切られる。	149	高塚	B 2
			111×96	N-6'-E				146	中世	
R D457 3 B 25 j	円形	不明	124×110	16	黒褐色土と褐色土の混合土。人為堆積。			149	高塚	B 1
			104×90	N-45.5'-E				146	中世	
R D458 3B28a~3B28b	隅丸長方形	不明	52×89	15	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・夾層を含む。		R D720を切る。	150	高塚	A 1
			32×78	N-10'-E				147	中世	
R D459 3 B 22 j	隅丸長方形	不明	125×72	28	黒褐色土、褐色土、暗褐色土などが不規則に混じる人為堆積。		R D720を切る。	150	高塚	A 2
			112×30	N-77'-W				147	中世	
R D460 3 B 23 j	隅丸長方形	不明	191×103	24	人為堆積。黒褐色土、暗褐色土、褐色土、灰緑土などによって構成される。	553背面図	R D721・731・736を切る。	150	高塚	B 2
			123×91	N-25'-W				147	中世	
R D461 3C17a~3C17y	不整形	不明	638×370	18	人為堆積のみ。		R D462・R D463より。	149	土坑	
			388×306	N-83'-E				147	近世	
R D462 2 C 13 y	隅丸長方形	不明	90×77	20	人為堆積。黒褐色土と地山の混土。		R D461より。	149	高塚	A 1
			73×63	N-28'-W				148	中世	
R D463 2 C 13 y	隅丸長方形	不明	102×77	18	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック混。		R D461より。	149	高塚	A 2
			94×68	N-21'-E				148	中世	
R D464 3 B 18 c	隅丸長方形	不明	85×75	30	褐色土に赤い黄褐色土、灰色土層・夾層で構成される人為堆積。			151	高塚	A 2
			78×62	N-88'-E				148	中世	
R D465 3 B 16 c	隅丸長方形	不明	104×97	12	人為堆積。褐色土に赤い黄褐色土ブロックを含む。			151	高塚	A 1
			81×85	N-78'-W				148	中世	
R D466 3 B 17 c	隅丸長方形	不明	364×120	25	人為堆積。黒褐色土に赤い黄褐色土との混合土。層上層下層はこれに暗オリーブ灰色粘土質土が混じる。			151	高塚	C 2
			345×80	N-81'-W				149	中世	
R D467 3 B 19 p	隅丸長方形	不明	120×95	20	人為堆積。黒褐色土に赤い黄褐色土との混合土。層上層下層はグライ化。			151	高塚	B 2
			96×75	N-2'-W				149	中世	

遺構名	位置	平面形	開口部寸法 (cm)		厚さ (cm)	理 土	出土遺物	備 考	図版	撮影 時期	分類
			東西長	南北長							
R D 468	2 R 4 a	小形埋まり形	136×56		26	自然・人為堆積の区別不明。			151	土坑	B 2
			100×14	N 18°				151	不明		
R D 469	3 R 10 a 遺山 1 u	小形形	275×292		36	自然・人為堆積の区別不明。黒褐色土中に河原石・炭粒などを含む。			152	不明	B 2
			320×223		不明			150	不明		
R D 470	3 B 17	隅丸長方形	215×113		43	深褐色土・黒褐色土に白い黄褐色土ブロックを小範囲に含む人為堆積。底面付近はグライ化。		R G 198 を切る。	151	基壇	B 2
			300×58	N 40°	W			149	中壁		
R D 471	2 B 8 g	隅丸長方形	773×80		22	黒褐色土の中に地山ブロック少量含む。			152	土坑	B 2
			562×32		不明			149	不明		
R D 472	2 C 17 a	隅丸長方形	192×130		27	人為堆積と思われる。黒褐色土に基山ブロック・小礫・炭粒が混。底面には向形礫が埋められていた。		R D 491 より新。	152	土坑	B 2
			156×106	N 6°	W			150	土坑		
R D 473	2 C 15 p	隅丸長方形	236×233		18	人為堆積。基山ブロックを少量含む。茶褐色土。	787 近世前部編	R D 054 より新。	153	土坑	B 1
			218×218		不明			151	土坑		
R D 474	2 C 6 i	隅丸長方形	97×76		18	人為堆積。地山ブロックを微量含む。黒褐色土。		比尺より古。	153	基壇	A 2
			90×72	N 12°	W			151	中床		
R D 475	2 C 18 r	小形形	131×116		64	人為堆積。黒褐色土・地山・暗褐色土などの混上。		R A 289 より新。 R G 200 より古。	153	基壇	B 1
			109×78	N 82°	E			151	中床		
R D 476	2 C 19 q	小形形	117×109		43	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック含む。		R A 280 より新。 R G 200 より古。	153	基壇	B 1
			98×86	N 15°	W			151	中床		
R D 477	3 C 19 p - 3 C 20 p	隅丸長方形	100×97		27	自然堆積か。瓶土下層積質。		R A 240 より新。	153	基壇	A 1
			86×85		不明			152	中床		
R D 478	2 C 20 q	隅丸長方形	90×87		30	人為堆積。黒褐色土中に地山ブロック少量含む。		R A 240 より新。	153	基壇	A 1
			80×78		不明			152	中床		
R D 479	2 A 10 r - 2 A 11 y	長方形	60×35		18	人為堆積か。両方には礎上趾が含まれる。			154	土坑	B 2
			47×25	N 8°	W			152	不明		
R D 480	3 B 23 c	隅丸長方形	158×112		47					基壇	B 2
			107×96	N 15°	E					中床	
R D 481	4 A 12 d	隅丸長方形	177×170		24	黒褐色土に小礫を微量含む。自然・人為の区別不明。			154	中床	B 2
			150×142	N 27°	E			152	中壁		
R D 482	1 A 11 a	隅丸長方形	164×100		8	人為堆積。褐色土ブロック微量含む。			153	基壇	B 2
			143×93	N 49°	W			153	中壁		
R D 483	4 A 5 t	隅丸長方形	106×80		24	黒褐色土の厚層。自然・人為の区別不明。			154	土坑	B 2
			83×56	N 45°	W			153	中壁		
R D 484	4 A 2 f	隅丸長方形	200×25		15	自然堆積か人為堆積か不明。		R G 084 より古いと思われる。	154	土坑	B 2
			274×102	N 85°	E			153	不明		
R D 485	4 A 2 f	小形形	188×60		12	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック少量含む。		R G 084 より古いと思われる。	154	土坑	B 2
			122×18	N 82°	W			153	不明		
R D 486	3 C 24 q	隅丸長方形	148×99		15	人為堆積。黒褐色土と黄褐色土の混上。			154	基壇	H 2
			137×85	N 88°	E			154	中壁		
R D 487	3 C 25 j	埋まり形	83×62		12	人為堆積。黒褐色土・黒褐色土に黒色土ブロックが含まれる。			154	基壇	A 2
			70×45	N 12°	E			154	中床		
R D 488	3 C 20 c	隅丸長方形	159×116		17	茶褐色土に地山ブロックを不規則に含む人為堆積。		R D 493 を切る。	155	基壇	B 2
			130×92	N 6°	W			154	中床		
R D 489	3 C 22 j	隅丸長方形	121×115		51	黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。		R D 492 を切る。	154	基壇	B 1
			110×89	N 1°	E			154	中床		
R D 490	3 B 24 y	長方形	107×94		46	人為堆積。黒褐色土に黒色土ブロックを含む。			155	基壇	A 1
			95×86	N 2°	E			155	中床		
R D 491	3 C 21 b - 3 C 21 c	隅丸長方形	202×100		39	黒褐色土に地山ブロックを小範囲に含む人為堆積。			155	基壇	B 2
			186×83	N 82°	W			155	中床		
R D 492	3 C 22 j	不明	(4)×90		22	黒褐色土と褐色土の混上。人為堆積。		R D 498 に切られる。	154	基壇	B 2
			(4)×70		不明			154	中壁		
R D 493	3 C 20 e	不明	84×260		48	注記なし。		R D 498 に切られる。	154	基壇	B 2
			84×143	N 4°	E			154	中床		
R D 494	3 B 22 y	長方形	208×112		27	人為堆積形質の層状を呈する。			156	基壇	H 2
			194×96	N 8°	E			156	中床		
R D 495	3 B 12 i	隅丸長方形	126×100		9	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを少量含む。			155	基壇	H 2
			115×90	N 69°	W			156	中床		
R D 496	3 H 15 i	長方形	120×100		11	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを少量含む。		R G 198 と同様。	155	基壇	B 1
			106×90	N 45°	W			156	中床		

遺構名	位 置	平面形	開口部寸法 (m)		深さ (cm)	堀 土	出土 遺物	備 考	図版 写真	推知 時期	分類
			北南径 (m)	東西径 (m)							
R D497	3R14p~ 3R15a	隅丸長方形	158×83	32	32	黒色土に赤い黄褐色土を含む人為堆積。			155	縄文	B 2
			130×76	N-83°-W							
R D498	3 R15 a	円形	72×65	9	9	赤褐色土に赤い黄褐色土ブロックを含む人為堆積。			185	縄文	A 1
			56×47	N-71°-W							
R D499	3 D13m	隅丸長方形	100×35	45	45	人為堆積。黒色土に赤い黄褐色土ブロックを含む。底部付近はアイ化。			136	縄文	A 2
			70×30	N-67°-W							
R D501	3R22a~ 3R25p	長方形	162×115	31	31	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを多量に含む。			156	縄文	B 2
			147×102	N-86°-W							
R D502	3 B21w	隅丸長方形	131×106	32	32	黒褐色土に褐色土ブロック・焼土・炭粒を含む人為堆積。			156	縄文	B 2
			112×90	N-9°-E							
R D503	3 B13 a	長方形	250×93	34	34	黒褐色土に赤い黄褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D504に切られる。	157	縄文	B 3
			233×76	N-22°-E							
R D504	3R13a~ 3R14a	隅丸長方形	90×75	24	24	黒褐色土に赤い黄褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D503を切る。	156	縄文	A 1
			86×62	N-38°-E							
R D505	3D19w~ 3D19e	長方形	162×119	43	43	人為堆積。黒褐色土に褐色土・赤い黄褐色土ブロックを含む。			156	縄文	B 2
			122×80	N-8°-E							
R D506	3D13w~ 3D13e	隅丸長方形	138×116	34	34	黒褐色土に焼土ブロック・褐色土土等が混じる人為堆積。		R D507に切られる。	156	縄文	B 1
			112×85	N-86°-E							
R D507	3 B13 k	隅丸長方形	160×92	30	30	黒褐色土に焼土ブロックが混じる人為堆積。		R D506を切る。	136	縄文	B 2
			154×80	N-22°-E							
R D508	3R12 a 3R13a	隅丸長方形	161×52	31	31	黒褐色土に焼土ブロックが混じる人為堆積。			157	縄文	B 2
			125×82	N-63°-W							
R D509	3 D9 a	小竪形	(151)×94	9	9	不明。		R D505に切られる。	136	縄文	
R D510	4R11~ 4R14w	隅丸長方形	(146)×83	N-81°-W					159	縄文	
			100×84	39					157	縄文	A 1
R D511	4 B 5 v	隅丸長方形	86×70	N-11°-E					159	縄文	
			116×92	32					157	縄文	B 2
R D512	1 C 23 t	隅丸長方形	80.5×70	N-51°-W					190	縄文	
			110×99	21					157	縄文	B 1
R D513	3 D11 a	隅丸長方形	103×94	N-41°-E					190	縄文	
			85×82	24					157	縄文	A 1
R D514	3R10w~ 3R11a	隅丸長方形	75×69	N-19°-E					160	縄文	
			313×96	9					157	縄文	C 3
R D515	3 R11 n	隅丸長方形	303×76	N-63°-W					160	縄文	
			(302)×97	27					157	縄文	A 1
R D516	3 R9 f	隅丸長方形	090×80	N-67°-W					161	縄文	
			108×100	14					157	縄文	B 1
R D517	3 R12 f	隅丸長方形	96×88	N-87°-E					161	縄文	
			104×87	35					157	縄文	A 1
R D518	3 R11 m	隅丸長方形	94×77	N-24°-W					161	縄文	
			81×80	27					159	縄文	A 1
R D519	3 B 9 o	隅丸長方形	89×68	N-67°-W					156	縄文	
			282×95	28					161	縄文	B 2
R D520	3D10w~ 3D11o	小竪形	172×83	N-7°-E					162	縄文	
			170×130	5					159	縄文	B 2
R D521	3D39w~ 3D39y	不明	165×127	N-17°-E					162	縄文	
			110×47	?					147	縄文	A 3
R D522	3 B14 f	隅丸長方形	92×30	N-1°-E					162	縄文	
			194×88						158	縄文	B 2
R D523	3 B14 k	隅丸長方形	184×72	N-15°-E					162	縄文	
			268×114	33					158	縄文	B 2
R D524	3R14k~ 3R15a	隅丸長方形?	156×74	N-29°-W					163	縄文	
			216×98	22					158	縄文	B 2
R D525	3B9h~ 3B9e	隅丸長方形	207×80	N-87°-E					163	縄文	
			(190)×114	14					158	縄文	B 2
R D526	3 B15 f	隅丸長方形	(176)×80	N-82°-W					163	縄文	
			169×103	39					159	縄文	B 2
			142×87	N-76°-W					163	縄文	

道標名	位置	平面形	開口部径 (cm)		傾き (ra)	用 上	出土遺物	備 考	図版	横断 時期	分類
			高さ径 (cm)	長軸方向							
R D327	1 C 21v	不整形	98×80	36		人為堆積。地山ブロック露出。			180	高塚	B 2
			90×72	N-4'-E				154	中世		
R D328	3 B 20s	隅丸長方形	154×105	18		黒褐色土に地山ブロックを多量に含む人為堆積。			159	高塚	B 2
			145×94	N-7.5'-E				164	中世		
R D330	3D17v~ 3D19a	隅丸長方形	(220)×173	28		人為堆積。黒褐色土に地山ブロック混。		R D560に切られる。 R D561と重複、新旧不明。	159	高塚	C 2
			(190)×150	N-5'-E				161	中世		
R D360	3D20v~ 3D20h	長方形	227×162	28		人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを多量に含む。		R D536を切る。	130	高塚	C 2
			210×135	N-5'-E				164	中世		
R D361	3 B 19r	隅丸長方形	147×114	24		地山ブロックが混じる黒褐色土。人為堆積。		R D463を切る。 R D339と重複、新旧不明。	130	高塚	B 2
			119×97	N-45'-W				164	中世		
R D362	1 C 22u	隅丸長方形	84×82	32		人為堆積。黒褐色土に地山ブロック混。		R D563より南。	160	高塚	B 2
			76×75	不明				165	不明		
R D363	1 C 22u	隅丸長方形	88×62	67		人為堆積。黒褐色土に地山ブロックが不規則に混。		R D562より西。 R D465より東。	180	高塚	B 2
			74×51	N-50'-E				165	不明		
R D364	2 C 4 j	隅丸長方形	90×75	30		人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック露出。		柱穴より西。	180	高塚	A 2
			80×60	N-8'-W				165	中世		
R D365	2 C 5 i	隅丸長方形	90×66	38		人為堆積。地山ブロック少量混。泥粘層混。			160	高塚	A 2
			80×60	N-11'-W				160	中世		
R D366	2 C 4 j	隅丸長方形	174×108	26		人為堆積。黒褐色・褐色・暗褐色土の混合土。		柱穴より西。	160	高塚	B 2
			156×100	N-7'-E				166	中世		
R D367	3 B 17s	隅丸長方形	(74)×100	27		人為堆積。黒褐色土に灰青褐色土ブロック少量含む。		R D368に切られる。	180	高塚	B 2
			(60)×77	N-8'-E				166	中世		
R D368	3D17v~ 3D18a	長方形	142×95	9		人為堆積。黒褐色土に灰青褐色土ブロック多量含む。		R D367・369を切る。	160	高塚	B 2
			130×74	N-7'-E				166	中世		
R D369	3 B 18s	隅丸長方形	133×90	26		褐色土に灰青褐色土ブロック混じる人為堆積。		R D368に切られる。	160	高塚	B 2
			120×79	N-70'-W				166	中世		
R D370	3 B 16s	隅丸長方形	180×76	14		人為堆積。褐色土中に暗褐色土ブロック多量含む。		R D371を切る。	161	高塚	B 3
			168×57	N-3'-E				166	中世		
R D371	3 B 16s	不明	154×(102)	16		褐色土に灰青褐色土ブロック混じる人為堆積。		R D370に切られる。	161	高塚	B 2
			126×(93)	N-0.5'-E				166	中世		
R D372	3D19v~ 3D19h	隅丸長方形	87×79	28		褐色土に灰青褐色土ブロック混じる人為堆積。			161	高塚	A 1
			71×59	N-22'-W				167	中世		
R D373	3 B 12m	隅丸長方形	92×41	6		人為堆積。褐色土に地山ブロック・灰粒が混じる。			160	高塚	A 2
			82×36	N-78'-W				167	中世		
R D374	2 c 21 i	隅丸長方形	129×97	10		人為堆積。地山ブロック少量混。	52枚鉄釘、540鉄線筋		161	高塚	B 2
			110×82	N-37'-E				167	中世		
R D375	3 B 19q	隅丸長方形	131×102	14		黒褐色土に濃い黄褐色ブロック・灰粒を含む人為堆積。舞下層はグライ化。			161	高塚	B 2
			121×90	N-2'-E				167	中世		
R D376	3 B 22n	隅丸長方形	140×107	29		人為堆積。暗褐色土と褐色土との混合土。		R D430に切られる。	146	高塚	B 2
			108×82	N-77'-W				188	中世		
R D377	3 B 21k	不整形	97×70	16		黒褐色土に褐色土ブロックを多量に含む人為堆積。	100t土線筋		151	高塚	A 2
			78×57	N-63'-W				168	中世		
R D378	3 D 21 k	不整形	113×82	12		黒褐色土中に褐色土がシミ状にみられる。人為堆積。			164	高塚	A 2
			101×68	N-82'-W				168	中世		
R D379	3 B 25 i	隅丸長方形	(63)×37	5		人為堆積。黒褐色土に灰青褐色土ブロック含む。		R G 193に切られる。	161	高塚	A 2
			(50)×29	N-2'-W				168	中世		
R D380		不整形?	不明	14		人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを多量に含む。			169	不明	B 2
				なし							
R D381	2 C 2 i	隅丸長方形	124×83	10		人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の堆積。		柱穴より西。	161	高塚	B 2
			120×75	N-7'-W				160	中世		
R D382	2 C 1 j	隅丸長方形	160×83	42		人為堆積。上部は黒褐色土と褐色土の混合土。下部は暗褐色土に黒褐色土が混。		柱穴より西。	162	高塚	B 2
			147×73	N-4'-W				169	中世		
R D383	2 C 7 f	隅丸長方形	98×74	32		人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の堆積。		柱穴より西。	162	高塚	A 2
			75×65	N-17'-W				169	中世		
R D384	4 B 2 p	不整形	164×132	43		黒褐色土中に褐色土ブロック・灰粒を含む人為堆積。			162	高塚	B 2
			124×120	N-77'-E				170	中世		

遺構名	位置	平面形	開口部寸法 (m) 底辺部寸法	深さ (cm) 長軸方向	土	出土遺物	備考	図版 写真	埋没 時期	分類
R D585	4 B 3 o	隅丸長方形	116×95 77×66	40 N 40° W	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック・瓦が混じる。		R G 191を切る。	162 170	黒瀬 中世	B 2
R D586	欠番	欠番						170	欠番	
R D587	4 B 3 q	隅丸長方形	127×102 105×82	58 N 83° W	人為堆積。黒褐色土と暗褐色土の混 合土。			162 170	黒瀬 中世	B 2
R D588	4 B 4 a	隅丸長方形	135×115 98×92	24 N 8° E	人為堆積。黒褐色土・黒褐色土・陶 土等の混合土。		R D592を切る。	162 171	黒瀬 中世	B 2
R D589	4 B 9 o	隅丸方形	112×106 80×72	22 N 66° W	黒褐色土中に褐色土ブロック・機 土・瓦を含む人為堆積。		R D591・R G 191を 切る。	162 171	黒瀬 中世	B 1
R D590	4 B 2 q	不整形	130×130 127×112	45 N 9° E	人為堆積。黒褐色土に褐色土が不規 則に混じる。			162 171	黒瀬 中世	B 1
R D591	4 B 9 o	隅丸長方形?	(100)×54 (80)×36	16 N 40° W	人為堆積。黒褐色土に黄褐色・褐色 土ブロックが混じる。		R D589に切られ、 R D592・R G 191を 切る。	162 171	黒瀬 中世	B 1
R D592	4 B 9 n	隅丸長方形?	(124)×104 (105×96)	7 N 2° W	暗褐色土中に褐色土ブロックが多量 に混じる人為堆積。		R D588・501に切ら れる。	162 172	黒瀬 中世	B 1
R D593	3 B 20 a	隅丸長方形	122×100 104×84	20 N 8° W	人為堆積。黒褐色土中に褐色土プロ ック・瓦を含む。		R D 726を切る。	162 172	黒瀬 中世	B 2
R D594	3 B 19 o	楕円形	140×120 119×101	31 N 3° E	人為堆積。地山ブロック・瓦が混 じる。			163 172	黒瀬 中世	B 1
R D595	3D14~ 3D16m	隅丸長方形	145×104 112×95	28 N 67° W	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック・ 瓦を含む。表面付近はグライ化。		R D529に切られる。	158 172	黒瀬 中世	B 2
R D606	3 B 21 f	不明	108×(91) 92×(84)	54 N 45° W	黒褐色土に褐色土ブロックを不規則 に含む人為堆積。		R D769を切る。調 査区外にのびる。	162 173	黒瀬 中世	A 1
R D607	1 C 25 w	楕円形	68×34 58×44	15 N 8° W	黒褐色土の堆積。人為堆積でよいと 思われる。	544・545鉄製品。 587~591寛水通管		164 166	黒瀬 近世	
R D608	1 C 24 w	長方形	71×62 66×54	11 N 25° W	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土が混 じる。			164 172	黒瀬 中世	
R D609	3 B 21 f	隅丸台形	118×110 96×86	38 N 3° W	黒褐色土に褐色土が混じる人為堆積。		R D650を切る。	164 173	黒瀬 中世	B 1
R D600	3-D 20 m	隅丸長方形	132×112 96×82	42 N 62° E	自然堆積。黒褐色土。	奈良の上御器堂跡		186 175	土坑 不明	
R D601	3-D 21 f	不整形	300×105 167×76	16 N 66° E	自然堆積。黒褐色土。		R B 629より新。	186 173	土坑 不明	
R D602	3-D 6 c	楕円形	150×120 130×80	26 N 44° E	自然堆積。黒褐色土。		西御器堂区。 R A 289を切る。	186 173	土坑 不明	
R D604	3-D 15 g	円形	150×150 125×125	30 不明	自然堆積。黒褐色土。		R C 229より新。	186 175	土坑 不明	
R D605	3-D 13 m	不整形	106×80 50×45	63 N 29° W	黒褐色土を主体としその中に黄褐色 土をごく微量含。自然堆積でよいと 思われる。			186 176	土坑 不明	
R D606	不明	不明	不明	不明	黒褐色土、褐色土からなる自然堆積。		平西園は消失した。	187 176	不明	
R D608	3-D 20 v	楕円形	186×137 132×110	30 N 78° W	自然堆積。黒褐色土。	77%土師器群。402土 師器群外。402土師器 群	R A 286より新。	187 176	土坑 近世	
R D609	1-C 20 v	隅丸長方形	140×88 110×50	27 N 68° W	自然堆積。黒褐色土。	奈良の土師器堂跡	西御器堂区。	— —	土坑 不明	
R D614	3-D 16 ~ 3-D 18 a	楕円形	130×128 120×90	86 N 78° W	自然堆積。黒褐色・暗褐色土。	603~410・416土師 器・須恵器	R D 811より新。	187 176	土坑 平安?	
R D615	3-D 4 s	不整形	112×90 55×60	14 不明	自然堆積。黒褐色土。		西御器堂区。	187 177	土坑 不明	
R D616	3-D 5 ~ 3-D 6 t	楕円形	125×110 100×53	20 N 45° E	自然堆積。黒褐色土。	322鉄釘の痕に鉄釘 2点	西御器堂区。	188 177	土坑 不明	
R D617	2-U 21 a	円形	136×125 104×102	14 不明	黒褐色土の堆積。自然堆積か。	平安の土師器堂片 (機土)。磁片	R A 281より新。	188 177	不明	
R D618	3-U 2 v	円形	110×96 75×69	30 不明	自然堆積。黒褐色土。	平安の土師器堂片	R A 219より新。	189 177	土坑 不明	

遺構名	位置	平面形	開口部径 (m)		長さ (cm)	用 上	出土遺物	備 考	調査 写真	種類 時期	分類
			直径	底径							
R D610	3-D11w	楕円長方形	183×107		24	黒褐色土を主体とし部分的に黒山ブ ロックを含む。自然堆積でよいと認 められる。	平安の土師器碎片		188		
			136×93		N-37'-E				178		
R D620	3-C19f	楕円形	125×75		14	自然堆積。黒褐色土。	平安の土師器杯	西側調査区。	180	土坑	
			65×35		N-19'-W				178	不明	
R D621	3-D9w 3-D9v	楕円形	122×70		40	自然堆積。黒褐色土。	土師器碎片	西側調査区。	180	土坑	
			85×35		N-80'-E				178	不明	
R D622	3-C13c	楕円長方形	216×190		29	注記なし。	平安の埴・甕・香焼 片	R D621より新しい。	190	土坑	
			195×170						178	近世	
R D623	3-D14f	円形	105×105		18	自然堆積。黒褐色土。		西側調査区。	180	土坑	
			95×95		不明				178	不明	
R D624	3-D15a	楕円形	100×105		20	自然堆積。黒褐色土。	平安の土師器碎片	西側調査区。	180	土坑	
			70×50		N-77'-E				179	不明	
R D625	3-D15v	不整形	105×105		22	自然堆積。黒褐色土・黒褐色土。	平安の土師器・埴 器碎片	西側調査区。	180	土坑	
			90×80		不明				179	不明	
R D626	3-D13w	不整形円形	112×88		15	黒褐色土を主体とする自然堆積。	平安の埴器器身片		180	土坑	
			84×72		N-70'-W				179		
R D627	3-C13a 3-C14a	円形	190×190		18	自然堆積。黒褐色土。		R D613より新。	190	土坑	
			178×176		不明				179	18C~	
R D628	3-C12b	楕円形	125×100		10	自然堆積。黒褐色土。		R Z619より新。	180	土坑	
			100×92		N-79'-E				180	不明	
R D629	3-D12w	楕円長方形	105×63		34	自然堆積。黒褐色土。		R A291より新。	191	土坑	
			83×48		N-9'-E				180	19C以降	
R D630	3-D18v	不整形	170×207		30	自然堆積。黒褐色土。	411・412土師器杯・ 甕。他に赤土。埴器 器身片	西側調査区。	99	土坑	
			135×70		不明				180	平安?	
R D631	3-D16v	円形	80×86		26	自然堆積。黒褐色土。T-o-a含む。	413土師器。他に 埴器器身片	西側調査区。	191	土坑	
			50×50		不明				180	平安	
R D632	3-D17v	円形	80×80		90	黒褐色土に粘土・灰粒混入。人為 堆積か。	414埴器杯。平安 の土師器。埴器 器身片	西側調査区。	191	土坑	
			54×54		不明				180	平安	
R D633	3-D20v	円形	95×78		8	明褐色土を含む黒褐色土。自然堆 積か。		R G25より古。	191	土坑	
			68×71		不明				181		
			309×247		29	注記なし。		R D279より新。R D622・641より古。	191	土坑	
R D634	3-13b	楕円長方形	273×190			注記なし。			181	近世	
R D635	3-C15d	円形	117×110		44	黒褐色土の中に明褐色土を含む。 瓦面などに粘土混入される。	550燻ぎ。平安の土 師器。埴器器身 片		191	土坑	
			81×74		不明				181	近世	
R D636	3-D22y	円形	93×92		断面なし。 不明	注記なし。	平安の土師器杯・埴 器器身片		192	土坑	
			80×80		不明				181		
R D637	不明	不明	不明		17	黒褐色土を主体とし。並から埴面には 明褐色土を少量含む。自然 堆積。	奈良の土師器杯・甕 片	平面的跡点。	192	土坑	
			不明		不明				不明		
R D638	3-D21t	楕円長方形	125×112		10	自然堆積。黒褐色土。T-o-a含む。		西側調査区。	192	土坑	
			105×110		N-61'-W				181	古代?	
R D639	3-D14f	円形	115×94		7	黒褐色土の厚積。自然堆積か。			192	土坑	
			87×76		不明				182		
R D641	3-C12c	楕円形	160×75		28	自然堆積。黒褐色土。	415埴器器身片。平安 の土師器杯	R D624より新しい。	190	土坑	
			150×35		N-80'-W				182		
R D642	3-D19f	楕円形	147×73		14	自然堆積。黒褐色土。	417土師器器身片。平 安の土師器。埴 器器身片	西側調査区。	192	土坑	
			115×60		N-70'-W				182	平安?	
R D646	3-C16b	楕円長方形	240×220		20	黒褐色土に黒色砂質土と小礫含む。 自然堆積か。	大塚区高倉町塚原 陶器窯。418埴器 器身片。土師器 器身片	R A282より新。	192	土坑	
			204×180		N-66'-E				182	近世	
R D647	3-D20p	楕円形	215×190		20	自然堆積。黒褐色土を主にし。粘土 層には明褐色土がごく微量混入 する。	419埴器器身片。土 師器杯・甕	西側調査区。	193	土坑	
			183×130		N-0'-E				192	平安	
R D648	3-C16c	楕円長方形	275×216		30	自然堆積。黒褐色土。		R Z619より新。	193	土坑	
			215×175		N-4'-W				180	不明	

遺構名	位置	平面形	開口部 (cm) 深さ (cm)		差 上	出土遺物	備 考	図版 写真	種類 時期	分類
			北端部 (cm)	長軸方向						
R D649	3 C16a 3 C17a	不整形	400×310	90	自然堆積。層土上に黒褐色土・下層には黄褐色砂質土が堆積。	近世・近代の陶磁器 700・714・725・736・743・780・782・800・820。平安の上層部には、漆・漆器、紙器類発見。	西陽館倉庫。	180	土庫	
			500×250	不明				183	近代	
R D650	3D34 3D34m	隅丸長方形	137×115	56	人為堆積。層土上には褐色土・黄砂が混じる。下位には暗褐色砂質土に黒褐色土ブロックが混じる。		R D509に併せられ、R D461を穿る。	161	基礎	B 1
			137×100	N 3°・W				183	中世	
R D651	3 B24	隅丸長方形	138×(105)	18	人為堆積。黒褐色土・褐色土・暗褐色土からなる。		R D650に併せられる。	164	基礎	A 1
			97×(81)	N 25°・W				183	中世	
R D652	3 B17	隅丸長方形	86×74	16	人為堆積。黒色土に灰黄褐色土が混じる。		R D653を穿る。	166	基礎	A 2
			72×62	N 23°・W				181	中世	
R D653	3 B17	隅丸長方形	82×65	34	人為堆積。黒色土に灰黄褐色土・黄砂が混じる。層土下層は黒褐色土。		R D652に併せられる。	166	基礎	A 2
			67×54	N 48°・W				181	中世	
R D654	3 B17m	隅丸長方形	(57)×49	52	人為堆積。黒色土に灰黄褐色土・黄砂が混じる。	745円筒	R D653に併せられる。	160	不明	C 2
			(49)×24	N 43°・W				181	近世	
R D655	3 H17m	不整形	255×129	24	黒色土に灰・黄褐色土を含む人為堆積。		R D654・656・723を穿る。	165	基礎	C 2
			232×105	N 3°・E				181	中世	
R D656	3B17m 3H17m	隅方形	(82)×90	5	黒褐色土に灰黄褐色土ブロックを含む人為堆積。		R D653に併せられる。	165	基礎	B 2
			(80)×75	N 48°・W				183	中世	
R D657	3R22m 3H23m	隅丸長方形	220×101	29	黒褐色土に褐色土が不規則に混じる人為堆積。		R C191を穿る。	164	基礎	B 2
			198×79	N 0°				183	中世	
R D658	3R20m 3H20m	長方形	178×104	47	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・黄砂を含む。		R D659に併せられる。	166	基礎	B 2
			144×78	N 30°・E				183	中世	
R D659	3 B20k	隅丸長方形	238×94	23	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・黄砂を含む。		R D658・660を穿る。	166	基礎	B 3
			220×78	N 41°・W				185	中世	
R D660	3B20m 3B20k	長方形	(223)×107	32	黒褐色土中に褐色土・黄砂を含む人為堆積。		R A282・R D460に併せられる。	166	基礎	A 2
			(207)×91	N 29°・W				186	中世	
R D661	3 B20q	隅方形	99×81	19	黒褐色土に褐色土が不規則に混じる人為堆積。			164	基礎	A 2
			83×65	N 72°・E				196	中世	
R D662	3 B23q	隅丸長方形	115×82	22	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック少量含む。		R D424に併せられる。	165	基礎	A 2
			96×81	N 4°・W				186	中世	
R D663	3 B19r	隅丸長方形	104×(86)	23	黒山ブロックを含む黒褐色土。人為堆積。		R D561に併せられる。	159	基礎	H 2
			(90)×()	N 40°・W				186	中世	
R D664	3 B23r	隅丸長方形	134×97	28	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・黄砂を含む。		R D428に併せられる。	145	基礎	H 2
			135×87	N 10°・W				187	中世	
R D665	3 B25p	隅方形	162×116	45	黒褐色土に褐色土が不規則に混じる人為堆積。			161	基礎	H 2
			126×86	N 46°・W				187	中世	
R D666	3 B25q	隅丸長方形	152×108	45	黒褐色土に褐色土ブロックが不規則に混じる人為堆積。			165	基礎	H 2
			123×68	N 3°・W				187	中世	
			111×99	21				166	基礎	
R D667	3 B16p	隅丸長方形	100×94	18	黒山ブロックを含む黒褐色土。人為堆積。			187	中世	H 1
R D668	3 B24q	隅丸長方形	88×75	27	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・黄砂を含む。		R D669に併せられる。	163	基礎	A 1
			68×59	N 30°・W				188	中世	
R D669	3 B14r	長方形	125×85	59	人為堆積。黒褐色土と褐色土の混合土。		R D668を穿る。	163	基礎	B 2
			95×77	N 1°・W				188	中世	
R D670	3H16a 3D16a	隅丸長方形	239×103	37	人為堆積。黒褐色土に灰黄褐色土ブロックを不規則に含む。黒山砂混入はクワイ化。		R D464を併り、R D495に併せられる。	144	基礎	B 3
			201×97	N 6°・E				188	中世	
R D671	3 D21a	隅丸長方形	162×90	32	黒山土に褐色土ブロック・黄砂を含む人為堆積。		R D672に併せられ、R D673を穿る。	166	基礎	B 3
			(32)×67	N 4°・E				188	中世	
R D672	3 D22a	長方形	222×95	18	人為堆積。黒褐色土中に褐色土・黄砂混入。		R D671・672を穿る。	166	基礎	B 3
			200×76	N 43°・E				189	中世	
R D673	3 H21r	隅丸長方形	(92)×110	10	黒褐色土に褐色土ブロック・黄砂を含む人為堆積。		R D671・672に併せられる。	166	基礎	H 2
			(86)×92	N 40°・W				188・189	中世	
R D674	3 B23r	不整形	138×83	8	黒褐色土に褐色土ブロック・黄砂を含む人為堆積。			167	基礎	B 2
			118×73	N 5°・E				189	中世	
R D675	3 B11k	不明	183×(83)	18	人為堆積。黒褐色土に灰黄褐色土ブロック含む。層土下層はクワイ化。		R D679・716を併り、R D715に併せられる。	167	基礎	
			152×(76)	N 64°・W				189	中世	

造標名	位置	平面形	開口部経 (cm)	開口幅 (cm)	埋土	出土遺物	備考	図版 写真	標記 時期	分類
R D676	401q~ 401r	隅丸長方形	122×96 194×84	20 N-80°-W	黒褐色土中に褐色土ブロックを多量に含む人為堆積。		R D496を穿る。	149 190	基層 中世	B 1
R D677	3 H24 q	隅丸長方形	110×(98) 87×(90)	23 N-1°-W	人為堆積。黒褐色土中に褐色土ブロック・炭粒が混じる。		R D678に穿られる。	167 190	基層 中世	A 2
R D678	3B23a~ 3B24a	隅丸長方形	143×113 123×94	26 N-10°-W	黒褐色土中に褐色土ブロックを含む人為堆積。		R D677を穿る。	167 190	基層 中世	B 2
R D679	3 H11 k	小竪形	(95)×63 (80)×42	21 N-61°-E	人為堆積。黒褐色土中に褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D495・7351に穿られる。	167 190	中世 中世	B 2
R D680	3B24r~ 3B25a	隅丸長方形	250×198 228×173	31 N-0°	人為堆積。黒褐色土・褐色土・炭粒などからなる。			167 192	基層 小形	C 2
R D681	3 H19 k	隅丸長方形	250×198 197×96	31 N-16°-E	人為堆積。黒褐色土と褐色土の混在。層上下層には褐色土ブロックを含む。		R D682・683・685・686・687を穿る。	168 191	基層 中世	B 2
R D682	3 H19 k	隅丸長方形	(110)×96 (105)×86	7 N-76°-W	黒褐色土中に褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D681・684に穿られ、R D683を穿る。	168 191	基層 中世	B 2
R D683	3 D19 k	不明	測定不能		人為堆積でよいと思われる。		R D681・682に穿られる。	168 191	基層 中世	B 2
R D684	3 B18 k	隅丸長方形	154×101 143×90	37 N-13°-E	黒褐色土中に褐色・黒灰色土ブロックを含む人為堆積。		R D682・687を穿る。R D688に穿られる。	168 191・192	基層 中世	B 2
R D685	3 B18 k	不明	(81)×68 (42)×38	無 N-9°-W	黒褐色土中に褐色・黒灰色土ブロックを含む人為堆積。		R D681に穿られ、R D686・687に穿れる。	168 191・192	基層 中世	B 2
R D686	3H18a~ 3H18f	不明	(48)×25 (20)×17	無 N-16°-E	黒褐色土中に褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D681・685に穿られる。	168 191	基層 中世	B 2
R D687	3 B18 k	不明	114×(35) 92×(35)	無 N-15°-E	人為堆積。黒褐色土中に褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D684・685に穿られる。	168 192	基層 中世	B 2
R D688	3 B18 j	不明	(80)×(100) (70)×85	34 N-79°-W	黒褐色土、褐色土、炭粒等からなる人為堆積。		R A232に穿られ、R D684を穿る。	168 192	基層 中世	B 2
R D689	3H12a~ 3H13a	隅丸長方形	99×84 88×67	27 N-64°-W	人為堆積。黒褐色土中に灰い黄褐色土ブロックと炭粒を含む。		R D722を穿る。	140 193	基層 中世	A 1
R D690	3 H10 o	不明	104×(71) 94×(62)	18 N-15°-E			R D540に穿られる。	158 183	基層 中世	B 2
R D691	3B20r~ 3B21f	隅丸長方形	154×110 136×86	44 N-81°-E	黒褐色土中に褐色土・炭粒を不規則に含む人為堆積。			168 193	基層 中世	B 2
R D692	欠番							183	欠番	
R D693	3 H25 i	隅丸長方形	119×83 102×79	49 N-76°-W	黒褐色土中に褐色土・炭粒を不規則に含む人為堆積。		R D694を穿る。	168 192	基層 中世	A 2
R D694	4 B11	隅丸長方形	(92)×102 (88)×83	28 N-11°-E	人為堆積。黒褐色土中に褐色土が混じる。		R D693に穿られる。	168 193	基層 中世	B 2
R D695	4 B1 m	隅丸長方形	84×99 64×54	30 N-68°-E	黒褐色土中に褐色土を不規則に含む人為堆積。			169 194	基層 中世	A 2
R D696	4 B1 n	隅丸長方形	100×71 83×62	46 N-71°-W	人為堆積。黒褐色土中に褐色土ブロックを含む。			169 194	基層 中世	A 2
R D697	4 B 2 n	隅丸長方形	100×71 151×79	46 N-73°-W	人為堆積。黒褐色土(粘土質上とのところもある)と褐色土が不規則に混じる。	黒砂		169 194	基層 中世	B 2
R D698	3B24m~ 3B24n	隅丸長方形	115×92 105×80	40 N-11°-E	黒褐色土中に褐色土ブロックを含む人為堆積。			169 194	基層 中世	B 2
R D699	4 B1 p	不明	134×106 100×85	45 N-81°-W	黒褐色土中に褐色土ブロックを含む人為堆積。		R G191を切り、R G200に穿られる。	169 195	基層 中世	B 2
R D700	1 B22 j	隅丸長方形	170×84 140×60	20 N-9°-W	人為堆積。地山ブロックを多量に含む。		N A26より新。	169 205	基層 中世	B 2
R D701	1 C22 w	円形	82×70 72×53	15 N-77°-W	人為堆積。地山ブロックを多量に含む。		R G043との新関係不明。	169 205	基層 中世近	B 2
R D702	2 D 8 a	隅丸長方形	96×164 75×(80)	46 N-74°-E	人為堆積。地山ブロックや小礫が多量に混じる。		R G045より新。調査区外にのびる。	169 195	基層 中世	B 2
R D703	3 C21 s	円形	158×137 125×123	16 不明	自然・人為堆積の区別不明。		R A247より新。	170 196	土層 不明	B 2
R D704	1 H22 x	隅丸長方形	(52)×74 (70)×70	18 N-80°-E	不明。		調査区外にのびる。	170 196	土層 不明	B 2

通称名	位 置	平面形	開口形状 (m) 深さ (cm)		備 考	出土遺物	備 考	図取 写真	資料 時期	分類
			底径径 (m)	長軸方向						
R D705	1 C20h	不整形	53×43	24	人為堆積。地山ブロックが多量に混入。					
			(48)×38	N-25°-W						
			983×50	22						
R D706	4 B12g	楕円形	41×16	N-46°-W	黒褐色土に灰青褐色土が混入する人為堆積。		R C043との新山関係不明。	170	黒曜	
			59×28	17				196	中世	
R D707	2 D9 k	楕丸方形	85×69	不明	人為堆積。地山ブロックを多量に含む。			170	黒曜	A1
			88×64	15				197	中世	
R D708	2 D14m	楕丸長方形	74×50	N-25°-W	人為堆積か。黒褐色土の中に地山ブロックが多数混入。		R D709より新。	170	黒曜	A2
			91×80	24				197	中世	
R D709	2 D14m	楕丸長方形	77×66	N-17°-W	人為堆積か。黒褐色土の中に地山ブロックが多数混入。		R D706より古。	170	黒曜	A1
			86×53	11				197	中世	
R D710	4 B2 a	楕円形	80×45	N-9°-E	黒褐色土中に炭粒が混入。人為堆積でよいと思われる。			170	黒曜	
			91×73	7				197	中世	
R D711	4B1a~ 4B1b	楕円形	84×65	N-11°-E	暗褐色土と褐色土の混合土。人為堆積。			170	黒曜	A2
			98×49	58				197	中世	
R D712	3 B25 a	楕円形	92×31	N-10°-E	人為堆積。黒褐色土に粘土・炭粒・褐色土ブロックが混入。	364元森遺跡、遺骨	R G198を切る。	170	火葬遺	A2
			56×53	66				198	中世?	
R D713	3 B21 t	円形	33×25	不明	人為堆積。黒褐色土中に多量の炭粒。	焼骨	R G198を切る。	171	火葬遺	A1
			(90)×80	30				198	中世?	
R D714	3 B11 k	不整形	81×60	N-10°-W	褐色土に褐色土ブロックを含む人為堆積。		R D715に切られる。 R D716と重複。新山不明。	167	黒曜	
			136×93	?				197	黒曜	
R D715	3 B11 k	楕丸長方形	130×74	N-25°-W	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを含む。		R D675-679-714-716を切る。	167	黒曜	B2
			(101)×98	30				198	中世?	
R D716	3 B11 k	楕丸長方形	91×89	N-20°-W	褐色土に褐色土ブロックを含む人為堆積。		R D675-715に切られる。 R D714と重複。新山不明。	167	黒曜	
			104×95	14				198	中世	
R D717	3 B19 m	楕丸方形	86×84	N-17°-E	人為堆積。黒褐色土主体に褐色土ブロックや灰青褐色土が混入される。			171	黒曜	A1
			98×74	29				199	中世	
R D718	3B14a~ 3B14b	楕丸長方形	91×58	N-26°-W	黒褐色土に灰青褐色土が不規則に混入する人為堆積。			171	黒曜	A2
			(170)×100	21				199	中世	
R D719	3 B13 p	楕丸長方形	(143)×72	N-88°-W	人為堆積。黒褐色土と灰青褐色土との混合土。		R D3599に切られる。 R D720と重複。新山不明。	137	黒曜	
			(70)×96	32				199	中世	
R D720	3 B13 p	不明	(70)×79	N-27°-W	人為堆積。黒褐色土と灰青褐色土との混合土。		R D447に切られる。 R D719と重複。新山不明。	137	黒曜	
			107×82	8				199	中世	
R D721	3 B23 j	楕円形	89×76	N-25°-W	不明。		R D466に切られる。 R D725を切る。	150	黒曜	A2
			97×136	19				200	中世	
R D722	3 B12 a	不明	90×136	N-68°-W	不明。		R D384-680に切られる。	140	黒曜	
			119×96	23				200	中世	
R D723	3 B18 m	楕丸長方形	98×83	N-8°-E	黒褐色土に灰青褐色土が不規則に混入する人為堆積。		R D653に切られる。	171	黒曜	B1
			280×130	46				200	中世	
R D724	3 B22 A	不整形	192×102	N-64°-W	人為堆積。褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D761 - R G191を切る。	172	黒曜	C2
			82×75	11				200	中世	
R D725	3B18a~ 3B18b	楕丸長方形	67×60	N-22°-W	人為堆積。灰青褐色土ブロック・炭粒を含む褐色土。		R D726を切る。	171	黒曜	A1
			189×105	43				200	中世	
R D726	3 B19 a	長方形	179×98	N-11°-E	人為堆積。埋土上には褐色土に灰青褐色土が若干土質土を含み、埋土下には灰褐色土質土が主体。		R D380 - 725に切られる。	171	黒曜	B2
			304×111	30				201	中世	
R D727	3 B19 f	楕丸長方形	173×96	N-7°-E	褐色土に灰青褐色土・褐色土ブロックと炭粒を含む人為堆積。			171	黒曜	B2
			127×(90)	42				201	中世	
R D728	3 B25 a	楕丸長方形	164×85	N-67°-W	褐色土ブロックを不規則に含む黒褐色土。		R G1931に切られる。	172	黒曜	
			173×116	20				201	中世	
R D729	3B17c~ 3B18c	楕丸長方形	166×106	N-7.5°-E	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを多量に含む。		R D398に切られる。 R D730を切る。	142	黒曜	H2
			(206)×124	27				201	中世	
R D730	3B17g~ 3B18g	楕丸長方形	(196)×98	N-25°-W	人為堆積。黒褐色土に褐色土・灰青褐色土ブロックを含む。		R D397 - 739に切られる。	142	黒曜	B2
			99×83	36				202	中世	
R D731	3 B28	楕丸長方形	83×63	N-78°-W	黒褐色土、褐色土、暗褐色土に粘土・炭粒が混入する人為堆積。		R D460に切られる。	150	黒曜	A1
			138×100	62				202	中世	
R D732	3 B29 b	楕丸長方形	137×77	N-60°-W	人為堆積。黒褐色土・褐色土・灰青褐色土等で構成される。		R D733に切られる。	172	黒曜	B1
								202	中世	

道標名	位置	平面形	開口幅(m) 底辺長(m)	深さ(m) 長軸方向	塚上	出土遺物	備考	図版 写真	種類 時期	分類
R D733	3 B 25 1	隅丸長方形	79×90 77×90	35 N-45°-E	褐色土ブロックを不規則に含む黒褐色土。人為堆積。		R D732・733を切ら。	172 202	高橋 中世	A 2
R D734	3 B 25 1	隅丸長方形	94×55 83×27	22 N-40°-W	茶褐色土に黒山ブロックを不規則に含む人為堆積。		R D733を切る。	172 203	高橋 中世	A 2
R D735	3B23a- 3B24a	隅丸長方形	130×114 305×93	42 N-73°-W	人為堆積。黒褐色土と暗褐色土との混入。		R D458・721に切られる。	180 203	高橋 中世	B 2
R D736	3B23b- 3B25a	隅丸長方形	240×98 223×80	33 N-40°-W	人為堆積。黒褐色土と灰黄褐色土との混入。		R D459・460に切られる。調査区外にのびる。	180 203	高橋 中世	B 3
R D737	4 B 3 r	不整形	208×214 143×90	48 N-45°-E	自然堆積か。黒褐色土下層に褐色土や灰土・礫などが見られる。			173 203	土坑 不明	
R D738	4B4a- 4B4c	浜側円形	95×62 84×33	14 N-40°-E	人為堆積か。黒褐色土中に竹や炭土を含む。	505・506元遺物 遺骨		173 204	穴葬墓 中世	A 2
R D739	3 B 17 b	長方形?	(110×42) (98×37)	7 N-25°-E	空断面。		R G 198と重複。	173 204	土坑 中世	
R D740	4 D 5 g	隅丸長方形	112×71 100×53	14 N-0°-W	自然・人為の区別不明。			173 204	土坑 不明	
R D741	4 C 9 v	隅丸長方形	564×214 555×204	7 N-81°-W	黒褐色土の厚層。		遺構ではないかもし れない。	174 204	不明 不明	
R D742	4 C 9 x	隅丸長方形	302×192 107×97	26 N-33°-W	自然堆積。黒褐色土・暗褐色土等の流れ込み。	430上層部小		173 206	土坑 不明	
R D743	4 D 2 b	不整形	125×100 99×72	31 N-76°-E	人為堆積と思われる。黒山ブロックを含む黒褐色土。			174 203	土坑 不明	
R D744	4 C 9 x	小準長方形	133×95 125×83	19 N-45°-E	人為堆積か。黒山ブロック・炭土を含む。	744後遺物群 土師器高杯		174 205	土坑 土器	
R D745	4 C 3 y	小準円形	190×130 173×91	17 N-70°-E	自然堆積か。黒褐色土・褐色土等で構成。			174 205	土坑 不明	
R D746	4 C 7 u	隅丸長方形	93×78 74×55	14 N-5°-E	不明。			174 206	土坑 不明	
R D747	4 C 4 q	隅丸長方形	(174)×117 (168)×110	6 E-1°-S	不明。			174 206	土坑 不明	
R D748	4 C 8 t	隅丸長方形	89×70 79×60	9 N-2°-E	不明。			175 206	土坑 不明	
R D749	4 C 8 t	隅丸長方形	83×68 67×59	10 N-46°-W	不明。			175 206	土坑 不明	
R D750	4 B 21 q	不整形	105×94 82×66	18 N-2°-W	人為堆積。オリーブ灰色粘土質土ブロックを含む。			175 207	高橋 中世	A 1
R D751	3 B 18 j	長方形?	236×106 230×98	18 N-7°-E	人為堆積。黒色土に白く黄褐色土ブロック多量を含む。		R E 038を切る。調査区外にのびる。	143 207	高橋 中世	B 2
R D752	3 B 20 a	不明	(87×36) (70×25)	46 不明	空断面。		R G 198と重複。	175 204	中世 土坑	
R D753	3 B 25 1	隅丸長方形	90×87 80×72	20 N-51°-W	人為堆積。褐色土ブロックを少量含む黒褐色土。		R D733・734に切られる。	172 207	高橋 中世	A 1
R D754	2-C-21 q	楕円形	111×102 88×90	38 不明	自然堆積。黒褐色土。		西側調査区。	— 207	— 不明	
R D759	3 B 24 k	隅丸長方形	90×79 79×65	53 N-9°-E	埋土上段は黒褐色土に褐色土ブロックが見える。埋土下層は黒褐色土。人為堆積。			175 208	高橋 中世	A 1
R D760	3B21- 3B22	不明	(280×43) (265×40)	48 N-9°-E	人為堆積。黒褐色土・灰色土に暗褐色土ブロックや炭灰を含む。		R D458・726に切られ。R G 151を切る。調査区外にのびる。	175 208	高橋 中世	
R D761	3B23b- 3B25a	不整形	(95)×54 (80)×66	14 N-19°-E	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを含む。		R D724に切られる。	172 208	高橋 中世	
R D762	4 D 7 a	不整形	50×20 44×42	12 N-40°-W	人為堆積でよいと思われる。黒褐色土に褐色土ブロックを含む。			175 208	土坑 中世	
R D763	4 B 11 q	円形	74×68 63×52	20 N-37°-W	人為堆積でよいと思われる。黒褐色土に褐色土・焼土・炭灰を含む。			176 209	土坑 中世	
R D764	4 B 6 g	隅丸長方形	168×150 149×134	6 N-1°-E	不明。			176 209	土坑 中世	
R D765	4 B 7 1	不整形	107×82 92×72	11 N-72°-W	人為堆積でよいと思われる。黒褐色土に褐色土・焼土・炭灰を含む。			176 209	土坑 中世	

遺構名	位 置	平面形	開口形跡 (cm)		深さ (cm)	埋 上	出土遺物	備 考	階級 写真	建物 時期	分類
			底辺径	長軸方向							
R D766	4 B 9 k	円形	146×140	34	24	人為堆積小。黒褐色土中に褐色土ブロック・焼土・炭粒を含む。		R G 225を切る。	176	十坑	
			92×70	N 40° - W							
R D767	4 B 10 l	不整形	180×167	36	36	自然堆積小。黒褐色土を主体とし、これに褐色土・焼土・炭粒・麻などが入る。		R G 225を切る。	176	十坑	
			94×90	N 23° - E							
R D768	4B15a～ 4B15b	楕円形	78×66	28	28	黒褐色土に灰褐色土を含む人為堆積。			177	七坑	
			49×30	N 27° - E							
R D769	4 B 9 l	楕丸長方形	140×81	18	18	灰褐色土中に褐色土・焼土・炭粒を含む。人為堆積。		R G 226を切る。	177	黒坑	R 2
			130×67	N 22° - E							
R D770	1 E 24m	楕丸方形	89×75	16	16	自然堆積小。			177	十坑	
			75×65	N 35° - E							
R D771	1 E 22m	楕丸方形	91×75	17	17	自然堆積と推される。			177	十坑	
			81×63	N 35° - E							
R D772	4 B 3 c	楕丸長方形	151×91	43	43	人為堆積でよいと思われる。			177	黒坑	R 2
			117×53	N 6° - W							
R D773	2 F 4 b	小楕円四角	214×76	24	24	黒褐色土、褐色土に焼土散見する。	422七郎塚	コマの押通し痕小。	177	押通し	
			170×54	N 36° - W							
R D774	2 D 13 c	長方形	144×94	28	28	人為堆積小。黒褐色土に焼土・炭粒・焼山ブロックが混じる。			178	十坑	
			127×74	N 36° - W							
R D775	3 D 25 j	不整形円形	132×101	11	11	自然・人為の区別は不明。		R E 049より古。	178	十坑	
			96×63	N 26° - E							
R D776	3 D 22 i	不整形円形	104×94	6	6	自然・人為の区別は不明。自然堆積を含む。		R G 229より古。	178	十坑	
			80×59	N 43° - E							
R D777	3 D 23 j	楕丸方形	163×(134)	16	16	自然堆積と推される。自然堆積を含む。		R G 229より古。	178	十坑	
			117×(110)	N 1° - W							
R D778	4 E 4 d	不整形円形	99×88	33	33	人為堆積小。黒褐色土に焼土・焼山ブロックが混じる。		R D 790より新。	179	十坑	
			58×49	N 7° - W							
R D779	4 E 2 d	楕丸方形	63×50	10	10	自然堆積か人為堆積か不明。		R D 790より新。	179	十坑	
			48×45	N 27° - W							
R D780	4B5a～ 4B4b	楕丸方形	86×66	28	28	黒褐色土に褐色土が混じる人為堆積。		R A 241に切られ、 R G 191を切る。	178	黒坑	A 1
			54×50	N 41° - E							
R D781	4B11～ 4B12	長楕円形	140×89	20	20	人為堆積小。焼山ブロックを不規則に含む。			178	十坑	
			126×35	N 20° - E							
R D782	4 B 8 l	楕丸長方形	83×68	35	35	人為堆積。焼山ブロックを含む黒褐色土・焼土・炭粒を含むからなる。			179	黒坑	A 2
			74×58	N 23° - W							
R D783	4 D 16m	円形	77×76	12	12	近い黄褐色土を含む黒褐色土。人為堆積。			179	黒坑	A 1
			68×58	N 31° - E							
R D784	4B15a～ 4D16a	不整形	230×133	32	32	自然・人為堆積の区別は不明。黒褐色土に焼土・炭粒・中小礫を含む。			179	土坑	
			208×112	N 46° - E							
R D785	4 D 23 l	円形	74×74	8	8	自然・人為堆積の区別は不明。黒褐色土に炭粒や褐色土を含む。			179	土坑	
			59×56	N 35° - W							
R D786	4 B 21 i	楕円形	62×45	7	7	人為堆積でよいと思われる。グライ化している。			180	土坑	
			47×32	N 16° - W							
R D787	4 B 12 s	円形	82×82	28	28	自然堆積小。黒褐色土に炭粒や礫を含む。焼山に褐色土ブロック。			180	土坑	
			58×58	N 7° - W							
R D788	4B7c～ 4B8a	不整形	134×80	16	16	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを含む。			180	土坑	
			128×70	N 40° - W							
R D789	4B 75d～ 4D13a	不整形	407×(400)	不明	不明	自然堆積。黒褐色土を主体とし、その中に炭粒・中小礫を含む。黒褐色土・灰色砂質土層の混入込み。	457青野原、487下草、486中草、508～520本塚区、567・568群行跡調査後		181・182	土坑 (A)	
			300×304								
R D790	4 E 3 d	長方形	243×151	51	51	人為堆積。黒褐色土中に焼土・炭・焼山ブロックが混じる。		R D 778・779より古い。	179	黒坑	C 2
			224×130	N 77° - E							
R D791	4 E 3 e	楕丸長方形	105×92	31	31	人為堆積小。黒褐色土・褐色土・焼土・焼山ブロックからなる。			180	土坑	
			81×61	N 76° - W							
R D792	4 E 4 f	不整形四角	105×103	23	23	人為堆積でよいと思われる。焼土・炭粒が混じる。			180	土坑	
			86×76	N 29° - W							
R D793	4 B 9 m	不明	92×(90)	21	21	人為堆積。黒褐色土中に焼土・炭・焼山ブロックが混じる。		R Z 041に切られる。	180	土坑	
			52×(50)	N 15° - W							
R D794	4 D 14 u	楕丸長方形	161×121	30	30	自然堆積でよいと思われる。焼土・炭粒も混れ込んでいる。		同跡より新。	180	十坑	
			130×100	N 85° - E							

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		深さ (cm)	傾斜方向	土	出土遺物	備考	図版 写真	種類 時期	分類		
			開口部径 (cm)	深さ (cm)										
R D795	4 E16 c	隅丸長方形	216×109	33	N-30°-W	人為堆積。黒褐色土中に焼土・炭・地山ブロック散じる。				182	土坑	不明		
			150×86							217	欠番			
R D796	欠番									217	欠番			
R D797	4R12j~ 4R13j	隅丸長方形	171×55	8	N-2°-E	人為堆積か。黒褐色土中に地山ブロック・炭灰を含む。				182	土坑	中世		
			164×48							218	不明			
R D798	4R21a~ 4R21p	不整形	290×207	27	N-71°-W	人為堆積。灰色粘土質土ブロック・炭灰を含む黒化粘土質土。				183	土坑	中世		
			254×165							218	不明			
R D799	4 D15 a	不整形	96×78	16	N-9°-W	自然堆積か人為堆積不明。				183	土坑	不明		
			55×49							218	不明			
R D800	4 D18 p	不整形	255×144	35	N-5°-W	人為堆積と思われる。焼土・炭灰も捨てられている。			2基の土坑からなるのか。	183	土坑	不明		
			220×103							218	不明			
R D801	3 D25 q	隅丸長方形	148×113	21	N-61°-E	人為堆積と思われる。焼土・炭灰も捨てられている。			沢原より新しいと思われる。	183	土坑	不明		
			113×							219	不明			
R D806	3-D21 a	不整形	157×149	37	N-10°-E	黒褐色土中に地山ブロックがごく微量散じる。自然・人為の区別不明。			423赤焼灰・424黒色器灰。他に土器器灰・炭	183	土坑	不明		
			121×100							219	不明			
R D809	3-C10 c	楕円形	180×85	12	N-8°-W	自然堆積。黒褐色土。			425赤焼灰	RA203より新。	184	土坑		
R D810	欠番										219	平安?		
R D811	3-D81	円形	70×63	24	N-3°-W	自然堆積。黒褐色土。			R D814より新。				土坑	
			60×50							219	不明			
R D812	3-D11 w	楕円形	110×80	26	N-46°-W	自然堆積。黒褐色土。			西側調査区。				184	土坑
			75×56							220	不明			
R D813	3C15a~ 3C14a	隅丸長方形	205×150	33	N-70°-E	自然堆積。黒褐色土。			R1627より古くR D814より新。	190	燻灰坑	不明		
			220×163							220	18C-			
R D814	3-D14 y	隅丸長方形	240×100	37	N-20°-W	黒褐色土中に地山ブロックが散じる。人為堆積。		76・779透き磁器碗。釘、鉄片、平安の土器器灰・器灰片	R D814より古。	190	燻灰坑	不明		
			220×131							18C域				
R D815	14I16w~ 14I17w	楕円形	225×152	25	N-19°-E	自然堆積。黒褐色土中に炭灰を含む。			西側調査区。				184	土坑
			177×87							220	不明			
R D816	3C21e~ 3C22e	隅丸長方形	238×185	45	N-12°-W	自然堆積。残土層の黒褐色土中にT o - a 含む。			平安の土器器灰・炭・赤焼灰。須磨器灰・器灰片				184	土坑
			240×160							220	不明			
R D817	3-C21 p	不整形	272×235	49	不明	自然堆積。黒褐色土主体で大小の礫が入る。				R D816より古。	184	土坑		
R D818	3-C17 a	楕円形	105×80	44	N-0°	自然堆積。黒褐色土。			R G317より古い。				183	土坑
			80×63							222	不明			
R D821	2-B10 f	不整形	322×216	56	不明	自然堆積小。黒褐色土・黒褐色土・灰褐色土等の塊れ込み。焼土・炭灰もごく微量含む。			R A211より新。				183	土坑
			225×220							221	不明			
R D824	1-C18 w	隅丸長方形	125×53	42	N-57°-W	自然堆積。残土上に黒褐色土。下に暗褐色土。			西側調査区。				183	土坑
			90×43							221	不明			

6 焼土・炉跡

今回の23次調査では27基の焼土及び炉跡が確認されている。これらの大半は遺跡の南端部にあたる4Bグリップ及びその周辺に集中している。この中で中世に属すると思われる屋外のカマド状施設の下部と見られる遺構が17基検出されている他、現地性焼土が2基、現地性が否か判然としない焼土の広がりを8基確認した。各遺構の諸特徴は一覧表を作成しそれにまとめた。

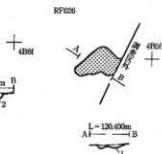
焼土・炉跡観察表

遺構名	位置、検出面	焼土の規模と厚さ (cm)	土	出土遺物	備考 (現地性か、重層、時期)	図版	写真
R F 023	4 B 6 e 区IV層	70×50 10	暗赤褐色焼土の広がり。	なし	現地性焼土。	194	223
R F 025	4 B 3 i 区IV層	190×68 13	北東壁面が傾けておりその中には焼土と炭粒が混在する。反対に南西部には炭粒が多く混じる	なし	北東側が燃焼部で南西部が吹き口となるカマド状の施設と思われる。中世。	195	223
R F 026	4 B 5 e 区IV層	53×39 4	黒褐色上に焼上ブロックを少量含む。	なし	現地性が否か判然としない。	194	223
R F 027	4 B 4 c 区IV層	41×27 12	黒褐色上に焼上ブロックを少量含む。	なし	現地性が否か判然としない。	194	224
R F 028	4 C 2 h 区IV層	130×78 14	南半壁際に焼土が見られ、掘り込みの中には上部構造の南露上及び焼土ブロックが堆積。	なし	南側が燃焼部で北側が吹き口となるカマド状の施設と思われる。中世。	195	224
R F 030	3 C 25 m 区IV層	150×96 23	狭間に焼土、掘り込みの中には炭粒及び焼土ブロックが堆積。	なし	北西部の細長い掘り出しが煙出し、中央が燃焼部、東側の掘り出しが吹き口となるようなカマド状の施設になると思われる。中世。	195	224
R F 031	3 C 22 f 区IV層	210×86 18	北西部が細長く掘り出す不整形な掘り込みの中に黒褐色土や褐色土などと共に底面付近に焼土が見られた。	なし	R F 030と同様のカマド状の施設になると思われる。中世。	195	225
R F 032	3 C 23 b 区IV層	232×131 21	西壁が傾けており、掘り込み内には焼土・炭粒を多量に含む暗褐色土が堆積。	なし	R F 030と同様のカマド状の施設になると思われる。中世。	196	225
R F 033	4 B 6 i 区IV層	197×141 17	東半部の壁際・床面に沿って環状に焼土が見られる。反対に西半部には焼土・炭粒、地山ブロックが堆積。	なし	東中の円形を呈する燃焼部から南東へトンネル状に煙出しを延ばし、西側を吹き口としたカマド状の施設と思われる。中世。	196	225
R F 035	4 B 13 f 区IV層	170×77 14	北半の壁際・床面に沿って環状に焼土が見られ、その中の掘り込み底面には炭化物が堆積していた。	なし	北半を燃焼部、南半を吹き口とするカマド状の施設であろう。中世。	197	226
R F 036	4 B 16 g 区IV層	162×77 12	北半の壁際・床面に沿って環状に焼土が見られ、その中の掘り込みには炭・焼土粒が堆積していた。	なし	R F 035と同様に北半を燃焼部、南半を吹き口とするカマド状の施設であろう。中世。	197	226
R F 037	4 B 14 g 区IV層	157×70 21	西半部の壁際に沿って焼土が見られる。その中の掘り込みには炭粒が堆積。反対に東半部には焼土・炭粒が堆積。	なし	西半の燃焼部から東側に吹き口が設けられたカマド状の遺構と思われる。中世。	197	226
R F 038	4 D 13 c 区IV層	420×103 29	北側の壁近くと中央部東側の2ヶ所に焼土が形成されている。掘り込み内には黒褐色土を主体とし焼土・炭粒・地山ブロックが堆積。	なし	カマド状の遺構と思われる燃焼部と吹き口からなるようである。同じ機能を有する施設の重複のようにも見える。中世。	198	227
R F 039	4 B 18 g 区IV層	195×70 15	西半部に焼土が見られ、底面直上には炭化物が堆積する。東半部には黒褐色土の中に地山ブロック・炭粒等が堆積する。	なし	R F 039と同様に西半の燃焼部から東側に吹き口が設けられたカマド状の遺構と思われる。中世。	197	227

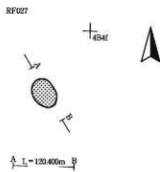
遺構名	位置、検出面	焼土の規模と厚さ (cm)	土	出土遺物	備考 (現地性か、重複、時期)	図版	写真
R F 040	4 B 16 j 区Ⅱ層	227×104 33	掘り込みのはば中央にドーム状に焼土が形成されているようである。その他には黒褐色土を主体とし炭粒・焼土・地山ブロック等で構成されている。	なし	カマド状の遺構と思われる燃焼部と焚き口からなるようである。西側が煙出しとなる。中世。	198	227
R F 041	4 B 16 i 区Ⅱ層	110×63 12	黒褐色土と焼土・炭粒の混合土。底面中央部が欠けている。	なし	現地性。	194	227
R F 042	4 B 13 i 区Ⅱ層	235×100 47	西半部の壁及び底面直上に焼土が見られ、底面と焼土の上には炭化物が堆積する。東半部には黒褐色土の中に炭粒等が堆積する。	なし	西半の燃焼部から東側に焚き口、南西側にはトンネルを掘って煙出しが設けられたカマド状の遺構と思われる。中世。	199	228
R F 043	4 B 15 k 区Ⅱ層	120×65 25	黒褐色土に焼土・炭粒・地山ブロック等が混入。	なし	異性と思われる。	194	228
R F 044	4 B 9 g 区Ⅱ層	47×43 7	黒褐色土・炭・焼土等で構成されている。	なし	現地性か否か判然としない。	194	228
R F 045	4 D 10 g 区Ⅱ層	48×45 7	黒褐色土・炭・焼土などで構成されている。	なし	現地性か否か判然としない。	194	229
R F 046	4 B 8 i 区Ⅱ層	183×78 12	西半部の底面直上に焼土が見られ、東半部には黒褐色土の中に炭粒等が堆積する。	なし	カマド状の遺構と思われる燃焼部と焚き口からなると思われる。中世。	199	229
R F 047	4 B 9 g 区Ⅱ層	267×113 37	西半部の底面には炭化物がしかれており、その上に焼土が見られる。反対に東半部には黒褐色土中に焼土・炭粒が堆積。	なし	カマド状の遺構と思われる燃焼部(西側)と焚き口(東側)からなる。中世。	199	229
R F 048	4 B 7 n 区Ⅱ層	38×30 27	黒褐色土・焼土・地山などで構成される。	なし	現地性か否か判然としない。	194	229
R F 049	4 B 12 i 区Ⅱ層	60×47 15	黒褐色土・焼土・地山などで構成されている。	なし	現地性か否か判然としない。	194	230
R F 050	4 E 2 e 区Ⅱ層	313×171 48	東側の平面形が円形を呈する掘り込みの底面と壁近くに焼土が見られる。その内側には黒褐色土に焼土・炭粒の混じる土が入る。西側も黒褐色土に焼土・炭・地山ブロックの入る土で構成されている。	なし	円形のドーム状を呈する燃焼部と方形の焚き口部をもつ構造のカマド状施設と思われる。中世。	200	230
R F 051	4 D 15 h 区Ⅱ層	200×113 36	北西部に底面から壁に沿うようにドーム状に焼土が見られる。反対の南東部には黒褐色土を主体とし炭・地山ブロックが入る土が堆積する。	なし	焼土が形成されている部分が燃焼部でそこから北側に漸長く煙出しの掘り込みが広がる。南東部は焚き口と考えられるカマド状の遺構で中世に属すると思われる。	200	230



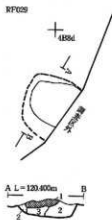
- RF023 A-B
1. SYR3/6 暗赤褐色土 粘性なし、締まりやや有り。
 2. 10YR4/4 褐色土 閉れている崖山、粘性・締まりやや有り。



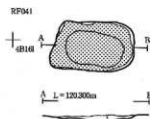
- RF026 A-B
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り、黄土ブロック少量含む。



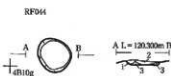
- RF027 A-B
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り、黄土ブロック少量含む。



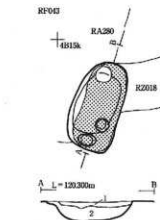
- RF029 A-B
1. SYR3/6 暗赤褐色土 粘性なし、締まりやや有り。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
 3. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし、締まりやや有り。



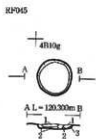
- RF041 A-B
1. 10YR2/2 黒褐色土と褐色土 (7.5YR7/6中心) ブロックの炭との混合土 粘性有り、締まりなし、黄土ブロック少量含む。断面中央は焼成をうけて赤くなっている。



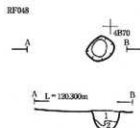
- RF044 A-B
1. 10YR2/1 褐色土 粘性・締まり有り。灰多量に含、褐色土ブロック少量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、締まりややなし。灰多量に含む、明赤褐色土 (5YR5/6) 少量含む。
 3. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まり有り。



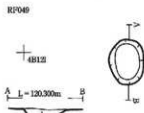
- RF043 A-B
1. 10YR2/2-2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土灰を少量含む、褐色土 (7.5YR6/3) ブロック多量含む。下層では20cm程度の焼成有り。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色砂質土 (10YR4/6) ブロック少量含む、黄土・灰少量含む。



- RF045 A-B
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まりややなし。灰化層・褐色土 (7.5YR4/6) 多量に含む。
 2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まり有り。灰・焼土少量含む。
 3. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まりややなし。灰・少量含む。



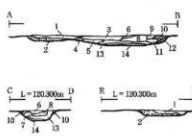
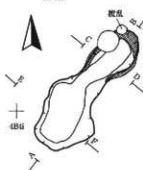
- RF048 A-B
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰・赤褐色土 (5YR4/6) 少量含む。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、締まりややなし。褐色土 (10YR4/6) 多量含む。



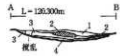
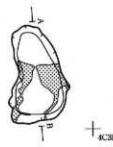
- RF049 A-B
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。灰少量・褐色土 (10YR4/6) 少量含む。褐色土 (10YR4/4) 少量含む。水酸化鉄混入。

0 1:50 1m

RF025



RF028



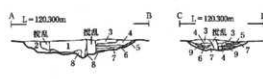
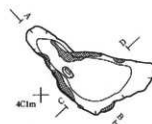
RF025 A-B · C-D · E-F

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。暗色土粒少量。炭化物・炭土粒含む。
2. 炭化物の層状物 炭土粒 (5YR4/4) 炭粒含む。粘性有り。締まりややなし。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりややなし。
4. 10YR4/4 褐色土
5. 10YR2/2 黒褐色土と褐色土との混合土 粘性ややなし。締まり有り。炭多量に含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。炭化物・炭土粒多量に含む。
7. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まり有り。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。炭土粒・炭少量を含む。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。かたく締まる。炭化物層状物含む。炭土粒含む。
10. 5YR4/6 赤褐色土 粘性やや有り。締まり有り。炭多量に含む。
11. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まり有り。炭土粒炭粒少量。炭多量に含む。
12. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。炭多量に含む。炭土粒少量。
13. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まり有り。炭多量に含む。炭土粒少量を含む。
14. 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性なし。締まり有り。炭含む。

RF028 A-B

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。炭土 (5YR4/6赤褐色) プロック多量に含む。炭土プロック多量に含む。
2. 5YR4/6 赤褐色土 粘性・締まりややなし。黒褐色土 (10YR2/2) プロック多量を含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。多量の炭化物を含む。炭土プロック少量を含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。炭土プロック多量を含む。

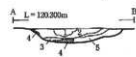
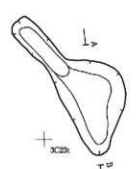
RF030



RF030 A-B · C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。炭含む。炭土 (5YR4/6赤褐色) プロック少量を含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。炭土 (5YR4/6) プロック少量を含む。
3. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりなし。炭土粒・炭含む。
4. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりなし。
5. 5YR4/6 赤褐色土 粘性・締まりなし。
6. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・締まりなし。炭化物多量を含む。
7. 7.5YR2/3 暗褐色土 粘性有り。締まりなし。炭化物少量を含む。
8. 10YR3/4 暗褐色土・炭土質土 粘性有り。締まりなし。
9. 10YR3/2 暗褐色土 粘性有り。締まりなし。

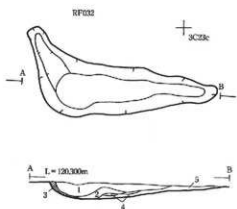
RF031



RF031 A-B

1. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。炭土プロック多量を含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりなし。
4. 5YR3/6 暗赤褐色土 粘性なし。締まりやや有り。炭が散らけている。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。

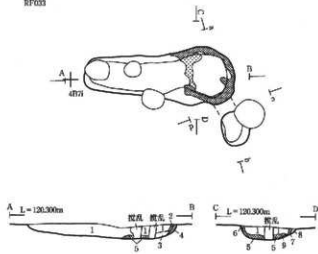
0 1:50 1m



RF032 A-B

1. 10YR3/3 暗褐色土・黒褐色土との混土・粘性やや有り、締まっている。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り、焼土・炭粒を多量に含む。
3. 2.5YR4/6 赤褐色土 粘性なし、締まっている。炭が散っている。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりなし、炭粒を多量に含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土・黒褐色土との混土・粘性やや有り、締まっている。

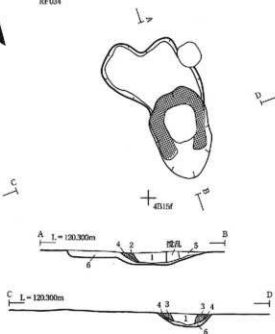
RF033



RF033 A-B・C-D

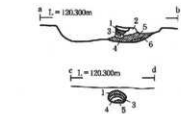
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。炭・焼土粒も混入含む。
2. 5YR4/8 赤褐色土 粘性・締まりなし。黒褐色土 (10YR2/2) 少量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。2cm程度の炭粒混入含む。焼土粒含む。
4. 5YR2/3 暗赤褐色土 粘性・締まり有り。
5. 7.5YR4/4 褐色土 粘性・締まりなし。下層に3~5mmの炭化物の層が認められる。
6. 5YR3/4 暗赤褐色土 粘性・締まり有り。
7. 5YR3/6 暗赤褐色土 粘性有り。締まりややなし。
8. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
9. 5YR2/4 暗赤褐色土 粘性・締まり有り。

RF034



RF034 A-B・C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。炭・焼土粒も混入含む。水酸化鉄混入。
2. 5YR4/6 赤褐色土 粘性中有り。締まりややなし。炭多量含む。
3. 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。赤褐色土 (5YR4/6) ブロックが多量含む。炭粒も混入含む。
4. 5YR3/4 暗赤褐色土 粘性・締まり有り。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。赤褐色土 (5YR4/6) ブロックも混入含む。炭粒も混入含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄混入。

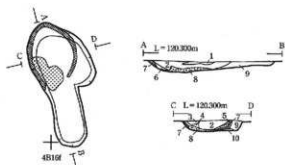


RF033 断面 a-b・c-d

1. 5YR3/4 暗赤褐色土 粘性・締まり有り。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) 少量含む。
3. 10YR4/6 赤褐色土 粘性・締まりややなし。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりややなし。炭・焼土粒多量含む。
5. 5YR3/4 暗赤褐色土 粘性有り。締まりややなし。
6. 5YR3/3 暗赤褐色土 粘性有り。締まりややなし。

0 1:50 1m

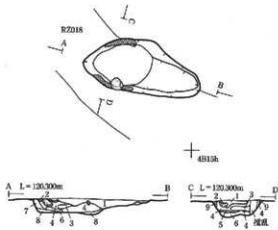
RF035



RF035 A-B・C-D

1. 75YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりなし。赤褐色焼土 (5YR4/6) プロック少量。炭粉微量含む。
2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。炭・焼土粒微量含む。
3. 10YR2/1 黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。炭・赤褐色焼土 (5YR4/6) プロック微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/6) プロック微量含む。
5. 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性やや有り。締まりなし。黒褐色土 (10YR2/1) ・炭微量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/6) 少量。炭微量含む。
7. 5YR0YR3/6 暗赤褐色土 粘性有り。締まりややなし。
8. 炭化物の堆積層 粘性・締まりなし。黒褐色土微量。にふい黄褐色土プロック粒微量含む。焼土粒微量含む。
9. 10YR2/1 黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。にふい黄褐色土質土 (10YR4/3) 微量含む。
10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。にふい黄褐色土質土 (10YR4/3) 微量含む。

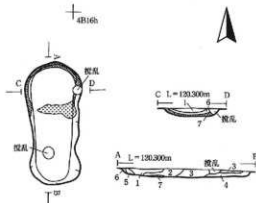
RF037



RF037 A-B・C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/6) 粒微量。炭粉微量含む。水酸化鉄微量混入。
2. 炭化物の堆積層 粘性・締まり有り。焼土粒微量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。焼土粒・炭含む。
5. 炭化物の堆積層 黒褐色土 (10YR2/2) ・焼土粒微量含む。
6. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。締まり有り。
7. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まり有り。炭・焼土少量含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄混入。
9. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性ややなし。締まり有り。

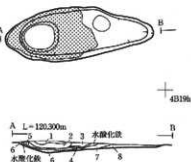
RF036



RF036 A-B・C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭・焼土微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりなし。焼土 (5YR4/6) ・75YR4/4) プロック少量含む。炭粉微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。黒褐色土 (75YR4/4) 粒微量混入含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土少量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭・焼土粒微量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
7. 5YR3/2 暗赤褐色焼土 粘性・締まり有り。褐色土少量含む。

RF039

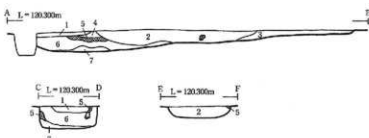
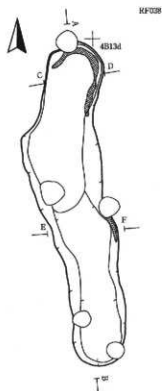


RF039 A-B

1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりややなし。褐色土 (75YR4/6) プロック微量含む。炭少量含む。
2. 10YR6/6 暗褐色土・10YR5/6 暗赤褐色土プロックの堆積層 炭微量含む。水酸化鉄混入。
3. 10YR3/2 暗褐色土 粘性・締まりなし。暗赤褐色土 (5YR3/6) 粒・炭微量含む。水酸化鉄混入。
4. 75YR3/4 暗褐色土。
5. 炭化物の堆積層。
6. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土少量含む。
7. 10YR3/1 暗褐色土 粘性・締まりややなし。炭・焼土微量含む。水酸化鉄混入。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土プロック微量含む。炭微量混入。水酸化鉄混入。

0 1:50 1m

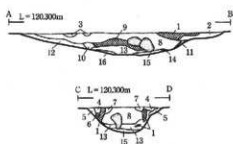
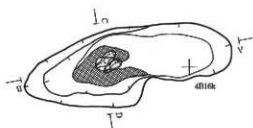
第197図 RF035~037・039 焼土・炉跡



RF038 A-B・C-D・E-F

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘り・粘性やや有り。にぶい黄褐色土・赤褐色焼土 (2.5YR4/6) 層状。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・粘り有り。にぶい黄褐色土 (10YR3/2) ブロック散在含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・粘り有り。にぶい黄褐色土 (10YR3/4) ブロック、赤褐色焼土 (2.5YR4/6) ブロック塊散在含む。水酸化鉄塊散在。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。粘りやや有り。黒色土 (10YR2/1)、赤褐色焼土 (2.5YR4/6) 層状含む。
5. 2.5YR4/6 赤褐色焼土 粘性有り。粘りやや有り。黒褐色土 (10YR3/2) 層状含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘りやや有り。赤褐色焼土 (2.5YR4/6) ブロック散在。黒色土 (10YR2/1) 塊散在含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘りやや有り。暗赤褐色焼土 (2.5YR3/6)、黒色土 (10YR2/1) 塊散在含む。

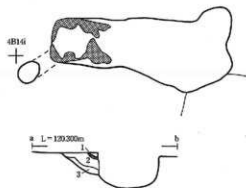
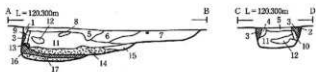
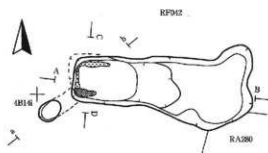
RF040



RF040 A-B・C-D

1. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性ややなし。かたく粘まっている。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。粘り有り。赤褐色焼土 (5YR4/8) ブロック含む。
3. 7.5YR2/2 黒褐色砂質土 粘性・粘りなし。下層に灰少量含む。水酸化鉄塊散在。
4. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・粘り有り。水酸化鉄塊散在。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性有り。粘りなし。黒褐色土 (10YR3/1) 散在含む。水酸化鉄塊散在。
6. 5YR3/2 暗赤褐色焼土 粘性有り。粘りややなし。
7. 5YR4/8 赤褐色焼土・ブロックと10YR3/1 黒褐色土の混合土 粘性ややなし。粘り有り。
8. 10YR2/1 黒褐色土 粘性に乏し。粘り有り。水酸化鉄塊土 (5YR4/8) 塊・面状散在含む。水酸化鉄塊散在。
9. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性・粘りややなし。黒褐色土 (10YR3/1) ブロック少量含む。
10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。粘りややなし。炭酸鉄塊、焼土粒散在含む。水酸化鉄塊散在。
11. 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性ややなし。粘り有り。
12. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。粘りややなし。にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 少量含む。炭酸鉄含む。水酸化鉄塊散在。
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土 かたくブロックで覆征。粘性なし。炭酸鉄、炭上無機質含む。水酸化鉄塊散在。
14. 炭化灰・灰層
15. 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・粘りなし。
16. 7.5YR2/2 黒褐色砂質土 粘性・粘りなし。下層に灰少量含む。水酸化鉄塊散在。

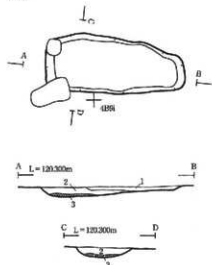
0 1:50 1m



RF042断面 a-b

1. 5YR4/6 赤褐色土
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。焼土ブロック・炭燻炭を含む。
3. 7.5YR3/3 紅褐色砂質土 粘性・締まりなし。焼土ブロック・炭少量含む。

RF046



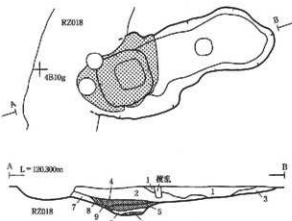
RF046 A-B・C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。炭上・炭燻炭を含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。炭・焼土を含む。
3. 5YR3/2 暗紅赤褐色土 粘性・締まり有り。上層に褐色土(7.5YR4/6)含む。

RF042 A-D・C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。赤褐色焼土(5YR4/6)少量含む。
2. 5YR3/4 暗赤褐色土 粘性・締まり有り。
3. 5YR4/6 赤褐色土 粘性・締まり有り。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。赤褐色焼土炭燻炭含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭・焼土粒燻炭を含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土少量含む。炭燻炭を含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土少量含む。炭燻炭を含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。赤褐色土少量含む。炭燻炭を含む。
9. 10YR3/1 暗土質土 粘性有り。締まりややなし。褐色土(10YR4/4)粒燻炭を含む。炭燻炭を含む。水酸化鉄皮膜入り。
10. 7.5YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりややなし。赤褐色焼土(5YR4/6)微量含む。炭燻炭を含む。水酸化鉄皮膜入り。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土少量含む。炭燻炭を含む。
12. 10YR3/1 暗褐色土 粘性・締まり有り。炭燻炭を含む。
13. 5YR4/4 赤褐色土 粘性有り。締まりややなし。
14. 炭化物の層状層 赤褐色土(5YR4/6)粒燻炭を含む。褐色土少量含む。
15. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりややなし。土に赤褐色砂質土(10YR4/3)微量含む。炭・焼土粒燻炭を含む。水酸化鉄皮膜入り。
16. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。赤褐色土(5YR4/6)粒・炭燻炭を含む。
17. 炭化物の層状層 粘性・締まりなし。赤褐色土(5YR4/6)粒燻炭を含む。

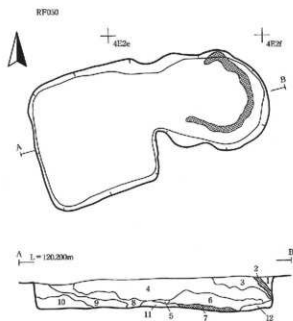
RF047



RF047 A-B

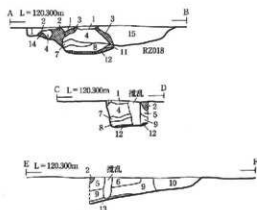
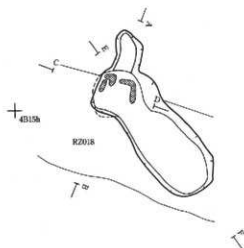
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。焼土粒・炭燻炭を含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。赤褐色・暗赤褐色焼土 大ブロック含む。炭燻炭を含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりややなし。褐色土質土少量含む。
4. 7.5YR3/4 暗褐色土
5. 5YR3/3 暗赤褐色土
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロック多量含む。焼土・炭燻炭を含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭・焼土粒燻炭を含む。
8. 5YR3/6 暗赤褐色土
9. 炭化物の層状層

0 1:50 1m



- RF050 A-B
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。赤褐色土上 (5YR4/6) 粒。褐色土 (10YR4/6) ブロック崩壊層を含む。
 2. 5YR4/6 赤褐色土 粘性・締まり有り。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。赤褐色土上 (5YR4/6) 粒。褐色土 (10YR4/6) 粒。炭化物。に赤い黄褐色土 (10YR4/3) ブロック崩壊層を含む。
 4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。黄褐色土 (10YR5/6) 粒少量。赤褐色土上 (5YR4/6) ・炭化物崩壊層を含む。
 5. 10YR2/3 暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。黄褐色土 (10YR5/6) 粒。赤褐色土上 (5YR4/6) 粒。炭化物崩壊層を含む。
 6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。赤褐色土上 (5YR4/6) ブロックを含む。炭化物崩壊層を含む。
 7. 5YR4/4 に赤い赤褐色土上 粘性有り。締まりやや有り。
 8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) 粒。赤褐色土上 (5YR4/6) 粒。炭化物崩壊層を含む。
 9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) 粒少量を含む。
 10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) 粒少量を含む。
 11. 10YR4/2 に赤い黄褐色土上 粘性・締まり有り。炭化物崩壊層を含む。
 12. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性有り。締まり有り。

RF051



RF051 A-B・C-D・E-F

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。土上ブロック・炭層を含む。水酸化鉄質土。
2. 5YR4/6 赤褐色土
3. 5YR4/6 赤褐色土 黒褐色土 (10YR2/2) 崩壊層を含む。
4. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック。炭・土粒層を含む。水酸化鉄質土。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭層を含む。土上 (5YR4/6) ブロック崩壊層を含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック崩壊層を含む。炭層を含む。水酸化鉄質土。
7. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性有り。締まりなし。黒褐色土 (10YR2/2) 崩壊層。水酸化鉄質土。
8. 10YR2/4 黒褐色粘土 炭層を含む。水酸化鉄質土。

9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色砂質土 (10YR4/4) 少量含む。炭層層を含む。水酸化鉄質土。
10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック。炭層を含む。水酸化鉄質土。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性にとも。締まりなし。
12. 5YR2/3 暗赤褐色土
13. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。暗赤褐色土 (5YR2/3) 含む。
14. 5YR3/4 暗赤褐色土
15. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4)。炭層を含む。水酸化鉄質土。

0 1:50 1m

7 堀・溝跡

堀跡は3条、溝跡は大小合わせて67条検出している(第201~226図・写真図版231~263)。この中には以前の調査で検出されていた堀・溝跡の延長部分となるものもあり、それらに関してはこれまでと同じ遺構名を付けるようにしたが、調査を水田区両側に行わざるを得なかったため遺構の全容を把握できず、本来同一の遺構に複数の遺構名を付しているものもある。なお、個々の遺構の規模・埋土・出土遺物等については観察表に一括し掲載したため、ここでは代表的な遺構についてのみ記述する。

堀跡 R G 083・084堀跡(第206・218図・写真図版232・234)は遺跡中央部南端付近に位置する。規模はR G 083が一辺約33m、その外側にR G 084が一辺約36~40mで延び、検出面での両堀の上幅は110~210mを測る。ともに「コ」状に巡っており東側の一辺で両堀が重なっている。上層の断面観察では判然としなかったがR G 083が古くR G 084が新しいと思われる。ほぼ全域を検出したが、北辺の中央部分は現在道路として使われており調査されず現況のまま残っている。この道路の下に堀跡に伴う橋脚もしくは土橋のような施設が存在し、堀に囲まれた内側に通じていたのではないかという印象を持つ。一方、堀の南側は現況では水田だったが以前は湿地であったことが今回の調査で明らかになり、R G 083・084両堀跡における東西辺の南端はこの湿地に達したところで掘るのを止めている状況も確認された。堀に囲まれた内側の中央には現在諏訪神社が建てられており、その部分以外の所のみを調査した。その結果、掘建建物跡の他に坑・溝跡等が検出され、この中で本堀跡と関係のありそうな遺構としてはR B 022やR D 481・482・483が考えられる。R B 022は一部を検出したのみで規模・性格は不明であるが、柱筋が堀跡と同じである(現在の諏訪神社とは異なる)ことから、本堀跡に伴っていると考えた。堀をはじめとするこれらの遺構から時期を特定できるような遺物の出土はないが、概ね中世に構築されたと考えて人遣いと思われる。そして堀に囲まれた内側は周辺とは区画された特別な空間であった可能性がある。そのため後世この場所に諏訪神社が建てられたと考えられる。R D 313・314とR E 028は出土遺物等から近世~近代の遺構で神社(むしろ現神社の一代か二代前)に伴う可能性がある。

R G 264堀跡(第208・216図・写真図版251)は本遺跡のほぼ中央2A~1Cにて検出された。途中未調査部分もあるが方向は西南西-東北東へほぼ直線的に98m程検出され両端は調査区外に延びている。上層幅はおおよそ3~4m、断面形はV字状を呈すると推測される。埋土は概ね自然堆積だが一部擾乱を受けている。遺構の時期を特定できるような遺物の出土はなかったが本遺跡の第15次・18次等では中世の環濠と見られるR G 042が検出されており、本堀跡はこの環濠南辺の外側(南側)約20mに位置し、並行して走っている。このことからR G 264も中世の環濠R G 042と関連する遺構と推測される。つまりは環濠R G 042の南側にもう一条本堀跡が巡っていたか、或いは環濠の拡張・縮小によるもの等が考えられる。

溝跡 R G 263・259・260は規模・形態や方向が類似しているのに加えて9~10mの等間隔で延びている。時期的には近世もしくはそれ以降と思われる、区画溝的な性格が考えられる。この他にR G 254・261・262、R G 257・270も同様の性格の遺構と思われる。

今回の調査で最も規模の大きな溝跡はR G 045(第210・212図・写真図版235)で、1C区~4D区にかけて位置している。規模は上幅2~3m、下幅幅1~1.5m、深さは1~0.5mで、断面形は逆台形を呈する。全長は途中未調査の場所があるが約170mを測り、北西-南東方向に概ね直線的で、南端部は調査区外に延びている。但しこれより以南には湿地が広がっているようなのであまり延びないと思われる。両端の高低差は北側がやや高く、壁の立ち上がりは南側のほうが浅い。今回調査された北端部よりも北側は本遺跡の第15

次・18次調査でも検出されており、そちらでも北西-南東方向に直線的に走っている。検出されたRG045の総延長は300m以上となるが本溝跡の北端は不明である。また、今回の調査では見られなかったが第15次・18次調査では埋上と十和田a降下火山灰が堆積しており、本遺構は平安時代に属するようである。

RG043(第210岡・写真図版231)も第15次調査で検出されていた遺構で、今回の調査では15次調査の南側に延びていく部分にあたる1C・2C区において検出された。これにより北東-南西方向へほぼ直線的に約50m延びていることが確認された。両端の高低差はやや北側が高く南側が低くなり南端部は調査区外へと続いている。またこの方向で南側へ延びていったと仮定するならば、3B・4B区にて検出されているRG198に繋がる可能性がある。他の遺構との重複関係からは奈良時代より新しく近世迄は降らないといえる。

本遺跡南東側4D~4E区にかけて検出されたRG232はほぼ東西方向へ真っ直ぐに26m程延びており東西両端もその場所で止まっている遺構である。その性格については不明であるが、他の遺構との重複関係から平安時代以降に属すると思われる。

出土遺物等から時期が概ね推測できる遺構としては、RG073・205が近世に属すると思われる。その他多くの溝跡に関しては時期不明のものが多いため。

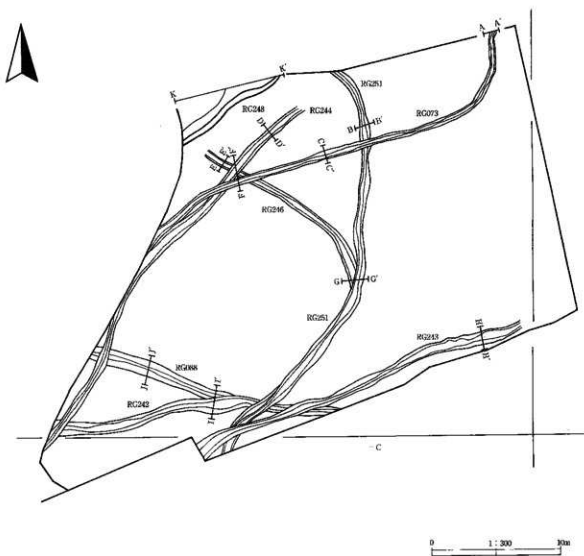
溝・垣跡観察表

遺構名	位置 検出面	長さ:m 深さ:cm	上層:cm 下層:cm	埋土ほか	出土遺物	その他	図版	写真
RG045	1C19h~ 2C8c IV層	33 74~60	130~110 50~30	自然堆積。埋土中に河原石がまぎらまぎらと見られた。排水。		RG223・RG264・RG271より古い。本溝跡はRG198と河の溝跡か。	211・221	231
RG045 大溝	1C17q IV層	160以上 80~60	260~200 130~100	自然堆積。次調査では十和田a火山灰が堆積。平安時代。	426・427土師器片(奈良RA244の遺物か) 他に奈良土師器、須恵器片、縄文土器破片	RA244より新。 RD542・RD702・RG264・RG223・RG201より古。	211・216 221	235
RG073	1-C9e~ 1-C18k IV層	31.2 10	55 27	自然堆積。埋土下層は砂質土となる。	738陶器片?他に磁器皿、須恵器破片	RG244・246・251より新。	201・213 214	252・253
RG080	3A20c ~4A1y IV層跡	14.2 約20	約70 約40	第18次調査参照。		RG083とは新出不明。		
RG083 堀	3A~ 4A IV層	96 38~58	200~170 130~70	東側では礫を多量に含む。西側は埋土下層自然堆積。上層は人為堆積の可能性あり。	436須恵器片	RG080・RG209とは新出不明。RG084堀より古いと思われる。RE028より古。中世。	206・217	232~234
RG084 堀	3A~ 4A IV層	108.4 26~40	220~170 130~70	東側では礫を多量に含む。西側では自然堆積の層相を呈する。	479陶器破片	RG083より新。RD484・RD485とは新出不明。中世。	206・217	232~234
RG086	2-C16p ~3-D5k IV層	50.5 18~8	60 40	自然堆積で部分的に河原石含む。排水目的か。	428土師器破片	RG244より古い。	205・226	252・253
RG088	1-C22b ~2-D4g IV層	35以上 42	120 55	自然堆積でよいと思われる。排水目的か。		RG242より古い。	201・205 214・223	233・257
RG114	2-D7f~ 2-D10g IV層	6.5 4	40 30	黒褐色土の単層。			205・223	254
RG115	2-C14v~ 2-D12g IV層	20 12	70 40	埋土に砂を含み排水目的と思われる。			206・223	254
RG191	3A18q 4B10m IV層	68 17~20	60~50 40~30	自然堆積か。	土師器片	RG194より新。	206・207 210・217 219・220	236

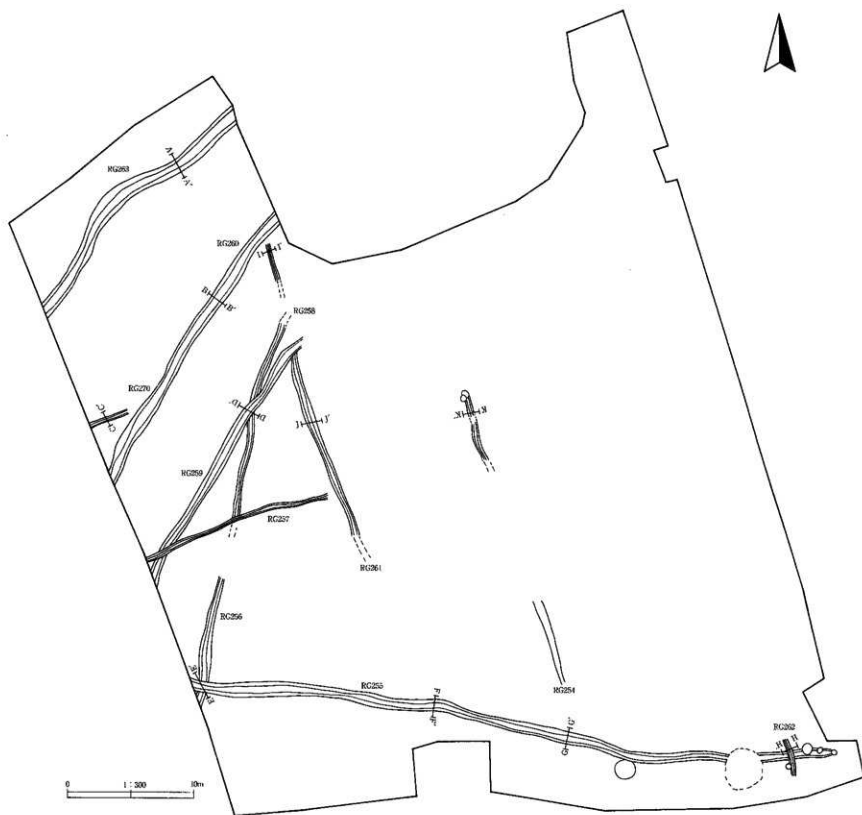
遺構名	位置 掘り出し	長さ：m 深さ：cm	J幅：cm 下幅：cm	地 下 地 質	出土遺物	そ の 他	図版	写真
R G 192	3A8r~ 3A17p IV層	17.1 7~10	30~22 12~8	自然堆積でよいと思われる。 排水目的か。		RD286・RD288より新。 RD289より古いかわ時期。 RD285より古。RG083・ RG084の中へ入る道の標識 か。	206・207・ 220	237
R G 193	3D23a~ 4B2v IV層	46 8~11	54~46 30~22	自然・人為の別は不明。	土師器片	RD292・RD298・RD456・ 579・699・728・RG194よ り新。	206・207・ 210・217・ 220	237
R G 194	3B19e~ 3F24d IV層	11.2 12~16	48~40 約20	自然堆積でよいと思われ る。排水目的か。		RD480・RG191・RG193よ り古。RI003より古いかわ時 期。	207・220	238
R G 195	1-A25h ~2-A11 IV層	9.5 7	37 30	自然堆積でよいと思われ る。排水目的か。			203・226	
R G 196					奈良土師器片			
R G 197	3C14r~ 3C13h IV層	8.5 5~10	50 30	埋上に砂を含み排水目的 と思われる。	土師器片		210・219	238
R G 198	3B5w~ 4B24v IV層	92.5 42~62	130~50 70~25	自然堆積。排水目的と思わ れる。	728鉄鍋、733陶器碗、 796磁器皿、570銭貨、他に 土師器	RG043と同一遺構の可能性 有り。	210・218	239
R G 199	3C10c ~3C10j IV層	10 20~23	170~60 140~40	埋土層に砂が堆積し排水 が目的と見られる。	土師器片		210・220	240
R G 200	2C18m ~1E21r IV層	125以上 54~57	150~90 80~30	自然堆積。埋上に水酸化鉄 含む。水の流れは有ったと 思われる。	奈良土師器片、近代磁器皿	RA236・240・RD475・ 476・沢跡より新。RD321・ RD360・RG224より古。 RBとは不明。近世。	211・212・ 221・225	240・241
R G 201	2C9r ~2C8y IV層	29 27~20	50~45 30~25	埋土層上の厚層が自然堆 積でよいと思われる。		RG045より新しい。近世。 本遺構はRG227と同様の 溝。	211・221	241
R G 202	3B7j~ 3B12x IV層	12.3 10	40 30	埋土下層には砂が堆積し、 部分的には自然堆積も含む。 排水溝と見られる。	土師器片	RG198・203より古い。	210・218	242
R G 203	3B8v~ 4D3u IV層	43 8~23	180~40 150~20	狭谷や地山ブロックを含み 人為地層の可能性が有る。 中世墓を区画する溝である うか。	429須恵器壺 472常滑壺 571~575鉄貨 他に土師器 片	RG198より旧くRG203より 新しい。	210・219・ 220	239
R G 204	4B5a~ 4A8y IV層砂	6.2 14~18	96~88 54~48	自然堆積。埋土下層は砂質 土となる。		溝ではなく他の遺構もしくは 自然のものかもしれない。	206・207・ 217	
R G 205	1D24y~ 1C17v III層	55 27~17	130~60 100~30	自然堆積。埋土下位砂っぽ い。溝跡時には水の流れも あったと思われる。	595~600銭貨 721陶器碗、 735磁器皿、784磁器碗、他 に近世・近代陶器、奈良土 師器、縄文土器片	RA246・RD421・RD442・ RG043・RG045・RG271・ RG272より新。RD419より 古。近世。		242
R G 206	4-A10x ~4A11a IV層	4.7 5~9	36~28 30~22	自然・人為の区別不明。		重複なし。	206・217	243
R G 207	4A10d ~4A12c IV層埋	7.2 11~15	80~40 70~40	自然・人為の区別不明。		RG208より新しい。	206・217	243
R G 208	4A10c ~4A12f IV層	6.5 8~13	約30 約20	自然・人為の区別不明。		RG207より古。	206・217	243
R G 209	4-A7s~ 4A22v IV層埋	64.5 11~13	44~36 約16	自然・人為の区別不明。埋 地を掘り込んでつくられて いる。		RG083とは新旧不明。埋地 とそうではない部分との境 目に位置する。	206・217	243・244
R G 221	4A7b~ 4A8y IV層	6.2 11~15	34~46 30~22	自然・人為の区別不明。		重複なし。	206・217	244
R G 222	4A18m ~4A21i IV層埋	14.8 7~14	44~36 32~24	自然・人為の区別不明。埋 地を掘り込んで構築。		重複なし。埋地とそうでは ない部分との境目に位置す る。	206・217	244

遺構名	位置 検出層	長さ:m 深さ:cm	上幅:cm 下幅:cm	埋 土 ば か	出 上 遺 物	そ の 他	図版	写真
R G 223	2-C17p -1階23a IV層	14.4 30	74 20	自然堆積。排水・区画目的 と思われる。			203・221・ 226	255
R G 224	2E13c~ 2E18a IV層	11.6 32	70~55 40~30	自然堆積と思われる。		RAZ37・RG200より新。近 世。RG229と同じ溝になる か。	212・225 244	
R G 225	4B7h~ 4B12r IV層	48 9~13	60~35 50~15	自然堆積と思われる。	土師器片	RZ018より新。	210・219・ 220	246
R G 227	1D24t~ 1D22y IV層	10.2 20~16	60~45 30~25	自然堆積。		RG201と同一の溝。近世。	212・225 246	
R G 228	3D18t~ 4D19a IV層	77.8 41~11	80~37 30~20	自然堆積。排水目的と思わ れる。		RA279・RG045・230・231・ 240より新。RG229より古。 RG235より新か同時期。	213・216・ 224	216・217
R G 229	3D17t~ 4D19a IV層	52.7 約14	58~43 36~18	自然堆積でよいと思われ る。排水。		RB040・RD775・RD776・ RD777・RG228より新。 RG224と同じ溝となるか。	213・224 247	
R G 230	3D15m ~3D18k IV層	5.2 約14	約70 約30	自然堆積。排水目的と思わ れる。		RG228より古。	213・224 248	
R G 231	3D16k~ 3D18k IV層	4.5 12~9	42 14	自然堆積と思われる。排水 目的と思われる。		RG228より古。	213・224 248	
R G 232	4D12t~ 4E12f IV層	26 約40	約90 約46	自然堆積。埋上下位砂っぽ いが確認された構造では水 は流れないと思われる。		RG045より新しいと思われ る。RAZ77より新。旧沢跡 より新。この溝はこれ以下 底びないと思われる。	213・224 249	
R G 233	4D17q ~4E14f IV層	30.3 40~12	103~27 約24	自然堆積。		RA278・RG045との新旧不 明。RG234より古。沢跡よ り新。東側へは延びないと思 われる。	213・216・ 224	249
R G 234	4D15w ~4E15g IV層	21.2 約16	約74 約40	自然・人為かは不明。RG232 と並行して延びることから 時期・構造近い可能性あり。		RG233より新。	213・216 249	
R G 235	3D15t~ 3D19a IV層	9.5 約23	約34 約20	自然堆積。排水目的と思わ れる。		RA228より新。RG228より 古か同時期。	213・215	
R G 236	4B21d~ 4B17q IV層	27 11	70 50	自然堆積と思われる。排水 の溝か。	土師器片、須恵器片		210・219 250	
R G 237	4B17v IV層	2.3 8	40 20	記録なし。排水の溝と思わ れる。			210・219 250	
R G 238	4B18e~ 4B19v IV層	6.7 10	40 20	自然堆積と思われる。排水 の溝か。			210・219 250・251	
R G 239	4E19p IV層	4 7	40 20	自然堆積と思われる。排水 の溝か。	454青磁碗	中世。	210・219 254・250・ 239	
R G 240	3D17t~ 4D19a IV層	31.8 41~11	72~52 42~35	自然堆積。黒褐色及び暗褐 色土。		RG228より古。RG045との 重複関係不明。旧沢跡より 新。	213・216 245	
R G 241	2-C16t~ 2-D11h IV層	29.1 21	75 63	自然堆積の様相を呈する。 排水目的か。			205・223 255	
R G 242	1-C25g -1階25q IV層	22.8 18	120 60	自然堆積でよいと思われ る。排水目的か。	磁器碗皿片	RG088より新。幕末以降。	201・214 255・236	
R G 243	1-C21y ~2-C1m IV層	27.3 18	88 45	自然堆積でよいと思われ る。排水目的か。	767陶器種鉢、他に土師器 類片、奈良土師薬片	RG242・251より新。	201・215 253・256	
R G 244	1-C12q~ 3-C21w IV層	120以上 12	60 30	自然堆積で埋土下位は砂っ ぽい。排水か。		RG216より新。RG073より 古い。	201・204・ 215・214・ 223	232・233・ 236
R G 245	2-C2q~ 2-D5d IV層	23.6 10	80 60	埋土下位に砂が堆積する自 然堆積。排水。			205・215・ 223	257

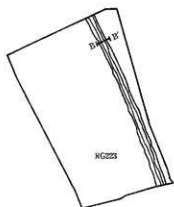
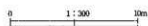
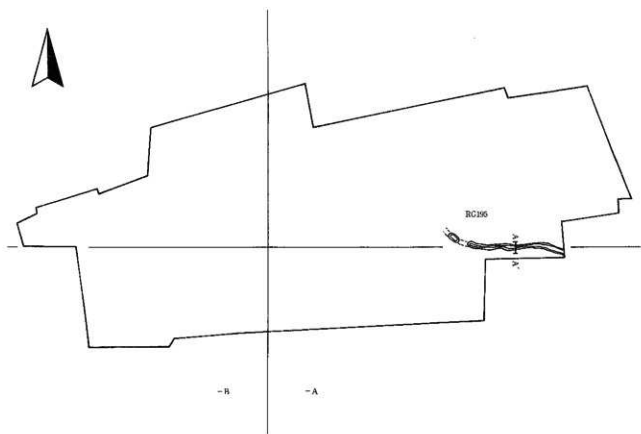
遺構名	位置 検出面	長さ:m 深さ:cm	上層:cm 下層:cm	埋 土 ば か	出土遺物	そ の 他	図版	写真
R G 246	1-C14m ~同10r IV層	15.8 18	70 40	黒褐色土の単層だが自然堆積でよいと思われる。		RG073・244・251より古い。	201・215・214	252・253
R G 247	2-C61~ 2-C8m IV層	4.9 7	30 15	埋土に砂を含み排水目的と思われる。		RG244より古い。	205・223	257
R G 248	1-C121 IV層	9.4 118	300~ 200~	自然堆積で底部はクライ化、難没積か。	土師甕、須恵瓦片	鉄鏝の可能性あり。	201・214	
R G 249	1-D24b IV層	8 9	50 30	埋土に砂を含み排水目的の溝と思われる。			205・223	258
R G 250	2-C5u~ 2-C8v IV層	6 15	55 47	自然堆積の溝相を呈する。排水目的か。			205・223	258
R G 251	1-C11r ~2-D3o IV層	36以上 13~28	65 15	自然堆積か。排水目的か。		RG242・246より新。 RG073・243より旧。	201・205・ 215・214・ 223	252・253・ 259
R G 254	2-D10r ~同21v IV層	23.9 25	45 24	埋土下層に砂の堆積する自然堆積。排水・区画目的か。			202・222	
R G 255	2-D22a ~2-C24g IV層	51.7 17~28	64 35	自然堆積で埋上下位に砂堆積。排水か。	赤焼片	RG256より新。RG262より古い。	202・222	260
R G 256	2-D17b ~同23g IV層	10.4 25	90~40 20	自然堆積。	赤焼片	RG255より古いと思われる。 RG237と同じ溝と思われる。	202・222	260
R G 257	2-D17e ~同14l IV層	15.8	44 20	断面図なし。	鉄製品	RG257・259より新。RG256と同じ溝と思われる。	202	261
R G 258	2-D6j~ 2-D15i IV層	16.4 20	40 20	自然堆積でよいと思われる。排水・区画か。		RG257・259より古い。	202・222	261
R G 259	2-D3j~ 2-D14d IV層	23 19	75 40	自然堆積でよいと思われる。排水・区画か。		RG258より新。RG257より古い。	202・222	261
R G 260	2-D14d ~2-D3j IV層	25 25	100 60	自然堆積で埋土下位に砂堆積。排水・区画か。			202・222	261
R G 261	2-D4j~ 2-D16m IV層	24.2 16~33	40 20	黒褐色土の単層だが自然堆積でよいと思われる。排水・区画目的か。	土師須恵片	RG259より古い。	202・222	262
R G 262	2-C24f IV層	3 9	40 10	自然堆積か人為堆積か不明。区画目的か。	平安土師器坏変、須恵器片	RG256より新。	202・222	255・262
R G 263	2-D7a~ 1-D24h IV層	22 23	90 70	自然堆積で埋土下位は砂っぽい。排水・区画か。			202・222	263
R G 264	~1-C16a IV層	110以上 140~160	260~ 60~	埋土下層は自然堆積。上層は埋土戻した可能性あり。大小の河原石を含む。	63瀬戸南器磁刺、473陶器指鉢、708呉器子碗、761南朝漆鉢、509~511木製品、533鉄器、他に土師須恵片	RG043・RG045より新。中世。	208・211	251
R G 265	1F20p~ 2F3c IV層	28.9	70~40 40~18	断面図なし。				
R G 266	2F3a IV層	1.9	40 18	断面図なし。				
R G 268	1C22h~ 2C8c IV層	26.5 28~16	約60 45~30	自然堆積と思われる。排水目的と思われる。		RG043より新。RG223・RG264・RG272より古。	231	
R G 269	1C21h~ 2C8c IV層	27 18~9	55~40 40~30	自然堆積でよいと思われる。排水。		RG271より新。RG223より古。	231	
R G 270	2-D11c IV層	3.1 19	40 23	自然堆積でよいと思われる。			202・222	
R G 271	27 27	110~60 50~30		自然堆積で黒褐色土上層。		RG043より新。RG272より古。	211・221	
R G 272	27 18	51 30		黒褐色土の単層。自然堆積か。		RG271より新。	211・221	



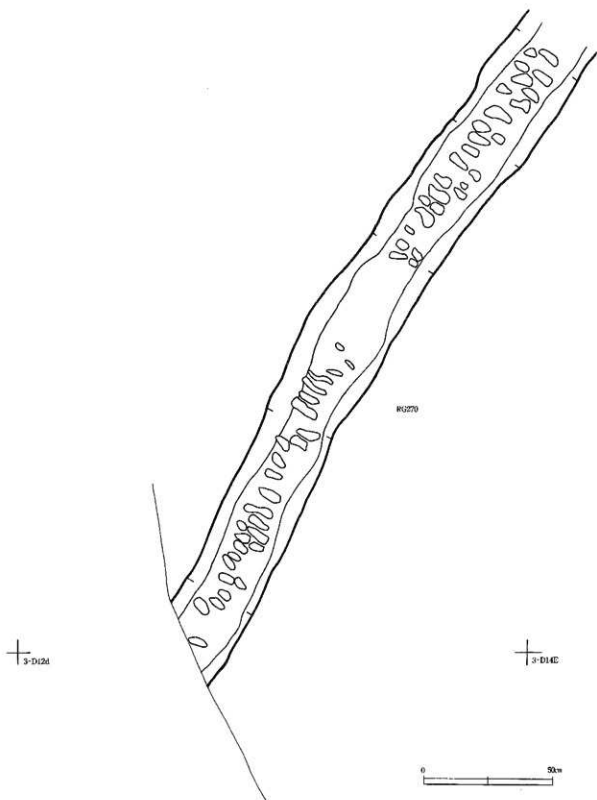
第201図 RG溝・堀跡(1)



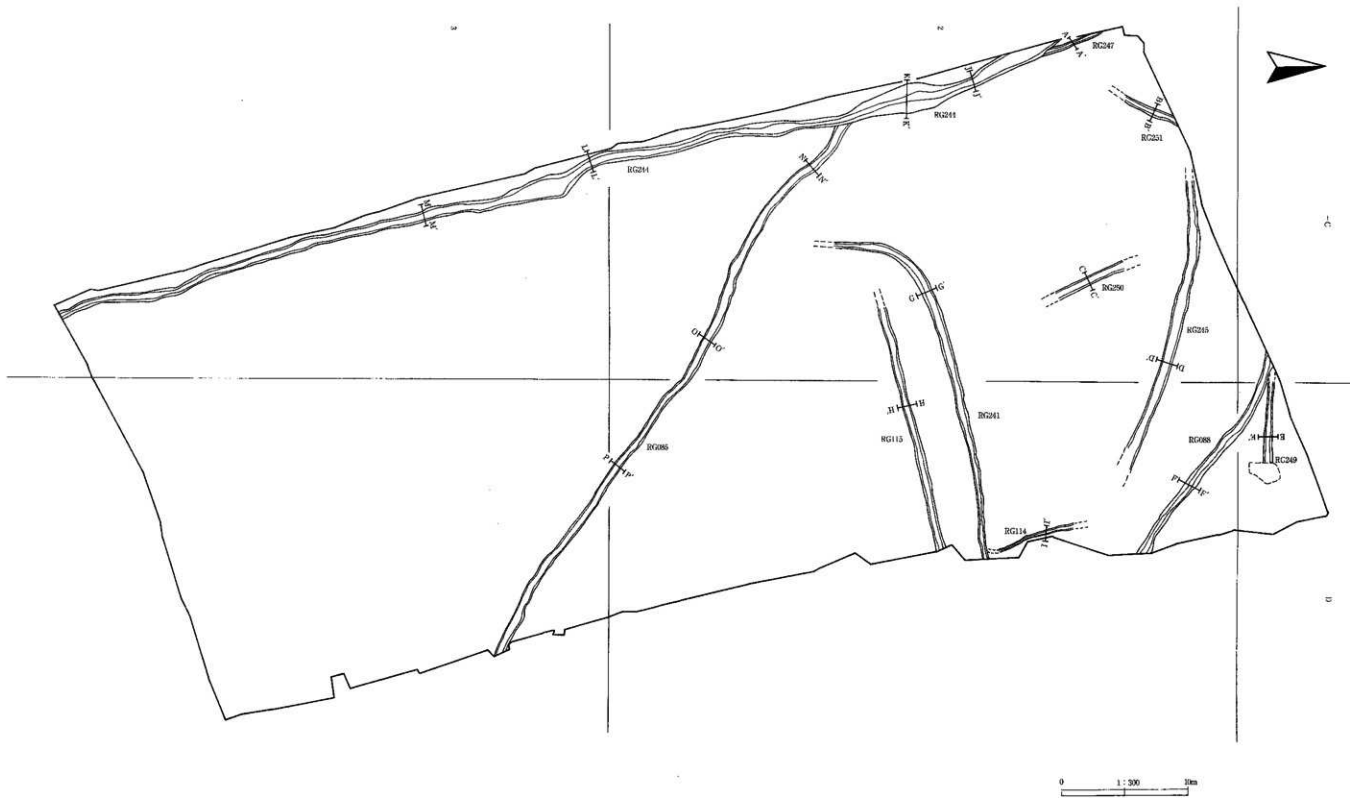
第202図 RG溝・堀跡 (2)



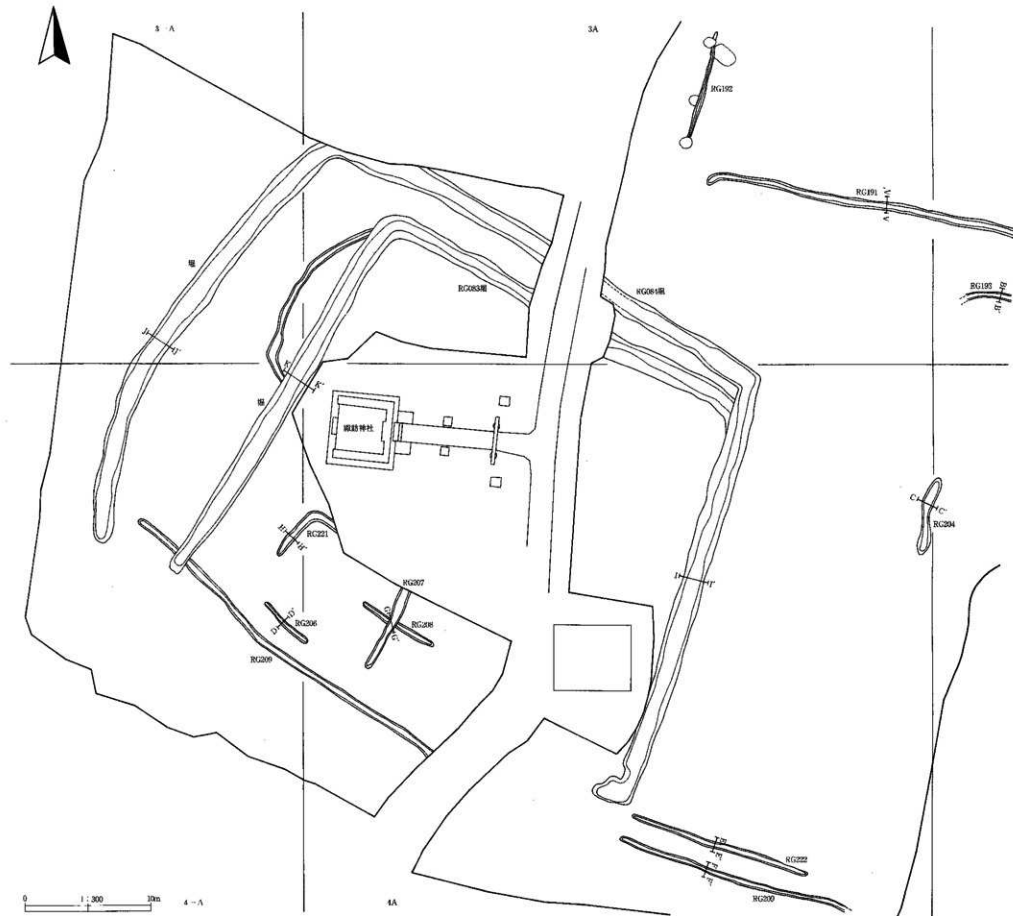
第203図 RG溝・堀跡 (3)



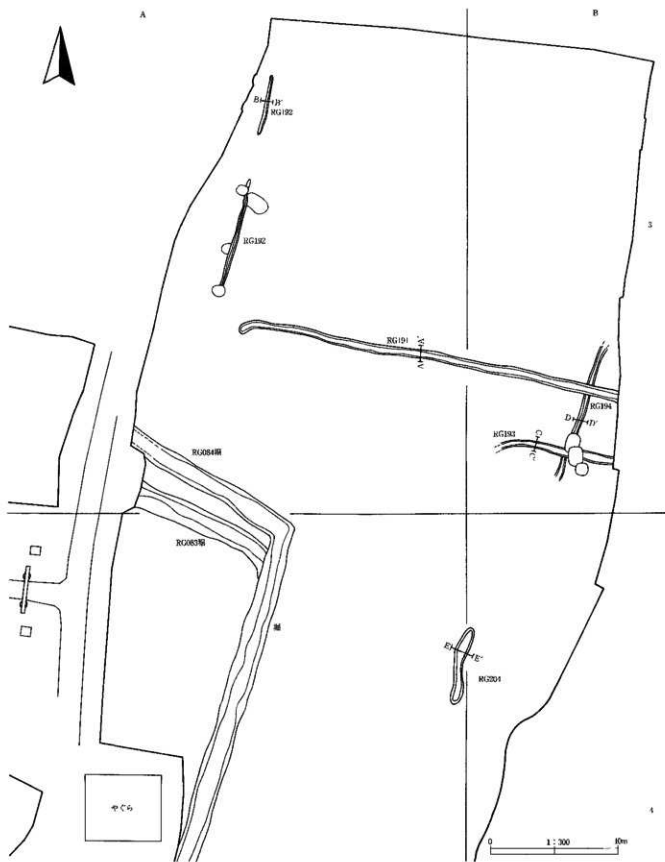
第204図 RG溝・堤跡 (4)



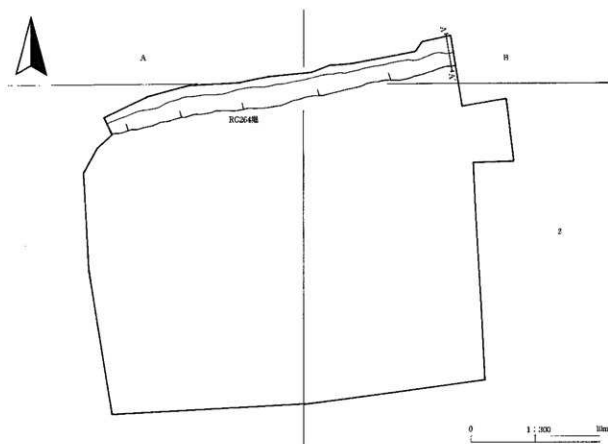
第205図 RG溝・堀跡(5)



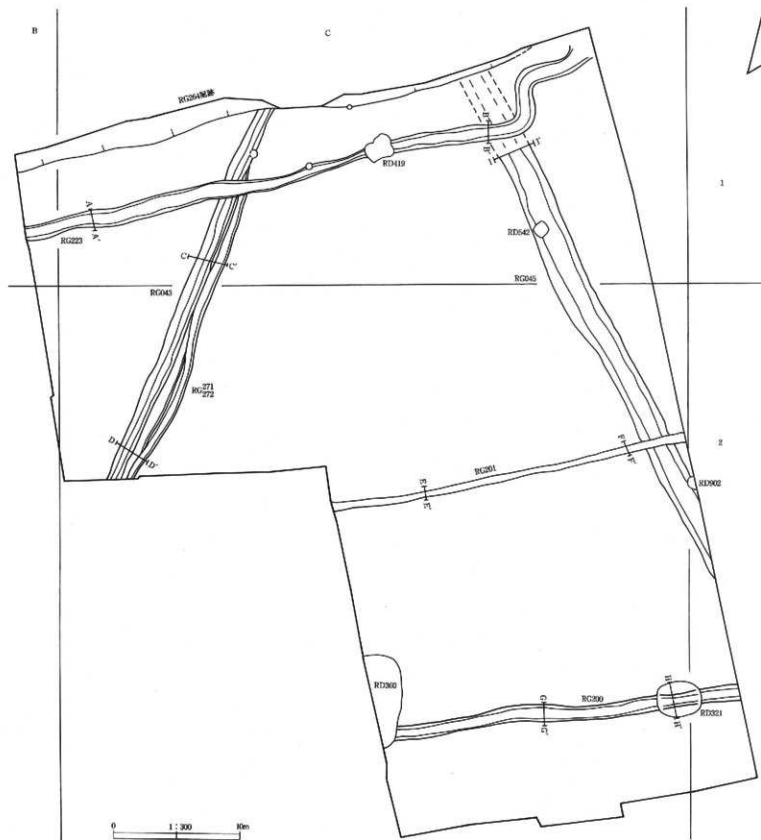
第206図 RG溝・堀跡 (6)



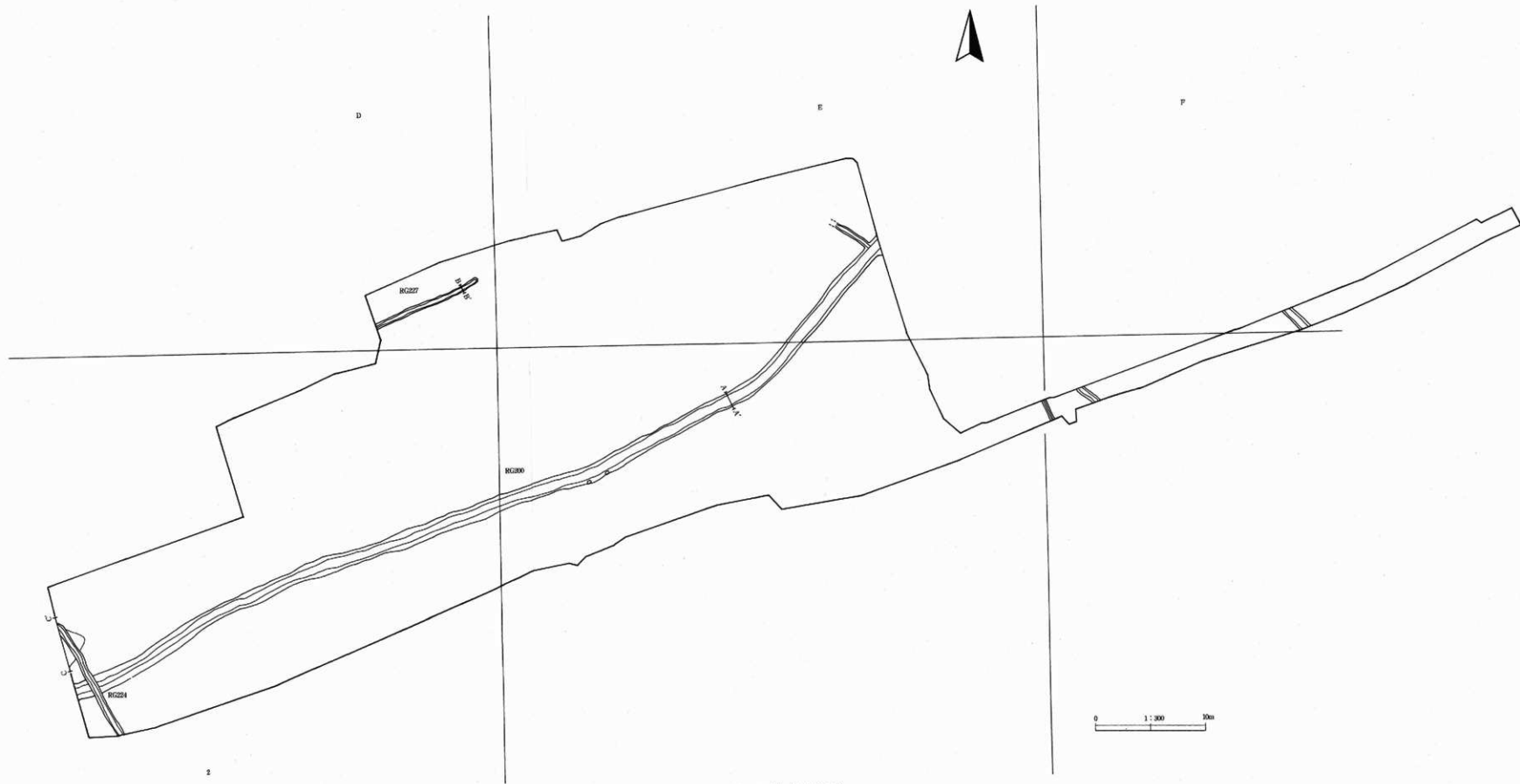
第207図 RG溝・垣跡 (7)



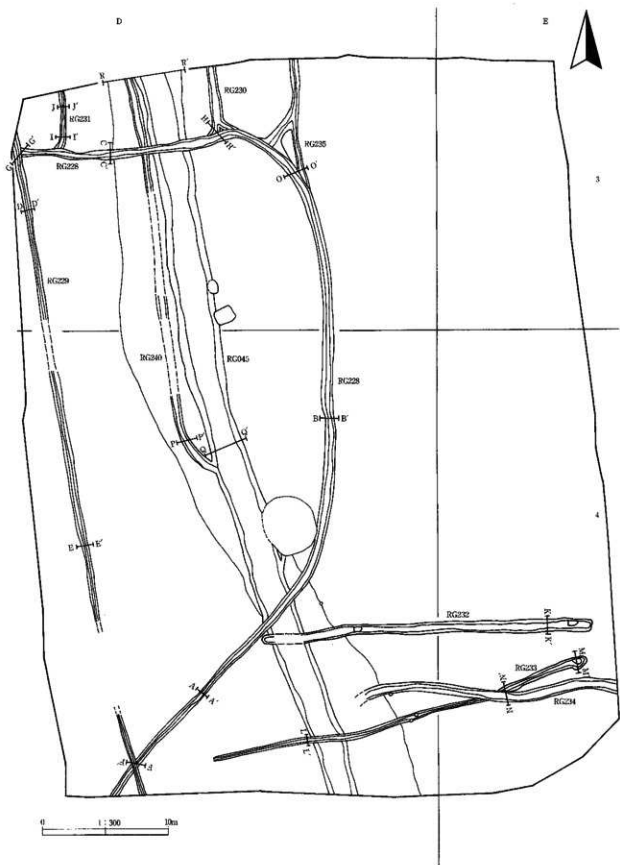
第208図 RG溝・堀跡（8）



第210圖 RG清・堀跡 (10)

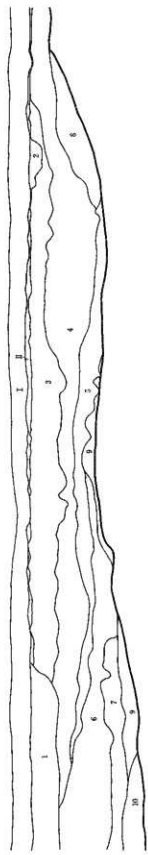


第211図 RG溝・堀跡 (11)



第212圖 RG溝・堀跡 (12)

K L=125.00m



- RC248 (5X7) 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
1. 10YR5/3 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
 2. 10YR5/1 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
 3. 10YR4/1 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
 4. 10YR5/2 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
 5. 10YR5/3 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。

6. 10YR5/4 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
7. 10YR5/1 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
8. 10YR5/2 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
9. 10YR4/2 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
10. 10YR5/3 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。



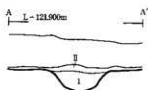
- RC088-242 (5T)
1. 10YR5/2 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
 2. 10YR5/1 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
 3. 10YR5/3 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。



- RC088 (5T)
1. 10YR5/2 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
 2. 10YR4/4 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。
 3. 10YR4/4 河床砂質土、粘性なし、礫よりなり、礫層の厚さ約10cm、水質は良質。

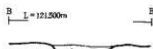
0 1:40 100

第213図 RG溝・廻跡 (13)



RG073 (A-A')

1. 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性やや有り、
締まり有り。



RG253 (B-B')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
水酸化鉄質有り。



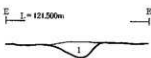
RG073 (C-C')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。
固く締まる。水酸化鉄質有り。
2. 10YR3/4 暗褐色砂質土 固く
締まる。水酸化鉄質有り。



RG244 (D-D')

1. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性有り。固く締まる。
水酸化鉄ごく微量含む。
2. 10YR4/4 暗色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
水酸化鉄少量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
褐色砂質土 (10YR4/4)。水酸化鉄ごく微量含む。



RG245 (E-E')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。



RG073・214・216 (F-F')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄
ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。



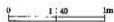
RG251 (G-G')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
水酸化鉄質有り。

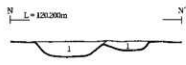


RG243 (H-H')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
褐色土 (10YR4/4) 微量含む。



第214図 RG溝・堀跡 (14)



RG233 (N-N')

1. 10YR3/2 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4・径0.5-2cm) 少量含む。

RG234 (N-N')

1. 10YR5/2 暗褐色シルト質土 粘性・締まりやや有り。褐色地山ブロック (10YR4/4・径2cm) ごく少量含む。



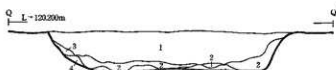
RG228-235 (O-O')

1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや有り、固く締まる。
2. 10YR3/2 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。



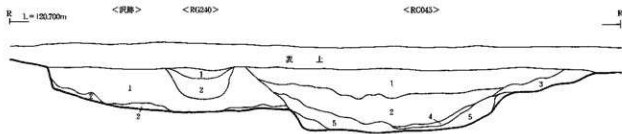
RG240 (P-P')

1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。



RG045 (Q-Q')

1. 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。黄褐色地山ブロック (10YR5/6) ごく少量含む。
2. 10YR3/2 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。黄褐色地山ブロック (10YR5/6・径0.5-1cm) 少量散在含む。
3. 10YR2/2 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。暗褐色土 (10YR3/2) にじむように散在含む。
4. 10YR2/2 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。黄褐色地山ブロック (10YR5/6・径1-3cm) 含む。

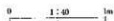


RG269 (R-R')

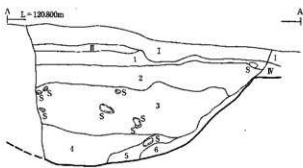
1. 10YR2/2 暗褐色土 粘性・締まり有り。
2. 10YR5/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。

RG245 (R-R')

1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性を欠く。固く締まる。水酸化鉄斑有り。
3. 10YR3/1 暗褐色土 粘性やや有り。固く締まる。水酸化鉄斑有り。
4. 10YR2/2 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
5. 10YR3/2 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
6. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。

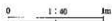


第215図 RG溝・堀跡 (15)

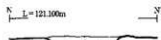


RG26横 (A-A')

1. 10YR3/2 粘性を欠く。締まり有り。河原石少量。砂質褐色土ブロック層を含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。河原石 (径3~5cm) 少量含む。石質土層を含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。河原石 (径5cm) 少量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。河原石 (径1~5cm) 多量。炭酸塩を含む。水酸化鉄塊を含む。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。河原石 (径1~10cm) 多量を含む。水酸化鉄塊有り。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。上に5~8cm厚の砂質土ブロック (10YR3/2) 河原石少量含む。水酸化鉄塊有り。

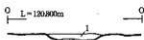


第216図 RG溝・堀跡 (16)



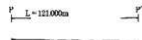
RG85 (N-N')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。石 (径5~10cm) 多量含む。水分多い。



RG85 (O-O')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水分多い。
2. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性・締まり有り。水分多い。
3. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・締まり有り。



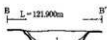
RG85 (P-P')

1. 10YR2/2-3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。1層より砂が大きい。



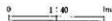
RG85 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色土 炭化物・結核性土。ごく微量含む。



RG225 (B-B')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。



第217図 RG溝・堀跡 (17)



RG191 (A-A')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り、やや砂質。



RG193 (B-B')

1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりやや有り、褐色土ブロック少量含む。



RG204 (C-C')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
2. 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性を欠く、締まりやや有り、地山ブロック多量含む。



RG206 (D-D')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、締まりやや有り、水酸化鉄膜有り。



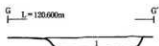
RG222 (E-E')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、礫(小・中)含む。



RG209 (F-F')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、礫(小・中)含む。



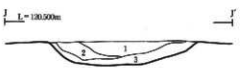
RG207-208 (G-G')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り、礫(小・中)含む。



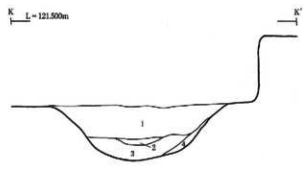
RG221 (H-H')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、締まりやや有り、水酸化鉄膜有り。



RG208 (I-I', J-J')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、河原石(小・中)多量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、河原石(小)少量含む。

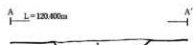


RG203 (K-K')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、小礫含む、2層との間に泥紋が見られる。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、小礫多量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし、締まり有り、小礫少量含む。
4. 10YR4/4 褐色砂質土及び礫層 粘性なし、締まっている。



第218図 RG溝・堀跡 (18)



RG198 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色土 柔らかい、小石少量含む。
2. 2.5YR5/8 暗赤褐色土 水酸化鉄含む。茶土。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘土と同じやや砂質。明赤褐色土 (2.5YR5/8) ごく微量含む。
4. 10YR1/2 灰黄褐色土 黒褐色土 (10YR2/2) との混合土。
5. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性有り、やや砂質。底部に明赤褐色土 (2.5YR5/8) 含む。



RG198 (D-D')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。深く締まる。炭含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。炭含む。水酸化鉄微量有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック微量含む。水酸化鉄微量有り。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック微量含む。水酸化鉄微量有り。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。
6. 10YR3/4 におい黄褐色土 粘性・締まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/2) で汚れている。
7. 10YR4/8 褐色砂質土 粘性やや有り。締まりを欠く。黒褐色土 (10YR2/2) で汚れている。水酸化鉄微量有り。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/8) しみ状に含む。



RG198 (B-B')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。
2. 2.5YR5/8 暗赤褐色土。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。やや砂質。
4. 10YR4/2 灰黄褐色土 黒褐色土 (10YR2/2) との混合土。明赤褐色土 (2.5YR5/8) 含む。



RG198 (E-E')

1. 10YR2/2 黒褐色土 水酸化鉄 少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。柔らかい。明赤褐色土 (2.5YR5/8) 灰黄褐色土 (10YR4/2) 少量含む。
3. 2.5YR5/8 暗赤褐色土 黒褐色土 (10YR2/2) が半分以上混じっている。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。灰黄褐色土 (10YR4/2) との混合土。



RG198 (C-C')

1. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まりやや有り。炭微量含む。水酸化鉄微量有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。灰黄褐色土ブロック (10YR5/2) 少量含む。



RG198 (F-F')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。深く締まる。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。



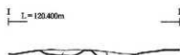
RG202 (G-G')

1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性を欠く。締まり有り。礫 (約5cm大) 部分的に含む。



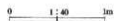
RG202 (H-H')

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性を欠く。礫 (約5cm大) 含む。
2. 7.5YR5/9 明褐色土 水酸化鉄の塊状物。
3. 10YR3/3-2/4 暗褐色砂質土 粘性・締まりを欠く。



RG203 (I-I')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR5/2) 水酸化鉄有り。





RG203 (J-J')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR5/2) 含む。水酸化膜有り。



RG203 (K-K')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。に多少の黄褐色土ブロック (10YR4/2)・土塊を含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりを欠く。に多少の黄褐色土ブロック (10YR4/2) との混合土。



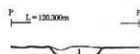
RG225 (O-O')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量。水酸化膜ごく微細含む。水酸化膜有り。



RG237 (R-R')

注記なし。



RG236 (P-P')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。明褐色土 (5YR5/6) ごく微細。水酸化膜含む。粘質に粘灰状物質土 (10YR5/1) 含む。



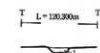
RG238 (S-S')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。黒褐色土 (10YR2/2) ごく微細含む。水酸化膜・明赤褐色土 (5YR3/6・1×6.5cm) プロット状に3層含む。



RG236 (Q-Q')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。明褐色土 (5YR5/6) ごく微細。水酸化膜 (1) 含む。灰黄赤くに黄褐色土質土 (10YR5/1) 含む。



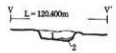
RG239 (T-T')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まり有り。黒褐色土 (10YR2/2)、明赤褐色土 (5YR3/4) 状況にごく微細含む。水酸化膜含む。



RG197 (U-U')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。明褐色土 (7.5YR5/8)、灰黄褐色土 (10YR3/2) 小粒でごく微細含む。灰黄に灰化膜わずかに含む。

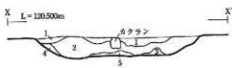


RG197 (V-V')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。明褐色土 (7.5YR5/8)、灰黄褐色土 (10YR3/2) 小粒でごく微細含む。灰黄に灰化膜混在含む。
2. 10YR4/2-3/2 灰黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。明褐色土 (7.5YR5/8) 小粒で含む。砂 (小粒) 微細含む。



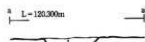
第220図 RG溝・掘跡 (20)



- RG189 (W-W', X-X', Y-Y')
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 2. 10YR2/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。
 3. 10YR2/4 暗褐色土 粘性を欠く。締まりなし。砂粒を含む。
 4. 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 5. 10YR2/4 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし。微塵多し。



- RG190 (Z-Z')
1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック少量含む。



- RG191
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。炭粒を含む。



- RG191 (A-A')
1. 10YR2/2 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。



- RG192 (B-B')
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土小ブロック少量含む。



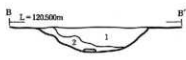
- RG193 (C-C')
1. 10YR2/2 暗褐色土 粘性を欠く。締まり有り。炭 (50μm以下) 含む。



- RG194 (D-D')
1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。縦線に褐色土ブロック含む。

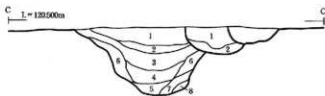


第221図 RG溝・堀跡 (21)



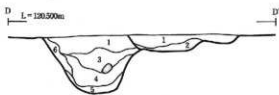
RG223 (A-A', B-B')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/0) ごく微量含む。



RG043 (C-C', D-D')

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性を欠く。締まり有り。水酸化鉄斑有り。
2. 10YR4/3 同上・黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。河原石含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。水酸化鉄斑有り。
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。水酸化鉄斑有り。
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。火山ブロック少量含む。
7. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。火山ブロックごく微量含む。
8. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。黒褐色土など含む。



RG271 (C-C', D-D')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。火山ブロック含む。

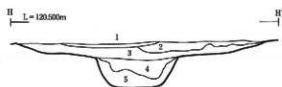
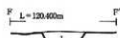
RG272 (C-C', D-D')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。



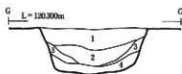
RG201 (E-E', F-F')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。火山ブロック含む。



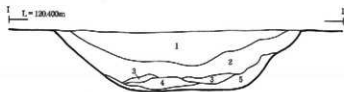
RG280 (H-H')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。上部中心に暗褐色土 (10YR3/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土 (10YR4/0) ごく微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/0) 粒状ごく微量含む。水酸化鉄含む。
4. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄ごく微量含む。
5. 覆り下葎(砂) 粘性・締まりなし。水酸化鉄含む。



RG200 (G-G')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。水酸化鉄斑有り。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まりやや有り。埋藏層土。
4. 10YR3/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。水酸化鉄斑有り。



RG045 (I-I')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。火山ブロック少量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。河原石 (小) 少量含む。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。
5. 10YR3/2 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。河原石微量含む。

0 1:40 1m

第222図 RG溝・堤跡 (22)



RG203 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし、締まり有り、褐色砂質プロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り、褐色砂質土 (10YR4/6) ごく微量含む。



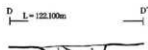
RG206 (B-B')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。
3. 10YR2/1 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。



RG270 (C-C')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、堅く締まる。



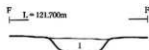
RG258・259 (D-D')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り、締まりなし。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、締まりなし、褐色土プロック (10YR4/6) 微量含む。



RG265・266 (E-E')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、L.A.s-黄褐色砂質土 (10YR4/3) ごく微量含む。



RG255 (F-F')

1. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り、締まりやや有り。



RG255 (G-G')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、締まりやや有り、褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、黄褐色砂質土 (10YR5/6) ごく微量含む。



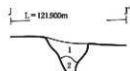
RG262 (H-H')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り、褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む、表面に小石 (径2×3cm) 有り。



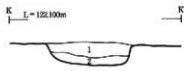
RG261 (I-I')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。



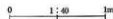
RG261 (J-J')

1. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性、締まりやや有り。



RG254 (K-K')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まりやや有り、褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。





RG247 (A-A')
1. 10YR4/4 黒褐色砂質土 粘性・締まり有り。



RG251 (B-B')
1. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・締まりやや有り。
褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。



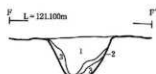
RG259 (C-C')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
2. 10YR3/4 黒褐色土 粘性・締まり有り。



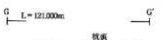
RG245 (D-D')
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。
締まり有り。下部に黒褐色砂質土含む。



RG249 (E-E')
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。



RG268 (F-F')
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色砂質土プロット (10YR4/4) 少量含む。
3. 10YR3/4 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色砂質土 (10YR4/4) 少量含む。



RG241 (G-G')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄ごく微量含む。



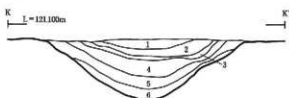
RG115 (H-H')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。



RG114 (I-I')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。



RG244 (J-J')
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。粘土ごく微量含む。
2. 10YR2/2-3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
3. 縦溝 東端は狭く、西端は広い。小石 (径1-2cm) 多量含む。



RG244 (K-K')
1. 10YR3/2-2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
2. 10YR3/2-2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。弾力有り。水酸化鉄ごく微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄ごく微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。水酸化鉄ごく微量含む。5層より水分少ない。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。水分多い。
6. 縦溝 粘性なし。締まり有り。東端は黒褐色土 (10YR3/2)。西・中央に小石 (径1-2cm) 多量含む。水分多い。



RG244 (L-L')
1. 10YR2/2-3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。下部は砂層を含む。



RG244 (M-M')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。

第224図 RG溝・堀跡 (24)



RG228 (A-A')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性有り。締まり有り。褐色地山段 (10YR4/4) ごく微量含む。



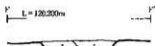
RG228 (B-B')

1. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR1/4 褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。地山ブロック少量含む。



RG228 (C-C')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性の中有り。締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性有り。締まりを欠く。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。



RG228 (F-F')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック微量含む。



RG229 (F-F')

1. 10YR2/3 黒褐色シルト質土 粘性有り。締まりやや有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。



RG228-229 (G-G')

1. 10YR2/3 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。

RG229 (D-D', E-E')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック微量含む。



RG228-230 (H-H')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4・径1-2mm) ごく微量含む。



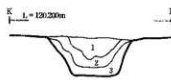
RG231 (I-I')

1. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。



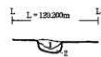
RG231 (J-J')

1. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。



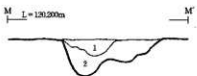
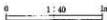
RG232 (K-K')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) 微量含む。
3. 10YR4/4 褐色砂質シルト質土 粘性有り。締まりやや有り。暗褐色土 (10YR3/3) との混合土。



RG233 (L-L')

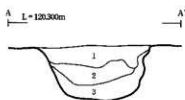
1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性・締まり有り。黒褐色土 (10YR3/2) 少量にごく微量含む。



RG233 (M-M')

1. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性有り。締まりやや有り。褐色地山ブロック (10YR4/4・径0.5-3mm) 微量含む。

第225図 RG溝・堀跡 (25)



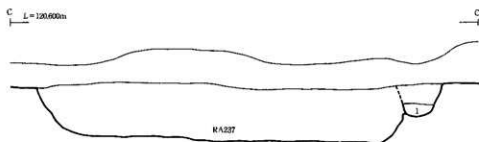
RG200 (A-A')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。
褐色土粒 (7.5YR4/4)、炭化物粒ごく微量含む。
水酸化鉄跡有り。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。
褐色土粒 (7.5YR4/4) 少量・炭化物粒ごく微量含む。
水酸化鉄跡有り。
3. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。
褐色土粒 (7.5YR4/4) 微量・黄褐色土粒 (2.5YR5/2)、
炭化物粒ごく微量含む。水酸化鉄跡有り。



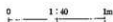
RG227 (B-B')

1. 10YR3/4 粘褐色シルト質土 粘性・締まり有り。
黄褐色地山ブロック (10YR5/5) ごく微量含む。
2. 10YR3/2 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。
黄褐色地山ブロック (10YR5/5) 少量含む。



RG236 (C-C')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。

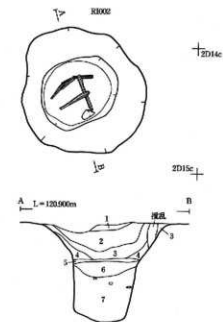


第226図 RG溝・堀跡 (26)

8 井戸跡

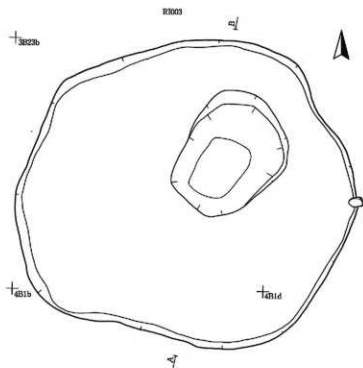
R1002井戸跡 (第227図・写真図版264)

<位置・重複関係>本遺跡東側2-B14b区に位置し、IV層にて検出された。RG173と重複しているが、本遺構のほうが古い。 <規模・形跡>開口部は不整な円形を呈し215×198cm、底部は楕円形で114×96cmを測る。深さは157cm程あり、底から100cm位まではほぼ垂直に立ち上がり、そこから外側に開いて開口部に至る。 <埋土>大きく7層に大別した。埋土中層から下層に関しては人為的に埋め戻されているようであるが、埋土上層に関しては、自然堆積か人為堆積か解らなかつた。本遺構は砂礫層まで掘り込まれており、完掘すると湧水が認められた。 <その他>木材が若干残っていたことから木枠を持つと推測されるが、具体的な構造については把握できなかった。 <遺物>出土遺物なし。 <時期>不明である。



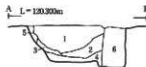
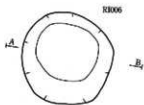
K000

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
- 10YR4/4 褐色砂質土ごく微塵含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
- 10YR4/4 褐色砂質土ブロック微塵含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。4層との境に強く10cm次の薄層状含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
- 10YR4/4 褐色砂質土ごく微塵含む。
- 7.5YR6/8 橙色土 粘性。締まりなし。やや砂質。遺構外に帯状にのみ。
- 10YR2/1 黒色土 粘性極めて有り。締まりなし。
- 7.5YR6/8 橙色土の水酸化成分。10YR5/1 陶灰色土ごく微塵含む。陶灰のグレイ化分。
- 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりなし。10YR5/1 陶灰色土（グレイ化した土山）微塵含む。



K001

- 10YR2/3 黒褐色土 炭粉をごく微塵含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
- 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロックを少量含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
- 10YR2/3 黒褐色土と褐色土の混合土。粘性やや有り。締まり有り。
- 10YR3/3 暗褐色土 若干砂っぽい。褐色土。黒褐色土ブロックを不規則に含む。炭粉も含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
- 10YR3/4 暗褐色砂 粘性なし。締まりやや有り。



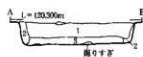
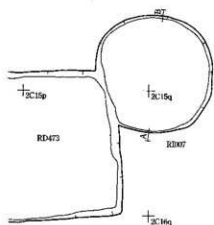
K006

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。褐色土(10YR4/4)ブロック微塵含む。炭粉。炭微塵含む。径1-3cm及び人頭よりやや小さいの礫含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや弱。

- 10YR2/2-2/3 黒褐色土 締まりやや有り。上層に黒褐色土(10YR5/4)ブロック少量含む。
- 10YR2/2-2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや弱。黒褐色土と褐色土ブロック少量含む。
- 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まり有り。黒褐色土でとこれている。(炭層上)
- 10YR4/1 陶灰色 粘性に乏しく。締まりなし。褐色土(10YR4/4)ブロック含む。締まる。下からは水が湧きだしてくる。(底に汗口跡としたが十兆か?) (新しい堀めどしか?)

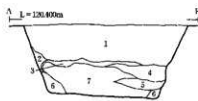
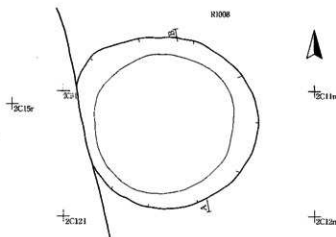
0 1:60 1m

第227図 RI 井戸跡(1)



R1007

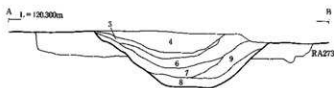
1. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック状粒・小礫を含む。粘性・締まりやや有り。
2. 10YR4/4 暗色土 黒褐色土がごく少量含む。粘性・締まりやや有り。
3. 10YR3/4 褐色土 黒褐色土が少量含む。粘性・締まりやや有り。



R1008

1. 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック小中礫を多量含む。粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
3. 5YR6/8 棕色 粘性やや有り。締まっている。
4. 10YR3/3 暗褐色土 少量含む。粘性やや有り。締まっている。
5. 5YR6/8 棕色 礫大量を含む。粘性弱。締まっている。
6. 10YR4/4 暗褐色土 礫大量を含む。粘性弱。締まっている。
7. 5B2/1 青黒砂質土 礫少量含む。粘性有り。締まりやや有り。

R1009



R1009

4. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性やや有り。締まり弱。
5. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック大量含む。粘性やや有り。締まっている。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
7. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。(既報告)
8. 10YR4/4 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。
9. 10YR3/4 暗褐色土 褐色砂質土ブロック含む。粘性やや有り。締まっている。

0 1:60 1m

第228図 R1井戸跡(2)

R1003 井戸跡 (第227図・写真図版264)

<位置・重複関係>遺跡中央南側、3 B23c 区に位置し、Ⅳ層面にて検出された。RG194とは同時期になるかもしれない。<規模・形態>平面形は不整な円形を呈する。開口部径は5.4×4.9mを呈し緩やかに掘り下げているが、その内側を不整な隅丸長方形に2.1×1.5mの範囲をほぼ垂直に掘り込んでいる。深さは検出面から最大で0.9m程であった。<埋土>自然堆積の様相を早する。<その他>礎石を掘り込んで構築されている。井戸というには浅かったが底面まで掘り下げた段階で湧水が認められた。井戸枠などはみられなかった。<遺物>出土遺物なし。<時期>遺構に伴う遺物はないが、周辺から検出されている遺構の状況から、中世及びそれ以降ではないかという印象をもつ。

R1006 井戸跡 (第227図)

<位置・重複関係>本遺跡中央南側4 B2 j 区に位置し、Ⅳ層面にて検出された。周囲には中世の遺構が多く分布し北側を中心に墓塚群が、南東から南側にかけては堅穴建物跡がまぎらまぎら見られる他、この時期の柱穴も多く検出されている。<規模・形態>検出面では145×143cm、底部で109×88cm、深さは60cmを測る。平面形は開口部では円形を基調とし、平坦な底部から外傾して立ち上がっている。<埋土>5層に分けられた。埋土上層の1層は焼土・炭粒・中小礫などを含む人為堆積。2～5層は崩落土を含む自然堆積と考えられる。<その他>近隣の中世墓群の埋土とは様相が異なること、底面まで掘り下げた段階で水が湧き出してきた事などから井戸として登録したが、井戸枠、石積などは認められなかった。<遺物>無し。<時期>周辺の状況から中世に属すると思われる。

R1007 井戸跡 (第228図・写真図版264)

<位置・重複関係>本遺跡の中央部やや南側2 C15q 区に位置し、他の遺構と同様Ⅳ層面にて検出された。RD473と重複し、本遺構のほうが新しい。<規模・形態>開口部径190×185cm、底部径186×184cm、深さは36cm程である。平面形は円形を呈し、底部は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。<埋土>人為体積と思われる。壁面付近は崩落を防ぐためなのか褐色土を貼り付けている。<その他>今回の調査で検出された井戸跡の中には比較的浅いものも見られるため本遺構に関しても井戸跡と考えたが、井戸にしては浅すぎること、底面まで掘り下げても湧水がないことなど他の施設の可能性もある。<遺物>無し。<時期>RD473との重複関係や周辺で検出された遺構などから、近世かそれ以降に属すると思われる。

R1008 井戸跡 (第228図・写真図版264)

<位置・重複関係>本遺跡の中ではほぼ中央部、2 C11 l 区に位置し、Ⅳ層面にて検出された。<規模・形態>西側の一部が調査区外に達しているが、平面形は円形を呈する。検出面で284×276cm、底面で226×222cm、深さは114cmを測る。壁は平坦な底面から一旦垂直気味に50cm程立ち上がり、それから外傾して立ち上がっている。<埋土>中小の自然礫及び地山ブロックを多量に含み埋め戻された様相を呈する。また、埋土下層はグライ化している。<その他>底面近くまで掘り下げた段階で水が浸み出してきた。木枠やイ組みなどの施設は持たないと思われる。<遺物>出土遺物なし。<時期>時期を特定する資料を欠くが、周辺に分布する遺構や、埋土の状況から近代以降の所属と思われる。

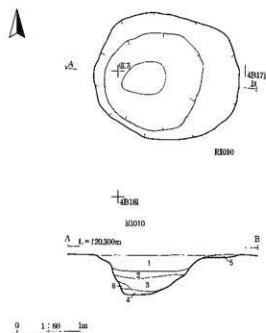
R1009 井戸跡 (第228図・写真図版265)

<位置・重複関係>本遺跡南東側、3 E23a 区に位置している。RA273と重複し、本遺構の方が新しい。

＜規模・形態＞開口部径323×282cm、底部径126×114cm、深さは87cm程で平面形は不整形である。底部は概ね平坦で、壁は緩やかに外側に開きながら立ち上がっている。＜埋土＞黒褐色土の中に地山ブロックが混じる埋土上層は人為堆積と思われる。暗褐色土及び褐灰色砂質土で構成される埋土下層は自然堆積の様相を呈する。＜その他＞底面は砂礫層に達しており、若干の湧水も認められた。土留め等の施設を持たない地面を掘り下げただけの井戸であったと思われる。＜遺物＞出土遺物なし。＜時期＞RA273との重複関係から奈良時代よりは新しい遺構である。本遺構の南東側10m程の所に中世の柱穴群及び土坑等が検出されている。また、周囲には奈良時代以外の遺構が先述した中世の柱穴群及び土坑等しか見られないことからこの井戸も中世に属する可能性がある。

R1010 井戸跡 (第229図・写真図版265)

＜位置・重複関係＞遺跡の南側中央、4B171区に位置しIV層面に検出された。＜規模・形態＞開口部径230×202cm、底部径74×53cm、深さは63cmを測る。平面形は円形を基調とし壁は、西側より東側のほうが底部から緩やかに立ち上がっている。＜埋土＞黒褐色土及び黒色土に水酸化鉄と炭粒を含み、埋土下層では黒色砂質土となる。＜その他＞本遺構のすぐ北側からは竊穴群や壑穴建物跡・掘建柱建物跡をはじめとする中世の遺構が多数見つかっている。また、南側には湿地が広がっており比較的水の湧き出し易い地点に井戸を掘っているといえそうである。井戸の構造については井戸枠など施設は認められなかったため単に地面を掘り下げただけのものと考えられる。＜遺物＞出土遺物なし。＜時期＞周辺で検出された遺構との関係から中世に属すると思われる。



R1010

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘り有り。水酸化鉄多量に混入。炭1%含む。地山ブロック25%含む。
2. 10YR3/1 暗褐色土 粘性・粘り有り。粘り有り。水酸化鉄多量有り。炭0.5%含む。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性・粘り有り。粘り有り。炭0.5%含む。
4. 5YR2/1 黒色砂質土 粘性・粘り有り。粘り有り。
5. 10YR2/3 黒褐色土 地山土50%含む。水酸化鉄多量に含む。粘性・粘り有り。粘り有り。
6. 10Y2/4 褐色砂質土 (壁の構成) 砂9.20%含む。

第229図 R1 井戸跡 (3)

9 その他の遺構

(1) 円形周溝

RZ010 円形周溝 (第230図・写真図版268)

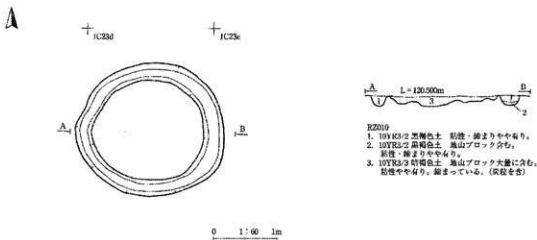
＜位置・重複関係＞本遺跡のやや東側、1C23d区に位置する。IV層面で検出され重複関係はない。
＜規模・形態＞上幅36～22cm、下幅18～11cmの溝がほぼ円形に巡っている。直径は約2.3m。周溝の深さは18～12cm程である。＜埋土＞周溝は自然堆積でよいと思われる。周溝の内側も一旦掘り込まれた後、土を入れているようである。＜その他＞現況からはマウンドなどの上部構造は把握できなかった。検出段階で河原石などが出土したわけでもない。近所の住人の中にはこの付近から蕨手刀が出たと語る人もおられるが具体的な地点についてはわからないとのことであった。＜遺物＞出土遺物なし。＜時期＞遺物を伴わないため広く古代と位置付けたい。

RZ013 円形周溝 (第231図・写真図版270)

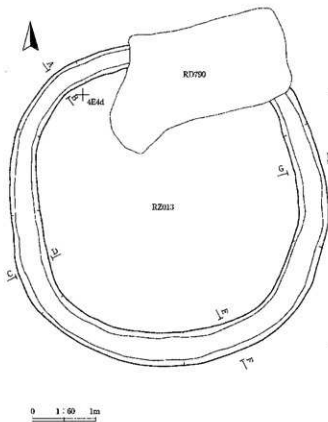
＜位置・重複関係＞本遺跡の南東側（休耕田）、4E4d区に位置しIV層面で検出された。RD790及び柱穴群より古い。＜規模・形態＞上幅53～36cm、下幅38～28cm、深さ22～13cmの溝がほぼ円形に巡っている。直径は5.2～5.0mを測り、周溝の底面は概ね平坦であった。＜埋土＞自然堆積の様相を呈する。＜その他＞周溝の内側から遺構は検出されなかった。＜遺物＞なし。＜時期＞遺物を伴わなかったが古代の遺構でよいと思われる。

RZ015 円形周溝 (第231図・写真図版272)

＜位置・重複関係＞本遺跡の南東側、3D8s区に位置し、IV層面で検出された。RG045より古い。
＜規模・形態＞上幅58～34cm、下幅42～20cm、深さ26～10cmの溝が不整な長円形状に巡っている。長さは北西-南東4.6m、北東-南西は4.0m程と推測され、周溝の底面は凹凸となるものではない。＜埋土＞自然堆積と思われる。＜その他＞周溝の内側からはとくに遺構は検出されていない。表土を重機により除去したため失われたのかもしれない。＜遺物＞出土遺物なし。＜時期＞時期決定の資料を欠くが古代の遺構でよいと思われる。



第230図 RZ010 円形周溝



- A-B
1. 10YR2/3 黒褐色土
粘性やや有り。締まっている。
 2. 10YR2/2 黒褐色土
堆山ブロック多量含む。
粘性・締まりやや有り。



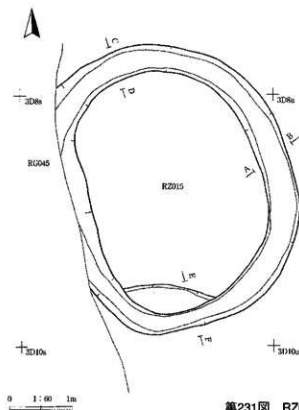
- C-D
1. 10YR3/2 黒褐色土
堆山ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まっている。
 2. 10YR3/3 黒褐色土
堆山ブロック多量含む。
粘性・締まりやや有り。



- E-F
1. 10YR2/3 黒褐色土
堆山ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まっている。
 2. 10YR3/4 黒褐色土
堆山ブロック多量含む。
粘性やや有り。締まっている。
 3. 10YR5/6 黄褐色土
黒褐色ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まっている。



- G-H
1. 10YR2/3 黒褐色土
堆山ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まっている。
 2. 10YR3/6 黄褐色土
黒褐色土少量混じる。
粘性やや有り。締まっている。



- A-B
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
堆山砂 (10YR4/4 褐色)
3%含む。
 2. 10YR3/3 黒褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
堆山ブロック (10YR4/4 褐色)
15mm-20mm30%含む。

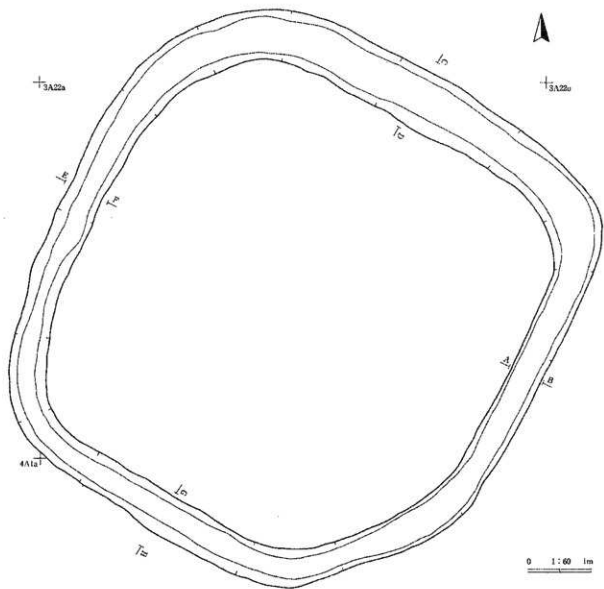


- C-D
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
堆山砂 (10YR4/6 褐色)
3%含む。
 2. 10YR3/3 黒褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
堆山砂 (10YR4/6 褐色)
3%含む。堆山ブロック
(10YR4/6 褐色)
15mm-20mm15%含む。



- E-F
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
 2. 10YR3/3 黒褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
堆山砂 (10YR5/6 褐色)
3%含む。

第231図 RZ013・015円形周溝



L=120600m



A-B
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まっている。

C L=120600m D



C-D
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。中小礫を若干含む。締まっている。
2. 10YR3/3 暗褐色土と褐色土の混生。粘性やや有り。締まっている。

L=120600m



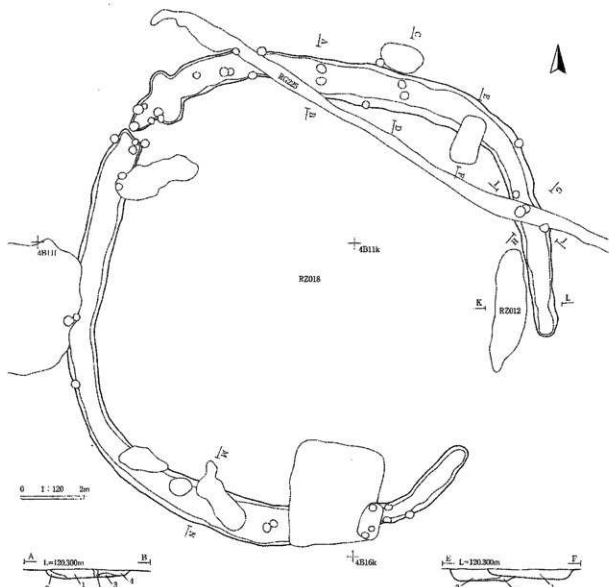
E-F
1. 10YR3/3 暗褐色土 小礫を少量含む。粘性やや有り。締まっている。

L=120600m



G-H
1. 10YR3/3 暗褐色土 中小礫含む。粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR4/4 褐色土と暗褐色土の混生。粘性やや有り。締まっている。

第232図 RZ017円形周溝

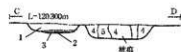


RZ018 (RZ225との重複)

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、褐色土粒ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土ブロック微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土多量を含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱、締まり有り、褐色土ブロック微量含む。

RZ018 (RZ709との重複)

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、灰粒・塊上粒ごく微量含む、褐色土微量含む。(R1700)
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土ごく微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土と褐色土との混合土、粘性・締まり有り。



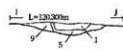
RZ018 (RZ709との重複)

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、灰粒・塊上粒微量含む、褐色土ブロック多量を含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、締まり弱、灰粒微量を含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土ブロック少量含む。
5. 10YR2/1 褐色土 粘性有り、締まり有り、黒褐色土多量、灰・塊上粒ごく微量含む。



RZ018 (RZ2012) (G-H I-J)

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、水酸化鉄多量に有り、灰粒ごく微量、に高い黄褐色土粒微量含む。
2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り、締まり有り、褐色土粒ごく微量含む。
3. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土微量含む。
4. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・締まり有り、小礫散見される。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土微量、中小礫散見含む。
6. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・締まり有り、灰粒少量含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、締まりやや弱、褐色土多量を含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土多量を含む。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り、褐色土ごく微量含む。



0 1:90 1m

第233図 RZ018円形両溝 (1)

RZ017 円形周溝 (第232図・写真図版274)

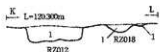
<位置・重複関係>本遺跡の中央部南側、3-A23r区に位置し、IV層面に検出された。<規模・形態>上幅88~48cm、下幅60~18cmの溝が隅丸方形に巡っている。北東-南西方向で8.4m、南東-北西方向8.1mを測る。周溝は深さ29~12cmで南側約半分は障層を掘り込んでいる。<埋土>自然堆積でよいと思われる。<その他>周溝の内側ではとくに遺構を確認できなかった。現況からも同様である。本遺構から最も近い古代の住居跡はR-A223(奈良時代)で東に約20m、他にR-A230(奈良時代)が北に約60mのところにある。平安時代の住居跡は周辺では確認されなかった。<遺物>出土遺物なし。<時期>遺物を伴わなかったが古代の遺構と思われる。

RZ018 円形周溝 (第233・234図・写真図版275)

<位置・重複関係>本遺跡南側中央部、4-B11kグリッド付近に位置し、IV層面に検出された。R-A280・R-E043・R-D769・R-F039・R-F047・R-F043・R-F052と重複するが本遺構の方が古い。<規模・形態>南北15.6m、東西15.1mに、上幅66~36cm、深さ約10cmの溝がほぼ円形に巡っている。南東側に溝が切れている箇所が存在する。<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積である。<その他>南東部にある溝が切れている部分については、意図的にこの部分を開口部としたとも考えられるし、掘り込みが本来浅くそのために失われたと考えることができる。残存する他の溝の部分も決して深くなく、丁度この部分にR-Z011が位置しており、失われたと判断したい。<遺物>なし。<時期>遺構に伴う遺物がなく時期不明である。

RZ019 円形周溝 (第235図・写真図版276)

<位置・重複関係>本遺跡西側、3-D12v~3-C19c区にかけて位置し、他の遺構と同様にIV層面にて検出された。R-D622・628・648ほかと重複するが本遺構のほうが古い。また、多数の柱穴とも重複しているが同様に本遺構のほうが古い。<規模・形態>平面径は円形というよりも隅丸方形に近く、西側では溝が一方所途切れている。北東-南西方向で8.6m、北西-南東方向では7.9mを測る。溝の上幅は40~30cm、下幅は33~23cm程で、深さは10cm前後しか残存していない。<埋土>溝の深さは10cm程と残存状態は良くない。黒褐色土を主体としその中にぶい黄褐色土がごく微量含まれている。自然堆積で良いと思われる。<その他>周溝の西側は一方所途切れた状態で検出されているが、現地表面からは40cm前



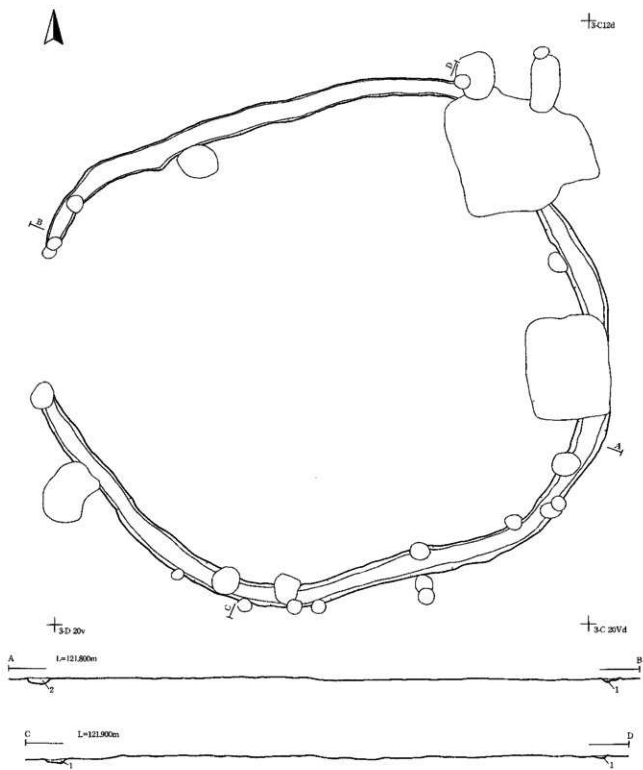
RZ018 (及びRZ012) K-L
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘まり有り。水酸化鉄屑多量に有り。
底にごく微量、ぶい黄褐色土粒少量を含む。

0 1:40 1m



RZ018 (RF052)の位置 M-N
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘まり有り。水酸化鉄屑有り。
底に、底にごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘まり有り。水酸化鉄屑有り。
底土・底に底土プロックごく微量含む。
3. 10YR4/4 黄褐色砂質土 粘性有り。粘まりやや弱。水酸化鉄屑有り。
黒褐色土少々含む。
4. 10YR3/1 黒褐色粘土 底に微量含む。水酸化鉄屑有り。粘まり弱。
5. 5YR2/3 暗赤褐色土
6. 5YR4/6 赤褐色粘土 黒褐色土ごく微量混じる。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。粘まりやや弱。
8. 10YR3/2 赤褐色土 粘性・粘まりやや弱。水酸化鉄屑有り。
褐色砂質土少々。底に微量含む。

第234図 RZ018円形周溝(2)



RZ019 A-B, C-D
 1. 10YR2/3 暗褐色土 粘土。跡まわり不々有り。
 2. 10YR2/3 暗褐色土 粘土。跡まわり不々有り。
 10YR2/4 (C 20V) 暗褐色土 粘土。跡まわり不々有り。

第235図 RZ019円形周溝

0 1:50 1m

後掘り下げて遺構検出したため、溝の深さは10cm前後しか残らない状態であった。そのため本来は溝が通っていた可能性も否定できない。周溝内部には時期の異なる土坑や柱穴群が見られるが、本遺構に伴う施設は把握できなかった。周辺では平安時代の堅穴住居跡が密集した状態で30棟以上確認されている。隣接しているもの本遺構との重複はなく、これは時間的に近いが、堅穴住居跡がつくられる以前に本遺構が存在していたことを意味していると思われる。〈遺物〉なし。〈時期〉遺構に伴った形で遺物の出土はないが、周囲の状況から平安時代かそれ以前に属すると思われる。

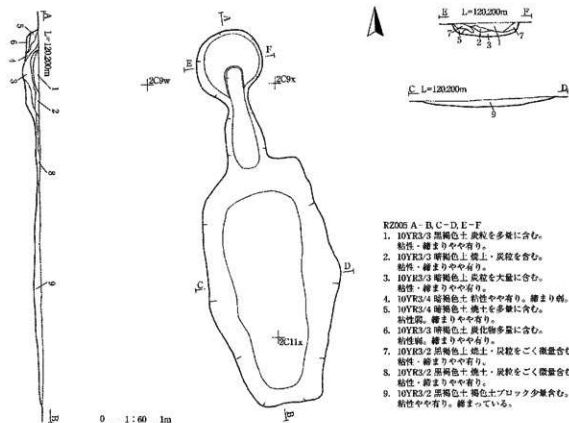
(2) 炭窯跡

RZ005 炭窯跡 (第236図・写真図版267)

〈位置・重複関係〉本遺跡の東側、2C9w区に位置し、IV層にて検出された。重複関係なし。

〈規模・形態〉検出面での規模は南北方向に長さ5.9m、最大幅は北側が1.04mで平面形はほぼ円形、南側は2.1mを測り不整な長方形を呈し両者の間が括れて狭くなっている。深さは北側が26cmなのに対し南側は最大13cmと浅く壁も底面から緩やかな立ち上がりとなっている。底面は硬く締まるものではない。

〈埋土〉残りの悪い部分もあるが自然堆積を呈すると思われる。平面形が円形を呈するほうでは壁に沿って焼土が北側を中心に堆積している。〈その他〉炭窯を想定し南側が窯本体、北側は煙道及び煙出しと考えたが、その割には炭化材や焼土が顕著に見られなかった。従って炭窯以外のものかもしれない。〈遺物〉(第362図・写真図版344) 陶器碗(727)が出上している。〈時期〉時期不明であるが、近世以降のものではないかという印象をもつ。



RZ005 A - B, C - D, E - F

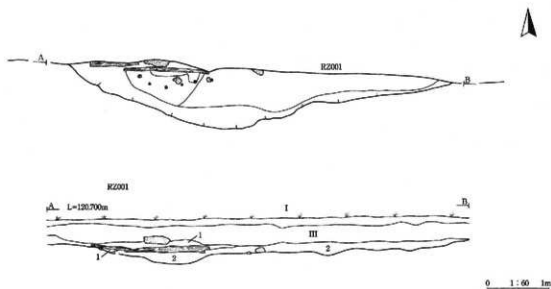
1. 10YR3/3 黒褐色土 炭粒を多量に含む。粘性・締まりやや有り。
2. 10YR3/3 暗褐色土 焼土・炭粒を含む。粘性・締まりやや有り。
3. 10YR3/3 暗褐色土 炭粒を大量に含む。粘性・締まりやや有り。
4. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まり弱。
5. 10YR3/4 暗褐色土 焼土を多量に含む。粘性弱。締まりやや有り。
6. 10YR3/3 暗褐色土 炭化樹多量を含む。粘性弱。締まりやや有り。
7. 10YR3/2 黒褐色土 焼土・炭粒をごく微量含む。粘性・締まりやや有り。
8. 10YR3/2 黒褐色土 焼土・炭粒をごく微量含む。粘性・締まりやや有り。
9. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック少量含む。粘性やや有り。締まっている。

第236図 RZ005炭窯跡

(3) 性格不明遺構

RZ001 (第237図・写真図版266)

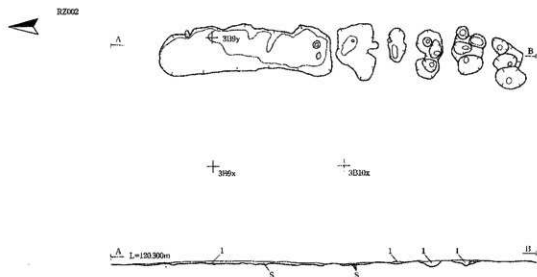
<位置・重複関係>遺跡中央部南側の3B2m区に位置し、IV層上面にて検出された。<規模・形態>北側部分は調査区外に広がっており、むしろ遺構の南側が一部検出されたような状況である。東西方向に6.4m、南北方向へは1m程検出され、深さは最大で42cmを測る。平面形は不明であるが、おそらく楕円形から円形、もしくは溝の一部が彫れたような形態が考えられる。<埋土>概ね自然堆積で良いと思われ、埋土の土質から水の流れや溜まりがあったと推測される。自然礫も混じっている。ただし埋土上層(1層)については木材を含め人為的な埋めの可能性がある。<その他>最も落ち込む底面部分には細い木杭を20~30cm間隔に打ち込んでいた。埋土中にも木材が地面と水平な状態でみられた。<遺物>(第331図・写真図版318・319)底部に打ち込んでいた杭(506・507)の他、木材も加工された柱状のもので、本遺構が埋まりかけた段階で入ったものと考えられる。<時期>時期を特定できる資料を欠くが、多分近



RZ001 A-B

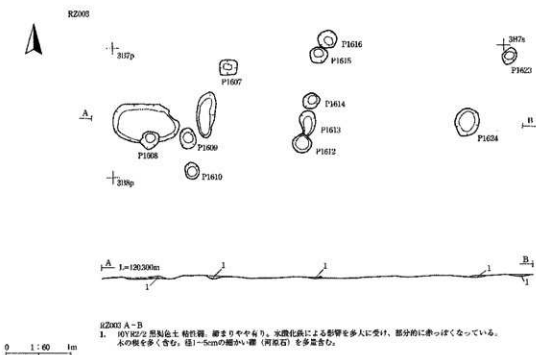
- L 10YR2/3 黒褐色土(黄土) 粘性やや有り。締まり弱。
 III 10YR2/2 黄褐色土 水酸化鉄質有り。粘性やや有り。締まっている。
 1. 10YR2/2 黒褐色土 水酸化鉄質有り。粘土ブロック少量含む。粘性・締まりやや有り。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 水酸化鉄質有り。粘性やや有り。締まり弱。

第237図 RZ001性格不明遺構



RZ002 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘土や粘。餅まみやや有り。径1-5cmの礫を含む。底面にも礫が散在する。底面には水酸化鉄の痕跡がみられる。



RZ003 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱。餅まみやや有り。水酸化鉄による影響を多人に受け、部分的に赤っぽくなっている。木の根を多く含む。径1-5cmの細かい礫（河原石）を多量含む。

第238図 RZ002・003性格不明遺構

世かそれ以降の遺構と思われる。

R Z 0 0 2 性格不明遺構 (第238図・写真図版266)

<位置・重複関係>遺跡南側のほぼ中央、3 B 9 x 区に位置している。重複する遺構はない。<規模・形態>不整形な落ち込みが南北方向に複数連なって並ぶようなプランを呈する。長軸はほぼ南北方向で長さ5.6 m、軸約0.9 m、深さは10 cm弱を測る。個々の落ち込みの底面も多少凹凸をなすが本米はもっと深さのある遺構で現在の水田耕作により削平されてしまっている。<埋土>黒褐色土を主体とし、埋土内から底面にかけて小礫が散在する。自然堆積か人為堆積か不明である。<その他>同様の形態をなす遺構が他にもあり、東へ8 m程の所にはR Z 004が、同じく東へ17 m程の所にはR Z 003、東南東24 mにはR Z 009、南側へ約15 mの所ではR Z 008が検出されている。これらが結びついて機能する施設なのか、各で成り立っている遺構なのか不明である。<遺物>(第325図・写真図版314)土師器の細片の他に磁器皿片(458)が1点出土しているが、特徴のない部位で時期はわからなかった。<時期>時期不明であるが、周辺の遺構の状況から近世かそれ以降と思われる。

R Z 0 0 3 性格不明遺構 (第238図・写真図版266)

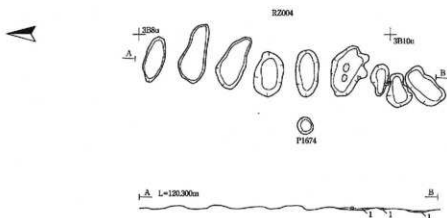
<位置・重複関係>遺跡南側のほぼ中央部、3 B 7 p 区にて検出された。重複する遺構はない。<規模・形態>不整形な窪みが東西方向に不連続に並ぶような平面形態を呈する。長さは東西方向で約5.7 m、軸45~70 cm、深さは10 cm弱である。それぞれの窪みの底面は幾分凹凸をなし、壁は外傾して立ち上がっているが、水田耕作により底部付近のみが残存し検出されたものである。<埋土>黒褐色土の中に小礫が多量に含まれていた。自然堆積か人為堆積かは不明である。<その他>周囲には類似する形態の遺構が検出されている。東に10 mにはR Z 004、同じく東に16 mにはR Z 002がある。南西方向へ10 mのところにはR Z 009、南東へ25 mのところではR Z 008が検出されている。これらの遺構が結びついて一つの遺構となるのか、それぞれ独立した遺構なのか不明である。<遺物>18世紀以降と思われる陶器碗の細片が1点みられた。<時期>時期不明であるが、周辺の遺構の状況から近世かそれ以降ではないかと推測される。

R Z 0 0 4 性格不明遺構 (第239図・写真図版266)

<位置・重複関係>本遺跡の南側ほぼ中央付近、3 B 8 u 区にて検出された。重複関係はない。<規模・形態>東西方向に長い不整形円形の窪みが南北方向に4.7 m程連なってみられる。軸は約50~90 cm、深さは10 cmに満たないものが殆どである。底面は平坦ではなく、近年の水田耕作により壁は底部付近が僅かに残存しているのみである。<埋土>暗褐色土の中に径1~5 cm程の河原石を多量に含んでいる。自然堆積か否かは不明である。<その他>本遺構の周囲には同じような形態の遺構(R Z 002・003・008・009)が検出されている。これらの遺構が結びついて一つの遺構となるのか、或いは個々に遺構として成り立っていたのか不明である。<遺物>(第326・340・362・365・366図・写真図版315・327・344・346)埋土には陶器碗(716・724)・播鉢(480・481)、磁器碗(771・773・777)・皿(804・805)、銭貨(601・602)、土師器・須恵器片などが散在していた。<時期>出土遺物や周辺にある同様の形態を有する遺構等の状況から近世かそれ以降と思われる。

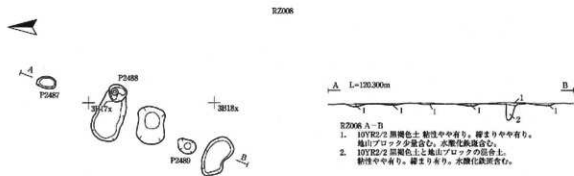
R Z 0 0 8 性格不明遺構 (第239図)

<位置・重複関係>遺跡の南側ほぼ中央、3 B 17 x 区に位置している。重複関係はなかった。<規模・形



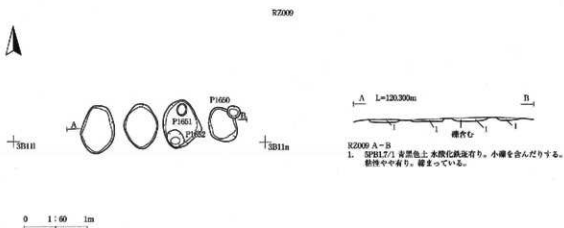
RZ004 A-B

1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性强。締まり有り。水酸化鉄による影響大。木の根多量に含む。径1-5cmの粗かい礫（河原石）多量含む。土器片含む。



RZ006 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや有り。地山ブロック少量含む。水酸化鉄混入心。
2. 10YR2/2 暗褐色土と地山ブロックの混合土。粘性やや有り。締まり有り。水酸化鉄混入心。



RZ009 A-B

1. 5YR1/7 黄褐色土 水酸化鉄混入有り。小礫を含んだりする。粘性やや有り。締まっている。

0 1:60 1m

第239図 RZ004・008・009性格不明遺構

態>規模も形態も不規則な窪みが北東-南西方向に3.3m程繋がって検出された。幅は20~90cm、深さは10cm弱である。底面は平坦とはいえず、壁は近年の水田耕作により底に近い部分のみが残存していたようである。 <埋土>黒褐色土を主体としその中に地山ブロックが少量含まれる。自然堆積か人為堆積かは不明である。 <その他>周辺に本遺構と類似する形態の遺構（R Z002・003・004・009）が検出されている。これらが繋がって一遺構となるのか、または単体での遺構となるのかその性格も含めて不明である。 <遺物>なし。 <時期>時期不明であるが、周辺の遺構等の状況から中世かそれ以降と思われる。

R Z 0 0 9 性格不明遺構（第239図・写真図版268）

<位置・重複関係>本遺跡南側のほぼ中央部、3 B 10 1 区にて検出された。重複関係なし。 <規模・形態>不整な円形が東西方向に等間隔に4基ほど連なってみられた、長さは約2.5m、幅70cm前後、深さは10cmに満たない。底面は平坦なものが多く、壁は底部付近が若干残っているに過ぎない。 <埋土>青黒色土の中に小礫を含んだりしている。自然堆積か否かはわからなかった。 <その他>本遺構の近くには同様の形態の遺構が（R Z002・003・004・008）が検出されている。そもそもこれらが一つの遺構として機能するものなのか、独立した施設なのかその性格も含めて不明である。 <遺物>なし。 <時期>時期不明であるが、周辺の遺構等の状況から中世かそれ以降と思われる。

R Z 0 0 6 性格不明遺構（第240図・写真図版267）

<位置・重複関係>本遺跡のほぼ中央、2 A 9 y 区に位置し、IV層面にて検出された。 <規模・形態>東西方向に細長い不整形を呈する。東西方向で2.9m、南北方向で0.8m、深さは最大で20cmを測る。底面の中央部分が浅く窪んでいる。 <埋土>記録なし。 <遺物>出土していない。 <時期・性格>不明である。

R Z 0 0 7 性格不明遺構（第29図）

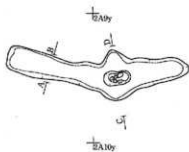
<位置・重複関係>本遺跡の南側、3 C 21 a 区に位置し、IV層上面にて検出された。 <規模・形態>南北に細長い不整形円形を呈している。南北方向に1.6m、東西方向に0.4mである。中央部底面付近には自然礫が見られた。 <埋土>記録なし。 <遺物>出土していない。 <時期>周囲で検出されている遺構の状況から中世に属する可能性がある。

R Z 0 1 2 性格不明遺構（第240図・写真図版269）

<位置・重複関係>本遺跡の中央部南端、4 B 11 m 区に位置し、IV層上面にて検出された。 <規模・形態>南北に細長い不整形な長円形を呈している。規模は南北方向に4.0m、東西方向に1.1m、深さは25cmで、底面は概ね平坦である。 <埋土>黒色土及び黒褐色土を主体とする中で、底面付近には自然礫と炭粒の広がりを確認した。人為堆積の可能性があると思われる。 <その他>遺構の性格は判然とし難い。 <遺物>ロクロかわらけがまとまって出土している。 <時期>周囲から検出されている遺構の状況から中世に属するもののが最も妥当と考える。

R Z 0 1 1 性格不明遺構（第241・242図・写真図版269）

<位置・重複関係>遺跡南端中央部4 B 15 o グリッド周辺に位置しており、遺跡南端に広がる低湿地に接するように検出された。 <規模・形態>南北7.7m、東西8.8m、深さ60cmの不整形な掘り込みである。南東部分が最も深く、南側がやや急に、他は緩やかに立ち上がっている。 <埋土>上層は自然堆積でよいと思



RZ006

L=120.300m

A₁ B₁

注記なし

L=120.300m

A₂ B₂

注記なし

RZ007

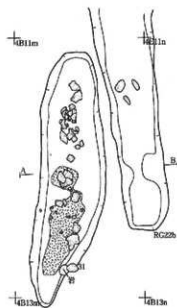
SC21a

SC21b



SC21b

RZ012



A-L=120.300m



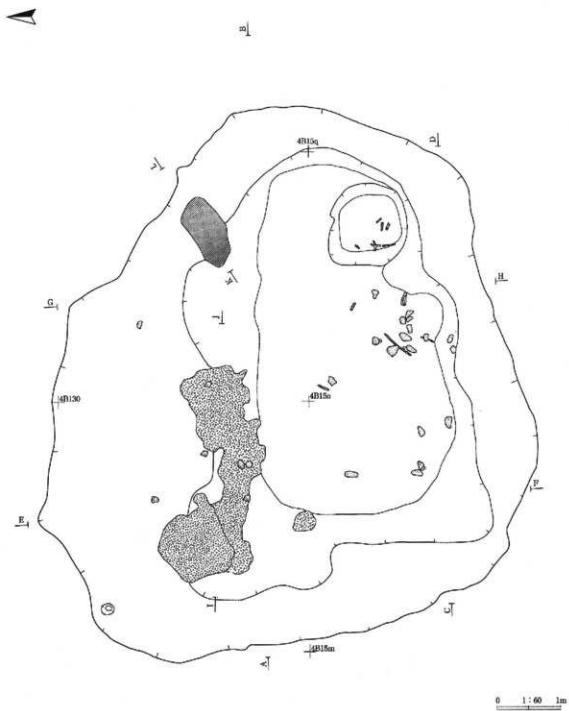
RZ012

RZ009 A-B

1. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まり有り。黄含む。
水酸化鉄量多量に混入。10YR4/3 に近い黄褐色土と
15%含む。こぶし火の燻取層含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。
水酸化鉄量多量に混入。焼山ブロック (10YR4/3)
40%混入。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。
水酸化鉄量有り。焼山ブロック25%含む。

0 1:60 1m

第240図 RZ006・007・012性格不明遺構

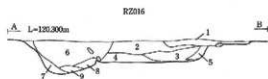
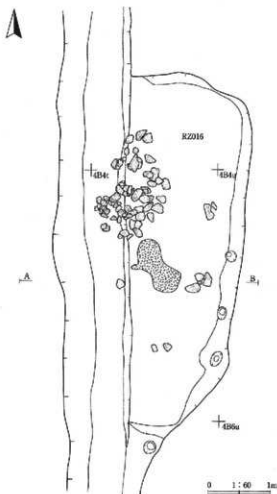


第241圖 RZ011性格不明遺構 (1)

われるが、その下は地山ブロックや炭粒、焼土が含まれ、人為体積の様相を呈する。〈その他〉埋土には焼土や炭粒、河原石などを含むことから、様々なものを廃棄する場所であったと考えたい。〈遺物〉576 洪武通寶が出土している。〈時期〉出土遺物から中世で15世紀頃までは閉口していたであろう。

RZ014 性格不明遺構 (第181図・写真図版271)

〈位置・重複関係〉遺跡南端部ほぼ中央4 B17cグリッド周辺に位置している。RD789と重複関係にあるとみだが新旧関係は把握できなかった。〈規模・形態〉南北5m、東西5.4mの不整形を呈し、深さは最大80cmを測る。南側は低湿地と重なるためプランは不明瞭になる。〈埋土〉黒褐色土を主体とするが地山ブロック、炭粒、焼土、河原石など廃棄されたものも含まれている。〈その他〉重複するRD789や近くに位置するRZ011と同様、様々なものを捨てる場所であったと推測される。〈遺物〉木槌をはじめとする木製品(493~502)、至和元寶(577)などが出土した。〈時期〉中世の遺構である。



RZ016 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。強く締まる。褐色土ブロック (10YR 4/4) ごく少量含む。
2. 10Y2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。水酸化鉄斑有り。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。水酸化鉄斑有り。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。砂 (H6~7mm) 3, 4個含む。灰黄褐色土ブロック (10YR4/1) ごく少量・少量含む。
7. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。水酸化鉄斑・灰黄褐色砂質ブロック (10YR4/1) 多量含む。炭油跡上。
8. 10Y2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
9. 10Y2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄斑有り。灰黄褐色土 (10YR4/1) 少量含む。

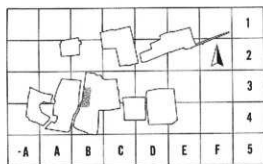
第243図 RZ016性格不明遺構

RZ016 性格不明遺構 (第243図・写真版273)

<位置・重複関係>遺跡南端ほぼ中央にあたる4B4tグリッドに位置し、IV層面に検出された。RG198と重複し本遺構の方が古い。 <規模・形態>南北6m、東西は2m以上あり、深さは約40cmを測る。 <埋土>概ね黒褐色土を主体とする自然堆積とみてよいと思われる。 <その他>中央やや北側、RG189とも重複する部分に河原石が比較的集中するところと、炭化材がまとまる場所がみられたが遺構の性格についてはよく判らなかつた。 <遺物>476鉄軸碗、474陶器插鉢、737瓦?が出土している。 <時期>中世。

(4) 柱穴群

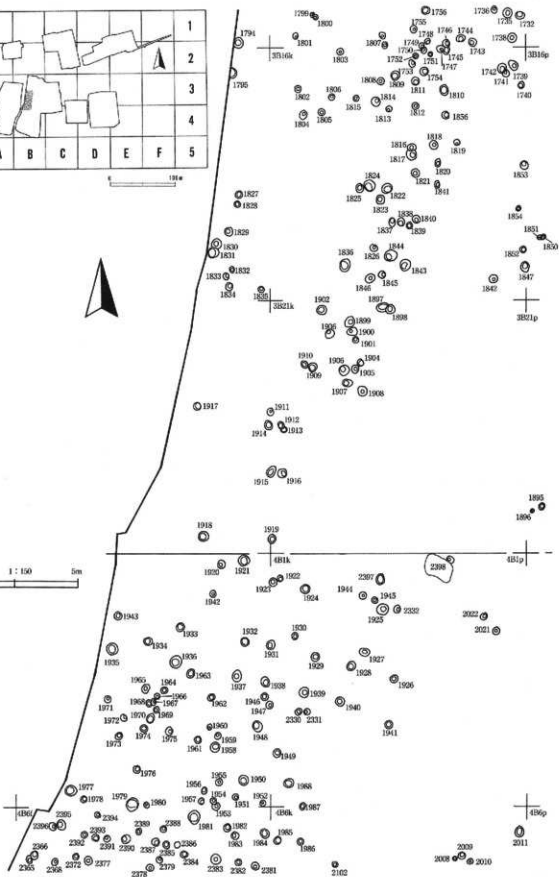
今回の23次調査では2637基の柱穴を検出した(第244~271図)。この中には古代~中世の堅穴住居跡に伴う柱穴も含んでいる。ここでは各地区ごとの分布や特徴について主だったものを記述する。3-D区を中心とした地区(第255~258図)では、多数の柱穴が検出され、柱穴からは近世及びそれ以降の陶磁器類が出土しており、民家の可能性が高く幾度かの建て替えを行っていたと考えられる。但し民家の中心は東側の調査区外にあって、建物自体を推定することはできなかった。これらの柱穴は他遺構とも激しく重複しており把握できずに尖った柱穴もあると思われる。この調査区では古代に属すると思われるRB029が検出されており、周囲にはこの他にも古代の柱穴も存在する可能性がある。1-A・1-B区(第250・251図)に分布する柱穴については、近世に属する可能性が高いと思われる。遺跡中央部南側3B・4B区(第241~248図)に於いても多数の柱穴が密に分布していた。周囲からは中世の遺構が多数検出されていて、柱穴群はこれらの遺構と分布を同じくしており激しく切り合っている。その殆どが中世に属するといえるこれらの柱穴群の中からRB026を推定したが、この他に建物及び何らかの施設を推定することはできなかった。3C~4E区を中心とした調査区(第247・261図)にて検出された柱穴群は大きく3C~4D区に分布するものと4E区に位置するものに分けて見ることができる。前者については出土遺物がなく時期不明であり、柱穴ではないもの(草木根等)も多く含んでいる可能性がある。後者に関してはP1257から青磁碗が出土していることからその多くが中世に属すると思われるが、土坑・焼土などと切り合っており、分布も東側の調査区外に及びており建物を推定することはできなかった。遺跡のほぼ中央部分2A・2B区を中心とした調査区(第271図)からも多数の柱穴が検出された。その柱穴群からRB019掘立柱建物跡を推定した。他の柱穴には規則性を見出せず何らかの施設を推定することはできなかった。これらの柱穴群からは時期を特定できるような遺物は出土していない。1C・2C区を中心とする調査区(第270図)ではRB023・024・025掘立柱建物跡が検出されている。時期は何れも近世と思われ、建物にならなかつた柱穴に関しても近世頃の可能性がある。



0 100m



0 1 : 150 5m



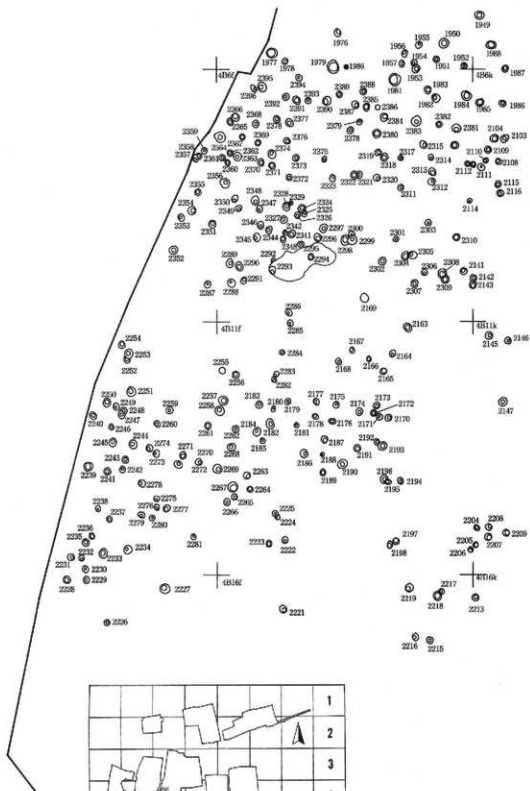
第245图 柱穴群 (2)



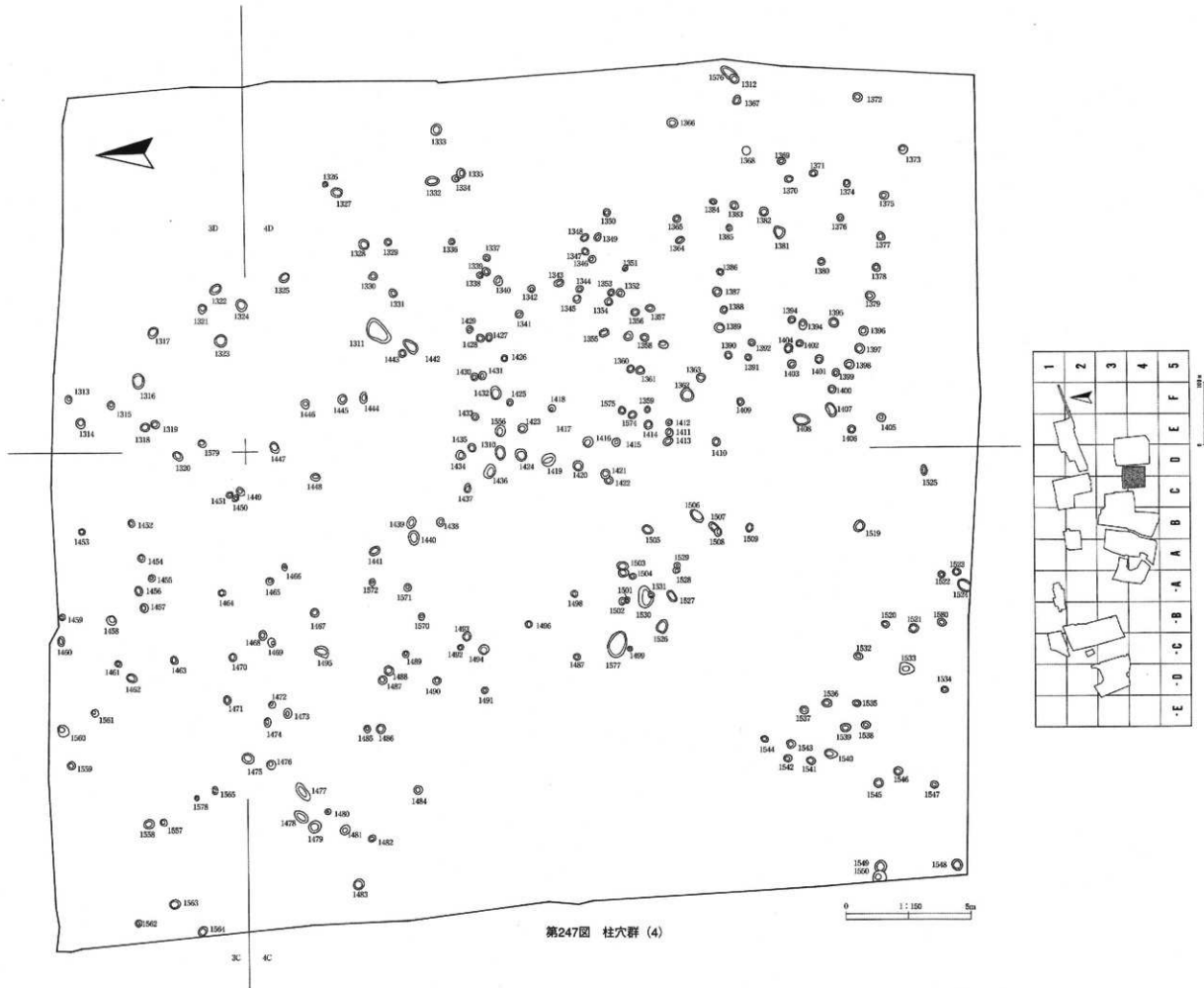
4111a

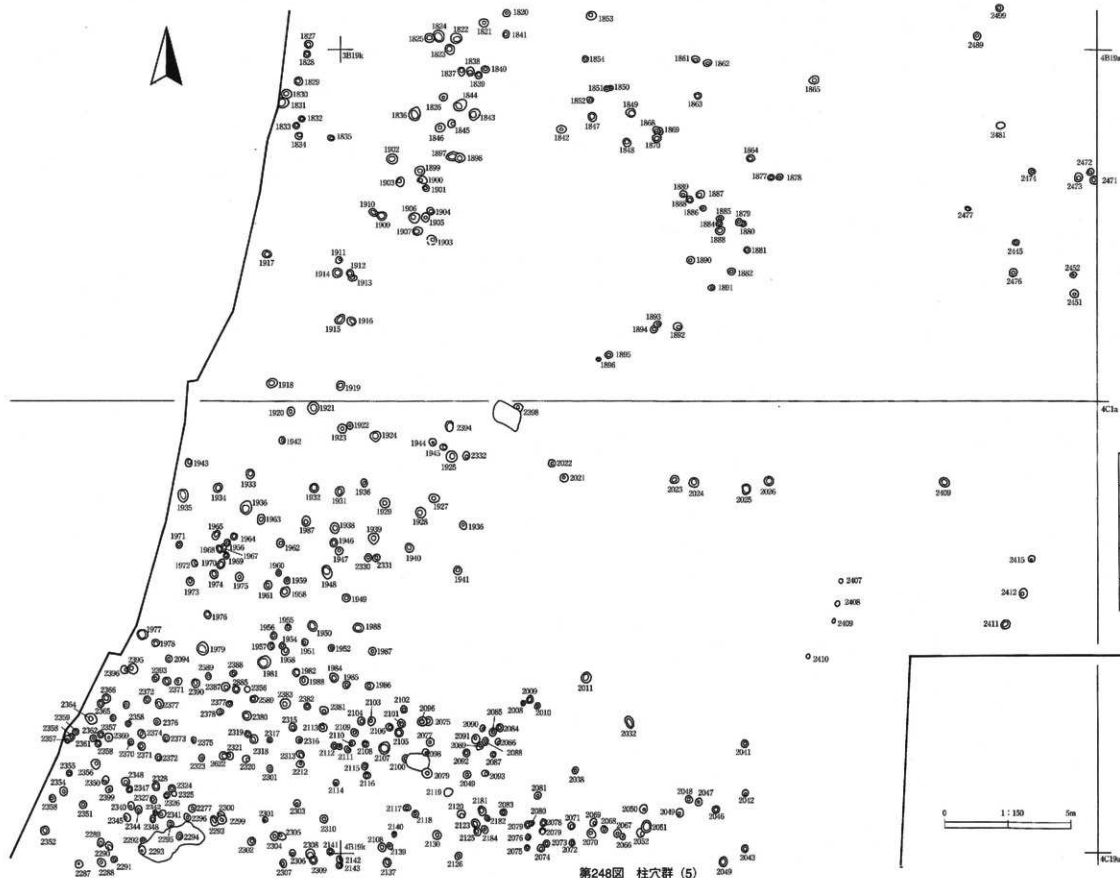
4116a

4121a

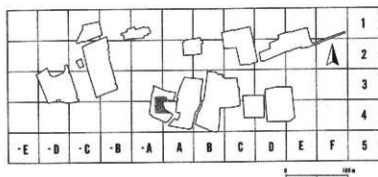
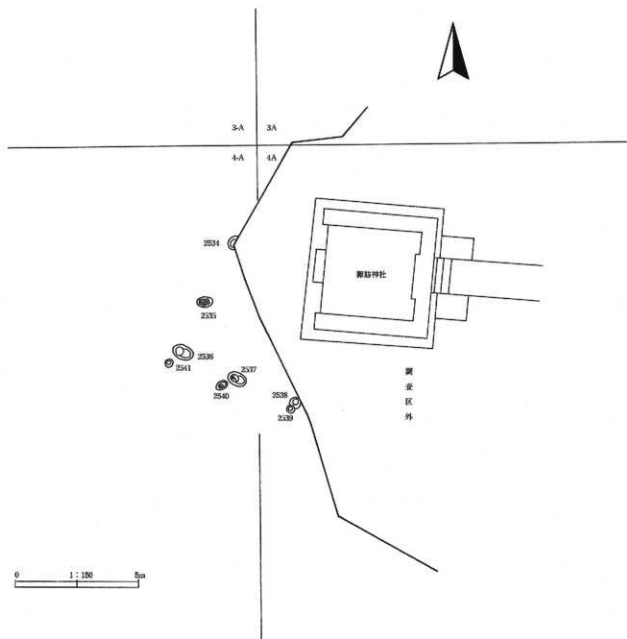


第246图 柱穴群 (3)

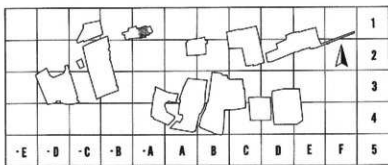
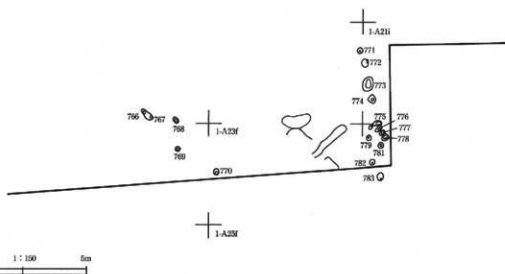




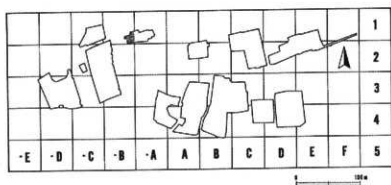
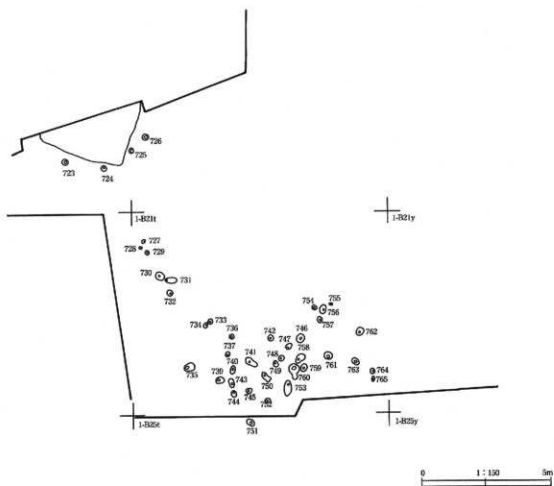
第248図 柱穴群 (5)



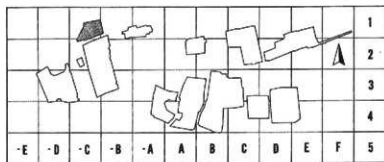
第249図 柱穴群 (6)



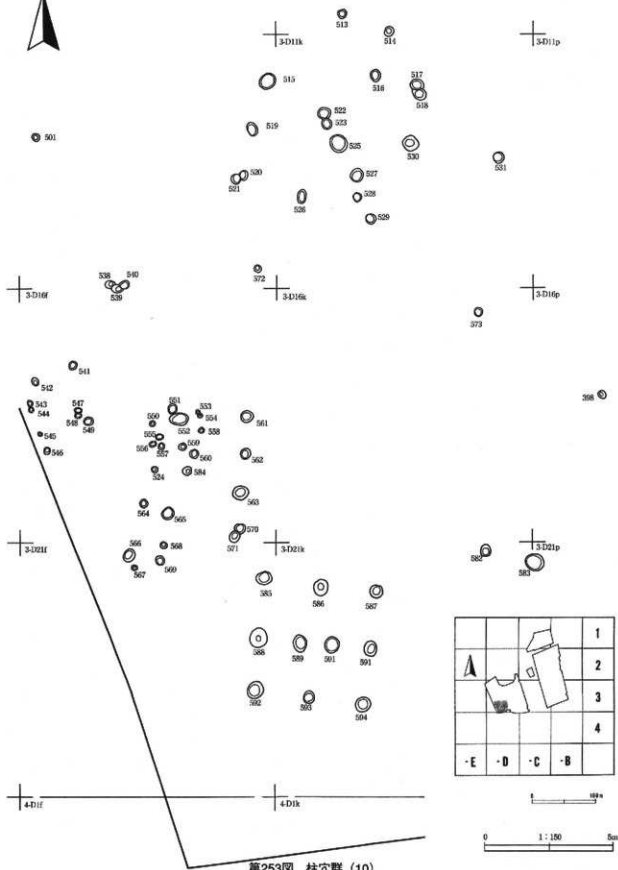
第250图 柱穴群 (7)



第251图 柱穴群 (8)



第252图 柱穴群 (9)



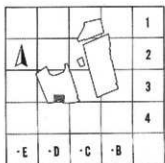
第253图 柱穴群 (10)



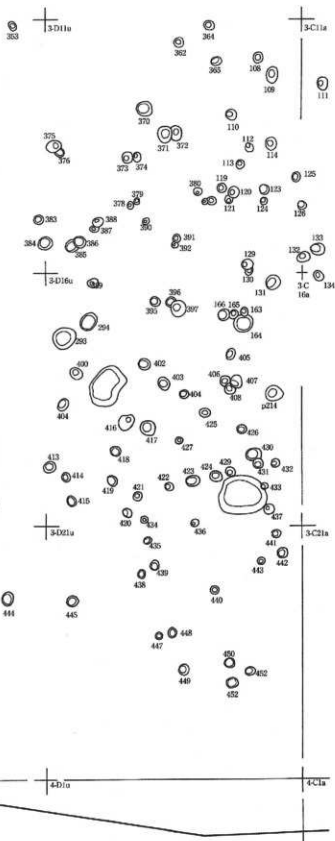
531

3D16e

582
3I22j
583

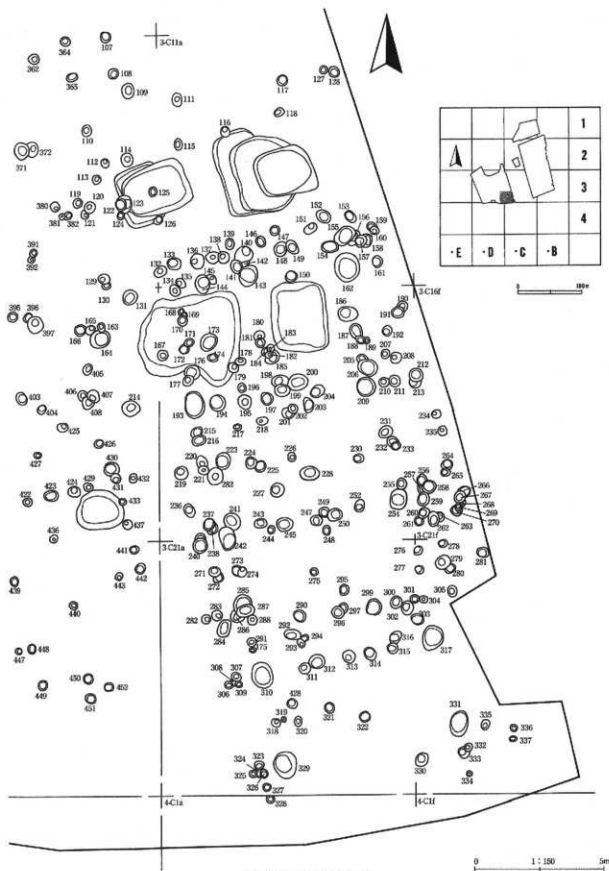


0 100m

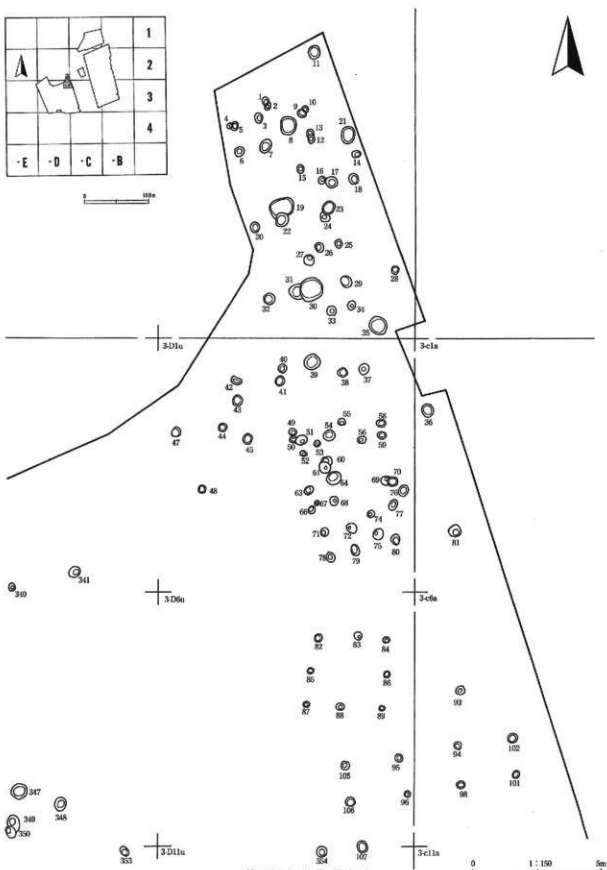
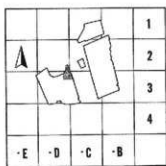


第254图 柱穴群 (11)

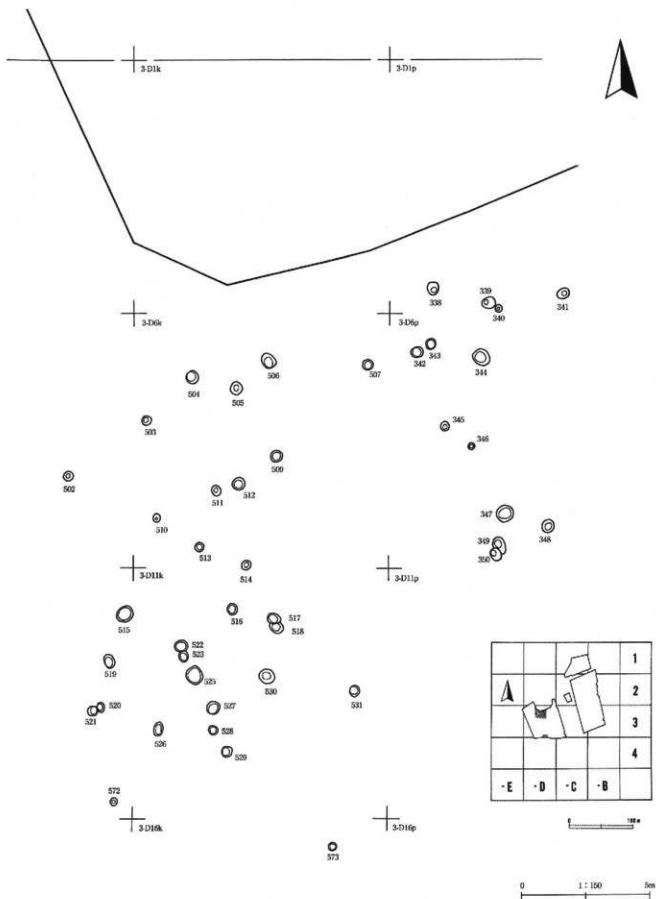
0 1:150 50m



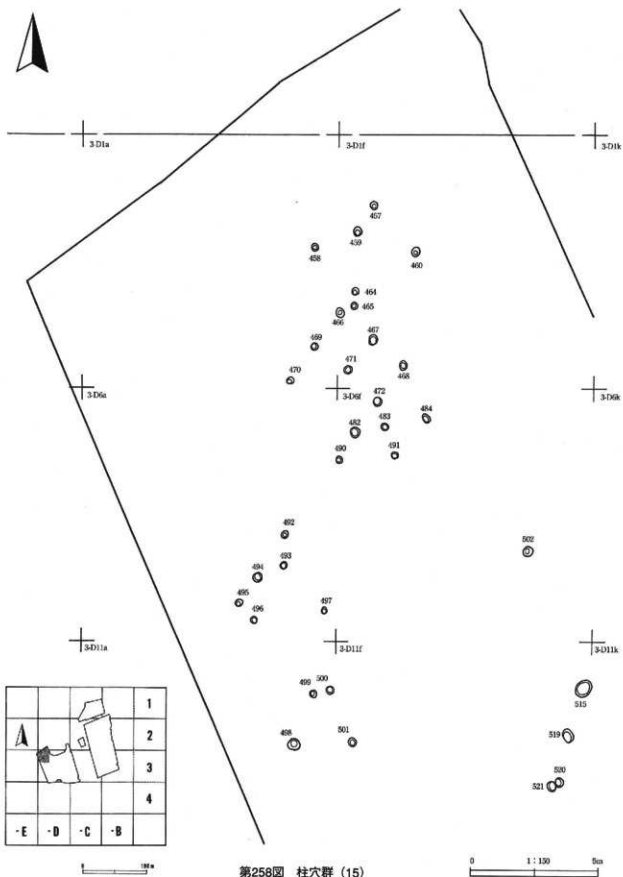
第255図 柱穴群 (12)



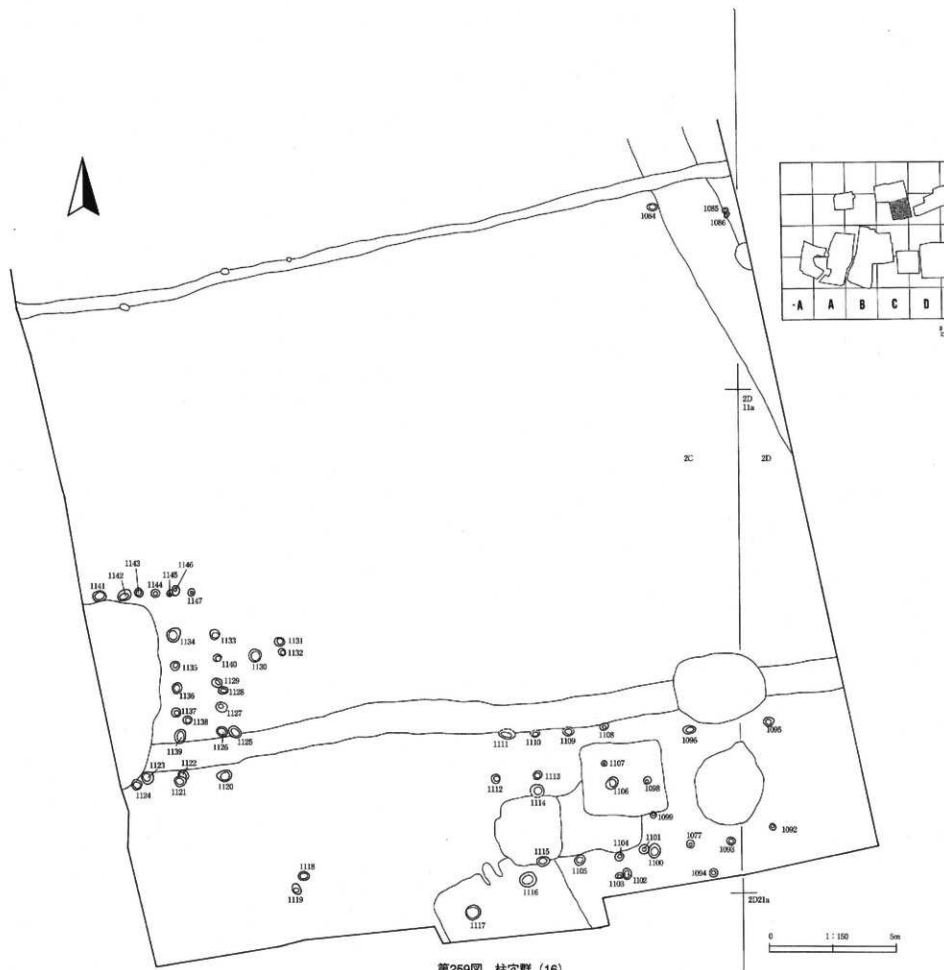
第256图 柱穴群 (13)



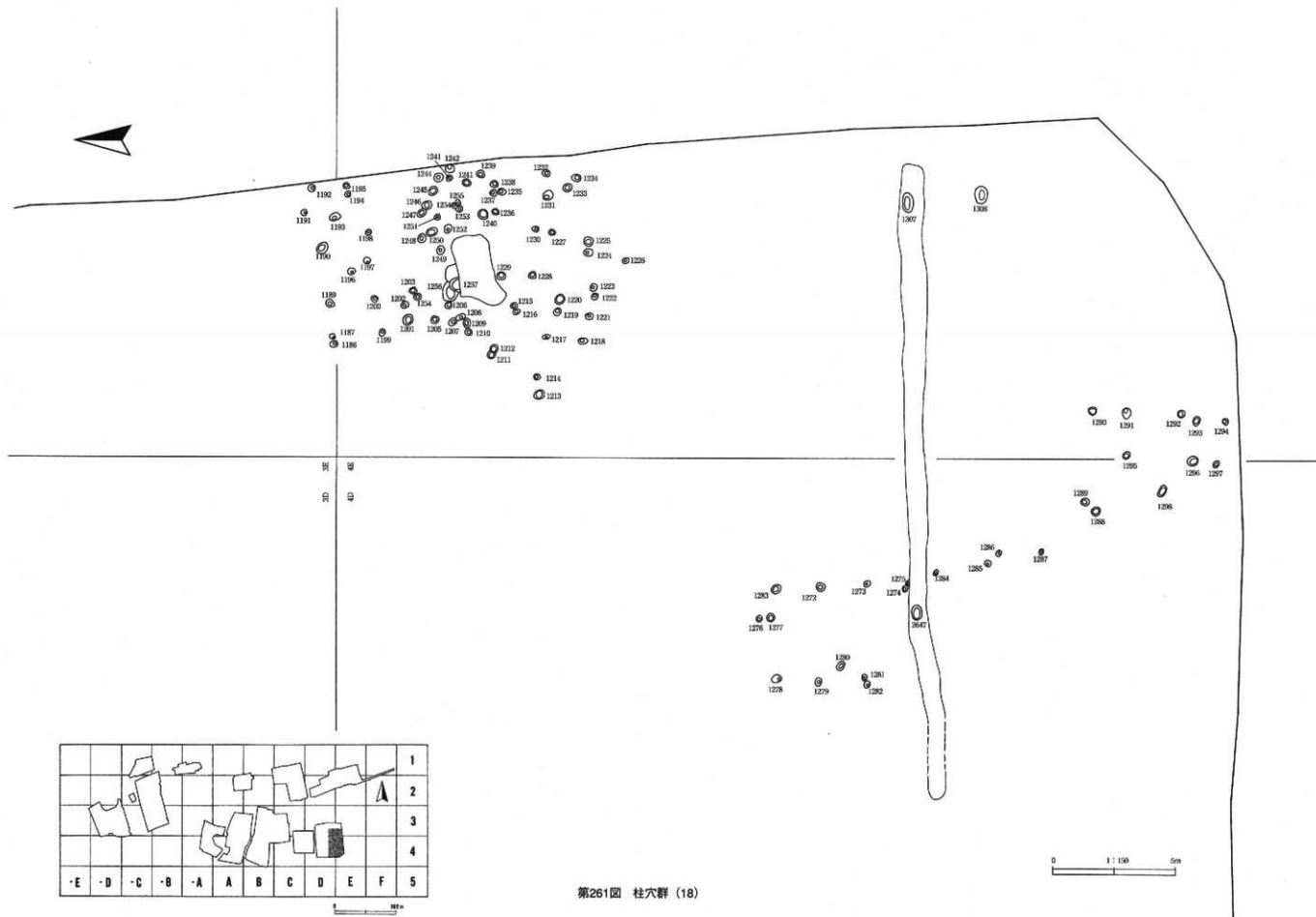
第257图 柱穴群(14)



第258図 柱穴群 (15)



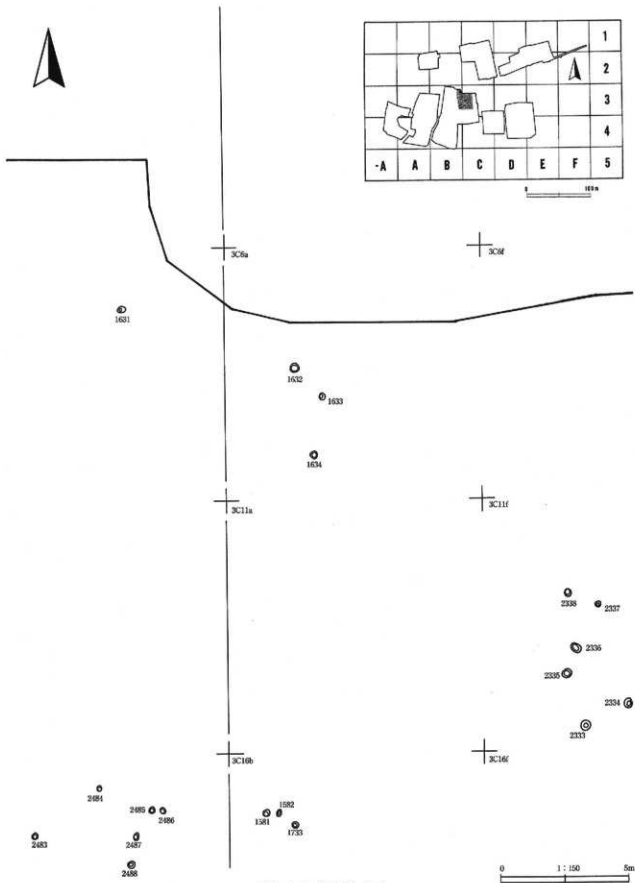




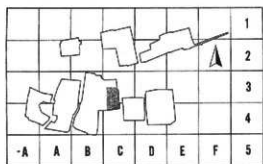
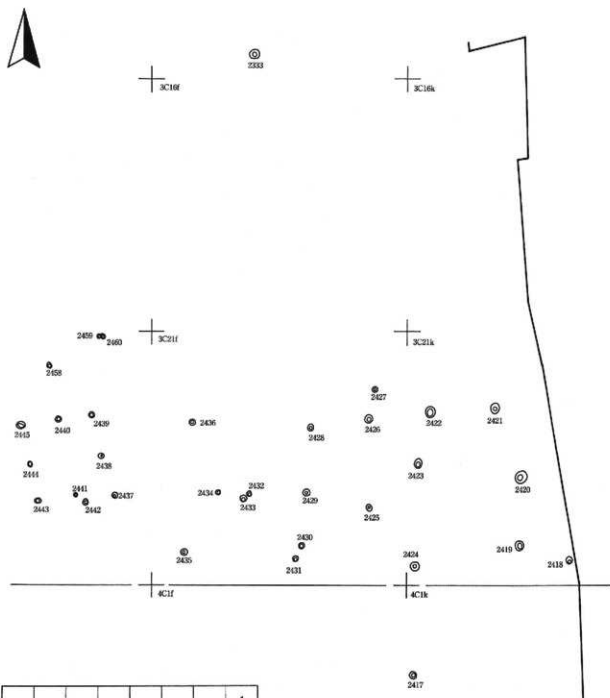
第261团 柱穴群 (18)



第262図 柱穴群 (19)



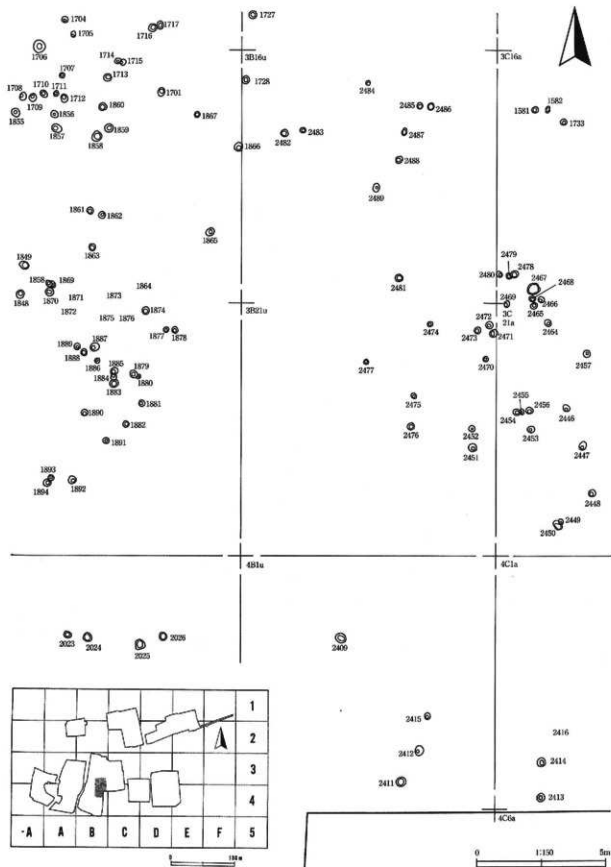
第263図 柱穴群 (20)



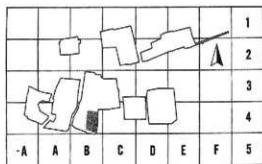
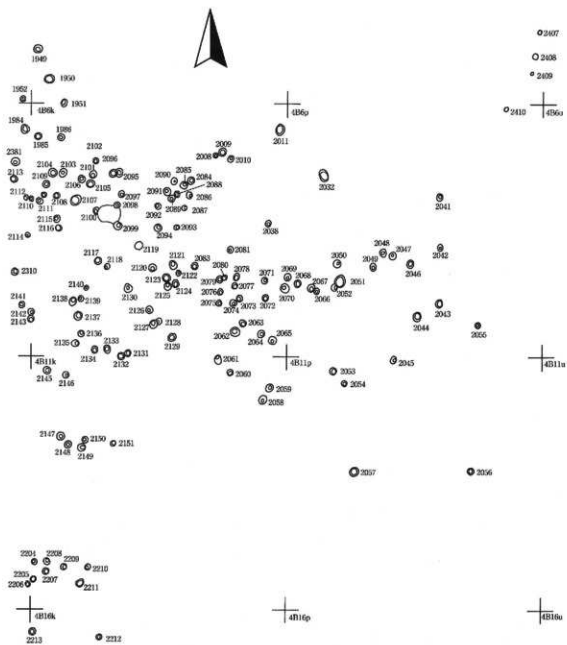
100m

0 1:150 5m

第264图 柱穴群 (21)

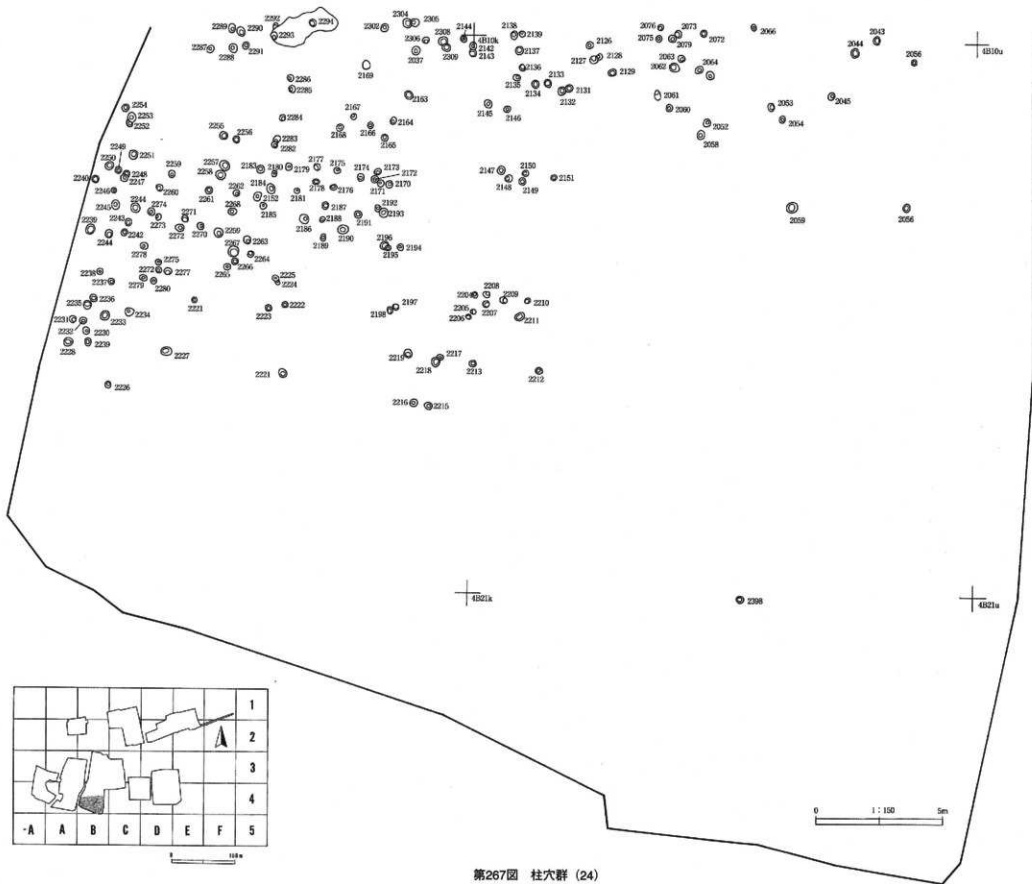


第265图 柱穴群 (22)

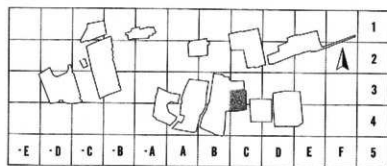
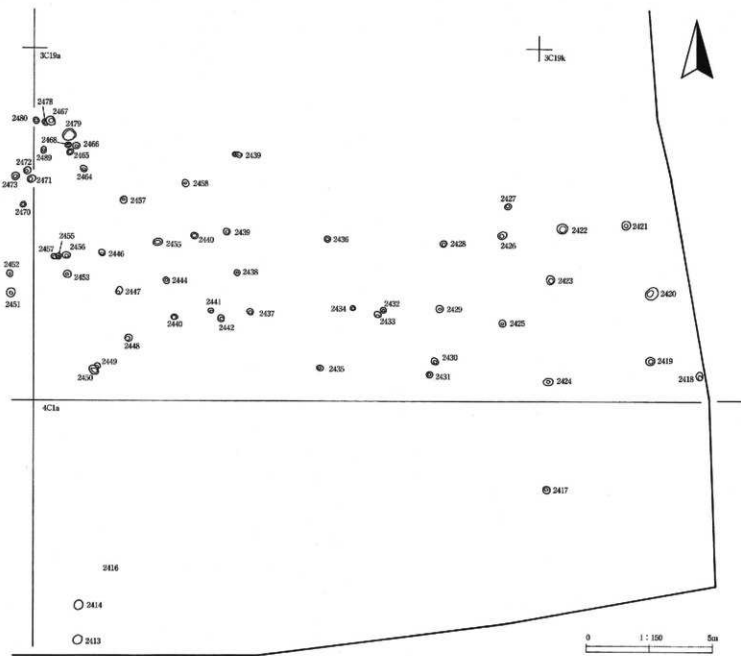


4B16p 2398
21p

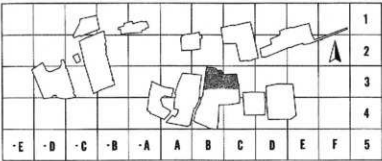
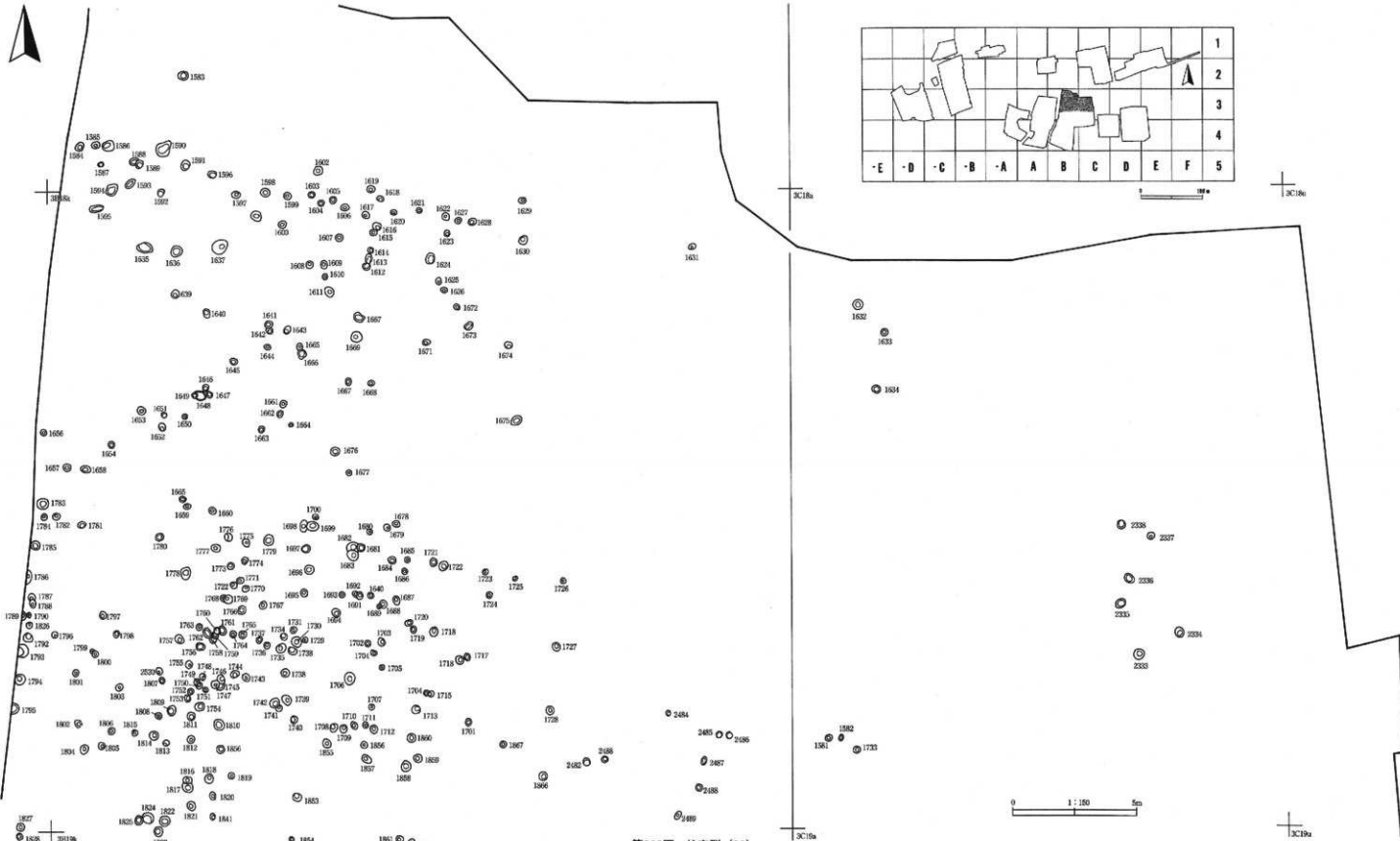
第266图 柱穴群 (23)



第267图 柱穴群 (24)



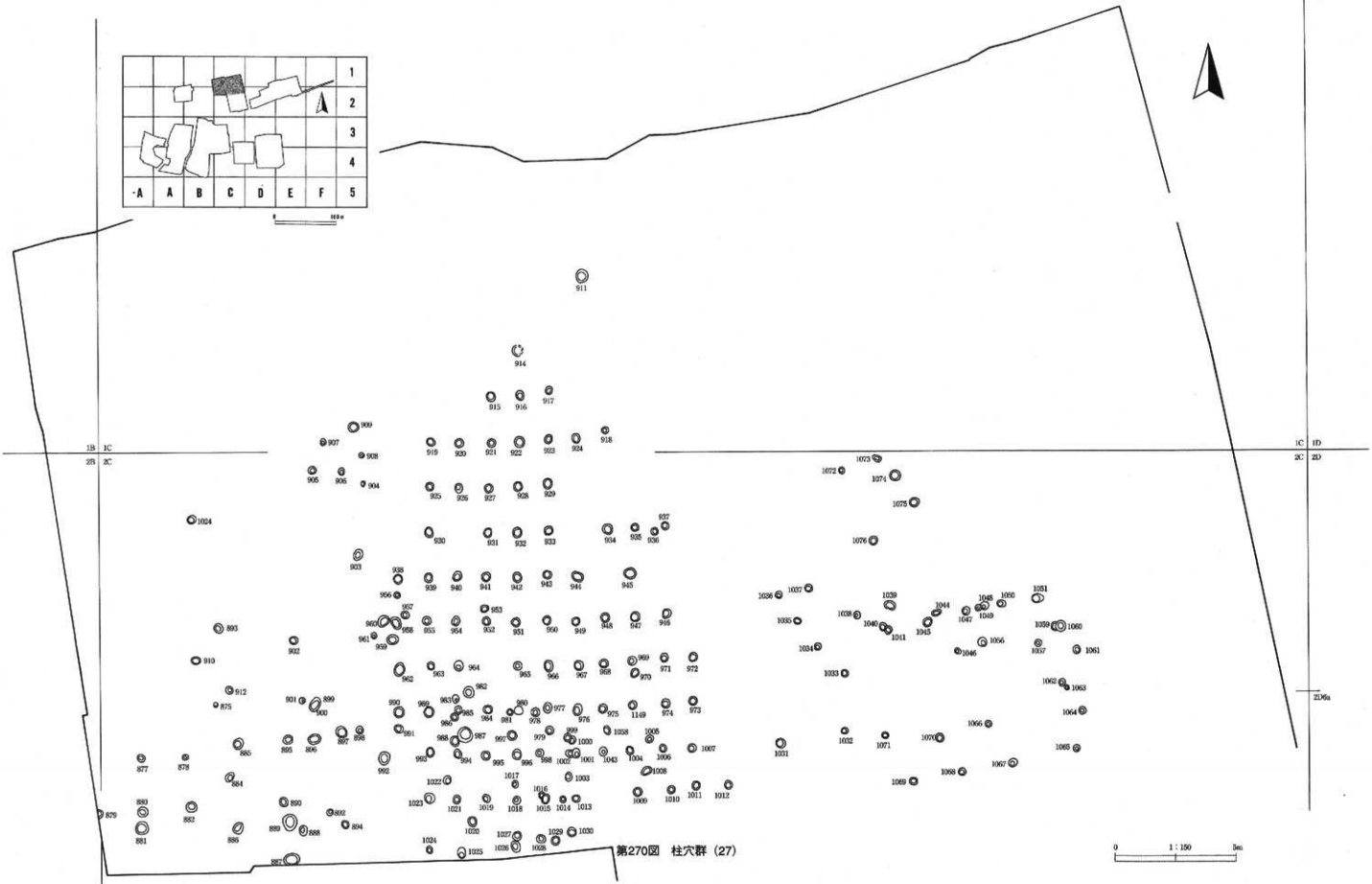
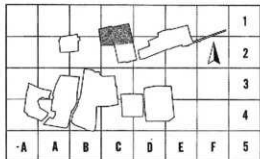
第268团 柱穴群 (25)



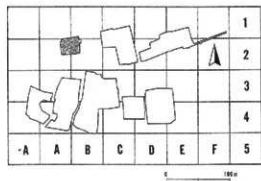
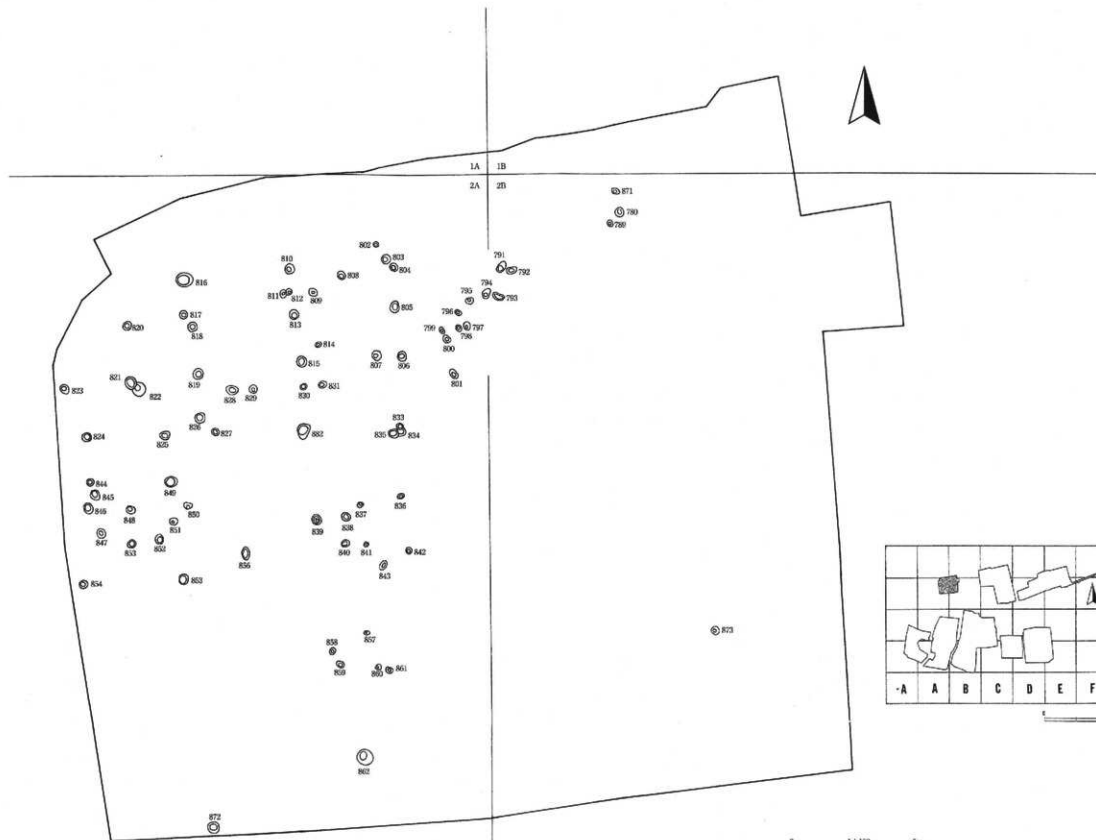
1:100

1:100 5m

第269园 柱穴群 (26)



第270图 柱穴群 (27)



第271区 柱穴群 (28)

10 出土遺物

(1) 土師器・須恵器 (第272~324図・写真図版277~313)

遺構内外合わせてコンテナ約60箱(42×32×30cm)の土師器、須恵器が出土した。今回の23次調査では63種の古代の竪穴住居跡が検出され、これらから出土したものが殆どである。なお、台太郎遺跡全体では古代の竪穴住居跡が400棟近く存在すると推測されることから、遺跡のほぼ全域から土師器、須恵器の出土がみられ、時代の異なる中・近世の遺構などにも入っている。掲載した470点はその中から基本的に遺構に伴っていると判断したものを優先し、次に遺構廃絶後に捨てられたもの、或いは流れ込んだと思われるものを若干掲載した。とくに平安時代の竪穴住居跡出土の土師器・須恵器については他の竪穴住居跡及び別の遺構との重複関係を持つものが多く、厳密に遺構に伴っている遺物を示せないものが多かった。

それぞれの遺構の欄では出土個体数(口縁部及び底部破片から求めた推定個体数)と出土状況・共存関係などを、また遺物観察表を作成し法量・器面調整・焼成などを、Vまとめでは簡単な形態分類と大まかな年代観を記載したので、ここでは代表的な遺物の特徴のみを記述したい。

<古墳時代末~奈良時代>

2・3は土師器甕で口縁部と体部の外面境に段を持つほかに、口縁部にも段或いは沈線を有するもので、4の球胴甕も同様である。これらと同じ特徴を持つものは8・12・31・65・68・104・105・111・143・149・153・437がある。5は大型の坏で口縁部と体部の内外面に段を持つ。口縁部は外反している。116・376も大型の坏と分類した。6の土師器坏底面には糸切痕?がみられた。7の土師器高坏には段が複数ある。同様の特徴を持つものに147・436などがある。17の土師器甕は最大径が体部下半にくるものである。66・67・171・181なども同じような器形を呈している。57は長胴扁平土器である。胴部ほぼ中央が最も狭くなっており、外面は粗いハケメ調整、内面には輪積痕が明瞭に残る。69・70は土師器坏で口縁と体部の境に段がなく、底部が平底となるものである。78~80・127なども同様である。71は小型手づくね土器と分類した。88・396も同じである。82の土師器には後門部に片口がつくられている。89は縄文土器かもしれない。

90~92は他の土師器坏とは雰囲気異なるものである。法量が小さく、口縁部は狭くヨコナデ調整とし、体部調整は判然としない。内面調整はヨコナデ或いはヘラミガキで、内外面には赤色塗彩された痕跡がある。本県に於いては赤色塗彩の坏は非常に珍しいと思われる。93も風化が著しい胴体であるが赤っぽい色調を呈する。95・96・98・99などの土師器甕は口縁部の外反が強い。54・83・123・130も同じような特徴を持つ。114の土師器は器種を碗とした。碗にはこのほか121・129がある。117土師器坏の底面には線刻が見られる本報告書の中では「×」としているが、「+」と見るべきかもしれない。59・135・146・386・388にも同じような線刻が見られた。147・191・403・405土師器坏は内外面黒色処理を施している。167土師器坏の体部及び底面にはハケメ調整が施される。168土師器坏は口縁部の一部を挟んでいるように見える。181・182土師器甕は口縁部と体部の界に段がない。

192土師器は須恵器素の模倣と思われる。体部の調整をナデと表現したが、よくわからなかった。193は須恵器高台付坏である。宮城県長根産のものに似ている。R A 279竪穴住居跡に伴っている。櫃は195のI点のみが確認された。

376~383はR E 038竪穴状遺構に伴って出土したものである。376は大型の坏と分類した。口縁部は内湾気味で体部から底部にかけて丸みをもち、内外面ヘラミガキ調整を施している。R E 038竪穴状遺構からは377~379のように同じような底部付近が著しく丸みを帯びる器形の土師器坏が出土している。加えて377・379

には底部に「×」と線刻されていた。380・381土師器杯もR E038堅穴状遺構出土であるが、底部底部は平底気味である。383土師器甕は体部上半が最も膨らみを持ち、口徑に対して底徑が小さいといった器形を呈する。今回の調査で出土した土師器の中で復元できた甕の中には同様の器形のものはなかった。

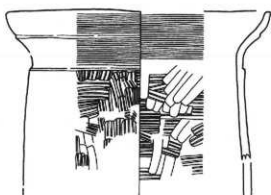
R E042から出土した384土師器杯の底部にも「×」と線刻されている。385土師器杯は口縁部と体部の境には見られず、底部も平底となっている。428土師器球胴甕は口縁と体部の境に段を複数持つ。427土師器杯も同様に段を複数有している。

<平安時代>

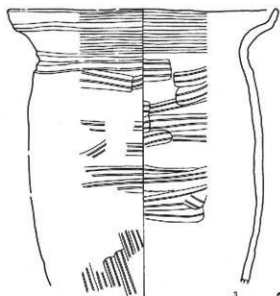
200の土師器杯の外面には線刻で「木」と彫られている。線刻・墨書を持つものはその全てを掲載しており、206・310・311・315・347・354・355・374・421に認められた。墨書・線刻ともに今回の23次調査では「木」と見える文字が殆どであった。底部付近に再調整を施す坏類としては206～208・226・291・292・298・300・353・356・369がある。221土師器甕は口縁部の幅が狭い。体部外面にはヘラケズリが施されている。237は須恵器長頸壺と思われる。底面に菊花状の調整をもつ。243は耳皿である。耳皿は1点のみの出土であった。245土師器甕は胴部に幾分膨らみをもつ器形である。260須恵器杯の底部には切り離した後、黄の子状のものの上で乾燥させたと思われる跡がある。262土師器甕はロクロ整形、264・265は非ロクロ整形である。共に口縁部の幅が短い。269～271は須恵器甕で同一個体かもしれない。底部は丸底となっている。287は土師器鉢である。ロクロ整形の後、体部外面はヘラケズリ、内面はハケメ調整を施しているようである。鉢はこのほか329があり、今回の調査で出土した中で確認された鉢はこれが全てである。345は外面に墨書された土師器杯である。底徑が他の杯より幾分か大きい。346土師器杯にも「木」と線刻されている。356はロクロ整形の土師器甕である。内面調整はカキメであろうか。360土師器杯は底部付近を再調整している。365土師器高台付杯の外面にも「木」と逆さに線刻されている。内外面黒色処理と記載したが、焼成時の偶然によるものかもしれない。367・368土師器甕は口縁部より胴部が膨らむ器形となる。ともに外面にはヘラケズリ、内面にはハケメ調整が見られる。394・396は内外面黒色処理を施している。403土師器杯にも外面に線刻があるが判読できない。407土師器高台付杯は内外面黒色処理で底部には菊花状の調整が見られる。410の長頸壺の内面調整は白信がない。429～448は須恵器甕・壺類である。天地及び傾きが不明なものも多い。また、443・444・446～448は須恵器ではなく須恵器系陶器ではないかと思ったがよくわからない。



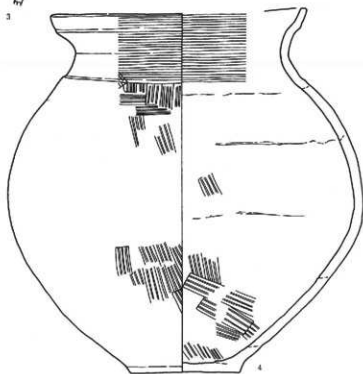
1



2



3

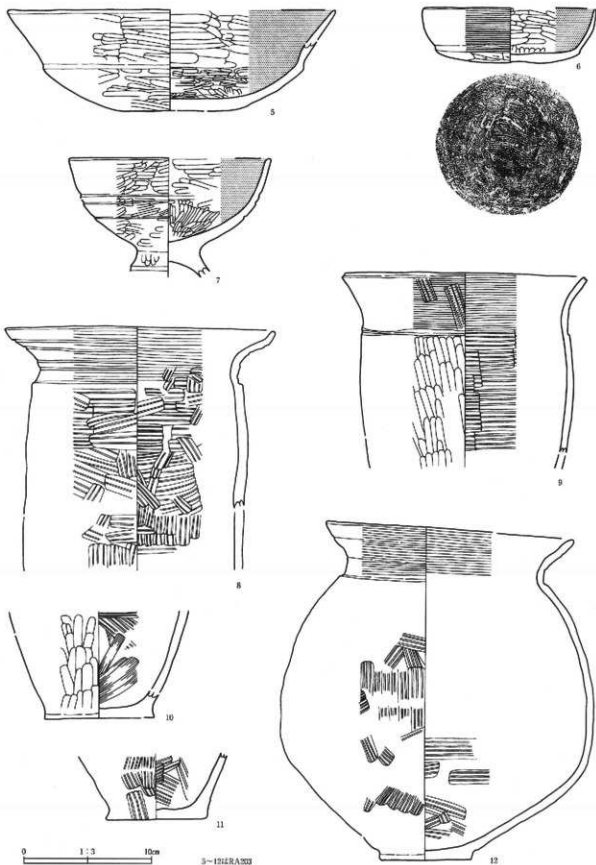


4

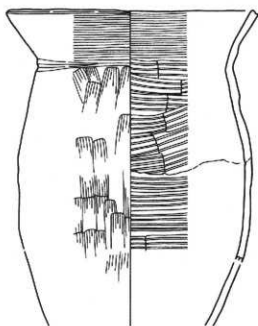
1 - 242RA201
3 - 442RA302

0 1:3 10cm

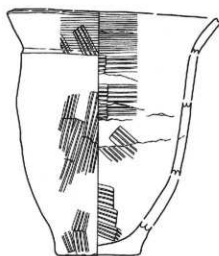
第272図 土師器・須恵器(1)



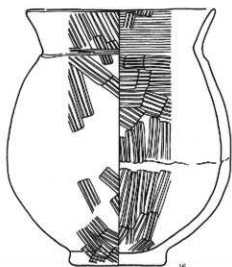
第273圖 土師器・須恵器(2)



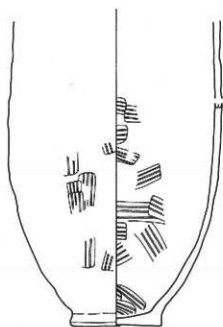
13



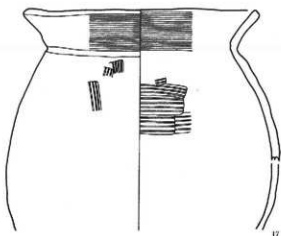
14



16



15

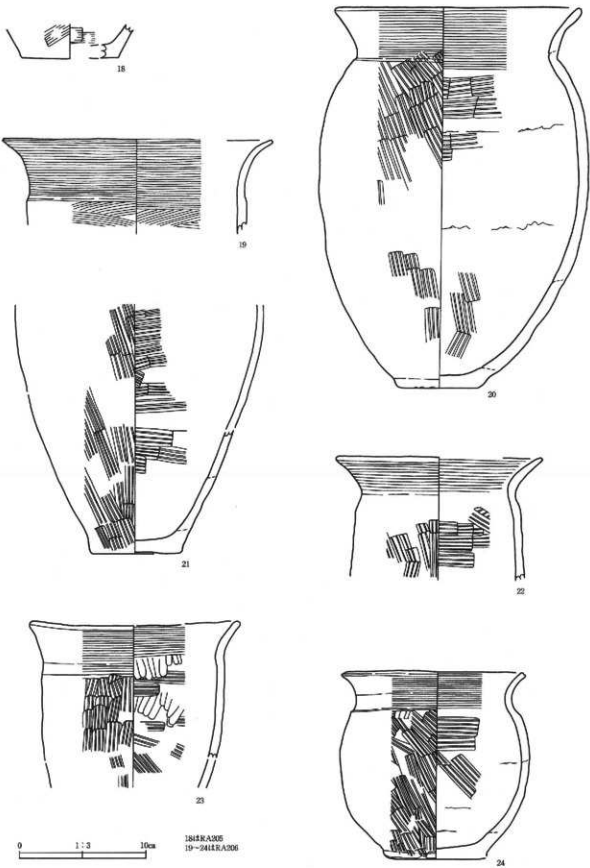


17

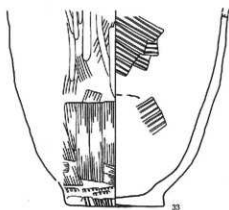
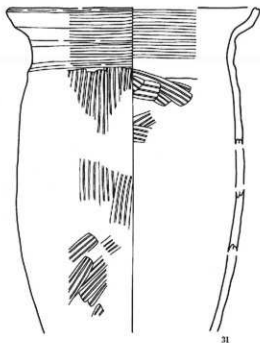
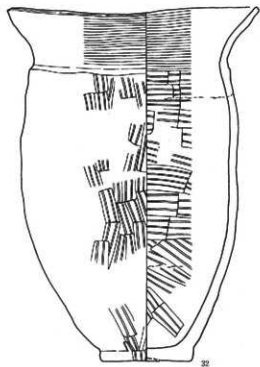
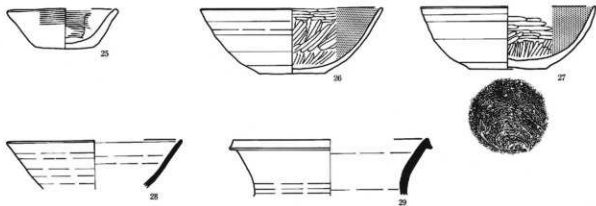
13~1714RA204



第274図 土師器・須恵器(3)



第275図 土師器・須恵器(4)

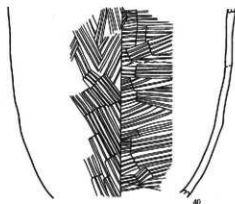
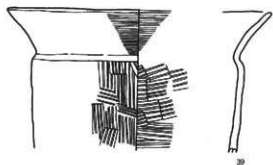


25-294RA206
30-334RA207

第276図 土師器・須恵器(5)



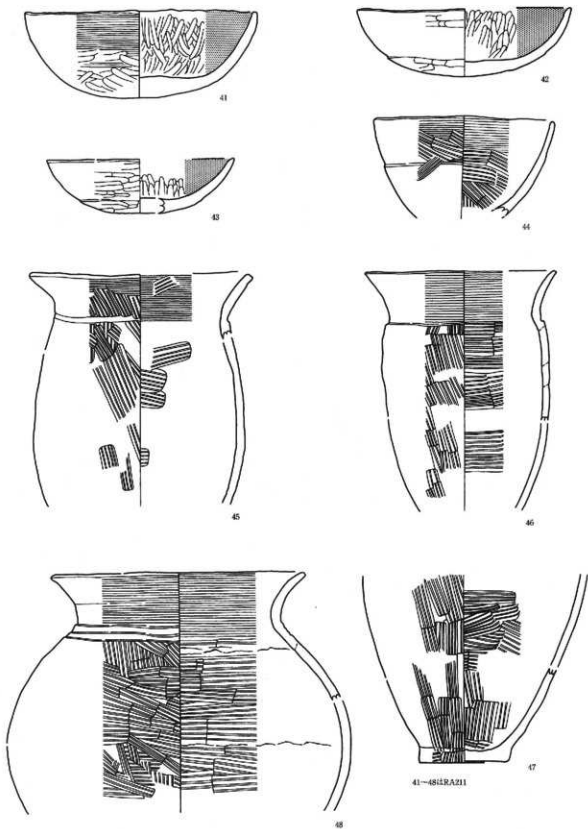
34-3614RA209



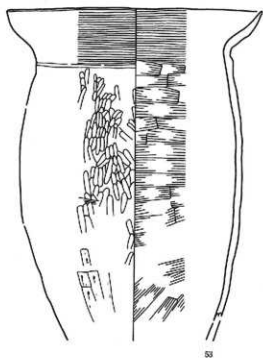
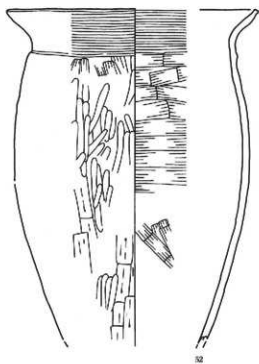
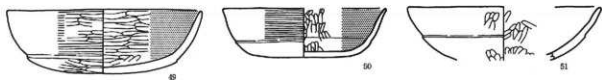
39-4014RA210

0 1:3 10cm

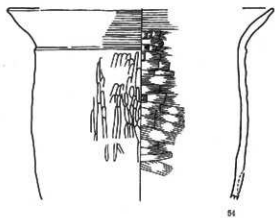
第277図 土師器・須恵器(6)



第278図 土師器・須恵器(7)

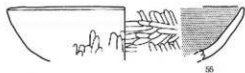


09-5412RA219

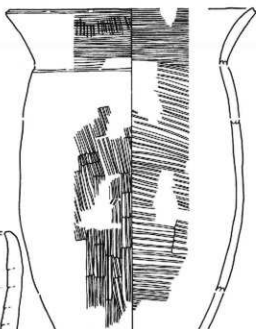


0 1:3 10cm

第279図 土師器・須恵器(e)

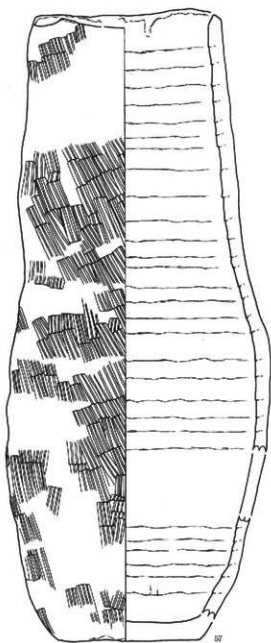


56

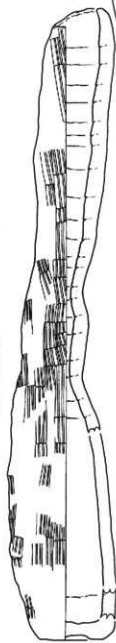


56

00-574RA223

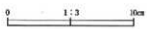
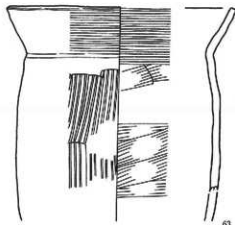
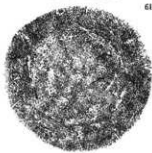
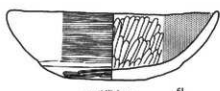
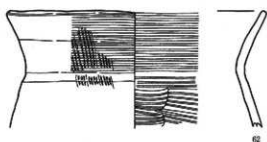
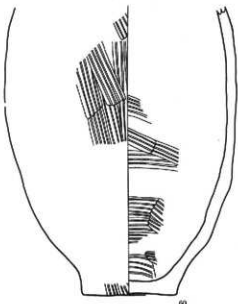
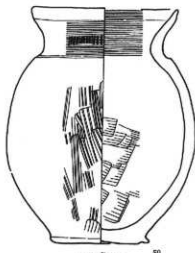
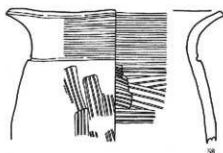


57



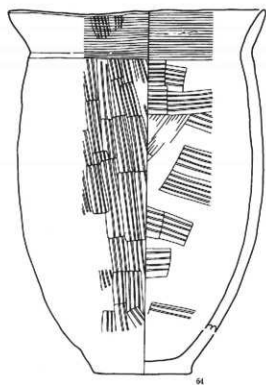
第280圖 土師器・須惠器(9)

0 1:3 10cm

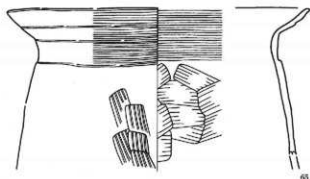


58~60RA225
61~63RA230

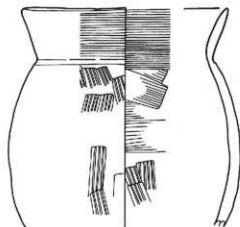
第281図 土師器・須恵器(10)



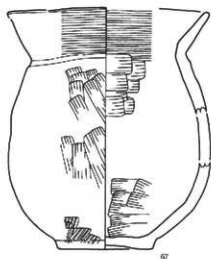
64



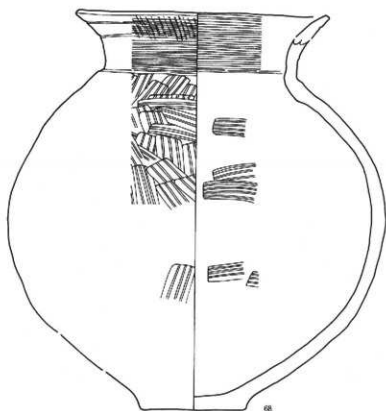
65



66



67



68

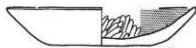
61-662RA230

0 1:3 10cm

第282圖 土師器・須恵器(1)



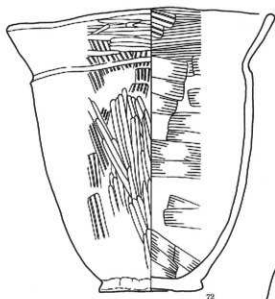
66



70



71

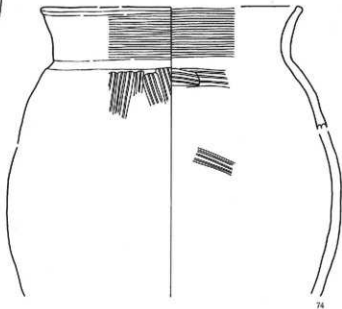


72



73

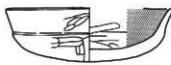
66-74(1)RA231



74



75



76

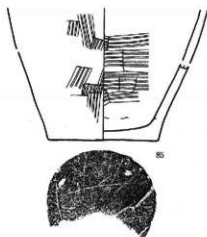
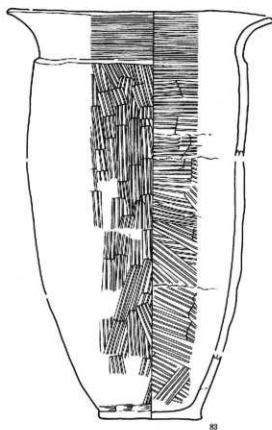
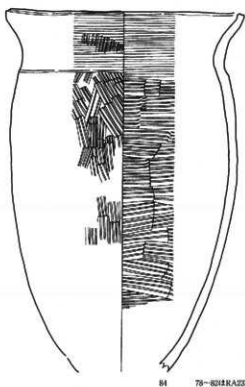
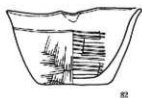
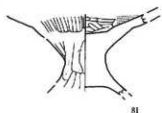
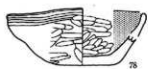


77

75-77(1)RA233



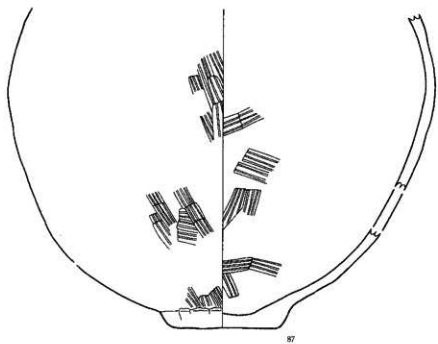
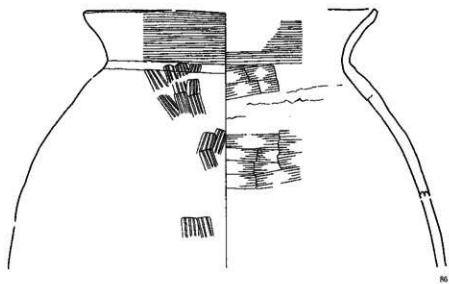
第283圖 土師器・須恵器(2)



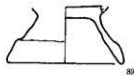
78-8018NA223
83-8048NA234

0 1:3 10cm

第284図 土師器・須恵器(13)

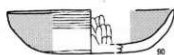


86-8912RA234



0 1:3 10cm

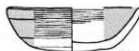
第285図 土師器・須恵器(4)



90



91



92

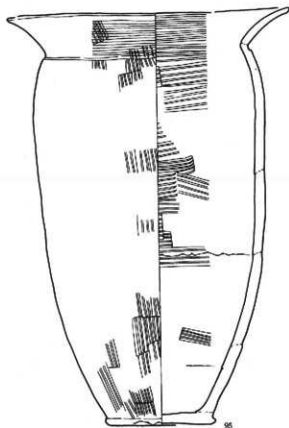


93

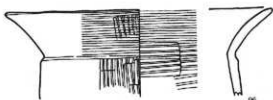


94

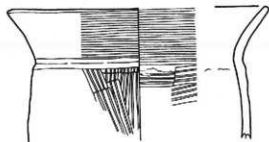
90-1004RA235



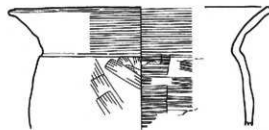
95



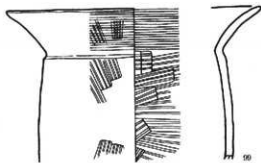
96



97



98



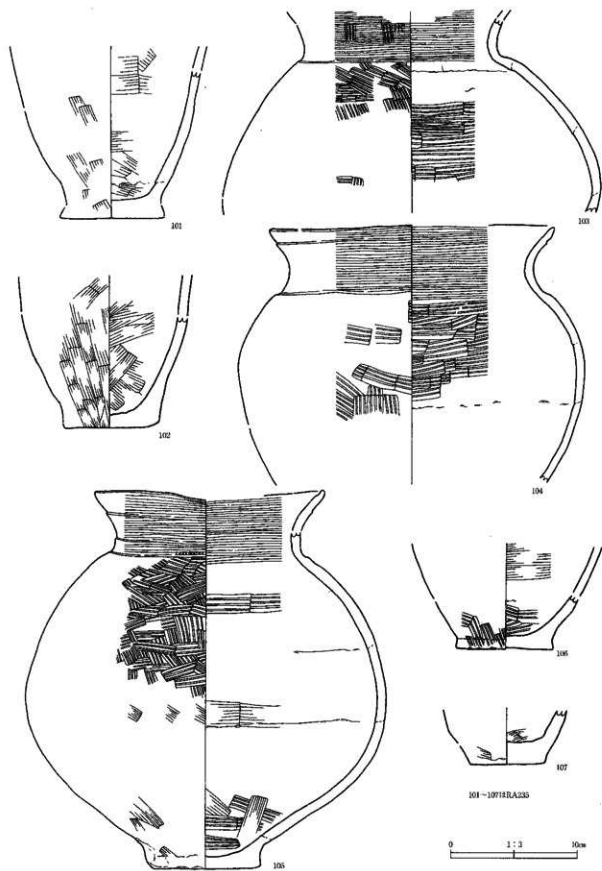
99



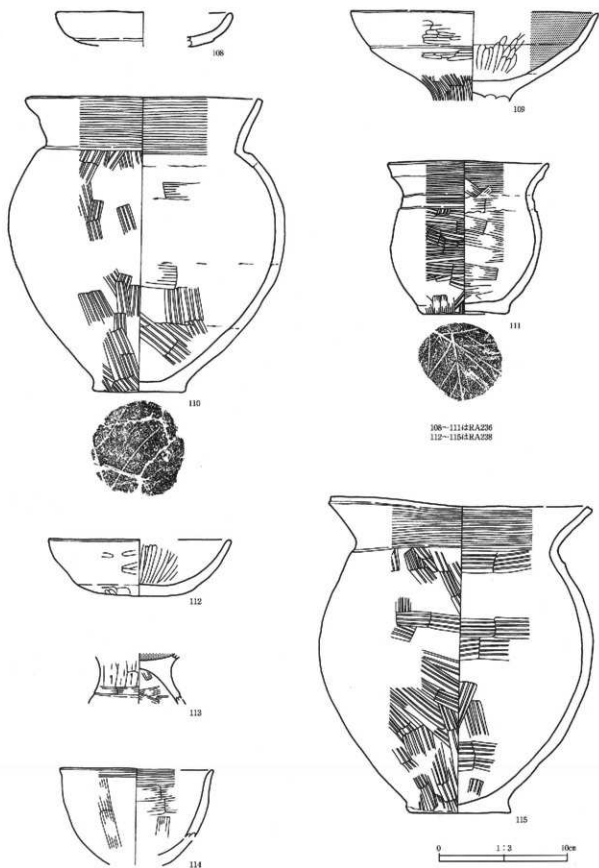
100



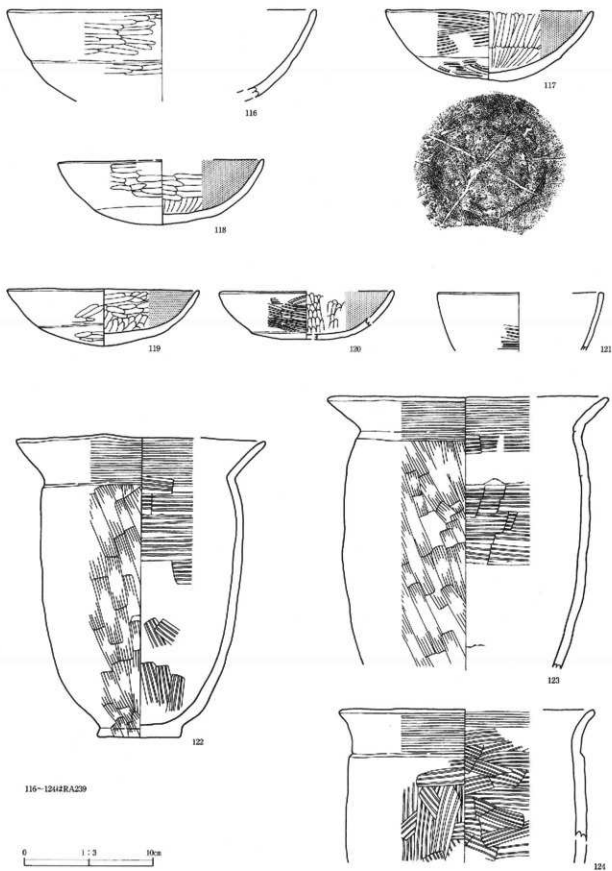
第296図 土師器・須恵器(15)



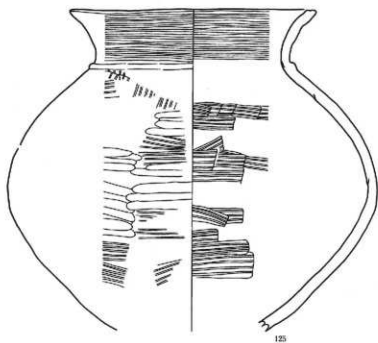
第287圖 土師器・須惠器(16)



第288図 土師器・須恵器(17)

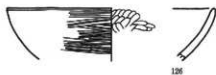


第289図 土師器・須恵器(18)



125

12514RA29
126-1314RA20



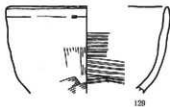
126



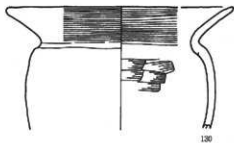
127



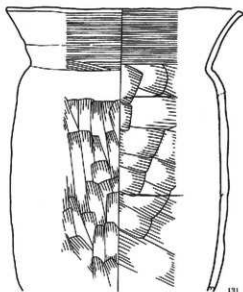
128



129



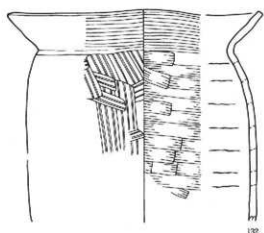
130



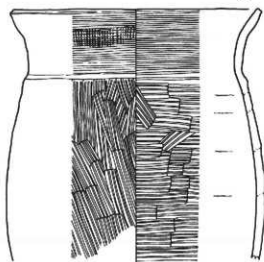
131



第290図 土師器・須恵器(19)



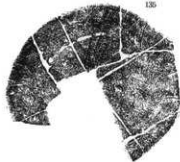
132



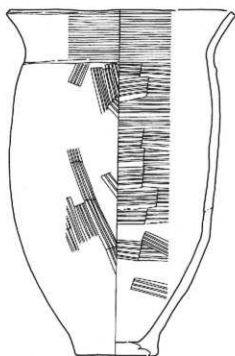
134



135

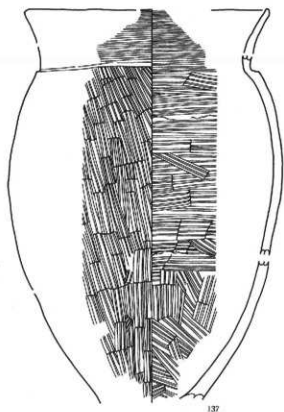


138



133

132-1344RA20

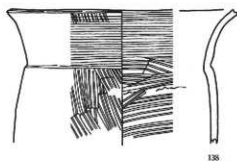


137

135-1374RA246

0 1:3 10cm

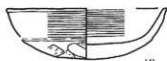
第291図 土師器・須恵器(2)



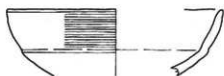
138



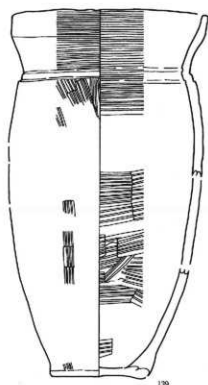
140



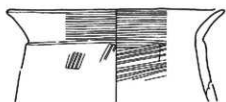
141



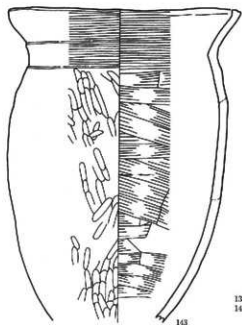
142



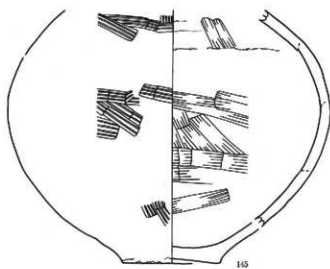
139



144



143



145

138-13042A24
140-16542A247

0 1:3 10cm

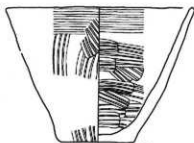
第292図 土師器・須恵器(2)



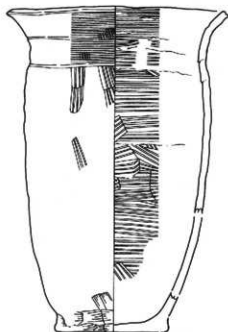
146



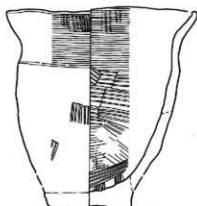
147



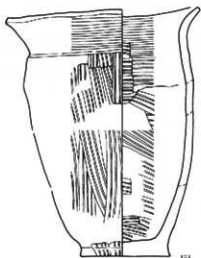
148



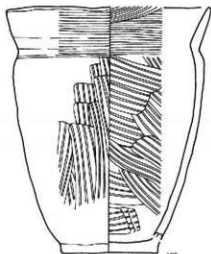
149



150

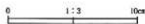


151

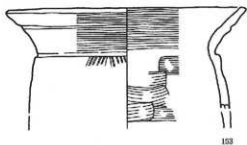


152

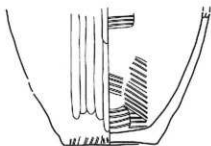
146-152:RA273



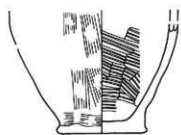
第293図 土師器・須恵器(2)



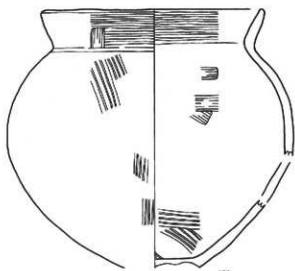
153



154

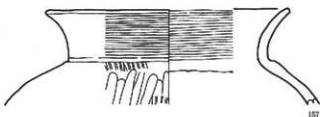


155



156

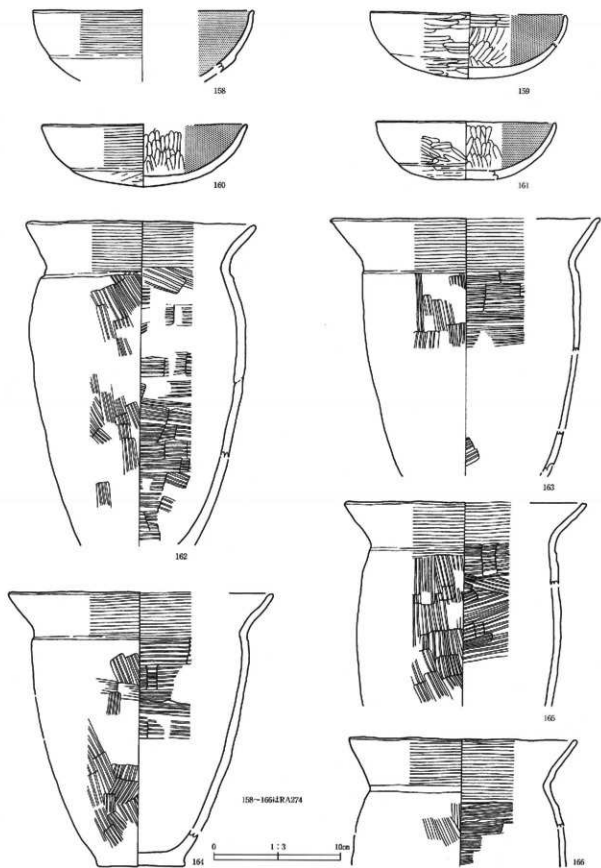
153~157(ARA27)



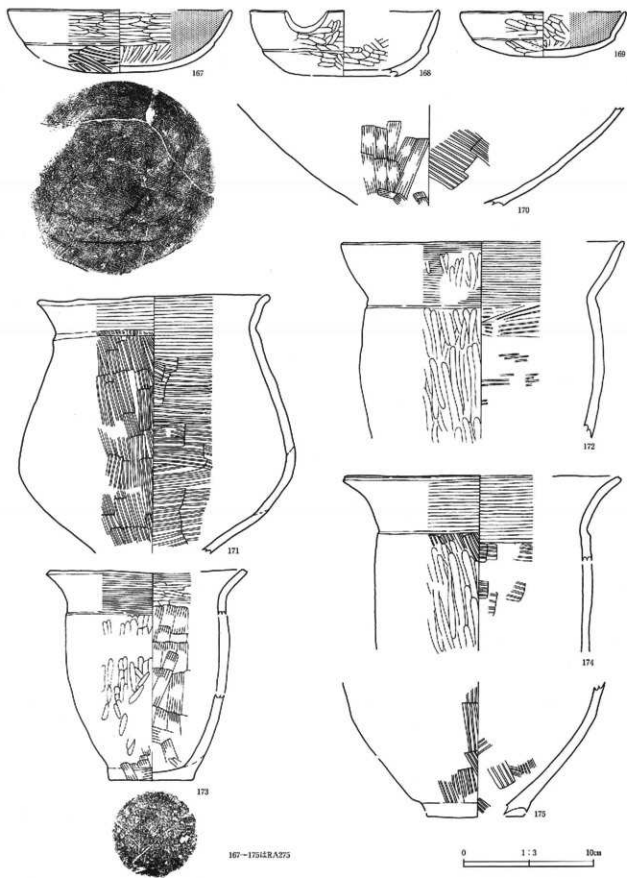
157



第294図 土師器・須恵器23



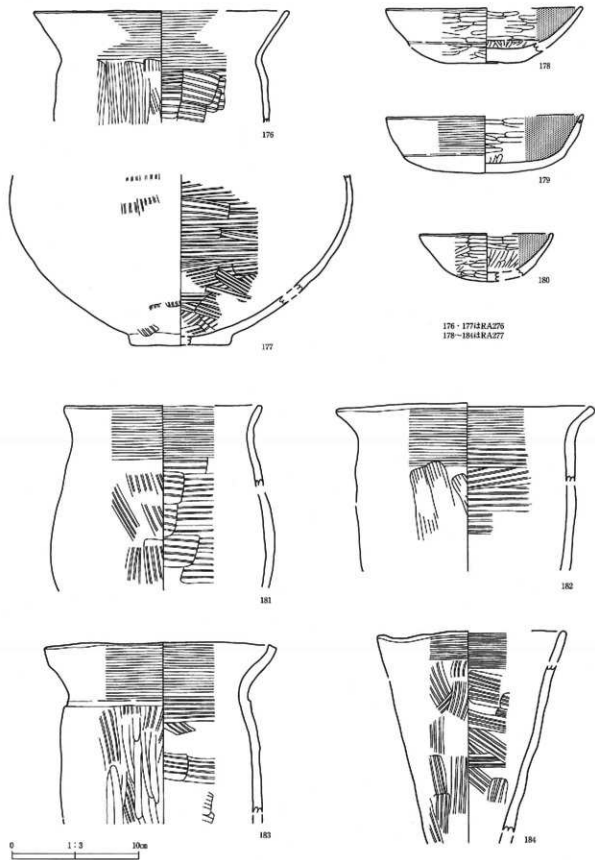
第295図 土師器・須恵器(24)



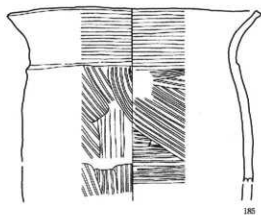
167-175H.RA273

0 1:3 10cm

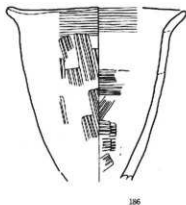
第296圖 土師器・須惠器29



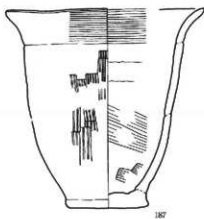
第297図 土師器・須恵器(26)



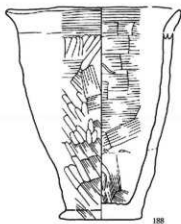
185



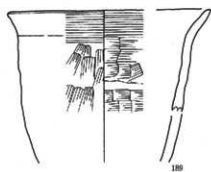
186



187



188



189

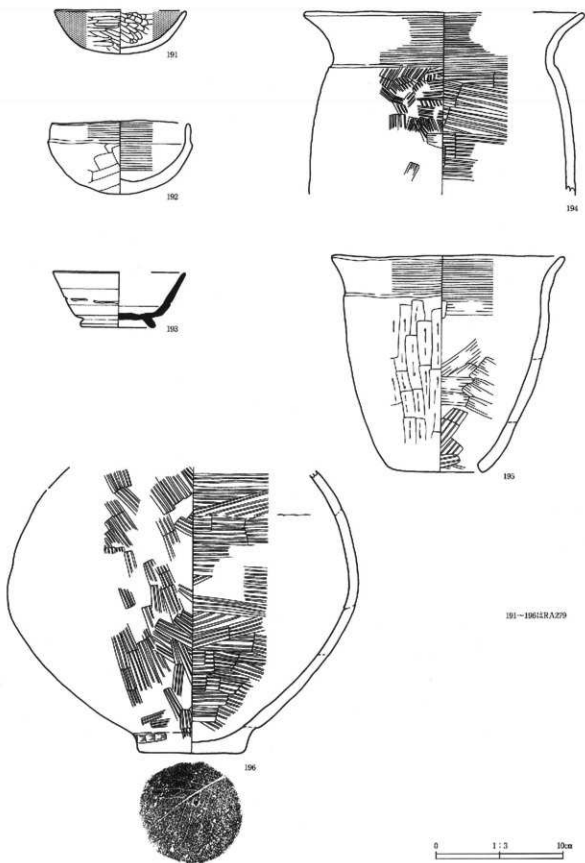


190

185~1804RAZ78
18042RA261

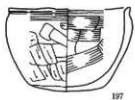


第298図 土師器・須恵器(27)



191-1964RAZ79

第299圖 土師器・須惠器(8)



197



198

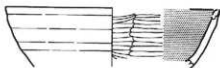


199

197-1994RA213
200-2024RA214
2034RA215
204-2054RA217



200



201



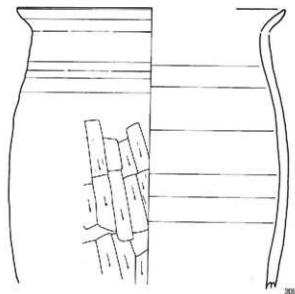
202



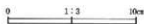
203



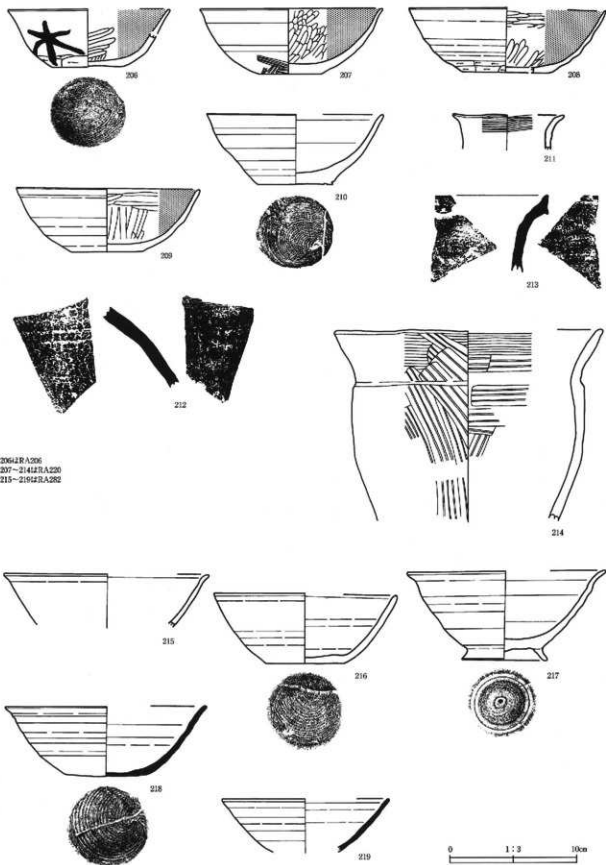
204



205

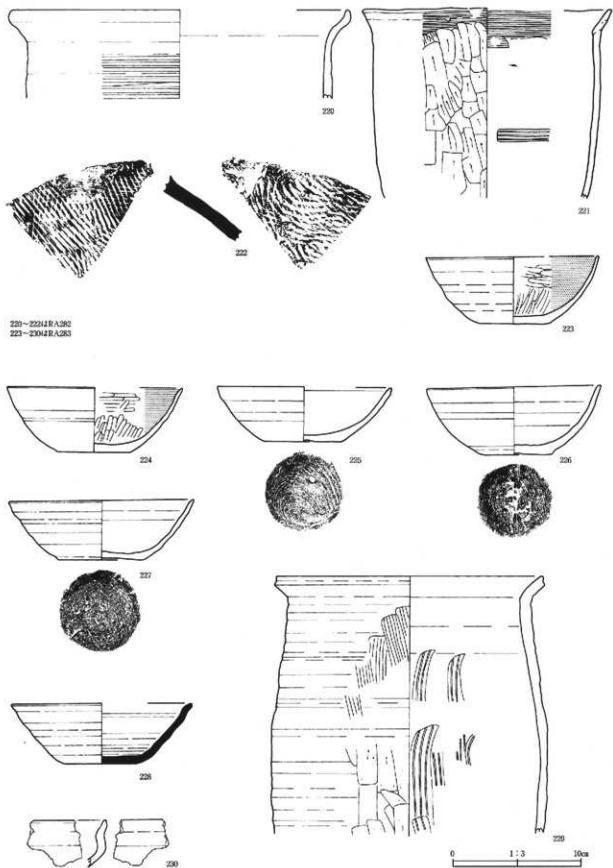


第300圖 土師器・須恵器29

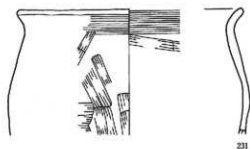


3064R.A206
 207-2142R.A220
 215-21943R.A282

第301図 土師器・須恵器(30)

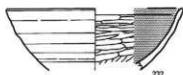


第302図 土師器・須恵器(31)



2314RA283
232-2364RA284

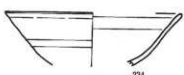
231



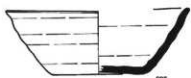
232



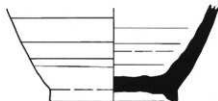
233



234



235



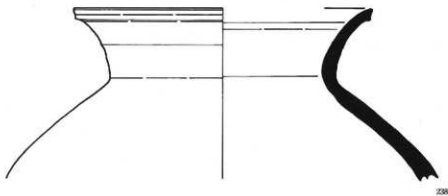
236



238



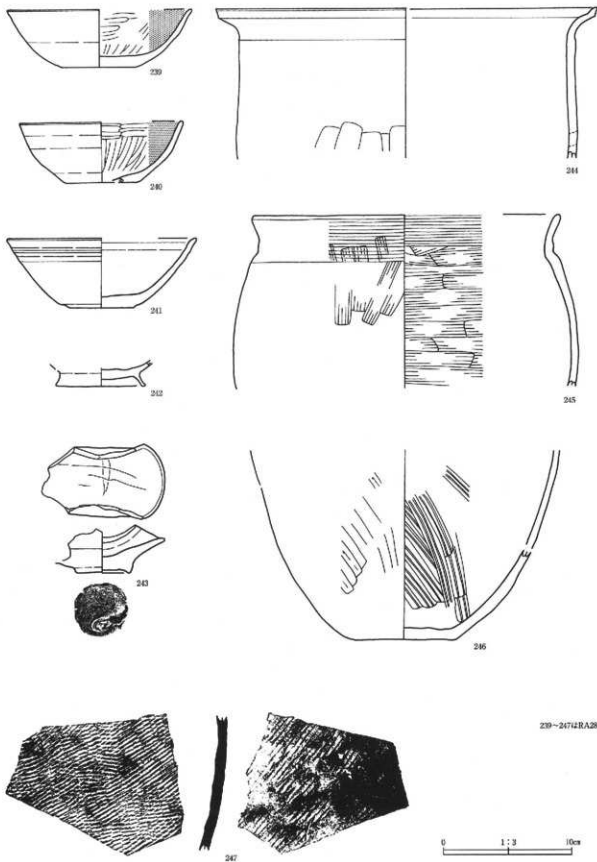
239



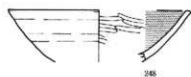
240

0 1:3 10cm

第303図 土師器・須恵器(3)



第304図 土師器・須恵器33



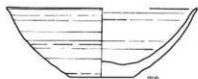
248



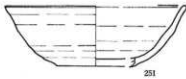
249



252

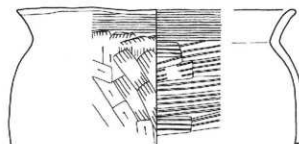


250



251

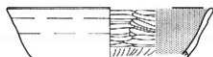
248-251はRA286
252-2521はKA287



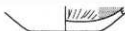
253



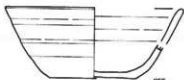
254



255



256



257



258



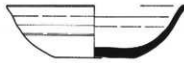
259



260



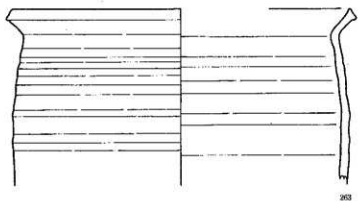
261



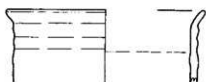
262



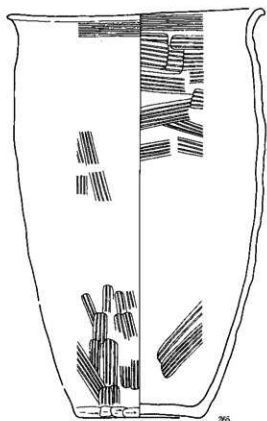
第305図 土師器・須恵器34



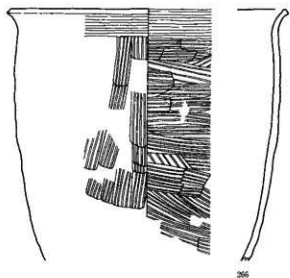
263



264



265

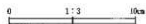


266

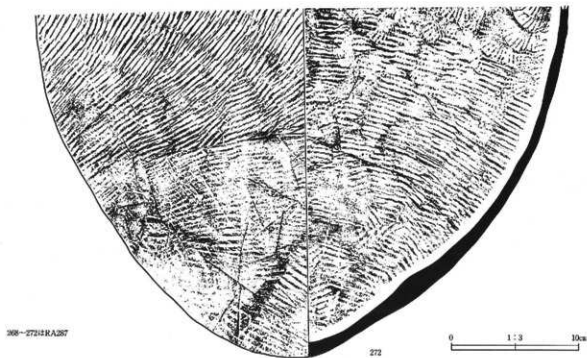
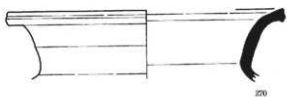
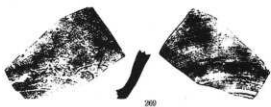
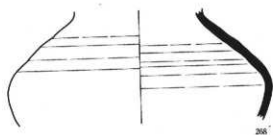


267

263-267はRA267

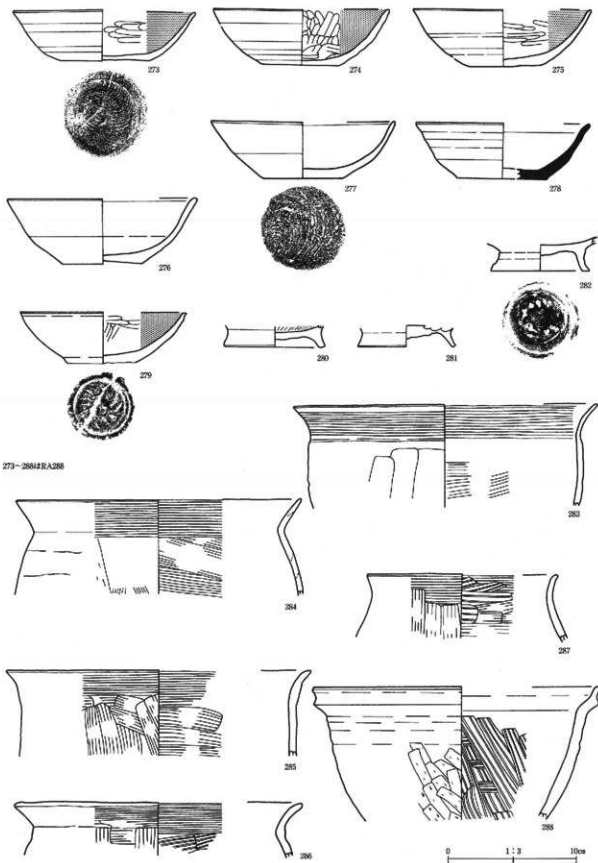


第306図 土師器・須恵器(9)

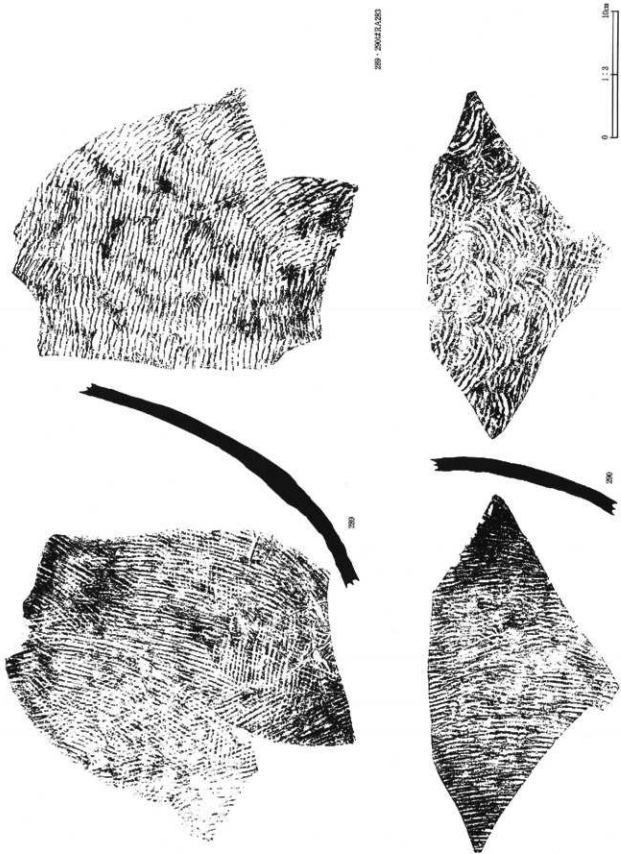


308-272HA267

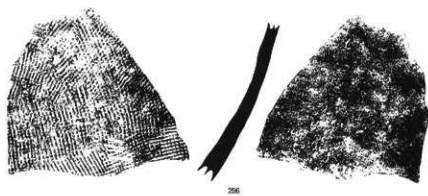
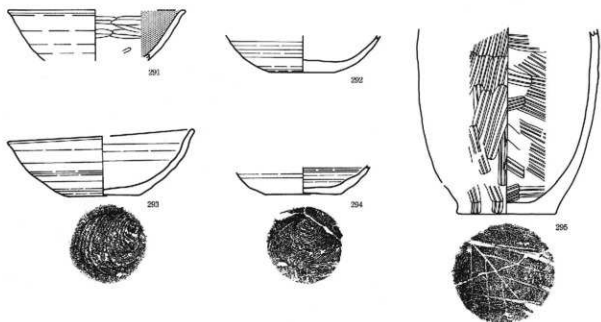
第307図 土師器・須恵器³⁶



第308図 土師器・須恵器(5)



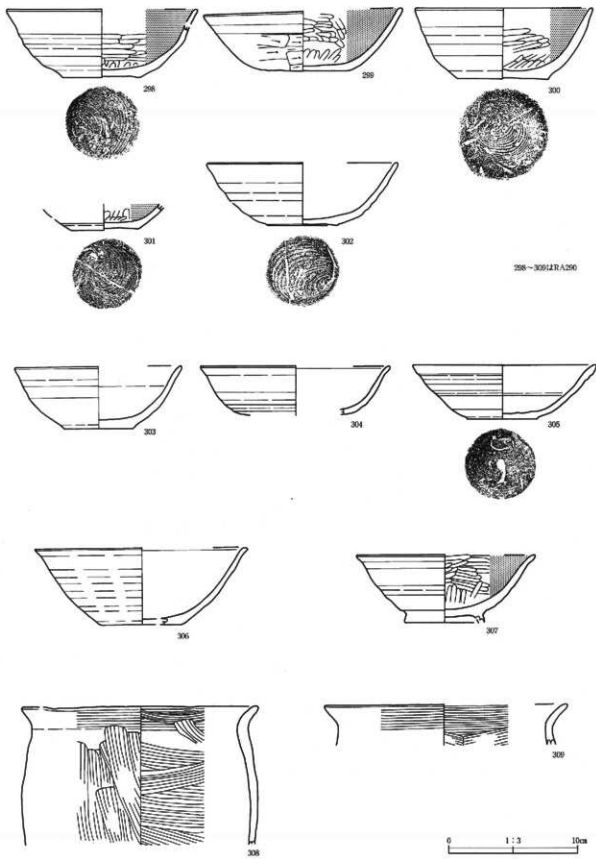
第309圖 土師器・須惠器(8)



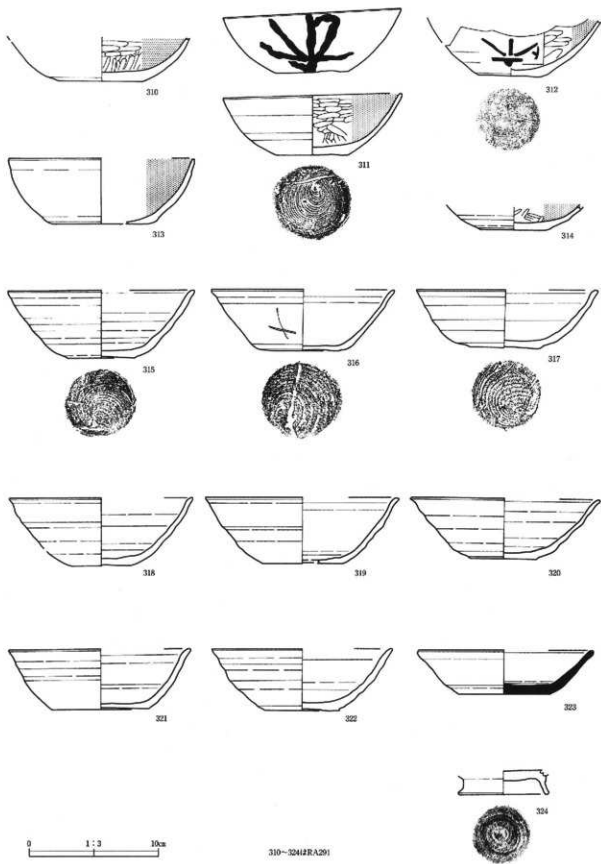
291-297/LRA280

0 1:3 10cm

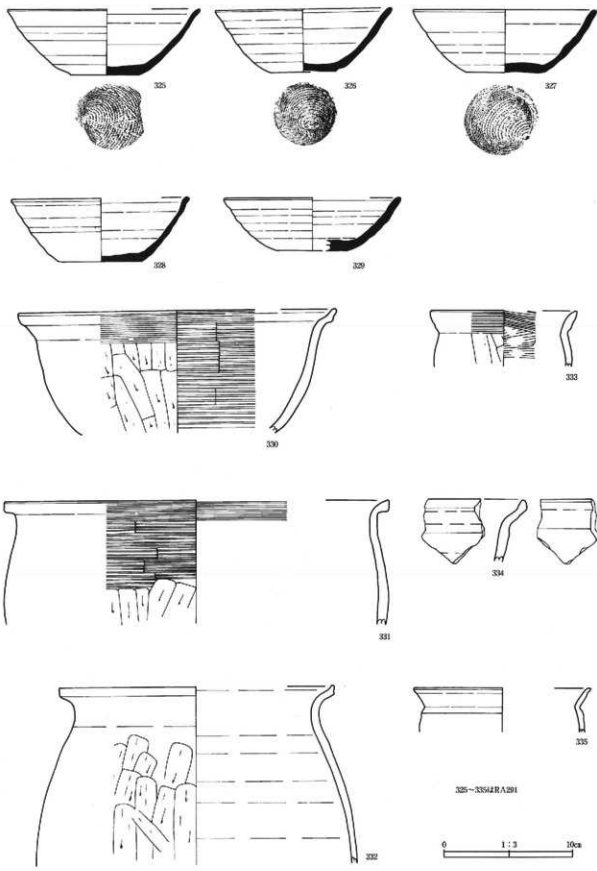
第310圖 土師器・須惠器(9)



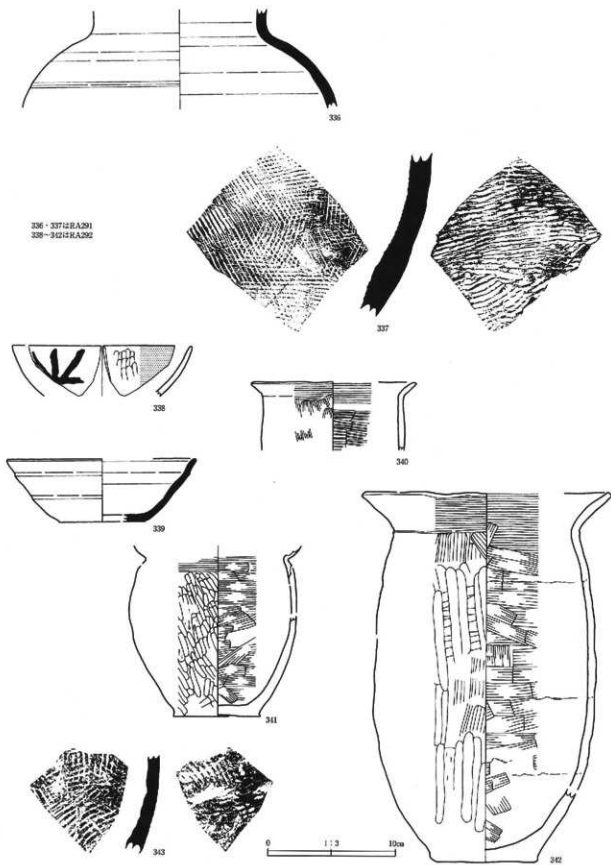
第311図 土師器・須恵器(4)



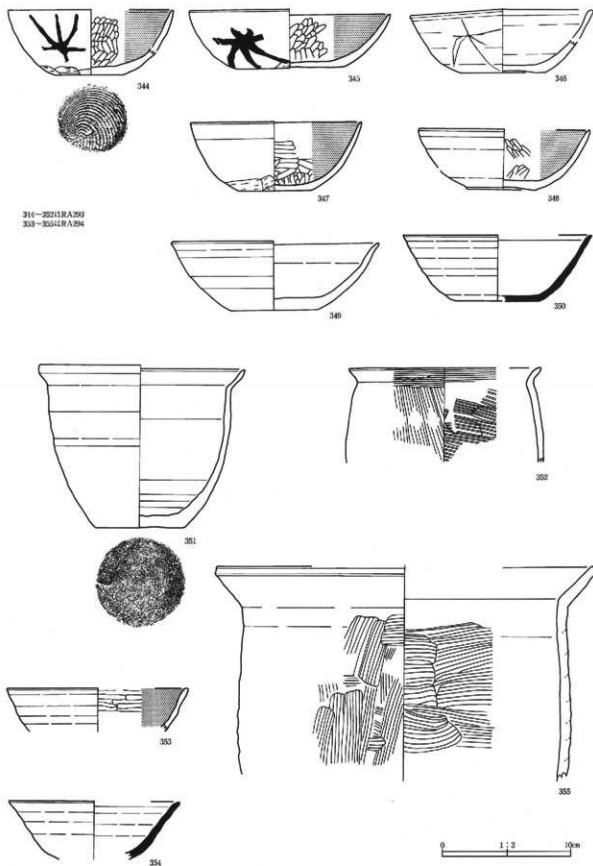
第312圖 土師器・須惠器(4)



第313図 土師器・須恵器(42)

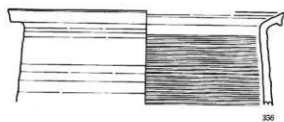


第314圖 土師器・須惠器(43)

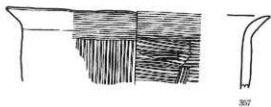


311-35211RA203
333-35341RA204

第315図 土師器・須恵器44



356



357



358



359

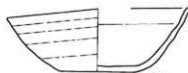
356-360RA.204



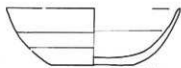
360



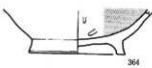
361



362



363



364

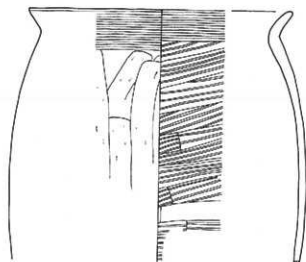


365

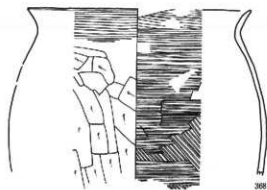
360-364RA.295



366



367



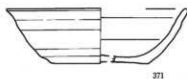
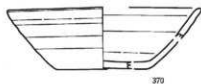
368

0 1:3 10cm

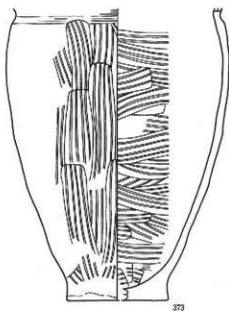
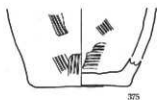
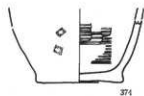
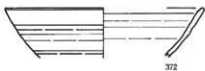
第316図 土師器・須恵器(45)



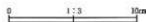
369-4RA286



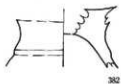
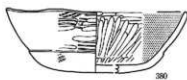
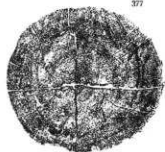
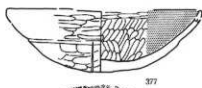
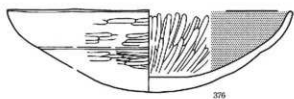
370-3914RA297



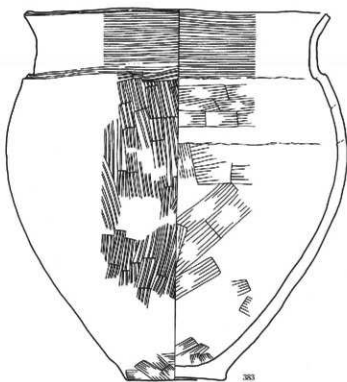
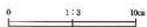
372-37541RA209



第317図 土師器・須恵器(6)



376-383/RD008



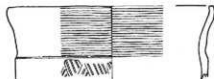
第318図 土師器・須恵器(47)



384



385



386

384-38612ED42
38714RX265
388-38914RX286
39014RX309
39114RX344
39214RX382
39314RX396



387



388



389



390



391



392



393



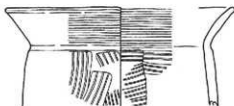
394



395



396



397



394-39714RX309

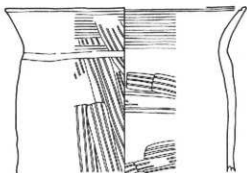
第319図 土師器・須恵器(46)



398



399



400



401

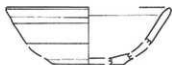
398・39942RD428
40042RD577
401・40342RD608
403-40642RD611



402



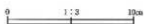
403



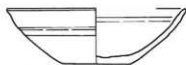
404



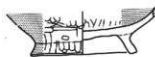
405



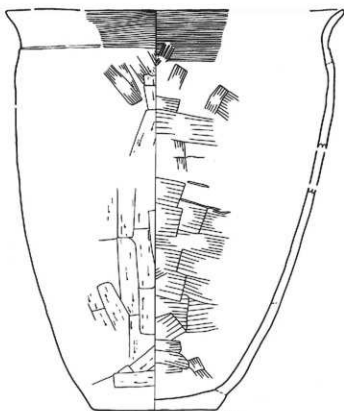
第320図 土師器・須恵器(49)



406

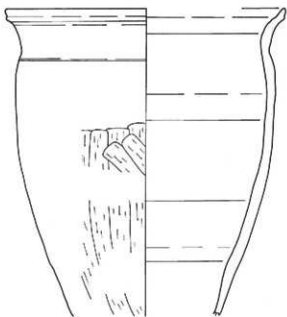


407

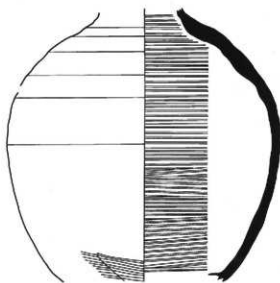


408

406-410 2ED614



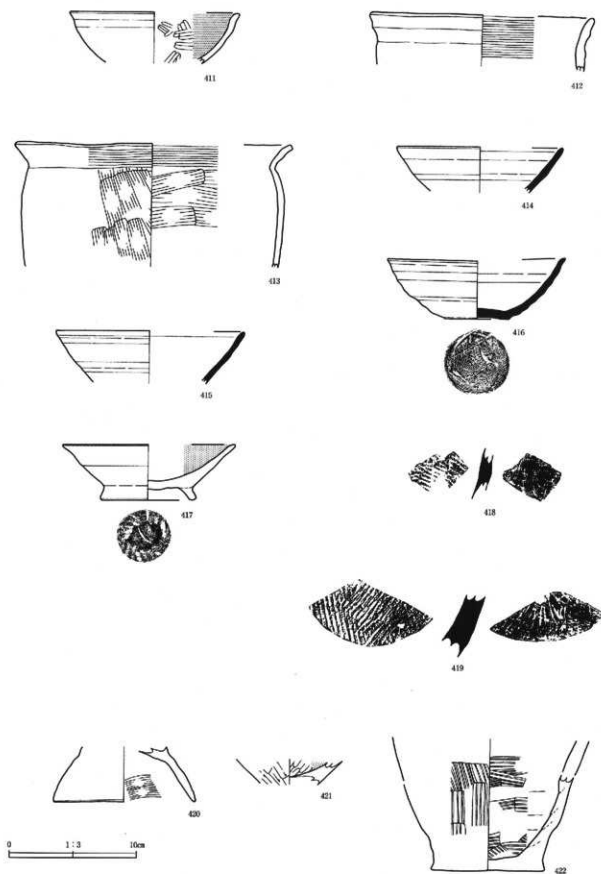
409



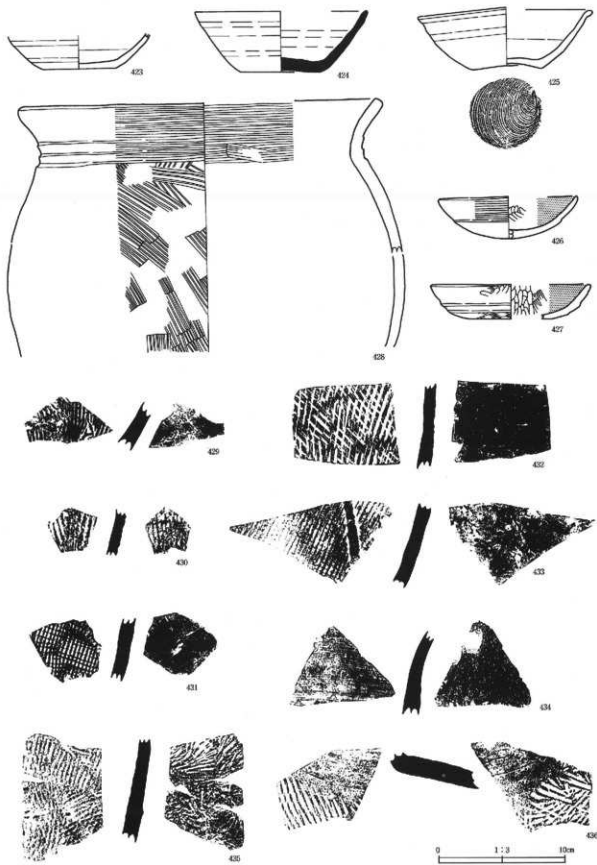
410



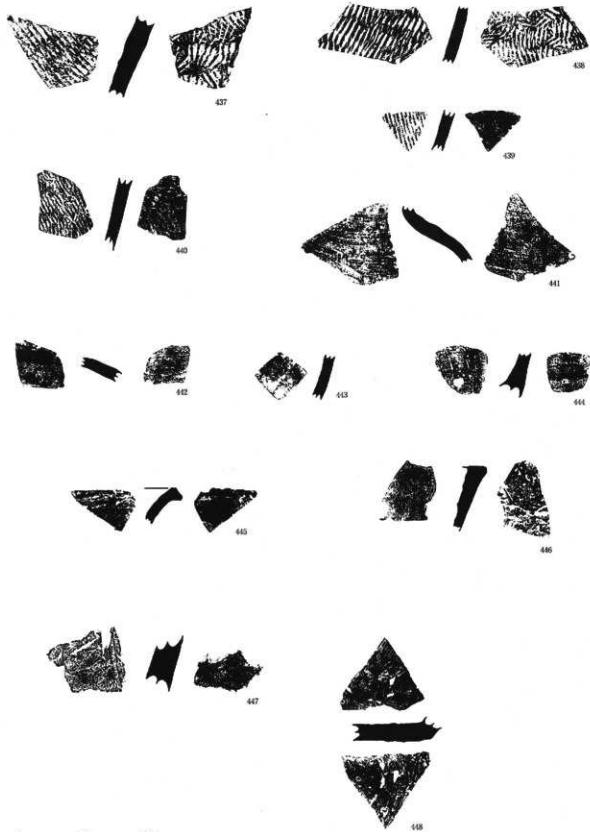
第321図 土師器・須恵器59



第322圖 土師器・須惠器(5)



第323図 土師器・須恵器⁵²



第324図 土師器・須恵器63

(2) 中世陶磁器 (第325・326頁・写真図版314・315)

本調査区から出土した中世陶磁器は担当者の見たところ約35点で、その全てを掲載した。ただし、本遺跡では平安時代の遺構・遺物も多数検出されており、至る所から須恵器が出土する。そして筆者が須恵器と判断し不掲載とした破片資料の中に須恵器系陶器が含まれている可能性も多大にあるのではないかと思っている。また、注意して選別したつもりではあるが近世及びそれ以降の陶器と判断して不掲載としたり、或いはその逆の可能性もある。

449～459は青磁で、出土した器種を見ると碗の割合が多い。449は蓮弁文を施す碗である。450～454にも述介文が見られるがやや退化している。455～457は無文の碗のようである。458は小振りな皿、459は口縁部が端反りする盤であろうか。

460～462は染付である。460はおそらく碗で見込みに描かれているのは「寿」である。461は碗で見込みに幾分彫らみを持つようである。462は皿で口縁部内面に四方禪文が施されている。

463～470は瀬戸・美濃産陶器である。463は外面にのみ灰軸が施され軸に沈んでいるが3本の沈線が横走する。瓶類(花瓶か)の頸部と思われる。464は灰軸平碗で外面の体部下半は無軸となっている。465・466は銅皿のおろし目部分である。467は天目碗の口縁部、468の鉄軸陶器は近世及びそれ以降の遺物かもしれない。器種を取柄と考えたが自信はない。469は瓶類と思われ灰軸を外面のみ施軸している。

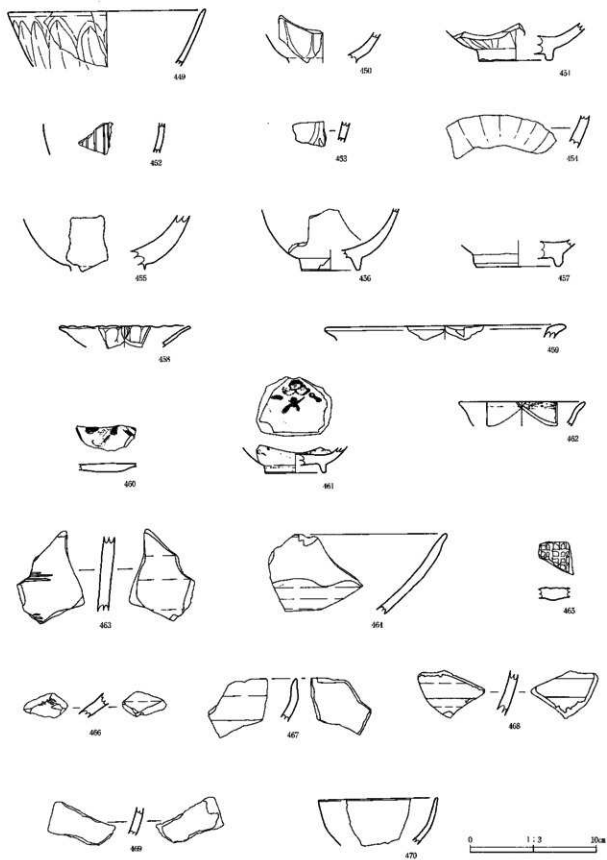
471～482は常滑産、北陸系の陶器及び産地のよくわからないものである。471は常滑産片口鉢と思われ13世紀末頃のものであろうか。472は産地不明の陶器で焼き締まっている。473～482は銅鉢である。473と474は溝幅の狭い溝を用いて間隔を広くおろし目を付けている。摩耗し内面は滑らかになっている。珠洲産と思われる。476～479は同じような質感を持つものである。何れも間隔を開けておろし目を付けており、内面の摩耗が著しい。477の口縁部は内側に少し折り返むようにつくられている。480は口縁部破片でおろし目の有無は不明であり銅鉢ではないかもしれない。胎土は黒褐色で焼成は良い。産地は不明である。481・482も産地がわからなかった。近世陶器かもしれない。482は須恵器的な質感でかなり厚みがある。口縁部を除く外面には薄く鏡削りしたような跡がある。出土したときは煤なども付着していた。在地で生産されていたものであろうか。

(3) かわらけ (第327頁・写真図版315)

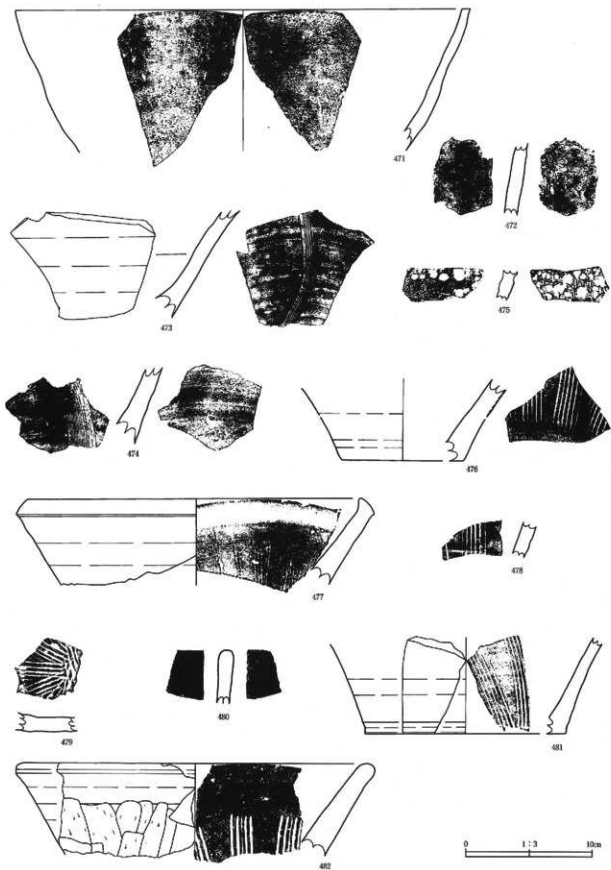
今回の調査ではR 2012からのみ、かわらけが出土した。破片となった状態で出土し、個体数は3～5点程と思われる。その中から図化可能な3点を掲載した。

483と484は比較的大型のロクロかわらけである。底部には回転糸切痕が残り、底部から一旦反して立ち上がり、その後口縁部にかけて内湾気味に立ち上がっている。共に風化が著しくかなり強引な接合をした。ロクロ以外の調整が施されていたかは不明である。485は小型のロクロかわらけである。今回の調査では小型のかわらけはこの1点のみの出土であった。口径に対し底径が大きく、器高はそれほど高くない。底部には回転糸切痕が認められるが、ロクロ以外の整形が施されていたか判断しえない。

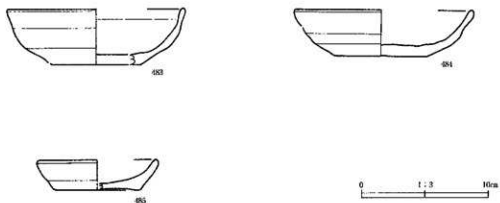
これらのかわらけが出土したR 2012は遺跡南端ほぼ中央部の4 B区に位置している。北側には葛葉群・堅穴礎物跡・掘立柱建物跡など中世の遺構が密に分布し、南側には湿地が広がっている。遺構はこの湿地と



第325図 中世の陶磁器(1)



第326図 中世の陶磁器(2)



第327図 かわらけ

中世遺構群の境目となる場所に位置している。何ら特徴的な出土状況を呈するものではなかったが、遺構には伴っていると思われ、また一括出土ではないにしてもお互い時期的には近いものではないかという印象を持つ。時期を特定できるような遺物は共伴していないが、周辺の遺構の状況から中世に属すると考えられ周囲で出土した中世陶磁器の年代観から14～15世紀頃のものと考えたい。

(4) 木製品 (第328～332図・写真図版316～319)

今回の調査で台太郎遺跡の南端は4-B区～5-D区にかけて湿地が広がっていることが明らかになった。とくに4-B区南側の湿地部分を精査したところ木質遺物や加工痕のない自然木が出土した。とくにこの湿地内で検出されたR Z014及びR D789からはコンテナ3箱(42×32×30cm)程の木製品と自然木が出土した。これらの遺構及び湿地帯のすぐ北側には中世の墓群が広がっており、木製品についても概ねこの中世墓群と同じ時期のものとして捉えるのが最も妥当と思われる。よってここでは木製品の年代を14世紀～15世紀頃の遺物と位置付けたい。

486～492はR D789埋土出土である。486は漆器碗である。内外面黒地に赤で文様が描かれている。意匠は紅葉であろうか。487は連歯下駄である。歯は非常に減っている。488は薄い板である。加工時の残片であろうか。489は細い棒の一端を斜めに切り尖らせたものである。490は箸であろうか。491・492は棒状のもので所々面取りしている。

493～502はR Z014埋土から出土したものである。R D789と同様に人為的に廃棄された遺物もあるが、自然に流れ込んだものも多いと思われる。493は漆器であるが器種は不明である。内外面に黒漆が塗られている。494は木槌である。柄は折れていたがほぼ原形を保った状態で出土した。495は用途不明である。棒状の形状の一方を細くつくり出しているがその先が失われており不明である。496は瓢箪、497・498は樹皮であろうか。499～501は杭である。499は主に二方向から尖らせている。500・501の杭は遺構の底面に打ち込まれていた。502は板材であろうか。実際はもっと上下左右に大きかったと思われる。488も薄い板状の製品で穿孔が見られる。501は小さな桶状の製品の底板と思われる。505には加工痕がみられるが用途不明である。

R Z001は水場のような施設と考えられる遺構で近世及びそれ以降と考えている。506・507はその底面に打ち込まれていたものである。508は細い棒の中に鉄が通っているが用途はわからない。509～511は下駄である同一個体となると思われる。512～514はR D331の埋土から出土した。512は桶の一部であろうか。513の栓が対応する。514は板材である。515は柱材の一種かもしれない。何れも近世以降の遺物である。

(5) 金属製品

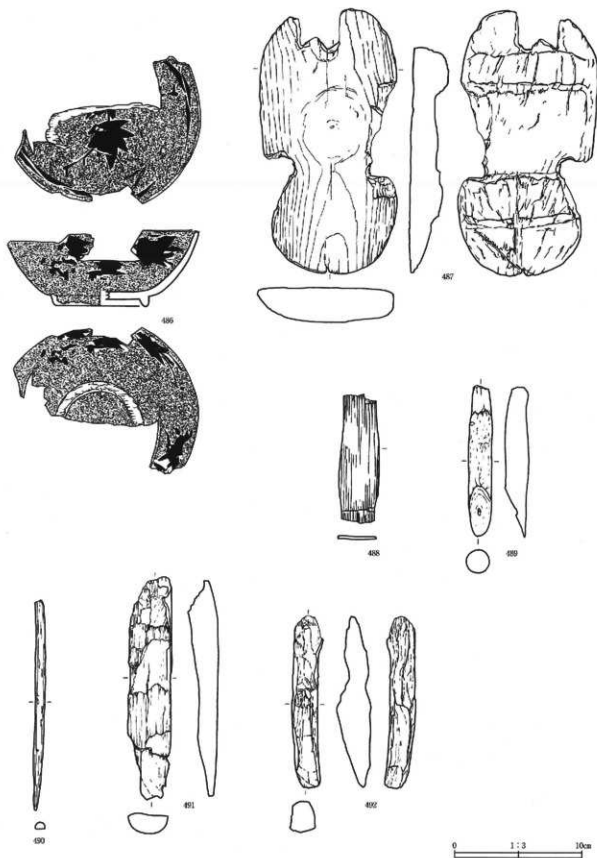
金属製品 (第333～335図・写真図版320～322)

今回の調査で出土した金属製品(銭貨を除く)は、遺構内外合わせて87点であった。その中から遺構内出土のものを中心に代表的なもの37点を図示し、鉄滓については写真のみの掲載とした。

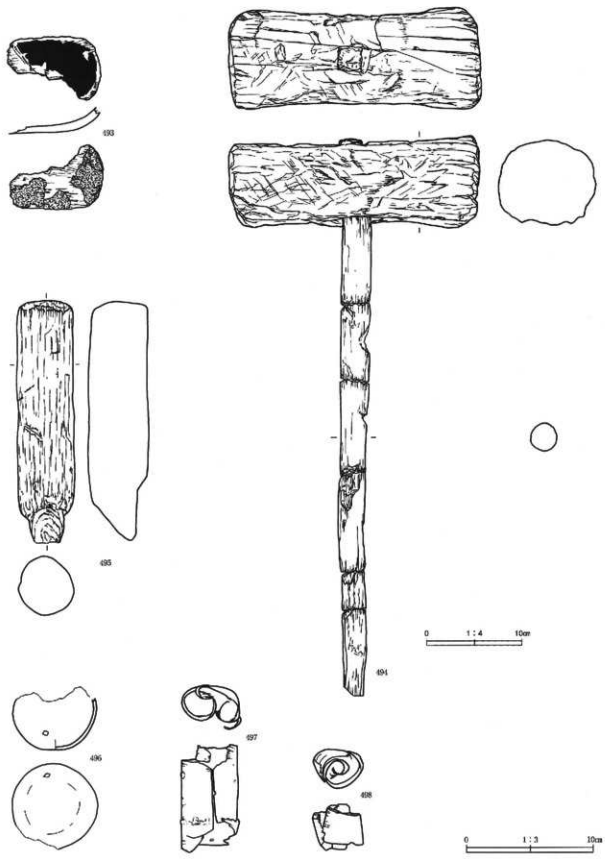
516～518は鉋先或いは鋤先と思われる。何れもR A291撃穴住居跡に伴って出土している。全体に錆が著しいが先端部はやや丸みを帯びているように見える。木質部への装着部は内側には、幅1cm前後のV字状の溝が巡っている。

519～531は鉄釘である。断面形は何れも方形を基調としているようである。528～531は遺体を納める棺に使われていたのかもしれない。532は鏝であろうか。533は刀子と思われる。534～545は種類不明のものである。543は輪状のもの。544と545は同じ種類のもので厚さ1cmに満たない鉄製の円盤の中心に小さな孔が見られる。ともにR D597から出土した。

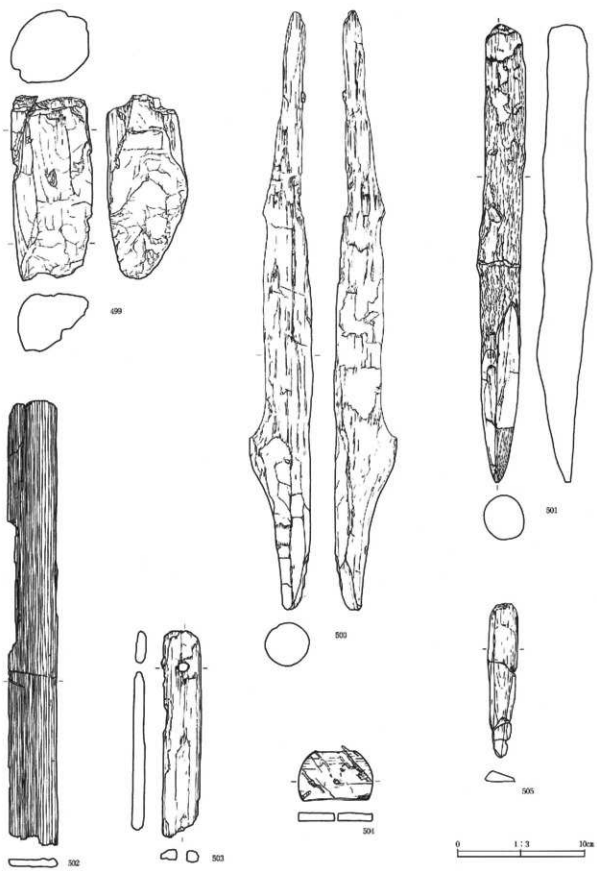
546～551は銅製品である。546は煙管の扉首部で、547～550は煙管の吸口部である。552は簞であろうか。



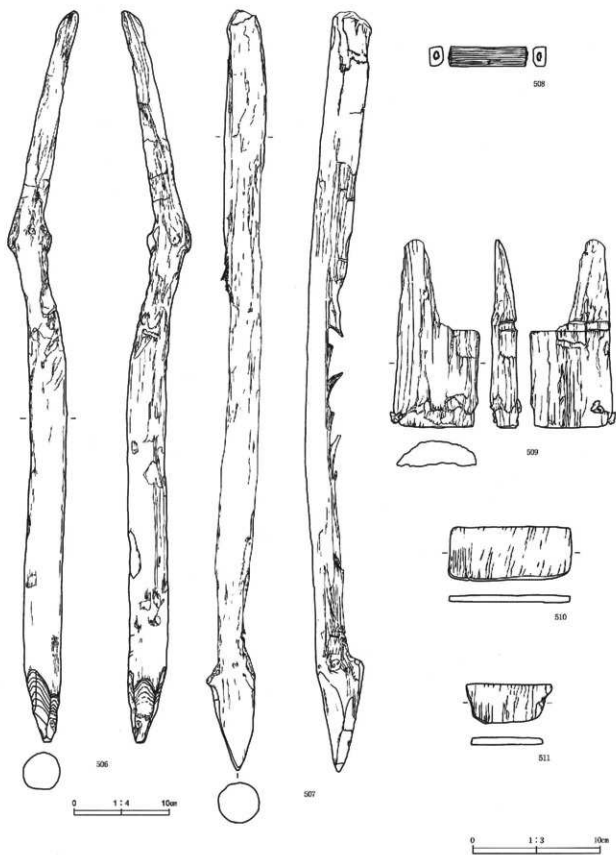
第328図 木製品(1)



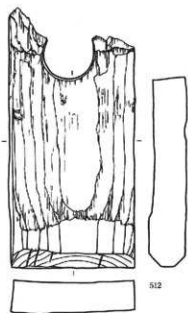
第329図 木製品(2)



第330图 木製品(3)



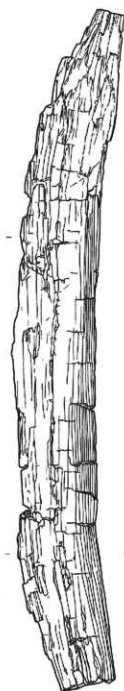
第331図 木製品(4)



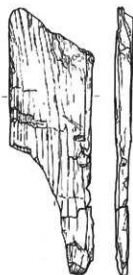
512



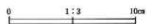
513



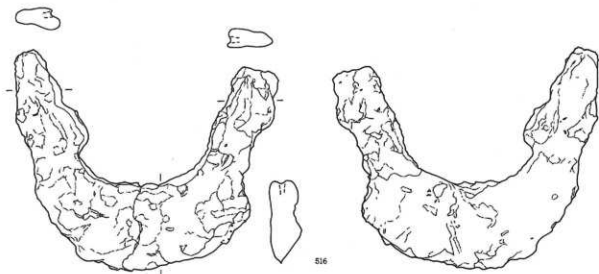
515



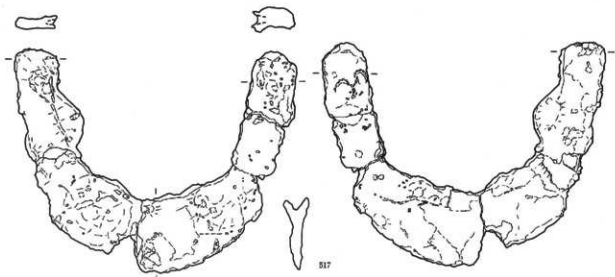
514



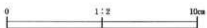
第332図 木製品(5)



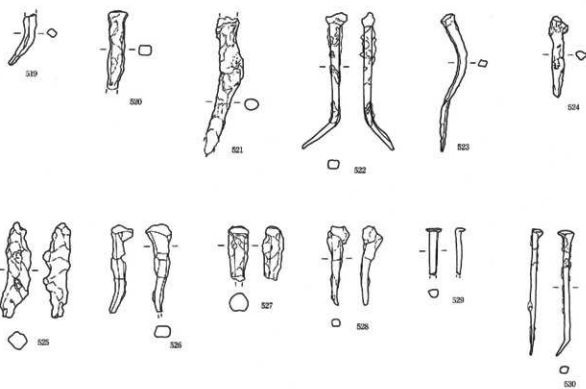
516



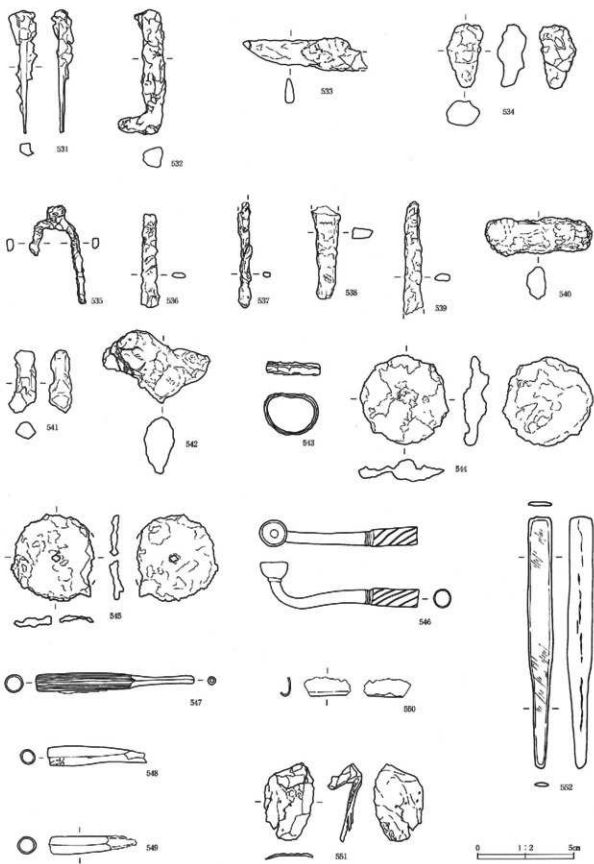
517



第333図 金属製品(1)



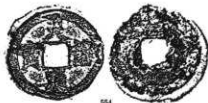
第334回 金属製品(2)



第335圖 金屬製品(3)



553



554



555



556



557



558



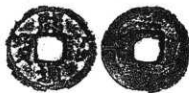
559



560



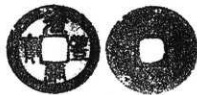
561



562



563



564

第336圖 錢寶(1)



365



366



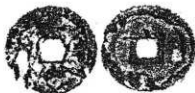
367



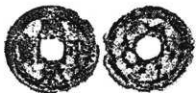
368



369



370



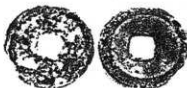
371



372



373



374



375

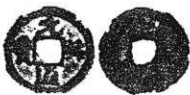


376

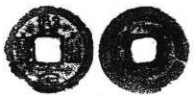
第337图 钱背(2)



577



578



579



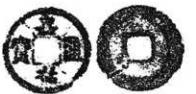
580



581



582



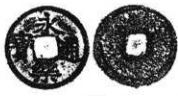
583



584



585



586



587



588



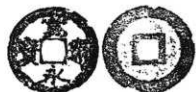
589



590



591



592



593



594



595



596



597



598

第339圖 錢貨(4)



599



600



601



602



603



604



605



606



607



608

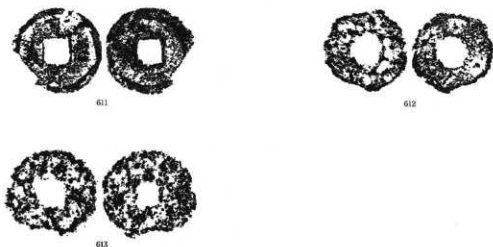


609



610

第340圖 錢寶(5)



第341図 銭貨(6)

551は何かの一部で薄い銅板が捲れたものである。

銭貨 (第336～341図・写真図版323～327)

銭貨は中世に属するもの43点、近世のもの24点が出土し、その殆どを掲載した。複数の銭貨が密着して出土したのもあり、それらは可能な限り個々の計測値を求めるために分離させたが、不可能なものはそのまま計測し掲載している。

553～563はR D 298中世墓の埋土下位、北壁付近から出土した。12枚が密着し孔には紐が僅かだが残っていた。出土銭貨は北宋から南宋期のものであった。554は2枚付着の状態で剥離できなかったため1枚の銭貨名が不明である。その他中世墓からは564元豊通寶がR D 712から、565元豊通寶と566はR D 738からの出土である。567祥符通寶と568鑄銭?はR D 789から出土した。569は元豊通寶でR E 036堅穴状遺構の埋土下位から出土した。570から575は溝跡から出土したものである。570は判読できなかった。572は天聖元豊と元□□寶が付着している。573・574も銭種不明である。576は洪武通寶の背一銭。577は至和元寶で中世墓群に南隣するR Z 014から出土した。同じく中世墓群の南側に広がる湿地帯からは579熙寧元寶・580洪武通寶が出土した。578元祐通寶で柱穴P1785から、581は景德元寶でR A 248の柱穴P1995から出土した。

587から591は近世墓R D 597から出土した。あまりまとまった状態での出土ではなかった。587から589は古寛永と思われる。590には背文が見られる。591も寛永通寶でよいと思われる。592は古寛永であろうか。近世墓から出土した。593は寛永通寶と思われる。鉄製である。594は鑄銭であろうか。595から600はR G 223溝跡から出土した。595・596は古寛永である。598には背文が見られる。599と600も寛永通寶でよいと思われるが年代等は不明である。601の寛永通寶には背文がある。602は年代不明である。603から605は柱穴から出土しているものである。何れも古寛永である。606から613は遺構外出土である。606・607・609は古寛永。608・610は新寛永であろう。611は年代不明である。612・613は鑄銭であろうか。613は鉄製のようである。

(6) 土製品

紡錘車 (第342図・写真図版328)

土製紡錘車は9点が出土し、その全てを掲載した。何れも竪穴住居跡からの出土で奈良時代に属する。底面直径4.1~5.4cm、高さ1.8~3.3cmで円錐台形を呈し重量は26.3~80.2gである。判然としないものが多いがナデ及びヘラミガキにより調整されていると思われる。表面が黒色を呈するものなどは黒色処理されているのであろうか。胎土、焼成とも土師器と似るが、厚みがあるためかやや脆い。

羽口ほか (第342図・写真図版328)

何れも竪穴住居跡から出土し全てを掲載した。623は羽口である。先端部が溶解し、もう一方は欠損している。624・625は同一個体の可能性がある。中に孔が通っており支脚或いは羽口と思われる。

勾玉ほか (第342図・写真図版328)

土製勾玉は2点出土し、全てを掲載した。胎土、焼成は土師器と似る。恐らく調整も同様で、黒色処理が施されているようである。628は土人形で近世の遺物である。

(7) 石器・石製品

石器事実記載

竪穴住居跡出土

- R A 201…629はアイサイト製の砥石である。使用面は4面で中央付近の使用が顕著である。
- R A 206…630はアイサイト製の砥石である。使用面は4面で、上面の使用が顕著である。631は安山岩質溶岩製の磨石である。表面の一部に平坦な部分があり、若干であるが擦痕が観察される。
- R A 231…632・633はともに安山岩製の磨石である。632の使用面は2面で部分的に擦痕が観察される。633の使用面は1面で、ほぼ全面に擦痕が観察される。
- R A 236…645は安山岩製の磨石である。使用面は2面で部分的に溝状の擦痕が観察される。
- R A 239…634はアイサイト製の砥石である。使用面は4面で、非常に平滑になっている。
- R A 273…635は安山岩製の磨石である。使用面は2面で、表面にはほぼ全面、裏面には部分的に擦痕が観察される。
- R A 275…636は泥岩製の磨石である。使用面は2面で、平滑になっている。裏面には煤状の付着物が観察される。
- R A 283…637は安山岩質溶岩製の砥石で、溝状の擦痕が観察される。638は凝灰岩製の砥石で、ほぼ全面に擦痕が観察される。
- R A 285…639は凝灰岩製の砥石である。端部以外の部分に擦痕が観察される。640は安山岩製の凹石である。表裏に一箇所ずつ凹部が観察される。
- R A 286…641は安山岩製の磨石である。使用面は1面で、部分的に擦痕が観察される。
- R A 287…642はアイサイト製の磨石である。使用面は1面で中央付近に擦痕が観察される。
- R A 291…643は凝灰岩製の砥石である。表裏2面に擦痕が観察される。644は安山岩質溶岩製の磨石である。表裏のほぼ全面を使用している。

土坑出土

- R D 399…646は擦痕の観察される礫破砕片資料である。石質は頁岩である。
R D 440・442…647は砥石である。使用面は4面である。
R D 489…648は安山岩製の石皿である。使用面は1面でほぼ平坦である。
R D 657…649は安山岩製の磨石である。使用面は2面で、ほぼ全面使用されている。
R D 737…650は安山岩質溶岩製の凹石である。凹部は表面の中央付近に観察される。
R D 789…651は安山岩製の凹石である。凹部は表面に一箇所観察される。

竪穴状遺構出土

- R E 027…652は頁岩製の剥片である。二次加工は確認されない。
R E 034…653ははれい岩製の行芥である。両側縁とも中央部が調整によって挟れている。下端部には敲打痕が観察される。654は泥岩製の磨石と蔽石の複合石器である。下端部に敲打痕が、表裏両面に擦痕が観察される。
R E 036…655はめのうの原石である。石質に注意して報告した。

清跡出土

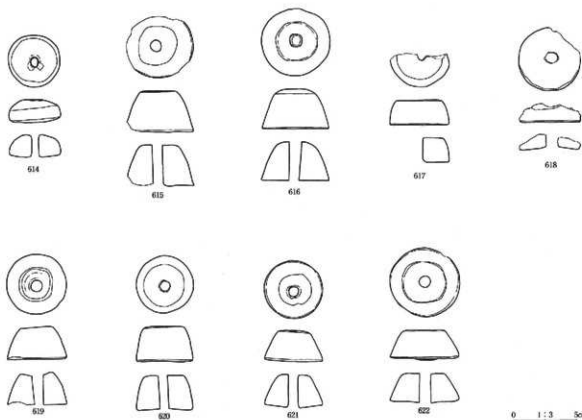
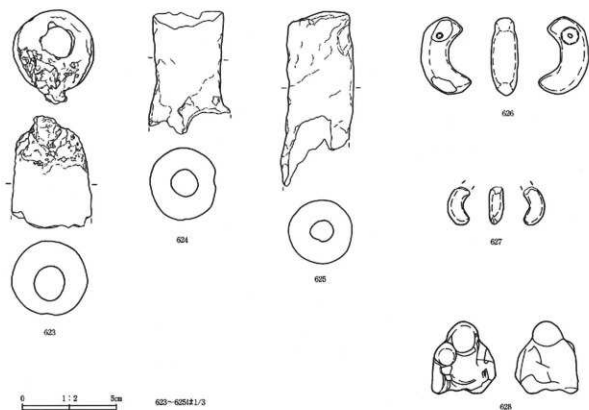
- R G 084…656は安山岩製の石皿である。使用面は2面で、中央部がくぼんでいる。
R G 073…657・659は頁岩製のRFである。657は素材剥片背面右側縁に部分的な二次加工が観察される。
659は素材剥片腹面右側縁に連続的な二次加工が観察される。658・660は頁岩製のUFである。
658は背面右側縁に部分的に微細な剥離痕が観察される。660は腹面に部分的に微細な剥離痕が観察される。
R G 198…661は安山岩製、662は石質不明、664は安山岩質溶岩製の石皿である。661・664は使用面が1面、662は使用面が2面観察される。663は安山岩質溶岩製の磨石である。表面の中央付近に若下であるが、擦痕が観察される。
R G 199…665は頁岩製の石鏃である。有茎のもので先端部と基部を欠損している。
R G 236…666は安山岩質溶岩製の石皿である。使用面は2面で、中央部が若干くぼんでいる。
R G 264…667は石質不明の硯である。平面観が長方形のもので、使用面は楕円形にくぼんでいる。

井戸跡出土

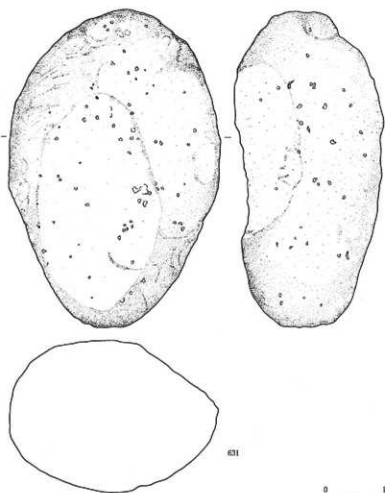
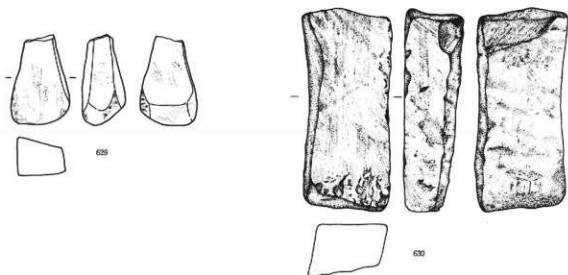
- R I 002…668は安山岩質溶岩製の石皿である。使用面は1面である。
R I 005…669は安山岩質溶岩製の凹石である。表面に凹部が観察される。
R I 006…670は擦痕の観察される礫破砕片資料である。使用面は1面である。671は石皿である。使用面は1面である。石質は2点とも安山岩質溶岩である。

その他遺構出土

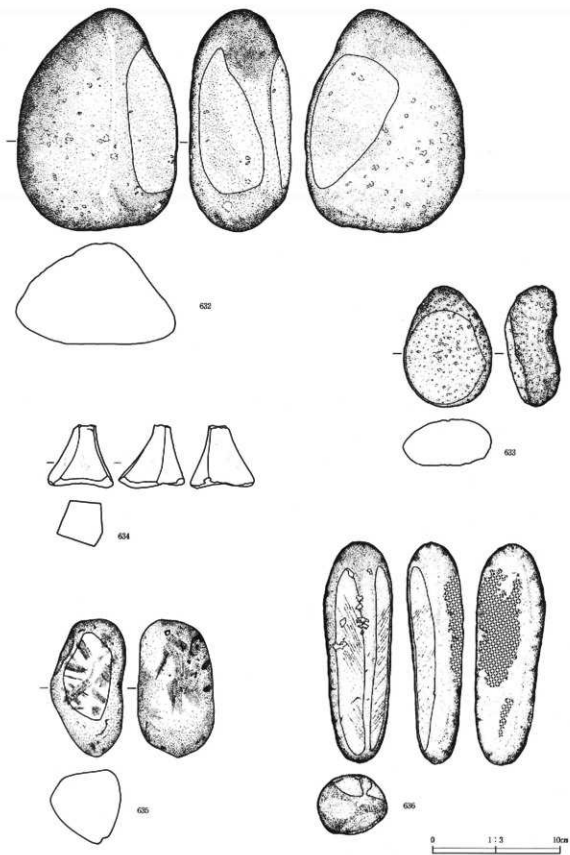
- R Z 012…672・673・677は安山岩製の磨石である。使用面はすべて1面で、672は部分的に、673・677はほぼ全面に擦痕が観察される。674は安山岩製の石皿である。使用面は1面である。675・676は擦痕や敲打痕は観察されないが、部分的に煤状の付着物が観察されるため報告した。



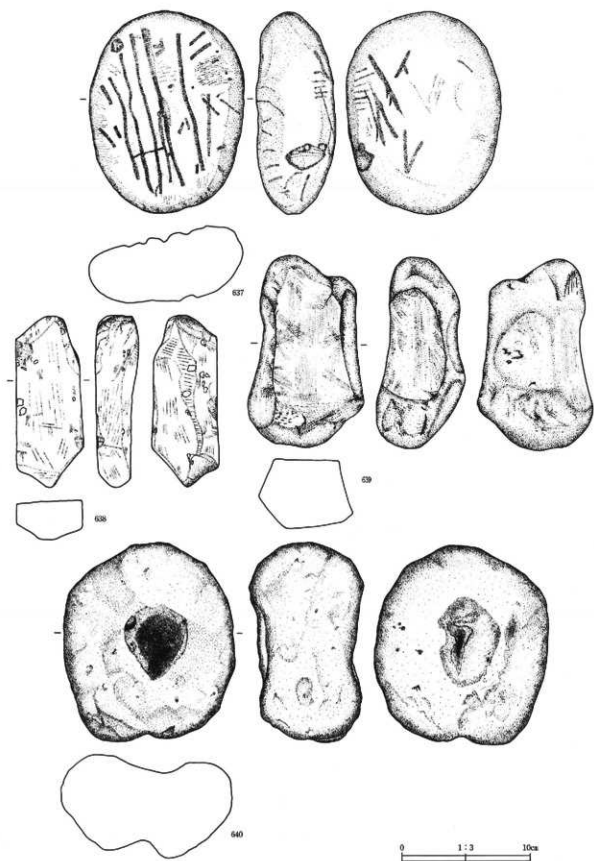
第342図 土製品



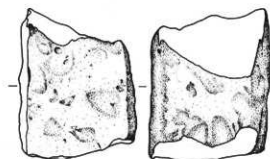
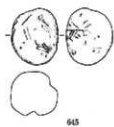
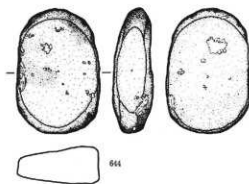
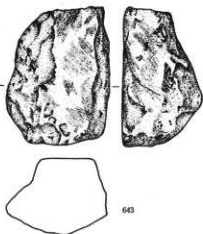
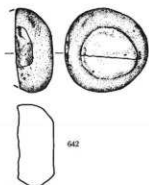
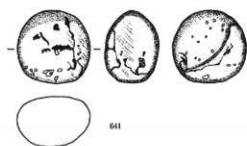
第343図 石器・石製品(1)



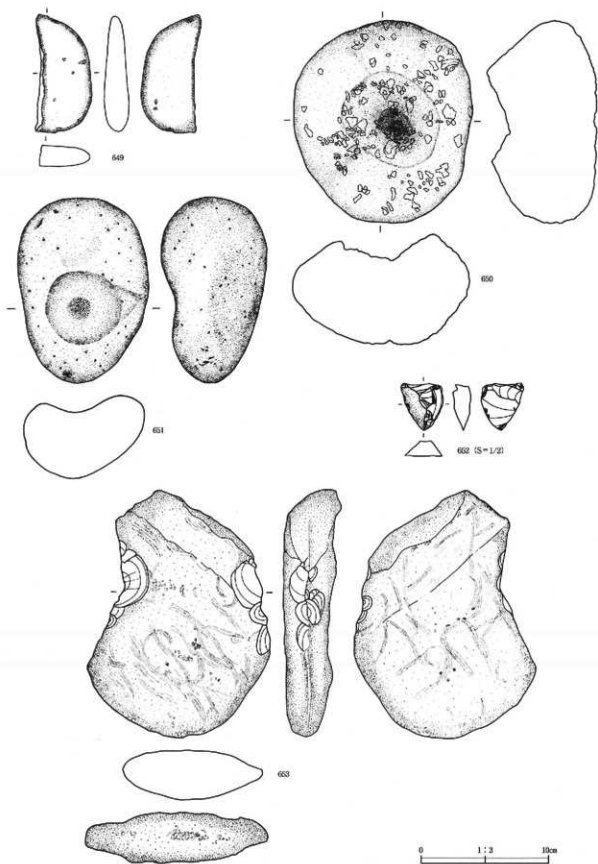
第344図 石器・石製品(2)



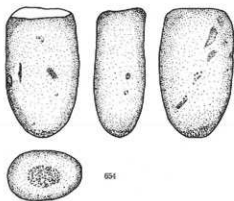
第345図 石器・石製品(3)



第346図 石器・石製品(4)



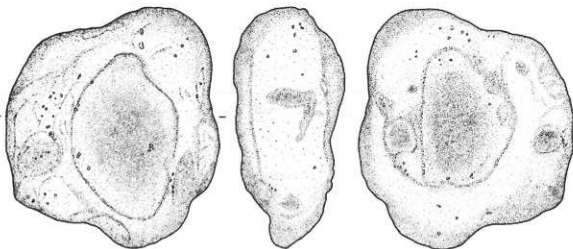
第347図 石器・石製品(5)



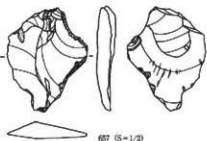
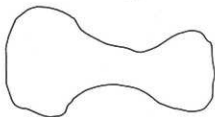
661



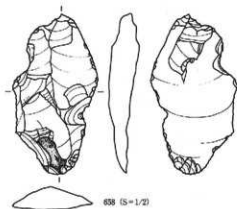
665 (S=1/2)



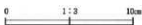
666



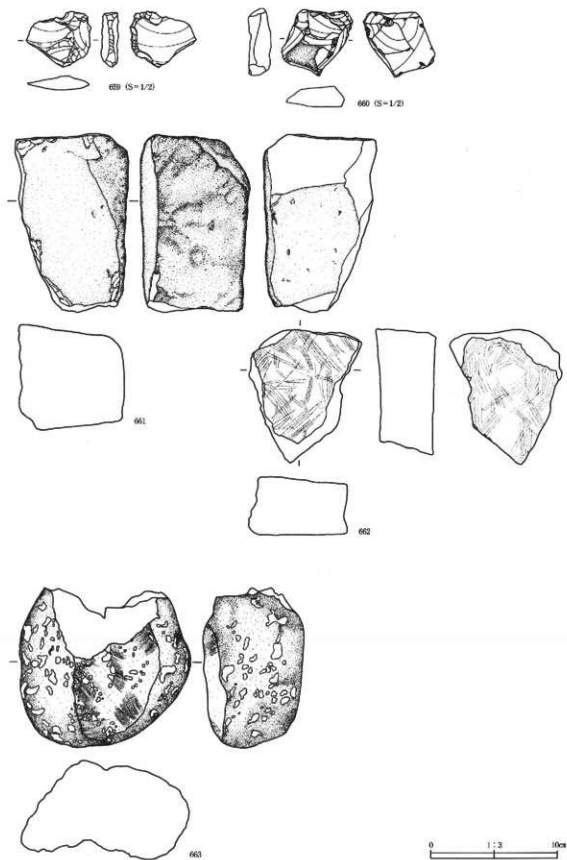
667 (S=1/2)



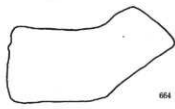
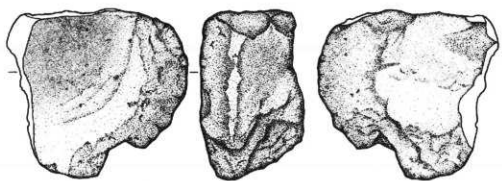
668 (S=1/2)



第348図 石器・石製品(6)



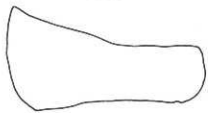
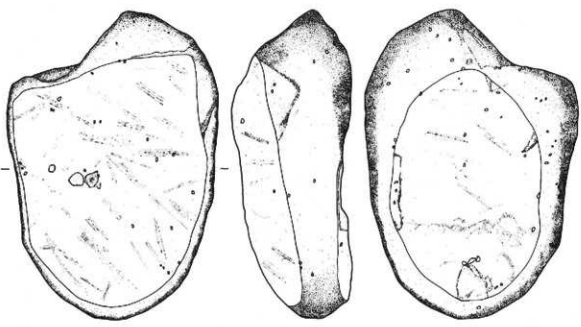
第349図 石器・石製品(7)



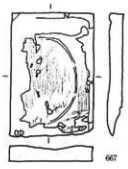
664



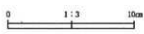
665 (S=1/2)



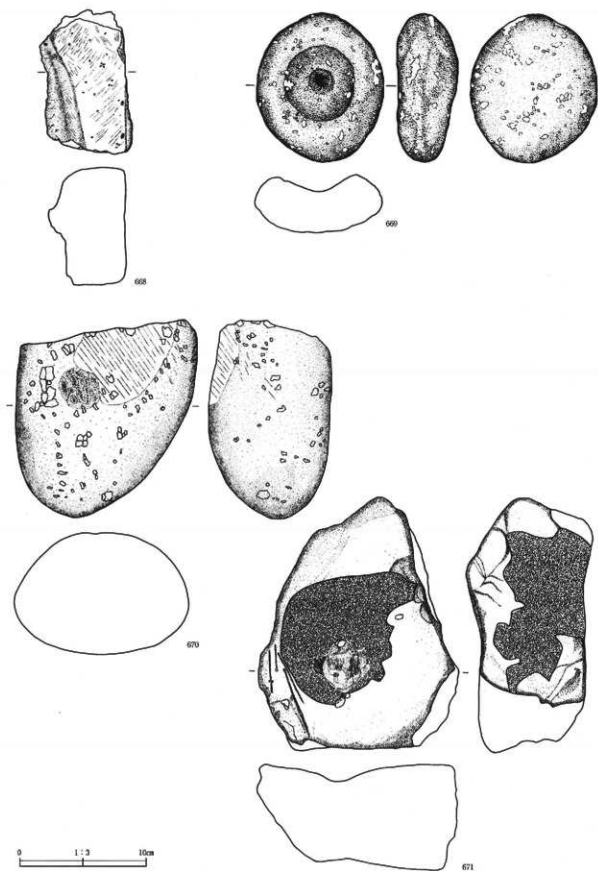
666



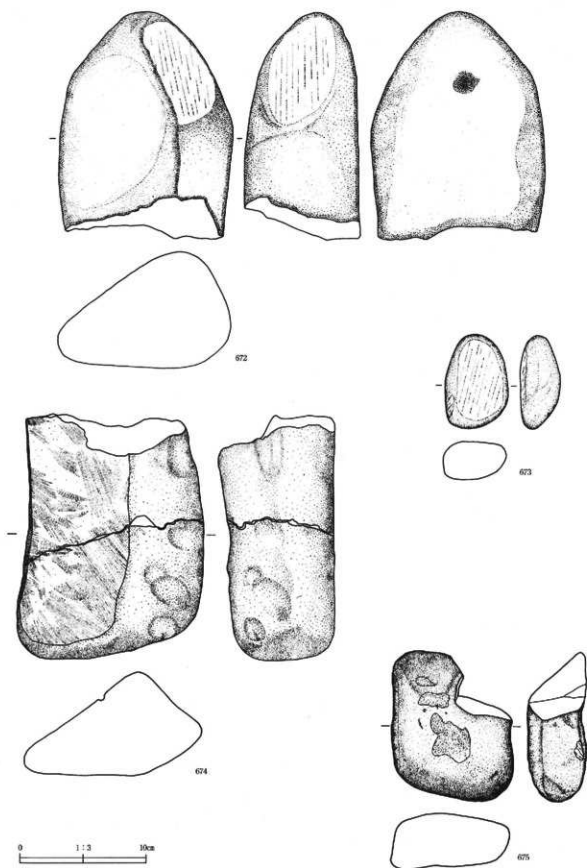
667



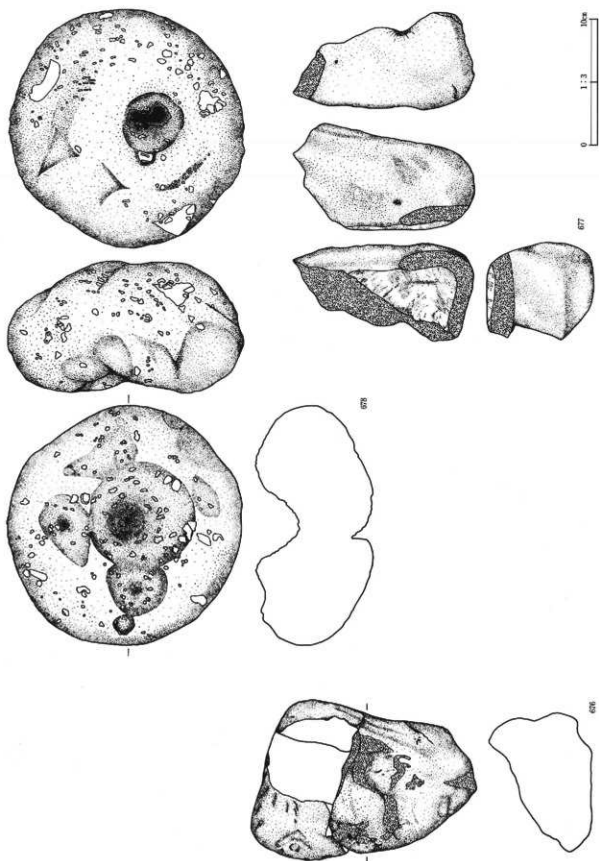
第350図 石器・石製品(8)



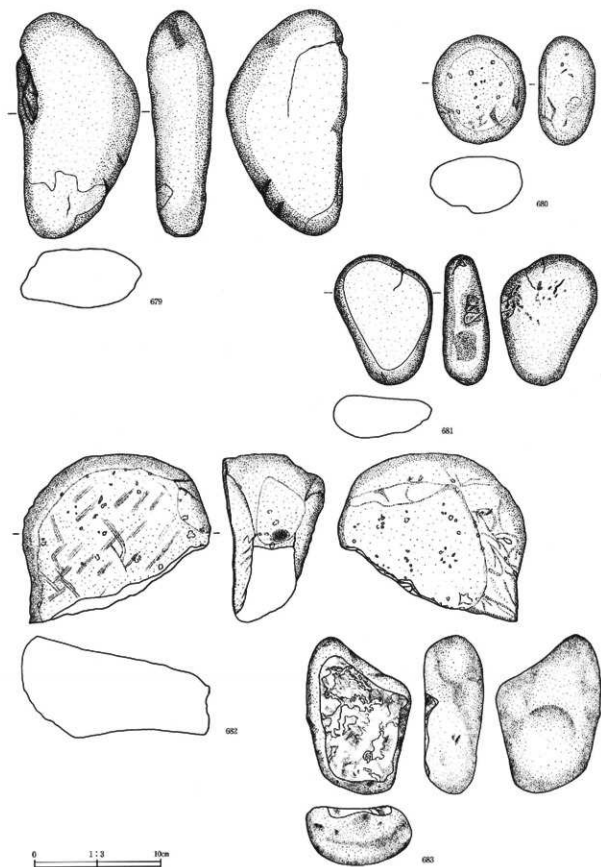
第351圖 石器・石製品(9)



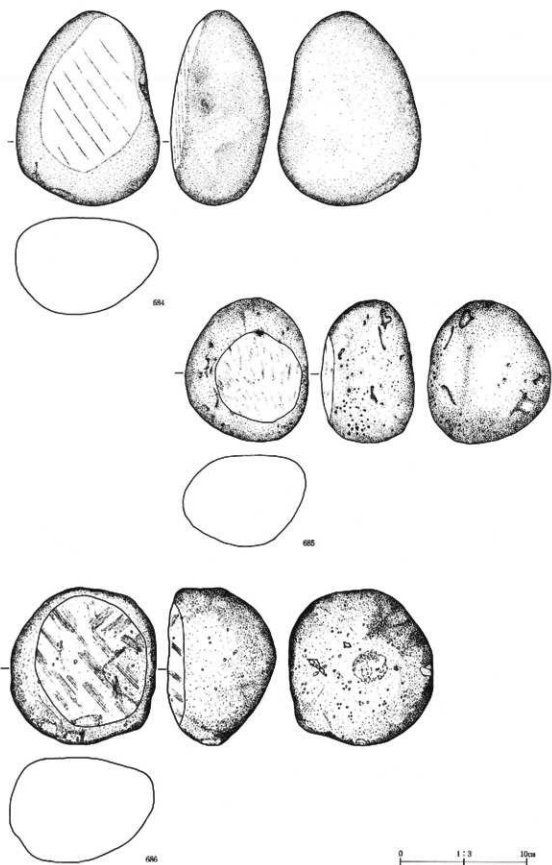
第352図 石器・石製品(10)



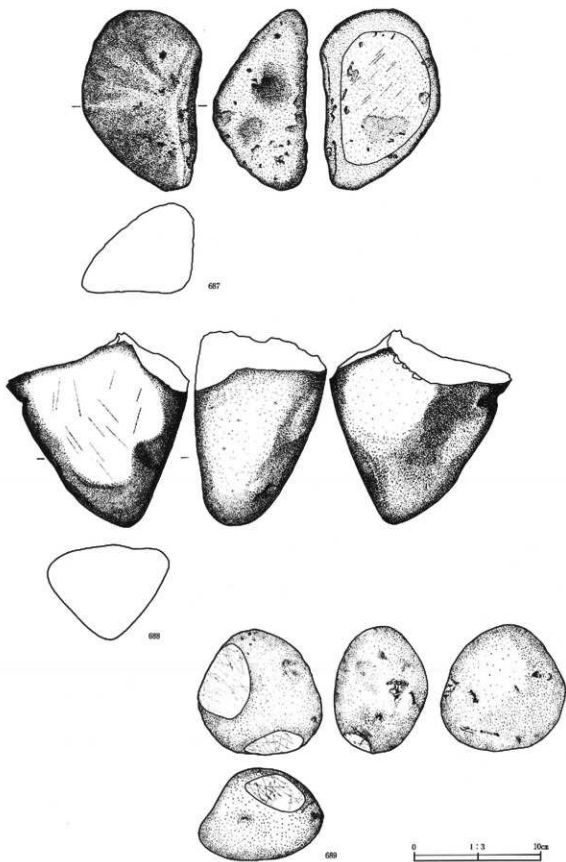
第353図 石器・石製品(1)



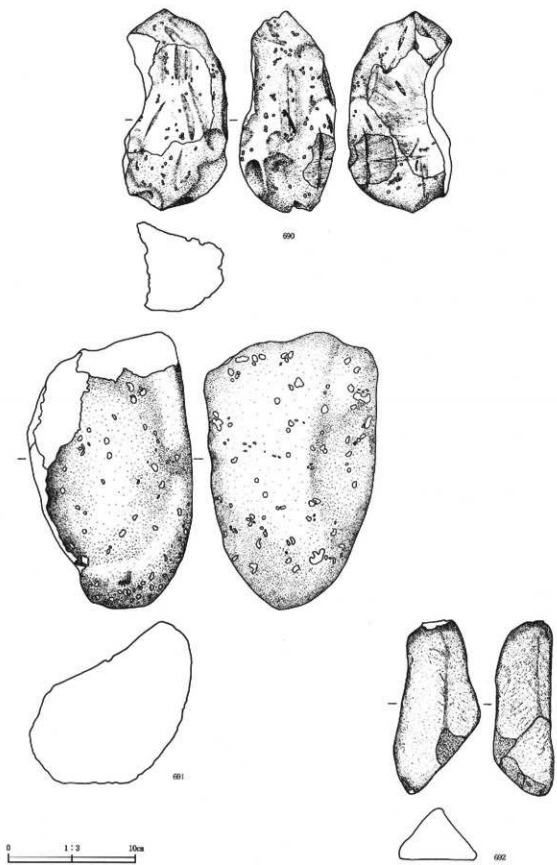
第354図 石器・石製品(2)



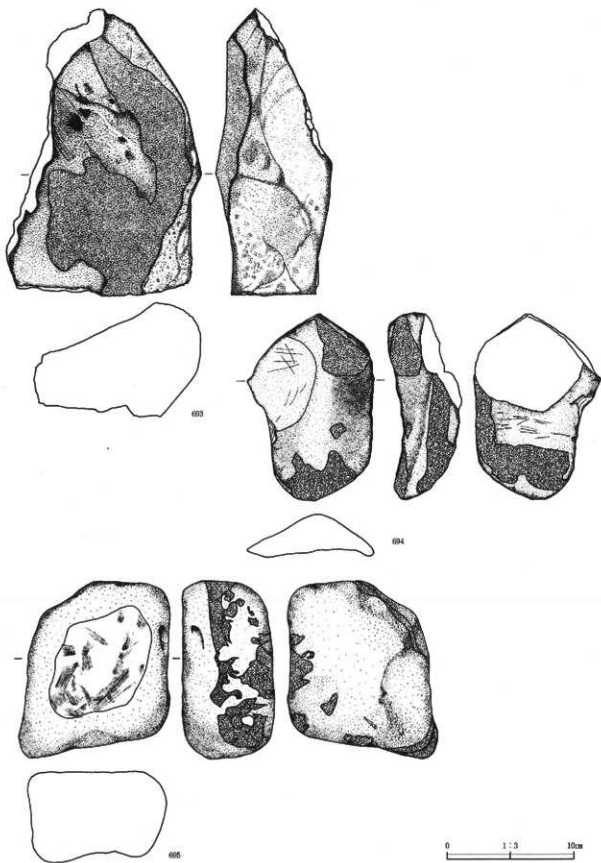
第355圖 石器・石製品(13)



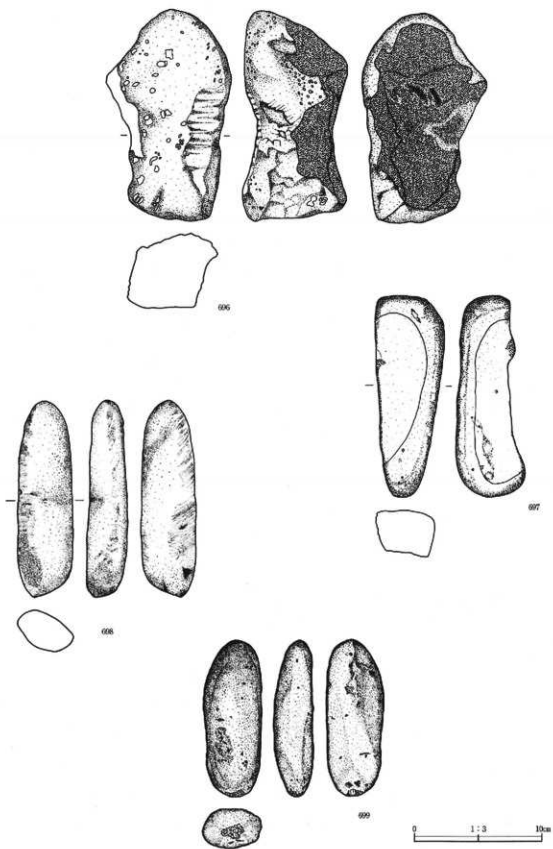
第356図 石器・石製品(14)



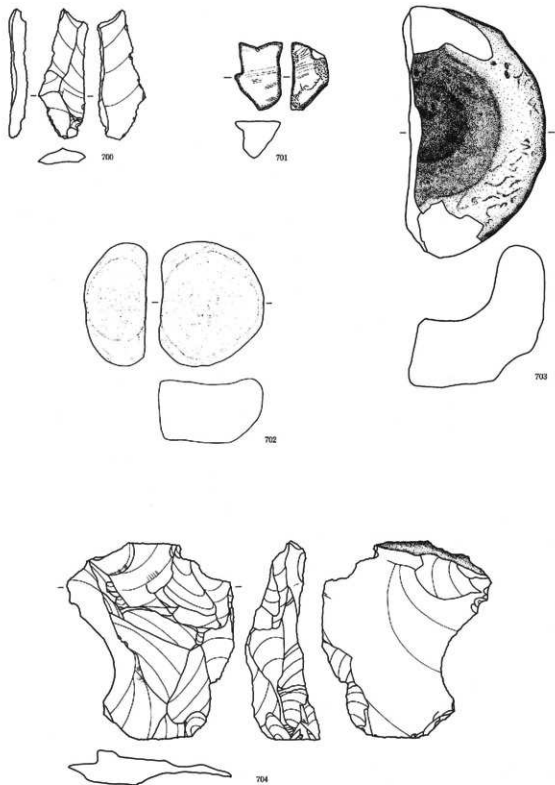
第357図 石器・石製品(45)



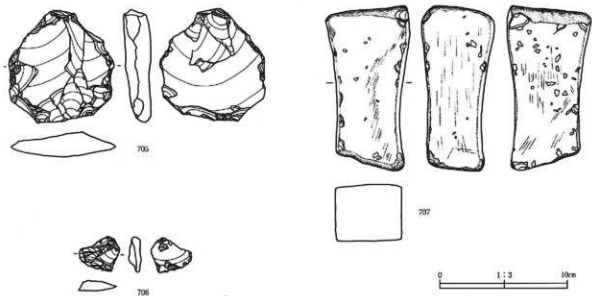
第358図 石器・石製品(6)



第359図 石器・石製品(17)



第360図 石器・石製品（柱穴・遺構外）(18)



第361図 石器・石製品 (遺構外) (19)

(8) 近世陶磁器 (第362~366図・写真図版344~346)

今回の23次調査区で近世陶磁器が出土する地点をみると、西から3-D・3-C区、1C・2C区がほとんどで、これらの地区で検出された遺構及び表土内から出土している。ここでは近世のみならず近現代の陶磁器も多量に出土したが、本報告にあたり遺構に伴うもの、近世のものを優先し掲載した。

3-D・3-C区では多数の柱穴(第253~258図)が検出されており、近世から近代にかけての屨敷跡と思われ、この地区で出土した陶磁器の多くはこの屨敷に伴うものと推測される。1C・2C区の表土内から出土した陶磁器についてはR B023・024・025などに伴っているものも含んでいると思われる。

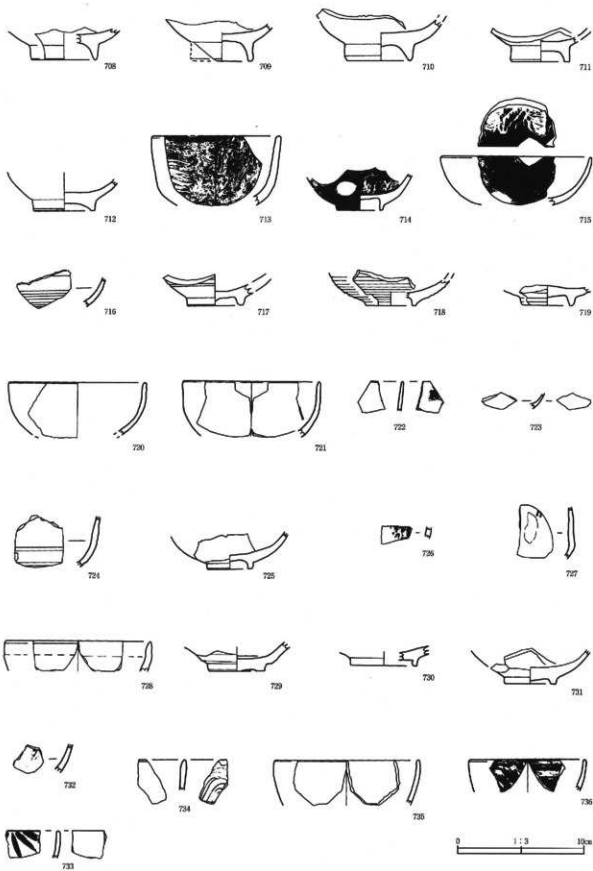
708~715は肥前産の陶器碗で708~711は呉器手の碗、713~715は白化粧の刷毛目文が施される。716~727は大瀬相馬産の陶器碗と思われる。716~718は灰釉と鉄釉の掛け分け、719~722は灰釉の碗である。724~727には藁灰釉が施され727は拳骨形の碗になるのであろうか。728・729は瀬戸・美濃産の天目碗で730は御室茶碗と思われる。732・733は京焼風陶器であろうか。734~736は産地不明で19世紀以降のものと思われる。

738は瀬戸・美濃産の皿で外面は口縁部付近のみ施釉されている。741は瀬戸・美濃の火入れと思われ、内面は無釉である。742は唐津産の小型甕で熱をうけている。747は信楽産の茶壺と思われる。751~759は産地不明のもので757などは器ではないかもしれない。760~767は摺鉢である。何れも産地不明であるが、概ね19世紀以降の在産産の製品ではないかと考えている。

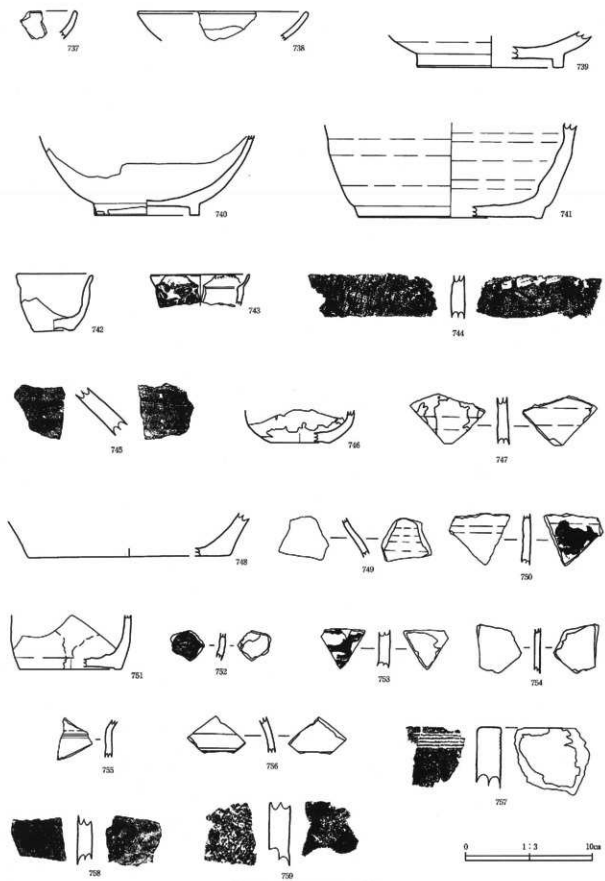
768~781は肥前産の磁器碗と思われる。概ね大饗編年の、Ⅳ期に位置付けられそうだが768に関しては襖付きに砂が付着しており17世紀代のものであろうか。784~795は19世紀代もしくはそれ以降のものと思われる。産地も判然としない。784などは胎土が陶器っぽい。

796~807は肥前産の磁器皿類と思われる。797は見込みにコンニャク印判の五弁花が見られ、798は墨弾きで文様施している。802と803は見込みを蛇の目軸剥ぎしている。804も同様であろうか。

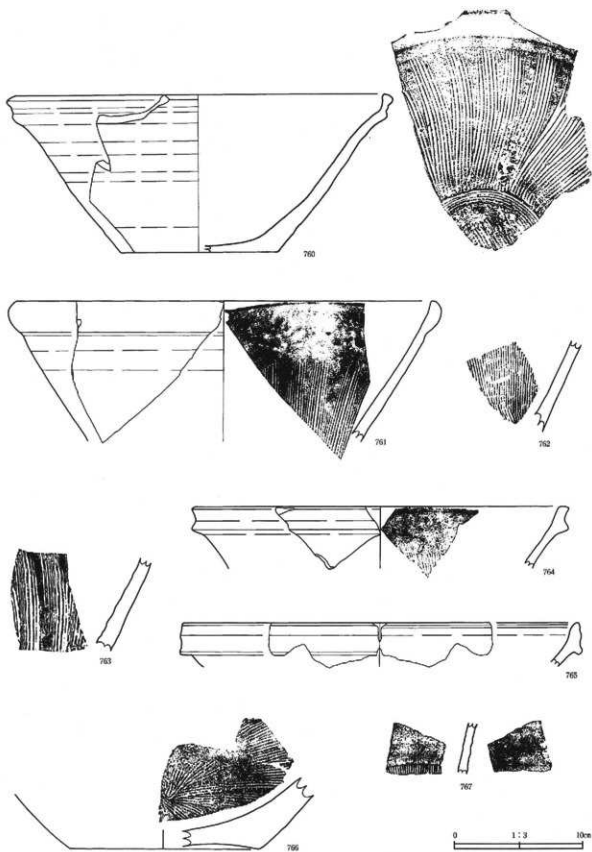
808~820は産地と時期がよく解らないものでその多くは19世紀以降のものと思われる。808~811は皿で809は陶胎染付であろうか。812・813は紅皿で外面は口縁部付近にのみ施釉されている。814は鉢と思われる。815と820は器種不明である。816と817は香炉類と思われる。818・819は甕類とみられ819は内面無釉である。



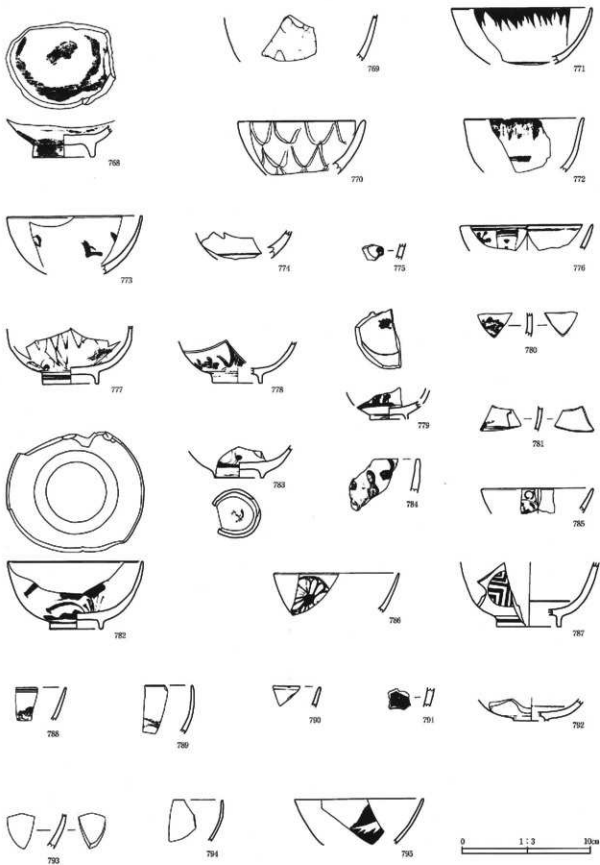
第362図 近世の陶磁器(1)



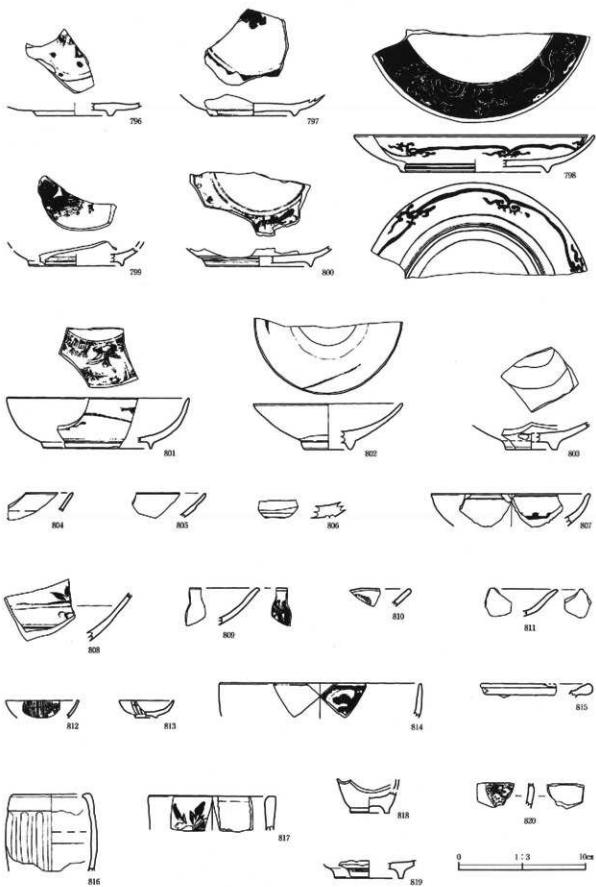
第363図 近世の陶磁器(2)



第364図 近世の陶磁器(3)



第365図 近世の陶磁器(4)



第366図 近世の陶磁器(5)

土師器・須恵器観察表

番号	発掘区画	目次位置	流量 (cm)			外面調査			内面調査				構成 土質	その他	分類	
			口径	底径	器高	口縁部	作部	体部下部	口縁部	器部	器部下部	良好・残				良好・破
1	土師器環	RA201 カマド體上部					ヘラミガキ				ヘラミガキ・黒色地層			良好・残		MII
2	土師器鉢	RA201 中央部重直	20.6	-	(14.7)	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ・ヘラミガキ			良好・赤		I 1
3	土師器鉢	RA202 中央部重直	21.5	-	(22.7)	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	山形器残(沈)	I 1
4	土師器鉢	RA203 中央部重直	20.2	8.5	28.9	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・残		IA
5	土師器大 形鉢	RA203 中央部重直	25.5	9.0	8.0		ヘラミガキ				ヘラミガキ・黒色地層			良好・灰白	口縁と体部端 に内残	MI
6	土師器鉢	RA205 東端部重直	13.5	-	4.4	ヨコナデ		ヘラミガキ			ヘラミガキ・黒色地層			良好・灰白	底面に赤褐色 土	MI
7	土師器鉢	RA205 東端部重直	15.6	-	9.0		ヘラミガキ				ヘラミガキ・黒色地層			良好・赤		
8	土師器鉢	RA203 北端部重直	21.0	-	(19.5)	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	及A 203 欠	I 2
9	土師器鉢	RA203 北端部重直	19.0	-	(15.5)	ヨコナデ	ヘラミガキ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	内外面赤褐色 土質残(沈)	I 1
10	土師器鉢	RA203 北端部重直	-	8.5	(8.5)		ヘラミガキ			ハケメ	ヘラミガキ			良好・赤	底面赤褐色	
11	土師器鉢	RA203 北端部重直	-	7.8	(5.2)		ヘラミガキ			ハケメ	ヘラミガキ			良好・赤		
12	土師器鉢	RA203 北端部重直	19.4	7.0	26.4	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	底面赤褐色	IB 1
13	土師器鉢	RA204 北端部重直	19.8	-	(25.0)	ヨコナデ	ヘラミガキ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	底面赤褐色	IB 1
14	土師器鉢	RA204 東端部重直	16.8	6.6	19.5	ハケメ ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	底面赤褐色	IA
15	土師器鉢	RA204 東端部重直	-	7.1	(25.2)		ハケメ				ハケメ			良好・赤		IB
16	土師器鉢	RA204 φ704内	14.9	7.0	20.2	ハケメ ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			良好・残	底面赤褐色	IB 1
17	土師器鉢	RA204 東端部重直	18.5	-	(17.5)	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	底面赤褐色	IB 1
18	土師器鉢	RA205 東端部重直	-	7.6	(2.7)			ヘラミガキ			ヘラミガキ			良好・赤		
19	土師器鉢	RA205 東端部重直	23.2	-	(7.5)	ヨコナデ	ヘラミガキ			ヨコナデ	ヘラミガキ			良好・赤		2
20	土師器鉢	RA206 東端部重直	18.5	6.3	30.1	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	外面赤褐色	IC 2
21	土師器鉢	RA206 東端部重直	-	7.0	(10.7)		ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	内外面赤褐色	IA
22	土師器鉢	RA206 東端部重直	16.2	-	(9.7)	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤		I 2
23	土師器鉢	RA206 東端部重直	16.5	-	(13.2)	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラミガキ・ハケメ			良好・赤		I 2
24	土師器鉢	RA206 東端部重直	14.4	8.0	15.0	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	口縁部赤褐色	IC 1
25	千手く 土師器	RA206 東端部重直	8.8	4.5	8.2	ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラミガキ			良好・赤	山形器残(沈)	
26	土師器鉢	RA206 東端部重直	14.4	5.2	5.2		ロクロナデ				ヘラミガキ・黒色地層			良好・赤		
27	土師器鉢	RA206 東端部重直					ロクロナデ				ヘラミガキ・黒色地層			良好・赤		
28	土師器鉢	RA206 東端部重直	13.8	-	(3.8)		ロクロナデ				ロクロナデ			良好・灰白		
29	土師器鉢	RA206 東端部重直	16.0	-	(4.5)		ロクロナデ				ロクロナデ			良好・残		
30	土師器鉢	RA207 東端部重直	14.5	-	4.9		ヘラミガキ			ハケメ	ヘラミガキ・黒色地層			良好・赤		MII
31	土師器鉢	RA207 東端部重直	20.0	-	(25.7)	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	内面赤褐色 土質残(沈)	I 1
32	土師器鉢	RA207 東端部重直	20.0	7.2	17.8	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤	山形器残(沈)	IA
33	土師器鉢	RA207 中央部重直	-	7.6	(15.5)		ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ハケメ			ハケメ			良好・赤	底面赤褐色	IA
34	土師器鉢	RA209 東端部重直	10.2	-	2.5	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ・黒色地層			良好・赤		IB 1
35	土師器鉢	RA209 東端部重直	15.0	-	6.1	ヨコナデ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ			ヘラミガキ・黒色地層			良好・赤		MII IB 2
36	土師器鉢	RA209 東端部重直	15.1	-	4.5		ヘラミガキ				ヘラミガキ			良好・赤		MII IB 1
37	土師器鉢	RA209 東端部重直	12.1	7.0	5.6	ヨコナデ								良好・赤	底面赤褐色	IB 2
38	土師器鉢	RA209 東端部重直	-	9.6	3.7						ハケメ			良好・赤		
39	土師器鉢	RA210 東端部重直	20.8	-	(11.1)	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			良好・赤		I 2
40	土師器鉢	RA210 東端部重直	-	-	(15.1)		ハケメ				ハケメ			良好・赤		
41	土師器鉢	RA211 北端部重直	18.2	-	6.5	ヨコナデ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ			ヘラミガキ・黒色地層			良好・赤		MII IB 1
42	土師器鉢	RA211 北端部重直	16.8	-	5.5	ヘラミガキ				ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色地層			良好・赤		MII IB 1

番号	施設名称	山上位置	法基 (cm)			外周調整			内周調整			地色色調	その他	分類
			口径	直径	幅	L線径	径部	径部寸法	門線径	径部	径部寸法			
43	土師窯跡	RA211 北麓御座所	146	-	4.3		ヘラミダギキ			ヘラミダギキ・黒色処理		良好・土色い青		M B 1
44	土師窯跡	RA211 北麓御座所	141	-	(8.2)		ヨコナダ・ハケメ			ヨコナダ	ハケメ	やや甘い・洗灰		M B 1
45	土師窯跡	RA211 北麓	175	-	(18.5)		ヨコナダ・ハケメ			ヨコナダ・ハケメ	ハケメ	良好・澄		B 2
46	土師窯跡	RA211 北麓御座所	150	-	(19.0)		ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ	良好・赤色	外用土(付着・全体に染渡)	B 2
47	土師窯跡	RA211 北麓	-	7.0	(14.8)			ハケメ			ハケメ	良好・洗灰	外用土(付着・磨き残)	A 1
48	土師窯跡	RA211 北麓御座所	203	-	(20.0)		ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ	良好・洗灰	L線部と径部の間に3つの段	B 1
49	土師窯跡	RA219 南麓	152	-	5.1		ヨコナダ・ヘラミダギキ		ヘラミダギキ	ヘラミダギキ・黒色処理		良好・土色い青		M B 1
50	土師窯跡	RA219 南麓	128	-	3.0		ヨコナダ			ヘラミダギキ		やや甘い・洗灰	378 と同一 値	B 1
51	土師窯跡	RA219 南麓	152	-	(4.2)		ヘラミダギキ			ヘラミダギキ		良好・土色い青		M B 2
52	土師窯跡	RA219 北麓	198	-	(26.1)		ヨコナダ	ヘラミダギキ・ヘラミダギキ		ヨコナダ	ヘラミダギキ	良好・土色い青		B 1
53	土師窯跡	RA219 横田園と巻池跡	261	-	(26.3)		ヨコナダ	ヘラミダギキ・ヘラミダギキ		ヨコナダ	ヘラミダギキ	良好・土色い青		B 1
54	土師窯跡	RA219 カマド間道	21.0	-	(15.2)		ヨコナダ	ヘラミダギキ		ヨコナダ	ヘラミダギキ	良好・土色い青		B 2
55	土師窯跡	RA223 塚上	18.3	-	(4.2)		ヘラミダギキ			ヘラミダギキ・黒色処理		やや甘い・土色い青		B 2
56	土師窯跡	RA223 横通部	19.6	-	(25.5)		ハケメ・ヨコナダ			ハケメ		土色い青	*70 と同一 値	B 1
57	土師窯跡	RA223 南西御座所	140	10.9	9.9			ハケメ			難な仕仕度	やや甘い・明色	内周輪痕	
58	土師窯跡	RA225 カマド南麓	17.0	-	(16.6)		ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ	良好・土色い青		B 1
59	土師窯跡	RA225 南麓御座所	11.5	7.8	13.8		ハケメ・ヨコナダ		ハケメ	ヨコナダ	ハケメ	良好・洗灰	底本裏側	B 2
60	土師窯跡	RA225 カマド南麓	-	7.5	(25.0)			ハケメ			ハケメ	良好・土色い青		B 1
61	土師窯跡	RA230 北麓御座所	164	-	5.3		ヨコナダ		ハケメ	ヘラミダギキ・黒色処理		良好・土色い青		M B 1
62	土師窯跡	RA230 P 11	20.8	-	(9.3)		ハケメ・ヨコナダ			ヨコナダ	ハケメ	良好・洗灰		B 1
63	土師窯跡	RA230 カマド南麓	18.0	-	(17.0)		ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ヘラミダギキ	良好・洗灰		B 1
64	土師窯跡	RA230 カマド東口付	20.0	(7.6)	29.0		ハケメ・ヨコナダ		ハケメ	ヨコナダ	ハケメ	良好・土色い青		A 2
65	土師窯跡	RA230 山南御座所	25.0	-	(12.9)		ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ヘラミダギキ	良好・土色い青		B 1
66	土師窯跡	RA230 カマド東口付	14.4	-	(12.5)		ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ヘラミダギキ・ハケメ	良好・澄		B 2
67	土師窯跡	RA230 カマド東口付	15.2	7.4	19.2		ヨコナダ	ヘラミダギキ	ハケメ	ヨコナダ	ヘラミダギキ	良好・澄		B 2
68	土師窯跡	RA230 床面中央部	19.8	8.0	31.3		ハケメ・ヨコナダ		ハケメ	ヨコナダ	ハケメ	良好・澄		B 2
69	土師窯跡	RA231 北西御座所	132	7.0	5.3			不明		ヘラミダギキ・黒色処理		やや甘い・洗灰		B 1
70	土師窯跡	RA231 カマド西麓	15.0	8.0	3.0			不明		ヘラミダギキ・黒色処理		やや甘い・洗灰		B 1
71	土師窯跡	RA231 塚上	4.3	2.5	6.6		ヨコナダ	ナゲカ			良いナゲカ	土色い青		B 2
72	土師窯跡	RA231 カマド西麓	21.1	8.4	22.3		ハケメ・ヘラミダギキ			ヨコナダ・ハケメ	ヘラミダギキ	やや甘い・洗灰		B 2
73	土師窯跡	RA231 上層	13.5	-	(5.8)		ヨコナダ	ヨコナダ・ハケメ		ヨコナダ	ヘラミダギキ	良好・土色い青		B 1
74	土師窯跡	RA231 床面北側	20.6	-	(21.0)		ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ	やや甘い・洗灰		B 1
75	土師窯跡	RA231 塚上	11.9	-	4.3		ヨコナダ		ヘラミダギキ	ヨコナダ	ヘラミダギキ	良好・土色い青		M B 1
76	土師窯跡	RA231 塚上	13.1	-	4.2			ヘラミダギキ		ヘラミダギキ	ヘラミダギキ・黒色処理	良好・土色い青		M B 1
77	土師窯跡	RA231 塚上	11.7	-	(1.8)		ヘラミダギキ	ヘラミダギキ		ヘラミダギキ	ヘラミダギキ・黒色処理	良好・土色い青		M B 1
78	土師窯跡	RA231 塚上	19.9	4.6	4.5		ヨコナダ	ヘラミダギキ		ヘラミダギキ	ヘラミダギキ・黒色処理	良好・土色い青		B 2
79	土師窯跡	RA231 カマド北東部	13.1	5.8	3.7		ヨコナダ	ヘラミダギキ		ヘラミダギキ	ヘラミダギキ・黒色処理	良好・澄		B 1
80	土師窯跡	RA231 塚上	9.8	4.0	3.7		ヨコナダ	ヨコナダ・ヘラミダギキ		ヨコナダ	ヘラミダギキ	良好・澄		B 1
81	土師窯跡	RA231 塚上	-	-	(6.2)		ヘラミダギキ	ヘラミダギキ		ヘラミダギキ	ヘラミダギキ・黒色処理	良好・澄		B 1
82	土師窯跡	RA231 塚上	-	-				ヘラミダギキ		ヘラミダギキ	ハケメ	良好・土色い青		B 2
83	土師窯跡	RA234 床面北側	20.9	8.1	32.3		ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ	やや甘い・土色い青		B 2
84	土師窯跡	RA234 床面カマド部	38.8	-	28.7		ハケメ・ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ	良好・土色い青	口部磨損	B 1
85	土師窯跡	RA234 塚上	-	8.5	(10.5)			ハケメ			ハケメ	良好	底本裏側	C

番号	施設 名称	出入位置	広さ (m)			外周圍欄			内周圍欄			竣工 色調	その他	分類
			口幅	奥行き	器高	門扉部	扉部	扉下部	上扉部	扉部	扉下部			
86	十郎部環 形	RA234 西側カマド脇	23.3	-	20.60	ヨコナテ	ハケメ		ヨコナテ	ヘラナテ		良好-白 い壁	両側壁	I B 1
87	十郎部環 形	RA234 西側カマド脇	-	8.4	125.53		ハケメ			ハケメ		良好-白 い壁	同一名称	
88	千石右 十郎	RA234 塙上	8.3	-	7.0		ナゲカ			ハケメカ		やや白い 壁	両側壁ない	
89	精文上 十郎	RA234	-	9.2	(4.3)			障子張り				良好-障 子		
90	十郎部環 形	RA235 西十	13.1	7.0	3.4	ヨコナテ				ヘラミガキ		良好-白 い壁	外周圍欄、内 周圍欄	M B 2
91	十郎部環 形	RA235 塙上	10.4	-	3.1	ヨコナテ				ヨコナテ		良好-障 子	内外周圍欄付 き	M B 2
92	十郎部環 形	RA235 カマド	10.5	-	3.5	ヨコナテ				ヨコナテ		良好-障 子	内外周圍欄付 き	M B 2
93	十郎部環 形	RA235 カマド	12.6	-	3.0	ヨコナテ						良好-障 子	両側壁不明	M B 2
94	十郎部環 形	RA235 カマド	-	-	(6.3)		ヘラミガキ			ヘラミガキ	黒色地盤	やや白い 壁	両側壁	I B 2
96	十郎部環 形	RA235 カマド	22.2	8.3	32.8	ハケメ、 ヨコナテ				ヨコナテ	ハケメ	良好-障 子	107と同一名称	I B 2
96	十郎部環 形	RA235 カマドH迄				ハケメ、 ヨコナテ				ハケメ				I B 2
97	十郎部環 形	RA235 塙上	20.6	-	(10.6)	ヨコナテ	ハケメ			ヨコナテ	ハケメ	やや白い 障子		I B 2
98	十郎部環 形	RA235 カマド西側部	20.8	-	(9.4)	ヨコナテ	ヘラナテ			ハケメ	ハケメ	良好-白 い壁		I B 1
99	十郎部環 形	RA234 カマド西側部	20.2	-	(12.2)	ハケメ、 ヨコナテ	ハケメ			ヨコナテ	ハケメ	良好-障 子		I B 2
100	十郎部環 形	RA235 カマド西側部	-	7.7	(8.6)					ハケメ	ハケメ	良好-障 子	外周圍欄	A
101	十郎部環 形	RA235 塙上	-	8.2	(13.7)					ヘラナテ	ヘラナテ	良好-障 子		B
102	十郎部環 形	RA235 カマド	-	7.5	(12.1)					ヘラナテ	ヘラナテ	良好-障 子		A
103	十郎部環 形	RA235 カマド東側部	-	-	(16.0)	ハケメ、 ヨコナテ	ハケメ			ヨコナテ	ハケメ	良好-障 子	両側壁	I B 2
104	十郎部環 形	RA235 カマド東側部	22.6	-	(20.6)	ヨコナテ	ハケメ			ヨコナテ	ハケメ	良好-障 子	両側壁	I B 1
105	十郎部環 形	RA235 南側部	18.2	8.4	30.0	ヨコナテ	ハケメ	ヘラナテ		ヨコナテ	ハケメ、ヘラナテ	良好-白 い壁		H B 2
106	十郎部環 形	RA235 南側部	-	7.2	(8.4)					ハケメ	ヘラナテ	良好-白 い壁		A
107	十郎部環 形	RA235 塙上	-	5.8	(4.7)					ヘラナテ	ヘラナテ	良好-障 子		R
108	十郎部環 形	RA236 塙上	13.8	-	2.7			黒化等しい				良好-障 子	H B 1	
109	十郎部環 形	RA236 カマド奥口付 部	19.4	-	(7.1)	ヘラミガキ	ハケメ			ヘラミガキ、黒色地盤		良好-白 い壁		
110	十郎部環 形	RA236 塙上	18.5	7.6	23.4	ヨコナテ	ハケメ			ヨコナテ	ヘラナテ	良好-白 い壁	両側壁	I C 2
111	十郎部環 形	RA236 塙上	12.5	6.8	12.2	ヨコナテ	ハケメ	ヘラナテ		ヨコナテ	ヘラナテ	良好-白 い壁	両側壁	I A 2
112	十郎部環 形	RA238 中央部北側部	14.5	-	4.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ、 ケズリ			ヘラミガキ		良好-障 子	両側壁	H B 1
113	十郎部環 形	RA238 東側部	-	-	(3.9)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、 ヘラナテ			ヘラミガキ、 黒色地盤	ヘラナテ	やや白い 障子		
114	十郎部環 形	RA238 中央部東側部	12.0	-	(7.6)	ヨコナテ	ヘラナテ			ヨコナテ	ヘラナテ	良好-障 子		
115	十郎部環 形	RA238 南側部	20.7	8.2	23.3	ヨコナテ	ハケメ			ヨコナテ	ハケメ	やや白い 障子	*149と同一名称	M B 2
116	十郎部環 形	RA239 北西側部	24.0	-	(6.9)					ヘラミガキ		やや白い 障子		M B 2
117	十郎部環 形	RA239 北西側部	16.1	-	5.6	ハケメ				ヘラミガキ	黒色地盤	良好-障 子	両側壁付	M B 2
118	十郎部環 形	RA239 カマド西側部	13.9	-	6.0	ヘラミガキ				ヘラミガキ	黒色地盤	良好-障 子		M B 2
119	十郎部環 形	RA239 カマド東側部	15.0	-	4.5	ヘラミガキ				ヘラミガキ	黒色地盤	良好-障 子		M B 2
120	十郎部環 形	RA239 カマド奥口付 部	13.6	-	3.8	ハケメ				ヘラミガキ	黒色地盤	良好-白 い壁		M B 2
121	十郎部環 形	RA239 塙上中～下	12.8	-	(4.6)		ハケメ					良好-白 い壁		
122	十郎部環 形	RA239 カマド東側部	15.5	6.1	24.0	ヨコナテ	ヘラナテ			ヨコナテ	ハケメ	良好-白 い壁		I A 2
123	十郎部環 形	RA239 カマド東側部	21.8	-	(21.6)	ヨコナテ	ヘラナテ			ヨコナテ	ハケメ	やや白い 障子		I B 2
124	十郎部環 形	RA239 北西側部	19.8	-	(12.2)	ヨコナテ	ハケメ			ヨコナテ	ハケメ	良好-障 子		I B 2
125	十郎部環 形	RA239 東側部	19.8	-	(25.6)	ヨコナテ	ハケメ、 ヘラミガキ			ヨコナテ	ハケメ	良好-白 い壁	両側壁ない	I B 2
126	十郎部環 形	RA240 塙上	16.4	-	(4.8)	ヨコナテ	ハケメ			ヘラミガキ		良好-白 い壁		
127	十郎部環 形	RA240 西側部	18.0	8.2	(4.7)		ヘラミガキ			ヘラミガキ	黒色地盤	良好-障 子	*152と同一名称	H B A
128	十郎部環 形	RA240 塙上	-	-	(2.2)		ヘラナテ、 ハケメ			ヘラミガキ、 黒色地盤		やや白い 障子		
129	十郎部環 形	RA240 塙上	12.8	-	(6.8)	ヘラナテ				ハケメ		良好-障 子		

番号	部品 名称	出寸位置	法規 (cm)			外形調整			内面調整			気色 色調	その他	分類
			幅	奥行	高さ	口縁部	基部	基部ノリ	口縁部	基部	基部ノリ			
130	土師器鉢	RA240 瓶土	178	-	9(7)	ヨコナデ			ヨコナデ	ハラナデ		やや甘しい におい強い	煎茶よく見え ない	I 2
131	土師器鉢	RA240 埋土	185	-	(24.5)	ヨコナデ	ハラナデ		ヨコナデ	ハラナデ		やや甘しい 灰白	抹茶類は花 び	I 1
132	土師器鉢	RA240 埋土	198	-	(16.0)	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラナデ		やや甘しい 浅黄		I 1
133	土師器鉢 脚立	RA240 埋土	178	6.6	27.3	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		良好にふ い黄	口縁部浅い 緑	I A
134	土師器鉢	RA240 埋土	180	-	(20.4)	ハラメ ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		やや甘しい 黄		I 1
135	土師器鉢	RA241 埋土	182	-	3.3	ハラメ			ハラミガキ・黒色処理			良好にふ い黄	底縁部割れノ ミ	M B B 1
136	土師器鉢	RA244 埋土	126	3.8	4.8			不明	ハラミガキ・黒色処理			良好にふ い黄	外面風化	M B A
137	土師器鉢 脚立	RA244 カマド右側縁	-	-	(30.7)	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		良好・黄		I 2
138	土師器鉢	RA244 カマド左側縁	18.1	-	(11.8)	ハラメ ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		やや甘しい におい強い		I 2
139	土師器鉢 脚立	RA244 北側器底面	15.4	7.9	29.1	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		良好・浅黄 色		I C 1
140	土師器鉢	RA245 埋土	-	7.6	(3.0)					ハラメ		良好・明黄 色		B
141	土師器鉢	RA247 ①	129	-	4.0	ヨコナデ	埋いびき		ヨコナデ			良好にふ い黄		M 1
142	土師器鉢	RA247 ②	18.0	-	(3.1)	ヨコナデ			黒色処理済			良好にふ い黄		M 1
143	土師器鉢 脚立	RA247 ③	37.9	-	25.3	ヨコナデ	ヒガキ		ヨコナデ	ハラナデ		良好・浅黄 色	口縁部浅い 花び	I 1
144	土師器鉢	RA247 ④	17.1	-	(7.3)	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		良好にふ い黄	器底	I 2
145	土師器鉢 脚立	RA247 ④A	-	7.8	(20.0)	ヨコナデ	ハラメ		ハラナデ			良好・浅黄 色		I
146	土師器鉢	RA273 ⑤	14.6	-	4.3	ハラミガキ	ハラメ		ハラミガキ・黒色処理			良好にふ い黄	底部"ノ"型割 れ	M B B 1
147	土師器鉢	RA273 埋土下層	108	-	3.0	ヨコナデ	ハラミガキ・黒色処理		ハラミガキ・黒色処理			良好・黒	*器と同一器 307で引用	M B B 1
148	土師器鉢 脚立不明	RA273 床面	147	5.6	30.8	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		良好・黄 色		
149	土師器鉢 脚立	RA273 西側縁	17.2	8.9	25.7	ハラメ ヨコナデ	ハラメ	ハラナデ	ヨコナデ	ハラメ		良好・赤 色	外面黄ばき 自然な色、口 縁部は花び	I B 1
150	土師器鉢	RA273 カマド器底面	44.9	6.5	35.5	ハラメ ヨコナデ	ハラメ		ハラメ ヨコナデ	ハラナデ、ハラメ		やや甘しい におい強い	器底の外面 黄ばき不明	I A
151	土師器鉢	RA273 西側縁埋土	13.2	7.1	19.5	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		やや甘しい におい強い		I B 2
152	土師器鉢	RA273 西側縁埋土	16.0	-	19.2	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		良好・浅黄 色		I A 2
153	土師器鉢	RA273 カマド器底面	18.7	-	(9.6)	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラナデ		良好・灰白 色		I 1
154	土師器鉢	RA273 南東側器底面	-	4.3	(10.8)		ハラミガキ	ハラメ		ハラメ		良好・黄 色		C
155	土師器鉢	RA273 西側器底面	-	7.2	(9.8)			ヨコナデ		ハラメ		良好にふ い黄		B
156	土師器鉢 脚立	RA273 カマド東側縁	17.6	-	(20.0)	ヨコナデ ハラナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラナデ	ハラメ	良好・灰白 色		I B 1
157	土師器鉢 脚立	RA273 カマド東側縁	19.2	-	(7.5)	ハラメ ハラミガキ			ヨコナデ			良好・浅黄 色		I B 1
158	土師器鉢	RA274 器底	14.6	-	4.6	ヨコナデ			ハラミガキ・黒色処理			良好にふ い黄		M B B 1
159	土師器鉢	RA274 器底	13.2	-	4.2		ハラミガキ		ハラミガキ・黒色処理			良好・明黄 色		M B B 1
160	土師器鉢	RA274 カマド裏11付 土	16.0	-	4.9	ヨコナデ	ハラナデ		ハラミガキ・黒色処理			良好にふ い黄		M B B 1
161	土師器鉢	RA274 北西側器底面	14.0	-	4.5	ハラミガキ	ハラナデ		ハラミガキ・黒色処理			良好・明 黄色		M B B 1
162	土師器鉢 脚立	RA274 カマド器底面	38.1	-	(25.6)	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		良好・浅黄 色		I 2
163	土師器鉢	RA274 カマド東側縁	21.1	-	(20.4)	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		良好にふ い黄		I 2
164	土師器鉢	RA274 カマド東側縁	20.8	7.1	24.6	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		良好にふ い黄		I C 2
165	土師器鉢	RA274 カマド東側縁	19.0	-	(16.2)	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ハラメ		良好にふ い黄		I 1
166	土師器鉢	RA274 カマド東側縁	17.7	-	(10.0)	ヨコナデ	ハラナデ		ヨコナデ	ハラメ		良好・浅黄 色		I 2
167	土師器鉢	RA275 床面	17.8	-	5.0	ハラミガキ	ハラメ		ハラミガキ・黒色処理			良好・浅黄 色		M B B 1
168	土師器鉢	RA275 埋土	14.7	-	5.2	ハラミガキ・ナデ			ハラミガキ			やや甘しい におい強い	黒色処理済	H 1 B 1
169	土師器鉢	RA275 埋土	12.9	-	3.2	ハラミガキ	ハラミガキ・ナデ		ハラミガキ・黒色処理			やや甘しい におい強い		H 1 B 1
170	土師器鉢 脚立	RA275 埋土	-	-	(7.8)			ハラナデ		ハラメ		良好・浅黄 色		
171	土師器鉢 脚立	RA275 埋土下層	18.0	-	20.5	ヨコナデ	ハラメ		ヨコナデ	ヨコナデ ハラメ	ハラメ	良好・赤 色		B 2
172	土師器鉢	RA275 埋土	22.0	-	(15.6)	ヨコナデ ハラミガキ	ハラミガキ		ヨコナデ	ハラメ		良好にふ い黄		I 2

番号	機材 品名	出上位置	法量 (cm)			外面鋼鉄			内面鋼管			底成色調	その他	分類	
			口径	高さ	長さ	口径部	扉部	扉部下下	口径部	扉部	扉部下下				
173	上海窓架	RA275 床面	157	6.2	16.6	ロコナテ	ヘアミダキ ヘアミダキ	ヘアミダキ	ロコナテ ヘアミダキ	ヘアミダキ	ヘアミダキ	ヘアミダキ	今や甘い 艶粉	底漆未塗痕	1C 2
174	土曜窓架	RA275 欄上下部	21.6	-	(18.8)	ロコナテ	ヘアミダキ ヘアミダキ		ロコナテ	ハケメ			良好・艶		1 1
175	十勝窓架	RA275 キマド障子部	-	-	(30.7)		ハケメ			ハケメ			良好・艶		
176	上海窓架	RA276 欄上	20.0	-	(9.8)	ロコナテ	ヘアミダキ		ロコナテ	ハケメ			良好・艶		1 2
177	十勝窓架	RA276 欄上	-	7.6	(18.5)		ハケメ			ハケメ			良好・艶		
178	十勝窓架	RA277 欄上	15.5	5.6	4.3		ヘアミダキ			ヘアミダキ・黒色遮光			今や甘い 艶		H 1 B 1
179	土曜窓架	RA277 北西障子部	19.6	-	4.3	ロコナテ				ヘアミダキ・黒色遮光			今や甘い 艶		M 1
180	上海窓架	RA277	10.5	-	3.8		ヘアミダキ			ヘアミダキ・黒色遮光			良好・艶		M 1 B
181	上海窓架	RA277 キマド障子部	15.6	-	(14.4)	ロコナテ	ハケメ		ロコナテ	ハケメ			良好・艶		B 2
182	十勝窓架	RA277 キマド障子部	20.3	-	(13.3)	ロコナテ	ヘアミダキ		ロコナテ	ハケメ			良好・艶		1 2
183	十勝窓架	RA277 欄上	18.2	-	(14.3)	ロコナテ	ハケメ ヘアミダキ		ロコナテ	ハケメ			良好・艶		1 1
184	上海窓架 壁小窓	RA277 床面	14.9	-	(16.7)	ロコナテ	ハケメ		ロコナテ	ハケメ			良好・艶		
185	土曜窓架	RA278 キマド障子部	19.2	-	(15.4)	ロコナテ	ハケメ		ロコナテ	ハケメ			良好・艶		1 1
186	十勝窓架	RA278 中央障子部	13.7	-	(13.9)	ロコナテ	ハケメ		ロコナテ	ハケメ			良好・艶		1 2
187	上海窓架	RA278 中央障子部	15.4	6.3	14.7	ロコナテ	ハケメ		ロコナテ	ヘアミダキ			今や甘い 艶		1B 2
188	上海窓架	RA278 土境内	13.6	6.4	16.7	ロコナテ	ヘアミダキ・ヘアミダキ		ロコナテ	ヘアミダキ			良好・艶		1B 2
189	土曜窓架	RA278 中央南側障子部	15.6	-	(12.1)	ロコナテ	ヘアミダキ		ロコナテ	ヘアミダキ			良好・艶		1 2
190	十勝窓架	RA281 欄上下部	18.0	-	(7.8)	ロコナテ	ハケメ		ロコナテ	ハケメ			今や甘い 艶		
191	十勝窓架	RA279 欄上下部	10.2	-	3.5		ヘアミダキ・黒色遮光			ヘアミダキ・黒色遮光			良好・艶		M 1 A
192	上海窓架	RA279 欄上下部	10.6	-	5.9	ロコナテ	ヘアミダキ ヘアミダキ		ロコナテ	ナテ			今や甘い 艶		
193	障子部 内合付	RA279 キマド障子部	10.3	5.8	4.4		ロコナテ			ロコナテ			今や甘い 艶		
194	十勝窓架	RA279 東東障子部	22.0	-	(14.3)	ロコナテ	ハケメ ヘアミダキ		ロコナテ	ハケメ			今や甘い 艶		1 2
195	土曜窓架	RA279 欄上	18.2	6.8	17.2	ロコナテ	ヘアミダキ		ロコナテ	ヘアミダキ	ハケメ		今や甘い 艶		
196	上海窓架 小窓	RA279 中央西側障子部	-	8.2	(22.7)		ハケメ			ハケメ			良好・艶		B
197	十勝窓架 小窓	RA213 欄上	9.4	5.8	6.8	ロコナテ	ヘアミダキ		ロコナテ	ヘアミダキ			良好・艶		
198	東山窓架	RA213 欄上	-	-	-		タタキ			アタタキ			今や甘い 艶		
199	東山窓架	RA213 欄上	-	-	-		タタキ			ロコナテ			今や甘い 艶		
200	十勝窓架	RA214 欄上	14.4	5.4	3.0	ロコナテ				ヘアミダキ・黒色遮光			良好・艶		
201	土曜窓架	RA214 欄上	16.7	-	(4.8)	ロコナテ				ヘアミダキ・黒色遮光			今や甘い 艶		
202	赤城窓架	RA214 キマド	14.8	6.2	4.7	ロコナテ				ロコナテ			良好・艶		
203	東山窓架	RA215 床面	14.4	5.0	5.7	ロコナテ				ロコナテ			良好・艶		
204	赤城窓架	RA217 欄上下部	15.1	6.0	4.7	ロコナテ				ロコナテ			今や甘い 艶		
205	十勝窓架 小窓	RA217 欄上下部	20.8	-	(21.5)	ロコナテ	ヘアミダキ			ロコナテ			良好・艶		
206	土曜窓架	RA218 欄上下部	12.4	5.6	4.6	ロコナテ	ヘアミダキ			ヘアミダキ・黒色遮光			良好・艶		
207	上海窓架	RA220 東東障子部	11.3	5.0	5.3	ロコナテ	ハケメ			ヘアミダキ・黒色遮光			良好・艶		
208	十勝窓架	RA220 東東障子部	15.4	5.0	5.1	ロコナテ	ヘアミダキ			ヘアミダキ・黒色遮光			良好・艶		
209	上海窓架	RA220 東東障子部	14.4	5.5	3.2	ロコナテ				ヘアミダキ・黒色遮光			良好・艶		
210	赤城窓架	RA220 東東障子部	13.9	5.9	5.7	ロコナテ				ロコナテ			良好・艶		
211	赤城窓架 小窓	RA220 上層	8.0	-	(2.8)	ロコナテ				ロコナテ			今や甘い 艶		
213	小高窓架	RA220	-	-	-	ロコナテ				ロコナテ			今や甘い 艶		
214	土曜窓架	RA220 キマド障子部	21.0	-	(15.2)	ロコナテ	ハケメ		ロコナテ	ハケメ			良好・艶		1 1
215	赤城窓架	RA262 床面	16.2	-	(4.2)	ロコナテ				ロコナテ			良好・艶		
216	赤城窓架	RA282 南側欄上下部	14.4	5.8	5.6	ロコナテ				ロコナテ			良好・艶		

* 219 号機 僅かに
30% を含む、艶粉
使用あり

番号	試験 設備	川十記号	位置 (m)			外面調査			内面調査			流況 色調	その他	分類
			L/E	底径	橋高	口縁部	作込	作部下手	口縁部	橋脚	作部下手			
217	赤坂大宮 分岐	RA282 南東側橋脚部	15.6	6.8	7.2			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・澄		
218	山崎橋	RA282 南東側床底	15.8	6.3	5.6			ロタロナテ			ロタロナテ	甘い・灰白	表面石灰化	
219	扇形架	RA203 橋上土層	13.0	-	(4.3)			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・灰		
220	十郎橋	RA282 橋上土層	20.2	-	(7.0)			ロタロナテ	カキム		ロタロナテ	良好・黄砂		
221	土師橋	RA282 橋上	19.4	-	(15.0)			ヨコナテ	ヘラナテ		ヨコナテ	良好・洗滌 層	2区と同一	
222	扇形架	RA282 南側下	-	-	-				タタキ		アケ具	良好・灰白		
223	土師橋	RA283 橋脚部	14.6	-	(3.9)			ロタロナテ			ヘラミダキ・黒色塊	良好・洗滌 層	●284と同一部 位	
224	土師橋	RA283 橋脚部	13.6	5.6	5.2			ロタロナテ			ヘラミダキ・黒色塊	黄砂	表面石灰化	
225	赤坂大 宮	RA283 土層	13.6	6.0	4.8			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・洗滌 層	表面石灰化	
226	赤坂大 宮	RA283 北橋脚部	13.6	5.7	5.5			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・洗滌 層	表面石灰化	
227	赤坂大 宮	RA283 橋口付近	14.4	6.7	4.8			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・洗滌 層	表面石灰化	
228	扇形架	RA283 北西土層	14.6	5.6	4.8			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・灰		
229	七郎橋	RA283 橋口付近	(20.0)	-	(20.5)			ロタロナテ ヘラナテ			ロタロナテ ヘラナテ	良好・洗滌 層	外周一部調査	
230	十郎橋	RA283 土層	-	-	-			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・洗滌 層		
231	土師橋	RA283 東側付設側	18.0	-	(10.0)			ヨコナテ	ヘラナテ		ヨコナテ	ヘラナテ	甘い・洗滌 層	
232	七郎橋	RA284 南側下層	13.8	-	(4.9)			ロタロナテ			ヘラミダキ・黒色塊	良好・洗滌 層		
233	土師橋	RA284 橋上土層	14.0	-	(4.2)			ロタロナテ			ヘラミダキ・黒色塊	良好・洗滌 層		
234	赤坂大 宮	RA284 pH 2 層上	13.8	-	(4.2)			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・洗 滌層		
235	扇形架	RA284 南側土層	14.4	5.4	5.2			ロタロナテ			ロタロナテ	やや甘い・ 灰白	表面石灰化	
236	十郎橋	RA284 pH 1 層土	20.6	-	(3.9)			ヨコナテ	ヘラナテ		ヨコナテ	甘い・澄		
237	扇形架 分岐	RA284 南側下層	-	10.0	(7.6)			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・灰白	底部に希状の 高層	
238	扇形架	RA284 カマド	-	-	-			ロタロナテ			アケ具	良好・灰白		
239	土師橋	RA285 カマド橋脚部	14.6	6.0	4.6			ロタロナテ			ヘラミダキ・黒色塊	良好・洗滌 層	表面石灰化	
240	土師橋	RA285 カマド橋脚部	13.1	5.6	4.6			ロタロナテ			ヘラミダキ・黒色塊	良好・洗滌 層	表面石灰化	
241	赤坂大 宮	RA285 カマド	14.8	5.2	5.5			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・洗滌 層		
242	赤坂大宮 分岐	RA285 北東側土層	-	7.1	(1.8)						ロタロナテ	良好・洗滌 層		
243	土師橋	RA285 床面	-	4.4	(3.8)			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・洗滌 層		
244	土師橋	RA286 カマド橋脚部	30.0	-	(12.0)			ロタロナテ ヘラナテ			ロタロナテ	良好・澄		
245	十郎橋	RA286 カマド橋脚部	24.0	-	(13.7)			ロタロナテ ヘラナテ	ヘラナテ		ヨコナテ	ヘラナテ	良好・洗滌 層	
246	土師橋	RA286 カマド周辺	-	8.0	(15.0)						ロタロナテ	ヘラミダキ・黒色塊	良好・澄	新土と砂と石多
247	山崎橋	RA286 橋脚部	-	-	-			タタキ			アケ具	良好・灰白	様子不明	
248	土師橋	RA286 橋上土層	14.0	-	(4.1)			ロタロナテ			ヘラミダキ・黒色塊	良好・洗滌 層		
249	土師橋	RA286 橋上土層	-	7.0	(2.0)			ロタロナテ			ヘラミダキ・黒色塊	良好・洗滌 層	表面石灰化	
250	赤坂大 宮	RA286 カマド	14.8	4.8	5.5			ロタロナテ			ロタロナテ	やや甘い・ 洗滌層		
251	赤坂大 宮	RA286 橋上土層	14.0	5.0	4.8			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・澄		
252	十郎橋 高台 分岐	RA286 カマド	-	7.8	(2.1)						ロタロナテ	ヘラミダキ・ 黒色塊	良好・洗滌 層	表面に希状の 高層
253	土師橋	RA286 カマド	21.4	-	(10.8)			ヨコナテ	ヘラナテ ヘラナテ		ヨコナテ	ハケム	良好・澄	
254	扇形架	RA286 カマド	-	-	-				タタキ		アケ具	良好・灰		
255	土師橋	RA287 カマド周辺	16.0	-	(4.6)			ロタロナテ			ヘラミダキ・黒色塊	良好・洗滌 層		
256	土師橋	RA287・288 橋脚部	-	4.4	(1.3)						ロタロナテ	ヘラミダキ・ 黒色塊	良好・洗滌 層	表面式層・表面 石灰化
257	赤坂大 宮	RA287 カマド周辺	13.8	6.8	3.6			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・澄	表面石灰化	
258	赤坂大 宮	RA287 カマド南側橋 脚	14.4	7.0	5.2			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・和	表面石灰化	
259	扇形架	RA287 Q2 土層	14.4	7.0	4.4			ロタロナテ			ロタロナテ	やや甘い・ 灰白	表面石灰化	
260	扇形架	RA287 マド周辺	14.8	6.8	5.3			ロタロナテ			ロタロナテ	やや甘い・ 灰白	表面石灰化	
261	扇形架	RA287 カマド周辺	13.0	6.0	4.9			ロタロナテ			ロタロナテ	良好・澄	表面石灰化	
262	扇形架	RA287 南側橋脚部	13.8	6.0	4.2			ロタロナテ			ロタロナテ	やや甘い・ 灰白		

番号	植栽形態	苗木位置	質量 (cm)			外形調整			内面調整			吸・流・色調	その他	分類	
			口径	直径	高さ	口縁部	径部	挿入下	口縁部	径部	挿入下				
253	上海型鉢	RA287 カマド風通	27.0	-	(14.1)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・浅黄緑			
254	土師型鉢	RA287 罎上下層	35.6	-	(5.8)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好			
255	土師型鉢	RA287 南陽風通	20.5	10.0	32.2	ロクロナデ	ハケメ	ケズリ	ロクロナデ	ハケメ		良好・白っぽい黄	水巻鉢・スズ		
256	上海型鉢	RA287 カマド風通	21.8	-	(20.0)	ロクロナデ	ハケメ		ロクロナデ	ハケメ		良好・黄			
257	上海型鉢	RA287 288 壇部	-	16.6	(3.6)			ヘラナデ				良好・白っぽい黄			
258	坛部鉢	RA287 カマド風通			(9.0)			ロクロナデ				良好・白っぽい黄			
259	須山型鉢	RA287 罎出	-	-	-			ロクロナデ				良好・灰白			
270	須山型鉢	RA287 罎上下層	23.4	-	(5.3)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・オリーブ色			
271	坛部鉢	RA287 カマド風通			-			タタキ				良好・灰白			
272	須山型鉢	RA287 カマド風通	-	-	(27.7)			タタキ				良好・灰			
273	上海型鉢	RA288 罎上下層	14.3	6.9	4.1	ロクロナデ		調整型ナズリ	ヘラミガキ・黒色処理			良好・白っぽい黄	内調摩滅		
274	十郎型鉢	RA288 南面上層	13.8	6.0	1.6	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・粉	表面に黄斑		
275	十郎型鉢	RA288 南上下層	13.0	5.7	4.7	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄緑	表面に黄斑		
276	赤坂鉢	RA288 床直	14.8	6.2	5.2	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙	表面に黄斑		
277	赤坂鉢	RA288 pit 1 壘上	11.4	6.4	1.8	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・白っぽい黄			
278	須山型鉢	RA288 南上下層	13.6	7.0	4.4	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰	表面に黄斑		
279	十郎型鉢	RA288 床直	13.0	6.2	(4.1)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・灰	表面に黄斑		
280	土師型鉢	RA288 罎出	-	8.0	(1.7)			ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理	やや白っぽい黄	表面に黄斑		
281	土師型鉢	RA288 pit 2 壘上	-	7.7	(1.5)			ロクロナデ			ロクロナデ	良好・黄			
282	赤坂鉢	RA288 pit 壘上	-	7.6	(2.2)			ロクロナデ			ロクロナデ	良好・黄	表面に黄斑		
283	十郎型鉢	RA288 カマド風通	21.0	-	(8.1)	ロクロナデ	ハケメ		ハケメ			良好・黄			
284	土師型鉢	RA288 pit 2 壘上	22.4	-	(7.5)	ロクロナデ	ヘラナデ・ヘラナズリ		ロクロナデ	ヘラナデ		良好・白っぽい黄			
285	上海型鉢	RA288 南面上層	24.0	-	(6.8)	ロクロナデ	ヘラナデ		ロクロナデ	ヘラナデ		良好・黄			
286	十郎型鉢	RA288 南上下層	22.6	-	(4.2)	ロクロナデ	ヘラナデ		ロクロナデ	ハケメ		良好・粉			
287	上海型鉢	RA288 床直	15.0	-	(5.0)	ロクロナデ	ヘラナデ		ロクロナデ	ヘラナデ		良好・黄			
288	土師型鉢	RA288 カマド風通	23.6	-	9.2	ロクロナデ	ヘラナズリ		ロクロナデ	ハケメ		良好・浅黄緑			
289	坛部鉢	RA283 壘上	-	-	-			タタキ				良好・灰白			
290	須山型鉢	RA291 6号カマド風通	-	-	-			タタキ				良好・灰白			
291	土師型鉢	RA290 280 pit 2	13.8	-	(4.0)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・白っぽい黄			
292	赤坂鉢	RA290 289 柱穴	5.0	5.0	(3.5)			ロクロナデ			ロクロナデ	良好・白っぽい黄			
293	赤坂鉢	RA289 柱上	13.0	6.0	4.9	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・白っぽい黄	壘上に白っぽい黄		
294	赤坂鉢	RA289 カマド	-	6.0	(3.2)			ロクロナデ			ロクロナデ	良好・白っぽい黄	表面に黄斑		
295	十郎型鉢	RA289 罎上下層	-	7.8	(11.8)		ハケメ		ハケメ			良好・白っぽい黄	表面に黄斑・灰部不常性		
296	須山型鉢	RA290 床直	-	-	-			タタキ			調整不明	良好・灰白			
297	坛部鉢	RA289 床直	-	-	-			タタキ				良好・灰白			
298	上海型鉢	RA290 カマド	13.0	6.0	5.5	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・白っぽい黄	壘上に白っぽい黄		
299	上海型鉢	RA290 罎上下層	13.5	7.0	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラナズリ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・白っぽい黄	表面に黄斑		
300	十郎型鉢	RA290 罎出	13.8	7.0	5.7	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・白っぽい黄	壘上に白っぽい黄		
301	土師型鉢	RA290 罎出	-	5.2	(2.0)			ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理	良好・浅黄緑	壘上に白っぽい黄		
302	上海型鉢	RA290 カマド風通	15.0	5.6	5.0	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰白	表面に黄斑		
303	赤坂鉢	RA290 罎上下層	13.0	5.4	4.9	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・黄	表面に黄斑		
304	赤坂鉢	RA290 カマド風通	14.8	-	(3.9)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・黄			
305	赤坂鉢	RA290 南面	14.5	5.4	4.3	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・黄	表面に黄斑		
306	赤坂鉢	RA290 赤	16.6	6.6	6.1	ロクロナデ			ロクロナデ			やや白っぽい黄			
307	土師型鉢	RA290 罎出	14.0	-	(5.4)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・白っぽい黄			
308	十郎型鉢	RA290 赤	18.6	-	(11.0)	ロクロナデ	ヘラナデ		ロクロナデ	ヘラナデ		良好・白っぽい黄			

番号	施設 設備	用土位置	採戻 (cm)			外周調整			内周調整			造成 台数	その他	分類	
			L径	底径	高さ	口径径	係数	係数下平	口径径	係数	係数下平				
300	土留壁	RA201 1号カマド	199	-	(3.2)	ヨコナテ			ヨコナテ	ヘラナテ		良好・成層性 良い			
310	土留壁	RA201 p304	64		(3.4)	ロクロナテ	ケズリ					良好・成層性 良い			
311	土留壁	RA201 3号煙出	137	5.3	5.0	ロクロナテ			ヘラミダキ・黒色地層			良好・成層性 良い			華南「木」
312	土留壁	RA201 3号カマド煙出	-	5.0	(4.5)		ロクロナテ			ヘラミダキ・黒色地層		良好・成層性 良い			華南「木」、 華南「木」
313	土留壁	RA201 17号上層	144	7.2	5.2	ロクロナテ			ヘラミダキ・黒色地層			良好・成層性 良い			底層再調査
314	土留壁	RA201 北西下層	-	5.2	(1.9)		ロクロナテ					良好・成層性 良い			底層再調査
315	赤地	RA201 4号カマド煙出	144	5.2	5.4	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			底層再調査
316	赤地	RA201 4号カマド煙出	142	5.8	4.9	ロクロナテ				ロクロナテ		やや甘い 成層性			調査「×」
317	赤地	RA201 庫上	140	3.4	4.7	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			底層再調査
318	赤地	RA201 庫上	142	4.6	5.4	ロクロナテ				ロクロナテ		やや甘い 成層性			底層再調査
319	赤地	RA201 庫上	130	6.0	5.3	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			底層再調査
320	赤地	RA201 庫上	146	5.3	4.8	ロクロナテ				ロクロナテ		やや甘い 成層性			底層再調査
321	赤地	RA201 中央部北側	142	7.4	4.6	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			底層再調査
322	赤地	RA201 南東部	140	5.8	4.6	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			底層再調査
323	赤地	RA201 南西	136	7.0	3.8	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			底層再調査
324	土留壁 台付	RA201 3号カマド煙出	7.0		(2.0)		ロクロナテ				ロクロナテ	良好・成層性 良い			
325	土留壁	RA201 17号上層	149	3.0	4.3	ロクロナテ				ロクロナテ		やや甘い 成層性			底層再調査
326	土留壁	RA201 3号カマド煙出	137	4.9	3.0	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			底層再調査
327	土留壁	RA201 北東下層	142	5.5	3.0	ロクロナテ				ロクロナテ		やや甘い 成層性			底層再調査
328	土留壁	RA201 4号カマド煙出	139	6.2	6.0	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			底層再調査
329	土留壁	RA201 庫上	138	5.2	4.2	ロクロナテ				ロクロナテ		やや甘い 成層性			底層再調査
330	土留壁	RA201 庫上	250	-	(9.7)	ロクロナテ	ヘラナテ			ロクロナテ	タケ	良好・成層性 良い			
331	土留壁	RA201 北西上層	31.0	-	(9.8)	ロクロナテ	タケ			ロクロナテ	タケ	良好・成層性 良い			
332	土留壁	RA201 1号煙出	214	-	(4.1)	ロクロナテ	ヘラナテ			ロクロナテ		良好・成層性 良い			
333	土留壁	RA201 p304	114	-	(4.4)	ヨコナテ	ヘラナテ			ハケメ	ヘラナテ	良好・成層性 良い			
334	土留壁	RA201 南西上層	-	-		ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			
335	土留壁	RA201 南西上層	138	-	(3.5)	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			120と同一
336	土留壁	RA201 4号カマド煙出	-	-	(8.2)	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			
337	土留壁	RA201 1号カマド煙出	-	-		タケ				アケ		良好・成層性 良い			
338	土留壁	RA201 庫上	140	-	(4.0)	ロクロナテ				ヘラミダキ・黒色地層		良好・成層性 良い			華南「木」
339	土留壁	RA201 庫上	148	5.6	5.0	ロクロナテ				ロクロナテ		やや甘い 成層性			底層再調査
340	土留壁	RA201 庫上	130	-	(3.4)	ヨコナテ	ヘラナテ			ヨコナテ	タケ	良好・成層性 良い			
341	土留壁	RA201 煙出	-	6.7	(13.5)	ヨコナテ	ヘラミダキ・ヘラミダキ			ヨコナテ	ヘラナテ	良好・成層性 良い			
342	土留壁	RA201 南西上層	194	8.0	27.2	ヨコナテ	ヘラミダキ・ヘラミダキ			ヨコナテ	ヘラナテ	良好・成層性 良い			
343	土留壁	RA201 庫上	-	-		タケ				アケ		良好・成層性 良い			前面の傾き不同
344	土留壁	RA201 南西上層	13.0	5.2	5.2	ロクロナテ	ヘラナテ			ヘラミダキ・黒色地層		良好・成層性 良い			調査「木」・底層再調査
345	土留壁	RA201 南西上層	15.7	8.3	4.8	ロクロナテ				ヘラミダキ・黒色地層		良好・成層性 良い			調査「木」・底層再調査
346	土留壁	RA201 北側	143	6.6	3.0	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			調査「木」
347	土留壁	RA201 南西上層	13.3	5.5	3.5	ロクロナテ	手付ヘラナテ			ヘラミダキ・黒色地層		良好・成層性 良い			底層再調査
348	土留壁	RA201 南西上層	12.3	5.4	4.8	ロクロナテ				ヘラミダキ・黒色地層		良好・成層性 良い			底層再調査
349	赤地	WA203 pt 1	163	6.8	5.6	ロクロナテ				ロクロナテ		やや甘い 成層性			
350	土留壁	RA203 カマド付瓦	148	7.2	5.3	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			
351	土留壁	RA203 北側	162	7.0	12.9	ロクロナテ				ロクロナテ		やや甘い 成層性			
352	土留壁	RA203 pt 1	130	-	(3.4)	ヨコナテ	ヘラナテ			ヨコナテ	タケ	良好・成層性 良い			
353	土留壁	RA204 17号上層	143	-	(3.4)	ロクロナテ				ヘラミダキ・黒色地層		良好・成層性 良い			
354	土留壁	RA204 南東上層	136	-	(4.6)	ロクロナテ				ロクロナテ		良好・成層性 良い			

番号	種別 種別	出所位置	流量 (cm)			外側調査			内側調査			造成 色調	その他	分類	
			L径	底径	管高	山形部	管部	管部下	口形部	管部	管部下				
350	土留部	RA254 北野中央床土	28.6	-	(16.0)	ロクロナダ	ヘラナダ		ロクロナダ	ヘラナダ		良好・浅黄緑			
356	土留部	RA294 南西上層	21.4	-	(7.4)	ロクロナダ			ロクロナダ	カキメ		良好・灰白色			
357	土留部	RA294 床土	26.0	-	(5.8)	ロクロナダ	ハケメ		ロクロナダ	ハケメ		良好・明赤色			
358	土留部	RA294 床土	-	14.4	(4.0)			ヘラナダ		ヘラナダ		良好・灰白色	底面砂		
359	土留部	RA294 南西下層	-	14.1	(2.0)			ロクロナダ		ロクロナダ		良好・灰			
360	土留部	RA295 床上上層	14.2	5.4	4.8	ロクロナダ	ヘラナダ		ヘラミガキ・黒色地層			やや黄っぽい 灰白色	底面汚濁層 ヘラミガキ		
361	土留部	RA295 床上	-	7.0	(2.2)			調査不明				やや黄っぽい 灰白色	底面汚濁層		
362	土留部	RA295 床上上層	14.1	5.8	5.2	ロクロナダ			ロクロナダ			良好・黄	底面汚濁層		
363	土留部	RA295 床上南西	13.4	6.3	4.5	ロクロナダ			ロクロナダ			良好・灰白色	内外面腐蝕		
364	土留部	RA295 床上	-	7.4	(3.4)			ロクロナダ				良好・浅黄緑			
365	土留部	RA295 カマド巻込部	15.8	9.0	6.0	ロクロナダ	ヘラミガキ・黒色地層		ヘラミガキ・黒色地層			やや黄っぽい 灰白色	底面汚濁層 「本」部土 「砂」部土		
367	土留部	RA295 カマド巻込部	20.6	-	(18.7)	ロクロナダ	ヘラナダ		ロクロナダ	ハケメ		良好・黄			
368	土留部	RA295 カマド巻込部	17.4	-	(13.8)	ロクロナダ	ヘラナダ		ヘラナダ	ハケメ		やや黄っぽい 灰白色			
369	土留部	RA295 床上下層	-	-	-			タタキ		ツタキ		やや黄っぽい 灰白色			
370	土留部	RA297 カマド巻込部	15.2	7.4	4.8	ロクロナダ			ロクロナダ			良好・黄	底面汚濁層		
371	土留部	RA297 北巻込上層	14.1	7.5	4.4	ロクロナダ			ロクロナダ			良好・黄	底面汚濁層		
372	土留部	RD299 床土	15.8	-	(3.9)	ロクロナダ			ロクロナダ			調査			
373	土留部	RD299 床上	-	8.0	(23.0)	ロクロナダ		ハケメ		ハケメ		やや黄っぽい 灰			IA
374	土留部	RD299 床上								ハケメ		良好・灰白色			
375	土留部	RD299 床上						ハケメ		ハケメ		良好・浅黄緑			
376	土留部	RD308 南西床直	22.4		6.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ・ハケメ		ヘラミガキ・黒色地層			良好・灰白色			M B
377	土留部	RD308 西側床直	14.8		4.9	ヘラミガキ	ナダ		ヘラミガキ・黒色地層			良好・黄	底面汚濁層「×」		M B
378	土留部	RD308 南西床直	17.0	-	6.2	ヘラミガキ・ハケメ	ハケメ		ナダ・ヘラミガキ・黒色地層			良好・黄			M B
379	土留部	RD308 床上中層	14.8	5.4	5.4	ロクロナダ	ヘラミガキ		ロクロナダ・ヘラミガキ・黒色地層			良好・灰白色	底面汚濁層「×」		M B
380	土留部	RD308 床土	14.6		5.0	ヘラミガキ・ハケメ	ハケメ		ヘラミガキ・黒色地層			良好・浅黄緑			M B
381	土留部	RD308 床土	13.6	-	5.0	ヘラミガキ・ロクロナダ	ヘラミガキ・ハケメ		ヘラミガキ・黒色地層			良好・灰白色			M B
382	土留部	RD308 床上下層	-	-	(4.8)					ヘラミガキ・黒色地層		良好・灰白色			
383	土留部	RD308 西側床直	21.2	7.8	29.2	ロクロナダ	ハケメ	ヘラナダ	ロクロナダ	ヘラナダ		良好・灰白色	口巻部腐蝕		IB
384	土留部	RD402 床上	10.4	-	3.5					ヘラミガキ		やや黄っぽい 灰白色	底面汚濁層「×」		IB
385	土留部	RD402 床上	9.0	6.0	2.8		ヘラミガキ		ヘラミガキ・黒色地層	ロクロナダ		良好・黄			IB
386	土留部	RD402 床上	16.0	-	(5.7)	ロクロナダ	ハケメ		ロクロナダ			良好・明赤色			II
387	土留部	RD295 床土	6.9	-	4.2	ヘラミガキ・ロクロナダ			ヘラミガキ・ロクロナダ			良好・灰白色			
388	土留部	RD286 床上	18.6	-	(2.8)	ロクロナダ			ロクロナダ			良好・黄			
389	土留部	RD286 床上	-	-	-							良好・浅黄緑			
390	土留部	RD309 床土	-	-	-			ロクロナダ		ロクロナダ		良好・黒	調査不明		
391	土留部	RD311 床土	17.4	-	(2.7)							良好・灰白色			
392	土留部	RD382 床上	21.4	-	(3.6)	ロクロナダ			ロクロナダ			良好・灰白色	※ 431 と同一制 作		
393	土留部	RD386 床上	-	-	(3.8)	ロクロナダ	ヘラナダ			ヘラナダ		やや黄っぽい 灰			
394	土留部	RD389 西側下層土	20.0	-	(4.9)	ヘラミガキ・黒色地層			ヘラミガキ・黒色地層			良好・黄			M B
395	土留部	RD389 西側下層土	14.6	-	(2.7)	ヘラミガキ			ヘラミガキ・黒色地層			良好・浅黄緑			M B
396	土留部	RD389 床上下層	13.6	-	3.2	ヘラミガキ・黒色地層 ロクロナダ	ハケメ ロクロナダ		ヘラミガキ・黒色地層			良好・黄			M B
397	土留部	RD389 床上内	17.8	-	(7.8)	ロクロナダ	ハケメ		ロクロナダ	ハケメ		良好・灰白色			II
398	土留部	RD428 床上	-	-	-	ロクロナダ			ロクロナダ			良好・灰白			
399	土留部	RD428 床土	-	-	-		タタキ					良好・灰白			

番号	種別 名称	山上位置	曲量 (m)			外周調整			内周調整			他法 名称	その他	分類
			L/E	底径	高さ	L/総径	巻巻	巻巻下平	L/総径	巻巻	巻巻下平			
400	土庫跡	RD677 屋上	190	-	(13.1)	ハケメ ヨコナテ	ハケメ		ヨコナテ	ハケメ		良好・堅		I 2
401	土庫跡	RD608 埋土	128	5.1	4.8	ロクロナテ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・堅	底面同級赤砂	
402	調査跡	RD608 検出箇	-	-	-	タタキ			タタキ			良好・堅	傾き面がない	
403	土庫跡	RD614 埋土中層	119	-	(4.3)	ロクロナテ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・堅	外周調査	
404	土庫跡	RD614 埋土	130	-	4.6	ロクロナテ			ロクロナテ			良好・堅		
405	赤砂帯	RD614 埋土	-	4.6	(3.8)				ロクロナテ			良好・堅	底面同級赤砂	
406	赤砂帯	RD614 埋土中層	140	5.1	4.4	ロクロナテ			ロクロナテ			良好・堅	底面同級赤砂	
407	土庫跡 調査	RD614 埋土中層	-	5.3	(3.4)				ヘラミガキ・黒色処理			良好・堅		
408	土庫跡 調査	RD614 2層	267	9.2	31.8	ヨコナテ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナテ	ヘラミガキ			良好・堅	底面同級赤砂	
409	土庫跡	RD614 2層	226	-	(24.0)	ロクロナテ ヘラミガキ			ロクロナテ			良好・堅		
410	調査跡 (調査)	RD614 埋土中層	-	-	(21.8)						カキメ!	全甘い・ 硬		
411	土庫跡	RD630 埋土	152	-	(4.2)	ロクロナテ			ミガキ・ 黒色処理			良好・堅	傾き面がない	
412	土庫跡	RD630 埋土	170	-	(4.3)	ヨコナテ			ヨコナテ			良好・堅		
413	土庫跡	RD631・632 埋土	21.6	-	(9.8)	ヨコナテ ヘラミガキ			ヨコナテ ヘラミガキ			良好・堅		
414	調査跡	RD632 埋土	130	-	(3.6)	ロクロナテ			ロクロナテ			良好・堅		
415	調査跡	RD641 埋土	14.6	-	(4.2)	ロクロナテ			ロクロナテ			良好・堅		
416	土庫跡	RD641 埋土	138	3.0	4.6	ロクロナテ			ロクロナテ			良好・堅	底面同級赤砂	
417	土庫跡 調査	RD642 埋土中位	13.3	7.6	3.4	ロクロナテ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・ 硬	内周調査	
418	調査跡	RD646 埋土	-	-	-	タタキ						全甘い・ 硬		
419	調査跡	RD647 埋土	-	-	-	タタキ						良好・ 硬		
420	土庫跡 調査	K0742 埋土	-	13.6	(4.8)							良好・ 硬		
421	土庫跡	RD744 埋土	-	-	(1.9)	ヘラミガキ			ヘラミガキ・ 黒色処理			全甘い・ 硬		
422	土庫跡	K1773 埋土上～中層	-	8.8	(11.0)	ハケメ			ハケメ			全甘い・ 硬		I A
423	調査跡	RD808 埋土	5.8	(2.7)		ロクロナテ			ロクロナテ			全甘い・ 硬	底面同級赤砂	
424	調査跡	RD808 埋土	6.1	4.8		ロクロナテ			ロクロナテ			全甘い・ 硬	底面同級赤砂	
425	赤砂帯	K1809 埋土				ロクロナテ			ロクロナテ			良好・ 硬	底面同級赤砂	
426	土庫跡	RC045 埋土	100	-	3.3	ヨコナテ			ヘラミガキ・黒色処理			全甘い・ 硬		
427	土庫跡	RC045 埋土	12.6	-	2.7	ヘラミガキ	ハケメ		ヘラミガキ・黒色処理			全甘い・ 硬	底面同級赤砂に 2区に2区	
428	土庫跡 調査	RC085 埋土	28.5	-	18.0	ヨコナテ	ハケメ	ヨコナテ	不明			良好・ 硬	外：巻 傾き も若干	I B 1
429	土庫跡	RC203 埋土	-	-	-	タタキ			調査不明			良好・ 硬		
430	調査跡	RZ004 埋土	-	-	-	タタキ			アケ具			良好・ 硬		
431	調査跡	RZ011 埋土	-	-	-	タタキ			アケ具			良好・ 硬	傾き面がない	
432	土庫跡	RC209 埋土	-	-	-	タタキ						良好・ 硬	傾き面がない	
433	調査跡	RZ014 埋土	-	-	-	タタキ			アケ具			良好・ 硬		
434	調査跡	RZ014 埋土	-	-	-	ロクロナテ			ロクロナテ			良好・ 硬		
435	土庫跡	P 101 埋土	-	-	-	タタキ			アケ具			良好・ 硬		
436	調査跡	RC083 埋土	-	-	-	タタキ			アケ具			良好・ 硬		
437	調査跡	埋土跡 3層	-	-	-	タタキ			アケ具			良好・ 硬		
438	土庫跡	埋土跡 3層	-	-	-	タタキ			アケ具			良好・ 硬		
439	調査跡	埋土跡	-	-	-	タタキ			調査不明			良好・ 硬		
440	調査跡	埋土跡 3層	-	-	-	タタキ			ロクロナテ			良好・ 硬		
441	土庫跡	埋土跡 2層	-	-	-	ロクロナテ			ロクロナテ			良好・ 硬		
442	土庫跡	埋土跡	-	-	-	ロクロナテ			ロクロナテ			良好・ 硬		
443	調査跡	埋土跡 3層	-	-	-	タタキ			ロクロナテ			良好・ 硬		
444	調査跡	埋土跡	-	-	-	ヘラミガキ			ロクロナテ			良好・ 硬		
445	土庫跡	1 - C区 埋土	-	-	-	ロクロナテ			ロクロナテ			全甘い・ 硬	調査不明	
446	調査跡 不明	2 - C区 埋土	-	-	-	不明			不明			良好・ 硬	調査不明	
447	土庫跡	1 - C区 埋土	-	-	-	ロクロナテ			ロクロナテ			全甘い・ 硬	調査不明	
448	調査跡	3 - D区 3層	-	-	-				不明			良好・ 硬	調査不明	

陶磁器観察表

展覧番号	品名	器種	出土位置	寸法 (cm)		器高	胎土	施文・紋付	製作地	製作年代	その他
				口径	底径						
627	480	青磁碗	3 B 区草履	-	-	(4.0)	灰白	露漣方文	中国産	13C後～14C	
640	431	青磁碗	p 125	-	5.8	(2.5)	灰白	露漣方文	中国産	13C後～14C	
617	433	青磁碗	1 C 区草履	-	-	-	灰白	露漣方文	中国産	15C	
546	451	青磁碗	KD1609出土	-	-	(1.3)	灰白	露漣方文	中国	14C後半～15C	
574	454	青磁碗	R2239出土	-	-	-	灰白	露漣	中国	14C	蓋付文
607	455	白磁碗	1 C 区草履	-	4.6	(4.0)	灰白	中国産	中国産	15C	青白磁土
628	456	青磁鉢	3 B 区草履	-	-	(1.2)	黄灰	鉄胎	東北産か	16C	
330	437	青磁	M17280出土	-	6.6	(1.8)	黄緑	構成目い	中国	15C	
598	438	青磁鉢	R2004出土	10.4	-	(1.8)	灰白	白磁?			
626	439	青磁鉢	3 B 区 1～11層	19.0	-	(1.1)	灰白	青磁	中国産	13C後～14C	溜めの跡か
612	460	磁器皿	3-D 区北半 1層	-	-	-	白磁	露漣	中国産か	17C前半	
642	461	磁器皿	p 118	-	4.8	(2.1)	灰白	露漣	中国産	17C前半	露漣付
642	462	磁器皿	透模外 1層	10.0	-	(1.9)	灰白	露漣	中国産?	16C前半	
600	463	陶器風梨	R G 264出土	-	-	-	灰白	外：鉄胎、内：黄胎	瀬戸	13C後半～14C中	中 1 目
639	464	陶器平鉢	3 B 区 8層	-	-	-	灰白	鉄胎	瀬戸	13C前半	絶筆
306	465	陶器鉢	R A 27出土	-	-	-	灰白	鉄胎	瀬戸	14C前半	
629	466	陶器鉢	3 B 区 8層	-	-	-	灰白	鉄胎	瀬戸	13C後半～14C中	中 1～2 目
556	467	陶器鉢	R2014出土	-	-	-	灰白	鉄胎	瀬戸	15C	大目焼
593	468	陶器風梨	3 A 区 1層	-	-	-	黄灰	鉄胎	不明	中国産か	
589	469	陶器風梨	3 B 区(露漣帯)	-	-	-	灰白	鉄胎	瀬戸	14C後半～15C中	幾 1 目
790	470	陶器鉢	R G 267出土	9.4	-	(3.8)	灰	鉄胎	大瀬川馬	18C	
641	471	陶器片 1片	4 B 区 1層	36.2	-	(11.3)	灰	黄胎	定通	13C後半～14C後半	青磁 8層
598	472	陶器風梨	R2034出土	-	-	-	黄灰	自然釉か	常陸か	中世	粒まじり焼
601	473	陶器風梨	R G 264出土	-	-	-	灰白	無胎	北陸産	13C前半	露漣付、透模付
876	474	陶器鉢	R2016出土	-	-	-	明陶灰	無胎	北陸産	中世	内面焼い込まれている
629	475	陶器鉢不明	3 C 区 1層	-	-	-	白磁跡か	不明	中国産	不明	
315	476	陶器鉢	R A 24出土	-	9.6	(5.7)	にえい焼	無胎	不明	中国産	
636	477	陶器鉢	3-D 区 下 1層	26.4	-	(5.8)	明赤胎	無胎	不明	不明	透漣等焼痕
619	478	陶器鉢	2 C 区 1層	-	-	-	にえい焼	無胎	不明	不明	断面焼痕
596	479	陶器鉢	R U 084出土	-	-	-	灰	無胎	不明	不明	透漣付
488	480	陶器鉢	R2004出土	-	-	-	黄灰	自然釉か	不明	中国産	
572	481	陶器鉢	R2004出土	-	15.8	(7.7)	赤陶	無胎	不明	不明	
681	482	陶器鉢	F 3 4 2	28.4	-	(7.3)	黄灰	無胎	北陸産か	中国産	
586	708	陶器鉢	R G 264出土	-	5.2	(3.3)	灰白	透明釉	肥前	18C前半	白磁平鉢
783	709	陶器鉢	R D 649出土	-	5.0	(3.3)	黄白	透明釉	肥前	18C前半	白磁平鉢
615	710	陶器鉢	3-D 区南東部	-	5.0	(4.1)	にえい焼	灰胎	肥前	18C前半	白磁平鉢
614	711	陶器鉢	R A 28出土	-	4.6	(2.7)	灰白	透明釉	肥前	18C前半	白磁平鉢
776	712	陶器鉢	p 1066	-	4.8	(2.9)	黄白	透明釉か	肥前	17C 前半	露漣付、3点の目跡
792	713	陶器鉢	R D 649出土	10.2	-	(3.5)	黄陶	鉄胎・白化粧	肥前	17C後半	
791	714	陶器鉢	R D 649出土	-	3.6	(3.4)	赤陶	透明釉・白化粧	肥前	18C後半	
669	715	陶器鉢	p 239	12.0	-	(3.8)	灰赤	白化粧、透明釉	肥前	17C後半	
583	716	陶器鉢	R2004出土上層	-	-	-	灰白	外：鉄・黄灰、内：黄灰	大瀬川馬	19C前半	
611	717	陶器鉢	3-D 区 西側	-	3.9	(2.6)	灰白	鉄胎、黄胎	大瀬川馬	18C	外層に下灰、字跡焼
614	718	陶器鉢	3-D 区 北半 1層	-	4.4	(2.3)	灰白	鉄胎、黄胎	大瀬川馬	18C	外層に下灰、下字跡
683	719	陶器鉢	p 632 (H D 020)	-	4.0	(1.6)	灰白	鉄胎	大瀬川馬	18C	
698	720	陶器鉢	p 216	10.8	-	(4.4)	灰白	鉄胎	大瀬川馬	19C	
872	721	陶器鉢	R G 265出土	10.8	-	(4.4)	灰白	鉄胎	大瀬川馬	18C	
525	722	陶器鉢	R D 649出土	-	-	-	黄灰	鉄胎	大瀬川馬	18C	露漣付
681	723	陶器鉢	p 1	-	-	-	灰白	無胎	大瀬川馬	16C	
582	724	陶器鉢	R2004出土上層	-	-	-	灰白	外：鉄・黄灰、内：黄灰	大瀬川馬	19C前半	
793	725	陶器鉢	R K 014出土	-	3.6	(2.7)	灰	黄胎	大瀬川馬	19C	
679	726	陶器鉢	p 209	-	-	-	灰白	黄胎、銅緑粉	大瀬川馬	18C	
678	727	陶器鉢	R 2005出土	-	-	-	灰白	黄胎	瀬戸?	19C前半	露漣付
560	728	陶器鉢	R G 198出土	11.5	-	(2.4)	灰白	鉄胎	瀬戸・美濃	16C前半	目跡
773	729	陶器鉢不明	3-A 1～11層	-	4.4	(1.8)	灰	内：鉄胎、外：黄胎	瀬戸・美濃か	不明	見込みに目跡?
603	730	陶器鉢	3 B 区 1～11層	-	3.2	(1.6)	黄灰	鉄胎	瀬戸	18C前半	
665	731	陶器鉢	p 175	-	4.0	(2.8)	黄灰	鉄胎	不明	18C後半	
574	732	陶器鉢	R D 649出土	-	-	-	灰白	鉄胎	定通	18C後半～19C中	

駅番号	番号	器種	所土位置	位置 (cm)		地土	種類・給付	製作地	製作年代	その他
				L径	器高					
261	731	陶器碗	RG280埋土	-	-	灰白	京焼き風		18C後~19Cか	
604	734	陶器碗	p517	-	-	灰白	白化粧、透雨桶	不明	18C後~	
781	736	陶器碗	R D660埋土	72	-	(2.6)	赤灰	桶・鉄桶	19C以降か	
373	737	瓦?	R700埋土	-	-		にわい骨状			
788	738	陶器瓦葺?	R G97埋土	131	-	(2.3)	灰	灰桶	秀造か	17C末
600	739	陶器鉢	2 C区遺構外	-	11.6	(2.1)	灰白	外: 鉄桶、内: 赤灰	東北在跡か	19C~
791	740	陶器鉢	R F020埋土	-	8.2	(6.3)	灰白	透雨桶	吉野山	19C以降か
323	741	陶器火鉢	KA285埋土	-	14.4	(7.3)	灰白	土鍋	18C~19C	内面に目録
774	742	陶器小甕	2号遺構	6.0	3.3	4.7	灰白	内と外の目録付返に灰桶か	吉野山	17C頃か
384	743	陶器器種不明	R D640埋土	78	-	(2.5)	灰白	外: 鐵桶、内: 赤灰桶	不明	19C以降か
639	744	陶器器種不明	4号区1~遺構	-	-	-	灰白	遺構	東北在地	中流
391	745	陶器器種不明	KL665埋土	-	-	-	にわい骨	鉄桶	不明	不明
792	746	陶器器種不明	R E044埋土	-	4.6	(2.6)	灰	鉄桶・堂上色の桶	不明	19C以降か
604	747	陶器茶碗	遺構外	-	-	-	灰白	外: 鉛色の桶	備前	18C頃
485	748	陶器茶碗	3 A区土層	-	16.0	(2.9)	にわい骨状	鉄桶	伊予	内: 瓦葺
632	749	陶器茶碗	3 C区土層	-	-	-	灰白	外: 鉄桶?	不明	19C~
634	750	陶器茶碗	3 C区土層	-	-	-	灰黄	鉄桶	高志	17C末~18C初
321	751	陶器茶碗	KA285	-	8.0	(4.3)	黄灰	灰桶	吉野・美濃か	19C
638	752	陶器器種不明	4 B区土層	-	-	-	赤灰、灰白	鉄桶	不明	近世
786	753	陶器器種不明	R D660埋土	-	-	-	灰	外: 灰・桶、内: 鉄桶	不明	19C以降か
683	754	陶器?	p331	-	-	-	灰黄	外面白化粧?	不明	不明
786	755	陶器器種不明	R D640埋土	-	-	-	灰	鉄桶	不明	19C以降か
674	756	陶器器種不明	p180	-	-	-	灰	磁不調	不明	不明
622	757	陶器器種不明	2 C区土層	-	-	-	灰白	鉄桶	不明	不明
621	758	陶器器種不明	2 C区1層	-	-	-	赤灰	鉄桶	東北在跡か	不明
600	759	陶器?	1-C区灰土	-	-	-	灰白	鉄桶	不明	不明
543	760	陶器器種不明	RD383埋土	29.0	12.3	12.5	暗赤桶	鉄桶	東北在跡か	19C~
632	761	陶器器種不明	R C264埋土	33.8	-	(11.2)	明鉄灰	暗色の桶	不明	18C後~
648	762	陶器器種不明	1 C区1~遺構	-	-	-	灰白	鉄桶	東北在跡か	19C~
661	763	陶器器種不明	遺構外目録	-	-	-	灰白	鉄桶	北陸在跡か	中流か
676	764	陶器器種不明	p180	28.8	-	(4.9)	暗赤桶	鉄桶	不明	19C~
610	765	陶器器種不明	3-DK遺構	31.1	-	(3.5)	赤灰	鉄桶	東北在跡か	19C~
623	766	陶器器種不明	2 C区1~遺構	-	15.0	(4.3)	灰白	鉄桶	東北在跡か	19C~
557	767	陶器器種不明	RG213埋土	-	-	-	陶	鉄桶	不明	近世
593	768	磁器碗	4 A20m区遺構	-	4.8	(3.1)	灰白	染付	肥前か	17C頃か
670	769	磁器碗	p239	-	-	-	灰白	染付	肥前	1600~1780
659	770	磁器碗	p304	10.0	-	(4.3)	灰白	染付	肥前	1600~1780
578	771	磁器碗	K2204埋土・R D640	11.0	-	(4.5)	灰白	染付	肥前	1600~1780
671	772	磁器碗	p239	9.4	-	(4.3)	灰白	染付	肥前	1600~1780
580	773	磁器碗	K200埋土上層	10.6	-	(4.6)	灰白	染付	肥前	1600~1780
794	774	磁器碗	R E044埋土	-	-	-	灰白	染付	肥前か	18Cか
549	775	磁器碗	RD660埋土	-	-	-	灰白	染付	肥前	1600~1780
531	776	磁器碗	RD614埋土	10.4	-	(2.6)	灰白	染付	肥前	1600~1780
679	777	磁器碗	K2204埋土	-	4.4	(4.3)	灰白	染付	肥前	18C
649	778	磁器碗	遺構外目録	-	3.8	(3.3)	灰白	染付	肥前	1600~1780
302	779	磁器碗	RT614埋土	-	3.0	(2.5)	灰白	染付	肥前	1600~1780
782	780	磁器碗	R D660埋土	-	-	-	白	染付	肥前	18C
663	781	磁器碗	P 1 9 9	-	-	-	灰白	染付	肥前	1600~1780
778	782	磁器碗	R D660埋土	10.7	4.2	3.3	白	染付	肥前	18C後~19C
787	783	磁器碗	R D744埋土	-	2.8	(2.3)	灰白	染付	肥前	18C後~19C
370	784	磁器碗	RG285埋土	-	-	-	灰白で覆	染付	肥前・美濃か	19Cか
635	785	磁器碗	3 C区土層	-	8.8	(2.6)	灰白	染付	肥前	19C
678	786	磁器碗	p186	9.8	-	(3.1)	灰白	染付	不明	1 9 C ~
548	787	磁器碗	RD473埋土	-	5.0	(5.1)	白	染付	不明	19C~
682	788	磁器碗	p333	-	-	-	白	染付	肥前か	18C~19C
508	789	磁器碗	p72	-	-	-	灰白	染付	不明	19C~
644	790	磁器碗	遺構外1層	-	-	(1.6)	灰白	色絵	不明	不明
540	791	陶器碗	RD380埋土	-	-	-	灰白	外: 鉄桶、内: 灰桶	肥前	18C後~19C

図号	番号	部材	所七位置	決量 (mm)			取土	船渠・船付	新作物	製作年代	その他
				口径	直径	管高					
554	790	船渠鏡	RD048埋土	-	-	(2.1)	灰白	船付	肥後	1690~1780	
609	793	船渠鏡	p242	-	-	-	灰白	船渠	不明	19C~	
507	794	船渠鏡	RA219内の砂穴	-	-	-	灰白	不明	不明	不明	
531	795	船渠鏡	RD311北集申渠上 中一子	10.2	-	(3.6)	白	船付	不明	19C~	
367	796	船渠鏡	B C198埋土	-	6.9	(1.6)	灰白	船付			船付に砂
772	797	船渠鏡	K D469埋土	-	6.8	(1.7)	灰白	船付	肥後	1690~1780	足込みにコシニヤ印刷
789	798	船渠鏡	RC203埋土	10.1	11.8	3.1	灰白	船付	肥後	1690~1780	
789	798	船渠鏡	K D469埋土	11.4	-	(3.6)	灰白	船渠	不明	不明	
627	799	船渠鏡	p144	-	7.4	1.9	灰白	船付	肥後	1690~1780	
791	800	船渠鏡	K D469埋土	-	8.4	(1.4)	白	船付	肥後	1690~1780	
792	801	船渠鏡	RD649埋土	14.8	8.6	4.1	白	船付	肥後	1690~1780	
613	802	船渠鏡	3-4区1号	11.8	3.7	3.8	明緑灰	船付	肥後	1690~1780	
667	803	船渠鏡	p179	-	4.1	(2.2)	灰白	透明船	肥後	1690~1780	
581	804	船渠鏡	R2004埋土上層	-	-	-	明赤灰		肥後か	18C~	
584	805	船渠鏡	R2004埋土上層	-	-	-	灰ナリープ	灰船か	大船船渠か	18C~19C	
673	806	船渠鏡	p190	-	-	-	灰白	船付	肥後	1690~1780	
605	807	船渠鏡	B C093埋土	12.4	-	2.7	灰白	船付	肥後か	19C?	
672	808	船渠鏡	p288	-	-	-	灰白	船付	不明	19C~	
542	809	船渠鏡	p1066	-	-	(2.4)	灰	船付	不明	不明	
532	810	船渠鏡	R1331埋土中一ノ層	-	-	-	灰白	船付	不明	18C~	
631	811	船渠鏡	3 B区首~首層	-	-	-	灰白				
665	812	船渠鏡	p3	5.7	-	(1.4)	灰白	透明船		18C後~	
505	813	船渠鏡	KA207	4.2	1.7	1.4	白	L埋と内面に船		18C後~	
43	814	船渠鏡	WA211埋土ノ層	16.0	-	(2.7)	灰白	船付	不明	19C~	
527	815	陶器? 器鏡不明	RD322埋土				灰白	透明船	不明	近代か	
650	816	船渠鏡	遺構外層	6.4	-	(6.1)	灰白	骨組?		近代か	
667	817	船渠鏡	p10	10.0	-	(2.8)	灰白	内層も船渠	不明	19C~	
609	818	船渠鏡	3 C区首層	-	3.1	(2.7)	灰白	船渠	不明	19C~	
325	819	船渠鏡	RD048埋土	-	5.4	(1.4)	灰白	船付	肥後	18Cか	
790	820	船渠鏡	不明	-	-	-	白色ガラス質	船付、内層無船	不明	19C以降か	天地不明

木製品観察表

図番	番号	名称	出上位異	計測値 (mm)			その他
				長さ	幅	厚さ	
11	486	漆器柄	R0780板上	13.5	7.1	0.2	保存処理中
8	487	下駄	ED780板上	21.0	10.6	2.8	
2	488	不明	R0780板上	10.3	3.0	0.2	
9	489	加工材	ED780板上	11.9	1.8	1.9	
1	490	簀	R0780板上	16.5	0.8	5.5	
18	491	加工材	ED780板上	17.7	3.5	1.5	
19	492	加工材	R0780板上	13.5	2.2	2.4	
12	493	漆器柄小	R2014板上	4.8	7.2	0.7	保存処理中
13	494	木槌	R2014板上	58.3	26.2	10.5	保存処理中
21	495	加工材	R2014板上	18.2	4.4	4.7	柄の部分小
10	496	狐草	R2014板上	4.4	6.7	0.3	
16	497	漆皮	R2014板上	8.0	1.5	0.1	
14	498	銅皮	R2014板上	3.6	3.9	0.1	
25	499	杖	R2014板上	14.9	6.3	5.6	
15	500	杖	R2014板上	47.1	4.7	3.5	
24	501	杖	R2014板上	36.0	3.5	3.5	
26	502	加工材	R2014板上	34.9	3.8	0.6	
3	503	不明	4 D区漆器柄	16.3	3.0	0.9	
4	504	胸飾小	3 C区漆器	3.9	6.0	0.7	
17	506	加工材		12.3	2.3	0.8	
31	506	杖	R Z 001板上	76.7	4.0	3.9	
32	507	杖	R Z 001板上	60.0	3.9	3.1	
29	508	不明	R Z 001板上	6.3	1.5	1.1	
5	509	下駄	R C 264板上	14.8	6.4	1.9	
7	510	F取付	R G 264板上	4.2	9.5	0.6	
6	511	下駄脚	R C 264板上	3.1	6.7	0.6	
27	512	箱小	R1031板上	20.7	9.8	2.5	
28	513	漆	ED031板上	6.7	4.3	4.2	512に併り
20	514	板材	ED031板上	21.2	6.7	1.0	
30	515	加工材	ED031板上	33.8	6.3	4.8	
22		加工材	RA238板上	33.1	6.0	3.8	
23		杖	RA238板上	31.5	4.5	3.5	

金属製品観察表

収番	番号	種類	出土位置	金属の種類	寸法 (mm)			重量 (g)	その他
					長さ	幅	厚さ		
鉄 3	516	鍔先	RA291埋土	鉄	112	153	1.0	837	
鉄 1	517	鍔先	RA291埋土	鉄	110	152	1.4	1050	
鉄 4	518	鍔先	RA291埋土	鉄	135	157	1.0	869	
鉄 40	519	釘	RD22埋土	鉄	27	07	0.4	1.1	
鉄 40	520	釘	RD22埋土	鉄	42	1.0	0.7	3.6	
711	522	鉄釘	R 11616埋土中	鉄	73	23	0.5	22	
鉄 44	523	釘	RD22埋土	鉄	73	07	0.4	4.1	
鉄 27	524	釘	RA295埋土	鉄	43	1.0	0.7	20	
689	525	鉄釘	p 128	鉄	31	1.6	0.4	6.3	
709	526	鉄釘	p 304	鉄	47	1.3	0.6	3.1	
700	527	鉄釘	p 128	鉄	29	0.9	1.0	3.0	
708	528	鉄釘	2号近世墓壙片埋土中	鉄	42	1.1	0.5	8.3	
707	529	鉄釘	3号近世墓壙片埋土中	鉄	24	0.8	0.4	0.7	
693	530	鉄釘	2号近世墓壙土層片埋土中	鉄	6.6	0.8	0.4	4.1	
692	531	鉄釘	3号近世墓壙土層片埋土中	鉄	6.4	1.3	0.7	5.6	
536	532	鍔?	R D 331埋土	鉄	6.6	1.4	1.1	131	
鉄 52	533	刀子	R G 26埋土	鉄	6.5	1.8	0.8	6.5	
701	534	種類不明	R A 200埋土	鉄	33	1.9	1.3	11.0	
鉄 21	535	不明	RA285埋土層	鉄	5.4	2.6	0.3	2.7	
鉄 21	536	不明	RA285埋土下層	鉄	3.9	1.0	0.4	2.0	
鉄 28	537	不明	RA291埋土上層	鉄	3.6	0.6	0.3	2.0	
鉄 25	538	不明	RA295埋土面	鉄	49	1.3	0.6	6.3	
鉄 26	539	不明	I C 区 I - 1 層	鉄	6.0	1.0	0.8	3.5	
鉄 46	540	不明	RD274埋土	鉄	2.5	2.1	1.0	7.5	
691	541	種類不明	3号近世墓壙土層片埋土中	鉄	3.2	1.3	0.9	3.4	
鉄 47	543	不明	RD205埋土	鉄	3.7	3.1	1.6	3.65	
鉄 43	543	不明	RD202埋土	鉄	2.8	0.7	0.2	1.9	
713	544	種類不明	RD207埋土	鉄	4.7	4.7	1.3	11.1	
714	545	種類不明	RD207埋土	鉄	4.6	4.3	0.8	10.3	
717	546	煙管	I 区区 I 層	銅	8.3	2.5	-	8.0	
718	547	煙管	出土地点不明	銅	8.2	1.0	-	9.1	
721	548	煙管	3 区 3 層	銅	5.1	1.0	-	3.9	
719	549	煙管	RD244埋土	銅	4.6	1.0	-	2.7	
710	550	煙管弁	RD205埋土上層	銅	2.4	1.0	0.1	0.6	
720	551	銅板?	3 C 区 3 層	銅	4.2	2.6	0.1	4.0	
722	552	弁?	3 - A 区 I - 1 層	銅	13.3	1.3	0.2	13.9	
694		鉄弁弁	R D 6 1 7 埋土上層	鉄	-	-	-	71.0	
695		鉄弁	RA 不明	-	-	-	-	53.2	
696		鉄弁	RA 不明	-	-	-	-	80.6	
697		鉄弁	RA 2 6 9 1 5	-	-	-	-	221.6	
698		鉄弁	RA 2 6 8 2 号土坑	-	-	-	-	206.6	
712		種類不明	RA 3 2 4 R E 0 2 9	鉄	-	-	-	26.6	
715		鉄弁	R D 6 9 7 埋土上層	-	-	-	-	163.2	
716		鉄弁	R G 1 9 8 埋土	-	-	-	-	371.6	

銭貨観察表 文献：日本出土銭総覧 1996 兵庫型銭調査会

板号	番号	詳細	出土位置	直径(mm)	重さ(g)	金属の種類	発行年代	その他
724	553	景徳元寶	RD298 堀土	24	2.6	銅	1091	
725	554	天聖通寶	KD298 堀土	2.5	4.7	銅	1017	2枚裏
726	555	天聖通寶	RD298 堀土	2.5	3.1	銅	1023	
728	556	熙寧元寶	RD298 堀土	2.5	3.4	銅	1068	
730	557	熙寧元寶	RD298 堀土	2.3	5.3	銅	1068	
731	558	元豊通寶	RD298 堀土	2.4	3.7	銅	1078	
722	559	元豊通寶	KD298 堀土	2.4	3.4	銅	1078	
723	560	元祐通寶	RD298 堀土	2.5	1.3	銅	1086	
725	561	政和通寶	RD298 堀土	2.4	2.7	銅	1111	
727	562	紹興通寶	RD298 堀土	2.3	2.1	銅	1205	
723	563	不明	RD298 堀土	2.4	2.8	銅		
774	564	元祐通寶	KD732 堀土	2.5	1.9	銅	1078	
737	565	元豊通寶	RD738 堀土上層	2.4	1.9	銅	1078	
738	566	不明	KD738 堀土上層	-	-	銅		
740	567	祥符通寶	RD789 堀土中	2.5	2.3	銅	1099	
730	568	不明	KD789 堀土中	1.9	0.5	銅		銅銭
743	569	元祐通寶	RE026 堀土下層	2.4	2.3	銅	1078	
744	570	不明	RG198 堀土 (ペルト内)	2.4	2.4	銅		
748	571	咸平元寶	RG203 東側に張り出す部分	2.4	2.3	銅	998	
747	572	大聖元寶	RG203 堀土裏側の張り出し部分	2.5	3.5	銅	1023	二枚
747	572	元仁元寶	RG203 堀土裏側の張り出し部分	2.0	3.5	銅		二枚
749	573	不明	RG203 東側に張り出す部分	2.3	2.5	銅		
750	574	不明	KG203 東側に張り出す部分	2.3	3.2	銅		
746	575	寛永通寶	RG203 堀土 (ペルト内)	2.4	2.4	銅	1636~1639	古寛永小
739	576	供武通寶	KZ011 堀土上層	2.1	1.9	銅	1366	背一枚
760	577	至聖元寶	RE2014 堀土下層	2.4	2.8	銅	1051	
763	578	元祐通寶	p1785	2.4	2.1	銅	1086	
769	579	崇寧元寶	4区区角部埋没管理土	2.4	1.8	銅	1208	
769	580	崇寧通寶	4区区角部埋没管理土	2.1	1.7	銅	1368	
729	581	景徳元寶	RA248 p1985	2.5	2.2	銅	1091	
772	582	熙寧通寶	3区区 埋没	2.4	1.8	銅	990	
770	583	崇寧通寶	3区区中央部埋没管理土	2.4	2.3	銅	1056	
771	584	元祐通寶	3区区 埋没	2.4	1.7	銅	1078	
719	585	不明	RA244 横溝西端	2.4	5.5			2枚裏
761	586	元祐通寶	3-A区1層 (R0084層付近)	2.3	1.9	銅	1408	
732	587	寛永通寶	RD597 堀土	2.1	2.2	銅	1636~1639	古寛永小
733	588	寛永通寶	RD597 堀土	2.4	2.1	銅	1636~1639	古寛永小
736	589	寛永通寶	RD597 堀土	2.1	2.2	銅	1636~1639	古寛永小
735	590	寛永通寶	RD597 堀土	2.5	2.7	銅	1668~1683	文銭
734	591	不明	RD597 堀土	-	-	銅		
705	592	寛永通寶	2号近巻管理土付付中	2.4	2.3	銅	1636~1639	古寛永小
742	593	寛永通寶	RE044 堀土	2.4	2.3	鉄小	不明	
711	594	不明	RE014 堀土	2.1	0.7	銅	不明	銅銭
751	595	寛永通寶	RG223 堀土	2.4	3.2	銅	1636~1639	古寛永小
756	596	寛永通寶	RG223 堀土	2.4	2.8	銅	1636~1639	古寛永小
755	597	寛永通寶	RG223 堀土	2.5	4.0	銅	不明	
733	598	寛永通寶	RG223 堀土	2.6	3.3	銅	1668~1683	文銭
754	599	不明	RG223 堀土	2.3	1.1	銅		
752	600	不明	RG223 堀土	2.4	2.6	銅		
757	601	寛永通寶	RZ004 堀土	2.5	3.2	銅	1689~1693	文銭
758	602	寛永通寶	RZ004 堀土	2.3	1.8	銅	不明	
704	603	寛永通寶	P448 堀土中	2.4	2.6	銅	1636~1639	古寛永小
705	604	寛永通寶	P448 堀土中	2.3	2.8	銅	1636~1639	古寛永小
762	605	寛永通寶	P1069	2.4	3.2	銅	1636~1639	古寛永小
718	606	寛永通寶	RA244 横溝西端	2.4	3.8	銅	1636~1639	古寛永小

採番	番号	種類	出 土 位 置	計測値 (cm)	重さ (g)	金属の種類	調査年代	その他
704	607	寛永通寶	3 A 墓層	2.4	1.7	銅	1606~1609	古寛永か
702	608	寛永通寶	水十	2.4	2.3	銅	1606~1609	
773	609	寛永通寶	3 B区 墓層	2.5	3.9	銅	1606~1609	古寛永か
705	610	寛永通寶	3 A区 墓層	2.2	1.2	銅	1767~1781	
706	611	寛永通寶	C区西水部跡付土	2.4	1.8	銅	不明	
707	612	不明	3 A区 墓層	2.2	1.0	銅	不明	
706	613	不明	3 A区 墓層	2.5	1.7	鉄	不明	
716	その他	不明	R G 2 0 3 ベルト内壁上・地上・穴とともに	-	-	銅	不明	銅片
717	その他	不明	R D 7 3 8 礎土	-	-	銅	不明	銅片
745	その他	不明	R G 2 0 3 埋土 ベルト内・穴・地上とともに出土	-	-	銅	不明	銅片

土製品観察表

採番	番号	種類/種類	出土位置	計測値 (cm)			重量	その他
				上端	下端	高さ		
510	611	十割結線草	R A 2 3 1 瓶土	3.8	4.1	1.8	27.1	
511	615	十割結線草	R A 2 3 3 瓶土	3.0	5.3	3.3	70.6	外底へラミダキ
512	616	十割結線草	R A 2 3 4 瓶土	3.9	5.4	3.1	80.2	
513	617	十割結線草	R A 2 3 5 瓶土	3.5	4.4	2.0	26.3	
516	618	十割結線草	R A 2 5 0 瓶土	-	4.9	(L3)	24.1	
517	619	十割結線草	R A 2 7 3 床面	2.7	4.7	3.6	51.8	瓶底へラミダキ
518	620	七割結線草	R A 2 7 3 床面	3.2	4.5	2.8	64.1	
519	621	十割結線草	R A 2 7 8 床面	2.5	4.7	2.5	46.0	
320	622	土製結線草	R A 3 3 5	3.4	3.4	2.2	64.7	R A 281
623	623	四口	R A 119 埋土					
386	624	四口・支脚?	R A 123 埋土				314.5	
385	625	四口・支脚?	R A 123 埋土				28.7	
328	626	上製勾玉	R D 3 9 9 埋土 L層					
625	628	十八形	3 C K 墓層				17.1	近差

台太郎 2 3 次かわらけ観察表

採番	番号	出土位置	種類	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴など	重量	写真
3	493	R Z 012 埋土	ロクロ製杉	140	7.2	4.4	酸化著しい、口内底丸味。	315	
2	484	R Z 012 埋土	ロクロ製杉	142	7.2	3.7	酸化著しい、口内底丸味。	315	
1	485	R Z 012 埋土	ロクロ製杉	95	6.8	2.1	内底は足込みからL層部へ傾斜中に立ち上がる	315	

台太郎 2 3 次石器類観察表

仮番	番号	原料	出土地点	計測値 (cm)			重量 (g)	特徴その他	石質 (産地)
				長さ	幅	厚さ			
60	629	礫石	R A201 Q2溝上 F	69	46	3.6	119.9		デイキイト (奥羽山地)
39	630		R A206採集 S-6	36.1	7.0	4.6	297.0		デイキイト (奥羽山地)
57	631	礫石?	R A206 9号上段	25.0	16.7	11.9	353.0		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
77	632	礫石	R A231 S-8	17.6	12.4	8.0	225.0		火山岩 (奥羽山地)
26	633	礫石	R A231 S 7	9.5	7.0	3.6	230.8		火山岩 (奥羽山地)
27	634	礫石	R A239	5.0	6.1	3.2	100.0		デイキイト (奥羽山地)
29	635	礫石?	R A273F産	10.9	5.8	6.0	536.7		火山岩 (奥羽山地)
30	636	礫石?	R A275産土	17.4	5.4	1.6	485.2	磨蝕、付着物あり	礫岩 (盛岡近郊)
49	637	礫石	R A283 S-2	16.0	12.3	6.1	922.0		雲仙岩質砂岩 (奥羽山地)
61	638	礫石	R A283 Q4概土上	13.6	5.2	3.5	165.0		礫灰岩 (盛岡近郊)
31	639	礫石	R A285 S-8	13.2	9.0	6.0	990.0		礫灰岩 (盛岡近郊)
68	640	礫石	R A285 概土上	15.7	13.6	8.8	2330.0		火山岩 (奥羽山地)
46	641	礫石?	R A286 9号F産	5.7	4.7	4.3	122.0		火山岩 (奥羽山地)
62	642	礫石?	R A287	6.6	2.9	6.5	141.0		デイキイト (奥羽山地)
33	643	礫石	R A291採集	11.0	8.0	6.3	693.0		礫灰岩 (盛岡近郊)
44	644	礫石	R A291 Q2概土上	9.9	6.5	3.2	391.6		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
128	645	礫石?	R A236概土上	4.4	3.6	3.1	38.2	自然石か?	火山岩 (奥羽山地)
73	646	礫石?	R D300概土上	6.2	2.5	3.0	22.9	礫岩	頁岩 (盛岡近郊)
345	647		R D449-442	4.0	3.2	1.0	36.7		
76	648	石皿?	R D482概土上	11.9	9.3	9.5	1608.0		火山岩 (奥羽山地)
31	649	礫石	R D957	9.1	6.9	1.0	110.0		火山岩 (奥羽山地)
32	650	礫石	R D737産	16.1	14.0	8.6	2132.0		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
33	651	礫石	R D789 Q2概土上	14.7	10.3	8.2	1218.0		火山岩 (奥羽山地)
136	652	割片	R F027産	2.5	2.2	0.8	4.2		頁岩 (盛岡近郊)
22	653	石片?	R E044概土上	19.3	11.4	4.6	1382.0		はんらい岩 (盛岡近郊)
23	654	礫石・礫石	R E044概土上	10.2	5.7	4.0	291.0		頁岩 (盛岡近郊)
137	655	礫石	R E046概土上	3.0	3.3	2.0	21.0	石質に注意して保存した	めらう (不詳?) (盛岡近郊)
71	656	石皿	R G084ベクト内	19.0	16.0	8.8	2031.0		火山岩 (奥羽山地)
30	657	R, F.	R G073	5.6	4.2	0.8	17.9		頁岩 (盛岡近郊)
38	658	L, F.	R G073概土上	8.4	4.4	1.4	90.6		頁岩 (盛岡近郊)
63	659	R, F.	R G073	2.6	3.1	0.7	13.7		頁岩 (盛岡近郊)
39	660	L, F.	R G073概土上	3.5	3.8	1.0	7.2		頁岩 (盛岡近郊)
13	661	石皿?	R G186概土上	14.1	8.9	8.5	1733.0		火山岩 (奥羽山地)
585	662		R G198概土上	10.6	8.9	8.7	272.9		
16	663	礫石?	R G198概土上	16.0	8.2	7.5	273.0		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
19	664	石皿	R G198概土上	13.4	14.1	8.2	839.0		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
74	665	石皿	R G199ベクト内概土上	1.8	0.9	0.4	0.6		頁岩 (盛岡近郊)
29	666	石皿	R G236概土上	24.4	16.7	9.1	2126.0		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
588	667	砥	7号F産	9.7	9.8	6.4	130.0		
126	668	石皿?	R I006概土上	11.4	7.3	9.7	370.0		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
78	669	礫石・礫石	R I006概土上~中	11.7	10.0	4.6	386.0		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
75	670	礫石?	R I006概土上	15.7	14.1	9.7	2296.0		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
80	671	石皿	R I006概土上	20.1	13.7	9.9	1301.9		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
68	672	礫石?	R Z012 S-23	18.0	13.4	9.2	2028.0	磨蝕	火山岩 (奥羽山地)
66	673	礫石	R Z012 S-19	7.9	4.9	3.0	136.0		火山岩 (奥羽山地)
70	674	石皿?	R Z012 S-18-21	20.3	14.7	9.4	225.0	磨蝕	火山岩 (奥羽山地)
66	675	自然礫	R Z012 S-3	11.8	9.5	4.4	612.0	磨蝕、付着物あり	デイキイト (奥羽山地)
82	676	自然礫	R Z012 S-20	17.3	12.8	8.5	1810.0	磨蝕、付着物あり	デイキイト (奥羽山地)
67	677	礫石?	R Z012 S-22	14.2	7.7	8.3	1015.0	磨蝕	火山岩 (奥羽山地)
21	678	礫石	R Z014概土上	18.6	19.0	10.4	2741.0		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
1	679	礫石	R Z016 R Z016内礫石 S-13	17.9	9.5	5.1	1112.3		火山岩 (奥羽山地)
35	680	礫石	R Z016 R Z016内礫石 S-48	8.6	7.3	4.5	332.0		火山岩 (奥羽山地)
5	681	礫石	R Z016 R Z016内礫石 S-46	10.3	7.6	3.7	377.9		火山岩 (奥羽山地)
37	682	石皿	R Z016 R Z016内礫石 S-73	13.4	14.7	8.1	864.1		火山岩質砂岩 (奥羽山地)
7	683	礫石	R Z016 R Z016内礫石 S-27	12.5	8.3	1.6	659.6	付着物あり	火山岩 (奥羽山地)
14	684	礫石	R Z016 R Z016内礫石 S-57	15.4	11.1	7.8	1830.0	磨蝕	火山岩 (奥羽山地)
3	685	礫石	R Z016 R Z016内礫石 S-38	11.3	9.7	7.3	900.4		火山岩 (奥羽山地)
18	686	礫石	R Z016 R Z016内礫石 S-69	12.4	12.3	8.5	1523.0	磨蝕	火山岩 (奥羽山地)

採番	番号	器種	出土地点	計量値 (mm)			重量 (g)	特徴その他	石質 (産地)
				長さ	幅	厚さ			
2	687	磨石	R G 108・R Z 016内磨石 S-17	139	89	74	10172		安山岩 (奥羽山産)
6	688	磨石	R G 108・R Z 016内磨石 S-21	155	143	104	18706	彫刻	アイサイト (奥羽山産)
9	689	磨石	R G 108・R Z 016内磨石 S-53	109	98	73	8714		安山岩 (奥羽山産)
161	690	磨石	R G 108・R Z 016内磨石 S-60	127	133	89	13860		安山岩 (奥羽山産)
10	691	石皿	R C 108・R Z 016内磨石 S-67	218	129	136	34280		安山岩貫通層 (奥羽山産)
81	692	自然磨	R G 108・R Z 016内磨石 S-75	136	67	46	30330	被蒸・付着物あり	アイサイト (奥羽山産)
17	693	石皿?	R C 108・R Z 016内磨石 S-68	227	153	91	32890	付着物あり	安山岩 (奥羽山産)
8	694	磨石?	R G 108・R Z 016内磨石 S-89	142	99	66	6386	付着物あり	砂岩 (盛岡市五郎)
15	695	石皿?	R G 108・R Z 016内磨石 S-3	141	118	73	20050	被蒸	安山岩 (奥羽山産)
35	696	石皿	R G 108・R Z 016内磨石 S-14	167	98	82	8764		安山岩貫通層 (奥羽山産)
4	697	磨石	R C 108・R Z 016内磨石 S-41	123	46	31	2150		安山岩 (奥羽山産)
12	698	磨石?	R Z 018 S-3	137	44	33	2722	付着物あり	アイサイト (奥羽山産)
11	699	磨石?	R Z 018 S-2	160	54	34	5702		閃緑岩 (盛岡市五郎)
41	700	U. F.	P 343出土中	60	34	69	123		頁岩 (盛岡市五郎)
397	701		出土中	54	36	29	437		
47	702	磨石	P 306出土中	81	99	31	3279		安山岩貫通層 (奥羽山産)
38	703	石臼	P 602	199	111	112	12840		安山岩貫通層 (奥羽山産)
72	704	磨片	4 B 豆磨	105	88	30	2114		頁岩 (盛岡市五郎)
62	705	スタレイバー	1-C 豆磨	69	56	14	460		頁岩 (奥羽山産)
40	706	磨片	2-C 豆磨	18	21	97	18		基岩石 (産地不明)
95	707	磨石	2-C ネコ山	130	67	56	6790		アイサイト (奥羽山産)

V まとめ

23・26次の調査は台太郎遺跡の中央から南側半分を部分的に発掘したことによる。本遺跡の南側は調査の結果湿地となっていることが判明し、この湿地が遺跡としての南端部に相当することが明らかになったが、調査区の東西端は遺跡自体の東西端にそれぞれ約50m届かない。それでも広大な面積を対象とした調査であったため、遺跡南半部の様相はかなりの程度把握できると考える。ここでは代表的な遺構を中心に概説し、出土遺物の考察については26次調査の報告書に記載した。

遺 構

(1) 古代の遺構

[古墳時代末～奈良時代の堅穴住居跡]

今回の調査で検出された堅穴住居跡は23次が74棟、26次も74棟である。その時期は次のように分けられた。以下各時代毎にその特徴をまとめたい。

	古墳時代末～奈良時代	平安時代	中 世	不 明
23次調査	35	22	12	5
26次調査	34	34	4	2
合 計	69	56	16	7

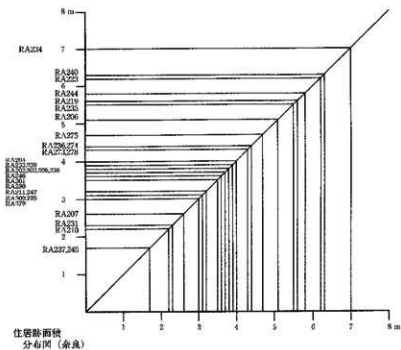
<占地>この時期の堅穴住居跡は大きく分けて遺跡西部と東部～南東部にかけて多く検出され、中央部及び南側中央部では分布が薄い。2～9棟の住居跡が一つのグループとなって分布しているように見え、そうした視点でみると7～8の小群が想定される。相互の重複は見られず隣り合う住居跡間の距離は最小で1.5m程である。このことや出土した土器の形態的特徴から何時期かの変遷が考えられる。

<平面形・規模>長辺と短辺の差があまりなく、ほぼ正方形を呈している。規模については各住居跡の床面積の分布を下表に示した。最大はR A441の57.2㎡、最小はR A414の4.9㎡である。30㎡を超える大型の住居と8㎡に満たない小型のもの、その中間の8㎡以上30㎡未満の住居に大別され、その中でも9㎡から20㎡規模の住居が最も多い。

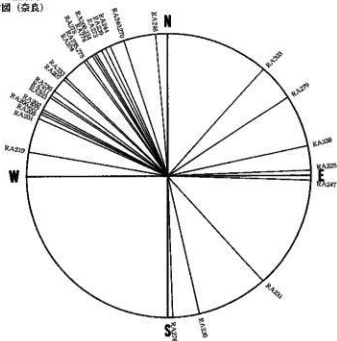
<軸方向>カマド煙道部の向きと、座標軸との角度を軸方向としている。その殆どが北西を向いており、住居を構築する際に、この方向が意識されていたようである。その一方で南東に向くものが4棟、北東に向くものが4棟みられるが、バラツキが著しく例外的な存在と思われる。当初はこうした軸方向が時期的な違いを反映しているとも考えたが、出土遺物にはそういった傾向を読み取ることはできなかった。

<柱穴>確実な柱穴が検出された住居を見ると4本の柱が方形若しくは長方形に近い配列を呈する他に、不規則な場所からも柱穴が検出される例が多かった。不規則な配置をする柱穴は天井を支えること以外の機能を有していた可能性がある。

床面からも、貼床を除去してからも柱穴が全く検出されない住居も数多く存在する（R A205・207・208・209・225・231・233・402・414・448・449・458など）。とくに小型の住居に多く見られるようである。



住居跡の軸方向
分布図 (奈良)



第367図 住居跡床面積・軸方向分布図(1)

柱穴を掘らず床面に柱を据えただけとも考えられるが何れにせよ屋根を支えるために少なくとも2つの工法が用いられていたと推定される。

<カマド>基本的には北西壁の中央部に設置されている。例外的なものとしてR A230では南東壁の南西側に、R A231は南東壁の北東側に作られている。R A234では作り替えが行われている。カマド本体は住居を構築する際に、カマドとなる部分を掘り残して作るものと、袖部に長さ30cm前後の河原石を2~4個立てたり土師器甕の破片を用い、これを黄褐色土で覆って作られているものがある。殆どの場合天井部は残存しないが、R A235・442では天井部がその場で潰れたような状況で検出された。天井が残存していた住居跡はR A223・241である。

煙道の形態は、上部を削平され判然としないものが多いが、削り貫き式(トンネル)式の構造をもつものが主体であったと思われる。煙出し部に向かって緩やかに降下するように掘られており、煙出し部の底面は更に10~20cm深く掘り込まれているものもある。

<その他>R A234では北東壁と南東壁にそれぞれ一つずつ不整形な掘り込みが認められた。一見土坑が重複しているようにも見えるが、このR A234は焼失住居で焼土・炭粒の広がりがこの遺構にも同じように認められたため、住居に伴った施設であると解釈した。住居の壁とこれらの掘り込みの軸線とは方向が異なるため現時点では入り口とは考えておらず、性格不明としている。

R A447では床面のほぼ中央を隅丸長方形に掘り込んでいる(R E050)。床下収納的な施設と思われ、この掘り込みの南壁には階段状の施設もみられた。斯波郡では稲村遺跡にも類例がある。

<時期的変遷>この時期の住居跡から出土した土師器について、従来の土器編年を参考にしつつ形態分類を試みた。その結果大きくⅠ~Ⅳ群に分けられ、これが即ち時期差を反映していると考えられる。そこで4つの群をそのままⅠ~Ⅳ期と呼び名を変え、それぞれの時期をⅠ期(7世紀代、その中でも後半が中心か)、Ⅱ期(8世紀初頭~中葉)、Ⅲ期(8世紀後葉)、Ⅳ期(8世紀末葉頃)と位置付け、該当する住居跡の分布を見たい。その際に以前実施された15・18次調査の成果も含めて見てみたい(付図)。主に遺跡北半部と南西部の広大な範囲を対象とした15・18次調査を加えることで遺跡のほぼ全域を網羅することになり、遺跡全体の集落変遷を概観する事が可能である。

この白太郎遺跡に集落が営まれる最初の段階に相当するⅠ期は、遺跡の南側と南西側を除いた地域に点在して現れる。それらの住居跡は中規模及び小規模なものを主体とし、最も大きな竪穴住居跡はR A155竪穴住居跡(18次調査で検出)が1棟のみで、遺跡の中央部やや北東側に位置し、規模は9.0×8.3mある。各住居跡間の距離も50~80m程とやや離れて立地し、寄り添って建っているものはない。最も大きなR A155竪穴住居跡がこの時期の住居跡の中心に位置しているわけではないが、須恵器の提瓶を伴っていることから有力者の住居と理解して大過無いであろう。次のⅡ期にはⅠ期の住居の傍やその周辺に展開していくように見られ、規模の大きな住居跡も複数出現する。本遺跡における古墳時代末から奈良時代の住居跡は決して重複することはないためⅢ期・Ⅳ期の住居跡もなるべく近くで空いている場所に建てられていくようである。また、基本的に孤立して立地している住居跡は少なく、これは例外的な存在なのであろう。

15・18・23・26次調査で検出された古墳時代末から奈良時代にかけての住居跡は7世紀代(その中でも後半が中心か)の住居跡を起点とし、そこから集落が形作られていくような分布を示す。大きく見れば遺跡の北側と東側、西側の集落に分けられ、それらはさらに各期2~5棟程の住居跡からなる4~6の小群によって形成され変遷すると推察される。

[新波地域の遺跡分布]

あくまで位置関係で見ると、7～8世紀代の遺跡としては盛岡市百目木遺跡・西鹿渡遺跡の近くに大道西古墳群、矢巾町高田館遺跡・館畑遺跡・徳丹城跡の近くに藤沢えぞ森古墳群・白沢えぞ森古墳群がある。その一方、台太郎遺跡他隣接する該期の遺跡群（野古A・熊堂B遺跡など）の近くでは飯岡沢田遺跡から多数の円形周溝が検出された他、飯岡才川遺跡も近く、大いに関係があると思われる。台太郎遺跡の西方には太田蝦夷森古墳群が知られるが、この古墳群の近くにはある程度の規模を持つ集落の調査事例は今のところない。

[平安時代の竪穴住居跡]

<占地>検出された56棟は全て遺跡の西端に近い地点（3-D区周辺）及びその南側（4-C～5-B区）から密集して検出されている。この地区は他の調査区よりも標高にして1m弱だが高い面である。なお、この時期の住居跡は遺跡南半部に於いては中央より南側及び東側には殆ど展開しないと見た傾向がみられる。相互の重複も何例か認められ、この場所にこだわって暮らしていたという印象を持つ。

<平面形・規模>ほぼ正方形を呈しており、長辺と短辺の差があまりない。規模については各住居跡の床面積の分布を下表に示した。最大はR A430の50.0㎡、最小はR A422の4.7㎡である。35㎡を超える大型の住居と10㎡に満たない小型のもの、その中間の10㎡以上35㎡未満の住居に大別される。時期的な変遷を度外視してみれば大型の住居1棟に対し中・小型の住居が各2棟前後で構成されていたように分布している。

<軸方向>カマド煙道部の向きと、座標軸との角度を軸方向としている。北西を向いているもの、北東を向くもの、南東壁に設置されているものにと人別される。当初はこうした軸方向が時期的な違いを反映しているとも考えたが、住居間の重複のため出土遺物も互いに混じった可能性があり、そういった傾向を把握することができなかった。

<柱穴>確実な柱穴が検出されなかった住居跡は14棟あり、小型の住居跡に多い傾向がある。その他の住居跡からは床面若しくは貼床を下げた段階で複数の柱穴を検出した。R A282・297では柱穴は壁に接する4隅から検出されているが、その他の住居跡では配置が乱れておりどれが主柱穴なのか判別できないものが多い。この中には時代の違う柱穴が含まれているが区別はできなかった。

<カマド>基本的には壁の中央部に設置されているが、そうでない住居跡も多く見られる。R A291では6基作り替えが行われているし、R A403・415・430など大型の住居跡での作り替えが多いようである。カマド本体は住居を構築する際に、カマドとなる部分を掘り残して作るものと、袖部に長さ30cm前後の河原石を2～4個据え付けたり上部器臺の破片を用い、これを黄褐色土と黒褐色土の混合土で覆って作られているものがある。今回の23・26次調査では後者が多かった。殆どの場合天井部は残存せず天井石が確認できたものはない。

煙道の形態は、上部を削平され愕然としないものが多いが、朝り抜き式（トンネル）式の構造をもつものが主体であったと思われる。煙出し部に向かって緩やかに下るように掘られており、煙出し部の底面は更に10～20cm深く掘り込まれているものがある。煙出し部の埋土中には10～30cm程の河原石や須恵器臺の破片が多く含まれている場合もあり、これに関しては地表に組まれていたものが廃絶時に中へ落ちたと思われる。

<埋土>埋土中に白色の火山灰（T o o a）を含んでいたものはR A215・220・282・285・288・291・295・403・415・437・440がある。廃絶し埋まりかけた住居に直接降下しレンズ状に堆積したのではなく二次的な堆積と判断される。何れも十和田a火山灰の降下年代より新しい。

<時期変遷> 今回の23・26次調査に加え当センターで実施した15・18次調査に於いても9世紀初頭に位置付けられそうな遺物を有する住居跡は検出されていない。遺跡全域を調査したわけではないが広大な面積を調査し300棟以上の平安時代の住居跡を検出していることから8世紀末以降に一旦、集落の断絶が想定されそうである。出土した土師器・須恵器の特徴から9世紀後半-R A283・284・287・288・293、9世紀後半～10世紀前半-R A291、10世紀前半-290と想定されたが他の住居跡については出土遺物が少なく時期の特定を控えた。

[古代の掘立柱建物跡]

出土遺物は無いものの形態と周囲の遺構分布からR B029・040を平安時代の掘立柱建物跡と判断した。

<位置> 平安時代の住居跡が密に分布する遺跡西側と南西側から各1棟が検出された。R B029は、すぐ西側と南側が未調査区であるため、そちらに同様の遺構が展開している可能性がある。

<形態> 2間×2間で中央に2本ないし1本の柱を配す総柱の建物跡を想定している。円形の比較的大きな掘り方を持ち、R B029では何れからも柱痕が確認され、その柱痕は径20cm前後である。R B040では北側に入り口とみられる梯子の柱穴も確認された。

<柱間寸法> R B029では7.2尺から7.6尺が用いられているが、恐らく15尺四方の建物を意識して構築されているのだと思われる。R B040は6.0尺を基準としている。

<軸方向> 平安時代の住居跡と基本的に同じである。R B029の場合、北東方向であればR A220・283・295などが該当する。

(2) 中世の遺構について

今回の調査で中世に属する遺構は堅穴建物跡16棟、掘立柱建物跡9棟、墓塚366基、堅穴状遺構6棟、焼土・か跡32基、堀跡3条、井戸跡4～5基、性格不明遺構5～7基である。時期を特定できなかった遺構の中にも中世に属するものが多々あると思われる。

先述したように23・26次の調査は台太郎遺跡の中央から南側半分を部分的に発掘したことになる。本遺跡の南端は調査の結果湿地となっていることが明らかとなり、調査区の東西端は遺跡自体の東西端にそれぞれ約50m届かない。ただし広大な面積を対象とした調査であったため、遺跡南半部の様相は概観できると考える。

[各遺構の相互関係]

<堀に囲まれた施設>

本遺跡の南端中央部、グリッドでいうなら4A区に諏訪神社の小さな社がある。(時期ははっきりしないが隣接する家で個人的に祀ったものようである。それが今ではこの地区の社となり、お盆には神楽を催されたりしている) この諏訪神社の周辺を発掘したところ、あたかも神社を取り囲むかのように堀跡R G083・084が検出された。遺跡の南端に広がる湿地からコの字形に堀を巡らせており、自然地形を生かしつつ堀で区画された空間を作りだしていた。2条の堀には時期差が存在すると考えられR G083よりR G084が新しい。基本的に湿地の広がる南側からは人の出入りはないと思われ、仮にこの湿地に面した南西側を裏手と見れば、正面は反対の北東側ということになる。この北東側を走る堀のほぼ中央部だけ未調査区域として残っているが、この部分が堀に囲まれた空間への入り口(橋)の可能性がある。因みにこの未調査区域は現在も諏訪神社に通じる小さな道路となっている。

堀に囲まれた内部からはR B022が検出された。その殆どが現在諏訪神社の建っている未調査区に延びているため詳細は不明であるが、建物の南西隅を調査したといえそうである。堀の内部に位置していること、2条の堀との位置関係、建物の軸方向は堀の走る方向とほぼ同じであることなどから、堀R G084と同時に存在の遺構と考えたい。

堀の深さは現地表面からでも1.2～1 m程と浅い。堀内部も約1000～1500㎡しかなく方形居館とは考え難い。現時点では堀には俗世と堀内部との境界という意味を持ち堀内部に建てられたR B022は外界から区画された御堂のような性格を想定している。

<共同墓地>

前述した堀に囲まれた施設から東側約50mのところ（調査区でいうと3 B・4 B区を中心とした地点）から多数の墓塚が検出された。この地域の現況は休耕田で石塔や墳丘といった痕跡が一切残っていない。平面形は方形或いは長方形を呈する土壌墓が主体を占める他、火葬墓も3基検出されている。埋土は何れも人為堆積で、銭貨を伴っているものもある（R D298）。366基もの墓塚は3 B区を中心に密集して検出され、互いに激しく重複していた。長軸方向も概ね南北方向か東西のどちらかを向くものが殆どで、埋葬する際には方位を意識していたと推測される。上記のことから、この場所を墓地として利用していたと思われる。墓地の範囲は当初、西側は堀R G083・084のあたり、東側はR G203まで、南側はR A241・243・248・249などが並んで検出されるどころ、北側はR Z001の南側約5 mに見られる柱穴群、これらに囲まれた内側であったと思われる。それが次第に飽和状態となっていくR G203の東側やR A241・243・248・249の南側といった周辺にも展開していくのか或いはまた、R G203を境界としてその東西に墓地が分かれて使われていた可能性が推測される。但し共に考古学的根拠は乏しい。検出された墓塚の数は埋葬された人が多かったこと、長い期間にわたって墓地として利用されていたことを反映するものと思われる。また墓塚には殆ど遺物が副葬されていない。銭を伴っていたものが3例あるだけで、陶磁器類も墓塚群の近辺及び堀土に混入したような出土状況を早する。こうしたことから、複数集落の一般庶民が利用していた墓地であったと解釈したい。時期については墓塚から出土した銭貨は北宋銭が多く中世後半の明銭は出土していないこと、墓塚近辺から出土した陶磁器の年代観から13世紀後半～15世紀代と広く捉え、その中でも14・15世紀が中心と考えたい。

<建物跡ほか>

墓塚群のすぐ南側と東側からは合わせて12棟の堅穴建物跡が検出されている。分布を細かく見ると大きくは3地点にわかれ2～5棟の小群をなしている。相互に重複もしていることなどからほぼ同じところで作り替えが行われ、一時期3～4棟程度で構成されていたと推測される。

墓塚群より南側・南東側からは堅穴建物跡の他に、炉跡や性格不明遺構などが検出されており、更に南側は湿地となって遺構は見られなくなる。R Z012からはロクロかわらけが出土している。

R B026も墓塚群のすぐ南側にあって、R A241・243・248・249の並びに位置している。周囲には多数の柱穴が密に分布しており、建物跡がもっとあった可能性が高い。

本遺跡は奈良・平安時代の大集落でR Z018・027のような遺構を検出すると古代の円形周溝と考えたい。中世のある段階において円形に巡る溝の内側に御堂のような建物をもった遺構ではないかとも思ったが、柱穴の配置は規則性を見出せず、建物を推定できなかった。

このように墓塚群の南側及び南東側には中世のある段階には堅穴建物跡や掘立柱建物跡、炉跡、井戸跡などが存在し人が住んでいた可能性がある。

墓塚群から東へ約120mとやや離れたところ（調査区でいうと4 F区を中心とした地点）にも柱穴群や土

坑が検出された(451青磁碗が出土)。その分布はすぐ西側の未調査区域に広がっていくと推測される。

同じく墓塚群から北東へ150m程離れたところ(調査区でいうと2E区を中心とした地点)からはR B027が検出されている。本遺跡の15次調査ではこのR B027の北側約50mの地点に於いてR B002・003・004を検出している。棟方向は概ね直交するようで両遺構の間に残る未調査区域にも同様の遺構が点在していると思われる。

26次調査では遺跡南西部にあたる5-Bグリッドを中心とした地区から、中世の遺構群が確認された。規模の大きな掘立柱建物跡R B035・037・038・039とそれに付属する小型の掘立柱建物跡R B036・041がある。プラン的には重複する建物もあることから最低2期以上の変遷が想定できるが、建物に使った柱穴が重複しているわけではないので具体的に示すことは困難である。恐らくこれらにR I012井戸跡が伴う他、何らかの宗教的施設と考えられるR Z027が建物群のすぐ西側から検出されている。何れの遺構からも遺物は出土せず時期を特定できないものの、遺構の規模から推測して地元有力者の屋敷跡と思われる。ほぼ全域を調査したことになると考えているが、未調査区域である西側にも遺構群は展開するかもしれない。

<環 濠>

R G264堀跡は本遺跡のほぼ中央2A-1C区にて検出された。途中未調査部分もあるが西南西-東北東方向へほぼ直線的に98m程検出され両端は更に調査区外に延びている。遺構の時期を特定できるような遺物の出土はなかったが本遺跡の第15次・18次等では中世の環濠と見られるR G042に囲まれた集落が検出されており、本堀跡はこの環濠南辺の外側(南側)約20mに位置し、並行して走っている。このことからR G264もR G042と同様に環濠で同時存在或いは作り替えられたと考えられる。つまりは環濠R G042の南側にもう一条本堀跡R G264が通っていたか、或いは環濠の拡張・縮小によるもの等が考えられる。

<地籍図から>

本遺跡の位置する盛岡市向中野地域の地籍図(第369図)と検出された遺構とを見比べてみたい。地籍図は明治12年から22年頃のものと思われるが宅地、耕作地、道路、水路などは基本的に現在と変わっていないことが見て取れる。

現在、諏訪神社の小さな社の建っているのは向中野村字向中野の二十五番・二十六番のあたりになるはずだがこの地籍図には田畑としか記載されていない。この神社を取り囲むように検出されたR G083・084堀跡は字向中野の二十二番(田)、二十三番、二十四番(畑)、二十五番(田)、二十六番(畑)、二十七番(田)に位置し、この部分だけが他と異なり細かく地割されている。中世の墓塚群は三四ノ五の北側に相当しこの時点で既に今と同じ水田となっている。環濠の一部と思われるR G264は十九番(田)と十五番(宅地)の共に北端部と道路との境部分にて検出されたことになる。本遺跡の南端部は湿地であることが確認されたが、この地籍図では二十八番、二十九番、三十四番ノ三、三十四番ノ四などになり、当時も水田として利用されていたことがわかる。

中世の遺物が少ない上に遺構に伴っているものが少ないため具体的な年代観を示せないが、今回の調査で検出された当該期の遺構の位置関係と変遷を推定してみた。北半部の様相は他の報告書の発行を待ちたい。

[中世の墓塚について]

本遺跡南側の中央部から南端にかけて、今回の調査区で言えば3B・4B区にあたる地点を中心に330基の墓塚が検出された(第16図・写真図版101)。本遺跡の中央部南端には湿地が広がっており、この湿地のすぐ北側に多数の墓塚が密集する場所(3B・4B区)がある。出土遺物、密集して分布する状況と互いに激しく重複するさまからこの地が中世の墓域であったことが明らかとなった。今回の調査は広い範囲を対象と

していたため結果、墓域のほぼ全域を発掘することとなり、東西及び南北側への墓域群の展開は殆ど把握できたことになる。北側に未調査区域が残っているが墓域はそれほど分布しないと思われ、むしろここには建物跡や田畠が展開するのではないかという印象を持つ。

検出された中世の墓域は十坑墓と火葬墓（茶屋施設の可能性もある）で、9割以上が土坑墓である。静岡県一の谷中世墳墓群では888基の墓が検出されている。墓の種類も墳墓、「コ」の字形区画墓、土坑墓、集石墓などがあり、その種類・葬法は中世における墓制の大半が営まれていたといっても過言ではない遺跡である。この遺跡では集石墓が約半数にあたる429基検出されており、集石墓こそ中世における基本的な墓制であったと位置付けている。台太郎遺跡では明らかに集石墓と認定できる遺構は検出されておらず、今後未調査区を調査したとしても集石墓はないであろう。耕作地として近年利用されていたために墓の上部構造について何一つ成果を挙げることができないが、本遺跡では集石墓、「コ」の字形区画墓といった墓制の営まれた形跡は認められなようである。

<墓域の分類>

これらの墓域を規模、形状から次のように分類してみた。（分類は全体規模を把握できる土坑墓を中心とし、各分類は観察表にも記載した）はじめに墓域検出面での規模（面積：㎡）をもとに以下のように大別した。

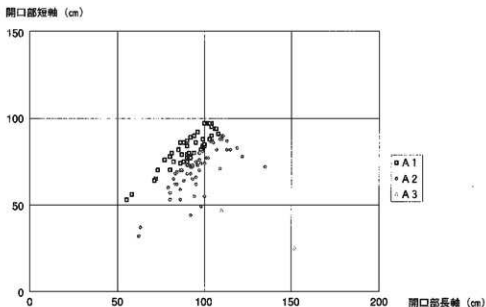
A類…小型のもの（規模が1㎡未満の墓域）

B類…中型のもの（規模が1～2.5㎡の墓域）

C類…大型のもの（規模が2.5㎡以上の墓域）

これらを更に形態により次のように細分した。

中世墓域計測値（小型）



- 1類…方形（円形や不整形を一部含む。長軸／短軸が1.0～1.2未満）
 2類…長方形（楕円形や不整形を一部含む。長軸／短軸1.2～2.2）
 3類…短軸に対し長軸の割合の大きい長方形（長軸／短軸2.2～）

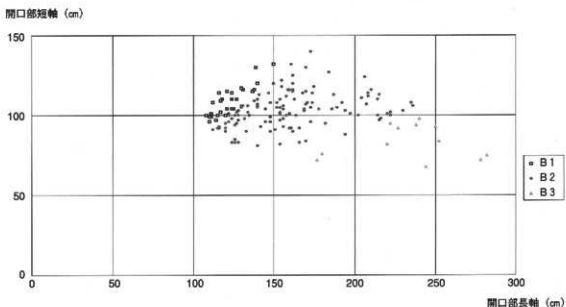
A類…小型の墓塚であるため、重複により分類不能になったり、失われたりしているものもあると思われる。A 1類は基本的に隅丸方形プランが主体である。円形プランのR D713は火葬墓であった。今回の調査で検出された中世の火葬墓は何れもA類に分類された。A 1類（方形基調）とA 2類（長方形基調）の数はややA 2類が多い程度である。これはB 2類がB 1類より圧倒的に多いこと、C類でもそうした傾向が見られることは若干異なった特徴といえる。

B類…中型の墓塚と分類した本類の中でもB 2類（長方形基調）のものが、分類可能な墓塚全体の約半数を占めている。B 2類と次に数の多いA 2類とが本遺跡で検出された中世墓の最も代表的な形状といえ、規格性も強い。他の事例を見てもこうした形状の墓塚が一般的であるといえる。

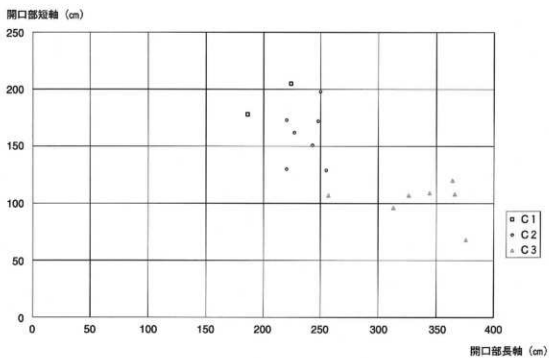
C類…A・B類に比べて検出数が少なく本遺跡では例外的な存在である。C 1類・C 2類などは基本的にB 1類・B 2類をひとまわり大きくした形状である。単純に一人を埋葬するのに墓塚1基とするならばC類はやや大きな墓塚といえる。

A 3・B 3・C 3類…短軸に比べて長軸が極端に長いという特徴をもつ墓塚は、本遺跡の中でも21基検出されている。形状は隅丸の長方形或いは長軸の細長い楕円形が主体である。検出面は他の墓塚と同一であるのに極端に掘り込みが浅い。掘り込みの浅い墓塚は他にも見られるが、本類の墓塚は一様に浅く30cm以下のもので占められ、中にはR D303・304のように10cmに満たないものも目立つ。このような墓塚は仙台市柳生台知遺跡や栃木県の田間東道北遺跡や横倉宮ノ内遺跡などで検出されたものに類似しているが、本遺跡のものより掘り込みの深い事例もあるようである。

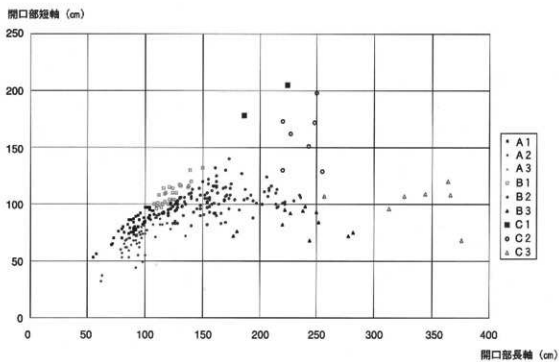
中世墓塚計測値（中型）



中世墓竈計測値 (大型)



墓竈計測値



墓塚の形態や規模の違いが埋葬のされかた及び埋葬された人の体格などによって変化するのであれば、形態の違いは埋葬方法に、大きさは被葬者に関連があるのであろうか。そうするとA3・B3・C3類といった短軸に比べて長軸が極めて長いという特徴をもつ墓塚は、基本的に遺体の足を延ばしてそのまま寝かせたものと考えられ、掘り込みが浅いのもそのためであろうと推察される。

<方向性>

墓塚の長軸方向で計測した方向は第371・372図に示した。概ね南北あるいは東西南北を向いているものが主体を占めており、それから外れるものは例外的である。方向についてより具体的に見ると、厳密に南-北あるいは東-西方向を指すのではない。南-北方向でいうなら東西に20°程幅をもった中に人る感じで、東-西方向も同様である。南北と東西方向のものはほぼ同じ割合のようで、分布にも傾向を見出せない。ただA3・B3・C3類（長軸が極めて長い墓塚）などは南北方向を向くものがやや多い傾向がある。墓塚の方向性については墓域内を南北に走るRG203溝跡や墓域のすぐ西側で検出された「コ」字状に廻る中世の堀（RG083・084）の軸線と共通する印象を持つ。それに隣接する竪穴建物跡の長軸方向も同様である。何れにせよ墓塚を造るに際しては方位を意識していたとみられるが、それは厳密な東西南北ではなく当時の地形やこの地の景観にも影響された感覚的な方位であったと思われる。

<時期>

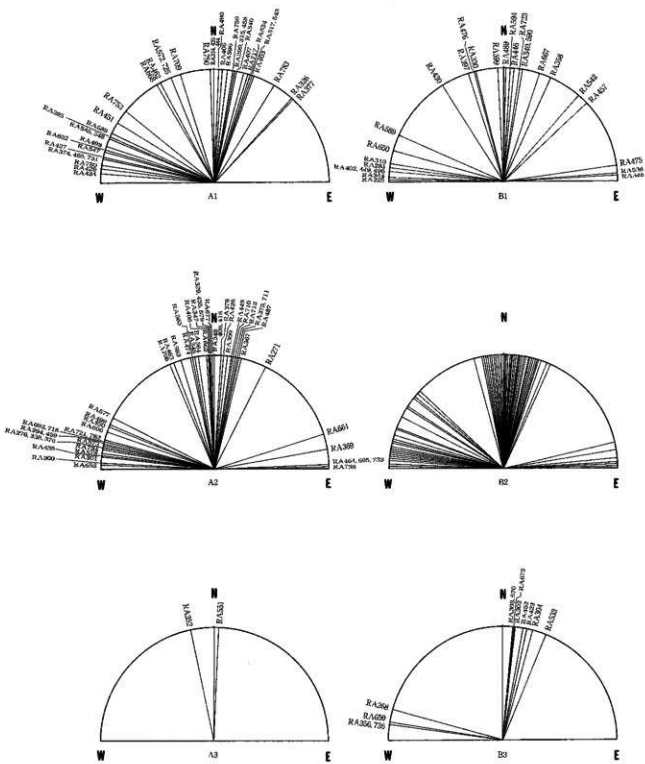
これらの墓塚の時期を判断する遺物、とくに陶磁器類の出土は皆無といって良い状況である。但し出土した錢貨をみると「永樂通寶」など一般に15世紀以降に多く流通する明錢を伴った墓塚はみられなかった。墓塚群が密に分布する3B・4B区で出土した陶磁器類は主に13世紀後半から15世紀代のもので片められ、染付は出土していない。こうしたことと、墓塚の数や濃く重複する様相から土坑墓群は年代幅を持たせて14・15世紀を中心とし、13世紀後半から15世紀代にかけて営まれ続けたものと解釈したい。

<墓塚の性格>

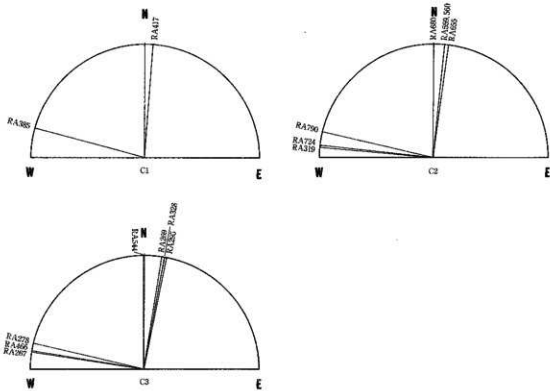
先にも触れたが、検出された墓塚からの副産品の出土は基本的に皆無といって良く、数基において北宋錢の出土が認められたに過ぎず甚だ寂しい状況であった。埋葬形態をみると、基本的に掘り下げた墓の中に遺体をそのまま埋葬していたようで、墓塚底面に何か敷いていたとか、棺に納められていたような状況を示すものは確認できなかった。こうしたことから、ここでの被葬者は一般の庶民で、近隣の村落で使われた共同墓地的性格のもとして大過ないであろう。

墓塚の形態分類、方向性、重複関係等を整理することで墓域内での変遷や同族単位的なものを示せないかと取り組んでみたが、上手く行かず、これといった特徴を見出すことはできなかった。

岩手県内で中世のものとする墓塚の検出は紫波町墳館跡・柳田館跡、金ヶ崎町柏山館跡・館山遺跡、大東町伊勢館跡、一戸町一戸城跡・姉帯城跡、安代町水神遺跡など何例か認められるが、本遺跡のように数百基の墓がまとまって大規模な共同墓地を形成している事例は調査範囲の制約があるにしろほとんど無い。こうしたことから中世の共同墓地という性格を持つ本遺跡の例は珍しく、その上、周辺には竪穴建物跡や掘立柱建物跡、それに「コ」字状に廻らせる施設など、中世の遺構が多く検出されている。城館以外の調査が少ない本県にあって城館以外の中世景観を推測することのできる例として貴重な成果といえる。



第370図 中世墓壇の軸方向分布図(1)



第371図 中世墓壇の軸方向分布図(2)

引用・参考文献

- 井上喜久男 1992 「尾張陶磁」 ニュー・サイエンス社
- 宇部 則保 1989 「青森県における 7・8 世紀の土師器—馬淵川下流域を中心として」 北海道考古学第25
- 宇部 則保 2000 「古代東北地方北部の沈線文のある土師器」 考古学ジャーナル462
- 大橋 康二 1993 「肥前陶磁」考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社
- 草間 俊一 昭和40年 「岩手県福岡町 類野遺跡」福岡町教育委員会
- 工藤 雅樹 平成10年 「古代蝦夷の考古学」 吉川弘文館
- 笹生 衛 平成7年 「東国における中世墓地の諸相」研究紀要16 財団法人千葉県文化財センター
- 村田 晃・2000 「宮城県における 8 世紀前後の土器」第3回東北古代土器研究会(宮城大会)資料
- 一戸町教育委員会 1982 「一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅱ」一戸町文化財調査報告書第2集
- 一戸町教育委員会 1999 「肺帯城跡」一戸町文化財調査報告書第41集
- 磐田市教育委員会 1993 「一の谷中世墳墓群遺跡」本文編
- 岩手県教育委員会 1980 「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」岩手県文化財調査報告書第52集
- 岩手県教育委員会 1980 「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」岩手県文化財調査報告書第53集
- 岩手県文化財愛護協会 昭和49年 「内史略(1)~(4)」岩手史叢 第3巻
- (財)岩手県埋文センター 昭和52・53・54年度 「二戸バイパス関連 上田面・大瀧・火行塚遺跡」岩手県埋文センター文化財調査報告書第23集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 「船山遺跡第2次発掘調査報告書」岩手県埋文センター文化財調査報告書第65集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 「水神遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第96集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 「台太郎遺跡第15次調査発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第309集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 「台太郎遺跡第18次調査発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第369集
- 金ヶ崎町教育委員会 1990 「柏山館跡遺跡」金ヶ崎町文化財報告書第18集
- 古代城岡官衙遺跡検討会 1992 「古代新波郡と層纏体の土器様相」第18回古代城岡官衙遺跡検討会資料
- 古代城岡官衙遺跡検討会 1998 「東北地方の古代集落」第24回古代城岡官衙遺跡検討会資料
- 古代の土器研究会 4回シンポジウム 1996 「古代の土器研究—律令土器様式の西・東4 炊具—」古代の土器研究会
- 古代の土器研究会 5回シンポジウム 1997 「古代の土器研究—律令土器様式の西・東5 7世紀の土器—」古代の土器研究会
- (財)瀬戸市埋蔵文化財センター 2001 「戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃入窯製品」(財)瀬戸市埋蔵文化財センター設立10周年記念シンポジウム・講演会資料集
- 仙台市教育委員会 昭和57年 「梁遺跡」仙台市文化財調査報告書第43集
- 仙台市教育委員会 1998年 「柳生台遺跡」仙台市文化財調査報告書第230集
- 大東町教育委員会 1984 「伊勢館—昭和57年度伊勢館遺跡発掘調査報告書」大東町文化財調査報告書第8集
- 滝沢村教育委員会 昭和62年 「諸葛川遺跡」滝沢村文化財調査報告書第4集
- 滝沢村教育委員会 昭和62年 「高柳遺跡」岩手県滝沢村文化財調査報告書第7集
- 滝沢村教育委員会 平成元年 「高柳遺跡 壺小路遺跡」岩手県滝沢村文化財調査報告書第9集
- 東北中世考古学会 平成11年 「東北地方の中世出土貨幣」東北中世考古学会第5回研修集資料集
- 郡南村教育委員会 1979 「岩手県紫波郡南村 百目木遺跡発掘調査報告書」
- 郡南村教育委員会 1981 「西滝渡遺跡発掘調査報告書」
- 郡立学校遺跡調査会 1990 「白鷗」
- 南部農書刊行会 昭和二・四年 「南部農書」第2・5冊
- 日本考古学協会1997年度秋Ⅲ大会 「蝦夷・倭令国家・日本海」—シンポジウムⅡ—資料集—日本考古学協会1997年度秋Ⅲ大会実行委員会
- 日本貿易陶磁研究会 1998 「貿易陶磁研究 No1-5」六一書房
- 八戸市教育委員会 昭和63年 「田面水平遺跡(1)八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書V」八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集
- 八戸市教育委員会 平成元年 「八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書X 田面水平(1)遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第34集
- 八戸市教育委員会 平成2年 「丹後平古墳 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書XII 八戸市埋蔵文化財調査報告書第44集
- 八戸市教育委員会 平成7年 「丹後平(1)遺跡 丹後平古墳 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書」八戸市埋蔵文化財調査報告書第66集
- 盛岡市 平成2年 「もりおかの地名」
- 盛岡市 昭和54年 「盛岡市史 近世期上」復刻版第二巻
- 盛岡市教育委員会 1981 「志波城跡Ⅰ 太田方八丁遺跡範囲確認調査報告」
- 盛岡市教育委員会 2000 「竹鼻遺跡」[盛岡市内遺跡群]—盛岡市教育委員会—
- 昭和36・38年 「岩手史叢 第三巻 中世篇下」・「岩手史叢 第五巻 近世篇2」

VI 鑑定・分析

盛岡市 ^{たいとうろう} 台太郎遺跡 (23次調査) から出土した植物種子

宮崎昌一・橋坂恭代

1. 遺跡と調査の概要

遺跡名	: ^{たいとうろう} 台太郎遺跡
所在地	: 岩手県盛岡市向中野字向中野16-15他
調査期間	: 平成11年4月16日～11月15日
発掘調査面積	: 27,800m ²
調査主体	: 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
調査担当者	: 杉沢昭太郎ほか
遺跡の立地	: 東日本旅客鉄道東北本線仙北町駅の南西約900mに位置し、平石川南岸の河岸段丘に立地している。標高は120.28～122.12m、北緯39度8分付近に当たる。
検出遺構	: 竪穴住居跡 (奈良時代・平安時代・中世) 孤立柱建物跡 (平安時代・中世・近世)、竪穴状遺構 (奈良時代以降)、土坑、炉跡、堀跡、円形溝溝、井戸跡、柱穴状土坑など。
遺構の年代	: 扱った資料は中世と考えられる

2. 扱った資料

分析資料として扱った植物種子は、北宋銭の共件からみて中世 (13世紀後半～15世紀ころ) の墓坑と考えられている。この墓坑の埋土下部の土壌を採取し、その土壌を水で溶き浮遊した遺物をガーゼですくい取った資料で送付されてきた。これらを実体顕微鏡を用いて分類と撮影を実施した。種子の検出された遺構と層率については、文末の表に示しておく。

3. 中世の墓坑から検出された種子について

イネ *Oryza sativa* L. (図版1-1)

すべて籾殻で検出されている。資料は酸化²⁰した状態で、その大半は破損していた。それらの中に芒の短い資料を観察されることから、出土した籾殻はおそらく短芒であると考えられる。図示した資料の計測値は長さ7.3mm、幅3.7mm。

アワ *Setaria italica* (L.) P. Beauv (図版1-2a, 2b)

穎果 (内・外穎が伴う) の状態で検出されている。資料は酸化しておりすべて破損していた。内・外穎の表面の各細胞の一端に乳頭状の組織が観察される。この組織は、エノコログサ *Setaria viridis* P. Beauv.、キンエノコロ *Setaria glauca* Beauv.などが同一の構造を持つので、それだけでは分類が困難である。しかし、形態などの観察からはアワ *Setaria italica* (L.) P. Beauv.に分類されたと考える。図示した資料の計測値は長さ1.95mm、幅1.1mm。

ヒエ属 *Echinochloa* Beauv. (図版1-3a,3b)

穎果(内・外穎が伴う)が1粒出土している。酸化した状態で保存は悪い。内・外穎の表面にはヒエ属特有の「長細胞」が観察された。しかし、イヌビエなどは同一の組織を持つため栽培種、野生種の分類は困難である。資料は破損のため計測できなかったが穎果の形態・胴部のふくらみ、大きさから栽培型のヒエと考える。

キイチゴ属 (図版1-4)

酸化した状態で1粒出土している。種子は扁卵形。種皮の全面に大きな網状の模様がある。キイチゴ属種子の仲間には形態の類似したものが多く、種までの分類はできなかった。図示した資料の計測値は長さ2.0mm、幅1.1mm、厚さ1.0mm。

コメント

今回扱った資料は、これまで調べた他の遺跡出土の植物種子に比べて保存状態が異なっている。検出されたそれぞれの種子は、全て殻穎、内外穎が残存するだけで、内部の胚乳部分がそっくり消失している。こうした現象は、旧幕墾のくぼみが脱穀後の残廃の投棄場所に利用されたのか、意図的にこうした残廃を上層を埋める土壌に混じる習慣があったのか、あるいは胚乳だけがバクテリアの作用で消失してしまったのかなどの視点で、資料の詳細な検出状況についての考古学的に検証する必要があると考える。

(註)

1) 酸化状態で出土する種子

発掘で得られる種子の中には、褐色あるいは褐黄色の酸化状態を示すものが多数ある。特に水漬きや泥炭の層準から検出されるものの中には、葉緑素を残すものの短時間で黒変する状態のものがよく見られる。これらの資料は、加熱による炭化と言うより、むしろ未炭化あるいは酸化状態にあるものというべきであろう。通常、栽培植物種子は炭化した状態の出土を示すものが多いが、そのあり方は当該植物の利用方法の差にも関係するらしい。例えば、遺跡からよく検出されるニワトコの種子は、炭化せずに酸化状態で検出されることが多い。

こうした同層準から見いだされる酸化状態のものが、後世の混入でないかどうかを確認するべく、札幌市埋蔵文化財センターが炭化・酸化両タイプの植物標本の年代測定を行ったことがある(吉崎・楳坂1998)。得られた数値はほぼ同一であった。したがって、種子の性質によっては炭化の過程を経ないで残存するものもあることが確かである。

【引用文献】

吉崎昌一・楳坂恭代

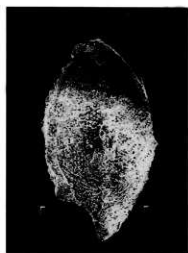
1998：札幌市N30遺跡から検出された植物種子「N30遺跡」札幌市文化財調査報告書58

本文編164-172、図版編225-227、札幌市教育委員会

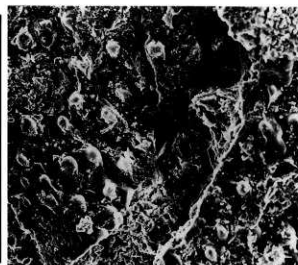
*札幌国際大学 **古物研究室/考古植物研究会



1 イネ



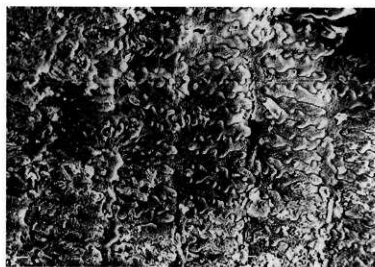
2a アワ ×35



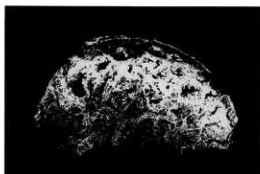
2b 表面組織「乳頭突起」 ×500



3a ヒエ属 ×35



3b 表面組織「長細胞」 ×720



4 キイチゴ属 ×35

盛岡市台太郎遺跡種子出土表

遺構名	サンプル 採取位置	サンプル 採取量(g)	浮遊物 総量(g)	時 期	イ ネ (粒)	ア フ (粒)	ヒ工属 (粒)	キイチゴ属 (粒)	
RD309墓域	埋土下部	1.33	0.66	13世紀後半～ 15世紀	32	54	1	1	北宋銭と共伴

台太郎遺跡出土人骨報告

前田朋子・川久保善智・百々幸雄

東北大学大学院医学系研究科人体構造学講座

岩手県盛岡市台太郎遺跡から中世の墓塚が多数検出され、そのうち4基から焼土や炭粒に混じって骨片が出土した。これらの骨片の色は灰褐色ないし青灰白色を呈し、多数の亀裂が入り変形も著しいことから、焼骨であることは明らかである。また、骨片はいずれも細片化しているため、骨格中の部位の識別は困難であるが、ヒト以外の獣骨片は認められない。

RD433 (写真1-1・1-2)

成人男性の焼骨の総重量は2~3kgであるが(山門1983, 馬場・他1986)、本墓塚から検出された骨片の総重量は665gである。しかし、骨片は断片的ながら全身各部にわたって認められることや、部位の重複もみられないことから、ほぼ1体分と考えると良さそうである。

(頭蓋骨)

矢状縫合を含む幅5cm、長さ10cm程度の左右頭頂骨片を始め、乳様突起を含む右側頭骨、左側頭骨岩様部、後頭骨のそれぞれ小片が認められる。さらに、下顎骨では両槽を含む前歯部破損、右下顎体後部片と下顎枝片、左関節頭を含む下顎枝破片が同定される。頭蓋骨の総重量は81g。

(体幹骨)

頸椎2点が認められるが、他は椎骨の小破片が認められるのみである。体幹骨の総重量は17gである。

(四肢骨)

右腕骨遠位端1点、尺骨近位部破片1点、橈骨片1点、大腿骨体片2点、頸骨片1点、腓骨の近位端とみられる破片1点が同定された。四肢骨端では大腿骨または上腕骨の骨頭3点が認められた。また、指骨2点も認められた。その他、10cm程度の長さまで復元できた長骨骨体の断片が4点あるが、その何れも部位の同定が不可能であった。その他の小骨片は同定不能。四肢骨の総重量は361gである。

(年齢と性の推定)

この個体は大腿骨骨体の太さおよび筋付着部の発達程度や、大腿骨、上腕骨骨頭の大きさ、頭蓋冠の厚さ、さらに下顎歯槽の形成状態から考えて成人骨であることは明らかである。また、頭蓋の縫合に著しい癒着傾向が認められないため、老年に達している可能性は低く、壮~熟年程度と考えられる。

性別は右乳様突起の大きさと発達程度、大腿骨骨体の太さおよび筋付着部の発達程度、大腿骨・上腕骨骨頭の大きさから判断すると男性的だが、残存部位が断片的で変形が著しいため、明言はできない。

RD712 (写真2)

骨片の総重量は228gであり、これは成人1体分としては極めて少ない。骨片は大きいものでも5cmを超えず、2cm以下のものが大半をしめる。部位の重複は特にみられない。

(頭蓋骨)

頭蓋冠の破片が数点認められるが、何れも部位は不明である。

(四肢骨)

長骨骨体の破片が数点認められるが、何れも詳細な部位の同定が不可能である。その他、大腿骨または

上腕骨の骨頭が1点認められる。

〈年齢と性の推定〉

頭骨・四肢骨片の厚さからみると、成人には違っていたと考えられる。性別は不明。

RD713 (写真3)

骨片の総重量は110gであり、これは成人1体分としては極めて少ない。骨片は大きいものでも5cmを超えず、2cm以下のものが大半をしめる。部位の重複などは特にみられない。

〈頭蓋骨〉

外後頭隆起を含む幅4.5cm、長さ3cm程の大きさの後頭骨片が認められる。その他、頭蓋冠の破片が数点認められるが、詳細な部位は不明である。

〈体幹骨〉

椎骨の小破片が数点認められ、そのうちの1点は椎弓根の太さから腰椎、または下位の胸椎と考えられる。

〈四肢骨〉

長骨骨体の破片が数点認められるが、何れも詳細な部位の同定が不可能である。

〈年齢と性の推定〉

後頭骨及び頭蓋冠の破片が比較的厚いことから、少なくとも成人には違っていたと考えられる。また、外後頭隆起から最上項線にかけての発達が比較的良く男性的だが、これだけでは性別を決定する材料として不足である。

RD738 (写真4)

骨片の総重量は165gであり、これは成人1体分としては極めて少ない。骨片は大きいものでも5cmを超えず、2cm以下のものが大半をしめる。部位の重複などは特にみられない。

〈頭蓋骨〉

左下顎頭、右錐体内耳孔付近の破片が認められる。その他、頭蓋冠の破片が1点認められるが、詳細な部位は不明である。

〈体幹骨〉

椎骨の関節突起の破片が数点認められる。

〈四肢骨〉

寛骨臼の破片が認められる。長骨骨体の破片が数点認められるが、何れも詳細な部位の同定が不可能である。

〈年齢と性の推定〉

下顎頭の大きさは小児より大きいのが、成人にしてはやや小さい。焼成による収縮を考慮すると、少年期以降とするのが妥当であろう。性別は不明。

〈参考文献〉

馬場 悠男・茂原 信生・阿部 修二・江藤 盛治 (1986) 雲山根古屋遺跡の研究、第一編 根古屋遺跡出土の骨・動物骨、雲山根古屋遺跡調査団、93-113

山口 敏 (1983) 竜ヶ池観音堂塚群 発掘調査報告書Ⅱ、9 出土人骨についての分析、小千谷市教育委員会、41-43

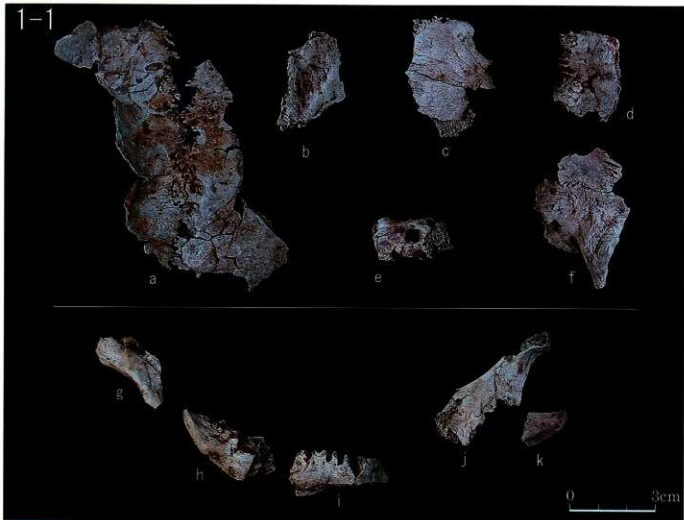


写真1-1 RD433 a 左右頭頂骨 b 後頭骨 c,d 頭骨片 e 左側頭骨岩様部 f 右乳様突起 g 右下顎枝
h 右下顎体後部 i 前歯槽部 j,k 左下顎枝

写真1-2 RD433 a 大腿骨 b 脛骨 c 尺骨 d 橈骨 e 右上腕遠位端 f 四肢骨片

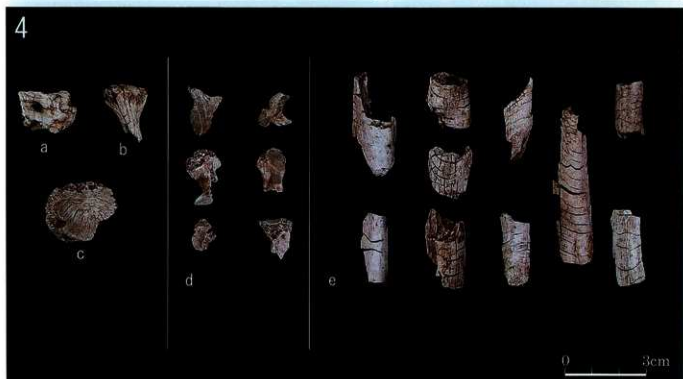
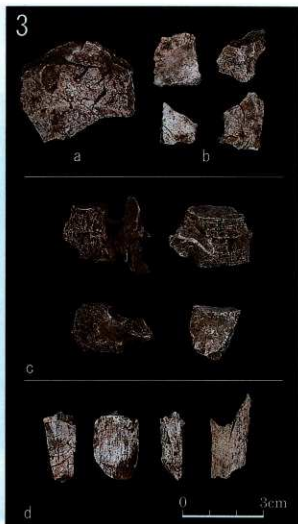
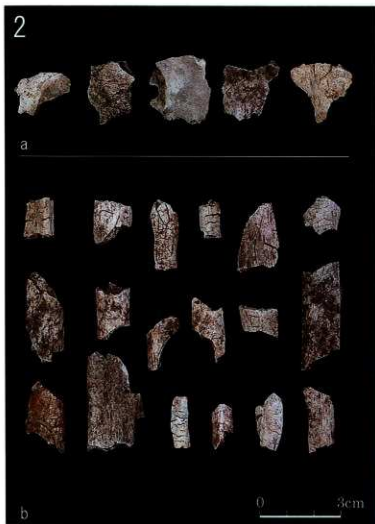


写真2 RD712 a 頭骨片 b 四肢骨片

写真3 RD713 a 後頭骨 b 頭骨片 c 椎骨片 d 四肢骨片

写真4 RD738 a 右錐体 b 左下顎頭 c 寛骨臼 d 椎体の関節突起 e 四肢骨片

報告書抄録

ふりがな	だいたろういせきだいにじゅうさんじはつつちょうさほうこくしょ							
書名	台太郎遺跡第23次発掘調査報告書							
副書名	盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第415集							
編者名	杉沢昭太郎 阿部真澄 北村忠昭							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL.019-638-9001							
発行年月日	西暦 2003年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
台太郎 遺跡 第23次 調査	岩手県 盛岡市 向中野 字向中野 16-15ほか	03201	LE16-2269	39度 40分 43秒	141度 8分 40秒	1999年 4月16日 から 11月15日	27,800	盛岡南新都市 計画整備 事業にとも なう事前調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
台太郎遺跡 (23次)	集落	古墳時代末 ～奈良時代	竪穴住居跡35棟、竪穴状 遺構2棟		土師器(坏、高坏、 甗類、甌など) 須恵器(高台付坏)			
		平安時代	竪穴住居跡27棟、竪穴状 遺構1棟、掘立柱建物跡 1棟、溝3条、土坑3基、 円形周溝ほか5基		土師器(黒書あり、 坏、高台付坏、甗 など)須恵器、鉄 器(動先)			
	墓地 集落 ほか	中世	墓塚330基、竪穴建物跡12 棟、掘立柱建物跡3棟、竪 穴状遺構7棟、焼土・灰跡 25基、堀3条、溝3条、井 戸3基、土坑28基、その他 6基		陶磁器(青磁、白磁、 染付、瀬戸、常滑、 東北在り地など) かわらけ 銭貨(北宋ほか) 木製品(漆器、木 槌など)			
民家 ほか	近世及びそ れ以降等	掘立柱建物跡4棟、竪穴状 遺構5棟、墓4基、土坑38 基、井戸2基、溝3条、そ の他2基		陶磁器、銭貨、鉄器、 木製品				

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第415集

台太郎遺跡第23次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

分冊 I

印刷 平成15年 3月20日

発行 平成15年 3月28日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
TEL (019) 638-9001
FAX (019) 638-8563

印刷 株式会社 社陵印刷
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ2-22-50
TEL (019) 641-8000
FAX (019) 641-8085

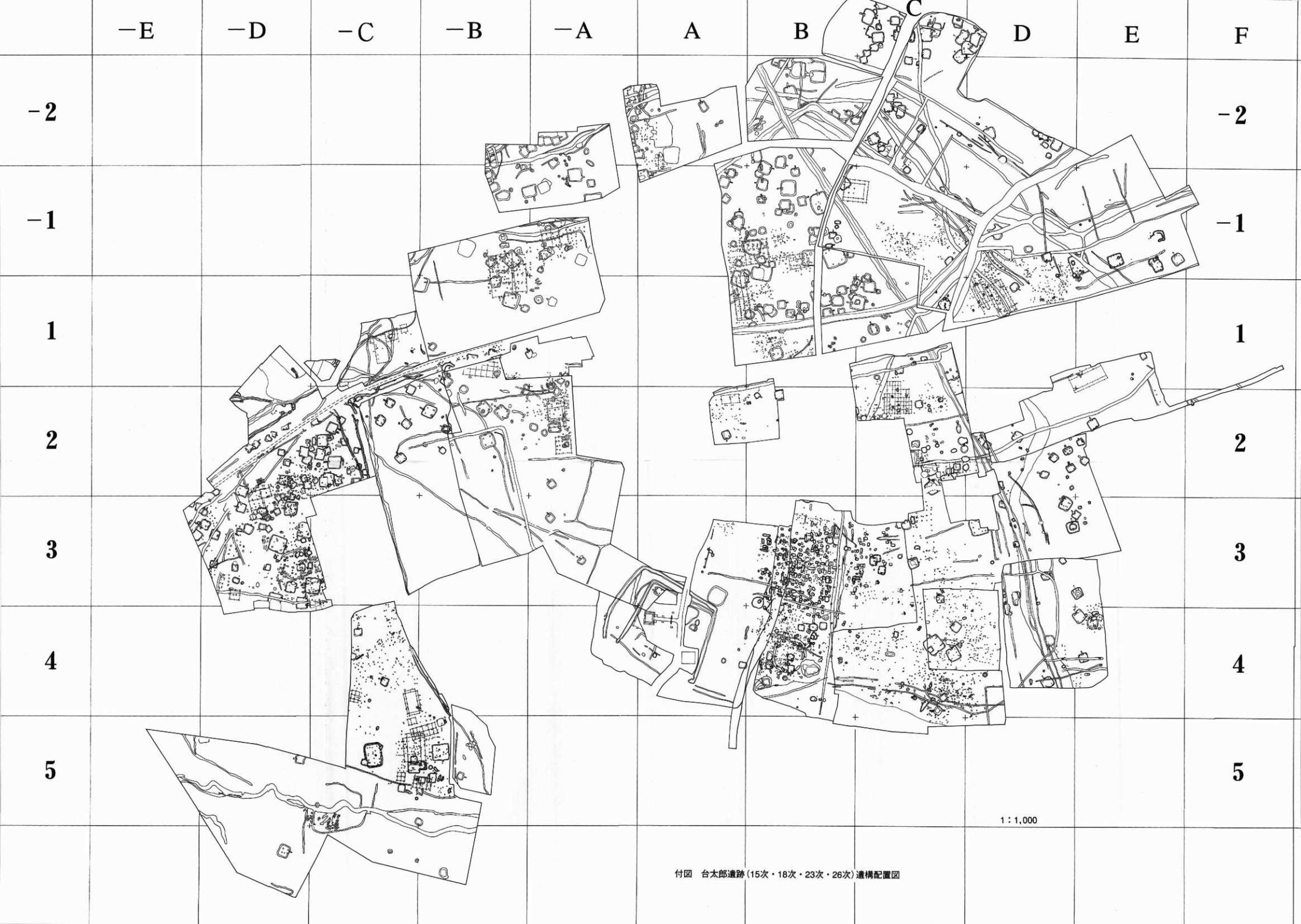
© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2003

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第415集

だいたろう
台太郎遺跡第23次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

折込図版（1枚）



付図 台太郎遺跡(15次・18次・23次・26次)遺構配置図

the 1990s, the number of people with a mental health problem has increased in the UK, and the number of people with a mental health problem who are in contact with mental health services has also increased (Mental Health Act 1983, 1990).

There is a growing awareness of the need to improve the lives of people with a mental health problem, and to reduce the stigma associated with mental illness. This has led to a number of initiatives, including the development of self-help materials, the establishment of self-help groups, and the development of community mental health teams.

Self-help materials are designed to help people with a mental health problem to understand their condition, and to manage their symptoms. They can be used by people who are in contact with mental health services, or by people who are not in contact with mental health services.

Self-help groups are groups of people who have a mental health problem, and who meet regularly to discuss their experiences, and to provide support to each other. They can be used by people who are in contact with mental health services, or by people who are not in contact with mental health services.

Community mental health teams are teams of professionals who work together to provide support to people with a mental health problem. They can be used by people who are in contact with mental health services, or by people who are not in contact with mental health services.

The aim of this paper is to describe the development of a self-help manual for people with a mental health problem. The manual is designed to help people with a mental health problem to understand their condition, and to manage their symptoms. It is intended for use by people who are in contact with mental health services, or by people who are not in contact with mental health services.

The manual is divided into two parts. The first part is designed to help people with a mental health problem to understand their condition, and the second part is designed to help people with a mental health problem to manage their symptoms. The manual is written in a simple, easy-to-understand style, and is intended to be used by people who are not in contact with mental health services.

The manual is available in both printed and electronic formats. It is available in English, and is also available in other languages. It is available free of charge, and can be downloaded from the internet. It is also available in hard copy form, and can be purchased from a number of sources.